

高等専門学校機関別認証評価

# 自己評価書

平成19年6月

秋田工業高等専門学校



## 目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	31
	基準3 教員及び教育支援者	51
	基準4 学生の受入	86
	基準5 教育内容及び方法	103
	基準6 教育の成果	211
	基準7 学生支援等	254
	基準8 施設・設備	313
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	351
	基準10 財務	425
	基準11 管理運営	436



## I 高等専門学校の現況及び特徴

### 1 現況

#### (1) 高等専門学校名

秋田工業高等専門学校

#### (2) 所在地

秋田県秋田市

#### (3) 学科等の構成

学 科： 機械工学科，電気情報工学科，  
物質工学科，環境都市工学科

専攻科： 生産システム工学専攻，  
環境システム工学専攻

#### (4) 学生数及び教員数

(平成 19 年 5 月 1 日現在)

学生数： 準学士課程 846 人

専攻科課程 52 人

専任教員数： 66 人

助手数： 0 人

### 2 特徴

秋田工業高等専門学校（以下「秋田高専」とする。）は国立高専の第3期校として昭和39年4月1日に設立された。工学系の高等教育機関に対する秋田県、秋田市などの行政、および地元産業界の強い要望により秋田市に誘致された。設立当時の構成学科は機械工学科，電気工学科，工業化学科の3学科であり，学生定員は各40名の計120名であった。5年後の昭和44年4月1日には，土木工学科が設置され，1学年4クラス体制となった。平成4年4月1日には，工業化学科を物質工学科に改組し，さらに翌平成5年4月1日には土木工学科を環境都市工学科に改組した。平成6年4月1日には専攻科（生産システム工学専攻，環境システム工学専攻）が設置された。平成13年4月1日には，地域共同テクノセンターが設置され，平成16年4月1日には，電気工学科が電気情報工学科に名称変更され，現在に至っている。

校訓は「創造，誠実，責任（3S）」，「健康，研究，協働（3K）」である。これは，新しい科学技術と技術者としての教養，実践力と持久力，そして創造的能力と豊かな教養を身につけることにより，はじめて専門技術者として社会の発展に寄与する事ができるという本校の教育精神を表している。この校訓は学校設立時から今に引き継がれている。

本校は，「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」ことを目的とした工学系の学校で，技術者の育成を主な使命としている。その教育理念は，①自立した人間形成，②新しいことへ挑戦する心，③自由な発想を

実現する創造力の育成である。この基本理念をもとに，教育および研究を通じて，地域を含む世界の産業界発展に貢献し，かつ，よりよい環境の創成に寄与する人材を養成することを目指している。

本校の教育は，中学校卒業から5年間の準学士課程と，その後2年間の専攻科課程からなる。準学士課程では「豊かな教養と高度な専門技術を身につけた技術者」，専攻科課程では「国際分野で活躍でき，複合領域にも対応できる能力を備え，創造性豊かな実践的技術者」の養成を目指している。

準学士課程では，理科系に興味をもち，技術者の資質のある中学校卒業生を積極的に受け入れ，教育を行っている。低学年の教育では，人文科学系や自然科学系などの基礎科目に重点をおいている。専門科目は，学年が進むにしたがい授業時間が増える。基礎科目を学びつつ，中学校卒業後の5年間一貫して専門科目を学ぶことができる。ともすれば，技術教育一辺倒になりがちな工学教育であるが，豊かな教養を持った人間形成にも力を入れている。特に，プレゼンテーションを重視したコミュニケーション能力の養成を目指している。また，近年の国際化に対応すべく英語教育に力を入れている。

専攻科課程では，準学士課程での教育を基礎に，さらに高度な内容を学ぶ。講義は10名前後の少人数で行われることが多く，学生ひとりひとりに細かい配慮ができるようになってきている。また，専攻科課程の学生は研究を行うことが求められている。各自に研究テーマが与えられ，それを2年間で完成—学会発表と論文作成—させなくてはならない。この研究の間，各学生は教員から直に1対1の指導を受ける。そのため，学生は密度の濃い学習を行うことになる。このように，大学とは異なる少人数教育という恵まれた教育環境の中で，専攻科課程の学生は充実した2年間を送る。

これまで約5千名を超える実践的技術者を輩出している。本校の卒業生および修了生は，毎年，ほぼ全員が各学科および各専攻の専門性を活かすことができる進路に進んでおり，多岐に亘る分野で活躍している。求人状況から判断して，本校の教育カリキュラムは企業から高い評価を受けていると考えている。また，さらに高度な学習を行うために，準学士課程卒業生の4割の学生が進学している。専攻科課程の学生においても，毎年大学院へ進学者を出している。

平成18年度に日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けた。これにより，専攻科修了生は工学（融合複合・新領域）関連分野の「創造工学システムプログラム」修了生として，国際的な技術者教育を受けたことが証明される「修得技術者」の資格を得ることができる。さらに，技術士の1次試験免除の特典が与えられることとなった。

## II 目的

### 1 使命

本校は、3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独自の開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

### 2 基本方針

本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育および卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。

教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践的技術者の育成を目指している。

### 3 養成しようとしている人材像

#### 3.1 準学士課程

人間としての素養を、年齢の発達段階に応じて修得することを目指し、技術者としての社会的責任を自覚できるようにする。基礎および専門技術を修得し、生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有するとともに、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。さらに、生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことのできる能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。

#### 3.2 専攻科課程

準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、より専門分野に精通するとともにプレゼンテーション能力を身につけ、国際分野で活躍できる技術者を養成する。また、複数の領域をまとめる総合力、複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考、複合領域にも対応できる能力を備え、技術者倫理を理解し高度で実践的な知識と技術を備えた自己啓発型の創造性豊かな技術者を養成する。

### 4 達成しようとしている基本的な成果

#### 4.1 準学士課程

準学士課程は、教養教育と専門教育から成り、それぞれ達成しようとしている成果を設定している。教養教育で基礎学力を養うとともに、社会性を持った人材の育成を進めている。教養教育の成果をふまえ、専門教育では技術者としての必要な能力を定め、それを目標に教育を行っている。さらに、学科の特性に応じた達成しようとしている技術内容も具体的に規定している。

これらの教育をとおして、本校では準学士課程の卒業生にふさわしい社会性と教養、技術者の能力・知識の修得を目指して、教育を進めている。

準学士課程の各段階、および各学科で達成しようとしている基本的な成果は、次のとおりである。

【教養教育】主に低学年(1～3年生)で実施し、技術者、職業人として社会生活を営む上で必要な教養、および専門技術を学ぶ上での基本的な素養を養うことを目的としている。教養教育で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。
- (B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
- (C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。

[専門教育] 主に準学士課程の高学年（4～5年生）で実施し、教養教育を基礎に技術者として必要な専門的な知識と技術を修得することを目指している。専門教育で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。
- (E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。
- (F) 問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

さらに、現代の産業や社会の要求に即して、学科ごとに技術者として必要な知識・技術を規定している。その内容は、準学士課程の卒業生にふさわしく、技術者の職業に就く上で基本的に修得すべきことを決めている。各学科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

機械工学科	機械とその要素、機器、装置の開発、設計、製作できる技術、およびこれらを支援するコンピュータの利用と制御に関する技術を修得する。
電気情報工学科	高度情報化社会に対応したコンピュータ、制御および通信に関する技術を修得する。新しい電子材料の創製と、電子回路およびエレクトロニクスデバイスに関する技術を修得する。社会基盤に対応した電気エネルギーに関する技術を修得する。
物質工学科	有機材料、無機材料等に関するバイオテクノロジーを含む合成技術と得られた分子、物質・材料の構造・物性を評価できる技術を修得する。工業化された際の製造プロセスを最適化する技術と運転・管理技術を修得する。
環境都市工学科	社会基盤整備を支える施設の計画・設計・施工および完成した施設の維持管理と再生のための技術、およびこれらを支援するために必要なコンピュータ技術を修得する。環境アセスメントおよび都市計画・都市デザイン設計とその関連技術を修得する。

#### 4.2 専攻科課程

専攻科課程の達成すべき教育の内容は、準学士課程の教育を基盤とし、技術者倫理を理解した創造力豊かな実践的工業技術者の育成である。専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果は、次のとおりである。

- (1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。
- (2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現（記述・口述・討論）し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。
- (3) 複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を修得する。

各専攻科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

生産システム工学専攻	機械工学、電気情報工学を基礎とした精密加工、システム工学、熱流体エネルギー、応用力学、エレクトロニクス、情報、制御、新素材などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に、機械工学、電気情報工学の複合領域におけるメカトロニクス技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。
環境システム工学専攻	物質・材料工学、環境都市工学を基礎とした無機材料、有機材料、微生物工学、水環境工学、環境地盤工学、環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に無機材料・有機材料・生物材料を利用した水環境改善のための処理技術や物質循環・エコマテリアル工学など物質工学、環境都市工学の複合領域における創造性豊かな技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。

### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 高等専門学校の目的

##### (1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校では，学校の目的として，①使命，②基本方針，③養成しようとしている人材像，④達成しようとしている基本的な成果を，以下に示すように明文化して定めている。

##### ・使命

課程ごと(準学士課程と専攻科課程)に本校の使命を定めている(資料 1-1-①-1)。

##### ・基本方針

「自立・挑戦・創造」を本校の教育理念としている。この理念のもと，環境について考慮でき産業界の発展に寄与できる創造力豊かな実践的技術者の育成を目指している(資料 1-1-①-2)。

##### ・養成しようとする人材像

課程ごと(準学士課程と専攻科課程)に養成しようとする人材像を定めている。準学士課程では実践的技術者，専攻科課程では創造性豊かな技術者を養成しようとしている(資料 1-1-①-3)。

##### ・達成しようとしている基本的な成果

課程ごと(準学士課程と専攻科課程)に達成しようとしている基本的な成果を定めている。教育の段階や学科・専攻により，身につけるべき学力や能力を明確に定め，教育課程を編成している(資料 1-1-①-4～5)。

#### 資料 1-1-①-1 「秋田高専の目的(使命)」

##### 1 使命

本校は，3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし，準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」，専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し，すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

(出典 平成 19 年度学校要覧 p. 7)



## 資料 1 - 1 - ① - 2 「秋田高専の目的（基本方針）」

## 2 基本方針

本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。

教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践的技術者の育成を目指している。

(出典 平成 19 年度学校要覧 p. 7)

## 資料 1 - 1 - ① - 3 「秋田高専の目的（養成しようとしている人材像）」

## 3 養成しようとしている人材像

## 3.1 準学士課程

人間としての素養を、年齢の発達段階に応じて修得することを目指し、技術者としての社会的責任を自覚できるようにする。基礎および専門技術を修得し、生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有すると共に、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。さらに、生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことのできる能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。

## 3.2 専攻科課程

準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、より専門分野に精通すると共にプレゼンテーション能力を身につけ、国際分野で活躍出来る技術者を養成する。

また、複数の領域をまとめる総合力、複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考、複合領域にも対応出来る能力を備え、技術者倫理を理解し高度で実践的な知識と技術を備えた自己啓発型の創造性豊かな技術者を養成する。

(出典 平成 19 年度学校要覧 p. 7～8)

## 資料 1 - 1 - ① - 4 「秋田高専の目的（達成しようとしている基本的な成果（準学士課程））」

## 4 達成しようとしている基本的な成果

## 4. 1 準学士課程

準学士課程は、教養教育と専門教育から成り、それぞれ達成しようとしている成果を設定している。教養教育で基礎学力を養うとともに、社会性を持った人材の育成を進めている。教養教育の成果を踏まえ、専門教育では技術者としての必要な能力を定め、それを目標に教育を行っている。さらに、学科の特性に応じた達成しようとしている技術内容も具体的に規定している。

これらの教育を通して、本校では準学士課程の卒業生にふさわしい社会性と教養、技術者の能力・知識の修得を目指して、教育を進めている。

準学士課程の各段階、および各学科で達成しようとしている基本的な成果は、次のとおりである。

## [教養教育]

主に低学年（1～3年生）で実施し、技術者、職業人として社会生活を営む上で必要な教養、および専門技術を学ぶ上での基本的な素養を養うことを目的としている。教養教育で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。
- (B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
- (C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。

## [専門教育]

主に準学士課程の高学年（4～5年生）で実施し、教養教育を基礎に技術者として必要な専門的な知識と技術を修得することを目指している。専門教育で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。
- (E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。
- (F) 問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

さらに、現代の産業や社会の要求に即して、学科毎に技術者として必要な知識・技術を規定している。その内容は、準学士課程の卒業生にふさわしく、技術者の職業に就く上で基本的に修得すべきことを決めている。各学科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

機械工学科	機械とその要素、機器、装置の開発、設計、製作できる技術、およびこれらを支援するコンピュータの利用と制御に関する技術を修得する。
電気情報工学科	高度情報化社会に対応したコンピュータ、制御および通信に関する技術を修得する。新しい電子材料の創製と、電子回路およびエレクトロニクスデバイスに関する技術を修得する。社会基盤に対応した電気エネルギーに関する技術を修得する。
物質工学科	有機材料、無機材料等に関するバイオテクノロジーを含む合成技術と得られた分子、物質・材料の構造・物性を評価出来る技術を修得する。工業化された際の製造プロセスを最適化する技術と運転・管理技術を修得する。
環境都市工学科	社会基盤整備を支える施設の計画・設計・施工および完成した施設の維持管理と再生のための技術、およびこれらを支援するために必要なコンピュータ技術を修得する。環境アセスメントおよび都市計画・都市デザイン設計とその関連技術を修得する。

(出典 平成 19 年度学校要覧 p. 8～10)

## 資料 1 - 1 - ① - 5 「秋田高専の目的（達成しようとしている基本的な成果（専攻科課程）」

## 4 達成しようとしている基本的な成果

## 4.1 準学士課程

省略(資料 1-1-①-4)

## 4.2 専攻科課程

専攻科課程の達成すべき教育の内容は、準学士課程の教育を基盤とし、技術者倫理を理解した創造力豊かな実践的工業技術者の育成である。専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果は、次のとおりである。

- (1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。
- (2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現（記述・口述・討論）し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。
- (3) 複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を修得する。

各専攻科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

生産システム工学専攻	機械工学，電気情報工学を基礎とした精密加工，システム工学，熱流体エネルギー，応用力学，エレクトロニクス，情報，制御，新素材などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に，機械工学，電気情報工学の複合領域におけるメカトロニクス技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。
環境システム工学専攻	物質・材料工学，環境都市工学を基礎とした無機材料，有機材料，微生物工学，水環境工学，環境地盤工学，環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に無機材料・有機材料・生物材料を利用した水環境改善のための処理技術や物質循環・エコマテリアル工学など物質工学，環境都市工学の複合領域における創造性豊かな技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。

(出典 平成 19 年度学校要覧 p. 11)

## (分析結果とその根拠理由)

本校の目的の中には使命が定められ、それを達成するための教育の基本方針や課程ごと（準学士課程と専攻科課程）に、養成しようとしている人材像が明文化されている。これらをもとに、教育の段階や学科・専攻に応じて、身につけるべき学力や能力の内容を具体的に定めている。

以上のことから、本校は高等専門学校として、目的を明確に定めているといえる。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校の使命(前述資料1-1-①-1)は、学校教育法の精神にのっとり、および学校教育法に基づき、策定されたものである(資料1-1-②-1)。

資料 1-1-②-1 「秋田工業高等専門学校学則(抜粋)」

第一章 本校の目的

(目的)

第1条 本校は、教育基本法(昭和22年法律第25号)の精神にのっとり、及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第八章 専攻科

(目的)

第41条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者を養成し、もって広く産業の発展に寄与することを目的とする。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

また、学校教育法の第70条の2には、「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」と、具体的な2つの目的が書かれている。本校で養成しようとしている人材像、達成しようとしている基本的な成果は、これらの2つの目的に対して、資料1-1-②-2～3のように対応している。

(分析結果とその根拠理由)

本校の使命は、学校教育法の精神にのっとり、および学校教育法に基づき、策定されたものである。また、養成しようとしている人材像や達成しようとしている基本的な成果は、学校教育法上の目的と合致している。

以上のことから、本校の目的は学校教育法第70条の2の規定からはずれるものではないといえる。

## 資料 1-1-②-2 「準学士課程で養成しようとしている人材像および達成しようとしている基本的な成果と学校教育法 70 条の 2 との対応」

※ 表中の文章は本校の目的から抜粋している。

	「深く専門の学芸を伝授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎および専門技術を修得し、</li> <li>生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことの出来る能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有するとともに、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの意思を的確に表現し行動出来る能力、知識を整理し総合化出来る能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。</li> <li>工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。</li> <li>世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通が出来る実践的な英語能力を修得する。</li> <li>実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。</li> <li>教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解出来る実践的な能力を修得する。</li> <li>問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行出来る能力を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械工学科 <ul style="list-style-type: none"> <li>機械とその要素、機器、装置の開発、設計、製作出来る技術、およびこれらを支援するコンピュータの利用と制御に関する技術を修得する。</li> </ul> </li> <li>電気情報工学科 <ul style="list-style-type: none"> <li>高度情報化社会に対応したコンピュータ、制御および通信に関する技術を修得する。新しい電子材料の創製と、電子回路およびエレクトロニクスデバイスに関する技術を修得する。社会基盤に対応した電気エネルギーに関する技術を修得する。</li> </ul> </li> <li>物質工学科 <ul style="list-style-type: none"> <li>有機材料、無機材料等に関する合成技術と得られた分子、物質・材料の構造・物性を評価出来る技術を修得する。工業化された際の製造プロセスを最適化する技術と運転・管理技術を修得する。</li> </ul> </li> <li>環境都市工学科 <ul style="list-style-type: none"> <li>社会基盤整備を支える施設の計画・設計・施工および完成した施設の維持管理と再生のための技術、およびこれらを支援するために必要なコンピュータ技術を修得する。環境アセスメントおよび都市計画・都市デザイン設計とその関連技術を修得する。</li> </ul> </li> </ul>

(出典 学校要覧から作成)

## 資料 1-1-②-3 「専攻科課程で養成しようとしている人材像および達成しようとしている基本的な成果と学校教育法 70 条の 2 との対応」

※ 表中の文章は本校の目的から抜粋している。

	「深く専門の学芸を伝授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、より専門分野に精通するとともにプレゼンテーション能力を身につけ、国際分野で活躍出来る技術者を養成する。</li> <li>・複数の領域をまとめる総合力、複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考、複合領域にも対応出来る能力を備え、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度で実践的な知識と技術を備えた自己啓発型の創造性豊かな技術者を養成する。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことの出来る能力を修得する。</li> <li>・産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現（記述・口述・討論）し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。</li> <li>・複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献出来る技術を有し、学際領域にも対応出来る能力を修得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産システム工学専攻 機械工学，電気情報工学を基礎とした精密加工，システム工学，熱流体エネルギー，応用力学，エレクトロニクス，情報，制御，新素材などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に，機械工学，電気情報工学の学際領域におけるメカトロニクス技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。</li> <li>・環境システム工学専攻 物質・材料工学，環境都市工学を基礎とした無機材料，有機材料，微生物工学，水環境工学，環境地盤工学，環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に無機材料・有機材料・生物材料を利用した水環境改善のための処理技術など物質工学，環境都市工学の学際領域における創造性豊かな技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。</li> </ul>

(出典 学校要覧から作成)

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校では、各種刊行物やガイダンスをとおして「学校の目的」の周知を図っている。構成員に配布される学校の目的が書かれた刊行物は、学校要覧（資料 1-2-①-1）および学生便覧（資料 1-2-①-2）、シラバス（資料 1-2-①-3）などである。また、手軽に閲覧可能にするために、ホームページ（資料 1-2-①-4）にも目的を記載している。

資料 1-2-①-1 「秋田高専の目的」

**秋田高専の目的** PURPOSE OF AKITA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY(ANCT)

### 1. 使命 Mission

本校は、3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

Akita National College of Technology has its six precepts, that is to say, 3S (Enterprise, Sincerity, Accountability) and 3K (Health, Research, Cooperation). The mission of Regular Course Curriculum is to teach students broad knowledge and advanced technical skills to become good engineers. Moreover, the mission of Advanced Engineering Faculty Curriculum is to provide advanced research and instruction in the arts and sciences necessary for a deeper understanding of specialized fields of engineering and to train practical engineers with creativity.

### 2. 基本方針 Fundamentals of Education

本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。

教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践技術者の育成を目指している。

Based on the new educational precepts (Independence, Challenge, Creativity), Akita National College of Technology provides students with general education, specialized education, fundamental research, graduation research, Advanced Engineering Faculty composite education.

Our college aims to encourage the engineering talent who can contribute to both global industrial progress containing the local one and symbiosis in the world environment. From the educational point of view, it aims to cultivate students with their independence, challenge spirit and abilities to realize their creativity and to train practical engineers who possess broad knowledge, advanced technical skills, cooperation, synthesis and conception to integrate researches in different fields.

### 3. 養成しようとしている人材像 Vision of engineers

#### 3.1 準学士課程 Regular Course Curriculum

人間としての素養を、年齢の発達段階に応じて修得することを目指し、技術者としての社会的責任を自覚できるようにする。基礎および専門技術を修得し、生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有すると共に、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。さらに、生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことのできる能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。

Akita National College of Technology has our students of regular course built the bases for personal development as human beings according to the growth stages and it can make them realize social accountability as engineers with common sense. It is necessary for the students of regular course to acquire the fundamental and technical skills, practical specialized knowledge and technology in the manufacturing industry, and challenge spirit. In addition, our college aims to train the independent and practical engineers who have the specialized knowledge and technology for manufacture skills and development, engineering design, tenacity to learn voluntarily all their lives.

（出典 平成 19 年度学校要覧 p. 7）

## 資料 1 - 2 - ① - 2 「秋田高専の目的」

## 目 的

### 1 使命

本校は、3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

### 2 基本方針

本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。

教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践的技術者の育成を目指している。

### 3 養成しようとしている人材像

#### 3. 1 準学士課程

人間としての素養を、年齢の発達段階に応じて修得することを目指し、技術者としての社会的責任を自覚できるようにする。基礎および専門技術を修得し、生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有すると共に、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。さらに、生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことのできる能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。

#### 3. 2 専攻科課程

準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、より専門分野に精通すると共にプレゼンテーション能力を身につけ、国際分野で活躍出来る技術者を養成する。また、複数の領域をまとめる総合力、複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考、複合領域にも対応出来る能力を備え、技術者倫理を理解し高度で実践的な知識と技術を備えた自己啓発型の創造性豊かな技術者を養成する。

### 4 達成しようとしている基本的な成果

#### 4. 1 準学士課程

準学士課程は、教養教育と専門教育から成り、それぞれ達成しようとしている成果を設定している。教養教育で基礎学力を養うとともに、社会性を持った人材の育成を進めている。教養教育の成果を踏まえ、専門教育では技術者としての必要な能力を定め、それを目標に教



育を行っている。さらに、学科の特性に応じた達成しようとしている技術内容も具体的に規定している。

これらの教育を通して、本校では準学士課程の卒業生にふさわしい社会性と教養、技術者の能力・知識の修得を目指して、教育を進めている。

準学士課程の各段階、および各学科で達成しようとしている基本的な成果は、次のとおりである。

[教養教育] 主に低学年（1～3年生）で実施し、技術者、職業人として社会生活を営む上で必要な教養、および専門技術を学ぶ上での基本的な素養を養うことを目的としている。教養課程で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。
- (B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
- (C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。

[専門教育] 主に準学士課程の高学年（4～5年生）で実施し、教養教育を基礎に技術者として必要な専門的な知識と技術を修得することを目指している。専門教育で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。
- (E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。
- (F) 問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

さらに、現代の産業や社会の要求に即して、学科毎に技術者として必要な知識・技術を規定している。その内容は、準学士課程の卒業生にふさわしく、技術者の職業に就く上で基本的に修得すべきことを決めている。各学科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

機械工学科	機械とその要素、機器、装置が開発、設計、製作できる技術、およびこれらを支援するコンピュータの利用と制御に関する技術を修得する。
電気情報工学科	高度情報化社会に対応したコンピュータ、制御および通信に関する技術を修得する。新しい電子材料の創製と、電子回路およびエレクトロニクスデバイスに関する技術を修得する。社会基盤に対応した電気エネルギーに関する技術を修得する。
物質工学科	有機材料、無機材料等に関するバイオテクノロジーを含む合成技術と得られた分子、物質・材料の構造・物性を評価出来る技術の修得。工

業化された際の製造プロセスを最適化する技術と運転・管理技術を修得する。

環境都市工学科 社会基盤整備を支える施設の計画・設計・施工および完成した施設の維持管理と再生のための技術，およびこれらを支援するために必要なコンピュータ技術を修得する。環境アセスメントおよび都市計画・都市デザイン設計とその関連技術を修得する。

#### 4. 2 専攻科課程

専攻科課程の達成すべき教育の内容は，準学士課程の教育を基盤とし，技術者倫理を理解した創造力豊かな実践的工業技術者の育成である。専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果は，次のとおりである。

- (1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え，生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。
- (2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため，正しい日本語で表現（記述・口述・討論）し，かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。
- (3) 複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し，複合領域にも対応できる能力を修得する。

各専攻科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

生産システム工学専攻 機械工学，電気情報工学を基礎とした精密加工，システム工学，熱流体エネルギー，応用力学，エレクトロニクス，情報，制御，新素材などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に，機械工学，電気情報工学の複合領域におけるメカトロニクス技術者として必要となる総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。

環境システム工学専攻 物質・材料工学，環境都市工学を基礎とした無機材料，有機材料，微生物工学，水環境工学，環境地盤工学，環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に無機材料・有機材料・生物材料を利用した水環境改善のための処理技術や物質循環・エコマテリアル工学など物質工学，環境都市工学の複合領域における創造性豊かな技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。

(出典 平成 19 年度学生便覧 p. 3～5)

## 資料 1 - 2 - ① - 3 「秋田高専の目的」

## 秋田工業高等専門学校の目的

## 1 使命

本校は、3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

## 2 基本方針

本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。

教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践的技術者の育成を目指している。

## 3 養成しようとしている人材像

## 3.1 準学士課程

人間としての素養を、年齢の発達段階に応じて修得することを目指し、技術者としての社会的責任を自覚できるようにする。基礎および専門技術を修得し、生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有すると共に、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。さらに、生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことのできる能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。

## 3.2 専攻科課程

準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、より専門分野に精通すると共にプレゼンテーション能力を身につけ、国際分野で活躍出来る技術者を養成する。また、複数の領域をまとめる総合力、複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考、複合領域にも対応出来る能力を備え、技術者倫理を理解し高度で実践的な知識と技術を備えた自己啓発型の創造性豊かな技術者を養成する。

## 4 達成しようとしている基本的な成果

## 4.1 準学士課程

準学士課程は、教養教育と専門教育から成り、それぞれ達成しようとしている成果を設定している。教養教育で基礎学力を養うとともに、社会性を持った人材の育成を進めている。教養教育の成果を踏まえ、専門教育では技術者としての必要な能力を定め、それを目標に教育を行っている。さらに、学科の特性に応じた達成しようとしている技術内容も具体的に規定している。

これらの教育を通して、本校では準学士課程の卒業生にふさわしい社会性と教養、技術者の能力・知識の修得を目指して、教育を進めている。

準学士課程の各段階、および各学科で達成しようとしている基本的な成果は、次のとおりである。

【教養教育】主に低学年(1～3年生)で実施し、技術者、職業人として社会生活を営む上で必要な教養、および専門技術を学ぶ上で基本的な素養を養うことを目的としている。教養課程で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。
- (B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。

- (C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。

[専門教育] 主に準学士課程の高学年（4～5年生）で実施し、教養教育を基礎に技術者として必要な専門的な知識と技術を修得することを目指している。専門教育で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。  
 (E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。  
 (F) 問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

さらに、現代の産業や社会の要求に即して、学科毎に技術者として必要な知識・技術を規定している。その内容は、準学士課程の卒業生にふさわしく、技術者の職業に就く上で基本的に修得すべきことを決めている。各学科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

機械工学科	機械とその要素、機器、装置が開発、設計、製作できる技術、およびこれらを支援するコンピュータの利用と制御に関する技術を修得する。
電気情報工学科	高度情報化社会に対応したコンピュータ、制御および通信に関する技術を修得する。新しい電子材料の創製と、電子回路およびエレクトロニクスデバイスに関する技術を修得する。社会基盤に対応した電気エネルギーに関する技術を修得する。
物質工学科	有機材料、無機材料等に関するバイオテクノロジーを含む合成技術と得られた分子、物質・材料の構造・物性を評価出来る技術の修得。工業化された際の製造プロセスを最適化する技術と運転・管理技術を修得する。
環境都市工学科	社会基盤整備を支える施設の計画・設計・施工および完成した施設の維持管理と再生のための技術、およびこれらを支援するために必要なコンピュータ技術を修得する。環境アセスメントおよび都市計画・都市デザイン設計とその関連技術を修得する。

#### 4.2 専攻科課程

専攻科課程の達成すべき教育の内容は、準学士課程の教育を基盤とし、技術者倫理を理解した創造力豊かな実践的工業技術者の育成である。専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果は、次のとおりである。

- (1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。
- (2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現（記述・口述・討論）し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。
- (3) 複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を修得する。

各専攻科で達成しようとしている基本的な成果は次の通りである。

生産システム工学専攻	機械工学、電気情報工学を基礎とした精密加工、システム工学、熱流体エネルギー、応用力学、エレクトロニクス、情報、制御、新素材などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に、機械工学、電気情報工学の複合領域におけるメカトロニクス技術者として必要となる総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。
環境システム工学専攻	物質・材料工学、環境都市工学を基礎とした無機材料、有機材料、微生物工学、水環境工学、環境地盤工学、環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に無機材料・有機材料・生物材料を利用した水環境改善のための処理技術や物質循環・エコマテリアル工学など物質工学、環境都市工学の複合領域における創造性豊かな技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。

## 資料 1 - 2 - ① - 4 「秋田高専の目的」



高 秋田工業高等専門学校  
Akita National College of Technology

学校案内

前のページへ戻る TOPページへ戻る

| 掲載日 2007/04/12 | 掲載内容有効期限 2007/09/30 | 担当者 企画室企画係 |

トップページ >> 学校案内 >>

### 秋田工業高等専門学校の目的

1 使命  
本校は、3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

2 基本方針  
本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践的技術者の育成を目指している。

3 養成しようとしている人材像  
3.1 準学士課程  
人間としての素養を、年齢の発達段階に応じて修得することを目指し、技術者としての社会的責任を自覚できるようにする。基礎および専門技術を修得し、生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有すると共に、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。さらに、生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことのできる能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。

(出典 秋田工業高等専門学校ホームページ)

これらの資料は、教職員や学生に配布し、学校の目的の周知の徹底を図っている。配布資料およびそこに書かれている学校の内容は、以下の表のとおりである。

資料の内容と配布先 ○：記述あり ×：記述なし

	学校要覧	学生便覧	シラバス	ホームページ
使命	○	○	○	○
基本方針	○	○	○	○
養成しようとしている人材像	○	○	○	○
達成しようとしている基本的な成果	○	○	○	○
配布対象者	全教員 各係に一冊	全学生 全教員 各係に一冊 学生課全員 新入生の保護者	全学生 全教員	不特定多数 閲覧可能

また、教職員や学生に対してガイダンスを実施している（資料 1 - 2 - ① - 5 ~ 6）。新任教員に対しては、6月に新任教員研修会を実施し、本校の目的などに関してガイダンスを行っている（資料 1 - 2 - ① - 7）。

資料 1 - 2 - ① - 5 「認証評価受審に関する説明会」

認証評価受審に関する説明会

日 時：平成19年4月4日（水）13：00～13：30

場 所：大講義室

次 第

1. 校長挨拶
2. 平成19年度受審のための準備状況について（認証評価委員長）
3. 学校の目的について（教務主事）
4. 学校の諸制度に関するオリエンテーションについて（教務主事）

（出典 認証評価受審に関する説明会の次第）

資料 1 - 2 - ① - 6 「学校の諸制度に関するオリエンテーションについて」

平成 19 年 4 月 4 日

学級担任各位

教務主事

学校の諸制度に関するオリエンテーションについて

学級担任はホームルームなどの時間を利用して、年度当初に下記の点について学生へガイダンスをお願いします。説明に当たっては学生便覧、授業計画を活用して下さい。

○単位認定、成績評価、進級要件（5年生担任は卒業要件）について

- ・それぞれ学生便覧、授業計画を用いて説明する。
- ・学修単位には自学自習の時間が含まれることを説明する。

○本校の目的について

- ・目的は学生便覧、授業計画に掲載されていることを説明する。
- ・(A)は人文系科目、(B)は自然科学系科目、(C)は外国語科目にそれぞれ対応している。
- ・(D)は専門講義科目、(E)は専門実験科目、(F)は基礎（工学）研究、卒業研究にそれぞれ対応している。

○自学実習などの学習支援について

- ・自学自習について（予習復習の必要性、図書館、情報処理センターなどの活用）
- ・オフィスアワー制度について説明すること。
- ・資格試験の受験料補助

○JABEE プログラムについて

- ・学生便覧を参考に説明すること。

○欠課および公欠について

- ・欠課した場合は必ず届けを出すこと。欠課措置を必ず行うこと。
- ・公欠の場合は必ず届けを出すこと（部活動ではクラブ単位、就職などは個人で提出すること。）

○学校の諸規則について

- ・「学生指導の手引（取扱注意）」を参考に説明すること。
- ・学校の諸規則は学生便覧に掲載されている。

○年間日程について

- ・試験期間後に異議申立の機会があることを説明すること。
- ・再試験について

(出典 学級担任配布資料)

資料 1 - 2 - ① - 7 「平成19年度 新任教員研修会校長説明資料」

## II 目的

### 1 使命

本校は、3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

### 2 基本方針

本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。

教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践的技術者の育成を目指している。

(出典 総務課資料)

本校の目的の周知状況を把握するために、平成19年4月に教職員および学生を対象にアンケート調査を行った(資料1-2-①-8)。アンケート調査結果の一部抜粋を、資料1-2-①-9~13に、それをまとめたものを下表に示す。それぞれ、「目的があることを知っている割合」、「対応する教科がある程度分かる割合」である。

	学生(準学士課程)	学生(専攻科課程)	教員	非常勤講師	職員
明文化された目的があることを知っていますか?	68%	68%	96%	86%	90%
目標に対応する教科が分かりますか?	65%	56%	94%	79%	75%

アンケート結果から、非常勤を含めた教職員への周知は良好であるが、学生に対しては今後も継続してさらなる周知を図る必要がある。



## 資料 1-2-①-8 「『学校の目的』の周知に関するアンケート」

## A 「学校の目的」の周知に関するアンケート（学生向け）

これは、本校の「学校の目的」の周知の度合いを調べるためのアンケートです。周知の度合いを示す客観的なデータとして使うとともに、今後の学校運営に利用します。

注1：隣の文字枠やマーク枠にはみ出さないように記入してください。  
枠の中に大きく記入してください。  
HBの鉛筆・シャープペンシルで記入してください。

良い例 <input checked="" type="checkbox"/>	悪い例 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
--	---

## 基本項目

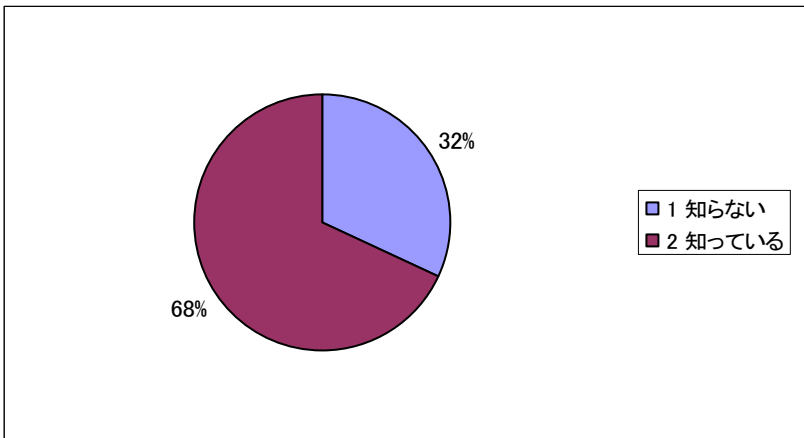
Q0-1 学年 1年  2年  3年  4年  5年

専攻科 1年  2年

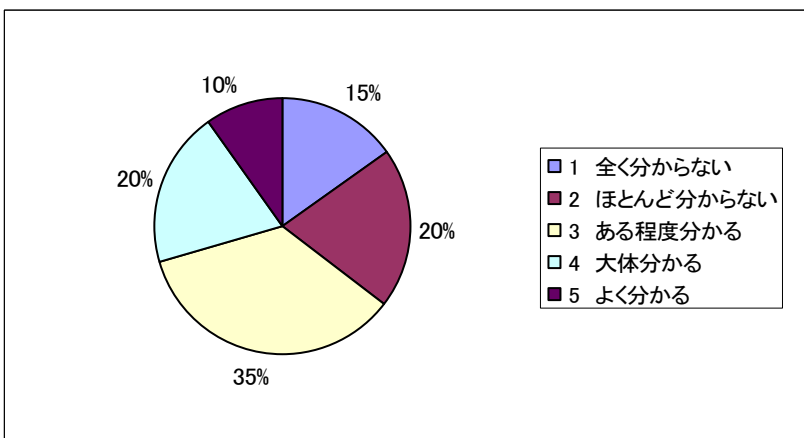
設問	回答				
	5	4	3	2	1
Q1 本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか?	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q2 学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか?	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q3 教養教育の目標(A)～(C)に対応する教科が分かりますか?	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q4 専門教育の目標(D)～(F)に対応する教科が分かりますか?	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q5 専攻科課程の目標(1)～(3)に対応する教科が分かりますか?	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q6 本校の「学校の目的」に関して、意見をお聞かせください(自由記述)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

資料 1 - 2 - ① - 9 「『学校の目的』の周知に関するアンケートの集計結果（学生（準学士課程））」

Q1 本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？



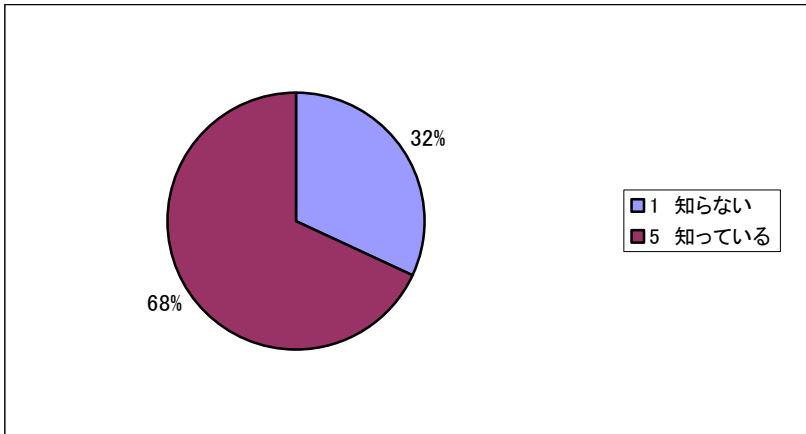
Q3 教養教育の目標(A)～(C)に対応する教科が分かりますか？



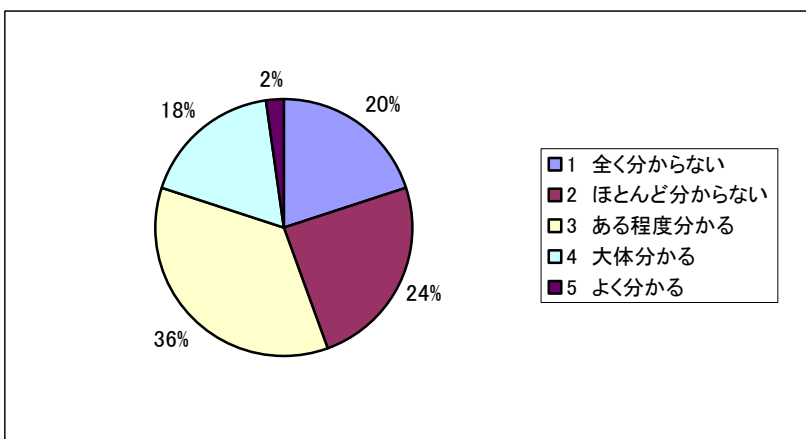
(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成 18 年度版－ p. 11)

資料 1 - 2 - ① - 10 「『学校の目的』の周知に関するアンケートの集計結果（学生（専攻科課程）」

Q1 本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？



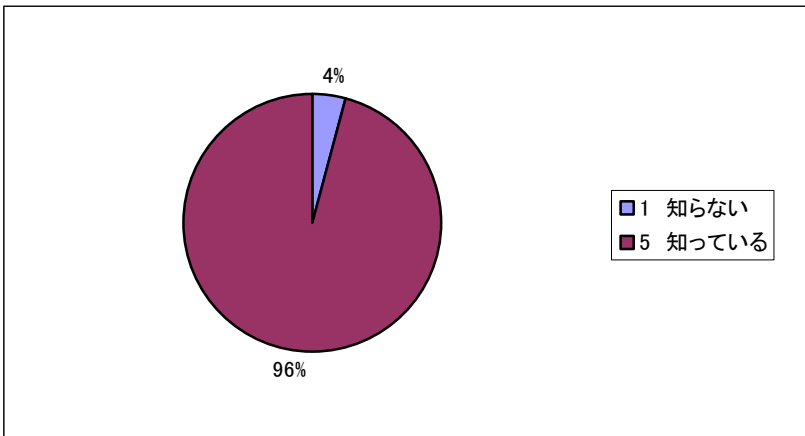
Q5 専攻科課程の目標(1)～(3)に対応する教科が分かりますか？



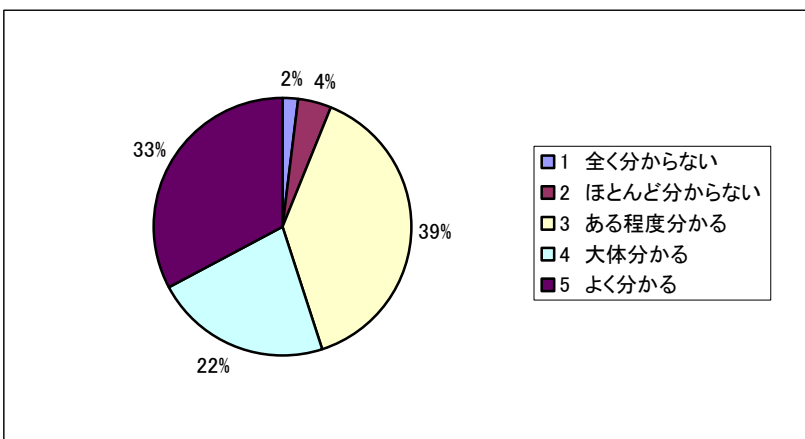
(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成 18 年度版－ p. 13)

資料 1 - 2 - ① - 11 「『学校の目的』の周知に関するアンケートの集計結果（教員）」

Q1 本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？



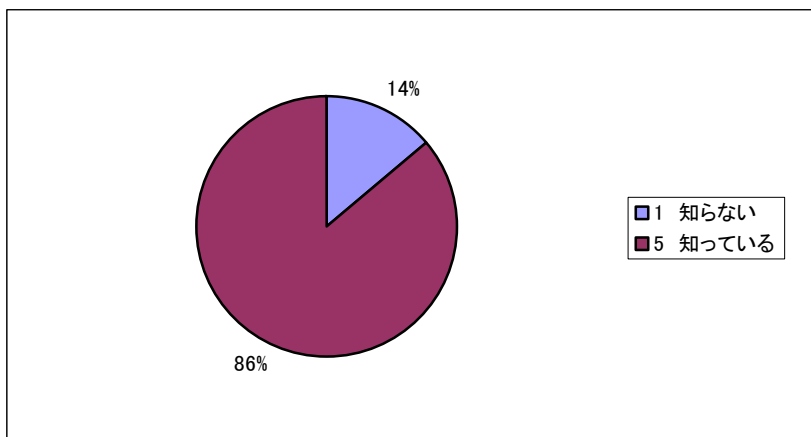
Q3 教養教育の目標(A～(C)に対応する教科が分かりますか？



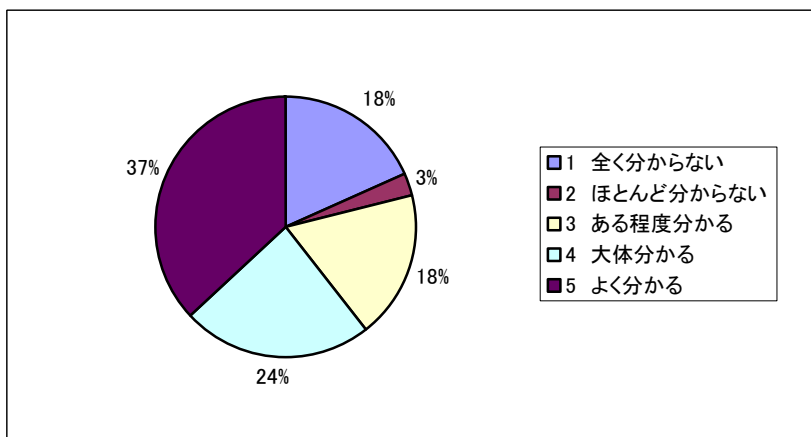
(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成 18 年度版－ p. 4)

資料 1 - 2 - ① - 12 「『学校の目的』の周知に関するアンケートの集計結果（非常勤教員）」

Q1 本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？



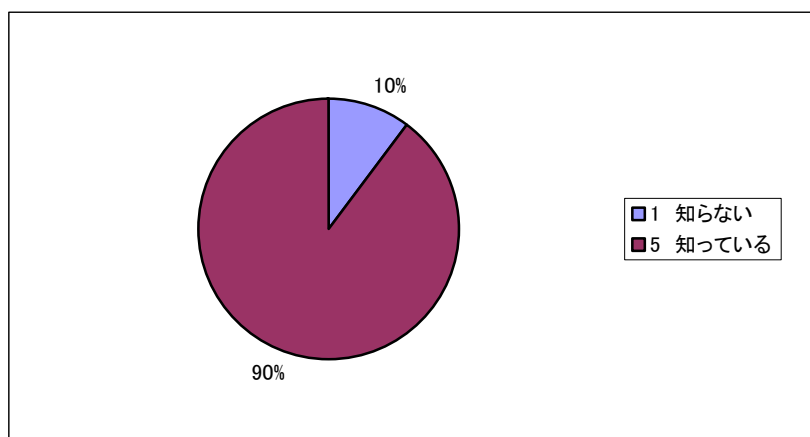
Q3 教養教育の目標(A)～(C)に対応する教科が分かりますか？



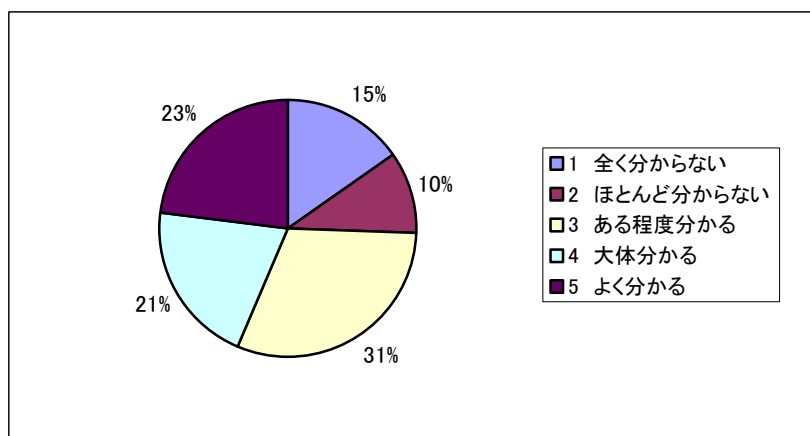
(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果—平成 18 年度版— p. 6)

資料 1 - 2 - ① - 13 「『学校の目的』の周知に関するアンケートの集計結果（職員）」

Q1 本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？



Q3 教養教育の目標(A～(C)に対応する教科が分かりますか？



(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成 18 年度版－ p. 8)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、印刷物およびそれを用いた説明により、学校の構成員へ本校の目的の周知を図っている。本校の目的を記載し、各種印刷物（学校要覧、学生便覧、シラバス）を、年度の始めに学生および教職員に配布している。さらに、学生や教職員にはガイダンス等を利用して、目的の説明を行っている。加えて、ホームページにも目的を掲載し、誰でも手軽に閲覧できるようにしている。

周知の状況についてアンケート調査を行った。その結果、明文化された目的があることを知っている割合は、準学士課程の学生では 68%，専攻科課程の学生では 68%，教員では 96%，非常勤講師では 86%，職員では 90%であった。また、内容の理解度を調べるために、教育の目標と教科の関係について質問したところ、ある程度以上分かる割合は、準学士課程の学生では 65%，専攻科課程の学生では 56%，教員では 94%，非常勤講師では 79%，職員では 75%であった。この結果、非常勤講師を含めた教職員の周知は良好であるといえる。学生に対しては、継続した周知の活動が必要であるといえる。

以上のことから、今後も継続した周知の活動が必要なものの、おおむね学校の構成員に周知されているといえる。

## 観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の目的は、ホームページにより、広く一般に公表されている(前述資料1-2-①-4)。学校の目的が記載された学校要覧や学生便覧は、関係団体へ配布している(資料1-2-②-1)。また、就職先企業へのアンケートの調査時には、学校の目的を記述した印刷物を同封し、広く公表する努力を行っている(資料1-2-②-2)。

## 資料 1-2-②-1 「配布先リスト(他大学・他高専)」

「配布先リスト」(他大学・他高専への配布先一覧)

配布先	学校要覧	学生便覧
国立高専機構本部	5	1
文部科学省	1	1
高等専門学校		62
秋田大学	1	
東北地区大学		
大学(進学先等)		
秋田県教育委員会	1	
秋田市教育委員会	1	
秋田県内中学校	133	
秋田県内工業高校	9	
報道機関	15	
秋田高専産学協力会	52	
国会図書館	5	
カレッジプラザ	5	
アルヴェ	5	
歴代校長	4	
教職員	87	
学生課(就職・入試用)	50	
総務課(来客用他)	526	
合計	900	64

(出典 学生課資料から抜粋)



## 資料 1 - 2 - ② - 2 「配布先リスト（企業）」

秋田南教農業協同組合	J U K I 株式会社
株式会社青葉コンサルタント	T D K 株式会社
株式会社新井組	日発精密工業株式会社
株式会社住友大阪セメント	扶桑精工株式会社
株式会社トマック	田中貴金属工業株式会社
旭シンクロテック株式会社	株式会社アズマ
菊川工業株式会社	石川島汎用機サービス株式会社
住友金属プラントック株式会社	株式会社ケーヒン
前田道路株式会社	本田技研工業株式会社
水谷建設株式会社東日本支社	津田工業株式会社
山崎建設株式会社	株式会社テクモ
太田防水工業株式会社	株式会社日野自動車
鹿島道路株式会社	日本オーチスエレベーター株式会社
株式会社秋田銀行	ニプロファーマ株式会社大館工場
雪印乳業株式会社	宇宙航空研究開発機構
株式会社日清紡 館林工場	株式会社牧野フライス製作所
花王株式会社	日本貨物鉄道株式会社東北支社
株式会社カネカ	JR 東日本株式会社
塩野義製薬株式会社	NHK 秋田放送局
住友化学株式会社	大阪ガス株式会社
大日精化工業株式会社	秋田ゼロックス株式会社
チッソ石油化学株式会社 五井製造所	株式会社アルメックス
東レ株式会社	株式会社リキネット
東洋インキ製造株式会社	株式会社秋田ルミナ
大日本インキ化学工業株式会社	株式会社 J A L 航空機整備成田
コスモ石油株式会社	G E 横河メディカルシステムズ株式会社
新日本石油株式会社	総合警備保障株式会社
タイヨーインタナショナル株式会社	日本原子力発電株式会社
株式会社 T S G	富士電機システムズ株式会社
高砂熱学工業株式会社	三菱電機ビルテクノサービス株式会社
株式会社 O A 研究所	中外テクノビジネス株式会社
T D K - M C C 株式会社	フジテック株式会社
株式会社日立製作所	丸水中央水産株式会社
J U K I 電子工業株式会社	日本興亜損保 秋田支店
カシオテクノ株式会社	秋田市消防本部
京セラ株式会社福島棚倉工場	社団法人 東北建設協会
ソニー宮城株式会社	医療法人 久幸会
株式会社五洋電子	

(出典 アンケート送付一覧から抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は、広く一般にはホームページで公表されている。県内の中学校や関係団体へは、目的が書かれた学校要覧や学生便覧を配布することにより、公表を行っている。さらに、就職先企業には、アンケートの調査時に、学校の目的を記述した印刷物を同封し、広く公表する努力を行っている。

以上のことから、本校の目的は、社会に対して広く公表されているといえる。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし。

(改善を要する点)

特になし。

## (3) 基準 1 の自己評価の概要

本校では、高等専門学校の使命、教育活動を実施するうえでの基本方針、養成しようとする人材像、達成しようとしている基本的な成果を明確に定めている。特に、人材像や教育の成果は、準学士課程と専攻科課程の二つの教育課程で、学習段階および専攻に応じてきめ細かく設定し、具体的な教育内容を決定する指針としている。

本校の目的は、学校教育法第 70 条の 2 に規定されている、高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。本校の使命は、学校教育法にのっとり、および学校教育法に基づき、策定されたものである。また、養成しようとしている人材像や達成しようとしている基本的な成果は、学校教育法上の目的と合致している。

各種刊行物（学校要覧や学生便覧、シラバス、他）やガイダンスをとおして、「学校の目的」の周知に努めている。アンケート調査の結果から、本校の教職員は「学校の目的」を理解している。一方、本校の学生の周知の度合いは必ずしも高いものではなく、継続した周知の活動が必要である。

社会に対して本校の目的を公表する努力は、十分行われている。ホームページに「学校の目的」を掲載し、誰でもが手軽に閲覧できるようにしている。また、各種印刷物により、入学対象者の中学生や進学先、関係団体、就職先企業などに広く公表する努力を行っている。

以上のことから、本校では適切な「学校の目的」を策定し、それを社会に公表していると結論できる。

## 基準 2 教育組織（実施体制）

## （1）観点ごとの分析

観点 2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の準学士課程の使命は「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」である。広く社会に必要な技術者の育成をとおして、この使命の達成を目指している。技術者を養成するために、機械工学科、電気情報工学科、物質工学科、環境都市工学科の4学科（資料2-1-①-1）を設置し、教育を行っている。そこでの5年間一貫教育では、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。このための教育活動では、まず養成しようとしている人材像を定めている。そして、教育課程（教養教育と専門教育）ごとに達成しようとしている基本的な成果を規定している。さらに、学科ごとに技術者としての職業に就くうえで基本的に修得すべき内容も定め（資料2-1-①-2）、教授内容に反映している。

職業に必要な能力は、産業構造の変化に伴い変わる。その変化に迅速に対応するために、本校では学科の改組を進めてきた。物質工学科は、平成4年に工業化学科から改組した。それまでの工業化学に代わり、材料化学、精密化学、環境科学、生物化学へと産業構造の変化に対応するためである。環境都市工学科は、平成5年に土木工学科から改組した。土木工学から、環境の保全や都市工学といった社会基盤に必要とされる分野の変化を取り入れるためである。電気情報工学科は、平成16年に電気工学科から名称変更した。発展の著しい情報関連技術へ対応するためである。

## 資料 2-1-①-1 「秋田工業高等専門学校学則」

（学科，学級数及び入学定員）

第7条 学科，学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員
機械工学科	1	40人
電気情報工学科	1	40人
物質工学科	1	40人
環境都市工学科	1	40人

（出典 秋田工業高等専門学校規則集）

## 資料 2 - 1 - ① - 2 「基本的に修得すべき内容」

さらに、現代の産業や社会の要求に即して、学科毎に技術者として必要な知識・技術を規定している。その内容は、準学士課程の卒業生にふさわしく、技術者の職業に就く上で基本的に修得すべきことを決めている。各学科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

機械工学科	機械とその要素，機器，装置の開発，設計，製作できる技術，およびこれらを支援するコンピュータの利用と制御に関する技術を修得する。
電気情報工学科	高度情報化社会に対応したコンピュータ，制御および通信に関する技術を修得する。新しい電子材料の創製と，電子回路およびエレクトロニクスデバイスに関する技術を修得する。社会基盤に対応した電気エネルギーに関する技術を修得する。
物質工学科	有機材料，無機材料等に関するバイオテクノロジーを含む合成技術と得られた分子，物質・材料の構造・物性を評価出来る技術を修得する。工業化された際の製造プロセスを最適化する技術と運転・管理技術を修得する。
環境都市工学科	社会基盤整備を支える施設の計画・設計・施工および完成した施設の維持管理と再生のための技術，およびこれらを支援するために必要なコンピュータ技術を修得する。環境アセスメントおよび都市計画・都市デザイン設計とその関連技術を修得する。

(出典 平成 19 年度学生便覧 p. 4 ~ 5)

## (分析結果とその根拠理由)

本校の準学士課程の使命「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」に基づき、機械工学科，電気情報工学科，物質工学科，環境都市工学科を設置している。これらの4学科を設置することにより，広く社会に必要な技術者の育成を行っている。さらに，各学科は改組等を行うことで，産業構造の変化に対応した技術者教育に努めている。その結果，現在の4学科は広く社会が必要とする技術者教育を行ううえで，十分なものである。

以上のことから，本校の学科の構成は，教育の目的を達成するうえで適切なものになっているといえる。

観点 2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程では準学士課程を基に、創造性豊かで、かつ力量のある実践的技術者を育成するため、準学士課程から継続性を活かし、専門分野の融合・複合化も視野に入れ、生産システム工学専攻（8名）、環境システム工学専攻（8名）の2専攻で構成している（資料2-1-②-1）。

生産システム工学専攻は「機械工学、電気情報工学を基礎とした精密加工、システム工学、熱流体エネルギー、応用力学、エレクトロニクス、情報、制御、新素材などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に、機械工学、電気情報工学の複合領域におけるメカトロニクス技術者として必要となる総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける」ことを教育の基本的成果としている。

環境システム工学専攻は「物質・材料工学、環境都市工学を基礎とした無機材料、有機材料、微生物工学、水環境工学、環境地盤工学、環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に無機材料・有機材料・生物材料を利用した水環境改善のための処理技術や物質循環・エコマテリアル工学など物質工学、環境都市工学の複合領域における創造性豊かな技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける」ことを教育の基本的成果としている。

準学士課程との関連では、準学士課程第4・5学年と専攻科課程第1・2学年の4年間については、4学科2専攻を一体化した融合的教育プログラム「創造工学システムプログラム」を設定し、創造性豊かな実践的かつ力量のある技術者を育成することを推進している。

資料 2-1-②-1 「秋田工業高等専門学校学則」

第8章 専攻科

(設置)

第40条 本校に専攻科を置く。

(目的)

第41条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者を養成し、もって広く産業の発展に寄与することを目的とする。

(専攻及び入学定員)

第42条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

生産システム工学専攻	8人
環境システム工学専攻	8人

(中略)

(修業年限及び在学年限)

第45条 専攻科の修業年限は2年とする。ただし、4年を超えて在学することができない。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

本校の専攻科課程の使命「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」に基づき、生産システム工学専攻、環境システム工学専攻を設置している。これらの2専攻を設置することにより、準学士課程の教育を基礎にして、さらに高度な内容を教授している。

融合的教育プログラムである「創造工学システムプログラム」をとおして、準学士課程第4・5学年と専攻科課程第1・2学年の計4年間で、技術者教育を行っている。ここでは、創造性と力量のある実践的技術者を育成するための「専門性と質」を確保し、さらに「幅広さ」としての学際分野の技術にも対応できる、融合性を兼ね備えた教育を行っている。

以上のことから、本校の専攻科の構成は、教育の目的を達成する上で適切なものになっているといえる。

観点 2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

全学的なセンターとして、本校は、工業技術実習センター、技術教育支援センター、地域共同テクノセンター、情報処理センターを設置している。

(1) 工業技術実習センター

工業技術実習センターは、本校の学生自らが自立心と新しいことへの挑戦の心を持ち、ものづくりの基礎となる創造性教育の促進に寄与することを目的に設置されており、学生のものづくり実習、課外活動等で積極的に活用されている(資料 2-1-③-1)。

(2) 技術教育支援センター

技術教育支援センターは、実験・実習や卒業研究、特別研究、教員の教育研究活動の技術的支援を行っている。さらに、ほかのセンターの支援も行い、本校の技術支援に関する全般的な業務を受け持っている(資料 2-1-③-2)。

(3) 地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンターは、本校と民間等外部の機関との共同研究および技術相談等を推進することで、地域産業の振興、活性化に寄与することを目的として設置されているものであるが、センターのテクノラボラトリーに設置されている機器の教育面での活用もなされており、本校の技術者教育の一端を担っている(資料 2-1-③-3)。

(4) 情報処理センター

情報処理センターは、本校の情報処理教育およびマルチメディア教育サポートを行う。授業の演習で使うとともに、放課後の自習用にも開放している。また平成 18 年度から e-Learning システム導入により、学生の英語の自学自習の場を提供している(資料 2-1-③-4)。

資料 2-1-③-1 「秋田工業高等専門学校工業技術実習センター」

(設置)

第 1 条 秋田工業高等専門学校(以下「本校」という。)に 秋田工業高等専門学校工業技術実習センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 センターは、本校の学生自らが自立心と新しいことへの挑戦の心を持ち、ものづくりの基礎となる創造性教育の促進に寄与することを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターにおける業務は、次の各号に掲げる業務を行うとおりとする。

- (1) 学生の実験・実習及び卒業研究・特別研究等に関すること。
- (2) 学生の課外活動(ロボコン等)に関すること。
- (3) その他校長が必要と認めたもの。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 2 - 1 - ③ - 2 「秋田工業高等専門学校技術教育支援センター規則」

(設置)

第 1 条 秋田工業高等専門学校学則第 52 条の 4 第 2 項の規定に基づき、秋田工業高等専門学校技術教育支援センター（以下「技術教育支援センター」という。）の組織運営についてはこの規則の定めるところによる。

(目的)

第 2 条 技術教育支援センターは、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究支援体制の充実に資するため、本校の技術に関する専門的業務を円滑かつ効率的に処理し、技術教育支援職員の能力及び資質向上を図ることを目的とする。

(組織)

第 3 条 技術教育支援センターは、技術教育支援センター長（以下「センター長」という。）、技術長、支援グループ長、技術専門員、技術専門職員及び技術職員をもって組織する。

2 技術教育支援センターに、次のグループを置く。

- (1) 生産システム支援グループ  
(機械・電気電子・情報系)
- (2) 環境システム支援グループ  
(物質・化学・環境系)

(業務)

第 4 条 技術教育支援センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 学生の実験・実習及び卒業研究・特別研究等における技術支援に関すること
- 二 教員の教育研究活動に伴う技術支援に関すること
- 三 情報処理センター、地域共同テクノセンター、工業技術実習センター及び実習工場への技術支援に関すること
- 四 地域連携活動に伴う技術支援に関すること
- 五 公開講座、体験入学等の学校行事への技術支援に関すること
- 六 技術の継承及び保存、技術向上並びに技術教育支援のための技術研修に関すること
- 七 実験室等の共通機器等の保守・管理及び災害事故防止に関すること
- 八 その他技術教育支援センターの目的達成のための必要な事項に関すること

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)



## 資料 2 - 1 - ③ - 3 「秋田工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営委員会規則」

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）に秋田工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (目的)

第2条 委員会は、本校と民間等外部の機関（以下「民間機関等」という。）との連携を推進することにより、本校の教育及び研究の進展を図るとともに、地域産業の振興、活性化に寄与することを目的とする。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 地域共同テクノセンター長（以下「テクノセンター長」という。）
- 三 教務主事
- 四 専攻科長
- 五 各学科主任及び各学系主任
- 六 外部有識者5名程度
- 七 事務部長
- 八 その他校長が必要と認めた者

## (委員の任期)

第4条 前条第六号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。  
2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (審議事項)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 テクノセンターの運営、設備等の利用計画、事業計画に関すること。
- 二 秋田工業高等専門学校産学協会との連携に関すること。
- 三 民間機関等との共同研究、受託研究等の受け入れに関すること。
- 四 リフレッシュ教育に関すること。
- 五 その他必要事項

## (委員長)

第6条 委員会に委員を置き、校長をもって充てる。  
2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。  
3 委員長に事故がある場合は、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

## (地域からの要請等の受入れ決定)

第7条 地域からの要請等の受入れは、委員会の審議に基づき、校長が決定する。  
2 前項の受入れは、本校の教育・研究に支障がない範囲で行うものとする。

## (委員以外の者の出席)

第8条 委員会は、必要に応じ委員以外の者を出席させて意見を聴くことができる。

## (庶務)

第9条 委員会の庶務は、企画室において処理する。

## (雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

## 附則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

## 附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

## 附則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 2 - 1 - ③ - 4 「秋田工業高等専門学校情報処理センター規則」

(趣旨)

第 1 条 秋田工業高等専門学校学則第 52 条第 2 項の規定に基づき、秋田工業高等専門学校情報処理センター規則（以下「センター」という。）の運営については、この規則の定めるところによる。

(目的)

第 2 条 センターは、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）学生に対する情報処理教育、職員の学術研究及び本校運営に必要な校務の利用に供することを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターにおける業務は、次のとおりとする。

- (1) 教育用電子計算機、パーソナルコンピュータ及び情報ネットワーク（以下「電子計算機システム」という。）の管理運営及び保守に関すること。
- (2) 電子計算機システムの利用に伴う調査、研究に関すること。
- (3) 情報処理教育に関すること。
- (4) その他情報センターに関すること。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、全学的なセンターとして、工業技術実習センター、技術教育支援センター、地域共同テクノセンター、情報処理センターを設置している。それぞれのセンターは、目的と業務が規則により定められており、それに沿った活動を行うことで、本校の教育をサポートすることになっている。

これらのセンターは役割を分担して、本校の教育・研究活動を支えている。特に、設備を使う教育においては、その維持・管理をはじめ、操作の役割を全面的に担っている。本校の教育の目的を達成するうえで、必要不可欠な組織となっている。

本校の使命は、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」である。これらを全うするためには、必要な設備を有し、その維持・管理、操作を行うこれらのセンターは必要不可欠である。以上のことから、本校のセンターは教育の目的を達成するうえで、適切なものであるといえる。

観点 2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の教育の企画・審議は、教務委員会(資料 2-2-①-1)が行う。専攻科課程については、専攻科教務委員会(資料 2-2-①-2)が企画・審議を行う。さらに、カリキュラム検討委員会は、教務委員会と専攻科教務委員会にまたがる諸教務の処理を行い、5年間の準学士課程と2年間の専攻科課程の最適な連携について企画、調整している。(資料 2-2-①-3)

教育課程全体を管理運営する体制としては、準学士課程に運営委員会(資料 2-2-①-4)、専攻科課程に専攻科運営委員会(資料 2-2-①-5)を設置している。そこでは、規則制定・規則改定など教育活動に係る重要事項の審議を行うことにより、教育課程全体を管理している(資料 2-2-①-6)。

資料 2-2-①-1 「秋田工業高等専門学校教務委員会規則」

(設置)

第1条 秋田工業高等専門学校に教育計画等教務に関する事項を審議するため秋田工業高等専門学校教務委員会(以下「委員会という。」)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程に関すること。
- 二 学校行事に関すること。
- 三 学生の授業時間割の編成に関すること
- 四 学生の試験に関すること。
- 五 その他必要事項に関すること。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

資料 2-2-①-2 「秋田工業高等専門学校専攻科教務委員会規則」

(設置)

第1条 秋田工業高等専門学校専攻科規則第5条に基づき、専攻科教務に関する事項を審議するため、秋田工業高等専門学校専攻科教務委員会(以下「委員会という。」)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程に関すること。
- 二 学生の授業時間割の編成に関すること。
- 三 学生の試験に関すること。
- 四 学校行事に関すること。
- 五 その他必要事項に関すること。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 2-2-①-3 「カリキュラム検討委員会規則」

## 秋田工業高等専門学校カリキュラム検討委員会規則

(設置)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第18条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育課程に関する重要な事項を審議するため、秋田工業高等専門学校カリキュラム検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議・検討する。

- 一 修学年限5年の課程（以下「本科」という。）及び専攻科の教育課程の編成等に関して、本校の教育目標を達成するための体系的教育課程の編成に関すること。
- 二 「創造工学システムプログラム」に関すること。
- 三 その他本科及び専攻科の教育課程の編成上重要な諸問題に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教務主事
- 二 専攻科長
- 三 教務主事補
- 四 各専攻主任
- 五 各学科等から選出された教務委員会委員 各2名
- 六 学生課長

(任期)

第4条 前条第5号に掲げる委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて、その意見を求めることができる。

(専門部会)

第7条 委員会に特定の事項を調査・検討するため専門部会を置くことができる。

2 専門部会の部会長及び委員は校長が指名する。

(庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、学生課において処理する。

附 則

この規則は、平成18年 4月 1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年 4月 1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 2-2-①-4 「秋田工業高等専門学校運営委員会規則」

(設置)

第1条 秋田工業高等専門学校の管理運営を円滑に行うため、秋田工業高等専門学校運営委員会（以下「委員会という。」）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 主事
- 三 専攻科科长
- 四 専攻主任
- 五 図書館長
- 六 学科主任等
- 七 学級担任会の代表1名
- 八 事務部長
- 九 その他校長が指名する者

(審議事項)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 一学則その他重要な規則の制定、改廃に関する事。
- (2) 予算概算の方針に関する事。
- (3) 学科の設置、廃止に関する事。
- (4) 学生の厚生補導及び身分に関する重要事項
- (5) その他教育施設及び学校運営に関する重要事項

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 2-2-①-5 「秋田工業高等専門学校専攻科運営委員会規則」

(趣旨)

第1条 秋田工業高等専門学校専攻科規則第4条第2項の規定に基づき、秋田工業高等専門学校専攻科運営委員会（以下「委員会」という。）の運営については、この規則の定めるところによる。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程の編成及び実施に関する事。
- 二 教育計画及び授業時間の編成に関する事。
- 三 入学者選抜に関する事。
- 四 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関する事。
- 五 試験及び学業成績に関する事。
- 六 進学及び就職に関する事。
- 七 学生支援の重要事項に関する事。
- 八 その他専攻科の運営に関する事。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 2 - 2 - ① - 6 「第13回運営委員会, 第11回専攻科運営委員会議事要旨」

## 第 13 回運営委員会, 第 11 回専攻科運営委員会議事要旨

日 時 平成 19 年 3 月 5 日 (月) 14 : 00 ~ 14 : 35  
 場 所 会議室 A  
 出席者 島田委員長, 成田(文)委員, 脇野委員, 堀江委員, 須川委員, 大上委員, 対馬委員, 豊嶋委員,  
 佐々木章, 宮田委員, 折田委員, 金子委員, 成田(章)委員, 落合委員, 茂木委員, 事務部長, 庶  
 務課長, 学生課長, 会計課課長補佐

始めに, 校長から, 今回の運営委員会は, 専攻科運営委員会との合同で開催する旨, 説明があった。

## 【審議・協議事項】

## 教務主事

1. 秋田工業高等専門学校学則の一部改正(案)について  
 教務主事から, 資料 1 に基づき, 秋田工業高等専門学校学則の一部改正(案)について説明があり, 協議の結果, 原案のとおり承認された。
2. 秋田工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則の一部改正(案)について  
 教務主事から, 資料 2 に基づき, 秋田工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則の一部改正(案)について説明があり, 協議の結果, 原案のとおり承認された。

## 専攻科長

1. 秋田工業高等専門学校学則の一部改正(案)について  
 専攻科長から, 資料 1 に基づき, 秋田工業高等専門学校学則の一部改正(案)について説明があり, 協議の結果, 原案のとおり承認された。

## 事務部

1. 学校教育法の一部改正及び秋田工業高等専門学校事務組織の改編に伴う秋田工業高等専門学校諸規則等の整備に関する規則の制定(案)について  
 庶務課長から, 資料 3 に基づき, 学校教育法の一部改正及び秋田工業高等専門学校事務組織の改編に伴う秋田工業高等専門学校諸規則等の整備に関する規則の制定(案)について説明があり, 協議の結果, 原案のとおり承認された。  
 引き続き, 庶務課長から, 配布資料に基づき, 平成 19 年度変形労働時間制(案)について説明があり, 協議の結果, 原案のとおり承認された。

(出典 運営委員会議事録)

## (分析結果とその根拠理由)

教育の企画・審議は準学士課程では教務委員会が行い, 専攻科課程では専攻科教務委員会が行う。さらに, カリキュラム検討委員会を設置し, 教務委員会と専攻科教務委員会にまたがる諸教務の処理を行い, 5 年間の準学士課程と 2 年間の専攻科課程の最適な連携について企画, 調整している。

教育課程全体を管理運営する体制としては, 準学士課程に運営委員会, 専攻科課程に専攻科運営委員会があり, 規則制定・規則改定など教育活動に係る重要事項の審議などを行うことにより, 教育課程全体を管理している。

以上のことから, 教育課程全体の管理運営体制と企画調整するための運営体制が整備され, 教育活動に係る重要事項の審議などを行っているといえる。

観点 2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。  
(観点に係る状況)

専門科目と一般科目の科目間または教員間の連携は、カリキュラムの内容まで踏み込んで検討する場合は、教務委員会、専攻科教務委員会、カリキュラム検討委員会が担当する（前述資料 2-2-①-1～3）。

数学のカリキュラムについて見直しをした際に、各学科専門科目と数学の授業内容との関連性を検討している。このときは自然科学系(数学)と各学科が話し合うとともに、学科内でも検討を行った。機械工学科における数学の必要状況を、資料 2-2-②-1 に示す。

また、一般科目教員と専門科目教員が連携を深める場としては、公開授業研究会がある。公開授業研究会では授業参観を行った後、授業内容および科目間連携について討論を行う（資料 2-2-②-2）。一般科目教員と専門科目教員は互いに意見を交換することで、継続して科目間連携について検討している。

資料2-2-②-1 「機械工学科科目と数学の対応」

科目名		機械工学科のマトリックス											
		1年	2年	2年	3年	3年	4年	4年	2年	3年	3年	4年	
項目	学年	基礎数学	線形代数	微分積分学	微分積分学	微分積分学	応用解析I	応用解析II	応用解析III	物理	物理	物理	応用物理
		①正式の計算 ②方程式と不等式 ③関数とグラフ ④増減・対数関数 ⑤三角関数	①ベクトル ②行列 ③行列式 ④行列の応用	①極限と連続 ②微分法の基礎 ③微分法の応用 ④微積分の基礎 ⑤不定積分の応用 ⑥定積分とその応用	①線数 ②微分 ③積分	①微分方程式 ②1階微分方程式 ③高階微分方程式 ④線形微分方程式 ⑤ラプラス変換	①ベクトルの代数 ②ベクトルの線積分 ③ベクトル場 ④積分公式 ⑤フーリエ級数 ⑥フーリエ積分	①力学 ②物理式	①複素数の関数 ②正則関数 ③積分 ④展開・留数・等角写像	①ベクトル場の線積分 ②ベクトル場の面積分 ③ベクトル場 ④積分公式 ⑤フーリエ級数 ⑥フーリエ積分	①弾性体 ②流体 ③温度と熱	①波動 ②光学機器 ③電磁気	①量子力学 ②解析力学
機械製作法	1年	020406		0203	01					01			
設計製図	1-5年	020406	01	0204(6)	02	0204	02	0103		01		0203	02
情報処理	2年	020406	02040	02040	02030	02034							
電気工学	2年	020406	02	02040	02030	02034						03	
情報処理	3年	020406	02040	02040	02030	02034							
電気工学	3年	020406	02	02040	02030	02034						04	
電気工学	3年	020406	02040	02040	02030	02034						03	
材料科学	3年	020406	04	04	02030	02034							
電子工学	3年	020406	02040	02040	02030	02034		01				0203	01
創造設計製作	3年	020406	01	04	02030	02034						0203	0203
計測工学	3年	020406		02	02							01	
機械要素	3年	020406	01	02	02	02	02	03				02	02
機械力学	3年	020406	02040	02040	02030	02034		01				01	02
材料力学	4年	020406	02040	02040	02030	02034						02	02
材料科学	4年	020406	04	04	02030	02034						03	
電子工学	4年	020406	02040	02040	02030	02034		01				0203	0203
計測工学	4年	020406	02	02	02	02	02					02	01
機械要素	4年	020406	01	02	02	02	02	03				02	02
機械製作法	4年	020406		03	01							02	01
情報工学	4年	02040	02040	02040	02030	02034						0203	0203
機械力学	4年	020406	02040	02040	02030	02034		01				0203	0203
流体力学	4年	020406	02040	02040	02030	02034		02034				0203	0203
熱工学	4年	020406	02040	02040	02030	02034		02034				0203	0203
機械力学	5年	020406	02040	02040	02030	02034		01				0203	0203
流体力学	5年	020406	02040	02040	02030	02034		02034				0203	0203
熱工学	5年	020406	02040	02040	02030	02034		02034				0203	0203
機械構造力学	5年	020406	01	02040	02030	02034		02034				0203	0203
システム工学	5年	020406		02040	02							0203	0203
材料科学特論	5年	020406	01	04								0203	0203
流体機械	5年	020406		02040	02030	02034						0203	0203
破壊力学	5年	020406	01	02040	02030	02034		02034				0203	0203

(出典 自然科学系(数学)資料)



## 資料2-2-②-2 「平成18年度公開授業研究会議事要旨」

## 平成18年度公開授業研究会議事要旨

日時：平成19年1月24日（水） 16:00～17:05

場所：会議室A

出席者：成田（文）、佐々木、木澤、宮田、山本、山崎（博）、伊藤（桂）、船山、岡村、豊嶋、佐藤（徹）、野中、対馬、日野、脇野、桑本、金子、長井、工藤、佐藤（尊）、上田、森本、校長

開会にあたり、教務主事から初めてこの研究会を開催することとした経緯の説明等を含め、挨拶がされた。

引き続き、進行担当の山崎教務主事補から、本日の研究会の進行についてテーマを大きく2つとることとし、1つは本日の公開授業科目である基礎数学Ⅲ（線形代数）と専門科目との連携について、もう1つは低学年のクラスの雰囲気・問題点等を意見交換して、今後のクラス運営に役立てていくこととすることが説明された。

## テーマ1. 線形代数と専門科目の連携に関する情報交換について

公開授業科目を担当した森本教員から、線形代数の授業内容について説明後、各学科から線形代数を用いた授業の関連する部分について報告がされた。授業はもとより卒業研究を進めていくうえでも、線形代数の重要性が再確認された。引き続き数学科側からこの線形代数の内容について大学1年相当の内容であり、2学年にこの内容は大変であり数学の流れとしてはどうかと思われるが、専門の授業へ対応していくための道具としての位置づけという点で必要であるという矛盾することを抱えていることの報告と、線形代数以外の数学の微分積分学の内容について説明された。

続いて数学の授業の進捗状況と専門科目の授業の進捗状況について各学科から報告を受け、専門の授業を進めていく中で、数学でまだ習っていない単元がでてくることがあり、先に教えてよいものかと困ることがあるといった報告がされた。

最後に数学の科目と専門科目との関連について、シラバスに例示があれば学生が興味をもって数学に取り組んでいくのではないかとの意見があり、今後、教務スタッフで検討することとした。

（出典 公開授業研究会議事要旨）

(分析結果とその根拠理由)

一般科目と専門科目を担当する教員間の連携が行われている例としては、数学のカリキュラムの見直しや、公開授業研究会における討論などが行われており、継続して科目間連携について検討している。

以上のことから、一般科目および専門科目を担当する教員間の連携が行われているといえる。

観点 2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程では、学級担任を中心として学生の教育支援を行っている。学級担任は、学生の成績や生活に関する状況を把握し、適切な助言を与えている。一方、専攻科課程では、専攻主任が同様の責務を担っている(資料 2-2-③-1~2)。これら学級担任、専攻主任を、全学的な委員会が様々な形でサポートしている。教務委員会、学生委員会(資料 2-2-③-3)、寮務委員会(資料 2-2-③-4)、学級担任会、学科会議、専攻科においては専攻科教務委員会が支援組織として機能している。

学生課は、事務サイドの立場から教員の教育活動の支援を行っている。学生課教務係は、学習に関する業務「授業時間、補習授業及び定期試験、教育課程、学業成績、本科入学者選抜、専攻科入学者選抜、大学編入、大学院進学など」の事務処理を行う。学生課学生支援係は、学校生活一般に関する業務「課外活動、生活指導、奨学金制度による学生支援、就職支援、保健管理など」の事務処理を行う。そのほか、学寮には寮務係を配置している。また、図書館には総務課学術情報係を配置している。これらの専門の係を設置することにより、教員による学生指導や学生生活全般を支援している。

資料 2-2-③-1 「専攻主任および学級担任について」

専攻主任

生産システム工学専攻主任 大上 哲郎  
環境システム工学専攻主任 対馬 雅己

学級担任

学年	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	環境都市工学科
1	今田 良徳	田中 将樹	○石塚 眞治	恒松 良純
2	長井 栄二	佐藤 彰彦	○小林 貢	佐藤 尊文
3	○菅原 隆行	大島 静夫	森本 真理	水野 麗
4	土田 一	○田畑 季章	上松 仁	折田 仁典
5	木澤 悟	浅野 清光	○岡村 澄夫	水田 敏彦

○印は学年代表

学級担任会代表 浅野 清光

(出典 平成 19 年度役職教員・各種委員会委員等名簿)

## 資料 2-2-③-2 「秋田工業高等専門学校学級担任会規則」

(昭和44年12月6日規則第10号)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第20条第2項の規定に基づき、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）に学級担任会（以下「担任会」という。）を置く。

第2条 担任会は、学級担任相互の連携を保ち、学校長ならびに教務、学生および寮務の3主事との意志の疎通をはかりつつ学級の円滑なる運営に関する諸問題を協議することを目的とする。

第3条 担任会は、運営委員会直属のものとする。

第4条 担任会は、全学年の学級担任をもって構成する。

第5条 担任会の代表は、学級担任の互選による。

第6条 担任会は、学校長の承認を得て学級担任代表が招集する。

第7条 担任会の開催は、月1回とする。ただし、臨時に開催することもある。

第8条 担任会には、本校関係職員の出席をもとめることがある。

第9条 担任会の庶務は、学生課において処理する。

附 則

この規程は、昭和44年12月6日から施行する。

附 則

この規程は、昭和56年3月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 2-2-③-3 「秋田工業高等専門学校学生委員会規則」

(設置)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第20条第2項の規定に基づき、秋田工業高等専門学校に本科学生及び専攻科学生の厚生補導等に関する事項を審議するために秋田工業高等専門学校学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 課外活動に関すること。
- 二 学生の生活指導に関すること。
- 三 入学金及び授業料免除等に関すること。
- 四 日本学生支援機構奨学生及びその他の奨学生に関すること。
- 五 学生の保健衛生に関すること。
- 六 学生会の指導に関すること。
- 七 その他必要な事項に関すること。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 2 - 2 - ③ - 4 「秋田工業高等専門学校寮務委員会規則」

(設置)

第 1 条 秋田工業高等専門学校寄宿舎規則第 6 条第 2 項の規程に基づき、秋田工業高等専門学校に学生寮に関する事項を調査、審議することを目的とし、秋田工業高等専門学校寮務委員会（以下「委員会という。」）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 学生の入寮及び退寮に関すること。
- 二 学生寮生活の福祉増進及び規律保持に関すること。
- 三 学生寮関係の苦情処理に関すること。
- 四 その他必要な事項に関すること。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

学級担任や専攻主任を置くことにより、学生にきめ細かい教育活動の支援を行い、本校の教育活動の支援組織の要となっている。各種委員会、学級担任会、学科会議は、学級担任や専攻主任をサポートする機能がある。事務部の組織においては、学生課に教務係、学生支援係、寮務係を、また、図書館には総務課学術情報係を配置し、学校の教育活動の支援を行っている。

以上のことから、教育活動を円滑にするための支援体制が整備され、機能しているといえる。

**(2) 優れた点及び改善を要する点**

(優れた点)

特になし。

(改善を要する点)

特になし。

**(3) 基準 2 の自己評価の概要**

本校は、機械工学科、電気情報工学科、物質工学科、環境都市工学科の 4 学科で、準学士課程を構成している。専攻科課程は、生産システム工学専攻と環境システム工学専攻の 2 専攻で構成している。生産システム工学専攻は電気情報工学と機械工学を、環境システム工学専攻は物質工学と環境都市工学を融合・複合化した教育システムである。これらの学科および専攻での教育により、学校の使命である「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」と「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を進めている。

準学士課程と専攻科課程の 2 つの体制があるものの、それらの間での教育の連携にも配慮している。準学士課程の第 4・5 学年と専攻科課程を一体化した、融合的教育プログラムである「創造工学システムプログラム」を作り、機能的に学習のステップアップが図れるようにしている。連続して高度な教育が受けられるように配慮したプログラムにより、創造性と力量のある実践的技術者の育成を図っている。

学科や専攻科とは別に、教育に必要な 4 つの全学的なセンターを設置している。情報関連の教育・研究を支援する情報処理センターと、学生のものづくり実習、課外活動等で積極的に活用されてい

る工業技術実習センター，本校の技術に関する全般的な業務を受け持っている技術教育支援センター，さらには外部機関との共同研究・技術相談を目的に設置されている地域共同テクノセンターも，教育上有効に機能している。

教育課程全体を効果的に展開するための検討・運営体制としては，準学士課程に関しては教務委員会が，専攻科課程に関しては専攻科教務委員会がそれぞれ常設委員会として整備され，さらに両課程を全体的に取り扱う組織としてはカリキュラム検討委員会がある。また，教育課程全体を企画・調整・運営する体制としては運営委員会，専攻科運営委員会があり，重要事項の審議，決定がなされている。

一般科目および専門科目を担当する教員間の連携については，カリキュラム検討委員会が推進している。数学のカリキュラムの見直しや，公開授業研究会などをおして，継続的に科目間連携について検討している。

教育活動を円滑に実施するための様々な支援体制がある。教員間においては学級担任会，学科会議で問題点などを討議して対策を策定している。主に事務処理を行う支援組織を学生課に設置している。学習に関する業務は学生課教務係，学校生活一般に関する業務は学生課学生支援係，学寮には寮務係，図書館には総務課学術情報係を配置し，きめ細かいサービスを行っている。これらの専門の係により，教員による学生指導や学生生活全般の支援を機能的に行っている。

## 基準3 教員及び教育支援者

## (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校(入学定員160名、4学級編制)の一般教育担当教員は、高等専門学校設置基準第6条第2項に定められている18名(助手を除く)を上回る21名の専任教員と、19名の非常勤講師の計40名で構成され、担当科目ごとに専任の教員をバランス良く配置している(資料3-1-①-1「一般科目担当教員の数」)。

また、観点1-1-①で述べている具体的な教育目標等を達成するために、必要な科目に対して各教員の専門分野を考慮のうえ、適切に配置している(資料3-1-①-2「一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目」)。しかしながら、教員の定数の関係から全ての科目に対して教員を配置することは困難であるため、一般科目の一部について必要とする教員が不足している場合には、秋田工業高等専門学校非常勤講師採用基準(資料3-1-①-3)に基づき、非常勤講師を採用している。

なお、実践的技術者の育成および工学基礎としての自然科学系科目を深く理解させるために、数学、物理、化学に重点をおいて配置しているほか、「世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。」とした教養教育における基本的な成果の達成のために、英語を含んだ外国語担当教員を多く配置するばかりでなく、本校の教育目標を効果的に達成し得る教員配置を行っている。

## 資料3-1-①-1 「一般科目担当教員の数」

## 【人文科学系】

区分(教科)	教授	准教授	講師	助教	計	非常勤講師
国語	1		1		2	3
社会	1		1		2	2
芸術					0	3
外国語		4	1		5	4
人数計	2	4	3	0	9	12

## 【自然科学系】

区分(教科)	教授	准教授	講師	助教	計	非常勤講師
数学	3	3			6	1
体育	1	1			2	1
その他	化学		1		1	1
	物理	1	1	1	3	3
	生物					1
人数計	5	5	2	0	12	7

	教授	准教授	講師	助教	計	非常勤講師
人数合計	7	9	5	0	21	19

(出典 総務課資料)

## 資料3-1-①-2 「一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目」

## 【人文科学系】

職名	氏名	学位	専門分野(非常勤は所属)	本科1	本科2	本科3	本科4	本科5	本科6
教授	脇野 博	博士(社会学)	科学技術史	現代社会	政治経済	科学技術史	法と経済	技術者倫理	
教授	手島邦夫	博士(文学)	日本語学・日本語史	国語 I B	国語 II	日本文学	日本語表現		
准教授	小林 貢	修士(文学)	英文学・英語教育学	英語 II	英語	工業英語 I	教養ゼミナール		
准教授	金子 淳	博士(学術)	アメリカ文学・ドイツ文学	英語 I	独語 II	科学英語			
准教授	菅原隆行	博士(情報科学)	英語学(生成文法理論・語彙意味論)	英語	現代英語演習	教養ゼミナール			
准教授	桑本裕二	博士(文学)	言語学・音韻論	英語LL演習	英語 II	英語			
講師	長井栄二	博士(文学)	ドイツ近代史	人類史 I	人類史 II	社会と文化			
講師	水野 麗	修士(文学)	日本近代文学	国語 I A	国語 III	日本文学	教養ゼミナール		
講師	古河美喜子	修士(文学)	イギリス文学, 比較文学・文化	英語 I	英語				
非常勤	工藤一敏			国語 III	日本文学				
非常勤	橋本博美			国語 I B	日本文学				
非常勤	日黒伊久夫			現代社会					
非常勤	半田和彦			人類史 II					
非常勤	藤盛節子			英語					
非常勤	チエツツ明子			英語					
非常勤	大西絵理香			英語LL演習					
非常勤	ジャック フロイ ジョージ		(ジャック英仏会話スクール)	英語会話					
非常勤	深谷朋広			音楽					
非常勤	小柳 力			美術					
非常勤	小柳 葵			美術					
非常勤	伊藤晴美		(留学生担当)	日本語教育					

## 【自然科学系】

職名	氏名	学位	専門分野(非常勤は所属)	本科1	本科2	本科3	本科4	本科5	本科6
教授	成田文雄	博士(理学)	微分幾何学	基礎数学 III	応用解析 II	応用解析 IV			
教授	成田 章	理学博士	物性物理学	卒業研究	工学研究	特別研究	応用解析 I	応用解析 III A	固体物性論
教授	麻生正道		微分方程式論	基礎数学 I	微分積分学 I	微分積分学 II	応用解析 II	教養ゼミナール	
教授	渡邊朋雄		運動生理・スポーツ行政(論)・トレーニング法, 体育学	保健体育	教養ゼミナール				
教授	大島静夫		音響工学	物理	物理 I	工学研究	卒業研究		
准教授	上田 学	博士(理学)	原子核理論	応用物理	応用物理 II	教養ゼミナール	工学研究	卒業研究	
准教授	佐藤尊文	博士(数学)	微分幾何学	微分積分学 I	微分積分学 II	教養ゼミナール	編入生数学補習		
准教授	白根弘也		体育科教育学・球技運動学・野球						
准教授	森本真理	博士(理学)	環論	基礎数学 I	基礎数学 II	微分積分学 II	教養ゼミナール		
准教授	吉井洋二	Ph. D	代数	基礎数学 I	基礎数学 III	微分積分学 I	応用解析 III B		
講師	佐藤彰彦	理学修士	生物化学	化学 I	化学 II	教養ゼミナール	基礎研究	卒業研究	
講師	上林一彦	博士(理学)	物性物理学	物理 I	応用物理 I				
非常勤	安藤 洋			保健体育					
非常勤	後藤文彦		(秋田大学工学資源学部 助教)	応用物理					
非常勤	工藤 幹			基礎数学 II	応用解析 I	応用解析 III A			
非常勤	松本 勉			応用物理					
非常勤	長谷川武司			応用物理					
非常勤	岩田朋子			化学 I					
非常勤	高橋祥祐			生物					

(出典 平成 19 年度学生便覧から作成)



資料 3 - 1 - ① - 3 「秋田工業高等専門学校非常勤講師採用基準」

秋田工業高等専門学校非常勤講師採用基準

平成 17 年 6 月 30 日  
校長 裁定

- 1 非常勤講師を採用する場合は、あらかじめ教務主事と協議することとし、次の基準に従わなければならない。
  - (1) 原則として、年度当初に 65 歳を超えていないこと。ただし、65 歳を超える場合は理由書を付けて校長に提出し、校長が裁定する。
  - (2) 本校を定年退職した者については、2 年を超えないこととする。ただし、やむを得ない場合は理由書を付して校長に提出し、校長が裁定する。
  - (3) 前号以外の者の採用期間は、原則として通算 7 年を超えないこと。ただし、やむを得ない場合は理由書を付して校長に申し出ることにより、1 年間に限り延長することができる。
- 2 非常勤講師採用の枠は、教務委員会において審議し、校長の承認を得ることとする。
- 3 外国人講師については、この基準は適用しない。

附 則

- 1 この基準は、平成元年度採用者から適用する。
- 2 秋田工業高等専門学校非常勤講師採用についての申し合せ（昭和 57 年 1 月 12 日校長決裁）は廃止する。

附 則

この基準は、平成元年 4 月 26 日から施行し、平成元年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

（出典 秋田工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

一般科目担当教員の構成は、高等専門学校設置基準の要件を満たしつつ、本校教育課程の編成に照らしてバランス良く配置している。

また、数学、物理、化学に重点的に配置するなど、本校の教育目標に沿った教員配置を行っているほか、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているといえる。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校(入学定員160名、4学級編制)の専門科目担当教員は、高等専門学校設置基準第6条第3項に定められている29名(助手を除く)を上回る45名の専任教員と、28名の非常勤教員の計73名で構成され、各学科ごとに専任教員および非常勤講師をバランス良く配置している(資料3-1-②-1「専門科目担当教員の数」)。同設置基準第8条に定められている専任の教授および准教授の数についても、一般科目担当専任教員数と専門科目担当専任教員数との合計の2分の1(33名)を上回る36名であり、基準をクリアしている。

また、観点1-1-①で述べている具体的な教育目標等を達成するために必要な科目に対して、各教員の専門分野を考慮のうえ、適切に配置している(資料3-1-②-2「専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目」)。しかしながら、教員の定数の関係から全ての科目に対して教員を配置することは困難であるため、専門科目の一部について必要とする教員が不足している場合には、秋田工業高等専門学校非常勤講師採用基準(前述資料3-1-①-3)に基づき、非常勤講師を採用している。

「生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力」を有した技術者を養成するために、深い専門知識を教授するにふさわしい教員として、修士または博士の学位を取得した教員を中心に配置している。また、応用実践力の育成のため、企業経験のある教員を各学科に複数名配置している(資料3-1-②-3「各学科の学位取得および企業経験者の配置状況」)。

資料3-1-②-1 「専門科目担当教員の数」

区分(学科名)	教授	准教授	講師	助教	計	非常勤講師
機械工学科	4	6	0	2	12	6
電気情報工学科	4 *	4	1	2	11	6
物質工学科	3	6	0	2	11	9
環境都市工学科	4	5	0	2	11	7
人数計	15	21	1	8	45	28

\* 特任教授1名含む

(出典 総務課資料)

資料3-1-②-2 「専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目」

【機械工学科】

職名	氏名	学位	専門分野(非常勤は所属)	本科1	本科2	本科3	本科4	本科5	本科6	本科7	本科8	本科9	本科10
教授	佐々木 章	博士(工学)	熱工学	計測工学	熱工学	工学実験	基礎研究	卒業研究					
教授	落合雄二	博士(工学)	精密加工・超精密加工・生産工学・環境配慮生産技術	機械製作法	工学実験	基礎研究	卒業研究						
教授	茂木良平	博士(工学)	計測工学	電気工学 I	電気工学	電子工学	計測工学	工学実験	基礎研究	卒業研究			
教授	大上哲郎	博士(工学)	材料力学・塑性加工	材料力学	計算力学	塑性加工論	工学実験	基礎研究	卒業研究	応用力学			
准教授	山崎保輔		機械設計	機械要素	工学実験	基礎研究	工業英語	自動車工学	設計製図	卒業研究			
准教授	安藤正昭		材料工学	材料学	工学実験	基礎研究	卒業研究	材料学特論					
准教授	土田 一		熱工学	工作実習 II	機械製図 II	創造設計製作	工学実験	基礎研究	熱工学	卒業研究	内燃機関	熱工学特論	
准教授	岡本正人	博士(工学)	流体工学	情報処理	流体工学	工学実験	基礎研究	卒業研究	流体機械	システム工学特論			
准教授	木澤 悟	博士(工学)	制御工学	情報処理 I	コンピュータ製図	工学実験	基礎研究	卒業研究	制御工学	システム工学			
准教授	小林義和	博士(工学)	機械力学	情報処理 II	機械力学	設計製図	工学実験	基礎研究	卒業研究				
助教	今田良徳	工学修士	機械工学・生産工学	創造設計製作	機械製図 I	工作実習 I	基礎研究	卒業研究					
助教	渡部英昭	工学修士	流体工学	流体工学	設計製図	工学実験	基礎研究	卒業研究					
非常勤	田子 真		(秋田大学工学資源学部 准教授)	伝熱概論									
非常勤	足立高弘		(秋田大学工学資源学部 講師)	熱工学									
非常勤	門脇義次		(本校名誉教授)	工作機械									
非常勤	宮野泰治		(本校元助教)	破壊力学									
非常勤	渋谷 嗣		(秋田大学工学資源学部 教授)	機械構造力学									
非常勤	宮脇和人		(秋田県産業技術総合研究センター高度技術研究所)	特別講義									

【電気情報工学科】

職名	氏名	学位	専門分野(非常勤は所属)	本科1	本科2	本科3	本科4	本科5	本科6	本科7	本科8	本科9	本科10
特任教授	柳原昌輝	博士(工学)	画像計測・絶縁材料	制御工学 I	デジタル回路	実験実習	制御工学						
教授	宮田克正	工学博士	アンテナ・電磁界解析	工学研究	実験実習	卒業研究	工業英語	電気通信					
教授	浅野清光	工学博士	電子工学・表面科学・真空工学・超伝導工学・加速器科学・マイクロ波工学	電気磁気学 I	電気英語	電子回路 I	工学研究	実験実習	卒業研究				
教授	高橋身佳	工学博士	電気機器一般・電磁界シミュレーション・超電導応用	電気基礎	電力工学	実験実習	工学研究	卒業研究	電気設計	電気法規			
准教授	田畑季章		電力工学・電力応用工学	電気回路 I	電気計測	実験実習	電気機械変換工学 I	基礎研究	工学研究	卒業研究			
准教授	安東 至	博士(工学)	パワーエレクトロニクス	基礎工学実験	電気回路 II	電気回路 III	卒業研究	特別研究	工学研究	電気機械変換工学 II			
准教授	山崎博之	博士(工学)	電気機器工学・電磁界解析	実験実習	卒業研究	応用計測	電気基礎	電気磁気学 II	電気製図				
准教授	山本昌志	博士(理学)	電磁気学・電磁場のシミュレーション	実験実習	卒業研究	計算機応用	工学研究	情報処理応用	情報理論				
講師	田中将樹	博士(工学)	電子デバイス	実験実習	工学研究	卒業研究	半導体工学	電子デバイス工学	光通信工学	ものづくり工作実習	オプトエレクトロニクス		
助教	伊藤桂一	工学修士	電子計測工学、電子計測	実験実習	ものづくり工作実習	基礎工学実験	卒業研究	電気製図	電子回路	論理回路	ソフトウェア工学	工学研究	
助教	竹下大樹	博士(工学)	コンピュータグラフィックス	実験実習	工学研究	卒業研究	情報処理基礎						
非常勤	佐藤正志		(秋田大学工学資源学部 准教授)	高電圧工学									
非常勤	五十嵐 一		(北海道大学大学院情報科学研究科 教授)	特別講義									
非常勤	今野和彦		(秋田大学工学資源学部 教授)	特別講義	音響工学								
非常勤	田島克文		(秋田大学工学資源学部 准教授)	電気応用									
非常勤	佐藤 忠		(秋田大学工学資源学部 教授)	電気材料									
非常勤	鈴木雅史		(秋田大学工学資源学部 准教授)	電気材料									

【物質工学科】

職名	氏名	学位	専門分野(非常勤は所属)	本科1	本科2	本科3	本科4	本科5	本科6	本科7	本科8	本科9	本科10
教授	船山 齊	博士(工学)	反応工学	物質工学序論	化学工学	化学工学実験	基礎研究	反応工学	卒業研究				
教授	須川 浩	理学博士	高分子化学	物質工学序論	物理化学	高分子科学	物質循環工学	物理化学実験	基礎研究	有機材料工学	卒業研究	有機合成化学	
教授	岡村遼夫	博士(農学)	応用微生物	生物化学	基礎研究	遺伝子工学	培養工学	生物工学実験	卒業研究				
准教授	豊嶋幸子		有機合成化学	化学I	物質工学基礎実験	分析化学	分析化学実験	基礎研究	卒業研究				
准教授	野坂 肇	博士(工学)	無機化学	無機化学	物理化学	無機化学実験	基礎研究	卒業研究					
准教授	石塚真治	博士(理学)	表面化学	工作実習	物質工学基礎実験	有機化学	有機化学実験	機器分析	基礎研究	物質工学実験	卒業研究		
准教授	西野智路	博士(工学)	反応工学	情報処理	物質工学製図	化学工業	物理化学実験	化学工学実験	基礎研究	卒業研究			
准教授	上松 仁	博士(工学)	応用生物工学	生物化学工学	基礎研究	生物工学実験	医薬品工学	タンパク質工学	卒業研究				
准教授	丸山耕一	博士(工学)	無機材料, 磁性材料, 湿式無機質合成	無機化学実験	無機材料工学	無機工業化学	金属材料工学	基礎研究	卒業研究				
助教	佐藤徹雄	博士(工学)	有機金属化学・有機合成化学	有機化学	有機化学実験	有機合成化学	物質工学実験	有機合成化学特論	基礎研究	卒業研究			
助教	野中利順弘	博士(工学)	資源循環工学, 化学工学, 無機化学	無機化学	分析化学実験	機器分析	物質工学実験	基礎研究	卒業研究	環境システム特別研究			
非常勤	後藤正治		(秋田大学名誉教授)	品質管理									
非常勤	後藤 猛		(秋田大学工学資源学部 准教授)	応用微生物学									
非常勤	伊藤俊彦		(本校元教授)	有機工業化学									
非常勤	三浦公久		(秋田大学工学資源学部 准教授)	機械工学概論									
非常勤	田子 真		(秋田大学工学資源学部 准教授)	機械工学概論									
非常勤	昌子智由		(秋田大学工学資源学部 講師)	情報処理									
非常勤	菅原英一		(本校元助教)	電気工学概論									
非常勤	傅井 栄		(本校元教授)	化学I	化学熱力学								
非常勤	徳光直樹		(本校元教授)	環境工学									

【環境都市工学科】

職名	氏名	学位	専門分野(非常勤は所属)	本科1	本科2	本科3	本科4	本科5	本科6	本科7	本科8	本科9	本科10
教授	羽田守夫	工学博士	環境工学	工作実習	環境都市工学実験実習	環境衛生工学	都市環境工学	環境アセスメント	基礎研究	卒業研究			
教授	折田仁典	博士(工学)	地域計画学	工作実習	測量学	計画数理	都市計画	基礎研究	卒業研究				
教授	対馬雅己	工学博士	地盤工学	測量学	環境都市工学実験実習	基礎研究	卒業研究	地盤工学					
教授	堀江 保	博士(工学)	構造力学	構造力学	環境都市工学実験実習	基礎研究	卒業研究						
准教授	佐藤 悟	博士(工学)	衛生工学	基礎設計演習	環境水理学	環境都市工学実験実習	基礎研究	卒業研究	河川工学				
准教授	櫻田良治	博士(工学)	コンクリート工学	材料学	鉄筋コンクリート構造学	環境都市工学実験実習	設計製図	基礎研究	卒業研究				
准教授	水田敏彦	博士(工学)	地震防災学	建築一般構造学	鋼構造学	耐震工学	設計製図	基礎研究	卒業研究	基礎設計演習	環境都市工学実験実習		
准教授	恒松良純	博士(工学)	建築計画	意匠設計	環境都市デザイン論	建築史	基礎研究	卒業研究	環境都市デザイン演習I・II	基礎設計演習II			
准教授	金 主 睦	博士(工学)	環境工学	情報処理I	情報処理II	基礎生態工学	緑化保全工学	環境都市工学実験実習	基礎研究	卒業研究			
助教	日野 智	博士(工学)	土木計画学	環境都市工学実験実習	卒業研究	基礎設計演習I	基礎研究	計画数理	交通工学				
助教	角 哲	博士(工学)	建築史・建築設計	環境都市デザイン演習I	情報処理I	意匠設計	基礎研究	卒業研究	環境都市工学実験実習				
非常勤	阿部 縁		(秋田県建設交通部道路課 技師)	材料学									
非常勤	淡路孝次		((株)クリエイティブ代表取締役)	環境都市デザイン演習I									
非常勤	森 敏雄		(応用地質株式会社東北支社秋田支店長)	施工管理工学									
非常勤	長谷部 薫		(秋田大学工学資源学部 准教授)	構造力学									
非常勤	佐々木貴信		(秋田県立大学木材高度加工研究所 講師)	構造力学									
非常勤	伊藤恭一		((有)伊藤建築事務所代表取締役)	建築施工論									
非常勤	加藤一成		(加藤一成計画事務所所長)	建設法規論									

(出典 平成19年度学生便覧から作成)

資料3-1-②-3 「各学科の学位取得および企業経験者の配置状況」

学 科 名	学位取得者数		企業経験者数	全教員数
	修士	博士		
機 械 工 学 科	2	7	5	12
電 気 情 報 工 学 科	1	9	4	11
物 質 工 学 科		10	2	11
環 境 都 市 工 学 科		11	2	11
計	3	37	13	45

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的を達成するため、その教育課程は時代の要請に見合った編制となるよう適宜見直され、これに対する教員配置についても、そのカリキュラムの内容を専門とする教員が配置されている。

専門科目担当教員の構成は、高等専門学校設置基準の要件を満たしつつ、各教員の専門分野を考慮しバランス良く配置している。また、本校が目指す人材像「生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力を有する実践的技術者」を養成するために、学位取得者、企業経験者を各学科に複数配置するなど、教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員を適切に配置しているといえる。

**観点 3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

本校では、生産システム工学専攻、環境システム工学専攻の2専攻を設置している。専攻科の一般科目では、より深い一般基礎知識を教授するために、修士または博士の学位取得者を専門分野と担当授業科目に対応させ、適切に配置している。また、専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果「(2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述)・討論し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。」の実現のために英語を必修化するほか、一般科目の授業科目においてもその重要性を考慮し、適任の教員を配置している(資料3-1-③-1「専攻科の一般科目および専門共通科目担当教員の専門分野と担当授業科目」)。

また、専門科目においても担当授業科目と教員の専門分野とに対応させて適切に配置し、専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果「(1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。」および「(3) 複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を修得する。」の達成のために、企業経験のある教員を含み、専門科目担当教員を適切に配置している(資料3-1-③-2「専攻科の専門専攻科目担当教員の専門分野と担当授業科目」)。さらに、特別研究を指導するため、博士の学位を有し、十分な研究実績を持つ教員を特別研究指導教員として配置している(資料3-1-③-3「特別研究指導教員の学位および研究テーマ」)。

なお、本校教員の専門分野以外の授業科目については、秋田工業高等専門学校非常勤講師採用基準(前述資料3-1-①-3)に基づき、非常勤講師を採用している。

以上のことから、専攻科の教育の目的に照らして専門分野と担当授業科目に対応させ、専攻科の授業科目担当教員を適切に配置している。

## 資料 3 - 1 - ③ - 1 「専攻科の一般科目および専門共通科目担当教員の専門分野と担当授業科目」

## 【一般科目】

職名	氏名	学位	専門分野	専攻科1	専攻科2	専攻科3
教授	手島邦夫	博士(文学)	日本語学・日本語史	日本文化論		
教授	成田文雄	博士(理学)	微分幾何学	応用数学		
教授	岡村澄夫	博士(農学)	応用微生物	環境科学		
教授	羽田守夫	工学博士	環境工学	環境科学		
准教授	小林 貢	修士(文学)	英文学・英語教育学	応用英語Ⅱ		
准教授	金子 淳	博士(学術)	アメリカ文学・ドイツ文学	応用英語		
准教授	菅原隆行	博士(情報科学)	英語学(生成文法理論・語彙意味論)	応用英語Ⅰ		
講師	長井栄二	博士(文学)	ドイツ近代史	社会経済史		

## 【専門共通科目】

職名	氏名	学位	専門分野	専攻科1	専攻科2	専攻科3
特任教授	柳原昌輝	博士(工学)	画像計測・絶縁材料	システム情報工学		
教授	大上哲郎	博士(工学)	材料力学、塑性加工	応用力学		
教授	成田 章	理学博士	物性物理学	固体物性論		
教授	落合雄二	博士(工学)	精密加工, 超精密加工・生産工学・環境配慮生産技術	生産システム工学		
准教授	上田 学	博士(理学)	原子核理論	熱・統計力学	量子力学	
准教授	石塚眞治	博士(理学)	表面化学	量子力学		
講師	上林一彦	博士(理学)	物性物理	エネルギー材料科学		

(出典 平成 19 年度授業時間割表から作成)

## 資料 3-1-③-2 「専攻科の専門専攻科目担当教員の専門分野と担当授業科目」

## 【生産システム工学専攻】

職名	氏名	学位	専門分野(非常勤は所属)	専攻科1	専攻科2	専攻科3
教授	佐々木 章	博士(工学)	熱工学	熱移動論	数値熱工学	
教授	落合雄二	博士(工学)	精密加工, 超精密加工・生産工学・環境配慮生産技術	超精密加工学		
教授	茂木良平	博士(工学)	計測工学	振動工学		
特任教授	柳原昌輝	博士(工学)	画像計測・絶縁材料	図形・画像工学		
教授	宮田克正	工学博士	アンテナ・電磁界解析	電磁波工学		
教授	浅野清光	工学博士	電子工学・表面科学・真空工学・超伝導工学・加速器科学・マイクロ波	電子物性		
講師	田中将樹	博士(工学)	電子デバイス	オプエレクトロニクス		
教授	成田 章	博士(理学)	物性物理学	磁気工学		
准教授	山崎博之	博士(工学)	電気機器工学・電磁界解析	エネルギー変換工学	電気機器学特論	
准教授	山本昌志	博士(理学)	電磁気学・電磁場のシミュレーション	電気磁気学特論		
非常勤	伊藤 惇		(本校元教授)	高速流体力学		

## 【環境システム工学専攻】

職名	氏名	学位	専門分野(非常勤は所属)	専攻科1	専攻科2	専攻科3
教授	船山 齊	博士(工学)	反応工学	反応工学特論	分離工学	
教授	須川 浩	理学博士	高分子化学	物質循環工学		
准教授	野坂 肇	博士(工学)	無機化学	無機材料論		
准教授	上松 仁	博士(工学)	応用生物工学	有機合成学特論		
教授	折田仁典	博士(工学)	地域計画学	環境地域計画学		
教授	対馬雅己	工学博士	地盤工学	環境地盤工学		
教授	堀江 保	博士(工学)	構造力学	複合構造学		
准教授	櫻田良治	博士(工学)	コンクリート工学	コンクリート工学特論		
准教授	水田敏彦	博士(工学)	地震防災学	防災システム工学		

(出典 平成 19 年度授業時間割表から作成)



## 資料3-1-③-3 「特別研究指導教員の学位および研究テーマ」

## 【生産システム工学専攻】

教員名	学位	研究テーマ
落合雄二	博士(工学)	・超精密研磨加工の加工表面特性に関する実験的研究 ・極小管内面の高能率仕上げ法の開発
茂木良平	博士(工学)	・前方横断速度の超音波による測定 ・超音波流量計の圧力損失の測定
大上哲郎	博士(工学)	・高強度鋼板の角筒深絞り成形のシミュレーション ・チタン合金の角筒深絞り成形のシミュレーション
木澤 悟	博士(工学)	・劣駆動ロボットの制御に関する研究 ・3層積層板の振動減衰特性に関する研究
小林義和	博士(工学)	・水中振動システムの最適設計に関する研究 ・セミ・アクティブコントロールシステムのための可変型ばね、ダンパの設計に関する研究
岡本正人	博士(工学)	・水面に打ち降ろした板に働く流体力の研究 ・低レイノルズ数における翼の3次元空力特性の研究
宮田克正	工学博士	・誘電体装荷小型平面アンテナの試作 ・マイクロ波帯コンパクトレンジの構築およびその評価に関する研究
浅野清光	工学博士	・可視光応答型光機能性ナノ薄膜の開発と応用 ・電気的特性によるオーミック電極ナノ薄膜/ワイドギャップ半導体接触界面の研究
高橋身佳	工学博士	・永久磁石式同期発電機及び電動機に関する研究 ・電気系統および電気機器の高調波低減に関する研究
安東 至	博士(工学)	・交流チョッパを用いた電解コンデンサレス単相無停電源装置の開発 ・高効率電力回生形三相可変電子負荷装置の開発
山崎博之	博士(工学)	・PAM方式極数切換誘導電動機の等価回路による特性算定法に関する研究 ・高次切換型PAM方式極数切換誘導電動機の固定子コイル巻線の研究
山本昌志	博士(理学)	・有限積分法による時間領域の電磁場シミュレーションの研究 ・粒子法による加速空洞内の電磁場と荷電粒子の相互作用の研究
田中将樹	博士(工学)	・液晶を用いたミリ波制御デバイスに関する研究 ・液晶・高分子複合材料による回折光学素子に関する研究
成田 章	理学博士	・固体における磁気光学効果に関する理論的研究 ・バンド計算と固体内の電子状態に関する理論的研究

## 【環境システム工学専攻】

教員名	学位	研究テーマ
船山 齊	博士(工学)	・光殺菌に及ぼす超音波照射の影響に関する研究 ・光殺菌に及ぼす装置材料の影響
岡村 澄夫	農学博士	・ <i>Bacillus subtilis</i> が生産する抗菌物質について ・オゾンガス殺菌によって生成する油脂分解物の変異原性
野坂 肇	博士(工学)	・鉛合金アノードに及ぼす電流密度変化の影響 ・鉛へのマンガンの合金化とそのアノード挙動
石塚 眞治	博士(工学)	・金属チタン表面の極薄酸化膜形成過程に関する研究 ・単結晶シリコン表面の初期酸化過程に関する研究
西野 智路	博士(工学)	・酸化物セラミックスの反応プロセス解析に関する研究 ・機能性多孔質セラミックスの調製と微細構造制御
上松 仁	博士(工学)	・産業上有用な酵素の探索研究 ・複合微生物系によるリグニンの生分解
羽田 守夫	工学博士	・八郎湖流入河川の水質変化の把握と水利用がもたらす水質への影響 ・八郎湖の水質変化とその変動要因に関する基礎的研究
折田 仁典	博士(工学)	・救急医療活動における問題の構造化に関する研究 ・「道の駅」の整備に関する調査研究
対馬 雅己	工学博士	・高有機質土地盤の沈下変動に及ぼす繰返し圧密・繰返し時間の影響 ・小型一面せん断試験装置による高有機質土の変形・強度特性に関する研究
堀江 保	博士(工学)	・自然環境下におけるプレストレス木床版橋の機能特性 ・環境問題に適応する実用的な木橋の検討
佐藤 悟	博士(工学)	・秋田県における大気汚染の状況とその特徴について ・秋田市における降雨水質の特徴と大気汚染との関連について
桜田 良治	博士(工学)	・高機能連続繊維補強材を用いた鉄筋コンクリート梁の力学特性 ・コンクリートの空隙構造と塩分浸透性の評価に関する研究
水田 敏彦	博士(工学)	・地理情報システムを利用した地震災害危険度評価に関する研究 ・地盤環境に着目した微動特性に関する研究
恒松 良純	博士(工学)	・秋田の中心市街地における歩行空間の雰囲気に関する研究 ・秋田の都市景観に関する調査研究

(出典 平成 19 年度専攻科授業計画, 専攻科特別研究教授要項から作成)

(分析結果とその根拠理由)

本校の専攻科課程では、一般科目、専門科目ともに、それぞれ専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果を達成させるために、博士の学位取得者や企業経験のある教員を中心に配置するほか、十分な研究実績を持つ教員を特別研究指導教員として配置するなど、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員を適切に配置しているといえる。

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

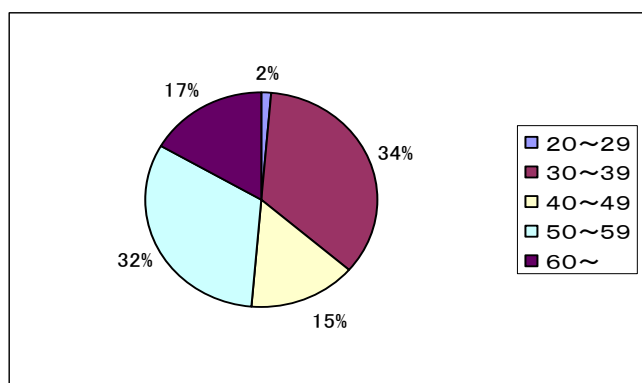
（観点に係る状況）

観点1-1-①で述べている具体的な教育目標の達成を目指した教育活動を適切に行うために、組織を構成する人員の特徴は考慮されるべきである。教員の年齢構成については、資料3-1-④-1「教員年齢構成」からわかるように、特定の範囲の年代に著しく偏ることのない構成となっている。なお、教員採用には原則として公募制を導入しており、募集の際には応募資格の一つとして年齢の均衡を図るための条件（年齢）を提示している（後述資料3-2-①-3「教員公募サンプル」参照）。

また、教員組織の活動をより活発なものとし、質の向上を図るべく、秋田工業高等専門学校教員顕彰要項（資料3-1-④-2）に基づき、顕著な業績を上げた教員を「校長賞」として表彰している（資料3-1-④-3）。

教員の学位の取得状況については、資料3-1-④-4のとおりとなっている。

資料3-1-④-1 「教員年齢構成」



【一般科目】

	20～29		30～39		40～49		50～59		60～		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
人文科学系	0	0	3	2	2	0	2	0	0	0	9
自然科学系	0	0	4	1	2	0	3	0	2	0	12
計	0	0	7	3	4	0	5	0	2	0	21

【専門科目】

	20～29		30～39		40～49		50～59		60～		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
機械工学科	0	0	1	0	3	0	5	0	3	0	12
電気情報工学科	1	0	2	0	3	0	3	0	2	0	11
物質工学科	0	0	5	0	0	0	3	0	2	1	11
環境都市工学科	0	0	5	0	0	0	5	0	1	0	11
計	1	0	13	0	6	0	16	0	8	1	45

合計	1	0	23	3	10	0	21	0	11	1	66
----	---	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

（出典 総務課資料）

## 資料3-1-④-2 「秋田工業高等専門学校教員顕彰要項」

## 秋田工業高等専門学校教員顕彰要項

## (目的)

第1 この要項は、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）における学生教育を中心とした分野及び管理運営やFD活動において、顕著な業績を上げている教員を顕彰するため、必要な事項を定めるものとする。

## (顕彰基準)

第2 本校における教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等において顕著な功績が認められる者及び本校の名誉となり、又は教職員の模範となる功労があった者とする。

## (賞の名称)

第3 賞の名称は、秋田工業高等専門学校校長賞（以下「校長賞」という。）とする。

## (受賞者の決定)

第4 受賞者の決定は、校長が行う。

## (校長賞の授与)

第5 校長は、受賞者に別紙様式1による校長賞を授与する。

## (副賞)

第6 校長は、第5の校長賞に併せて副賞を添えることができるものとし、副賞については、その都度校長が定める。

## (顕彰の時期)

第7 顕彰の時期は、原則として4月開催の教員会議の席上で行う。

## (事務)

第8 秋田工業高等専門学校教員顕彰（以下「教員顕彰」という。）に関する事務は、総務課において処理する。

## (補則)

第9 この要項に定めるもののほか、教員顕彰に関し必要な事項は、校長が定める。

## 附 則

この要項は、平成17年3月3日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

## 附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

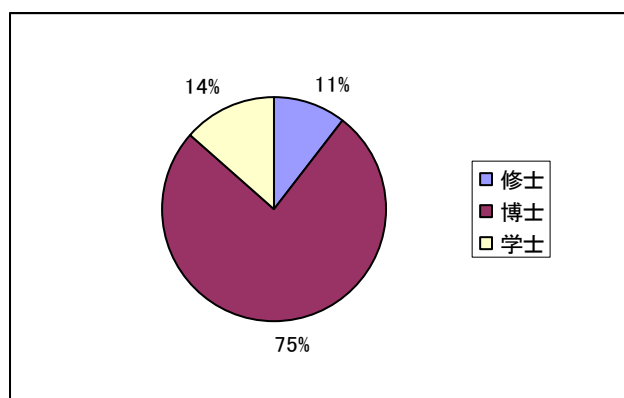
(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料3-1-④-3 「校長賞」

受賞年度	所 属	職 名	氏 名
平成16年度	機械工学科	助教授	土 田 一
	人文科学系	助教授	菅 原 隆 行
平成17年度	機械工学科	教 授	茂 木 良 平
	電気情報工学科	教 授	宮 田 克 正
	物質工学科	助 手	佐 藤 徹 雄
	環境都市工学科	教 授	対 馬 雅 己
平成18年度	機械工学科	助教授	安 藤 正 昭
	電気情報工学科	教 授	柳 原 昌 輝
	物質工学科	助 手	佐 藤 徹 雄
	環境都市工学科	助教授	恒 松 良 純

(出典 総務課資料)

## 資料3-1-④-4 「学位の取得状況」



## 【一般科目】

	学 位		学 士	全教員数
	修 士	博 士		
人文科学系	3	6	0	9
自然科学系	1	7	4	12
計	4	13	4	21

## 【専門科目】

	学 位		学 士	全教員数
	修 士	博 士		
機械工学科	2	7	3	12
電気情報工学科	1	9	1	11
物質工学科	0	10	1	11
環境都市工学科	0	11	0	11
計	3	37	5	45

合 計	7	50	9	66
-----	---	----	---	----

(出典 総務課資料)

## (分析結果とその根拠理由)

年齢構成は各学科等の中で若干の差異はあるものの、いずれも各年代にわたりバランスのとれた構成となっている。教員の採用にあたっては、均衡のある年齢構成となるための条件（年齢）を応募資格の一つに提示し、均衡ある年齢構成が維持されている。

また、顕著な業績を上げた教員を評価・表彰するなど、教員組織の活動のさらなる活発化と、質の向上に取り組んでいる。

なお、学位取得者の割合は、専門学科と自然科学系を合わせると 77.1%が博士取得者である。さらに、人文科学系のそれは 66.6%であるが、修士以上の取得状況で見ると 100%取得者であり、適切な措置が講じられているといえる。

**観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。**

(観点に係る状況)

本校専任教員の任用等(採用・昇任)については、高等専門学校設置基準第11条～14条をふまえ、「秋田工業高等専門学校人事委員会規則」、「秋田工業高等専門学校教員の選考について」を制定し、当該規則により実施・運用している(資料3-2-①-1～2)。

採用は原則として公募によるものとし、公募の必要が生じた時は人事委員会委員長の付託により、当該公募に関する人事専門委員会が設置され、公募の準備を行う。締め切り後、同専門委員会は各応募者の適否を検討し、適任と認める候補者数名を選考のうえ、当該候補者の教育評価および研究評価について審査し、結果を人事委員会委員長に報告する。同委員長はこの報告を受けて第一候補者を決定し、当該候補者との面接を実施し、結果を人事委員会に報告。その後、人事委員会で当該者の採用の可否について審議される。

応募書類には、履歴書のほか、教育・研究実践の業績目録、主要著書・論文の別刷り、高専における教育・研究についての抱負、推薦書(または応募者について所見を求めることができる者の氏名)等の提出を義務付けており、教育上の能力については書類選考および面接の際に総合的に考慮、適切に評価されている(資料3-2-①-3「教員公募サンプル」)。

昇任についても、当該候補者の履歴書、教育・研究実践の業績目録、主要著書・論文の別刷りにより、教育・研究評価について審査している。規則等での整備はされていないが、特に一般科目担当教員の審査にあたっては、分野によって専門科目担当教員と同様の評価がしづらい面もあるため、研究業績のみに偏ることなく、本校における教育活動・役職等についても考慮しつつ、総合的な評価を行っている。

また、非常勤講師の採用については、秋田工業高等専門学校非常勤講師採用基準(前述資料3-1-①-3)に基づき、教務委員会で審議の後、校長の承認を得ている。なお、あらかじめ教務主事と協議することとしており、教育上の能力についても適切に評価されている。

## 資料 3 - 2 - ① - 1 「秋田工業高等専門学校人事委員会規則」

## 秋田工業高等専門学校人事委員会規則

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第18条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校における教員の人事に関する事項を審議するため、秋田工業高等専門学校人事委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 主事
- 三 専攻科長
- 四 学科主任等
- 五 事務部長
- 六 その他校長が必要と認める者

## (審議事項)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教員人事の方針に関する事。
- 二 教員の採用及び昇任に係る選考に関する事。
- 三 その他教員の人事に関する事。

## (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

## (委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

## (専門委員会)

第6条 委員会に人事に関する事項を審査するため専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会は、委員長の付託を受けて、教員の採用及び昇任に係る選考その他教員の人事に関し審査する。

## (専門委員会委員)

第7条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 当該人事に係る学科主任等
- 二 当該人事に係る学科等の教授等 若干人

## (専門委員会委員長)

第8条 専門委員会に委員長を置き、当該人事に係る学科主任等をもって充てる。

2 専門委員会委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。

## (庶務)

第9条 委員会の庶務は、総務課において処理する。

## (雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営上必要な事項は、別に定める。

## 附 則

この規則は、平成13年9月12日から施行する。

## 附 則

この規則は、平成17年3月16日から施行する。

## 附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)



## 資料 3-2-①-2 「秋田工業高等専門学校教員の選考について」

## 秋田工業高等専門学校教員の選考について

平成 13 年 9 月 12 日  
校長裁定

教員の選考については、高等専門学校設置基準及び秋田工業高等専門学校人事委員会規則に基づき、秋田工業高等専門学校の判断と見識により、下記のとおり取り扱うこととする。

## 記

## 1. 教員の選考についての基本的な考え方

- (1) 当該学科等の教育研究に関する現状と将来構想に基づくこと。
- (2) 授業科目及び研究分野を学科等の教育研究構想の中に位置付けて明示すること。
- (3) 教育評価の方法
  - ・ 授業
  - ・ 学生指導
  - ・ 課外活動
  - ・ 教育論文（高専教育，テクノセンター報告等）
  - ・ その他
- (4) 研究評価の方法
  - ・ 研究論文数
  - ・ 研究論文の質（必要があれば学外専門家の意見を聴くことができる。）
  - ・ その他
- (5) 専攻科担当
  - ・ 可能な限り博士の学位を有することが望ましい。
  - ・ その他

## 2. 採用

- (1) 原則として公募によるものとする。
- (2) 専門委員会は、公募内容に対する各応募者の適否を検討し、適任と認める候補者数名を選考の上、当該候補者の教育評価及び研究評価について審査し、その結果を人事委員会委員長に報告する。

## 3. 昇任

専門委員会は、人事委員会委員長からの付託により、当該候補者の教育評価及び研究評価について審査し、その結果を人事委員会委員長に報告する。

## 4. 候補者の決定・報告

人事委員会委員長は、専門委員会からの報告に対して総合的に判断を加え、第一候補者を決定の上、第一候補者に対して人事委員会委員長及び人事委員会により選出された委員による面接を行い、その結果を人事委員会に報告する。

## 5. 採用又は昇任の決定

人事委員会は、候補者選考の可否を審議の上、採用又は昇任を決定する。

## 附 則

この取扱いは、平成 13 年 9 月 12 日から施行する。

## 附 則

この取扱いは、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料3-2-①-3 「教員公募サンプル」

## 教員公募のお知らせ

1. 職名・人員 准教授または助教・1名  
 ※ 准教授:学校教育法の一部改正により平成19年4月1日から置く職で、助教授相当に対応する。  
 助 教:学校教育法の一部改正により平成19年4月1日から置く職で、自ら教育を行うことを主たる職務とする。
2. 所属学科 [物質工学科](#)
3. 担当分野 無機化学・無機材料系関連分野
4. 担当科目 無機化学系科目、無機材料系科目、実験、卒業研究、専攻科特別研究等
5. 応募資格 (1) 博士の学位を有する者  
 (2) 採用時において年齢35歳程度の者  
 (3) 心身ともに健康で、高等専門学校における教育・研究に関心を持ち、クラス担任、クラブ指導および学寮の学生指導等に理解と熱意を持っている者  
 ※ 本校では、他高専との人事交流を行うため、採用後、原則として他高専との間で1~2年程度の交流人事を行う予定になっております。
6. 採用予定日 平成19年4月1日
7. 提出書類 (1) 履歴書(市販の用紙に本人自筆、写真貼付のこと)  
 (2) 個人調書…所定の様式(第1号様式) [MS-Word](#) , [一太郎](#)  
 (3) 著書・論文等一覧(論文、著書、口頭発表、教育機関研究発表、実務実績、各種資格等を項目別に記載)…所定の様式(第2号様式) [MS-Word](#) , [一太郎](#)  
 (4) 主要論文(5編以内)の別刷り(各1部、コピー可)とその概略(それぞれ800字程度)…所定の様式(第3号様式) [MS-Word](#) , [一太郎](#)  
 (5) 着任後の教育・研究についての抱負を1,000字程度にまとめた書面  
 (A4版用紙により作成)  
 (6) 推薦書(様式任意)、又は応募者について参考意見を聞くことができる者2名の氏名と連絡先  
 ※「所定の様式」については、本ホームページから取得のうえ、作成願います。
8. 応募期限 **平成18年10月27日(金) (必着)**  
 ※ 8/14~8/18は[夏季休業](#)期間中のため照会不能となりますので、あらかじめご了承ください。
9. 選考方法 第一次選考 書類審査  
 第二次選考 第一次合格者を対象とした面接  
 (面接予定時期:平成18年11月下旬)
10. 書類提出先 秋田工業高等専門学校庶務課人事係  
 〒011-8511 秋田市飯島文京町1番1号  
 ※ 応募書類を郵送する場合は「書留」とし、封筒に「**物質工学科教員応募書類在中**」と朱書きすること。  
 なお、応募書類は原則として返却いたしません。
11. 問い合わせ先 秋田工業高等専門学校 物質工学科主任 船山 齊  
 (直通) TEL: 018(847)6062 , E-mail: [funayama@ipc.akita-nct.ac.jp](mailto:funayama@ipc.akita-nct.ac.jp)  
 (庶務課人事係) TEL: 018(847)6006 , FAX: 018(857)3191

(第1号様式) 1/2

## 教員選考個人調書

平成 年 月 日現在

① ふりがな 氏名	昭和 年 月 日生( 歳)		② 現住所	〒( - )
	男・女	既婚・独身		
③ 採用後の職名	教授, 助教授, 講師又は助手			⑤ 最終学歴 平成 年 月 日 ○○大学大学院○○課程修了 (指導教官 数)
④ 現職	○○大学△△学部××			⑥ 学位・称号 博士(○○) 平成 年 月 日付取得 ( 大学)
⑦ 学歴及び職歴 の概要	【学歴】 昭和 年 月 ○○大学○○学部入学 昭和 年 月 同 卒業 昭和 年 月 ○○大学大学院 ○○研究科修士課程入学 平成 年 月 同 修了 平成 年 月 ○○大学大学院 ○○研究科博士課程入学 平成 年 月 同 修了			⑧ 資格免許状  (授業科目と関連のあるもの)
	【職歴】 平成 年 月～平成 年 月 ○○研究所研究員 平成 年 月～平成 年 月 ○○研究所主任研究員 平成 年 月～平成 年 月 ○○大学○○学部助手			⑨ 職歴及び 教歴の年数 職歴： 年 月 教歴： 年 月
⑩ 過去の選考等 の状況	(高等専門学校在職者のみ記入ください)			
⑪ 高等専門学校に おける 主事・主事補歴	(高等専門学校在職者のみ記入ください)			
⑫ 上記以外の高等 専門学校におけ る 学生指導歴等	(高等専門学校在職者のみ記入ください)			

(第1号様式) 2/2

氏名	〇〇〇〇	
⑬ 研究歴等	研修歴	
	内地研究等	平成 年 月 日～平成 年 月 日 〇〇大学客員研究員として「〇〇〇〇に関する研究」に従事
	賞 罰	
⑭ 教育・研究上の業績  (企業の各部門における実践を含む)	(教育・研究上、顕著な業績について記入ください)  (大臣賞、学会賞、発見、発明、特許、業界内外又は企業内の技術関係の賞、招待講演、プロジェクトリーダー等企業での各部門における実績を示すもの等)	
⑮ その他特記すべき事項	(学会活動などを学会別・年代順に記載してください)  ① 〇〇学会 ・ 昭和 年 月～昭和 年 月「〇〇学会誌」 ・ 昭和 年 月～昭和 年 月論文審査委員 ② 〇〇学会 ・ 平成 年 月～平成 年 月論文審査委員 ・ 平成 年 月～平成 年 月委員会委員 ③ その他 ・ 平成 年 月～平成 年 月〇〇試験委員会委員	

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

高専における教育を担当するにふさわしい教育上の能力について、然るべき書類審査・面接等、数次に亘る審査を実施し、適切に評価されている。採用応募者、昇任候補者の提出書類についても十分な内容となっている。

また、非常勤講師の採用についても、本校の基準を明確に定めている。

以上のことから、教員の任用（採用・昇任）については、高等専門学校設置基準を満たしつつ、本校規則等により明確かつ適切に定め、適切に運用されているといえる。

観点3-2-②: 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

本校の教育活動に関する評価体制は、「教員本人による自己評価」と「学生による授業評価」の二つの軸で整備されている。前者については、教員業績評価実施要項(資料3-2-②-1)に基づき、所定の様式により教員自ら作成し、校長に提出することにより評価(毎年11月に実施・A～Iの9段階評価)されることとなるが、HおよびI評価された教員には校長が面談を行うこととしている。また、この評価内容については、教員の昇給判定の際に考慮されることとなる。

学生による「授業評価アンケート」は、前述の自己点検・評価実施要項に基づき、平成13年度から年1回実施しており、平成13～15年度の集計結果は、平成16年12月報告の「自己点検・評価報告書」(資料3-2-②-2)に掲載し、また、平成16,17年度の調査結果については、平成18年9月報告の「『学生による授業アンケート』の対応・課題」(資料3-2-②-3)として冊子にまとめて公表している。その評価結果は教員個人と学科・系別に取りまとめ、授業内容の改善に役立てられている。

資料3-2-②-1 「秋田工業高等専門学校教員業績評価実施要項」

秋田工業高等専門学校教員業績評価実施要項

平成18年7月3日  
校長 裁定

(趣旨)

第1条 この要項は、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員の教育水準の向上を図るため、教育研究活動等の状況について、本校教員の業績評価（以下「業績評価」という。）を行うために必要な事項を定める。

(業績評価の項目)

第2条 業績評価の項目は、別表（様式1号、様式2号）のとおりとする。

(実施方法)

第3条 業績評価は、教員が現在行っている教育研究活動等について、教員活動報告書（様式1号）及び教員の活動計画・報告書（様式2号）に基づき、校長が実施する。

2 業績評価の方法は、教員の職名別に9段階（A, B, C, D, E, F, G, H, I）に区分して評価する。

(実施時期)

第4条 業績評価は、毎年11月に実施する。

(結果通知)

第5条 校長は、業績評価を実施したときは、その結果を教員に通知する。

2 業績評価の結果、H及びIに評価された教員は、校長が面談を行うものとする。

(異議申立)

第6条 業績評価の結果について、教員は前条第一項の通知を受けてから2週間以内に校長へ異議を申し立てることができる。

(雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか、業績評価の実施に関し必要な事項は、校長が定める。

附 則

この要項は、平成18年7月3日から施行する。

様式1号

## 教員活動報告書

(平成 年 月～平成 年 月)

提出締切：平成 年 月 日 ( )

学科等名	職名	氏名
項目	記入欄	
①役職		
②委員会		
③授業科目		
④クラブ指導		
⑤ロボコン、プロコン、デザコン		
⑥研究活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究論文</li> <li>・総説、解説</li> <li>・特許</li> <li>・口頭発表</li> <li>・科研費</li> <li>・共同研究</li> <li>・受託研究</li> <li>・奨学寄付金</li> <li>・受賞</li> </ul>	
⑦研修		
⑧外部委員会委員		
⑨学協会委員会委員 (支部含む)		
⑩入学関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・編入学試験問題担当</li> <li>・専攻科入学試験問題担当</li> <li>・予備問題担当</li> </ul>	
⑪その他		



様式 2 号

## 平成 年度 教員の活動計画・報告書

活動計画書の提出：6月中旬  
 活動報告書の提出：翌年の4月末

学科名	職名	氏名
活動の計画 (本表一枚に簡潔に簡条書きに記載してください。)		活動の報告 (計画と対応して記載してください。)
【教育】		
【課外活動支援】		
【クラス担任教員はクラス運営】		
【主事・主事補、館長・館長補、各センター長と学科主任、 学系主任、専攻主任の教員は担当運営】		
【研究】		
【その他】		

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料3-2-②-2 「自己点検・評価報告書（目次）」

## 目次

はじめに .....	1
秋田工業高等専門学校の概要 .....	3
1. 設立の目的と教育理念・教育目標 .....	3
2. 沿革 .....	5
3. 組織図 .....	7
<b>第1部 教育および研究</b>	
<b>第1章 教育・研究</b>	
1-1 教育方針，教育目標 .....	9
1-2 教育内容および水準 .....	9
1-2-1 教養教育 .....	9
1-2-2 専門教育 .....	13
1-2-3 専攻科教育 .....	16
1-3 学生の受入れ .....	18
1-3-1 募集活動 .....	18
1-3-2 学科における入学者選抜 .....	20
1-3-3 専攻科における入学者選抜 .....	23
1-4 教育指導 .....	25
1-4-1 教養教育における教育課程，教育方法，教育環境 .....	25
1-4-2 専門教育における教育課程，教育方法，教育環境 .....	30
1-4-3 専攻科教育における教育課程，教育方法，教育環境 .....	35
1-4-4 学系における創造教育 .....	36
1-4-5 学科における創造教育 .....	37
1-4-6 成績評価法 .....	40
1-4-7 学系における学外教育活動 .....	43
1-4-8 学科における学外教育活動 .....	44
1-4-9 教育施設 .....	47
(図書館，情報処理センター，実習工場，工業技術実習センター)	
1-5 研究活動 .....	51
1-5-1 学系における研究活動状況および教育への還元 .....	51
1-5-2 学科における研究活動状況および教育への還元 .....	51
1-5-3 地域共同テクノセンター .....	54
1-5-4 教員の学位取得状況 .....	71
1-5-5 教員の研修状況 .....	71

<b>第2章 学生支援</b> .....	72
2-1 教務関係 .....	72
2-1-1 学習指導 .....	72
2-1-2 進学指導 .....	72
2-1-3 留学生指導 .....	73
2-2 厚生補導関係 .....	74
2-2-1 就職指導 .....	74
2-2-2 生活指導 .....	75
2-2-3 経済支援 .....	78
2-2-4 健康相談 .....	79
2-3 学生寮関係 .....	80
<b>第3章 地域社会との連携</b> .....	83
3-1 一日体験入学 .....	83
3-2 公開講座 .....	83
3-3 インターンシップ .....	84
3-4 高専間、大学－高専間交流 .....	85
3-5 国際交流 .....	85
3-6 学校施設開放状況 .....	87
3-7 広報 .....	87
<b>第4章 業務運営、財務内容、社会への説明責任</b> .....	89
4-1 外部からの教育研究資金等 .....	89
4-2 情報公開体制 .....	90
4-3 施設設備の整備 .....	90
4-3-1 学系における施設設備の整備 .....	90
4-3-2 学科における施設設備の整備 .....	91
4-3-3 厚生補導関係における施設設備の整備 .....	93
4-3-4 学生寮関係における施設設備の整備 .....	94
4-4 学生の安全 .....	94
<b>第2部 「学生の授業評価」アンケート調査報告書</b> .....	95
<b>第3部 独立行政法人化における中期目標・中期計画</b> .....	117

(出典 自己点検・評価報告書－現状と課題(第3回報告書)－)

## 資料3-2-②-3 『学生による授業アンケート』の対応・課題（まえがき）

## まえがき

秋田高専における授業アンケート（講義科目、体育科目、実験・実習科目）は平成13年度から実施しました。平成13年度、14年度と15年度に行った授業アンケートの集計結果は、平成16年12月に報告した「自己点検・評価報告書—現状と課題—」の第2部に学生の授業評価アンケート調査報告書としてまとめて公表しました。授業アンケート調査の19項目の質問事項に対する学生のアンケート結果の全体像については、学科・学系毎にまとめて配布しました。

平成16年度と平成17年度の授業アンケート調査結果をまとめるに当り、質問事項Q1からQ19については、平成13年度以降の5年間に渡る結果と比較する上で、従来と同じ方法で集計結果をとりまとめました。その上、今回は質問事項Q20の「授業を受けての感想、反省について（自由記述）」に焦点を当て、全授業科目（講義、体育、実験・実習）について授業科目担当教員に「学生が記述した内容についての共通意見」を3項目程度とり上げていただき、平成16年度と平成17年度の両年において「学生からあげられた主な要望、評価、感想、反省」に対して「教員の対応・課題」をまとめていただき、「学生による授業アンケートの対応・課題」として学内用報告書を作成しました。

授業科目ごとの担当教員に対して学生からあげられた要望、評価、感想、反省などは数多く多岐に渡っていますが、今回は担当教員が主な内容を3項目程度とりあげ、それらについての対応・課題をまとめていただきました。今回、平成16年度と平成17年度のアンケート結果を冊子としてまとめ、全教員に配布致します目的は、学生の多岐に渡るアンケート結果を認識していただき、授業を進めていく上で、大いに役立ててもらうことにあります。

学生からの授業アンケートを読みますと、平成16年度における要望が平成17年度にはクリアしている場合と、平成17年度にも同じ要望があげられている場合もあります。授業は教員と学生の対話・協同作業で授業内容、教え方、学生の理解度などが向上していくことを考えますと、教員各位が本冊子を読まれ、自分以外の教員の「学生による授業アンケート」の対応・課題を十分に参考とし、授業内容に創意・工夫をされて、教育力の向上をめざしていただければ本冊子を作成した意図が生かされるものと考えています。

秋田高専の教育力の向上に向かって更なる努力をお願いします。

平成18年9月

秋田工業高等専門学校長  
島田昌彦

（出典 「学生による授業アンケート」の対応・課題 平成16年度・平成17年度版）

（分析結果とその根拠理由）

教育活動に関する評価体制についても、「教員本人による自己評価」と「学生による授業評価」の2つの軸で整備されており、適切な評価体制になっているといえる。

観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

教育課程を適切に展開するために、本校は事務部組織図(資料3-3-①-1)および技術教育支援センター構成図(資料3-3-①-2)に示す、事務職員および技術職員が配置されている。技術職員は、これまで実験実習係として学生課に属していたが、本校において編成された教育課程について、より機能的に支援することと、技術教育支援職員の能力・資質のさらなる向上を目指し、平成19年度から技術教育支援センターに配置された。(資料3-3-①-2～3「技術教育支援センター構成図」,「技術教育支援センター規則」)。

本校の技術職員は、平成17年度から技術教育研究発表会(資料3-3-①-4)を開催するなど、資質の向上に努めている。なお、科学研究費補助金を獲得している優秀な技術職員もいる。

資料3-3-①-1 「事務部組織図」

	職名	氏名		
	事務部長	佐藤 義克		
総務課	総務課長	長代 健児		
	課長補佐(総務担当)	石川 清高		
	課長補佐(財務担当)	栗澤 隆夫		
	総務係	佐藤 尚洋		
		大崎 鶴子		
		藤原 美奈子		
	人事係	高橋 朋子		
		高橋 篤志		
		石井 由香		
	学術情報係	学術情報係長	加藤 浩貴	
		学術情報主任	山本 祥子	
		事務補佐員	佐々木 史子	
	財務係	財務係長	原岡 栄喜	
		一般職員	藤田 大和	
	出納係	出納係長	宇佐美 秀樹	
		出納主任	斎藤 恵美子	
		事務補佐員	中川 理子	
調達施設係	調達施設係長	秋元 栄一		
	調達施設主任	熊澤 聡美		
	一般職員	日景 玄望		
	技術職員	杉 潤		
企画室	企画室長	石川 清高	(総務課長補佐兼務)	
	企画係長	伊藤 俊		
	事務補佐員	沓沢 しのぶ		
学生課	学生課長	工藤 美明		
	課長補佐	金谷 栄光		
	学生支援係	学生支援係長	佐々木 次男	
		一般職員	鈴木 理恵子	
		看護師	若木 宗子	
		事務補佐員	浅野 志生	
	教務係	教務係長	佐々木 繁男	
		一般職員	丸山 貴生	
		一般職員	高橋 良輔	
	寮務係	寮務係長	武藤 幸男	
		栄養士	猿田 幸啓	

(出典 総務課資料)

## 資料3-3-①-2 「技術教育支援センター構成図」

職名	氏名
センター長	成田文雄
技術長	樋渡久孝
技術専門員	堅固山幸治
生産システム支援グループ長	
技術専門職員	足利一司
技術専門職員	杉沢輝雄
技術専門職員	齋藤英昭
技術職員	松田英利
技術職員	岡部克利
技術職員	阿部慶子
技術補佐員	鎌田勝治
環境システム支援グループ長	
技術専門職員	上杉良市
技術専門職員	米谷裕
技術専門職員	伊藤智恵
技術職員	花田秋
技術職員	大塚恵
技術補佐員	伊藤正治

(出典 総務課資料)

## 資料 3 - 3 - ① - 3 「技術教育支援センター規則」

## 秋田工業高等専門学校技術教育支援センター規則

(設置)

第1条 秋田工業高等専門学校学則第52条の4第2項の規定に基づき、秋田工業高等専門学校技術教育支援センター（以下「技術教育支援センター」という。）の組織運営についてはこの規則の定めるところによる。

(目的)

第2条 技術教育支援センターは、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究支援体制の充実に資するため、本校の技術に関する専門的業務を円滑かつ効率的に処理し、技術教育支援職員の能力及び資質向上を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 技術教育支援センターは、技術教育支援センター長（以下「センター長」という。）、技術長、支援グループ長、技術専門員、技術専門職員及び技術職員をもって組織する。

2 技術教育支援センターに、次のグループを置く。

- (1) 生産システム支援グループ  
(機械・電気電子・情報系)
- (2) 環境システム支援グループ  
(物質・化学・環境系)

(業務)

第4条 技術教育支援センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 学生の実験・実習及び卒業研究・特別研究等における技術支援に関すること
- 二 教員の教育研究活動に伴う技術支援に関すること
- 三 情報処理センター、地域共同テクノセンター、工業技術実習センター及び実習工場への技術支援に関すること
- 四 地域連携活動に伴う技術支援に関すること
- 五 公開講座、体験入学等の学校行事への技術支援に関すること
- 六 技術の継承及び保存、技術向上並びに技術教育支援のための技術研修に関すること
- 七 実験室等の共通機器等の保守・管理及び災害事故防止に関すること
- 八 その他技術教育支援センターの目的達成のための必要な事項に関すること

(センター長)

第5条 センター長は、本校教員のうちから校長が任命する。

2 センター長は、技術教育支援センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員が生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(技術長)

第6条 技術長は、技術専門員及び技術専門職員のうちから校長が任命する。

2 技術長は、上司の命を受け、技術教育支援センターの業務の総括及び業務に関する企画調整を行う。

3 技術長は、技術教育支援センターの職員の職務遂行に必要な知識及び技術等を修得させ、職員の能力及び資質等を向上させる内容の研修に努めなければならない。

(支援グループ長)

第7条 支援グループ長は、技術専門職員のうちから校長が任命する。

2 支援グループ長は、上司の命を受け、当該グループの業務に関して必要な連絡調整を行う。

3 支援グループ長は、当該グループに所属する職員の能力及び資質の向上に努めなければならない。

(運営委員会)

第8条 技術教育支援センターの運営及び業務を円滑に行うため、秋田工業高等専門学校技術教育支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、技術教育支援センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

資料3-3-①-4 「技術教育研究発表会」

平成18年度 第2回技術教育研究発表会プログラム

日 時 平成18年9月26日(火) 13:30~15:10

場 所 本校テクノコミュニティ

司会進行 樋 渡 久 孝

1. 換 撈  
校 長 島 田 昌 彦
2. 技術研究発表(発表10分、質疑応答5分)
  1. 技術専門職員 齋 藤 輝 雄  
マシニングセンタ実習に関する指導の現状
  2. 技術専門職員 上 杉 良 市  
物理実験の現状と取り組み
  3. 技術専門職員 伊 藤 恵  
学生実験の効率化にむけた実験課題の検討
  4. 技術職員 神 智 也  
秋田高専の迷惑メール対策について
  5. 技術専門職員 進 藤 錦 悦  
定年退職に当たり
3. 総 評  
教務主事 成 田 文 雄

(出典 総務課資料)



(分析結果とその根拠理由)

効率的な人員配置により、教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置され、少人数ながらも水準の高い教育支援体制が保たれているといえる。

また、技術職員は技術発表会を開催するなど、資質の向上に努めており、科学研究費補助金を獲得している優秀な技術職員もいる。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育活動に関する評価体制について、「教員本人による自己評価」と「学生による授業評価」の2つの軸で整備されており、適切な評価体制になっている。

(改善を要する点)

特になし。

## (3) 基準3の自己評価の概要

一般科目担当教員および専門科目担当教員の構成は、高等専門学校設置基準の要件を満たしつつ、本校教育課程の編成に照らしてバランス良く配置している。

一般科目担当教員は、数学、物理、化学に重点的に配置するなど、本校の教育目標に沿った教員配置を行っている。

専門科目担当教員は、本校が目指す人材像「生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力を有する実践的技術者」を養成するために、学位取得者、企業経験者を各学科に複数配置している。

本校の専攻科課程では、一般科目、専門科目ともに、それぞれ専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果を達成するために、博士の学位取得者や企業経験のある教員を中心に配置するほか、十分な研究実績を持つ教員を特別研究指導教員として配置している。

教員の年齢構成は各学科等の間で若干の差異はあるものの、いずれも各年代にわたりバランスのとれた構成となっている。教員の採用にあたっては、均衡のある年齢構成となるための条件（年齢）を応募資格の一つに提示し、均衡ある年齢構成が維持されている。また、顕著な業績を上げた教員を評価・表彰するなど、教員組織の活動のさらなる活発化と、質の向上に取り組んでいる。

高専における教育を担当するにふさわしい教育上の能力について、然るべき書類審査・面接等、数次に亘る審査を実施し、適切に評価されている。また、非常勤講師の採用についても、本校の基準を明確に定めている。

教育活動に関する評価体制についても、「教員本人による自己評価」と「学生による授業評価」の2つの軸で整備されており、適切な評価体制になっている。

効率的な人員配置により、教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置され、少人数ながらも水準の高い教育支援体制が保たれているといえる。また、技術職員は技術発表会を開催するなど、資質の向上に努めている。

## 基準4 学生の受入

## (1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点に係る状況）

理数系の科目に興味を持ち、ものづくりに関心があり、工学に対する勉学意欲と適性を持った学生の受け入れのために、本校ではホームページに記載しているとおおり、アドミッション・ポリシーを明確に定めている（資料4-1-①-1）。

アドミッション・ポリシーはホームページのほか、募集要項、学校案内(中学生の皆さんへ)等の冊子にも記載しており、教職員にも周知を図っている。

アドミッション・ポリシーの本校教職員への周知の状況を、アンケートにより確認した結果、常勤の教員の認識率は100%であり、内85%が内容をほぼ理解していると回答している。職員では認識率は82%であり、その内約60%が内容をほぼ理解しているといえる。しかし、非常勤講師では認識率が下がり40%台に留まったため、今後のより一層の周知の努力を継続して行う必要がある。（資料4-1-①-2）。

## 資料4-1-①-1 「アドミッション・ポリシー（準学士課程および専攻科課程）」

本校では、次のような人を求めています。

本科のアドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

1. 理数系の科目に興味のある人
2. 新しいことを知りたい、理解したいという学習意欲があり、自ら新しいことを考え出すなど、創造性豊かな人
3. 自ら新しいことに取り組むなど、企画力に富みチャレンジ精神旺盛な人
4. ものづくりに関心がある人

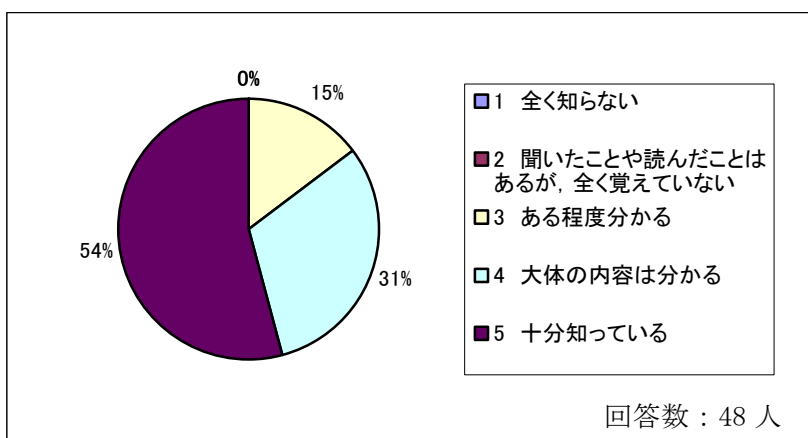
専攻科のアドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

1. 基礎専門学力を有し、創造力豊かな実践的技術を修得する意欲のある人
2. 複合領域の科学技術に興味を持ち、技術開発に対して意欲のある人
3. 技術者倫理を身につけ、地域及び社会に貢献したい人

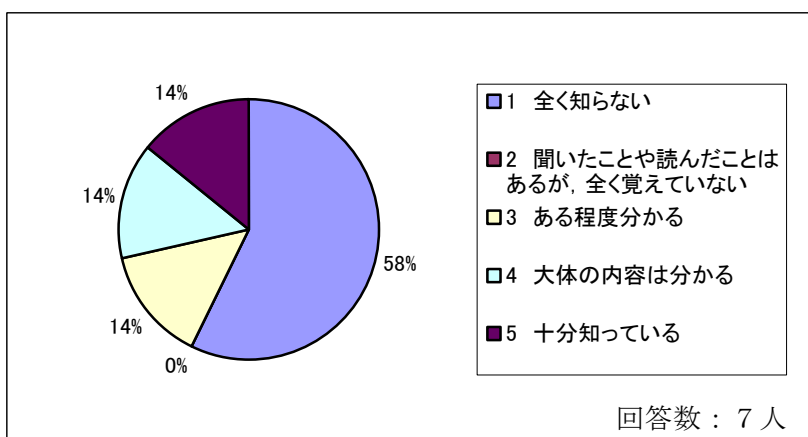
（出典 秋田工業高等専門学校ホームページ）

資料 4-1-①-2 「アドミッション・ポリシーに関するアンケート結果」

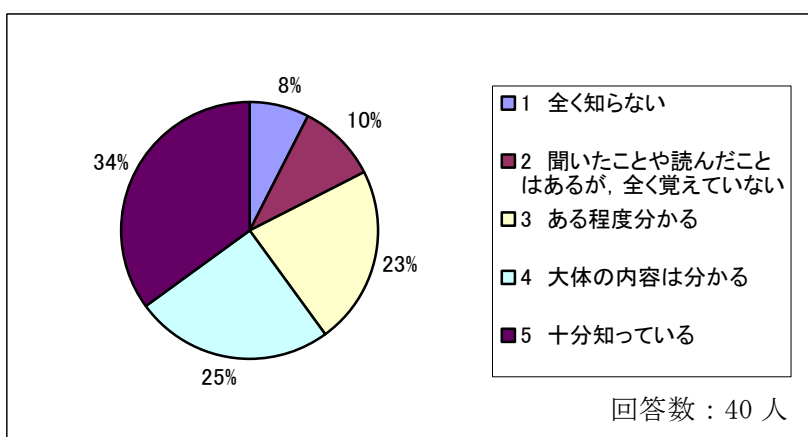
Q6 秋田高専のアドミッションポリシーを知っていますか？（教員）



Q6 秋田高専のアドミッションポリシーを知っていますか？（非常勤職員）



Q6 秋田高専のアドミッションポリシーを知っていますか？（職員）



(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果—平成18年度版— p. 5・7・9)

#### <準学士課程>

本校のアドミッション・ポリシーは、入学者募集要項（資料4-1-①-3）とホームページへの掲載により、広く社会に公表されている。入試関連情報および本校の概要についての刊行物を、秋田県内の全中学校に配布しており、特に将来の学生に対するアドミッション・ポリシーの周知に努めている。さらに、校長、教務主事、教務主事補、教務委員が中心となって秋田県内の中学校への訪問を行い、進学に関する説明、アドミッション・ポリシーの周知を行っている。平成18年度は81校の中学校への訪問を実施した（資料4-1-①-4）。

また、中学校の生徒、保護者、教員に向けた進学説明会を、毎年11月頃本校および市中央部のアトリオンで開催し、募集要項とともにアドミッション・ポリシーの説明を行っている。また、10月頃に市内各高校が参加して行われる「親子の進路相談会」にも参加し、積極的に入試情報・アドミッション・ポリシーの周知に努めている。

10月下旬に、本校の1日体験入学を中学校生徒向けに実施している（資料4-1-①-5）。生徒の付き添いとして中学校教員、保護者も参加していることから、進学相談コーナーを設け、進学・入学試験に関する相談を行っている。平成18年度は53校の中学校から参加があり、生徒は153名、中学校教員は8名、保護者は65名の参加があった。

以上のように、中学校訪問、進学説明会等において、本校のアドミッション・ポリシーを説明し、理工系の知識、技術の修得を希望する中学生に受験を勧めてほしいとのお願いをしている。

また、高等学校からの編入学は、工業高等学校、総合高等学校および普通高等学校の卒業予定者を対象としている（資料4-1-①-6）。入試情報ならびに本校の特徴についての周知を図るため、編入学生募集要項を秋田県内の全高等学校に配布している。ホームページでも募集要項の概要を公開している。教務主事、教務主事補が県内工業高校等へ訪問して、中学校訪問と同様の進学に関する説明、アドミッション・ポリシーの概要についての周知を行っている。平成18年度は8校の工業高校への訪問を実施した。

#### <専攻科課程>

専攻科募集要項に、専攻科入学生に対するアドミッション・ポリシーは明記されており（資料4-1-①-7）、幅広い人材の確保のために、北海道、東北の各高専まで募集要項を送付し周知に努めている。

資料 4-1-①-3 「入学者募集要項」

## 入 学 者 募 集 要 項

### I アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本校では、次のような人を求めています。

- ① 理数系の科目に興味のある人
- ② 新しいことを知りたい、理解したいという学習意欲があり、自ら新しいことを考え出すなど、創造性豊かな人
- ③ 自ら新しいことに取り組むなど、企画力に富みチャレンジ精神旺盛な人
- ④ ものづくりに関心のある人

### II 募 集 人 員

学 科	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	合 計
募集人員	40名	40名	40名	40名	160名

ただし、推薦による募集人員は、各学科とも募集人員の40%程度です。

### III 選 抜 の 方 法

入学者の選抜は、学力検査による選抜と、推薦による選抜との二つの方法で行います。

#### 学力検査による入学者選抜

#### 1. 出 願 資 格

入学を志願することのできる者は、本校において教育を受けたいという意志を有し、かつ5年間の修学が可能な者であって、次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 中学校を卒業した者及び平成19年3月卒業見込みの者
- (2) 中等教育学校の前期課程を修了した者及び平成19年3月修了見込みの者
- (3) 中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（学校教育法施行規則第63条）

#### 2. 願 書 の 受 付

- (1) 受付期間……平成19年2月1日（木）～平成19年2月6日（火）（土・日曜日を除きます。）  
なお、郵送による場合も平成19年2月6日（火）必着とします。
- (2) 受付時間……9時～16時
- (3) 受付場所……秋田工業高等専門学校 学生課教務係

#### 3. 出 願 手 続

- (1) 入学志願者は、次の出願書類等を一括し、在籍（出身）学校長を経て本校学生課教務係へ提出してください。

（出典 平成19年度入学者募集要項・入学案内）

## 資料 4 - 1 - ① - 4 「平成 18 年度中学校訪問実施状況」

平成 18 年度中学校訪問計画表

学校名	訪問者	月日	訪問時間	出発時間	経路	車種	
能代第二中学校	山崎博之	10/2	11:30	10:00		エスティマ	
将軍野中学校	茂木良平	月	14:30				
城東中学校			15:30				
桜中学校			16:30				
鳥海中学校	石塚眞治		10/2	10:30	9:00		プリウス
岩見三内中学校	高橋身佳	月	14:30				
角館中学校			16:00				
豊岩中学校	成田文雄		10/3	9:30	8:40		エスティマ
男鹿東中学校	佐藤尊文	火	11:30				
能代南中学校			14:30				
山王中学校			16:00				
男鹿南中学校	成田 章		10/3	11:30	10:00		プリウス
井川中学校	火	火	15:00				
五城目第一中学校			16:00				
矢島中学校	山崎博之		10/4	14:30	12:30	横手～ 秋田北	エスティマ
横手南中学校		水	水	15:30			
鳳中学校				16:30			
協和中学校	安藤正昭	10/4		15:00	14:00	秋田北～ 協和	プリウス
太田中学校		水	水	16:30			
西仙北西中学校				17:30		協和～ 秋田北	

(出典 学生課教務係資料から抜粋)



資料 4-1-①-6 「編入学生募集要項」

## 編入学生募集要項

### 1. アドミッションポリシー（入学者受入方針）

本校では、次のような人を求めています。

1. 理数系の科目に興味のある人
2. 新しいことを知りたい、理解したいという学習意欲があり、自ら新しいことを考え出すなど、創造性豊かな人
3. 自ら新しいことに取り組むなど、企画力に富みチャレンジ精神旺盛な人
4. ものづくりに関心のある人

### 2. 募集学科，学年及び募集人員

学 科	学 年	人 員
機 械 工 学 科	第 4 学 年	各学科若干名
電 気 情 報 工 学 科		
物 質 工 学 科		
環 境 都 市 工 学 科		

### 3. 出 願 資 格

高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成20年3月卒業見込みの者

### 4. 願 書 の 受 付

- (1) 受付期間……平成19年7月23日(月)から7月27日(金)まで（郵送の場合も受付期間内必着とします。）
- (2) 受付時間……9時から16時まで
- (3) 受付場所……秋田工業高等専門学校 学生課教務係

（出典 平成20年度編入学生募集要項）



## 資料 4-1-①-7 「専攻科学生募集要項」

平成 20 年度  
秋田工業高等専門学校専攻科  
学 生 募 集 要 項

**I アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)**

本校では、次のような人を求めています。

1. 基礎専門学力を有し、創造力豊かな実践的技術を修得する意欲のある人
2. 複合領域の科学技術に興味を持ち、技術開発に対して意欲のある人
3. 技術者倫理を身につけ、地域及び社会に貢献したい人

**II 募集定員**

生産システム工学専攻	8 名	
環境システム工学専攻	8 名	計 16 名

**III 選抜の方法**

1. 学校長推薦による選抜 (8名程度)
2. 学力検査による選抜 (8名程度)
3. 社会人特別選抜 (若干名)

**IV 選抜日程**

選 抜 区 分	選 抜 期 日	合 格 発 表
学校長推薦による選抜	平成19年 5月30日(水)	平成19年 6月 5日(火)
学力検査による選抜	平成19年 6月27日(水)	平成19年 7月 3日(火)
社会人特別選抜	平成19年11月28日(水)	平成19年12月 4日(火)

**V 学校長推薦による選抜****1. 出願資格**

次の各号に該当する者とします。

- (1) 平成20年3月高等専門学校を卒業見込みの者

(出典 平成 20 年度専攻科学生募集要項)

(分析結果とその根拠理由)

本校のアドミッション・ポリシーは明確に定められている。入学者募集要項、ホームページにおいても公開されている。

本校の教職員には、資料配布、教員会議などでアドミッション・ポリシーの内容を周知するとともに、アンケート調査により周知状況を確認している。

アドミッション・ポリシーの周知と公表のため、入学試験関係資料等を秋田県内の中学校および工業高校に配布するとともに、直接中学校および工業高校を訪問し説明している。また、募集要項は本校ホームページに公開し、選抜方法、アドミッション・ポリシー等について記載している。専攻科に関しては北海道、東北の各高専に募集要項を送付し周知に努めている。

以上のことから、将来の学生を含め、アドミッション・ポリシーを社会に公表しているといえる。

観点 4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

<準学士課程>

準学士課程の入学試験は、推薦選抜と学力選抜を実施している（前述資料 4-1-①-3）。推薦選抜ではアドミッション・ポリシーに基づき、推薦基準を「数学・理科の成績が優秀な者」としている（資料 4-2-①-1）。推薦選抜では中学校長から推薦のあった者に対し作文、面接を行い、募集定員の 40%程度を合格させている（前述資料 4-1-①-3）。その際、推薦書、調査書、作文および面接結果の総合判定に基づき、入学者選抜委員会にて合否を決定している。学力選抜の学力検査は、全国の国立高等専門学校の共通試験を用いた、英語・数学・国語・理科の 4 科目で実施している。この試験問題および解答は試験当日公開するとともに、ホームページ上でも公開している。入学者の選抜は、学力検査、調査書および面接結果の総合判定に基づき、入学者選抜委員会にて合否を決定している。なお、本校の求める学生の受け入れを目的に、推薦選抜、学力選抜いずれにおいても、面接でアドミッション・ポリシーに沿った質問を行っている。

第 4 学年への編入学試験は、編入学者募集要項に従って行っている。工業高等学校、総合高等学校および普通高等学校の卒業予定者および卒業生を対象としていることから、学力検査科目は、数学、英語、専門学科科目、または数学、英語、理科（物理および化学）としている。面接では、本校の求める学生の受け入れを目的に、アドミッション・ポリシーに沿った質問を行っている。学力検査の成績、在籍（出身）高等学校からの調査書および面接の総合判定に基づいて、入学者選抜委員会にて合否を決定している（資料 4-2-①-2）。

<専攻科課程>

専攻科課程の入学試験は、推薦選抜と学力選抜、社会人特別選抜を実施している（前述資料 4-1-①-7）。推薦選抜では、口頭試問と面接、出身校からの調査書および推薦書の内容を総合的に判定する。合否は、専攻科入学者選抜委員会にて決定される。学力選抜は、筆記試験による学力検査と面接、出身校からの調査書を総合的に判断する。合否は、専攻科入学者選抜委員会にて決定される。学力検査科目は、英語、数学、および各学科の専門科目である。この試験問題は試験当日公開するとともに、ホームページ上でも公開している。社会人特別選抜は、口頭試問と面接、所属長からの推薦書、出身学校長からの調査書を総合的に判断する。なお、本校の求める学生の受け入れを目的に、推薦選抜、学力選抜いずれにおいても、面接でアドミッション・ポリシーに沿った質問を行っている。

資料 4-2-①-1 「推薦による入学者選抜」

## 推薦による入学者選抜

### 1. 出願資格

推薦入学を志願することのできる者は、次の条件に該当する者で、在籍学校長の推薦を得た者とします。

- (1) 中学校を平成19年3月卒業見込みの者又は中等教育学校の前期課程を平成19年3月修了見込みの者
- (2) 技術教育に適する資質を有する者で、かつ、本校において教育を受けたいという意志が確かであって、5年間の修学が可能な者
- (3) 次のいずれかの一つに該当する者
  - ① 調査書の各記録が優良で、かつ、「各教科の学習の記録」の評定が5段階で、9教科（国語、社会、数学、理科、外国語（英語）、音楽、美術、保健体育、技術・家庭）の3年間の評定合計が100以上で、2年及び3年の数学、理科の評定が4以上の者
  - ② 3年の9教科の5段階の評定の計が33以上で、かつ、数学と理科の評定の計が9以上の者
  - ③ 3年間の数学及び理科の評定が4以上で、かつ、3年間の数学及び理科の評定の計が27以上の者

### 2. 願書の受付

- (1) 受付期間……平成19年1月9日（火）～平成19年1月12日（金）  
なお、郵送による場合も平成19年1月12日（金）必着とします。
- (2) 受付時間……9時～16時
- (3) 受付場所……秋田工業高等専門学校 学生課教務係

### 3. 出願手続

- (1) 在籍学校長は、入学志願者の次の出願書類等を一括して、本校学生課教務係へ提出してください。  
ただし、郵送の場合は、必ず書留郵便とし、封筒の表に「推薦入学願書在中」と朱書してください。
- (2) 志望学科は、第2志望学科まで記入してください。ただし、第2志望学科がない場合は、空欄にしないで必ず斜線を引いてください。  
なお、願書受付後は志望学科の変更は認めません。

（出典 平成19年度入学者募集要項・入学案内）

## 資料 4-2-①-2 「編入学生の選抜」

## 6. 選抜の方法

学力検査、在籍（出身）学校長から提出された調査書及び面接の結果を総合して判定します。

なお、現に就職している者については、実務経験を考慮します。

## (1) 学力検査

(ア) 学力検査は筆記試験とします。

## (イ) 学力検査科目

数学、英語、専門学科科目とします。

ただし、工業に関する学科を除く普通科や理数科等から物質工学科を志望する場合は、**数学、英語、理科（物理及び化学）**とします。

なお、出題科目の検査範囲は別表（4ページ）のとおりとします。

## (ウ) 学力検査及び面接日時

期 日 平成19年 8月22日(水)

科 目	数 学	英 語	専門学科科目又は理科	面 接
時 間	9：30～11：00 (90分)	11：10～12：10 (60分)	13：00～15：00 (120分)	15：15～

## (2) 面 接

学力検査終了後、上記時間により行います。

## (3) 試 験 場

秋田工業高等専門学校

## (4) 受験上の注意

(ア) 試験当日は**8時40分**から受付を開始しますので、受験者は受付を済ませて**9時10分**までに所定の試験室に入ってください。

(イ) 携行するもの……受験票、筆記用具（鉛筆、シャープペンシル、消ゴム）、定規、コンパス。

(ウ) 昼食は校内の食堂を利用することができます。

(出典 平成 20 年度編入学生募集要項)

## (分析結果とその根拠理由)

アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受け入れ方法を採用しており、入学者選抜を適切に実施しているといえる。

準学士課程では、学生募集要項に従って推薦選抜と学力選抜を行っている。推薦選抜では、アドミッション・ポリシーに沿った推薦基準を設け、適切な学生の受け入れ方法を採用している。また、面接においてもアドミッション・ポリシーに沿った質問を行い、本校の求める学生の受け入れに努めており、募集要項に従った入学者選抜を適切に実施している。

専攻科課程では、準学士課程と同様に推薦選抜および学力選抜だけでなく、社会人特別選抜を行っており、広く門戸を開放している。また、面接においてもアドミッション・ポリシーに沿った質問を行い、本校の求める学生の受け入れに努めている。

観点 4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れと改善は，入学者選抜委員会（資料 4-2-②-1～2）が行う。アドミッション・ポリシーに沿った学生を優先的に確保する目的で，準学士課程推薦入試では，中学校一校あたりの推薦枠の見直し，ならびに推薦者数の制限撤廃などについて改善を行った。

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているかどうかについては，推薦入学追跡調査専門委員会（資料 4-2-②-3）において，平成 18 年度 5 月に推薦入学者の追跡調査を行った。その調査結果を入学者選抜の改善に役立てている。

（分析結果とその根拠理由）

これまで準学士課程推薦入試では，中学校一校あたりの推薦枠の見直し，ならびに推薦者数の制限撤廃などについて改善を重ね，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れを図っている。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているかどうかについては，推薦入学者の追跡調査を行い検証しており，入学者選抜の改善に役立てているといえる。

## 資料 4-2-②-1 「秋田工業高等専門学校入学者選抜委員会規則」

## 秋田工業高等専門学校入学者選抜委員会規則

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校学則第17条第1項及び第18条に定める本科入学者選抜に関する事項を審議するため、秋田工業高等専門学校入学者選抜委員会（以下「委員会という。」）を置く。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 学生の募集に関すること。
- 二 学力検査による選抜に関すること。
- 三 推薦による選抜に関すること。
- 四 編入学試験の実施に関すること。
- 五 合格判定に関すること。
- 六 その他入学者選抜の必要な事項に関すること。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 教務主事、学生主事及び寮務主事
- 三 各学科主任等
- 四 事務部長
- 五 学生課長
- 六 その他校長が必要と認めた者

## (委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は校長とし、副委員長は教務主事とする。
- 3 委員長は委員会を招集し、その議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を行う。

## (委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて、その意見を求めることができる。

## (専門部会)

第6条 委員会に、特定の事項を調査・検討するため、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会の部会長及び委員は校長が指名する。

## (庶務)

第7条 委員会に関する庶務は、学生課において処理する。

## (雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営上必要な事項は、別に定める。

## 附 則

この規程は、平成6年4月6日から施行する。

## 附 則

この規程は、平成14年12月11日から施行する。

## 附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 4-2-②-2 「入学者選抜委員会議事録」

## 第 3 回 入学者選抜委員会議事要旨 (案)

日 時 平成 18 年 7 月 24 日 (月) 10:00~10:30

場 所 会議室 A

出席者 島田委員長, 成田(文)副委員長, 脇野, 堀江, 佐々木, 宮田, 金子, 成田(章)

最初に, 委員長から, 7 月 10 日に開催された第 2 回委員会の議事要旨(案)について確認があり, 原案のとおり承認した。

1. 平成 19 年度編入学生学力検査選抜実施要項(案)について  
副委員長から, 資料 1 に基づき説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認した。
2. 平成 19 年度編入学生学力検査選抜の合格者判定方針(案)及び判定基準(案)について  
副委員長から, 資料 2 に基づき説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認した。
3. 平成 19 年度推薦による入学者選抜の出願資格(案)について  
副委員長から, 資料 3 に基づき説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認した。
4. 平成 19 年度入学者選抜関係の日程(案)について  
学生課長から, 国立高専機構理事長裁定の「国立高等専門学校入学者選抜実施要項」に基づく平成 19 年度の入学者選抜関係の日程(案)の説明があり, 了承された。
5. その他
  - (1) 監督者及び面接官打合会の期日変更について  
副委員長から, 当初予定していた 8 月 22 日(火)の監督者及び面接官打合会を, 関係教員が振替後の休日となっていることから, 8 月 4 日(金) 13:30 に変更して行うことの説明があった。
  - (2) その他  
次回委員会予定 平成 18 年 8 月 25 日(金) 15:00~

(出典 学生課教務係資料)

## 資料 4 - 2 - ② - 3 「推薦入学追跡調査報告書」

## 推薦入学追跡調査報告書

推薦入学追跡調査専門委員会（教務主事，主事補）において平成 18 年度 5 月から推薦入学者の追跡調査を行った。秋田高専の入学受け入れ方針（アドミッションポリシー）を念頭に置いて，次の点に重点を置いて 1 学年から 5 学年までの調査を行った。

1. 留年，退学
2. 学級順位（20 位以内，30 位以内）
3. 中学校の 3 年間の評点（100 点以上，99 点以下と高専入学後の学級順位）
4. 中学校 3 年生の数学，理科の評点と高専入学後の学級順位
5. 中学校の数学，理科の評点が合計 27 点以上の者の高専入学後の学級順位
6. 推薦入学者の成績推移

後半の報告は，16～18 年度入学の推薦と学力試験入学者の追跡調査で

7. 中学校の 3 年間の評点と高専 1 年生の一斉試験，学年末の学級順位の追跡調査（人数）
8. 中学校の 3 年間の評点が 100 点以上，中学校の数学，理科の評点が合計 27 点以上の者の高専入学後の学級順位（比率）
9. 16 年度，17 年度入学者の中学校の 3 年間の評点，中学 3 年生の評点，高専 1 年生の一斉試験と高専 1，2 学年の学年末試験の学級順位の散布図

である。

平成 18 年 7 月 14 日

（出典 学生課教務係資料）



観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

入学者選抜委員会では、実入学者が適正になるよう配慮しているため、入学定員を大幅に越える、または大幅に下回る状況ではない。過去5年間で、定員40人に対して、実入学者数が最大5人上回ったことがある(資料4-3-①-1)。一方、下回ったことはない。入学者選抜試験実施後、受験者数と倍率などを検討し、次年度の入学試験へ向けて改善を図っている。

専攻科入学者数は、過去5年間で21名、27名、17名、18名、29名となっており、16名の定員に対して定員オーバーがあるものの、下回る状況にはなっていない。入学定員をオーバーしても、専攻科担当教員が指導できる状況にあり問題はない。

資料 4-3-①-1 「過去5年間の入学志願者数および入学者数」

●入学志願者数及び入学者数 Number of Applicants and New Students

●本 科 Regular Course

平成18年5月1日現在 As of May. 1, 2006

区 分 Classification		14年度 2002	15年度 2003	16年度 2004	17年度 2005	18年度 2006
機 械 工 学 科 Mechanical Engineering	志 願 者 Applicants	71(5)	80(0)	68(1)	53(2)	60(2)
	入 学 者 New Students	41(4)	42(0)	45(1)	42(2)	42(2)
電 気 情 報 工 学 科 Electrical and Computer Engineering	志 願 者 Applicants	/	/	57(5)	57(1)	51(0)
	入 学 者 New Students	/	/	44(5)	42(1)	41(0)
電 気 工 学 科 Electrical Engineering	志 願 者 Applicants	58(6)	64(1)	/	/	/
	入 学 者 New Students	42(4)	41(1)	/	/	/
物 質 工 学 科 Applied Chemistry	志 願 者 Applicants	57(8)	58(11)	57(11)	47(10)	54(11)
	入 学 者 New Students	42(5)	42(6)	44(7)	42(10)	43(9)
環 境 都 市 工 学 科 Civil and Environmental Engineering	志 願 者 Applicants	57(5)	63(10)	63(11)	55(21)	54(8)
	入 学 者 New Students	41(4)	40(6)	45(7)	41(16)	42(6)
計 Total	志 願 者 Applicants	243(24)	265(22)	245(28)	212(34)	219(21)
	入 学 者 New Students	188(17)	165(13)	178(20)	167(29)	168(17)

( )内は女子学生内数 [Female]

●専 攻 科 Advanced Engineering Faculty

平成18年5月1日現在 As of May. 1, 2006

区 分 Classification		14年度 2002	15年度 2003	16年度 2004	17年度 2005	18年度 2006
生 産 シ ス テ ム 工 学 専 攻 Production Systems Engineering Course	志 願 者 Applicants	15(0)	19(0)	16(0)	15(2)	18(1)
	入 学 者 New Students	10(0)	16(0)	11(0)	9(2)	16(1)
環 境 シ ス テ ム 工 学 専 攻 Environment Systems Engineering Course	志 願 者 Applicants	15(6)	14(2)	17(1)	13(3)	15(2)
	入 学 者 New Students	11(5)	11(1)	6(1)	9(1)	13(2)
計 Total	志 願 者 Applicants	30(6)	33(2)	33(1)	28(5)	33(3)
	入 学 者 New Students	21(5)	27(1)	17(1)	18(3)	29(3)

( )内は女子学生内数 [Female]

(出典 平成18年度学校要覧)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程では実入学者数が入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況にはなっていない。過去5年間に、実入学者数が定員を5人上回ったケースがあるが、大幅に超えたことはない。また、定員を下回ったこともない。

専攻科課程では入学者数が定員を超える状況になっているが、十分な教育指導体制をとって、指導時間の確保ができています。また、本校は JABEE の認定を受け合格していることから、今後専攻科志望学生の増加が予想される。将来的には、定員増をふまえた検討が必要となる。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

本校のアドミッション・ポリシーは、本校ホームページ、募集要項において公開されている。また、秋田県全域の中学校訪問、秋田県中央部での進学説明会などを開催し、中学校の生徒、保護者、教員への周知を行っている。また、本校の求める学生の受け入れを目的に、推薦選抜、学力選抜いずれにおいても、面接でアドミッション・ポリシーに沿った質問を行っている。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているかどうかについては、推薦入学追跡調査専門委員会において、平成18年5月から推薦入学者の追跡調査を行った。その調査結果を入学者選抜の改善に役立てている。

実入学者数に関しては、入学定員を大幅に超える、または下回ることはなく、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られている。

### (改善を要する点)

今後は学力入学者についても追跡調査を行うなど、さらに入学者受け入れ方法の改善を行う必要がある。

## (3) 基準4の自己評価の概要

本校のアドミッション・ポリシーは、本校ホームページにおいて公開されており、中学校訪問、入試説明会等でも直接的に周知・公表されている。学生の受け入れ方針としては、アドミッション・ポリシーに基づき、数学、理科が好きで、ものづくりに興味がある、工学系に適した学生の受け入れに努めている。

入学者選抜については、準学士課程では推薦選抜、学力選抜が実施されている。推薦選抜においては、理工系学生の基礎となる数学、理科の成績が優秀であることを推薦条件としており、アドミッション・ポリシーに沿って、適切な学生の受け入れ方法を採用している。推薦選抜、学力選抜いずれにおいても、本校の求める学生の受け入れを目的に、面接でアドミッション・ポリシーに沿った質問を行っている。また、募集要項に従った入学者選抜を適切に実施している。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているかどうかについては、推薦入学追跡調査専門委員会において、平成18年5月から推薦入学者の追跡調査を行った。その調査結果を入学者選抜の改善に役立てている。

専攻科課程では、準学士課程と同様に推薦選抜および学力選抜だけでなく、社会人特別選抜を行っており、広く門戸を開放している。また、面接においてアドミッション・ポリシーに沿った質問を行い、本校の求める学生の受け入れに努めている。

入学者数に関しては、準学士課程は適正な人数となっており問題はない。専攻科課程は定員を超える状況になっているが、十分な教員組織で対応ができています。

## 基準5 教育内容及び方法

### (1) 観点ごとの分析

#### <準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点到に係る状況）

本校の準学士課程の使命は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力の育成」であり、養成しようとしている人材像は「実践的かつ専門的な知識と技術を有する実践的技術者」である。この目的のために、機械工学科・電気情報工学科・物質工学科・環境都市工学科を設置している。各学科に応じた内容を、中学校卒業後5年一貫教育で学ぶ。中学校卒業生を対象にすることから、工学の専門分野に段階的に慣れるような教育体系としている。低学年では一般科目を多くし、徐々に専門科目を多く配置している（資料5-1-①-1～5）。一般科目は工学共通の基礎科目や教養科目で、全ての学科で同一の学修を行う。本校の目的に照らした各学科の教育課程の体系性と科目系統図を、資料5-1-①-6～9に示す。

本校の目的（達成しようとする基本的な成果）のうち、「(A)自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する」に沿って、特別活動を第1学年から第3学年までに90単位時間配置し、人間としての豊かな素養の育成に資している。また、技術者としての教養、かつ技術者としての社会的責任を自覚できるように、第4学年と第5学年に人文科学系の必修、選択科目を設定している（資料5-1-①-1, 6～9）。

本校の目的（達成しようとする基本的な成果）のうち、「(B)工学基礎としての自然科学系科目を理解する」に沿って、自然科学系の数学、物理、化学、生物に関しては、第1学年から第5学年まで必修、選択科目が設定されており、低学年では基礎的な内容を身につけさせ、高学年では専門的な内容を身につけさせるよう科目を構成している（資料5-1-①-1, 6～9）。

本校の目的（達成しようとする基本的な成果）のうち、「(C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する」に沿って、英語教育に関しては、低学年に基礎的授業を中心とした授業科目を配置し、高学年になるにつれて専門性を高めた授業や会話力の育成を図るよう科目を構成している（資料5-1-①-1, 6～9）。

本校の目的（達成しようとする基本的な成果）のうち、「(D)実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する」、「(E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する」、「(F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける」に沿って、専門科目では各学科とも学年の進行に伴って、基礎的な科目から専門的な科目へと段階的に配置されると同時に、実験・実習科目が適切に配置されている（資料5-1-①-2～5）。教育課程の体系と科目の流れを図に示す（資料5-1-①-6～9）。さらに、第4～5学年においては学修単位科目を設定し、自学自習の時間を設けて、自分で考え行動する実践的な技術者の育成に取り組んでいる（資料5-1-①-2～5）。

授業内容は、学校の目的に沿うとともに、社会の要求する水準を考慮し決めている。毎年全てシ

ラバスを更新することにより、授業内容の見直しを図っている（資料5-1-①-10）。

資料5-1-①-1 「一般科目教育課程カリキュラム表（平成18年度以降入学者）」

別表第1

一般科目教育課程

平成18年度以降入学者

授 業 科 目		単 位 数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
国 語	国語 I A	2	2					
	国語 I B	2	2					
	国語 II	2		2				
	国語 III	2			2			
日 本 語	日本語表	2				2		
	現代社会	2	2					
	政治経済	1		1				
	人類史 I	2		2				
社 会	科学技術史	2			2			
	技術者倫理	1			1			
	数学 I	4	4					
	数学 II	2	2					
数 学	基礎数学 III	2		2				
	微積分 I	4		4				
	微積分 II	3			3			
	基礎解析	2			2			
理 科	化学 I	3 [4]	3 [4]					
	化学 II	2 [0]		2 [0]				
	生物 I	0 [2]	0 [2]					
	物理 I	3		3				
教 養	物理 II	1			1			
	ゼミナール	1						
	保健体育 I	2	2					
	保健体育 II	2		2				
体 育	保健体育 III	2			2			
	スポーツ教育 I	1				1		
	スポーツ教育 II	1					1	
	芸術 I	1	1					
芸 術	芸術 II	1		1				
	英語 I	4	4					
	英語 II	4		4				
	英語 III	4			4			
外 国 語	総合英語 I	2				2		
	総合英語 II	2					2	
	英語 L L 演習	2	2					
	英語演習 II	2		2				
修 得 単 位 小 計	英語演習 III	2				2		
	英語演習 IV	2					2	
	英語演習 V	2						2
	英語演習 VI	2						2
選 択 科 目	修得（開設）単位小計	78 [79]	24 [27]	25 [23]	18	7	4	
	生物	1 [0]	1 [0]					
	応用化学	1 [0]				1 [0]		
	社会と文化	1				1		
開 設 単 位 小 計	科学技術社会史	1				1		
	上級英語	1					1	
	開設単位小計	5 [3]	1 [0]			3 [2]	1	
	修得単位小計	2 [1] 以上			2 [1] 以上			
開 設 単 位 合 計	必修科目	83 [82]	24 [27]	25 [23]	18	7	4	必修科目
	選択科目		1 [0]			3 [2]	1	選択科目
修 得 単 位 合 計	必修科目	80以上	24 [27]	25 [23]	18	7	4	必修科目
	選択科目				2 [1] 以上			選択科目
特別活動								[ ] 内は物質工学科
特 別 活 動	単 位	時 間	学 年 別 配 当			備 考		
			1 年	2 年	3 年			
	90		30	30	30			

（出典 平成19年度学生便覧 p.94）

資料5-1-①-2 「機械工学科教育課程カリキュラム表 (平成18年度以降入学者)」

別表第2

機械工学科教育課程

平成18年度以降入学者

授 業 科 目		単 位 数	学 年 別 配 当					備 考	
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必 修 単 位  科 学 修 目 単 位	応用物理工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	力学	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	材料	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	機械設計	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2	2						
	機械製造	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	電気電子情報	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2		1					
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	工学基礎	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2							
	修得 (開設) 単位小計	81	8	8	15	28	22		
	選 択 科 目  単 位	環境工学実習	1 1 2				1 2	1	
		校外実習	1 1 1 1 1 1 1 1					1 1 1 1 1 1 1	
材料工学		1 1 1 1 1 1 1 1							
機械工学		1 1 1 1 1 1 1 1							
機械工学		1 1 1 1 1 1 1 1							
機械工学		1 1 1 1 1 1 1 1							
機械工学		1 1 1 1 1 1 1 1							
機械工学		1 1 1 1 1 1 1 1							
機械工学		1 1 1 1 1 1 1 1							
開設単位小計		13				1	9		
修得単位小計		6以上				6以上			
専門科目開設単位合計	94	8	8	15	32	31			
専門科目修得単位合計	87以上	8	8	15	28 6以上	22	必修科目 選択科目		
一般科目修得単位合計	80以上	24	25	18 2以上	7	4	必修科目 選択科目		
修得単位合計	167以上	32	33	33 8以上	35	26	必修科目 選択科目		

(出典 平成19年度学生便覧 p.97)

資料5-1-①-3 「電気情報工学科教育課程カリキュラム表（平成18年度以降入学者）」

別表第3

電気情報工学科教育課程

平成18年度以降入学者

授 業 科 目		単 位 数	学 年 別 配 当					備 考	
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必 修 単 位	履 修 目 録	電気計測	1		1				
		応用電子	2			2			
		基礎電気	2			2			
		電子回路	2			2			
		電気回路	2		2				
		電気回路	2			2			
		ものづくり	2	2					
		基礎工学	2	2					
		電気情報	3		3				
		情報処理	3			3			
		情報処理	2	2					
		情報処理	1		1				
		卒業論文	2		2				
		電気基礎	9					9	
科 学 修 目 録	履 修 目 録	電気機器	2	2					
		電気機械	2			2			
		コンピュータ	2			2			
		基礎研究	2			2			
		コンピュータ	2				2		
		シミュレーション	2					2	
		電気回路	2				2		
		回路網	2				2		
		電気制御	2					2	
		制御システム	2					2	
		電子回路	2				2		
		IC応用	2					2	
		工業応用	2					2	
		応用解析	2				2		
現代応用	2				2				
ソフトウェア	2				2				
半導体	2				2				
物性工学	2					2			
電気工学	2					2			
電気情報工学	2				2				
電気情報工学	2					2			
修得（開設）単位小計		81	8	9	15	24	25		
選 修 単 位 目 録	履 修 目 録	IC応用回路	2					2	
		センサ工学	2					2	
		ソフトウェア工学	2				2		
		電力工学	2				2		
		環境工学	1					1	
校外実習	1				1				
校外実習	2				2				
学修単位	応用解析	1					1		
開設単位小計		13				7	6		
修得単位小計		6以上				6以上			
専門科目開設単位合計		94	8	9	15	31	31		
専門科目修得単位合計		87以上	8	9	15	24 6以上	25	必修科目 選択科目	
一般科目修得単位合計		80以上	24	25	18 2以上	7	4	必修科目 選択科目	
修得単位合計		167以上	32	34	33 8以上	31	29	必修科目 選択科目	

(出典 平成19年度学生便覧 p.102)

資料5-1-①-4 「物質工学科教育課程カリキュラム表 (平成18年度以降入学者)」

別表第4

物質工学科教育課程

平成18年度以降入学者

授 業 科 目		単 位 数	学 年 別 配 当					備 考	
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必 修 単 位	履 修 課 程	応用物理解	2			2			
		情報処理工学	3	1	2				
		物質工学	1	1					
		分析化学	2		2				
		無機化学	4		2	2			
		有機化学	4		2	2			
		基礎物理解	2			2			
		基礎化学	1			1			
		基礎生物	2			2			
		材料工学	1				1		
		工業図学	1	1					
		英語実習	1					1	
		基礎実験	1	1					
		実務実験	1	1					
		化学実務	3		3				
		化学実務	3			3			
		化学実務	3			3			
		化学研究	2				2		
		化学研究	9					9	
科 学 修 単 位	目 修 課 程	物理化学	2				2		
		物理化学	2				2		
		物理化学	2				2		
		物理化学	2				2		
		物理化学	2					2	
		物理化学	2					2	
		物理化学	2					2	
		物理化学	2					2	
		物理化学	2				2		
		物理化学	2				2		
		物理化学	2					2	
		物理化学	2					2	
		物理化学	2				2		
		物理化学	2				2		
		物理化学	2					2	
		物理化学	2				2		
		物理化学	2				2		
		物理化学	2				2		
		修得 (開設) 単位小計	77	5	11	17	24	20	
コ	物質工必修	高分子材料工学	2				2		
		高分子材料工学	2				2		
		高分子材料工学	2				2		
修得 (開設) 単位小計	6				2	4			
1	生物工必修	応用微生物工学	2				2		
		応用微生物工学	2				2		
		応用微生物工学	2				2		
修得 (開設) 単位小計	6				2	4			
ス	共通選択科目	電気工学概論	1					1	
		電気工学概論	1				1		
		電気工学概論	1					1	
		電気工学概論	1				1		
		電気工学概論	1					1	
		電気工学概論	2				2		
学修単位開設 単位小計	1					1			
修得 (開設) 単位小計	8				4	4			
修得 (開設) 単位小計	4以上				4以上				
専 門 科 目 開 設 単 位 合 計		97	5	11	17	32	32		
専 門 科 目 修 得 単 位 合 計		87以上	5	11	17	26 4以上	24	必修科目 選択科目	
一 般 科 目 修 得 単 位 合 計		80以上	27	23	18 1以上	7	4	必修科目 選択科目	
修 得 単 位 合 計		167以上	32	34	35 5以上	33	28	必修科目 選択科目	

(出典 平成19年度学生便覧 p.106)

資料5-1-①-5 「環境都市工学科教育課程カリキュラム表（平成18年度以降入学者）」

別表第5

環境都市工学科教育課程

平成18年度以降入学者

授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当					備 考		
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年			
履 修 単 位 目 録	応用物理	2			2				
	情報処理	2	2						
	測量学	1	1						
	基礎水理	1		2					
	基礎生態工学	1			1				
	材料工学	1	1						
	土工	2		1					
	盤工事	1			2				
	基礎構造学	2			2		1		
	建築一般構造学	1			1		2		
	コンクリート実習	2			2				
	基礎設計	1	1						
	基礎設計	1		1					
	意匠設計	1	1						
	建築系演習	2			1		2		
	建築系演習	1						1	
	設計製図	1			1				
	環境都市工学実習	2	2					1	
	環境都市工学実習	2		2					
	環境都市工学実習	2			2				
	環境都市工学実習	2	2						
	基礎研究	9				2		9	
	履 修 単 位 目 録	応用解析	2				2		
		現代応用	2				2		
		計測都市環境工学	1				1		
		都市環境衛生工学	2					1	2
		都市環境衛生工学	2				2		2
		都市環境衛生工学	2				2		2
		環境アセスメント	1						1
建築デザイン		2				2			
建築デザイン		1						1	
地盤工学		2				2			
構造工学		2				2			
鉄筋構造工学		2				2			
耐震工学		1						1	
環境都市工学実習	1				1		1		
環境都市工学実習	1						1		
修得（開設）単位小計	83	9	9	14	29	22			
選 修 科 目	履修単位	1				1			
	校外実習	2				2			
	応用施設環境工学	1						1	
	建築内設環境工学	1						1	
	建築内設環境工学	1				1			
	建築内設環境工学	1						1	
	建築内設環境工学	1						1	
開設単位小計	11				4	7			
修得単位小計	4以上				4以上				
専門科目開設単位合計	94	9	9	14	33	29			
専門科目修得単位合計	87以上	9	9	14	29	22	必修科目 選択科目		
一般科目修得単位合計	80以上	24	25	18	7	4	必修科目 選択科目		
修得単位合計	167以上	33	34	32	36	26	必修科目 選択科目		

（出典 平成19年度学生便覧 p.109）



資料5-1-①-6 「機械工学科の教育課程の体系性と科目系統図（平成18年度以降入学者）」

機械工学科の教育課程の体系性と科目系統図(平成18年度以降入学者)

達成しようとしている基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)				
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語 I A(必2) 国語 I B(必2) 現代社会(必2) 保健体育 I(必2) 芸術 I(必1)	国語 II(必2) 政治経済(必1) 人類史 I(必2) 保健体育 II(必2) 芸術 II(必1)	国語 III(必2) 人類史 II(必2) 科学技術史(必1) 保健体育 III(必2) 教養ゼミナール(必1)	日本語表現(必2) 科学技術社会史(選1) 社会と文化(選1) スポーツ教育 I(必1)	技術者倫理(必1) スポーツ教育 II(必1)
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学 I(必4) 基礎数学 II(必2) 化学 I(必3) 生物(選1)	基礎数学 III(必2) 微積分学 I(必4) 化学 I(必2) 物理 I(必3)	基礎解析(必2) 微積分学 II(必3) 物理 II(必1) 応用物理(必2) 教養ゼミナール(必1)	応用解析 I(必2※) 応用解析 II(必2※) 応用化学(選1) 現代応用物理学(必2※)	応用解析 III(選1※)
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語 I(必4) 英語 LL 演習(必2)	英語 II(必4) 英語会話(必2)	英語 III(必4)	総合英語 I(必2) 独語(必2)	総合英語 II(必2) 上級英語(選1)
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。	機械製作法(必2) 情報処理 I(必1) 機械製図 I(必2)	情報処理 II(必2) 電気工学 I(必1) 機械製図 II(必2)	材料学(必2) 基礎材料力学(必1) 工業力学(必1) 機械設計基礎(必1) 情報処理 III(必1) 電気工学 II(必1) 電子基礎(必1) 機械製図 III(必2) コンピュータ製図(必1)	機械加工学(必2※) 材料工学 I(必1※) 材料力学 I(必2※) 材料力学 II(必1※) 機械力学 I(必2※) 機械設計(必1※) 電子応用(必1※) 計測工学(選1※) 工業熱力学 I(必2※) 工業熱力学 II(必1※) 流体工学 I(必2※) 流体工学 II(必1※) 設計製図 I(必2※) 環境工学(選1)	工作機械(選1※) 材料工学 II(選1※) 計算力学(必2※) 機械力学 II(必1※) 機械力学 III(選1※) 制御工学 I(必2※) 制御工学 II(選1※) ロボット工学(選1※) 内燃機関 I(必1※) 内燃機関 II(選1※) 熱工学(必1※) 流体工学 III(必2※) 流体機械(選1※) 設計製図 II(必2※)
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	工作実習 I(必3)	工作実習 II(必3)	創造設計製作(必2)	工学実験 I(必2※) 校外実習 A(選1) 校外実習 B(選2)	工学実験 II(必2※)
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必9)

(出典 平成19年度 授業計画機械工学科 p.6)

資料 5 - 1 - ① - 7 「電気情報工学科の教育課程の体系性と科目系統図 (平成 18 年度以降入学者)」

電気情報工学科の教育課程の体系性と科目系統図(平成18年度以降入学者)

達成しようとしている基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)				
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語 I A(必2) 国語 I B(必2) 現代社会(必2)	国語 II(必2) 政治経済(必1) 人類史 I(必2)	国語 III(必2) 人類史 II(必2) 科学技術史(必1) 保健体育 III(必2) 教養ゼミナール(必1)	日本語表現(必2) 科学技術社会史(選1) 社会と文化(選1) スポーツ教育 I(必1)	技術者倫理(必1) スポーツ教育 II(必1)
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学 I(必4) 基礎数学 II(必2) 化学 I(必3) 生物(選1)	基礎数学 III(必2) 微分積分学 I(必4) 化学 I(必2) 物理 I(必3)	基礎解析(必2) 微分積分学 II(必3) 物理 II(必1) 応用物理(必2) 教養ゼミナール(必1)	応用解析 I(必2※) 応用解析 II(必2※) 応用化学(選1) 現代応用物理学(必2※)	応用解析 III(選1※)
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語 I(必4) 英語 LL 演習(必2)	英語 II(必4) 英語会話(必2)	英語 III(必4)	総合英語 I(必2) 独語(必2)	総合英語 II(必2) 上級英語(選1) 工業英語(必2※)
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。	電気基礎(必2)	電気計測(必1) 電気回路 I(必2)	基礎電気磁気学(必2) 電気回路 II(必2)	電気磁気学(必2※) 回路網理論(必2※) 電子回路(必2※)	センサ工学(選2) 電波工学(必2※) IC 応用回路(必2※) IC 応用回路演習(選2)
	情報処理基礎(必2)	論理回路(必1) 情報処理応用(必2)	コンピュータ基礎(必2)	ソフトウェア工学(必2※) ソフトウェア工学演習(選2)	0 シミュレーション(必2)
	電気製図(必2)		電子デバイス工学(必2)	半導体工学(必2※) 基礎制御工学(必2※)	物性工学(必2※) 制御システム工学(必2※)
			電気機器学(必2)	電気機械変換工学(必2) 電力工学(選2)	電気法規(必2※) 環境工学(選1)
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	ものづくり工作実習(必2)	基礎工学実験(必3)	電気情報基礎実験(必3)	電気情報工学実験 I(必2※) 校外実習 A(選1) 校外実習 B(選2)	電気情報工学実験 II(必2※)
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必9)

(出典 平成 19 年度 授業計画電気情報工学科 p. 9)

資料5-1-①-8 「物質工学科の教育課程の体系性と科目系統図（平成18年度以降入学者）」

物質工学科の教育課程の体系性と科目系統図(平成18年度以降入学者)

達成しようとしている基本的な成果	授業科目名 (物は物質コース、生は生物コース、必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)				
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語ⅠA(必2) 国語ⅠB(必2) 現代社会(必2) 保健体育Ⅰ(必2) 芸術Ⅰ(必1)	国語Ⅱ(必2) 政治経済(必1) 人類史Ⅰ(必2) 保健体育Ⅱ(必2) 芸術Ⅱ(必1)	国語Ⅲ(必2) 人類史Ⅱ(必2) 科学技術史(必1) 保健体育Ⅲ(必2) 教養ゼミナール(必1)	日本語表現(必2) 科学技術社会史(選1) 社会と文化(選1) スポーツ教育Ⅰ(必1)	技術者倫理(必1) スポーツ教育Ⅱ(必1)
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2)	基礎数学Ⅲ(必2) 微積分学Ⅰ(必4) 物理Ⅰ(必3)	基礎解析(必2) 微積分学Ⅱ(必3) 物理Ⅱ(必1) 応用物理(必2) 教養ゼミナール(必1)	応用解析Ⅰ(必2※) 応用解析Ⅱ(必2※) 現代応用物理(必1※)	応用解析Ⅲ(選1※)
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語Ⅰ(必4) 英語LL演習(必2)	英語Ⅱ(必4) 英語会話(必2)	英語Ⅲ(必4)	総合英語Ⅰ(必2) 独語(必2)	総合英語Ⅱ(必2) 上級英語(選1) 工業英語(必1)
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。	情報処理(必1) 化学Ⅰ(必4) 物質工学序論(必1) 生物(必2) 物質工学製図(必1)	情報処理(必2) 分析化学(必2) 無機化学(必2) 有機化学(必2)	無機化学(必2) 有機化学(必2) 基礎物理化学(必2) 基礎化学工学(必1) 生物化学(必2)	材料計測工学(必1) 無機材料工学(物必2※) 高分子材料工学(物必2※) 有機合成化学(必2※) 物理化学Ⅰ(必2※) 物理化学Ⅱ(必2※) 化学工学(必2※) 生物化学Ⅰ(必2※) 生物化学Ⅱ(必2※) 応用微生物学(生必2※)	機能性無機材料(必2※) 無機工業化学(必2※) 有機工業化学(必2※) 環境工学(選1) プロセス工学(必2※) 反応工学(必2※) 医薬品工学(選1) 蛋白・遺伝子工学(生必2※)
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	工作実習(必1) 物質工学基礎実験(必1)	分析化学実験(必3)	無機化学実験(必3) 有機化学実験(必3)	校外実習A(選1) 校外実習B(選2) 物理化学実験(必3) 化学工学実験(必3)	物質工学実験(物必2※) 生物工学実験(生必2※)
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必9)

(出典 平成19年度 授業計画物質工学科 p.6)

資料 5-1-①-9 「環境都市工学科の教育課程の体系性と科目系統図（平成 18 年度以降入学者）」

環境都市工学科の教育課程の体系性と科目系統図(平成18年度以降入学者)

達成しようとしている基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)					
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語 I A(必2) 国語 I B(必2) 現代社会(必2) 保健体育 I(必2) 芸術 I(必1)	国語 II(必2) 政治経済(必1) 人類史 I(必2) 保健体育 II(必2) 芸術 II(必1)	国語 III(必2) 人類史 II(必2) 科学技術史(必1) 保健体育 III(必2) 教養ゼミナール(必1)	日本語表現(必2) 科学技術社会史(選1) 社会と文化(選1) スポーツ教育 I(必1)	技術者倫理(必1) スポーツ教育 II(必1)	
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学 I(必4) 基礎数学 II(必2) 化学 I(必3) 生物(選1)	基礎数学 III(必2) 微積分学 I(必4) 化学 I(必2) 物理 I(必3)	基礎解析(必2) 微積分学 II(必3) 物理 II(必1) 応用物理(必2) 教養ゼミナール(必1)	応用解析 I(必2※) 応用解析 II(必2※) 応用化学(選1) 現代応用物理学(必1※)	応用解析 III(選1※)	
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語 I(必4) 英語 LL 演習(必2)	英語 II(必4) 英語会話(必2)	英語 III(必4)	総合英語 I(必2) 独語(必2)	総合英語 II(必2) 上級英語(選1)	
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。	情報処理 II(必2) 測量学 I(必1)	情報処理 II(必2) 測量学 II(必2)	意匠設計 I(必1) 基礎設計演習 I(必1)	意匠設計 II(必1) 基礎設計演習 II(必1) 意匠設計 III(必1) 基礎水理学(必1) 基礎生態工学(必1) 材料学 I(必1)	測量学 III(必2※) 建築デザイン論(必2※) 建築史(必1※) 建設法規論(選1※) 建築系演習 I(必2) 設計製図 I(必1) 水理学(必2※) 水理学演習(必1) 環境衛生工学(必2※) 土質工学(必2) コンクリート構造学(必2) 建築一般構造学(必1) 基礎構造力学(必1)	室内環境工学(選1※) 建築系演習 II(必1) 設計製図 II(必1) 都市計画(必2※) 社会資本整備論(必1) 計画数理(必1※) 交通工学(選1※) 水工学(選2※) 環境アセスメント(必1※) 緑化保全工学(必1) 都市環境工学(必2※) 環境工学(選1※) 地盤工学(必2※) 地盤工学演習(必1) 鉄筋コンクリート工学(必2※) 鋼構造学(必2※) 建設施工論(選1※) 構造力学演習(必2) 構造力学(必2※)
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	環境都市工学実験 実習 I(必2) 工作実習(必1)	環境都市工学実験 実習 II(必2)	環境都市工学実験 実習 III(必2)	環境都市工学応用 実験 I(必1※) 校外実習 A(選1) 校外実習 B(選2)	環境都市工学応用 実験 II(必1※)	
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必9)	

(出典 平成 19 年度 授業計画環境都市工学科 p. 6)

## 資料5-1-①-10 「シラバスの例」

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
応用解析II Applied AnalysisII	必修	4年	M E	成田文雄 成田文雄	2	通年週2時間 (合計60時間)	
[教 材] 教科書：「基礎解析学」(改訂版) (矢野健太郎、石原繁 共著、裳華房) 「解析学概論」(新版) (矢野健太郎、石原繁 共著、裳華房)							
[授業の目標と概要] 複素数、複素関数の基本、複素関数の微分積分の基本的な性質を修得する。							
[授業の進め方] 講義形式で演習もまじえて行う。小テストと演習課題、レポート提出を行う。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業のガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
1 複素変数の関数		4	複素数の四則演算ができる。				
(1) 複素数		2	複素数の $n$ 乗根を求めることができる。				
(2) $n$ 乗根		7	無限級数の収束、発散、複素関数の極限がわかる。				
(3) 数列・級数・関数		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
前期中間試験		1	中間試験の解説と解答				
試験の解説と解答		1					
2 正則関数		2	正則関数とはなにかを理解できる。				
(1) 正則関数		5	コーシー・リーマンの方程式を利用できる。				
(2) コーシー・リーマンの方程式		6	いろいろな正則関数があることがわかる。				
(3) 基本的な正則関数		あり	上記項目について学習した内容の到達度を確認する。				
前期末試験		あり	試験の解説と解答				
試験の解説と解答		2	全期末試験の解説と解答、本授業のまとめ				
3 積分		3	複素関数の積分の計算ができる。				
(1) 複素変数の関数の積分		5	コーシーの定理が理解できる。				
(2) コーシーの定理		6	コーシーの積分表示を利用して積分を求めることができる。				
(3) コーシーの積分表示		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
後期中間試験		1	試験の解説と解答				
試験の解説と解答		1					
4 展開・留数・等角写像		4	複素関数のテイラー展開・ローラン展開ができる。				
(1) テイラー展開・ローラン展開		3	留数定理を利用することができる。				
(2) 極・留数		4	留数を利用して積分を求めることができる。				
(3) 留数の応用		2	いろいろな等角写像があることがわかる。				
(4) 等角写像		あり	上記項目について学習した内容の到達度を確認する。				
学年末試験		あり	試験の解説と解答				
試験の解説と解答		2	授業アンケート				
[到達目標] 複素関数の正則性を理解させ、複素関数の積分、級数展開が出来るようになること。また、留数定理を利用して複素関数の積分、実関数の積分が出来るようになること。							
[評価方法] 合格点は60点である。前期末と学年末(後期)の成績は、それぞれの中間と期末の試験結果を70%、小テスト、演習課題、レポートを30%で評価する。 学年総合評価=(前期末成績+学年末成績)/2							
[関連科目] 基礎数学I・II、線形代数、微分積分、応用解析I・IIIB、物理、専門科目							
[学習上の注意] 微分積分を復習しながら学習する。 自分の専門分野とどのように関連し、応用されているかという視点を持つことが重要である。							
秋田高専学習・教育目標		B-1		J A B E E 基準		c	

(出典 平成19年度 授業計画機械工学科 p.85)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的，特に「達成しようとする基本的な成果」に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程の体系性を確保しているといえる。

一般科目を低学年に多く配置し，徐々に専門科目を多くすることで，工学の専門分野に段階的に慣れるような教育体系としている。人間としての豊かな素養の育成を目指し，特別活動を第1学年から第3学年までに90単位時間配置している。技術者の社会的責任を自覚できるように，高学年に人文科学系の必修，選択科目を設定している。

工学基礎の自然科学系科目を理解するために，自然科学系科目を第1学年から第5学年まで，段階に応じて学べるように配置している。また，実践的な英語能力を目指して，低学年に基礎的授業を中心とした授業科目を配置し，高学年になるにつれて専門性を高めた授業や会話力の育成を図るよう科目を構成している。

「専門基礎学力の修得」，「現象・動作を理解できる能力の修得」，「問題・課題解決のための方法・手段を模索し，実行できる能力を身につける」に沿って，専門科目では，各学科とも学年の進行に伴って，基礎的な科目から専門的な科目へと段階的に配置している。実験・実習科目も学修の段階に応じて適切に配置している。

授業内容は，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっている。授業内容は，学校の目的に沿うとともに，社会の要求する水準を考慮し決めている。毎年全てシラバスを更新することにより，授業内容の見直しを図っている。

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

本校では、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応すべく教育課程を編成している。

平成15年度から、秋田県における大学、短期大学および高等専門学校間の単位互換に関する協定を結んだ（資料5-1-②-1～2）。これにより、秋田県内の大学との単位互換が可能となり、学生の勉学の機会を広げることができた。

企業や公的研究機関、他大学でのインターンシップでの学修に対して単位認定を行っており、時間によって1単位あるいは2単位の単位を認定している。1単位の修得には最低実習時間が30時間、2単位の修得には最低実習時間が60時間である（資料5-1-②-3～4）。平成18年度から、専攻科第1学年においても1単位のインターンシップを単位認定している。

中学校の教育内容の変更によって影響される数学の学力を補充するため、平成14年度入学者から、第2学年前期に補充授業を行ってきたが、平成17年度入学生から、第3学年の微分積分学Ⅱを2単位から3単位に増やして基礎学力の不足分を補うことにした（前述資料5-1-①-1）。

産業社会におけるグローバル化に対応するために、国際的に通用するプレゼンテーション能力を持つ技術者の育成のため、必修の英語科目を第5学年まで連続して設定し、英語力の向上を図っている（前述資料5-1-①-1）。

高校からの編入生に対して、カリキュラムの違いから生じる不足の科目、特に、数学に対して補充授業を行っている。さらに、留学生に対しては、日本語教育および専門基礎科目について補充授業を行っている（資料5-1-②-5）。

資料5-1-②-1 「秋田県における大学、短期大学及び高等専門学校間の単位互換に関する協定書」

## 秋田県における大学、短期大学及び高等専門学校間の単位互換に関する協定書

秋田大学、秋田県立大学、秋田経済法科大学、秋田県立大学短期大学部、秋田公立美術工芸短期大学、秋田経済法科大学短期大学部、聖霊女子短期大学、日本赤十字秋田短期大学、聖園学園短期大学及び秋田工業高等専門学校（以下「参加大学等」という。）は、相互の交流と協力を推進し、大学等教育の活性化と充実に資するとともに、意欲ある学生に多様な学習機会を提供することを目的とし、次により単位互換を行うことに合意する。

### （対象学生）

- 1 本協定により単位互換ができる学生は、参加大学等に在学する学生とする。  
（受入学生の呼称）
- 2 本協定に基づき、参加大学等が受け入れる学生は、特別聴講学生と称する。  
（受入学生数）
- 3 参加大学等が受け入れる特別聴講学生数は、授業に支障のない範囲とし、必要に応じ、参加大学等間で調整する。

### （履修方法）

- 4 特別聴講学生の科目登録、単位の認定等については、受入大学等の規則の定めるところによる。

### （授業料等の費用）

- 5 受入に係る検定料、入学料及び授業料は徴収しない。

### （運営会議）

- 6 本協定による単位互換を円滑に実施するため、運営会議を置く。

### （有効期間）

- 7 本協定の有効期間は、平成15年10月9日から平成19年3月31日までとする。

### （改廃）

- 8 この協定の改廃は、参加大学等間の協議によるものとする。

### （その他）

- 9 本協定書に定めるもののほか、単位互換の実施に関する細目は、覚書により別に定める。

(出典 総務課資料)



## 資料 5-1-②-2 「他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等における学修等に対する単位認定に関する規則」

## (4) 他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等における学修等に対する単位認定に関する規則

(目的)

第1条 この規則は、秋田工業高等専門学校学則第13条の2及び第13条の3の規定に基づき、他の高等専門学校における従業科目の履修及び高等専門学校以外の教育施設等における学修に対する単位の認定に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(他の高等専門学校における授業科目の履修)

第2条 他の高等専門学校における授業科目を履修しようとする学生は、教務主事を経て、校長に願い出て許可を得なければならない。

2 校長は、教育上有益と認めるときは、前項による願い出を許可することができる。

(高等専門学校以外の教育施設等における学修)

第3条 学則第13条の3に規定するその他文部科学大臣が別に定める学修とは、次に掲げる学修をいう。

一 大学又は短期大学の専攻科における学修

二 高等専門学校の専攻科における学修

三 専修学校の専門課程のうち修業年限が二年以上のものにおける学修で、高等専門学校において高等専門学校教育に相当する水準を有すると認めたもの

四 青少年及び成人の学習活動に係る知識・技能審査事業の認定に関する規則（平成十二年文部省令第二十五号）又は技能審査の認定に関する規則（昭和四十二年文部省告示第二百三十七号）による文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修で、高等専門学校において高等専門学校教育に相当する水準を有すると認めたもの

2 第1項第1号から第3号に掲げる学修を行おうとする学生は、専攻科長を経て、校長に願い出て許可を得なければならない。

3 校長は、教育上有益と認めるときは、前項による願い出を許可することができる。

4 第1項第4号により認定する単位については、別に定める。

(認定の対象)

第4条 この規則において単位を認定する授業科目等は、第2条又は第3条第2項により校長が認めたものとする。

(単位認定申請)

第5条 学生は、許可を受けて修得した単位の認定を受けようとする場合には、速やかに単位を修得したことを証明する書類を添えて校長に申請するものとする。

(単位の認定)

第6条 前条により申請された単位の認定については、教務委員会の議を経て校長が行う。

2 前項により本校の教育課程の相当科目として適当と認められるものは、卒業要件科目とする。

3 前項により認定された科目以外の科目については、卒業要件外の科目として記録する。

(準用規定)

第7条 専攻科学生については、第2条を除きこの規則を準用する。この場合において、第6条第1項中「教務委員会」とあるのは「専攻科教務委員会」、同条第2項中「卒業要件科目」とあるのは「修了要件科目」、同条第3項中「卒業要件外の科目」とあるのは「修了要件外の科目」と読み替えるものとする。

附 則

この規則は、平成18年7月3日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

(出典 平成19年度 学生便覧 p.122～123)

## 資料 5-1-②-3 「校外実習 A シラバス」

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
校外実習 A Practice outside the School A	選 択	4 年	M	4 年 担 任	1	30 時 間 以 上	
[教 材] 実習先の企業で準備されたもの。							
[授業の目標と概要] 学生に現場における生産技術、管理技術、研究技術を総合的に修得させ、現場（工業社会）の状況を把握することや技術者としてのあり方を養うことを目標とする。							
[授業の進め方] 校外実習先の企業の指導担当員の指示による。							
[授業内容]							
授 業 項 目	時 間			内 容			
企業、公的研究所での実習 (インターンシップ)				民間企業や公的研究所や試験所において、その受け入れ機関の指導のもとに、実社会を体験する。 実習の日数は10日以上とし、実習内容は受け入れ機関の指示に従う。 終了時には学校より持参した実習修了書に受け入れ機関の証明を貰い学校に提出する。			
[到達目標] 企業における実習を通して、社会における技術者の役割を理解し、学習意欲の向上と卒業後の進路を決定する能力を身に付けさせる。							
[評価方法] 実習先からの証明書、活動報告書の提出の他、感想文の提出とプレゼンテーションを実施する。							
[関連科目] 機械工学科のすべての科目							
[学習上の注意] 実習先の指示に従うこと。							
秋田高専学習・教育目標	C-3			J A B E E 基 準		d-2(d)	

(出典 平成 19 年度 授業計画機械工学科 p.103)

## 資料 5-1-②-4 「校外実習 B シラバス」

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
校外実習 B Practice outside the School B	選択	4年	M	4年担任	2	60時間以上	
[教材] 実習先の企業で準備されたもの。							
[授業の目標と概要] 学生に現場における生産技術、管理技術、研究技術を総合的に修得させ、現場（工業社会）の状況を把握することや技術者としてのあり方を養うことを目標とする。							
[授業の進め方] 校外実習先の企業の指導担当員の指示による。							
[授業内容]							
授業項目		時間	内 容				
企業、公的研究所での実習 (インターンシップ)			民間企業や公的研究所や試験所において、その受け入れ機関の指導のもとに、実社会を体験する。 実習の日数は10日以上とし、実習内容は受け入れ機関の指示に従う。 終了時には学校より持参した実習修了書に受け入れ機関の証明を貰い学校に提出する。				
[到達目標] 企業における実習を通して、社会における技術者の役割を理解し、学習意欲の向上と卒業後の進路を決定する能力を身に付けさせる。							
[評価方法] 実習先からの証明書、活動報告書の提出の他、感想文の提出とプレゼンテーションを実施する。							
[関連科目] 機械工学科のすべての科目							
[学習上の注意] 実習先の指示に従うこと。							
秋田高専学習・教育目標		C-3	J A B E E 基準			d-2(d)	

## 資料 5-1-②-5 「留学生および編入生に対する補充授業一覧」

## 留学生および編入生に対する補充授業一覧

## 平成18年度

対象学生	学科	講義名	前期	後期
4年編入生	機械工学科	数学補習	金曜7,8時限	
	電気情報工学科		金曜7,8時限	
	環境都市工学科		金曜7,8時限	
3年留学生	機械工学科	機械基礎	月曜5～8時限	月曜3,4時限
				火曜5,6時限
	電気情報工学科	電気基礎	月曜1,2時限	月曜1,2時限
				火曜5,6時限
	環境都市工学科	建設基礎	木曜1,2時限	月曜3,4時限
				金曜3,4時限
	留学生共通	日本語教育	火曜3,4時限	火曜3,4時限
				水曜5,6時限
木曜5,6時限				木曜5,6時限

## 平成19年度

対象学生	学科	講義名	前期	後期
4年編入生	機械工学科	数学補習	金曜7,8時限	
	電気情報工学科		金曜7,8時限	
3年留学生	機械工学科	機械基礎	火曜5,6時限	
			金曜7,8時限	
	物質工学科	物質基礎	水曜3,4時限	
	環境都市工学科	建設基礎	月曜5,6時限	
			金曜3,4時限	
	留学生共通	日本語教育	火曜3,4時限	
水曜5,6時限				
木曜5,6時限				

(出典 授業時間割表から抜粋)

## (分析結果とその根拠理由)

学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応するために，様々な方策を施している。インターンシップは積極的に実施して単位認定を行っている。学外単位の取得に向けては，秋田県における大学，短期大学および高等専門学校間の単位互換に関する協定書により，秋田県内の大学との単位互換が可能である。また，工学の基本となる数学に対する入学生の学力変動に対応するために，数学の授業時間を増やした。英語によるプレゼンテーション能力向上は社会的要請であり，これに対応できるように，すべての学年で連続して設定し，継続的に学習できるようにしてある。

以上のことから，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮したものとなっているといえる。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

教育の目的（達成しようとしている基本的な成果）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態をバランス良く配置している（資料5-2-①-1）。一般科目、専門科目を問わず、教育内容によっては、講義科目であっても演習を取り入れるなどして、学生の理解を深める学習指導を行っている。専門科目における講義、演習、実験・実習の各授業形態別の単位数の配分において、演習、実験・実習は必要な量を確保している。実験・実習を通じて、講義で学んだ理論を修得できるようにしている。

「(B)工学基礎としての自然科学系科目を理解する」という目的に沿って、低学年では基礎的な内容を身につけさせ、高学年では専門的な内容を身につけさせるよう科目を構成している。教材の工夫については、低学年の数学では独自の問題集（資料5-2-①-2）を作成し、それを利用して計算力をつける工夫をしている。第3学年の学生を15～16人に分けて行う教養ゼミナールでは、様々なテーマについて、対話・討論型授業を頻繁に行っている（資料5-2-①-3）。

「(C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する」という目的に沿って、英語教育に関しては、基礎的内容から始まり、高学年では専門に関する英語の講義を行っている（前述資料5-1-①-1, 6～9）。会話力の育成を図るために、ALC NetAcademyを利用した情報機器を取り入れた教育も行っている（資料5-2-①-4）。

「(E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する」という目的に沿って、各専門学科では、第1学年にものづくり教育の一環として「工作実習」を導入している（後述資料5-2-③-1）。

「(F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける」という目的に沿って、専門学科では、少人数授業として、第4学年から基礎研究、第5学年では卒業研究を行い、一人の教員が3～4人程度の学生を受け持って授業を行っている（資料5-2-①-5～6）。さらに、コミュニケーション能力を高めるために、対話・討論型授業が頻繁に行われている。

基礎学力不足の学生に対する配慮としては、各科目において夏季休業中、冬季休業中に補習授業を実施している。さらに、数学教員は組織的に年4回、定期試験前に、第1・2学年で数学の基礎学力不足の学生に対する補充教育を実施している（資料5-2-①-7）。

資料5-2-①-1 「学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する授業形態の割合」

学年	学科名	合計単位数	学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する授業形態の割合						専門講義科目			実験実習			基礎研究と卒研									
			(A)自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。		(B)工学基礎としての自然科学系科目の学習・文化を理解する能力、互いの意識の共通化ができる実践的な英語能力を修得する。		(C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意識の共通化ができる実践的な英語能力を修得する。		(D)実践的かつ専門的な知識・技術の基礎となる専門基礎能力を修得する。		(E)授業教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、研究・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。			(F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。										
			講義	演習	実験・実習	合計	講義	演習	実験・実習	合計	講義	演習	実験・実習	合計	講義	演習	実験・実習	合計						
1年	機械工学科	割合	5	2	0	7	10	0	10	6	2	0	8	3	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0
		合計単位数	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		割合	3	2	0	5	11	0	11	7	2	0	9	3	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0
		合計単位数	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		割合	2	2	0	4	9	0	9	4	0	0	4	11	3	0	14	0	0	0	0	0	0	0
2年	機械工学科	割合	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	78.6%	21.4%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		合計単位数	2	1	0	3	7	0	7	6	0	0	6	17	2	0	19	0	0	0	0	0	0	0
		割合	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	89.5%	10.5%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		合計単位数	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	2	0	19	0	0	0	0	0	0	0
		割合	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	89.5%	10.5%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3年	電気情報工学科	割合	5	2	0	7	10	0	10	6	2	0	8	3	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0
		合計単位数	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		割合	3	2	0	5	11	0	11	7	2	0	9	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
		合計単位数	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		割合	2	2	0	4	9	0	9	8	0	0	8	10	3	0	13	0	0	0	0	0	0	0
4年	電気情報工学科	割合	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	76.9%	23.1%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		合計単位数	2	1	0	3	7	0	7	6	0	0	6	16	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0
		割合	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		合計単位数	1	1	0	2	1	0	1	5	0	0	5	21	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0
		割合	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5年	電気情報工学科	割合	7	2	0	9	6	0	6	8	1	0	9	8	1	0	9	0	0	0	0	0	0	0
		合計単位数	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	88.9%	11.1%	0.0%	100.0%	88.3%	11.7%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		割合	7	0	2	9	9	0	9	0	6	0	6	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0
		合計単位数	77.8%	0.0%	22.2%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		割合	6	2	0	8	9	0	9	0	4	0	4	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0
6年	物質工学科	割合	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		合計単位数	2	3	0	5	0	0	3	2	3	0	5	18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0
		割合	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		合計単位数	2	1	0	3	1	0	1	2	3	0	5	20	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0
		割合	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7年	環境都市工学科	割合	7	2	0	9	10	0	10	4	2	0	6	4	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0
		合計単位数	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		割合	6	2	0	8	8	0	8	4	2	0	6	5	2	0	7	0	0	0	0	0	0	0
		合計単位数	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		割合	6	0	0	6	8	0	8	4	0	0	4	9	1	0	10	0	0	0	0	0	0	0
8年	環境都市工学科	割合	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		合計単位数	4	1	0	5	10	0	10	0	0	0	0	16	3	0	19	0	0	0	0	0	0	0
		割合	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	84.2%	15.8%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		合計単位数	2	1	0	3	2	0	2	3	1	0	4	15	4	0	19	0	0	0	0	0	0	0
		割合	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	78.9%	21.1%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(出典 カリキュラム表から抜粋)

## 資料 5 - 2 - ① - 2 「秋田高専 新 数学問題集 2」

## 目次

<b>第 2 部 基礎数学 (1 年生)</b>	<b>5</b>		
<b>第 1 章 場合の数</b>	<b>7</b>		
1.1 場合の数	7		
1.2 順列	8		
1.3 組合せ	10		
1.4 二項定理	11		
<b>第 2 章 数列</b>	<b>13</b>		
2.1 数列	13		
2.2 等差数列	14		
2.3 等比数列	16		
2.4 和の記号 $\Sigma$	19		
<b>第 3 部 微分・積分 (2 年生)</b>	<b>21</b>		
<b>第 3 章 数列の極限</b>	<b>23</b>		
3.1 数列の極限	23		
3.2 級数の和	26		
<b>第 4 章 微分</b>	<b>29</b>		
4.1 関数の極限 (I)	29		
4.2 関数の連続	31		
4.3 微分係数と導関数	32		
4.4 導関数の計算	33		
4.4.1 基本的な関数の微分	33		
4.4.2 関数の積・商の微分	34		
4.4.3 合成関数の微分	35		
4.4.4 媒介変数表示の関数の微分 (I)	38		
4.4.5 極限值 $e$	39		
4.4.6 指数関数・対数関数の微分	40		
4.4.7 $\frac{\sin x}{x}$ の極限	43		
4.4.8 三角関数の微分	44		
4.4.9 媒介変数表示の関数の微分 (II)	45		
4.4.10 対数微分法	46		
4.4.11 逆三角関数	46		
4.4.12 逆三角関数の微分	47		
4.4.13 $n$ 次導関数	48		
4.4.14 総合問題	49		
4.5 微分の応用	51		
4.5.1 L'Hopital の定理	51		
4.5.2 関数の極限 (II)	51		
4.5.3 Taylor の定理	53		
4.5.4 関数の変動	54		
4.6 直交座標・極座標	57		
<b>第 5 章 積分</b>	<b>59</b>		
5.1 不定積分	59		
5.1.1 基本的な関数の不定積分	59		
5.1.2 $f(ax + b)$ の形	61		
5.1.3 有理関数の積分	62		
5.1.4 置換積分	63		
5.1.5 三角関数の有理式の積分	64		
5.1.6 部分積分	65		
5.1.7 無理関数の積分	67		
5.1.8 いろいろな不定積分	68		
5.2 定積分	71		
5.2.1 定積分の基本性質	71		
5.2.2 基本的な関数の定積分	72		
5.2.3 $ax + b$ の形	74		
5.2.4 置換積分	76		
5.2.5 部分積分	77		
5.2.6 偶関数と奇関数の定積分	78		
5.2.7 いろいろな定積分	79		
5.2.8 広義積分	81		
5.3 積分の応用	82		
5.3.1 面積	82		
5.3.2 曲線の長さ	82		
5.3.3 回転体の体積	83		

(出典 秋田高専 新数学問題集 2 p. 3 ~ 4)



## 資料5-2-①-3 「教養ゼミナール」

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
教養ゼミナール Cultural Seminar	必修	3年	M E C B	人文・自然科学系教員 人文・自然科学系教員 人文・自然科学系教員 人文・自然科学系教員	1	前期週2時間 (合計30時間)	
[教材] 各担当教員の手作り教材							
[授業の目標と概要] 学生の自学自習を促しながら、問題解決のための議論・実験実習・調査などの学習を行わせる。 技術者にとって、必要欠くべからざること、すなわち、「自ら学び、自ら習う」ことを実践させるものである。							
[授業の進め方] 希望により各テーマに割り振られた少人数グループにおいて、ゼミナール形式で授業を進める。							
[授業内容]							
授業項目(テーマ)	時間	内 容					
1. 日本史発見(脇野博)	28	小説やドラマで取り上げられる日本史の事件・人物の真実の姿を自ら文献や史料を調べて明らかにし、小論文にまとめる。					
2. TOEIC Listening Comprehension and Movies(小林 貢)	28	英語のみの映画を用いた欧米のシミュレーション的な空間において、欧米文化とその言語である英語をできる限り理解する。					
3. 生成文法概論(統率・束縛理論・ミニマリストプログラム)(菅原隆行)	28	「人間の脳には生まれながらにして文法能力が備わっている」という生成文法理論を通して、英文法をちがった角度から概観する。					
4. 自分を考える(水野麗)	28	「自分」について、多角的に考察する。基本資料をチェックし、インターネットと書籍によって、問題点を調査、発表する。					
5. 無限級数(麻生正道)	28	無限級数の収束・発散を理解し、べき級数の性質まで学ぶ。					
6. 大学編入試験問題演習(佐藤尊文)	28	大学編入試験問題を題材とし、ゼミ形式で数学の問題に取り組む。					
7. 論理学(森本真理)	28	論理学の基礎がわかる。					
8. からだの理(ことわり)(渡邊朋雄)	28	人体の仕組みや地球環境などについて学ぶ。					
9. 原子核(上田学)	28	原子核の基本的な性質が理解できる。					
10. 環境と化学物質(佐藤彰彦)	28	実験を通して1,2年で学んだ化学の知識を深め種々の化学物質と環境の関わり合いが理解できる。					
授業のまとめ	2	授業のまとめなど、授業アンケート					
[到達目標] 技術者の最も必要とする態度である「自ら学び、自ら習う」ことを実践させ、体得させる。							
[評価方法] 学習態度、実験態度、発表態度、レポート提出状況や出席状況等を総合して評価する。							
[関連科目] 人文・自然科学系全教科							
[学習上の注意] 自ら選択したテーマに基づいて、意欲をもって学習に取り組むこと。							
秋田高専学習・教育目標	B-1, D	JABEE基準					

## 資料5-2-①-4 「英語シラバス」

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
英語 English	必修	3年	M・E	菅原 隆行	4	通年週4時間 (合計120時間)	
[教材] 教科書:「Intensive Training for the TOEIC Test」成美堂・「総合英語Forest 完全理解実践ドリル」桐原書店 補助教材:「決定版 英語シャドーイング」コスモピア・「データベース5500 合格英単語・熟語」桐原書店							
[授業の目標と概要] TOEICの問題を解きながら、ビジネス英語とアメリカ文化に対する知識を深める。							
[授業の進め方] 授業は主に演習形式で行い、授業時間内に随時単語テストと、各試験前最終授業時間にTOEICリスニングテストを行う。試験結果が合格点に達しない場合、再テストを行うことがある。							
[授業内容]							
授業項目	時間	内 容					
授業ガイダンス	1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。					
TOEIC模擬試験・TOEICガイダンス	5	学生個人の現在の英語力を把握してもらう。					
アルクネットアカデミー Unit 1～Unit 5 (Intensive) Lesson 1・2 (Forest) 第1章～第7章	6 8 10	TOEIC新テスト方式を理解し、対応することができる。 Part I・Part II の傾向を理解し、対応できる。 時制・完了形・助動詞・受動態が理解できる。					
TOEICリスニングテスト I	2						
前期中間試験	1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	1	中間試験の解説と解答					
アルクネットアカデミー Unit 6～Unit 10 (Intensive) Lesson 3・4 (Forest) 第8章～第12章	7 8 8	シャドーイングの方法がわかる。 Part III・Part IV の傾向を理解し、対応できる。 動名詞・分詞・比較・関係詞・仮定法が理解できる。					
TOEICリスニングテスト II	2						
前期末試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	2	前期末試験の解説と解答					
アルクネットアカデミー Unit 11～Unit 15 (Intensive) Lesson 5・6 (Forest) 第13章～第19章	8 10 12	速読ができる。 Part V・Part VI の傾向を理解し、対応できる。 話法・名詞構文・倒置・強調構文が理解できる。					
TOEICリスニングテスト III	2						
後期中間試験	1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	1	中間試験の解説と解答					
アルクネットアカデミー Unit 16～Unit 20 (Intensive) Lesson 7 (Forest) 第20章～第24章	8 9 8	大量の情報から必要な情報を選ぶことができる。 Part VII の傾向を理解し、対応できる。 形容詞・前置詞・接続詞の用法が理解できる。					
学年末試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	2	試験の解説と解答、授業アンケート、本授業のまとめ					
[到達目標] TOEIC IPテストで300点相当以上のスコア獲得を目標にする。							
[評価方法] 合格点は50点である。各中間、期末成績を、試験結果を50%、小テスト(リスニングテスト)の結果を50%で評価する。 学年総合成績=(前期中間+前期期末+後期中間+学年末試験成績)/4							
[関連科目]							
[学習上の注意] 授業に積極的に参加し、読解演習の授業の際は予習をしておくこと。							
秋田高専学習・教育目標			D-2		JABEE基準		

## 資料 5 - 2 - ① - 5 「基礎研究シラバス」

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
基礎研究 Fundamental Research	必修	4年	M	機械工学科 基礎研究担当教員	1	後期週2時間 (合計30時間)	
[教材] 各指導教員が準備する卒業研究に関する英文論文あるいは専門書など。							
[授業の目標と概要] 前半は卒業研究を行うためのその分野の専門用語(特に英語)を理解し、雑誌会を中心とし基礎を学ぶ。 後半は卒業研究に円滑にはいるため、その分野の基本的な実験法や計算法を理解できるようにする。							
[授業の進め方] 各担当教員の指示による。							
[授業内容]							
授業項目	時間	内 容					
1. インターンシップ報告会(10月中) 2. 卒業研究テーマの提示(10月中) 4. 各教官がテーマの概要説明 5. 配属先を決定 6. テーマ別基礎勉強 7. 5年生の中間発表会の聴講 6. 分野別に実験装置、計算方法を学習	30	1. 夏季休業中に行ったインターンシップの報告会をする。 2. 教員が卒業研究テーマを10月中に学生に提示し卒業研究テーマを提示する。 3. 11月初旬に、担当教員から各テーマの目的などの概略の説明を受ける。さらに学生が詳細を知りたい場合は自由に研究室に行き説明を受けることができる。 5. 11月の中旬には配属先を決定し、すぐに配属先において専門分野別の本格的な研究の準備を行う。 6. 指導教員が提示する卒業研究テーマに関連した英語の文献の読解を行い、専門用語やその分野の基礎的な内容の理解を深める。 7. 11月の下旬に行われる5年生の卒業研究中間発表会を聞き、研究の進め方や発表の仕方を学ぶ。 6. 5年生の卒業研究に協力し、試験装置や計算方法などについての理解を深め、各自の卒業研究の内容や方法を修得しておく。 時間配分は各指導教員に一任。					
[到達目標] 専門分野の文献を理解できるように日本語及び英語の専門用語を修得し、専門の文献のゼミを経験し、卒業研究で使用する実験装置の使用や専門分野に特有なコンピュータ処理ができるようになることを到達目標とする。							
[評価方法]各指導教員が、①導入教育に対する態度、②読解力、③利用能力、④コミュニケーション能力を30, 20, 20, 30の割合で評価。 学年総合評価=①×0.3+②×0.2+③×0.2+④×0.3 60点以上を合格とする。							
[関連科目] 機械工学科のすべての科目							
[学習上の注意] 前半は英語の文献翻訳と理解に重点をおき、後半は5年生の卒業研究の引継ぎを主とする。							
秋田高専学習・教育目標	C-4, E-2	J A B E E 基準	e, g				

資料5-2-①-6 「卒業研究シラバス」

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
卒業研究 Graduation Research	必修	5年	M	機械工学科 卒業研究担当教員	7	通年週7時間 (合計210時間)	/
[教材] 各指導教員が準備または指示する文献、書物および学生が自分で探した文献							
[授業の目標と概要] それぞれの研究を通じて新しいことを行う場合の方法を学び、物事を総合的に把握する能力、まとめる能力、プレゼンテーション能力を養成する。また、自分の専門分野を構築する。							
[授業の進め方] 各担当教員の指示による。最後に研究論文をまとめ、成果の発表を行う。							
[授業内容]							
授業項目		時間	内 容				
○深絞り加工の研究		210	左記の授業項目は、今年度で予定している卒業研究テーマであり、各教員は2から5名の学生の研究指導をする。 時間数には全体で行う中間発表、卒業研究発表の時間数を含む				
○非対称形状はりの応力解析		210					
○超音波で移動物体を認識する技術研究		210					
○視覚障害者用音響信号処理技術の研究		210					
○水蓄熱槽に投入する潜熱蓄熱材の有効性		210					
○ビニールホースの熱伝達特性		210					
○極小管内面の仕上げ法の研究		210					
○ラッピング加工プロセスの研究		210					
○車内熱気対策に関する研究		210					
○ソーラーカーの動力伝達・走行性能に関する研究		210					
○固相接合に関する実験研究Ⅰ		210					
○固相接合に関する実験研究Ⅱ		210					
○熱交換器に関する基礎的研究Ⅰ（強制対流熱伝達）		210					
○熱交換器に関する基礎的研究Ⅱ（沸騰熱伝達）		210					
○2足歩行ロボットに関する研究		210					
○劣駆動ロボットに関する研究		210					
○制振鋼板の振動特性に関する研究		210					
○可変ばねによる振動の低減		210					
○水中振動パラメータの推定		210					
○アルミニウム缶の耐突き刺し強度改善		210					
○CNC旋盤の加工空間形状設計に関する研究		210					
○NCボール盤の試作		210					
○温度流速計による加熱気流の測定		210					
[到達目標] 与えられたテーマを理解する能力、自主的かつ積極的な取り組み姿勢、最後に総合的にまとめること及びそれを発表するプレゼンテーションができるようになることを到達目標とする。							
[評価方法] 本校の評価方法に基づいて、研究態度、発表状況、論文内容などにより総合的に評価する。 60点以上を合格とする。 学年総合評価＝理解度×0.15＋創意工夫×0.1＋達成度×0.1＋実験に対する姿勢×0.15＋論文内容×0.2＋質疑応答での理解度×0.2＋図・表・式の出来映え×0.1							
[関連科目] 機械工学科のすべての科目							
[学習上の注意] 各指導教員の専門分野の技術を十分吸収するように務めること。							
秋田高専学習・教育目標		C-4, E-2	J A B E E 基準			e, g, h	

資料5-2-①-7 「微分積分学Ⅰチェックテストについて」

2006年5月12日

2年生へ

数学主任

## 微分積分学Ⅰチェックテストについて

前期中間試験に先立ち、以下の要領でチェックテストを実施します。

日時：5月22日(月)

MC：5-6限内 EB：1-2限内

範囲：[1] 場合の数 p.9 1.1 ~ p.13 1.31

[2] 数列 p.15 2.1 ~ p.20 2.21

[3]  $\Sigma$ , 累乗の和 p.21 2.21 ~ p.22 2.26

注意1：補習対象者は次の日時に集合すること

MB：5月26日(金) 7限

6月 2日(金) 7限

EC：5月31日(水) 8限

6月 7日(水) 8限

注意2：『問題集ノート』は、微分積分学Ⅰの前期中間試験日に提出すること

範囲は、上記[1]~[3]に加え 次の[4], [5]まで

[4] 数列の極限 p.25 3.1 ~ p.27 3.10

[5] 級数 p.28 3.11 ~ p.29 3.14

(出典 教室掲示物)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の達成しようとする基本的な成果に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態をバランス良く配置している。実験・実習を通じて、講義で学んだ理論について修得できるようにしている。教育内容によっては、講義科目であっても演習を取り入れるなどして、学生の理解を深める学習指導を行っている。教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、情報機器を取り入れた教育、基礎学力不足の学生に配慮した教育も行われている。

以上のことから、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているといえる。

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

前述資料5-1-①-1～5の教育課程表に沿って、科目ごとのシラバスを毎年作成している。シラバスの内容は、学生が学習を進めるうえで必要な情報を載せている(前述資料5-1-①-10)。

シラバスは、年度の初めに全学生と全教員に配布されている。各教員は学期の初めの授業時に、シラバスを用いて学生に授業内容や学習方法についてのガイダンスを行っている。また、各教員は高学年の授業において、学生による授業進行状況の確認の際にシラバスを活用している。(資料5-2-②-1)。

シラバスの活用度については、学生による「授業アンケート」ならびに「学校の授業の諸制度と学習の達成度に関するアンケート」によって実態を把握している(資料5-2-②-2～3)。アンケート結果から、各項目とも70～80%程度の学生がシラバスを活用している状況にある。

高学年に導入している学修単位については、シラバスに明記するとともに、最初の授業のガイダンスで詳しく説明している。特に、自学自習時間と単位の関係を学生に理解させている。アンケート結果から、第4、5学年の学修単位の理解度は平均すると80%程度の学生が理解しており、おおむね周知されているといえる(資料5-2-②-4)。

資料5-2-②-1 「授業計画の授業経過確認」

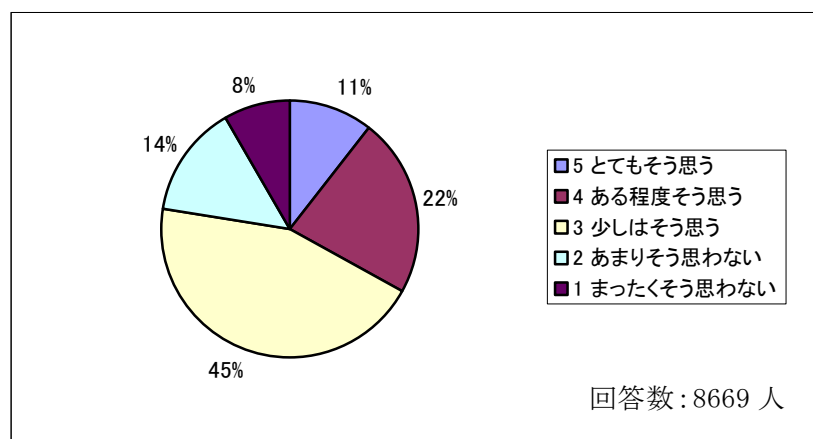
授業科目		必・選	担当教員	学年	学科	単位数	授業時間	自学自習時間
応用解析II Applied AnalysisII		必修	成田文雄	4年	M	2	通年週2時間 (合計60時間)	
[教材] 教科書：「基礎解析学」(改訂版)(矢野健太郎、石原繁 共著、裳華房)								
[授業の目標と概要] 複素数、複素関数の基本、複素関数の微分積分の基本的な性質を修得する。								
[授業の進め方] 講義形式で演習もまじえて行う。小テストとレポート提出を行う。中間試験で合格点がとれない場合、再試験を行うことがある。								
[授業内容]								
授業項目		時間	内 容					
1	授業のガイダンス	4/12 ③	授業の進め方と評価の仕方について説明する。					
	複素数の関数	4/12 ③	複素数の四則演算ができる。					
	(1) 複素数	4/12 ③	複素数のn乗根を求めることができる。					
(2) n乗根	5/10 ②	複素数のn乗根を求めることができる。						
(3) 数列・級数・関数	7/7 ①, 7/11 ④	無限級数の収束、発散、複素関数の極限がわかる。						
前期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
2	試験の解説と解答	4	中間試験の解説と解答					
	正則関数		正則関数とはなにかを理解できる。					
	(1) 正則関数	7/11 ④	コーシー・リーマンの方程式を利用できる。					
(2) コーシー・リーマンの方程式	7/11 ④	いろいろな正則関数があることがわかる。						
(3) 基本的な正則関数	7/11 ④, 7/11 ⑤, 7/11 ⑥							
前期末試験		あり	上記項目について学習した内容の到達度を確認する。					

(出典 JABEE 資料)

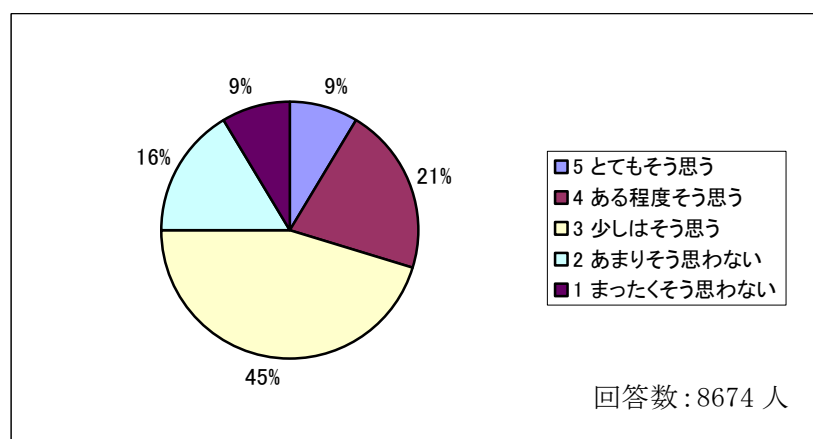
## 資料5-2-②-2 「シラバスの活用度に関するアンケート結果」

&lt;講義科目&gt;

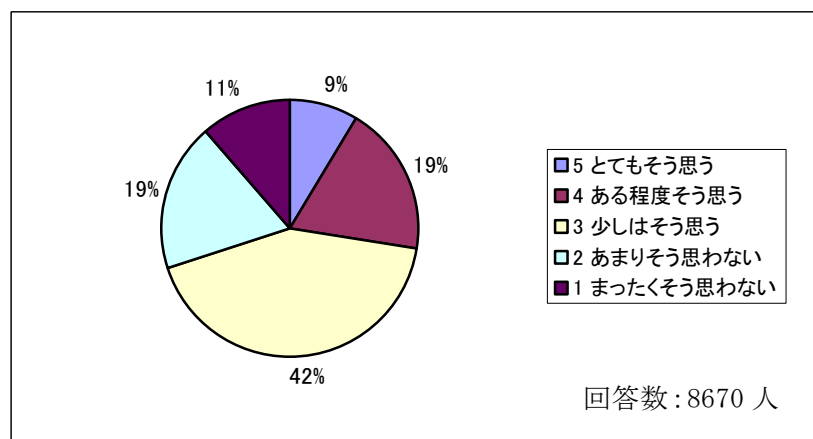
Q3 授業のガイダンスにおいて先生はシラバスを活用していたと思いますか



Q4 授業のガイダンスにおいてシラバスの内容を理解したと思いますか

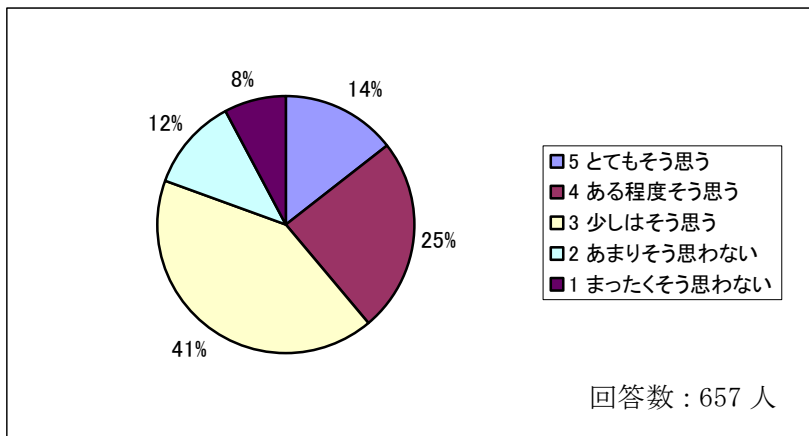


Q5 シラバスを見ることで評価方法や授業の進行状況の把握や理解の助けになったと思いますか

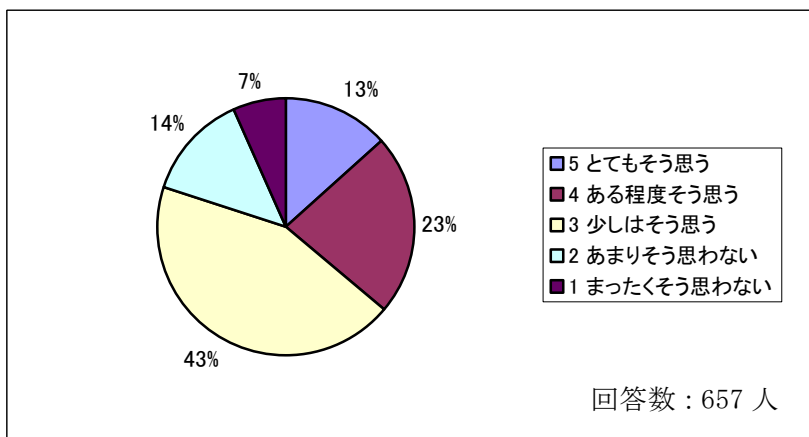


<体育科目>

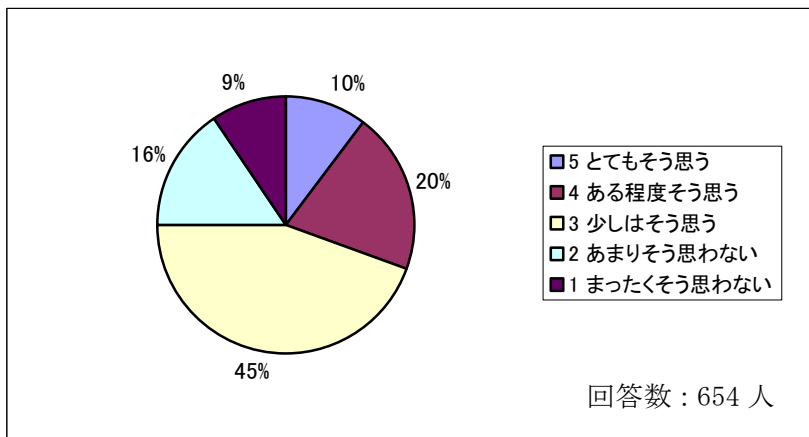
Q1 授業のガイダンスにおいて先生はシラバスを活用していたと思いますか



Q2 授業のガイダンスにおいてシラバスの内容を理解したと思いますか



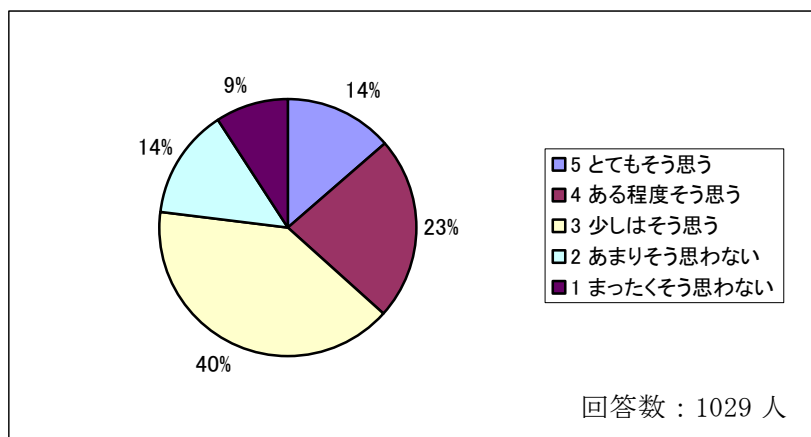
Q3 シラバスを見ることで評価方法や授業の進行状況の把握や理解の助けになったと思いますか



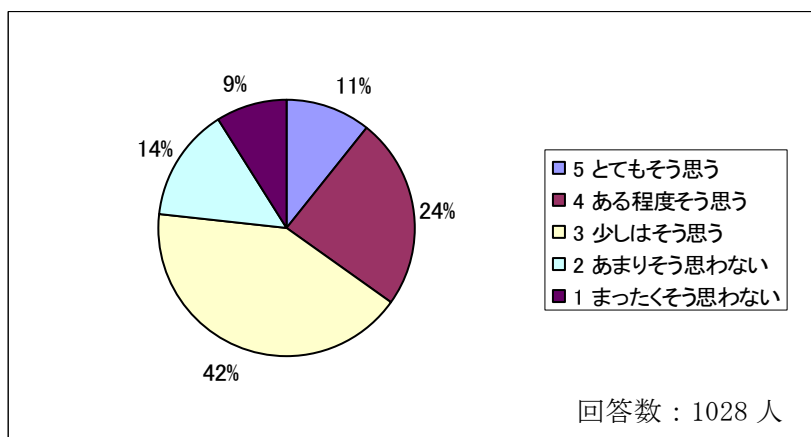


<実験科目>

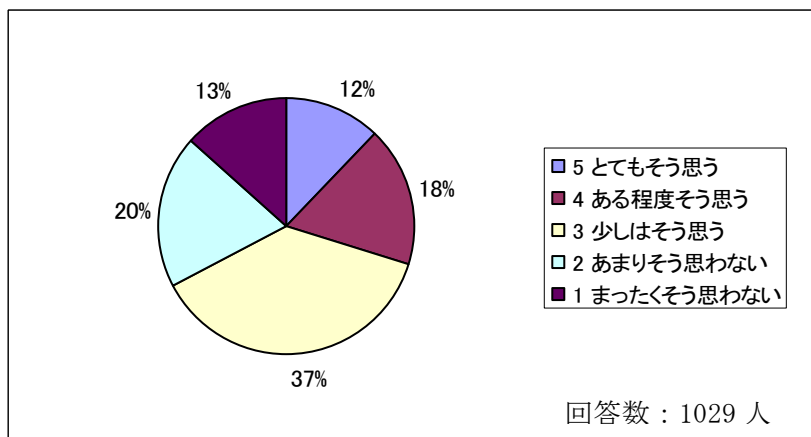
Q3 実験・実習のガイダンスにおいて先生はシラバスを活用していたと思いますか



Q4 実験・実習のガイダンスにおいてシラバスの内容を理解したと思いますか



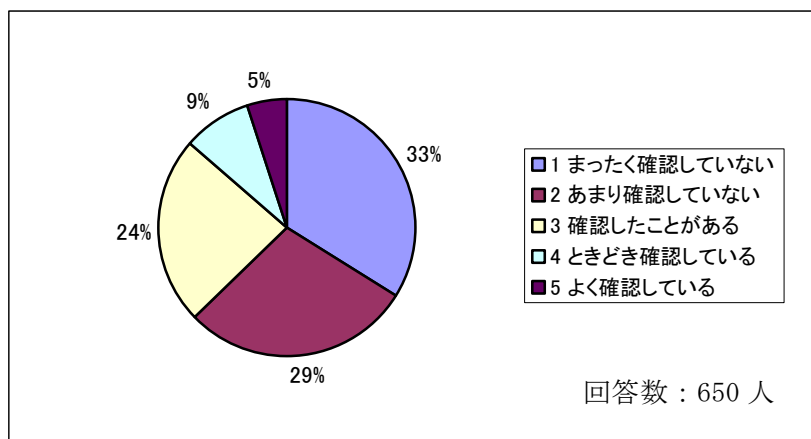
Q5 シラバスを見ることで評価方法や実験・実習の進行状況の把握や理解の助けになったと思いますか



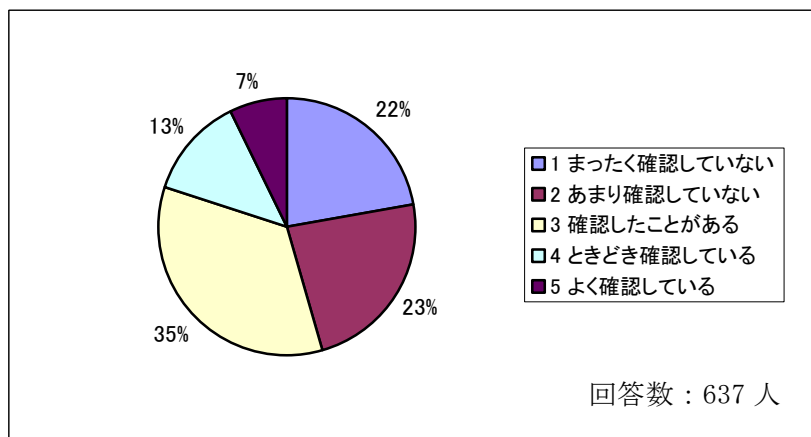
(出典 授業アンケート調査結果－平成18年度版－ p.25～26, 33, 40～41)

資料5-2-②-3 「シラバスの活用度に関するアンケート結果」

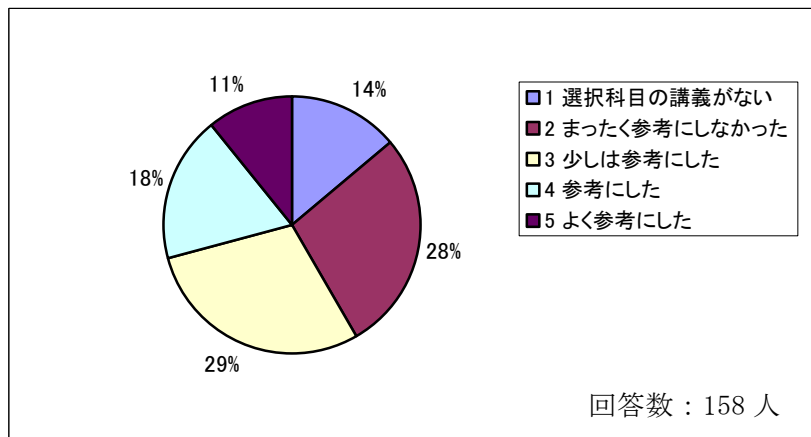
Q7 授業の進み具合や試験範囲などをシラバスを見て確認していますか？（準学士課程の1～4年生）



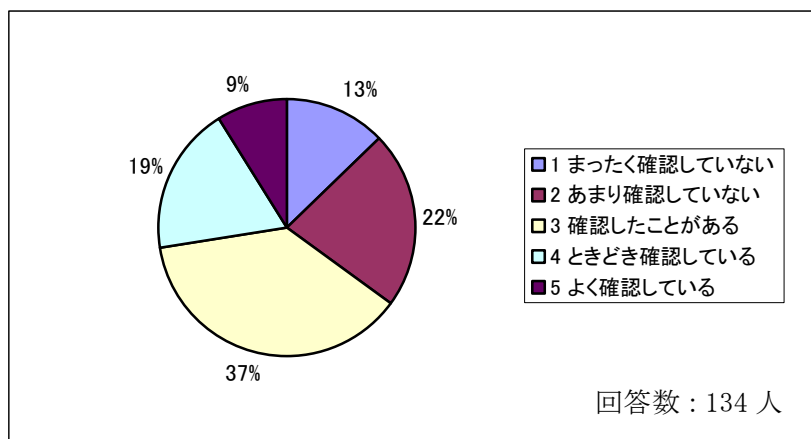
Q8 成績評価の方法についてシラバスにより確認していますか？（準学士課程の1～4年生）



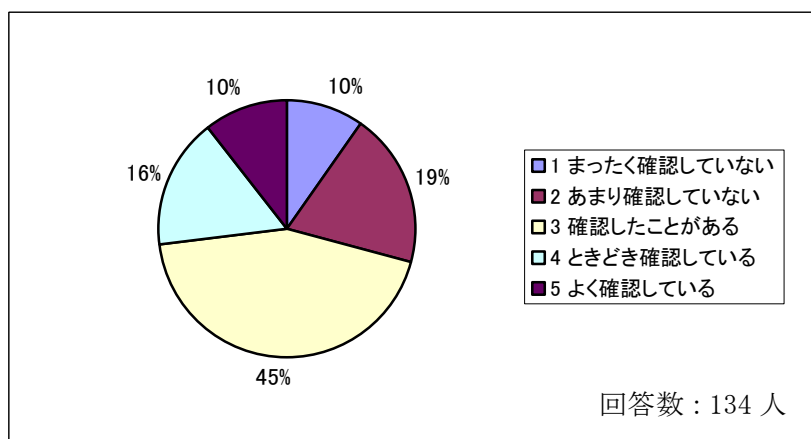
Q9 （4年生のみ）選択科目の選定において、シラバスを参考にしましたか？（準学士課程の4年生）



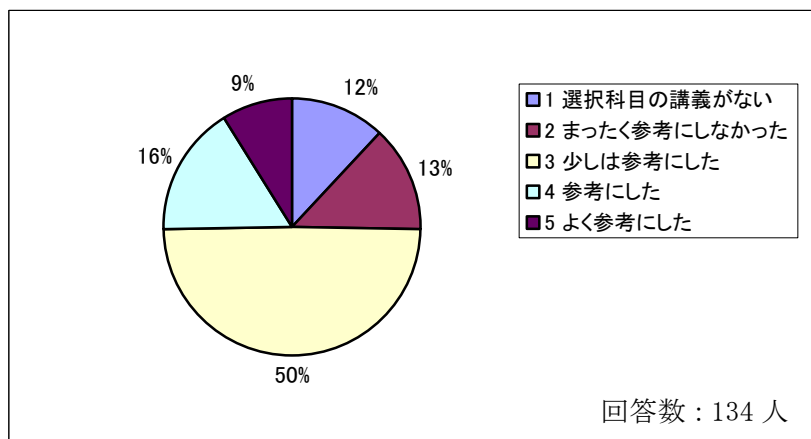
Q7 授業の進み具合や試験範囲などをシラバスを見て確認していますか？（準学士課程卒業予定者）



Q8 成績評価の方法についてシラバスにより確認していますか？（準学士課程卒業予定者）



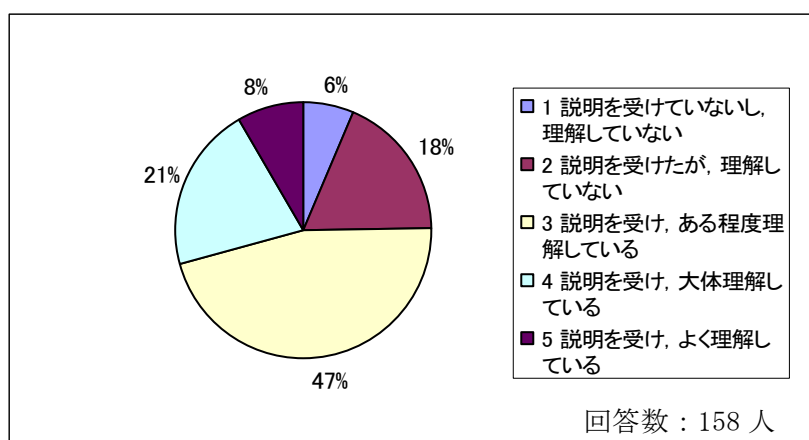
Q9 選択科目の選定において、シラバスを参考にしましたか？（準学士課程卒業予定者）



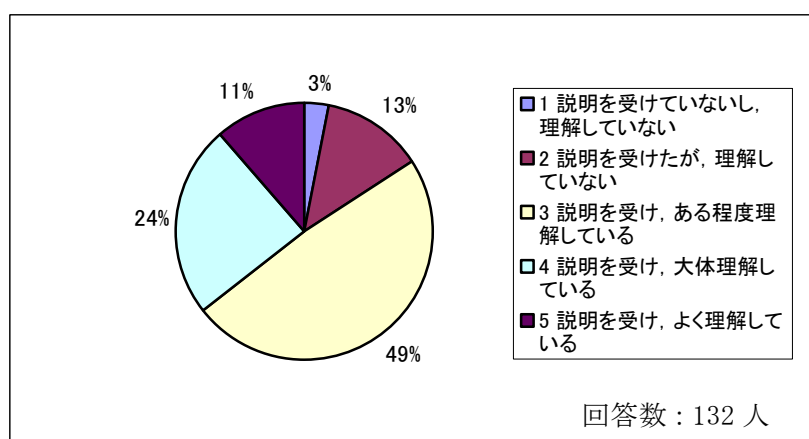
(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成18年度版－ p. 18, 23)

## 資料5-2-②-4 「学修単位の理解度に関するアンケート調査」

Q10 (4年生のみ) 学修単位科目の学習時間の説明が行われ、理解しましたか？(準学士課程)



Q10 学修単位科目の学習時間の説明が行われ、理解しましたか？(準学士課程卒業予定者)



(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果—平成18年度版— p.19, 24)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程表に沿って、科目ごとのシラバスを毎年作成し、全学生と全教員に配布している。シラバスの内容は、学生が学習を進めるうえで必要な情報をコンパクトにまとめている。学修単位についても、授業以外の学修の時間についてシラバスに明示している。シラバスは、各教員による授業ガイダンス、授業の進行状況の学生による確認などに活用している。学生のシラバス活用度については、アンケートから実態を把握し、良好な結果を得ている。

以上のことから、教育課程の編成の趣旨に沿い、適切なシラバスを作成し活用しているといえる。

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

〔創造性を育む教育の工夫〕

学生の創造性を育む取り組みの一環として、平成18年度より工作実習による「ものづくり教育」を、全第1学年に取り入れている（資料5-2-③-1）。

各学科各学年で実施する実験・実習でも、自ら装置を作ることにより、創造性が発揮できるようにしている。たとえば、機械工学科では以前から、第3学年に工作実習等の基礎的技術、図面作製、部品加工を基に、学生自ら設計し製作する「創造設計製作」を設けている（資料5-2-③-2）。また、電気情報工学科では第3学年の実験実習において、学生一人一人が自らプログラムを作り、ワンチップマイコンを動作させる実験を行っている（資料5-2-③-3）。

全学科の第4学年の基礎研究（前述資料5-2-①-5）も創造性を育む機会となっている。たとえば、電気情報工学科ではField Programmable Gate Array (FPGA;書き換え可能な論理回路)を、各学生に自主的に学習させている。問題点については、ホームページや参考書を頼りに、自ら解決することを求めている。最終的には、独自の回路の製作を課しており、そこで創造性を身に付ける指導を行っている（資料5-2-③-4）。

本校の教育で、もっとも学生の創造性を育てているのは第5学年の卒業研究である。学生は与えられた課題について、調査や議論を行いながら、計算や実験を進め、成果を出すことが求められる。そして、卒業論文や卒業研究発表により、課題を仕上げなくてはならない。この過程をとおして、教員は指示を行うが、学生自らの発想で課題解決に至るように配慮を行っている。

〔インターンシップの活用〕

インターンシップについては、社会経験の大事さを説き、積極的に参加するよう指導しており、多くの学生が経験している。その後の学業や進路決定の助けになるようにしている（前述資料5-1-②-3～4、資料5-2-③-5～6）。

資料5-2-③-1 「第1学年のものづくり教育科目一覧」

ものづくり教育 第1学年

科	授 業 科 目	単 位 数
機械工学科	工作実習 I	3
電気情報工学科	ものづくり工作実習	2
物質工学科	工作実習	1
環境都市工学科	工作実習	1

（出典 平成19年度 学生便覧 p.97, 102, 106, 109 から作表）

## 資料5-2-③-2 「創造設計製作シラバス」

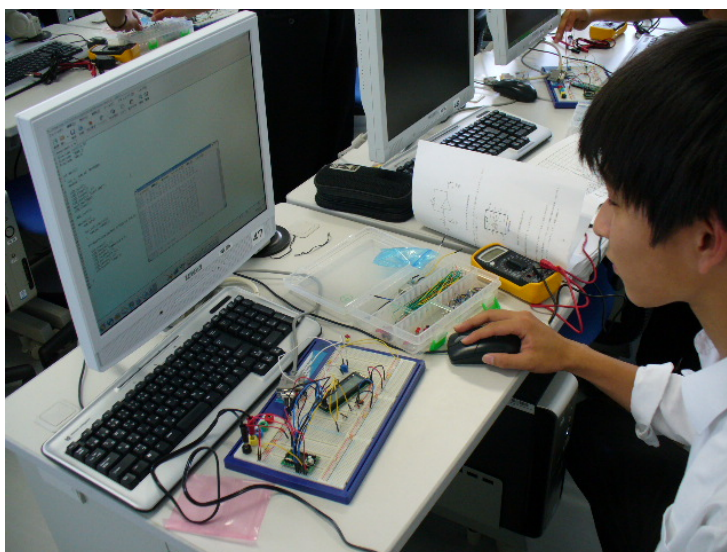
授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
創造設計製作 Mechanical Design and Technology	必修	3年	M	土田 一 今田良徳	2	後期週4時間 (合計60時間)	
[教材] 基礎シリーズ「機械実習 上・中・下」 嵯峨常生, 中西佑二監修 実教出版 「機械製図」 林 洋次 他 実教出版							
[授業の目標と概要] 与えられた課題を満足する1台の機械を設計・製作する。これにより専門的な知識と技術の深化, 統合化を図るとともに, 問題解決の能力や自発的, 創造的な態度の育成を図る。また, グループでの製作活動を通して, 工程管理並びに生産技術に関する基礎的概念を修得する。							
[授業の進め方] 実習形式で行う。グループ毎に計画を立てながら行う。課題レポートの提出を求める。							
[授業内容]							
授業項目	時間	内 容					
授業ガイダンス	2	授業の進め方と評価の仕方について説明する。					
1. 安全教育	2	工場作業における基本的約束を理解し, 常に安全に気を配りながら製作活動を行う姿勢を身につける。					
2. 設計仕様策定・製作計画	6	与えられた課題をどのようにして解決するかを図面上で討議することができる。 図面を基にして製作の工程を考えることができる。					
3. 設計案発表会	2	プレゼンテーション能力を養う。					
4. 図面作成・使用材料選定	10	品物を第三角法によって図面に表現できる。 目的に合った材料, 部品を選定できる。 組み立てを意識しながら, 部品の形状を決定できる。					
5. 製作	32	図面にしたがって部品を製作することができる。 部品を適切な加工法を選定し, 精度よく加工できる。 設計段階で考えることができなかった不具合を, 臨機応変に設計変更し, 製作することができる。					
6. コンテスト	2	設計・製作した機械の能力を説明できる。 製作した機械の能力を生かし, 競技することができる。					
7. 課題レポート作成	4	自己で行った, またはグループで行った製作活動(設計, 製図, 加工)について客観的に評価・反省し, 集団での製作活動の在るべき姿勢を身につける。 報告書の書き方を身につける。 本授業のまとめと授業アンケート					
[到達目標] 構想を実現化するための能力, 思い描いている品物を図面化したり, その図面にしたがって製作する品物を効率よく正確に作成できる能力を身につける。							
[評価方法] 課題レポート50%, 製作日誌の内容10%, 平素の活動の状況20%, 製作した機械の完成度10%, コンテストでの順位10%の割合で評価する。合格点は50点である。特に, レポートの未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 学年総合成績=課題レポート+製作日誌の内容+平素の活動状況+機械の完成度+コンテスト順位							
[関連科目] 設計製図, 工作実習, 機械製作法							
[学習上の注意] 製作活動は主体的に行うこと。製作の時間は授業時間のみでは足りないと考えられるため, 放課後等を利用して積極的に取り組むこと。							
秋田高専学習 ・教育目標	C-2 C-4	J A B E E 基準					

資料 5 - 2 - ③ - 3 「FPGA 学習風景」



(出典 電気情報工学科担当教員資料)

資料 5 - 2 - ③ - 4 「電気情報工学科実験実習風景 (ワンチップマイコンの実習)」



(出典 電気情報工学科担当教員資料)

## 資料5-2-③-5 「平成18年度校外実習先一覧」

#	会社名	実習期間	実習生氏名1	所属 学科	実習生氏名2	所属 学科	実習生氏名3	所属 学科	実習生氏名 4	所属 学科	実習生氏名 5	所属 学科	実習学生数
1	秋田県農林水産技術センター総合食品研究所	7/24-7/28	伊藤 将太	C	藤原 雄二	C	中山 浩太	C					3
2	秋田県庁	7/24-7/28	菅原 将史	B									1
3	(株) 秋田県分析化学センター	7/24-7/28	八端 文也	C									1
4	秋田県立大学木材高度加工研究所	8/17-8/23	榎 将章	B	米澤公太郎	B							2
5	秋田指月(株)	8/ 1-8/ 4	小原 貢輝	E	中嶋 聡	E							2
6	秋田市役所	8/ 7-8/11	成田 直子	B									1
7	秋田精工(株)	8/ 7-8/11	村井 慶之介	M	渡部 俊	M	柳橋 俊	E					3
8	秋田ダイヤ販売(株)	8/ 2-8/11	海和 悠	M	塚田 直也	M							2
9	(株) 秋田電子システムズ	8/ 2-8/11	新井 貴之	専									1
10	旭化成(株)	8/21-8/25	鈴木 夢夢	M	山田 澄	C							2
11	(株) I N A X	8/21-9/ 1	加賀 達也	M	松橋 社那	M	茂呂 珠枝	C					3
12	NHK秋田放送局	7/24-7/28	漆戸 宏平	E									1
13	(株) FM秋田	8/ 9-8/11 8/18-8/19	安藤 太一	E	藤田 豪士	E	佐藤 望	B	山方 貴士	B			4
14	男児市役所	7/24-7/26 7/31-8/ 1	小間屋 佐武	B	斎藤 和也	B							2
15	奥山ポーリング(株)	7/24-7/28	斎藤 雅奈	B	高橋 祐也	B							2
16	花王(株)	7/25-8/ 3	藤川 拓実	C	佐々木 恭太	M							2
17	鹿島道路(株)東北支店秋田営業所	8/ 1-8/10	齋藤 智徳	B									1
18	鹿角市役所	7/24-7/28	小野 将文	B									1
19	(株) カネカ	8/ 2-8/11	渡部 雄二	M									1
20	コスモ石油(株)千葉製油所	8/21-8/25	日里 由也	C									1
21	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所		大久保 洋祐	B	菅原 真之介	B							2
22	国土交通省東北地方整備局秋田港湾事務所		吉田 未里	B									1
23	国土交通省東北地方整備局海ダム調査事務所		藤田 啓	B									1
24	国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所		安藤 尚也	B	相馬 健太郎	B	田口 純輝	B					3
25	小林工業(株)	8/ 7-8/10 8/ 8-8/11	真壁 一輝	M	佐藤 渉	M							1
26	(株) 沢木組	7/24-7/29	能登谷 孝介	B									1
27	J S R(株)千葉工場	7/31-8/ 8	吉谷 晃司	M									1
28	ジュキ電子工業	7/25-7/27	武石 啓	M	谷村 竜大	E	吉田 達也	E					3
29	首都高速道路(株)	8/ 7-8/11	井上 智史	B									1
30	新日本石油(株)中央技術研究所	8/21-8/25	中川 京	C									1
31	(株) スズキ部品秋田	7/24-7/28	大橋 一水	M	佐藤 久嗣	M							2
32	住友テック(株)	7/24-8/ 4	相原 忠王	M	宇佐美 光宏	E							2
33	住友化学(株)千葉工場		石山 瞬	E	大越 誠	C							2
34	(株) 仙台技術サービス		近間 和紀	B	成田 雄一	B							2
35	仙北地域振興局 仙北平野農村整備事務所	7/24-7/28	戸嶋 英	B									1
36	総合警備保障(株)東北採用センター	8/21-8/25	熊谷 晃	E	橋本 幸大	E							2
37	第一ファルマテック(株)秋田工場	8/21-8/25	鈴木 一也	C	永井 夏美	C	晶山 健太	C					3
38	ダイキン工業(株)	7/31-8/11	石田 健晃	C									1
39	大日本インキ(株)	7/31-8/ 8 7/24-8/ 4	若松 拓馬	E	鈴木 将太	C							1
40	(株) ダイヤコンサルタント東北支店秋田支店		中村 大輝	B	本間 大斗	B							2
41	(株) タマディック	8/21-8/24	田端 泰寛	M									1
42	チバテック(株)湯沢工場	8/ 7-8/24 7/24-8/ 4	小南 義実	M	高橋 直也	E	高橋 雄也	E	千葉 雄大	E			3
43	中外製薬(株)	8/28-9/ 1	米塚 和也	E									1
44	中部電力(株)	8/ 7-8/11	千釜 大和	E									1
45	津田工業(株)	7/31-8/11	石井 誠	E									1
46	(株) デザインネットワーク	8/ 1-8/12	藤田 昂志	M	吉田 幸奨	E							2
47	東燃ゼネラル石油(株)・エクソンモービル有 限会社	7/26-8/ 4	五十嵐 拓也	E									1
48	東洋インキ製造(株)	7/31-8/ 4 7/21-8/25	保坂 悠仁	M	菊地 潤	E							1
49	東レ(株)	7/24-8/ 4	佐藤 博之	C									1
50	(株) 同和半導体	7/25-8/ 4	山本 雄大	M	斎藤 晃一	E							2
51	日陽エンジニアリング(株)	7/24-7/28	晶山 卓	M									1
52	日発精密工業(株)横手工場	7/24-8/11	佐々木 優太	M									1
53	(株) N I P P Oコーポレーション	8/21-8/25	三浦 久茂	M									1
54	日本原子力発電(株)	7/31-8/ 4	小野 大祐	E									1
55	(株) 日本色材工業研究所	8/ 1-8/ 5	小坂 裕之	E									1
56	(株) 日本触媒川崎製造所	7/26-8/ 2	浦田 裕之	C									1
57	日本ゼオン(株)川崎工場	7/25-8/ 4	櫻庭 司	C	津谷 浩晃	C							2
58	日本モレックス(株)栃木工場	8/ 7-8/11	大高 唯	M	渡邊 恭平	M	佐藤 光太郎	E					3
59	東日本高速道路(株)東北支社	8/14-8/25	伊藤 直宏	B									1
60	東日本電信電話(株)秋田支店	7/24-7/28	佐藤 郁弥	E	藤澤 佑太	E							2
61	(株) 日立エレクトリックシステムズ	7/28-8/ 9	鈴木 琢夢	E									1
62	(株) 日立ビルシステム	8/21-8/25	川上 雅夫	M									1
63	富士重工業(株)群馬製作所		船山 和輝	E									1
64	(株) 放電精密加工	8/ 7-8/11	伊藤 紘介	M	萩谷 憲治	M	佐々木 健司	E					3
65	北光金属工業(株)	7/24-7/28	大関 文弥	M									1
66	(株) 牧野プライス製作所	7/24-8/ 4	江畑 修平	M									1
67	三菱重工業(株) 汎用機・特車事業本部	8/ 2-8/11	嵯峨 隆介	M									1
68	三菱電機株式会社(株)	7/24-8/ 4	相原 卓磨	E									1
69	三菱マテリアルテクノ(株)	8/ 7-8/11	藤田 祥大	M	菅原 恭平	E							2
70	(株) 宮盛	8/21-8/25	佐々木 剣人	M									1
71	明治乳業(株) 神奈川工場		熊地 友香	C									1
72	(株) 森精機製作所	8/ 7-8/11 7/31-8/ 4	山内 謙治	M	齋藤 栗里絵	E							1
73	リコーテクノシステムズ(株)	7/31-8/ 8	遠藤 基	E									1
501	長岡技術科学大学	8/ 7-8/18	ロクマン	M									1
		8/ 7-8/16	フィルダウス	E									1
		7/24-8/ 4	小笠原 有望	C	斎藤 権一	B	田中 純一	B	三浦 謙介	B	吉田 理央	B	5
		7/31-8/ 4	佐藤 健	C	柴田 純司	専							2
		7/24-7/28	萩野 翠	C	佐藤 佳和	B	永沢 薫	B					3
502	豊橋技術科学大学	8/ 7-8/11	秋山 雄介	M									1
		7/31-8/11	渡部 沙春	M									1
	合計												134

(出典 学生課教務係資料)



## 資料5-2-③-6 「平成18年度校外実習発表会プログラム」

平成18年10月24日

教職員各位

学生主事

## 高専祭におけるインターンシップ（校外実習）発表会

## ご来場のご案内

高専祭および学生支援活動に対し、日頃よりご指導及びご支援賜りありがとうございます。

昨年同様、高専祭でインターンシップ（校外実習）の発表会をイベント企画の一つとして開催いたします。4年生の一部の学生の発表となりますが、本発表会は学生が自ら発案した企画で、校外実習において学習した事柄を学生自身が発表します。実社会での実体験を通じて社会との接点を実感し、また成長したであろう学生の姿を多くの方々を知っていただきたく、教職員の皆様におかれましては是非ご来場いただき、学生達にお声をおかけいただけますよう、よろしく願い申し上げます。

## 記

企画目的：（学生会企画書より抜粋）インターンシップでの体験を発表し、高専というものを明らかにする。また、将来必ず必要とする、プレゼンテーション能力を身につける。

発表形式：ポスタープレゼンテーション形式

発表日時：平成18年10月28日（土） 13:00～14:00

平成18年10月29日（日） 11:00～12:00

13:00～14:00

以上の時間帯に学生がポスター脇で待機し、ご説明いたします。

発表会場：4年物質工学科教室（講義棟3階）

発表者：

機械工学科	佐藤久嗣	松橋壮耶	山本雄大	渡部恭平
電気工学科	遠藤基	小野大祐	熊谷晃	
	モハマド・フィルダウス・ビン・エムラン			
物質工学科	石田健晃	熊地友香	中山浩太	八端文也
環境都市工学科	伊藤直宏	相馬健太郎	戸嶋英	

以上

（出典 高専祭におけるインターンシップ（校外実習）発表会ご来場のご案内）

## （分析結果とその根拠理由）

ものづくりの重要性を認識した教育活動として、工作実習を第1学年の全学科に取り入れている。創造教育を育む教育は、創造設計製作、実験実習、基礎研究、卒業研究においても行われている。インターンシップは多くの学生が参加しており、その後の学業や進路決定の助けになっている。

このように、創造性を育む教育方法やインターンシップの活用が積極的に行われているといえる。

観点5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価方法、単位認定規定、進級規定、卒業認定規定は明確に定められている(資料5-3-①-1)。その内容は、学生便覧およびシラバスに明記されており、いずれも毎年学生に配布し、周知している。特に、シラバスには履修の手引きを記載しており、各学科の履修要領が説明されている。

成績評価・単位認定や進級・卒業認定に関しては、学生に対するアンケートにより、周知の度合いの把握に努めている。平成18年度の調査の結果、第5学年で80%以上、第1～4学年で90%程度が理解していた(資料5-3-①-2)。

各科目の成績評価および単位認定は、全教員が出席する成績判定会議において、規定に基づいてなされ、それにより進級判定および卒業認定が行われている。平成19年度からは、成績評価の異議申し立てを受け付けるために、試験終了後に試験の解答と解説を行う授業時間を設けている。

資料 5 - 3 - ① - 1 「秋田工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則」

## 秋田工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則

### 第1章 総則

#### (目的)

第1条 この規則は、秋田工業高等専門学校における試験、学業成績の評価、進級及び卒業の認定等について定めることを目的とする。

### 第2章 試験

#### (試験)

第2条 定期試験は、各学期末に実施する。

- 2 必要ある科目については、中間試験を行う。
- 3 前2項のほか必要があると認めるときは、追試験を行うことがある。
- 4 追加認定試験は、原則として第2学年から第4学年までに進級した者の不可の科目について実施する。

第3条 平素の成績で評価し得る科目については、試験の全部又は一部を行わないことがある。

#### (追試験)

第4条 定期試験及び中間試験に欠席した場合で、病気その他の事故でやむを得ない理由があったと認められた者については追試験を行うことがある。

- 2 追試験を受けようとする者は、速やかに受験願（病気の場合は医師の診断書、事故の場合はその理由を証明する書類を添付）を当該科目担当教員及び学級担任教員を経て校長に提出しなければならない。
- 3 前項の願い出があった場合は、教務主事が当該関係教員と協議の上、実施の可否を決定する。
- 4 追試験は、病気の場合を除き、原則として定期試験終了後1週間以内に行う。

### 第3章 学業成績の評価

#### (追加認定試験)

第5条 追加認定試験を受けようとする者は、受験願を学級担任教員を経て校長に提出しなければならない。

- 2 追加認定試験の実施及び方法については、教務主事の指示による。
- 3 科目の合格認定は、当該学年にさかのぼって行う。
- 4 故意に試験に欠席したと認められた者は、当該試験科目にかかるその後の追加認定試験の受験を認めない。

#### (試験の成績の評価)

第6条 学期の成績は、その学期において実施した試験の成績及び平素の成績等を総合して100点法により評価する。

- 2 追試験の成績は、前項の規定により評価する。
- 3 追加認定試験の成績の評価は、第1学年から第3学年の科目は最高を50点とし、49点以下を不合格とする。第4学年及び第5学年の科目は最高を60点とし、59点以下を不合格とする。
- 第7条 各科目の学科成績は、その学年における各学期の成績を総合して100点法により評価し、次の区分により優、良、可、不可の評語で判定する。
- 2 学年成績を指導要録に記載する場合及び校外に通知する場合は評語によるものとする。

評語	学年	第1学年から第3学年	第4学年及び第5学年
優		100点～80点	100点～80点
良		79点～60点	79点～65点
可		59点～50点	64点～60点
不 可		49点～0点	59点～0点

(故意に試験に欠席した場合等の成績)

第8条 故意に試験に欠席したと認められた者又は懲戒処分のため試験を受けることができなかった者の当該科目の成績は零点となる。

(不正行為をした場合の成績)

第9条 試験中不正行為を行った者は、その時間以降の受験を停止させ、当該試験科目の成績を零点とする。

#### 第4章 進級及び卒業の認定

(進級及び卒業の認定)

第10条 進級及び卒業は認定会議に付し、学業成績及び特別教育活動の履修状況等を総合して、校長が認定する。この認定にあたっては、原則として次の号の基準に該当していなければならない。

- 一 欠席日数が年間実授業日数の4分の1以下であること。又各科目の欠課時数が実授業時数の4分の1以下であること。ただし、校長が認める理由(長期病欠その他)のある場合は、3分の1以下とする。
- 二 本校の規定する単位数を満たしていること。
- 三 卒業の認定にあたっては、各学科の指定の科目が不可でないこと。

第11条 前条各号に掲げる基準を満たさない者で、特別の理由があると認められた者については、校長が進級及び卒業を認めることがある。

- 2 休学の場合を除き、3年連続して同一学年にとどまることはできない。

(編入学)

第12条 校長は、第4学年に編入した者については、当該編入学科の第1学年から第3学年まで

の履修単位を修得したものとみなす。

- 2 第3学年までに編入した外国人留学生については前項に準ずる。

## 第5章 雑則

(雑則)

第13条 この規則の実施について必要な事項は、別に定める。

### 附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

### 附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成15、16年度に履修した科目に関する追加認定試験の成績の評価は、第6条の規則にかかわらず全学年とも最高60点とし、59点以下を不合格とする。

### 附 則

この規則は、平成18年3月3日から施行し、第2条第4項、第12条第1項及び第2項は平成17年4月1日から適用する。

### 附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

## 進級要件について

第4学年までの進級の認定に当たっては、原則として次の基準に該当していなければならず、第5学年への進級は必修科目をすべて修得していなければならない。

- (1) 実験実習並びに設計製図等の実技を伴うものについては、当該学年で単位を修得すること。なお、実技を伴う必修科目は次の通りである。

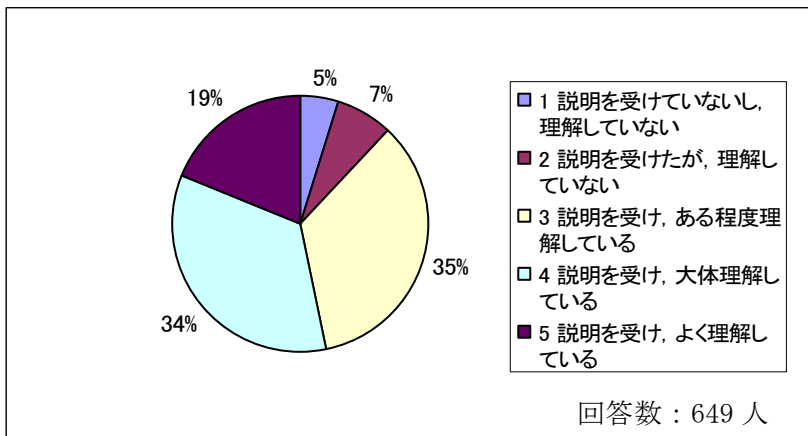
学 科	機械工学科	電気情報工学科 (電気工学科)	物質工学科	環境都市工学科
授 業 科 目	機械製図Ⅰ	ものづくり工作実習	(共 通)	設計製図
	機械製図Ⅱ	基礎工学実験	物質工学製図	基礎設計演習Ⅰ
	機械製図Ⅲ	電気情報基礎実験	工作実習	基礎設計演習Ⅱ
	設計製図	電気情報工学実験Ⅰ	物質工学基礎実験	設計製図Ⅰ
	設計製図Ⅰ	電気情報工学実験Ⅱ	分析化学実験	設計製図Ⅱ
	設計製図Ⅱ	電気製図	無機化学実験	工作実習
	工作実習Ⅰ	実験実習	有機化学実験	環境都市工学実験実習
	工作実習Ⅱ	工学研究	物理化学実験	環境都市工学実験実習Ⅰ
	工作実習	基礎研究	化学工学実験	環境都市工学実験実習Ⅱ
	創造設計製作	卒業研究	基礎研究	基礎研究
	工学実験		卒業研究	卒業研究
	工学実験Ⅰ		(物質コース)	
	工学実験Ⅱ		物質工学実験	
	基礎研究		(生物コース)	
	卒業研究		生物工学実験	

- (2) 当該学年も含めた必修科目のうち、未修得の累積単位数が次の表に定める単位数以下であること。

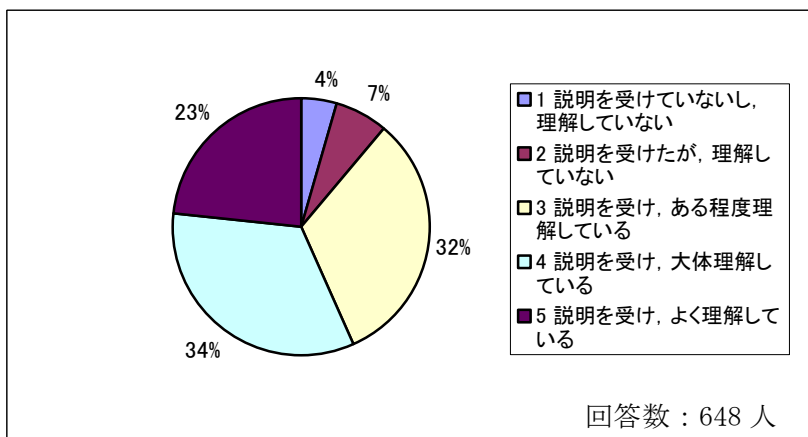
学 年	1年	2年	3年
累積単位数	8	8	6

資料5-3-①-2 「成績評価・単位認定規定および進級・卒業認定規定に関するアンケート」

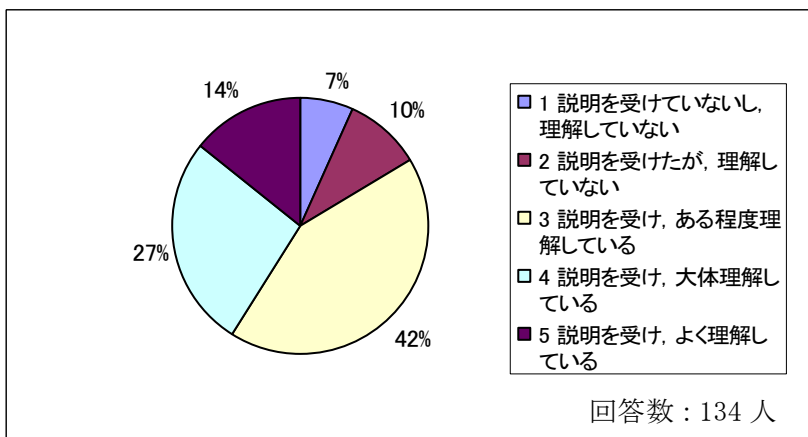
Q1 成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？（準学士課程の1～4年生）



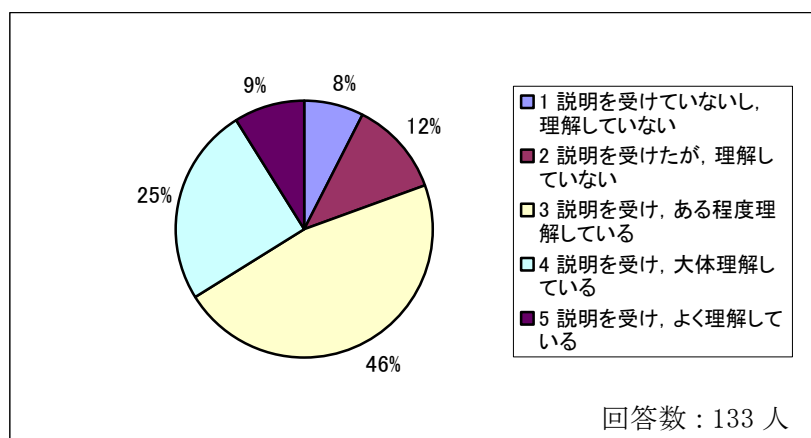
Q2 進級規程の説明を受け、理解していますか？（準学士課程の1～4年生）



Q1 成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？（準学士課程卒業予定者）



Q2 卒業認定規程の説明を受け、理解していますか？（準学士課程卒業予定者）



（出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成18年度版－ p.16, 21）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価方法、単位認定規定、進級認定規定、卒業認定規定は明確に定められており、学生便覧およびシラバスに明記され、学生に周知されている。これらの規定に従って、全教員が出席する成績判定会議において、成績評価や各認定が適切に実施されているといえる。



観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

人間の素養の涵養のために、特別活動や各種行事、各種講演会などが行われている。第1～3学年では、特別活動が授業時間割表(資料5-4-①-1)に設定され、週1単位時間、年間で30単位時間の特別活動が実施されている。この特別活動の内容は、担任によって計画され実施されている(資料5-4-①-2)。

また、第1学年の学級担任を専門学科の教員とすることで、学生に将来の進路や展望について話し、将来像を描き易くし、目的意識を継続できるきめ細かい学生指導が行われている。

学校行事としては、第1学年で1泊の新入生合宿研修(資料5-4-①-3)、第3学年では1泊の合宿研修、第4学年で2泊3日の工場見学が行われる(資料5-4-①-4)。

このほかに、学校主催の各種講演会が行われ、幅広い体験や豊かな人間性を育む工夫を行っている(資料5-4-①-5)。

(分析結果とその根拠理由)

学生指導が円滑に行われるように、対象学年学生や職員との連携も効果的に進められ、各種行事や各種講演会も積極的に行っている。また、第1学年の学級担任を専門学科の教員とすることで、学生に将来の進路や展望について話し、目的意識を継続できるようにきめ細かい学生指導が行われている。

以上のことから、技術者としての人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているといえる。

資料5-4-①-1 「平成19年度授業時間割表(前期)」

平成19年度授業時間割表(前期)

学 年	月								日							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
1 M 今田成博 0089	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	英語I 10:35	英語I 11:25	英語I 13:05	英語I 13:55	英語I 14:45	英語I 15:35	英語I 8:45	英語I 9:35	英語I 10:35	英語I 11:25	英語I 13:05	英語I 13:55	英語I 14:45	英語I 15:35
E 田中神智 0093	高橋山崎 普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35
O 石塚成也 0096	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35
B 植松良輔 0070	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35
M 長井崇二 0079	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35
E 佐藤彰彦 0082	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35
C 小林 真 0086	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35
B 佐藤英文 0094	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35
M 菅原政行 0094	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35
E 大島謙夫 0097	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35
C 島本武雄 0099	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35
B 水野 聖 0096	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35	普通数学I 8:45	普通数学I 9:35	普通数学I 10:35	普通数学I 11:25	普通数学I 13:05	普通数学I 13:55	普通数学I 14:45	普通数学I 15:35

(出典 平成19年度授業時間割表(前期))

資料5-4-①-2 「平成18年度前期特別活動計画書」

平成18年度前期特別活動計画書

(クラス名 2E 学級担任印 )

月	日	学校行事	特別活動計画内容	使用場所
4	12	対面式・学生総会		
月	19	新入生合宿研修 (1M, 1C)	新年度にあたり	
	26	定期健康診断 追加認定試験 (2~4年)	特別清掃	
5	3	憲法記念日		
	10	交通安全教室：講義 14:55~ (2年) 追加認定試験 (2~4年)	交通安全教室	
	17	交通安全教室：実技 14:55~ (2年) 追加認定試験 (2~4年)	交通安全教室, 個人面談	
	24	追加認定試験 (2~4年)	担任の話	
	31	追加認定試験 (2~4年予備日)	技術者について (1)	大講義室又は併
6	7		試験の講注意	
	14	前期中間試験		
	21		2E・3E 対抗戦	野球場と才2年館
	28	結団式・壮行会		
7	5	性教育講演会 (1年) 14:55~	音楽鑑賞	第1セミ室
	12		技術者について (2)	大講義室
	19	体育大会報告会		
8	30		技術者について (3)	大講義室
9	6		技術者について (4)	大講義室
	13	校内スポーツ大会		
	20		試験諸注意	
	27	前期末試験		

(1~3年学級用)

(注) 使用場所空白は「教室等」で可。

(出典 平成18年度前期特別活動計画書)

## 資料5-4-①-3 「平成18年度新入生合宿研修実施要項」

## 平成18年度新入生合宿研修実施要項

## 1. 実施目的

- (1) 研修会を通じ教員と新入生相互の意志の疎通を図り、高専生活のもつ意義と目的を理解させる。
- (2) 集団生活の規律を体得させ、高専生活に速やかに適応できるよう指導する。

2. 期 間
- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 機 械 工 学 科     | 4月17日(月)～18日(火) |
| 電 気 情 報 工 学 科 | 4月18日(火)～19日(水) |
| 物 質 工 学 科     | 4月19日(水)～20日(木) |
| 環 境 都 市 工 学 科 | 4月20日(木)～21日(金) |

## 3. 場 所 〒018-0795

秋田県にかほ市象潟町字才の神31  
サン・ねむの木 TEL 0184-43-4960

4. 参 加 者 1年生全員，各科5年生16人  
学級担任4人，各科代表教員4人

5. 合宿研修経費より充当する。(入学手続き時に納入)

6. 日 程 別紙のとおり

7. 講 師 講話及び座禅指導 蛸満寺住職 熊谷能忍氏  
体育活動：にかほ市スポーツ振興課  
係 長 佐々木もと子氏  
主任(兼B&G) 佐藤紀子氏

## 8. 服装・携行品

服 装：制服

携行品：洗面具，筆記具，ノート，雨具，体育着上下，  
運動靴(屋内用，屋外用)，乗り物酔い止めの薬  
(必要な人のみ)

9. 部屋割 各学級担任の指示による。

10. 輸 送 バスで送迎する。

(出典 平成18年度新入生合宿研修実施要項)

資料5-4-①-4 「平成18年度工場見学計画書(4C)」

## 平成18年度 工場見学計画書

月日	見学先	見学先所在地	依頼状送付先	見学時間	昼食の有無	学 科	
						物質工学科	引継者
11月15日 (水)	日本ゼオン(株) 川崎工場	〒210-8507 川崎市川崎区夜光1-2-1	〒210-8507 川崎市川崎区夜光1-2-1総務部人事課 TEL 044-276-3700 今田様	~		阿村遼夫 上松 仁	
				15:00~17:00			
11月16日 (木)	新日本石油 中央技術研究所	〒231-0815 横浜市中区千鳥町8番地	〒231-0815 中央技術研究所サポート係 TEL 045-625-7111 中溝様	9:30~11:30			
				13:00~15:00			
11月17日 (金)	大日精化工業(株)	〒123-8555 足立区堀之内1-9-4	〒103-8383 中央区日本橋馬場町1-7-6総務人事部 TEL 03-3662-7111 光田様	9:30~12:30	社員食堂		
				13:30~15:30			
11月19日 (日)	花王(株) すみだ事業場	〒131-8501 東京都墨田区文花2-1-3	〒131-8501 東京都墨田区文花2-1-3 サービスセンター係 TEL 03-5630-9004	13:30~15:30			9月19日 朝一番8:30 確認後 依頼状送付

- 注) 1. 11月15日(水) 出発 秋田発 8:56「こまち10号」→東京着 13:08  
 2. 「依頼状の送付先」の欄には、係名、電話番号まで詳細に記入してください。  
 3. 「昼食の有無」の欄には、手配する先(見学先・旅行業者等)、料金、昼食場所についても記入してください。  
 4. この計画書は、見学先の内諾を得てから提出してください。  
 5. 提出期限 7月31日(月)

## 資料 5 - 4 - ① - 5 「各種講演会」

## 第 2 回禁煙教育講演会実施要項

1. 目的 喫煙が心身に及ぼす害について啓蒙することを通じて、青少年の喫煙を防止することを目的とする。
2. 日時 平成 18 年 9 月 6 日 (水) 14 時 55 分～
3. 場所 本校大講義室
4. 対象 本科 1 年生 (170 名)
5. 講師 秋田大学医学部附属病院  
診療科第二内科 佐々木 昌博 氏
6. 演題 未定

## 「各種講演会 (18 年度)」

- |          |    |                               |
|----------|----|-------------------------------|
| 第 1 学年   | 前期 | 「性教育に関する講演会」<br>「禁煙教育に関する講演会」 |
| 第 2 学年   | 前期 | 「交通安全教室」                      |
| 第 3 学年   | 前期 | 「薬物乱用防止講演会」                   |
| 第 4 学年   | 後期 | 「就職講演会」                       |
| 本科・専攻科学生 |    |                               |
|          | 後期 | 「特別講演会」                       |

(出典 平成 18 年度年間計画書)

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校の目的（使命や基本方針）に書かれている校訓や教育理念をもとに、人間の素養の涵養を目指している。校長の指導のもと、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長がその遂行の責任者となっている（資料5-4-②-1）。本校の校訓・教育理念（資料5-4-②-2）のもと、規則、準則（資料5-4-②-3）を作成している。学級担任を中心に、これら規則遵守の精神を育てている。学生委員は登校指導や校内外巡回指導を実施し、常に学生の動向に気を配っている（資料5-4-②-4）。

また、学生スタッフ（学生主事と主事補）が中心となって、学生会活動の支援を行っている。学生会が主体で行う学校行事（資料5-4-②-5～8）の計画・実行をサポートしている。ここでは「学生が主体である」という意識を持たせ、「学生自身で行事を作り上げたという充実感」が得られるように、配慮して助言を与えている。

学校は後援会の費用をとおして、課外活動を積極的に支援している。また、他の学生の模範となる優れた活動を行った学生は、学年末に表彰している（資料5-4-②-9～10）。

資料 5 - 4 - ② - 1 「秋田工業高等専門学校の組織」

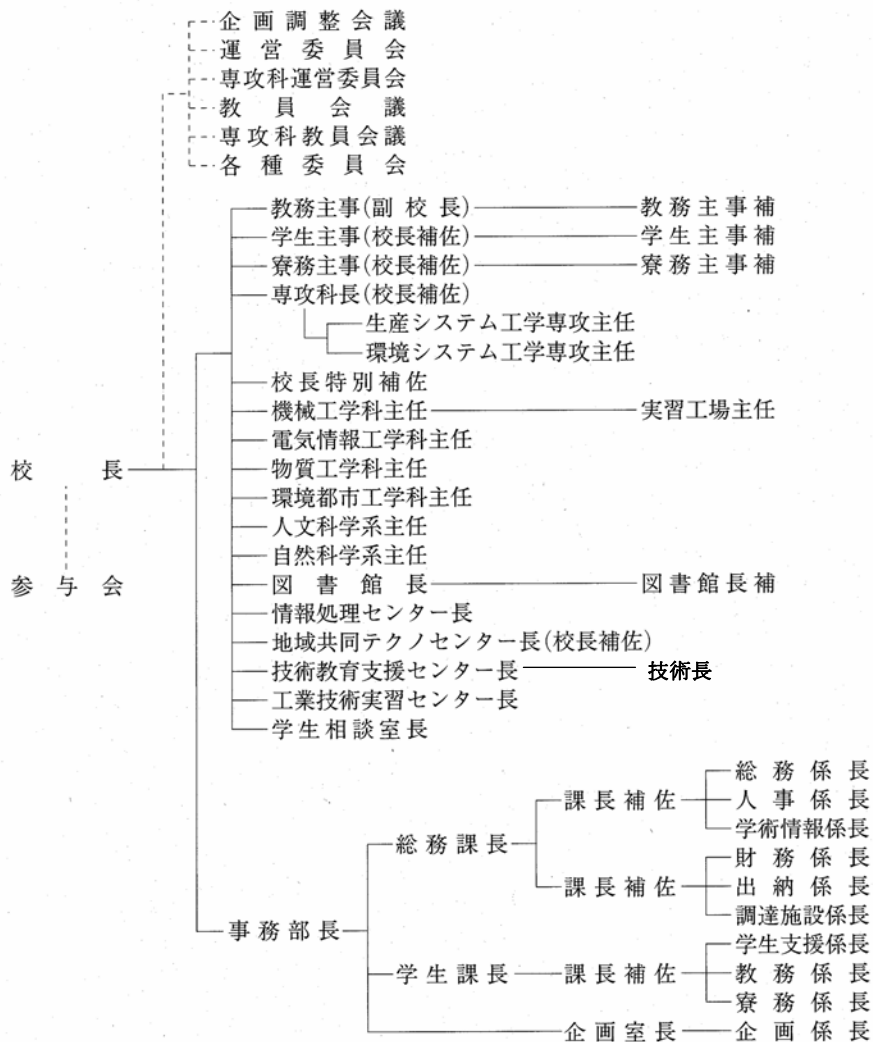
## 15. 秋田工業高等専門学校の組織

### (1) 組織と業務

#### 1. 管理組織

校長は本校の長であって、あらゆる問題が校長の決裁と責任にかかっている。なお、校長の補佐機関として教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長及び事務部長が置かれている。

また、高等専門学校においては、学科・学年・学級別に編成し、直接の学生生活の指導は学級担任教員が行っている。





## 2. 事務組織とその業務

学校運営に必要な事務を処理するため、事務部長の下に総務課、学生課の2課（事務部と称す）が置かれている。

このうち学生諸君が5年間の高専生活を送る上に最も密接な関係のある学生課の業務内容は、次のとおりである。

学生課には教務係、学生支援係、寮務係の3係があり、一口に言えば学生に対するサービス業務を行っている。

**教務係**においては学生の募集及び入学者選抜、教育課程の編成及び授業、学生の指導要録の整理・記録及び保管、学生の学業成績の整理・記録及び保管、学生の諸証明、学生の校外実習並びに工場見学等に関する事務を行っている。

**学生支援係**は学生の課外活動、奨学生、授業料の減免・徴収猶予及び経済援助、学生旅客運賃割引証及び通学証明書等、学生の就職、学生の保健管理及び保健施設の管理運営等に関する事務を行っている。

**寮務係**は学生の入退寮、学生寮の管理運営、寮生の給食・栄養指導及び衛生、所掌事務に係る調査統計及び諸報告等に関する事務を行っている。

以上のように学生課の業務は学生と極めて関係が深いので大いに利用して欲しい。

その他学生に関係のある係の業務内容は次のとおりである。

### 総務課学術情報係

図書館資料（図書・雑誌・CD等）の閲覧及び貸出、整理保管等。

### 総務課出納係

授業料、宿舍料等の徴収。

（出典 平成19年度学生便覧 p.153～154）

資料 5 - 4 - ② - 2 「校訓」

# SEARCH

## 校 訓

Sincerity, Enterprise, Accountability

誠実 創造 責任

Research, Cooperation, Health

研究 協働 健康

## 教 育 理 念

Independence, Challenge, Creativity

自 立 ・ 挑 戦 ・ 創 造

(出典 平成 19 年度学生便覧 p. 1)

資料 5-4-②-3 「学生の諸心得」

## 5. 学生の諸心得

### (1) 挨拶の励行

1. 学生は、教職員に対しても学生間においても挨拶をすること。
2. 来客者に対しては挨拶をし、丁寧に応接すること。

### (2) 自動車・自動二輪車による通学について

#### 〔本科生〕

自動車・自動二輪車による通学（課外活動の場合も含む）は堅く禁止する。自動車、自動二輪車で通学した場合は、処分の対象となる。

#### 〔専攻科生〕

学外の駐車場を確保すれば、自動車・自動二輪車による通学を許可制で認める。無許可の自動車・自動二輪車による通学は、処分の対象となる。

#### 〔特例措置〕

本科生及び専攻科生で、怪我によりやむを得ず自動車を利用して通学せざるを得ない場合は、自動車による通学を特別に許可する場合もあるので、学生主事に許可を願い出ること。

### (3) 原動機付自転車（バイク）による通学について

止むを得ない事情を有し、以下の手続に従って許可された者については50cc以下のバイクに限り認めることがある。その際、年々交通事情が悪化し交通事故等多発していることを考慮しバイクの利用者は交通法規、交通道德を守り、各自の自覚により常に安全運転に留意し、交通事故、違反等の防止に心がけてもらいたい。

#### 〔バイク通学の許可条件〕

バイクによる通学は原則として公的交通機関の利用では通学に著しい支障がある者に限る。

#### 〔バイク通学の手続き〕

バイクで通学しようとする者は、バイク通学許可願（以下許可願と呼ぶ）を学級担任を経由して学生係に提出すること。バイク通学を許可するかどうかは審査の上決定する。審査を通った者については安全運転誓約書の提出を求めるので保護者連署の上で学生支援係に提出し、許可証と

付を受けること。そのステッカーは、車体の後部の見やすい位置に貼付すること。また、ステッカーを紛失したときは再交付を受けること。

2. 交通法規，交通道徳を守ること。
3. 整備点検を怠らず，不良欠陥車は使用しないこと。
4. 自転車は学校所定の自転車置場に整頓し，施錠を確実にすること。
5. その他，学校が指示する事項。

## (5) 生活指導について

### ① 飲酒，喫煙の禁止について

最近，未成年者の喫煙・飲酒が増加している。これらは健康上有害であり，学生本人にとっても好ましくなく，本校ではいずれも禁止している。守られない場合は，法律で認められた年齢に達していても，本校の教育方針により厳罰に処せられる。

なお，登下校・部活・研修などにおいても学校の管理下であり，また，実際に飲酒・喫煙をしていなくとも，酒・煙草・ライターなどを所持することが不良行為であり，いずれも処分の対象となる。

### ② 交通違反について

本校学生のバイク・自動車の免許保有者による交通違反があとを絶たない。原動機自転車（原付バイク）の通学については許可制をとっているが，交通事故・違反の恐ろしさ，責任の重大さは計り知れないものがあり，十分に注意してほしい。

また，交通事故を起こしたとき，交通違反をしたときは速やかに学級担任に届け出ること。なお，この場合についても処分の対象となる。

### ③ アルバイトについて

原則として禁止する。ただし，家庭の事情等によりやむを得ずアルバイトをしなければならない場合，あるいは長期休業期間中の場合のみ許可制とする。この場合，学業に支障が出ないこと，本当にアルバイトをしなければならないかどうかを，保護者さらには学級担任と学生主事が十分に話し合い，その上で許可願を提出すること。ただし，1年生については学業に専念すべきとの理由から，原則として許可しない。

アルバイト許可願は，学級担任経由で学生支援係に提出する。その際，雇い主の住所・電話番号・氏名および捺印さらにはアルバイトの種類・具体的な内容・期間および時間帯などを明確に記入し提出すること。認められた場合には許可書を発行するが，許可書は雇い主へ提出しなければならない。

なお，無許可でアルバイトを行った場合は，処分の対象となる。

#### ④ 服装・身だしなみについて

学校は学習の場である。普段から学習の場としてふさわしい服装（制服と制服を基準とした私服の併用）・身だしなみをするように心がけてもらいたい。

##### 〔遵守事項〕

1. 1～3学年は**入学式、始業式、対面式、終業式、特別講演、新入生合宿研修、3年生合宿研修**においては制服を必ず着用すること。違反した場合は、処分の対象となる。
2. 1～3学年が制服を着用しない場合は、制服に準じた学生らしい清楚な服装に努め、派手あるいは見苦しい（例えば、半ズボン等の短いズボンや腹部の露出）の服装は禁止する。違反した場合は、処分の対象となる。
3. 染髪・ピアスは禁止する。違反した場合は処分の対象となる。
4. 学習の場にふさわしくない以下の服装・身だしなみはしないこと。  
サンダル・下駄・草履，化粧・マニキュア，他校のジャージ着用。
6. 女子学生制服のネクタイとリボンは、学校が指定するものを着用すること。

#### ⑤ 懲戒について

上記の違反行為およびその他の不良行為に対して、学生主事注意から始まり誓約書の提出、保護者召還が行われ、場合によっては相応する期間の停学に処せられる。

#### ⑥ SARS、インフルエンザについて

SARSあるいはインフルエンザの症状が出たときには直ちに医師の診断を受けること。感染していることが明らかになったときには速やかに学級担任に届けること。（診断書の提出により公欠扱いとなる）

（出典 平成19年度学生便覧 p.33～36）

## 資料 5 - 4 - ② - 4 「校内の巡回学生指導（前期分）」

平成18年4月27日

学 生 委 員 各 位

学 生 主 事

## 校内の巡回学生指導（前期分）について

過日の学生委員会の席上でお願いいたしました標記の件について、次の要領で実施いたしたいと思っておりますので、御協力をお願いいたします。

- ① 班割を次のように編成いたしました。御都合が悪い場合は、適宜相互交代をされ、対処いただきたくよろしくをお願いいたします。

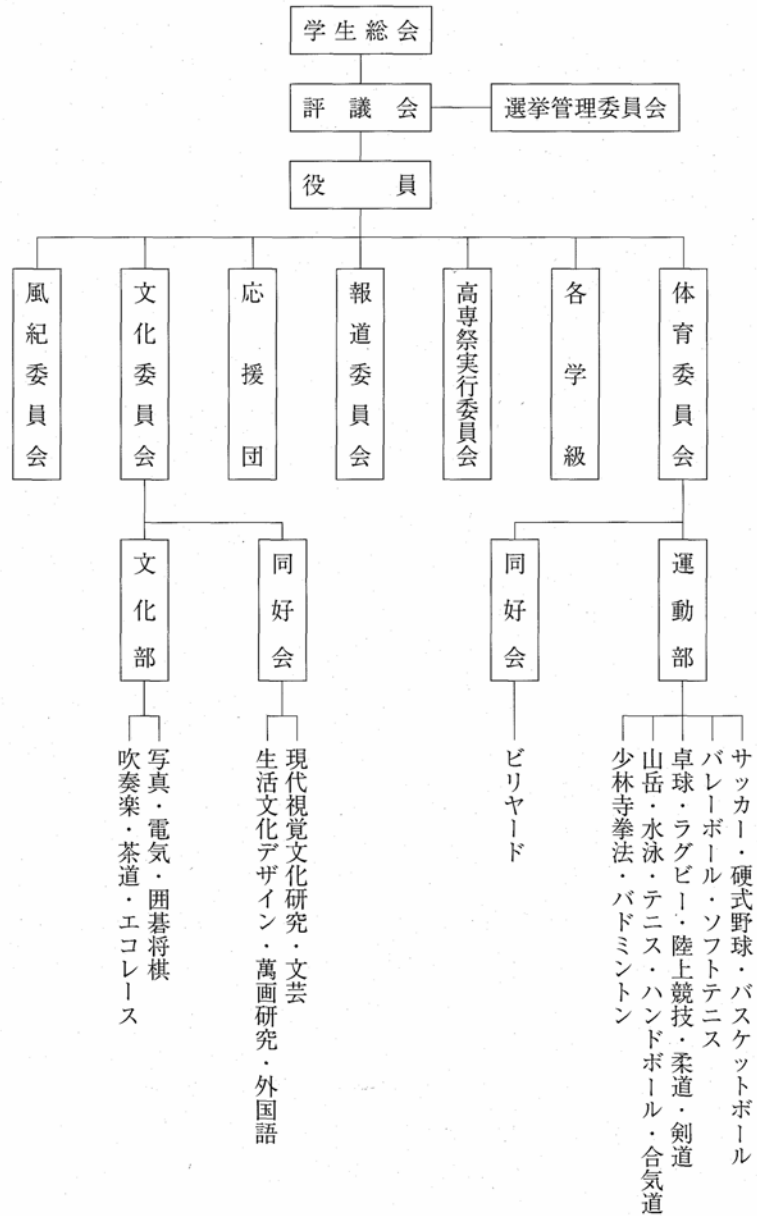
順 番	巡 回 日		巡 回 委 員 氏 名	
1	5月11日	木	今 田 良 徳	岡 村 澄 夫
2	5月15日	月	水 野 麗	田 中 将 樹
3	5月24日	水	伊 藤 桂 一	日 野 智
4	6月 2日	金	長 井 栄 二	佐 藤 彰 彦
5	6月 8日	木	山 崎 保 輔	竹 下 大 樹
6	6月21日	水	佐 藤 徹 雄	水 田 敏 彦
7	6月29日	木	日 野 智	渡 部 英 昭
8	7月 3日	月	田 中 将 樹	山 崎 保 輔
9	7月11日	火	佐 藤 彰 彦	伊 藤 桂 一
10	7月19日	水	水 田 敏 彦	今 田 良 徳
11	9月 1日	金	岡 村 澄 夫	長 井 栄 二
12	9月14日	木	渡 部 英 昭	佐 藤 徹 雄
13	9月22日	金	竹 下 大 樹	水 野 麗

- ② 巡回当番予定日に、主に校内の巡回をお願いいたします。  
主事・主事補は残りの曜日も含めて、随時巡回指導いたします。
- ③ 巡回時間帯は昼休みといたしますが、各担当者の御都合のよろしい時間で結構ですので、御調整のうえ行ってくださいますようお願い申し上げます。
- ④ 喫煙、飲み・食い歩き、空き缶、ゴミ、施設の破損、学生の身だしなみ、その他ついて御指導ください。なお、従来どおり、カップめんの食堂外への持ち出しは禁止です。
- ⑤ 特に科学技術教育棟を巡回のコースに必ず入れてくださるよう、お願いいたします。
- ⑥ 昼休み、授業間の休み時間など、校外への無断外出する学生への注意・指導についてもお願いいたします。
- ⑦ 巡回の際は、必ず腕章を付けてください。腕章をお持ちでない場合は学生係よりお受け取りください。
- ⑧ 御指導やお気づきのことについて、巡回記録簿（学生係にあります）に御記入ください。  
その他、不明な点がございましたら、御連絡くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

(出典 平成18年度学生委員会資料)

資料 5-4-②-5 「学生会組織図」

学生会組織図



(出典 平成 19 年度学生便覧 p. 149)

資料5-4-②-6 「平成18年度運動会」

## 平成18年度 運動会タイムスケジュール

順	種 目	開始時刻	出 場 者	集合場所	回 数
1	集 合	8:50	全 校 生	①	
2	開 会 式	9:00	全 校 生	①	
3	合 同 体 操	9:10	全 校 生	①	
4	HR対抗 大縄跳び	9:20	全 校 生	②	予選5回 決勝1回
5	男子100m走予選	9:55	各クラス2名	⑥	5人×8回
6	各科対抗借り人競争	9:55	各クラス1名	⑤	学年別×1回ずつ=5回
7	HR対抗 リレー予選	10:10	各クラス 4名1組	①	5組×4回
8	各科対抗人送り競争	10:40	各クラス21名	③	4学科×1回
9	女子障害物競走	11:00	女子全員	⑤	6名ずつ
10	HR対抗キャタピラレース	11:40	各クラス21名	③	学年別×1回
昼 休 み					
11	障害物競走	13:00	各クラス2名	④	4人×10回
12	いす取りゲーム	13:20	女子全員	⑤	最後の一人になるまで
13	HR対抗 10人11脚	13:50	各クラス10名	④	4組×5回 5組×1回
14	男子100m走決勝	14:30	予選タイム上位5名	⑥	5人×1回
15	各科対抗 騎馬戦	14:40	各クラス8名	控え所 待機	リーグ戦 6回
16	HR対抗リレー決勝	15:10	予選通過クラス	①	4組×1回
17	各科対抗大綱引き	15:20	全 校 生	控え所 待機	トーナメント4回
17	各科対抗氷鬼	15:40	各クラス2名	⑤	攻守交代 総当たり3回
18	各科対抗 1000mリレー	16:10	1~2年各1名 3~5年各2名 各科女子各2名	①	4学科×1回
19	閉 会 式	16:20	全 校 生	①	
20	後 始 末	16:30	1年生全員	①	

(出典 学生課学生支援係資料)



資料 5-4-②-7 「2005 校内スポーツ大会」

## ANCT 校内スポーツ大会 2005 要項

### 日程

10月12日 (木)	8:35	集合・整列(第1体育館)
	9:00	開会式
	9:30	競技開始
	16:40	第1日目終了
10月13日 (木)	8:50	競技開始
	16:00	全競技終了・閉会式

### 2. 競技規則

- (1) 共通規則 ①出場チームは全クラス 20、専攻科、教職員の 22 チームとする。  
 ②出場は自チームに限る。他チームに助人数出場は出来ない。他チームとの混成はその発見時をもってそのチームの負けとする。  
 ③平成 15 年 5 月現在登録のその種目の部員は、なにびとといえども出場できない。また、ソフトテニスにテニス部とソフトテニス部、ソフトボールに硬式野球部、駅伝に陸上競技部の各部員の出場は認めない。ただし、各部のマネージャーは出場できる。  
 ④ラフプレーは厳禁する。審判の判定には絶対に従うこと。これにより競技進行の妨げとなった場合には、原因となったチームを失格としチーム得点を減点する場合がある。  
 ⑤理由を問わず失格となった場合、そのチームの得点を減点する。  
 ⑥前年度の試合結果に基づき、上位 4 チームをシードとする。  
 ⑦勝利得点の配分は次のとおりとする。

順位	1	2	3	4	5	6	7	8
駅伝	100	80	60	50	40	30	20	10
女子種目	60	40	20			0		
他種目	80	60	40			20		

※ 3 位決定戦は行わない。

※ 2 日目に雨天中止の種目については、ベスト 8 の場合各 35 点、ベスト 4 の場合各 55 点を与える。

⑧総合得点をもって順位を決める。

- (2) 種目別規制及び組み合わせ 2 ページ目より参照

### 3. その他

- (1) 各クラスの各種目責任者は競技場所、時刻をその都度確かめて選手に連絡し競技運営、対戦相手に迷惑をかけるないように十分配慮する。5 分以上の遅刻は棄権とみなす。  
 (2) 天候により、屋外競技を中止する場合がある。その際、競技時刻等に変更があるので十分注意すること。  
 (3) 担当の各部は競技運営(審判の割り振り、会場/用具の準備、記録、時計、本部への報告など)を責任を持って行うこと。  
 (4) 各種目の責任者は競技終了後、結果を本部に必ず報告すること。  
 (5) 体育館はズックの履き替えを厳守すること。  
 (6) 競技場での飲食は厳禁である。

(出典 学生課学生支援係資料)

資料5-4-②-8 「第32回高専祭」



(出典 学生課学生支援係資料)

資料 5-4-②-9 「表彰の記録および公示」

## (10) 秋田工業高等専門学校学生表彰規則

(趣旨)

第1条 秋田工業高等専門学校学則第37条及び第49条の規定に基づく本校学生の表彰（以下「表彰」という。）については、この規程の定めるところによる。

(表彰対象者)

第2条 表彰は、次の各号の一に該当する者について行う。

- 一 学業によく励み、極めて優秀な成績を上げ他の模範となり、課外活動、学生会活動あるいは寮生会活動等の向上発展に顕著な功績があった者
- 二 卒業研究で最優秀と認められた者
- 三 課外活動等において顕著な功績により、本校の名誉を高めた者、又は団体に所属する者
- 四 社会的に学生の模範として推奨できる善行のあった者
- 五 同条(1)から(3)以外の活動で同等以上と認められる者、又は団体に所属する者
- 六 在学期間の出席が良好な者

2 表彰の種別は、別表のとおりとし、表彰の基準は別に定める。

(表彰の時期)

第3条 表彰は、終業式当日に行う。ただし、特別の必要があるときは随時に行うことができる。

(表彰の方法)

第4条 表彰は、校長が表彰状を授与することにより行う。

2 前項の表彰状にあわせて、記念品を贈呈することができる。

(被表彰者の推薦及び決定)

第5条 第2条に規定する表彰に該当する行為があった場合は、別表に定める推薦者は校長に推薦書（様式第1号）を提出するものとする。

2 校長は提出された推薦書を、表彰委員会（以下「委員会」という。）に諮問するものとする。

3 委員会は、推薦書に基づき内容を審査の上、その結果を校長に答申し、校長が決定する。

(組織)

第6条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- 一 教務主事、学生主事及び寮務主事
- 二 専攻科長
- 三 各学科等主任
- 四 図書館長

(委員長)

第7条 委員会の委員長は、教務主事とする。

2 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ校長の指名した委員が議長の職務を代行する。

(表彰の記録及び公示)

第8条 表彰された者は、記録にとどめるほか全学生に公示する。

(幹事)

第9条 委員会に幹事を置き、学生課長をもって充てる。

第10条 委員会に関する庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、表彰の実施に関し必要な事項は、校長が別に定める。

### 附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

表彰の種別	該 当 条 項	推 薦 者	備 考
特 別 表 彰	第2条第1項第1号	学 科 主 任	表彰状 様式第2号
学 術 賞	第2条第1項第2号	学 科 主 任	表彰状 様式第5号
功 績 賞	第2条第1項第3号	主 事	表彰状 様式第3号
	第2条第1項第4号	専 攻 科 長 各種委員会委員長 学 級 担 任	表彰状 様式第3号
ス ポ ー ツ 賞	第2条第1項第3号	ク ラ ブ 指 導 教 員 学 級 担 任	表彰状 様式第4号
文 化 賞	第2条第1項第3号	ク ラ ブ 指 導 教 員 学 級 担 任	表彰状 様式第4号
学 術 奨 励 賞	第2条第1項第5号	ク ラ ブ 指 導 教 員 担 当 教 員 学 級 担 任 専 攻 主 任	表彰状 様式第5号
皆 勤 賞	第2条第1項第6号	学 級 担 任	表彰状 様式第6号

(出典 平成19年度学生便覧 p.135～136)

資料 5 - 4 - ② - 10 「平成 18 年度受賞者」

# 受賞者一覽

平成 18 年度

<p><b>日本機械学会畠山賞</b></p>  <p>機械工学科 5 年 <b>今野 新平</b> ありがとう! 秋田高専!!</p>	<p><b>秋田県電子工業振興協議会賞</b></p>  <p>電気工学科 5 年 <b>渡部 翔</b> いいものもらいました。</p>	<p><b>日本化学会東北支部長賞</b></p>  <p>物質工学科 5 年 <b>太田 恭平</b> ありがとうございました。</p>
<p><b>全国高専土木工学会近藤賞</b></p>  <p>環境都市工学科 5 年 <b>田崎 健祐</b> お世話になりました。</p>	<p><b>秋田化学技術協会賞</b></p>  <p>物質工学科 5 年 <b>辻村 光</b> ありがとうございました。</p>	<p><b>秋田高専産学協力会会長賞</b></p>  <p>環境都市工学科 5 年 <b>東海林 和輝</b> 光栄です。</p>

卒業生、修了生

- 学術賞**  
機械工学科 5 年  
**今野 新平**  
電気工学科 5 年  
**山脇 健**  
物質工学科 5 年  
**太田 恭平**  
環境都市工学科 5 年  
**松山 初美**
- 功績賞**  
学生会活動(会長)  
機械工学科 5 年  
**今野 新平**
- 功績賞**  
寮生会活動(寮長)  
環境都市工学科 5 年  
**大沼 伶央**
- スポーツ賞**  
剣道  
機械工学科 5 年  
**菅原 一将**

- スポーツ賞**  
水泳  
電気工学科 5 年  
**山脇 健**  
物質工学科 5 年  
**加賀谷 英俊**
- 皆勤賞**  
機械工学科 5 年  
**高橋 洋平**  
電気工学科 5 年  
**齊藤 慶子**  
電気工学科 5 年  
**中川 広貴**

- 学術奨励賞**  
第 59 回秋田健康尊厳技大会  
電気工学科 5 年  
**猿田 大輔**
- 学術奨励賞**  
TOEIC  
電気工学科 5 年  
**山脇 健**  
物質工学科 5 年  
**桑原 智美**





秋田商工会議所会頭賞



機械工学科5年  
川辺 浩二  
商工会議所 万歳

産業教育振興中央会会長賞



物質工学科5年  
三浦 卓也  
ありがとうございました。

秋田県産業教育振興会会長賞



電気工学科5年  
中川 広貴  
光栄です。

電子情報通信学会東北支部長賞



電気工学科5年  
内田 尚徳  
頑張ったかいがありました。

電子情報通信学会東北支部長賞



生産システム工学専攻2年  
遠藤 信二  
ありがとうございました。

秋田化学工学懇話会奨励賞



環境システム工学専攻2年  
加藤 大輔  
賞は返しません。絶対。

秋田県建築技術センター理事長賞



環境都市工学科5年  
大沼 伶央  
これを励みに頑張りたい。



154年生

スポーツ賞

剣道

機械工学科4年  
佐藤 涉  
電気工学科4年  
植澤 裕史  
機械工学科3年  
八重樫 正彦  
電気情報工学科3年  
天野 俊平  
物質工学科3年  
進藤 真明  
物質工学科1年  
白井 秀樹

スポーツ賞

水泳

機械工学科4年  
佐々木 剣人  
電気情報工学科3年  
腰山 卓也  
物質工学科3年  
魚住 真吾  
物質工学科3年  
作左部 貴裕  
物質工学科1年  
池田 達彦

学術奨励賞

ファイナリスト全国高等学校ロボットコンテスト2006

機械工学科4年  
藤田 昂志  
機械工学科4年  
鈴木 博士  
機械工学科4年  
村井 慶之介  
物質工学科4年  
伊藤 将来  
機械工学科3年  
戸松 悠一郎  
機械工学科1年  
鈴木 彩香

学術奨励賞

東北地区高専文化開発委員会

物質工学科4年  
大越 誠  
電気情報工学科2年  
芋田 開  
物質工学科1年  
安田 可南子

学術奨励賞

全国高専デザインコン2006  
県誌デザインコンペティション部門

環境都市工学科3年  
荒木田 桂那

環境都市工学科3年  
工藤 静香  
環境都市工学科3年  
渡辺 舞子

学術奨励賞

第20回秋田の住宅コンクール

環境都市工学科3年  
菅野 春伸  
環境都市工学科2年  
星野 健

学術奨励賞

TOEIC

生産システム工学専攻1年  
小間屋 佑磨  
生産システム工学専攻1年  
柴田 純司  
生産システム工学専攻1年  
奈良 卓  
生産システム工学専攻1年  
原田 宏美  
生産システム工学専攻1年  
渡部 雄太  
環境システム工学専攻1年  
駒野谷 将  
環境システム工学専攻1年  
高橋 拓実

機械工学科4年  
秋山 雄介  
機械工学科4年  
松橋 壮耶  
機械工学科4年  
渡部 雄二  
電気工学科4年  
植澤 裕史  
電気工学科4年  
遠藤 基  
電気工学科4年  
齋藤 茉里絵  
物質工学科4年  
五十嵐 健輔  
物質工学科4年  
篠原 雄二

環境都市工学科4年  
佐藤 望  
環境都市工学科4年  
佐藤 佳和  
環境都市工学科4年  
菅原 裕輝  
環境都市工学科4年  
中村 大輝  
環境都市工学科4年  
吉田 未里

環境都市工学科4年  
米澤 公太郎  
機械工学科3年  
モハド フィルダウス  
ピンロリ  
電気情報工学科3年  
田中 伸和  
電気情報工学科3年  
能澤 春香  
電気情報工学科3年  
棟方 聡  
電気情報工学科3年  
ナイム ピン  
オスマン  
物質工学科3年  
田口 翔大  
物質工学科3年  
藤原 実希  
環境都市工学科3年  
工藤 大夢  
環境都市工学科3年  
リブチャン  
ボトラー

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教育の目的に照らして、生活指導や課外活動などにおいて、人間の素養の涵養が図られるように配慮しているといえる。

本校の校訓・教育理念のもと、規則、準則を作成し、学級担任を中心にこれら規則遵守の精神を育んでいる。学生委員は登校指導や校内外巡回指導を実施し、常に学生の動向に気を配っている。また、学生スタッフを中心にして学生会活動の支援を行っている。学校は後援会の費用をとおして、課外活動を積極的に支援している。さらに、他の学生の模範となる優れた活動を行った学生は、学年末に表彰している。

**<専攻科課程>**

**観点5-5-①：** 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程のカリキュラムは、一般科目を中心に学ぶ本科第1学年から第3学年と、学年の進行とともにくさび型に専門科目の比率が高くなる本科第4学年および第5学年の準学士課程を土台として、本科から専攻科までの連携を考慮に入れた編成となっている(資料5-5-①-1~6)。

専攻科課程の教育は、準学士課程と以下の点において密接な連携がなされている。

- (1) 国語教育では、必要な内容をまとめた確かな日本語で表現し相手に伝える表現手法の向上を図り、英語教育では、TOEICにおいて400点相当の実践的コミュニケーション能力の育成を行う。また、社会の仕組みや経営論を学び人間性、社会性を育む。
- (2) 数学や自然科学分野では、十分な理論の土台を固め、工学的専門分野における基礎学力を修得する。
- (3) 専門分野については、各分野の基礎を固める準学士課程を基に、応用および開発分野も学習する。
- (4) 研究については、基本的に準学士課程の第5学年で行われる卒業研究のさらなる発展を期待し、研究を継続できるようカリキュラムを構築することで、卒業研究と専攻科で行われる特別研究を合わせ、3年間にわたる研究活動を可能にしている。



資料 5 - 5 - ① - 1 「生産システム工学専攻の体系性と科目系統図 (平成 18 年度入学者)」

生産システム工学専攻の教育課程の体系性と科目系統図(平成18年度入学者)

達成しようとしている 基本的な成果	機械工学科 および 電気工学科 (平成13年度 入学)教育課程 との科目関連	授業科目名 (必修は必修科目、選択は選択科目、数字は単位数)			
		第1学年		第2学年	
		前期	後期	前期	後期
(1) 自ら問題を発見・解決する 能力を備え、生涯に亘って 学ぶことのできる能力を修 得する。	(1)①  (1)②	特別研究(必2)  生産システム工学特別実験 (必2)	特別研究(必4)  創造工学演習(必2)	特別研究(必4)  生産システム工学特別実験 (必2)	特別研究(必4)  創造工学演習(必2)
(2) 産業社会におけるグロー バル化に対応するため、正 しい日本語で表現(記 述・口述・討論)し、か つ国際的に通用するプレ ゼンテーション能力を修 得する。	(2)①  (2)②  (2)③		日本文学の心と形(選2)  科学技術社会論(選2)  英語Ⅱ(必2)		応用英語(選2)
(3) 複雑で多岐にわたる工業技 術分野に貢献できる技術を 有し、複合領域にも対応で きる能力を修得する。	(3)①  (3)②  (3)③  (3)④  (3)⑤  (3)⑥  (3)⑦  (3)⑧  (3)⑨  (3)⑩	システム工学特論(選2)  量子力学(選2) 環境の化学(選2) 応用力学(選2)  高速流体力学(選2)	校外実習(選1)  システム情報工学(選2) 応用数学(選2) 熱・統計力学(選2)  製作システム工学(選2) 機能性高分子材料(選2)  伝熱制御工学(選2)  地球環境科学(選2) セラミックス工学特論(選2)	図形・画像工学(選2)  超精密加工工学(選2)  振動工学(選2)  熱数値工学(選2)  電磁波工学(選2) 磁気工学(選2)  電子物性(選2) オプトエレクトロニクス(選2)	

(出典 平成 19 年度 専攻科授業計画 p. 3)

資料 5-5-①-2 「環境システム工学専攻の体系的性と科目系統図（平成 18 年度入学者）」

環境システム工学専攻の教育課程の体系的性と科目系統図（平成18年度入学者）

達成しようとしている 基本的な成果	物質工学科 および 環境都市工学科 (平成13年度 入学)教育課程 との科目関連	授業科目名 (必修は必修科目、選択は選択科目、数字は単位数)			
		第1学年		第2学年	
		前期	後期	前期	後期
(1) 自ら問題を発見・解決する 能力を備え、生涯に亘って 学ぶことのできる能力を修 得する。	(1)①  (1)②	特別研究(必2)	特別研究(必4)  創造工学演習(必2)	特別研究(必4)  環境システム工学特別実験 (必2)	特別研究(必4)  創造工学演習(必2)
(2) 産業社会におけるグロー バル化に対応するため、正 しい日本語で表現(記 述・口述・討論)し、か つ国際的に通用するプレ ゼンテーション能力を修 得する。	(2)①  (2)②  (2)③		日本文学の心と形(選2)  科学技術社会論(選2)  英語Ⅲ(必2)	応用英語(選2)	
(3) 複雑で多岐にわたる工業技 術分野に貢献できる技術を 有し、複合領域にも対応 できる能力を修得する。	(3)①  (3)②  (3)③  (3)④  (3)⑤  (3)⑥  (3)⑦  (3)⑧  (3)⑨  (3)⑩  (3)⑪	システム工学特論(選2)  量子力学(選2) 環境の化学(選2) 応用力学(選2)  無機材料論(選2) 高分子物性論(選2)  水環境工学(選2) 防災システム工学(選2)	校外実習(選1)  システム情報工学(選2) 応用数学(選2) 熱・統計力学(選2)  セラミックス工学特論(選2) 有機合成化学特論(選2)  地球環境科学(選2) 生物化学工業(選2)  環境都市構造論(選2) 環境地域計画学(選2) 環境地盤工学(選2) 電磁環境工学(選2)	物質循環工学(選2) 反応工学特論(選2) 分離工学(選2) 微生物工学(選2) 環境水文学(選2) 複合構造学(選2) コンクリート工学特論(選2)	

(出典 平成 19 年度 専攻科授業計画 p. 5)

資料 5 - 5 - ① - 3 「機械工学科の体系的性と科目系統図 (平成 13 年度入学者)」

機械工学科の教育課程の体系的性と科目系統図 (平成 13 年度入学者)

達成しようとしている基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)					生産システム工学専攻(平成18年度入学者)教育課程との科目関連	
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年		
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語Ⅰ(必3)	国語Ⅱ(必2)	国語Ⅲ(必2)	日本文学(必2)	日本語表現(選1)	→ (2)①	
	現代社会(必2)	倫理(必2)	日本史(必2)	法と経済(選1)	技術者倫理(選1)		→ (2)②
	保健体育(必3)	世界史(必2)	産業・経済(必2)	社会と文化(選1)			
	芸術(必1)	保健体育(必2)	保健体育(必2)	保健体育(必1)	保健体育(必1)		
		文科ゼミナール(必1)					
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学Ⅰ(必4)	線形代数(必2)	応用解析Ⅰ(必2)	応用解析Ⅱ(必2)		→ (3)①	
	基礎数学Ⅱ(必2)	微分積分学(必4)	微分積分学(必2)	応用解析ⅢB(必3)			→ (3)②
	化学ⅠB(必3)	化学ⅠB(必2)	化学Ⅱ(選1)				
	生物A(選1)	物理(必3)	物理(必1)	応用物理(必2)	応用物理(必2)		
		応用物理(必2)	地球科学(選1)				
		科学ゼミナール(必1)					
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語(必4)	英語(必4)	英語(必4)	英語(必2)	英語(必2)	→ (2)③	
	英語LL演習(必2)	英語会話(必2)		工業英語(選1)	現代英語演習(選1)		→ (2)③
				独語Ⅰ(必2)	英語購読(選1)		
				科学英語(選1)	独語Ⅱ(選1)		
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。	機械製作法(必2)			機械製作法(必1)	材料学特論(選1)	→ (3)③	
				工作機械(選1)	塑性加工論(選1)		→ (3)④
			材料学(必2)	材料学(必1)	破壊力学(選1)	→ (3)④	
			材料力学(必1)	材料力学(必2)	計算力学(必2※)		→ (3)⑤
			機械力学(必1)	機械力学(必1)	機械構造力学(選1)	→ (3)⑤	
			機械要素(必1)	機械要素(必1)	機械力学(必1)		
	情報処理(必1)	情報処理(必2)	情報処理(必1)	情報処理(必1)	制御工学(必2※)	→ (3)⑥	
		電気工学(必1)	電気工学(必1)	電気工学(必1)	システム工学(選1)		→ (3)⑥
			計測工学(必1)	計測工学(必1)	特別講義(必1)		
			電子工学(必1)	電子工学(必1)	ロボット工学(選1)		
			熱工学(必2※)	熱工学(必2※)	→ (3)⑥		
				熱工学特論(選1)		→ (3)⑥	
			自動車工学(選1)	伝熱概論(選1)	→ (3)⑥		
			流体工学(必2※)	内燃機関(選1)		→ (3)⑥	
				流体工学(必2※)	→ (3)⑥		
				流体機械(選1)		→ (3)⑦	
	設計製図(必2)	設計製図(必2)	設計製図(必2)	設計製図(必2)	設計製図(必2)		
			コンピュータ製図(必1)				
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	工作実習(必3)	工作実習(必3)	創造設計製作(必2)	工学実験(必3)	工学実験(必3)	→ (1)②	
				校外実習A(選1)			
				校外実習B(選2)			
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				機械基礎研究(必1)	卒業研究(必7)	→ (1)①	

(出典 平成 19 年度 専攻科授業計画 p. 7)

資料 5 - 5 - ① - 4 「電気工学科の体系的性と科目系統図 (平成 13 年度入学者)」

電気工学科の教育課程の体系的性と科目系統図(平成13年度入学者)

達成しようとしている 基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)					生産システム工学 専攻(平成18年 度入学者) 教育課程との 科目関連
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語Ⅰ(必3) 現代社会(必2)	国語Ⅱ(必2) 倫理(必2) 世界史(必2)	国語Ⅲ(必2) 日本史(必2) 産業・経済(必2)	日本文学(必2) 法と経済(選1) 社会と文化(選1)	日本語表現(選1) 技術者倫理(選1)	→(2)① →(2)②
	保健体育(必3) 芸術(必1)	保健体育(必2) 文科ゼミナール(必1)	保健体育(必2)	保健体育(必1)	保健体育(必1)	
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2) 化学ⅠB(必3) 生物A(選1)	線形代数(必2) 微分積分学(必4) 化学ⅠB(必2) 物理(必3)	応用解析Ⅰ(必2) 微分積分学(必2) 化学Ⅱ(選1) 物理(必1) 応用物理(必2) 地球科学(選1) 科学ゼミナール(必1)	応用解析Ⅱ(必2) 応用解析ⅢB(必3) 電気化学(選1) 応用物理(必2)		→(3)① →(3)②
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語(必4) 英語LL演習(必2)	英語(必4) 英語会話(必2)	英語(必4)	英語(必2) 独語Ⅰ(必2)	英語(必2) 現代英語演習(選1) 英語購読(選1) 科学英語(選1) 工業英語(必1) 独語Ⅱ(選1)	→(2)③
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。		電気計測(必1)	電気計測(必1)		応用計測(選2) 音響工学(選1)	
	電気基礎(必2)	電気磁気学(必2) 電気回路(必2)	電気磁気学(必2) 電気回路(必2)	電気回路(必2) 電子回路(必2)	特別講義(必1) 電気通信(必2) 電子回路(必1)	→(3)⑧
	電子計算機(必1)	電子計算機(必1)	電子計算機(必1)	電子工学(必2) 電気材料(必1) 情報処理(必2) 制御工学(必2)	電気材料(必1) 計算機応用(選2) 制御工学(必1)	→(3)⑨
	電気製図(必3)		電気機器(必2)	電気機器(必2)	電気応用(選2) 電気設計(必2)	→(3)⑩
			電力量工学Ⅰ(必1)	電力量工学Ⅰ(必2)	電力量工学Ⅱ(選2) 高電圧工学(選2) 電気法規(選1)	
				機械工学概論(選1)		
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	実験実習(必2)	実験実習(必3)	実験実習(必3)	実験実習(必3) 校外実習A(選1) 校外実習B(選2)	実験実習(必3)	→(1)②
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				工学研究(必1)	卒業研究(必7)	→(1)①

(出典 平成 19 年度 専攻科授業計画 p. 8)

資料 5 - 5 - ① - 5 「物質工学科の体系的性と科目系統図 (平成 13 年度入学者)」

物質工学科の教育課程の体系的性と科目系統図(平成13年度入学者)

達成しようとしている 基本的な成果	授業科目名 (物は物質コース、生は生物コース、必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)					環境システム工学 専攻(平成18年 度入学者) 教育課程との 科目関連
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語Ⅰ(必3) 現代社会(必2)	国語Ⅱ(必2) 倫理(必2) 世界史(必2)	国語Ⅲ(必2) 日本史(必2) 産業・経済(必2)	日本文学(必2) 法と経済(選1) 社会と文化(選1)	日本語表現(選1) 技術者倫理(選1)	(2)① (2)②
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2)	線形代数(必2) 微積分学(必4) 物理(必3)	応用解析Ⅰ(必2) 微積分学(必2) 物理(必1) 応用物理(必2) 地球科学(選1) 科学ゼミナール(必1)	応用解析Ⅱ(必2) 応用解析ⅢA(必2) 応用物理(必1)	応用解析Ⅳ(選1)	(3)① (3)②
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語(必4) 英語LL演習(必2)	英語(必4) 英語会話(必2)	英語(必4)	英語(必2) 工業英語Ⅰ(必1) 独語Ⅰ(必2)	英語(必2) 現代英語演習(選1) 英語購読(選1) 科学英語(選1) 独語Ⅱ(選1)	(2)③
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。	情報処理(必1) 化学ⅠA(必4) 物質工学序論(必1) 物質工学製図(必2) 生物B(必2)	情報処理(必2) 分析化学(必2) 無機化学(必2) 有機化学(必2)	無機化学(必2) 有機化学(必2) 物理化学(必2) 化学工学(必2) 生物化学(必1)	機器分析(必1) 無機材料工学(物必2) 高分子科学(必1) 有機合成化学(物必2) 物理化学(必2※) 化学熱力学(必2) 化学工学(必2※) 生物化学(必1) 応用微生物学(生必2) 生物化学工学(生必2)	金属材料工学(物必1) 無機工業化学(必2) 有機工業化学(必2) 有機材料工学(物必2) 物質工学総論(選1) 環境工学(選1) 反応工学(物必2※) 生物工学総論(選1) 医薬品工学(選1) タンパク質工学(生必2) 遺伝子工学(生必2※) 培養工学(生必1)	(3)③ (3)④ (3)⑤ (3)⑥ (3)⑦
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	物質工学基礎実験(必1)	分析化学実験(必3)	無機化学実験(必3) 有機化学実験(必3)	物理化学実験(必3) 化学工学実験(必3) 校外実習A(選1) 校外実習B(選2)	物質工学実験(物必4) 生物工学実験(生必4)	(1)②
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				基礎研究(選1)	卒業研究(必8)	(1)①

(出典 平成 19 年度 専攻科授業計画 p. 9)

資料 5 - 5 - ① - 6 「環境都市物質工学科の体系性と科目系統図 (平成 13 年度入学者)」

環境都市工学科の教育課程の体系性と科目系統図 (平成13年度入学者)

達成しようとしている基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)					環境システム工学専攻(平成18年度入学者)教育課程との科目関連
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語Ⅰ(必3) 現代社会(必2) 保健体育(必3) 芸術(必1)	国語Ⅱ(必2) 倫理(必2) 世界史(必2) 保健体育(必2) 文科ゼミナール(必1)	国語Ⅲ(必2) 日本史(必2) 産業・経済(必2) 保健体育(必2)	日本文学(必2) 法と経済(選1) 社会と文化(選1) 保健体育(必1)	日本語表現(選1) 技術者倫理(選1) 保健体育(必1)	→(2)① →(2)②
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2) 化学ⅠB(必3) 生物A(選1)	線形代数(必2) 微分積分学(必4) 化学ⅠB(必2) 物理(必3)	応用解析Ⅰ(必2) 微分積分学(必2) 化学Ⅱ(選1) 物理(必1) 応用物理(必2) 地球科学(選1) 科学ゼミナール(必1)	応用解析Ⅱ(必2) 応用解析ⅢB(必3) 応用物理(必1)		→(3)① →(3)②
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語(必4) 英語LL演習(必2)	英語(必4) 英語会話(必2)	英語(必4)	英語(必2) 独語Ⅰ(必2)	英語(必2) 現代英語演習(選1) 英語購読(選1) 科学英語(選1) 独語Ⅱ(選1)	→(2)③
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。	情報科学(必2) 測量学(必1)	Cプログラミング(必2) 測量学(必2)	数値解析論(必1)	環境都市デザイン論(必2) 建築史(必1) 建設法規論(選1) 環境都市デザイン演習Ⅰ(必2) 設計製図(必1)	測量学(必1) 室内環境工学(選1) 意匠設計(必1) 環境都市デザイン演習Ⅱ(選2) 設計製図(必1) 都市計画(必2※) 計画数理(必1) 交通工学(選2) 河川工学(選2) 港湾工学(選1) 自然環境防災工学(必1) 環境アセスメント(必1) 緑化保全工学(必1) 都市環境工学(必1) 施工管理工学(必1) 建築施工論(選1) 構造設計論(必1) 耐震工学(必1)	→(3)⑧ →(3)⑨ →(3)⑩ →(3)⑪
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	環境都市工学実験実習(必2)	環境都市工学実験実習(必2)	環境都市工学実験実習(必2)	環境都市工学実験実習(必2) 校外実習A(選1) 校外実習B(選2)	環境都市工学実験実習(必1)	→(1)②
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				基礎研究(選1)	卒業研究(必6)	→(1)①

(出典 平成 19 年度 専攻科授業計画 p. 10)

(分析結果とその根拠理由)

本校専攻科課程では、人文科学分野，自然科学分野，専門分野をとおして，準学士課程のカリキュラム体系を土台に，継続性と整合性，そして学問の修得における効率性を考慮した専攻科カリキュラムが構築されている。また，研究活動においては，卒業研究と特別研究を併せて，3年間継続して研究活動に取り組むことができ，より深い研究が可能である。

以上のことから，準学士課程との連携に考慮した教育課程となっているといえる。

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程では、準学士課程の教育を基盤とし、効率の良い形で修得できるカリキュラムを編成している（資料5-5-②-1～2）。

本校の教育の目的に照らして、専攻科課程の授業科目は適切に配置されている（前述資料5-5-①-1～2）。

「(1) 自ら問題を発見・解決する能力」を達成するために、特別研究は2年間を通じて継続的、定常的に取り組むことが可能であるばかりでなく、第2学年後期では、特別研究の展開や仕上げを総点検する時間を確保できるようカリキュラムを編成している。また、第1学年では、特別実験を必修科目として配置している。そこでは、準学士課程で学んだ分野とは異なる実験－例えば、電気情報工学科出身の学生は機械工学科の実験－を行うことにより、広い分野の知識を修得できるようにしている。創造性を育み、自らの考えを実現する創造工学演習を、第1学年および第2学年に必修科目として配置し、問題解決能力と生涯に亘って学び得る能力の育成を目指している。

「(2) 正しい表現や国際的プレゼンテーション能力」を達成するために、準学士課程から継続したコミュニケーション能力の養成に努める英語や国語は、常に継続した学習が可能となるよう、できるだけ応用英語Ⅰ、応用英語Ⅱ、応用英語Ⅲのように空白期間の無いよう配置し、必修科目としてTOEIC400点相当の能力の達成を目指している。また、広い視野と教養を育む社会系科目は、精選してカリキュラムの前半に配置し、社会観や倫理観を土台に高い専門的教育を編成している。

「(3) 複合領域にも対応できる能力」を達成するために、大学工学部レベルの数学、自然科学をカリキュラムの前半に設定し、工学の基礎となる高度な応用数学を2専攻共通の必修科目とし、また、システム情報工学などのシステム系科目、応用力学などの力学系科目および固体物性論などの物性系科目を、広い工学分野に共通して必要となる基礎工学として重視し、専門共通科目として配置している。専門的な各分野の専門科目は、2年間にほぼ平均して配置している。



資料5-5-②-1 「平成18年度以降専攻科入学者カリキュラム表(生産システム工学専攻の場合)」

生産システム工学専攻教育課程

平成18年度以降入学者

区分	必修・選択	授業科目	講演実の義習験別	単位数	学年配当				備考	
					1年次		2年次			
					前期	後期	前期	後期		
一般科目	外国語	英語 I	演習	2	2					
		英語 II	演習	2		2				
	選択	応用英語	講義	2			2			
	一般	選択	日本文学の心と形論	講義	2		2			
			科学技術社会論	講義	2		2			
			環境の化学	講義	2	2				*
			地球環境科学	講義	2		2			*
一般科目開設単位小計				14	4	8	2			
一般科目修得単位小計				12以上	12以上					
専門科目	選択	応用数学	講義	2	2				*	
		熱統計力学	講義	2		2			*	
		システム情報工学	講義	2		2			*	
		応用力学	講義	2	2					
		量子力学	講義	2	2					
		システム工学特論	講義	2	2					
		セラミックス工学特論	講義	2		2				
校外実習	実習	1		1						
専門共通科目開設単位小計				15	8	7				
専門共通科目修得単位小計				8以上	8以上					
専門科目	必修	特別研究	演習	14	2	4	4	4		
		生産システム工学特別実験	実験	4	2		2			
		創造工学演習	演習	4		2		2		
	選択	図形・画像工学	講義	2			2			
		伝熱制御工学	講義	2		2				
		エネルギー変換工学	講義	2	2					
		製作システム工学	講義	2		2				
		超精密加工工学	講義	2			2			
		高速流体力学	講義	2	2					
		数値熱工学	講義	2			2			
		電子物性	講義	2			2			
		オプトエレクトロニクス	講義	2			2			
		電気磁気学特論	講義	2	2					
		電磁波工学	講義	2			2			
		機能性高分子材料	講義	2			2			
		振動工学	講義	2			2			
		超音波工学	講義	2			2			
磁気工学	講義	2			2					
電気機器学特論	講義	2			2					
専門専攻科目開設単位小計				54	10	12	26	6		
専門専攻科目修得単位小計				42以上	42以上					
専門科目開設単位小計				69	18	19	26	6		
専門科目修得単位小計				50以上	50以上					
一般・専門科目開設単位合計				83	22	27	28	6		
一般・専門科目修得単位合計				62以上	62以上					

(注) J A B E E の資格取得希望者は、備考欄に「\*」印の付いている授業科目をすべて修得しなければならない。

資料5-5-②-2 「平成19年度以降専攻科入学者カリキュラム表(生産システム工学専攻の場合)」

生産システム工学専攻教育課程

平成19年度以降入学者

区分	必修・選択	授業科目	講演実の 義習験別	単位数	学年配当				備考
					1年次		2年次		
					前期	後期	前期	後期	
一般科目	外国語	必修	応用英語Ⅰ	講義	2	2			
		必修	応用英語Ⅱ	講義	2		2		
	一般	選択	応用英語Ⅲ	講義	2			2	
		必修	日本文化論	講義	2		2		
		必修	応用数学	講義	2	2			
		必修	環境科学	講義	2	2			
選択	社会経済史	講義	2		2				
選択	事業経営論	講義	2			2			
一般科目開設単位小計					16	6	6	4	
一般科目修得単位小計					12以上	12以上			
専門科目	必修	熱統計力学	講義	2		2			
		システム情報工学	講義	2	2				
		応用力学	講義	2	2				
	選択	エネルギー材料科学	講義	2		2			
		システム工学特論	講義	2			2		
		量子力学	講義	2	2				
		固体物性論	講義	2		2			
		生産システム工学	講義	2			2		
	校外実習	実習	1		1				
	専門共通科目開設単位小計					17	6	7	4
専門共通科目修得単位小計					12以上	12以上			
専門科目	必修	特別研究	演習	16	4	4	4	4	
		生産システム工学特別実験	講義	2	2				
		創造工学演習	演習	4		2		2	
	選択	高速流体力学	講義	2	2				
		移動力学	講義	2		2			
		超精密加工学	講義	2		2			
		振動工学	講義	2			2		
		機能性高分子材料学	講義	2				2	
		図形・画像工学	講義	2			2		
		電磁波工学	講義	2		2			
		電子物性	講義	2		2			
		オプトエレクトロニクス	講義	2			2		
		エネルギー変換工学	講義	2	2				
		電気磁気学特論	講義	2	2				
専門専攻科目開設単位小計					44	12	14	10	8
専門専攻科目修得単位小計					38以上	38以上			
専門科目開設単位小計					61	18	21	14	8
専門科目修得単位小計					50以上	50以上			
一般・専門科目開設単位合計					77	24	27	18	8
一般・専門科目修得単位合計					62以上	62以上			

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程では、準学士課程の教育を基盤とし、効率の良い形で修得できるカリキュラムを編成している。また、本校の教育の目的に照らして、専攻科の授業科目は適切に配置されているといえる。

観点5-5-③： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

専攻科学生には、準学士課程あるいは専攻科課程のいずれかにおいて、1週間以上のインターンシップを行うよう履修指導している。（資料5-5-③-1）。

大学等との単位互換に関しては、秋田県内の高等教育機関と平成15年に協定書を交わし、多様な学習機会を提供できる環境を整備している。（資料5-5-③-2）。

（分析結果とその根拠理由）

学生からの要望や、学術の発展動向、社会からの要望に対応すべく、インターンシップの履修指導を積極的に行っている。また、秋田県内の高等教育機関との単位互換制度を確立している。

## 資料5-5-③-1 「校外実習シラバス」

授業科目	必・選	学年	専攻	担当教員	単位数	授業時間	自主学习時間
校外実習 Extramural Practice	選択	1年	生産	生産システム工 学専攻主任	1	45時間以上	
[教材] プリント (実習先で配布される資料)							
[授業の目標と概要] 学生時代に実社会を経験することにより学ぶ目的意識を高め、高専で学んでいる内容が実際の現場でどのように応用されているかを理解し、今後の勉学に役立てる。また、現場の人間関係を経験し、将来実社会に出たときに必要な協調性を身につける。							
[授業の進め方] 夏休み、冬休みまたは春休みに行う。実習先での体験を報告書としてまとめ、実習内容を発表する。							
[授業内容]							
授業項目				時間	内容		
実習ガイダンス				1	実習の心構え、評価方法を説明する。		
1. 企業などの実習内容を理解し実習先を選択				3	受け入れ先の内容を検討し、実習先を選択できる。		
2. 実習内容と実習先の技術内容				30 以上	実習内容、実習先の業務内容が理解できる。		
3. 実習中の実習内容を記載				5 以上	毎日の実習内容を記載できる。		
4. 実習報告書をまとめ考察				5	実習内容をまとめ報告書を作成できる。		
5. 実習内容の発表				1	実習内容を発表できる。		
[到達目標] 企業などの業務内容を理解し、実体験を通して講義・実験と実際の技術との関連づけができるようになること。それを通して、将来の自分の職業に対する目標が立てられるようになること。							
[評価方法] 実習報告書および実習内容の発表を通して、実習内容の理解度を確認し評価する。また、実習先からの実習報告書がある場合には、それも考慮にいれて評価する。評価は合格、不合格で行う。							
[関連科目] 高専の本科、専攻科で履修する全科目							
[学習上の注意] 実習先への移動も含め、実習期間中には十分安全確保に努める。実習先の指示に従う。長期間の滞在になることもあるので、健康管理には十分配慮する。							
秋田高専 学習・教育目標				C-3	JABEE基準	d-2(d)	

(出典 平成19年度 専攻科授業計画 p.33)

資料 5 - 5 - ③ - 2 「秋田県における大学、短期大学及び高等専門学校間の単位互換に関する協定書」

## 秋田県における大学、短期大学及び高等専門学校間の単位互換に関する協定書

秋田大学、秋田県立大学、秋田経済法科大学、秋田県立大学短期大学部、秋田公立美術工芸短期大学、秋田経済法科大学短期大学部、聖霊女子短期大学、日本赤十字秋田短期大学、聖園学園短期大学及び秋田工業高等専門学校（以下「参加大学等」という。）は、相互の交流と協力を推進し、大学等教育の活性化と充実に資するとともに、意欲ある学生に多様な学習機会を提供することを目的とし、次により単位互換を行うことに合意する。

（対象学生）

- 1 本協定により単位互換ができる学生は、参加大学等に在学する学生とする。  
（受入学生の呼称）
- 2 本協定に基づき、参加大学等が受け入れる学生は、特別聴講学生と称する。  
（受入学生数）
- 3 参加大学等が受け入れる特別聴講学生数は、授業に支障のない範囲とし、必要に応じ、参加大学等間で調整する。  
（履修方法）
- 4 特別聴講学生の科目登録、単位の認定等については、受入大学等の規則の定めるところによる。  
（授業料等の費用）
- 5 受入に係る検定料、入学料及び授業料は徴収しない。  
（運営会議）
- 6 本協定による単位互換を円滑に実施するため、運営会議を置く。  
（有効期間）
- 7 本協定の有効期間は、平成15年10月9日から平成19年3月31日までとする。  
（改廃）
- 8 この協定の改廃は、参加大学等間の協議によるものとする。  
（その他）
- 9 本協定書に定めるもののほか、単位互換の実施に関する細目は、覚書により別に定める。

（出典 総務課総務係資料）

観点 5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

講義、演習、実習に分類される授業形態の開設単位数の内訳は、資料 5-6-①-1 に示すとおりである。高度な専門的内容の修得や理論解析能力の向上のために、講義形式が数的には多くなっているが、講義形式の授業であっても理解を深めるために、実習講義形式や演習講義形式を適宜導入して授業を行っている科目も少なくない。

応用英語Ⅱでは、情報機器として ALC NetAcademy を利用した演習を継続的に重ね、TOEIC のスコアアップを指標にプレゼンテーション能力も含めた、総合的で実践的なコミュニケーション能力を育成している（資料 5-6-①-2）。

創造工学演習では、準学士課程の学習を土台に、その応用として少人数グループによる自作実習を行っている。これにより、企画、対話・討論、製作、改良、完成までの一巡形授業を行うことで、教員をはじめグループ内での双方向授業として、興味の喚起と自発的向上心、知識の広がりをも促すことができる（資料 5-6-①-3～4）。

（分析結果とその根拠理由）

講義形態を基本とした授業においても、演習、実習を適宜織り交ぜた形態で授業が行われており、理論と演習、実習のバランスが適切であるといえる。また、自作の教材を用いて授業内容の理解を助けるとともに、対話・討議形式、自己提案型の創造工学演習、小テストや演習的内容を多く取り入れた授業が行われている。

資料 5-6-①-1 「授業形態別単位数（平成 18 年度入学生）」

学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する授業形態の割合

学科名	学年	合計単位数	(1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。				(2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現（記述・口述・討論）し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。				(3) 複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、学際領域にも対応できる能力を修得する。			
			講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計
生産システム工学専攻	1年	合計単位数	0	2	10	12	4	0	1	5	34	0	0	34
		割合	0.0%	16.7%	83.3%	100.0%	80.0%	0.0%	20.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	2年	合計単位数	0	2	8	10	2	0	0	2	14	0	0	14
		割合	0.0%	20.0%	80.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
環境システム工学専攻	1年	合計単位数	0	2	10	12	4	0	1	5	34	0	0	34
		割合	0.0%	16.7%	83.3%	100.0%	80.0%	0.0%	20.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	2年	合計単位数	0	2	8	10	2	0	0	2	14	0	0	14
		割合	0.0%	20.0%	80.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%

（出典 カリキュラム表から抜粋）

## 資料 5 - 6 - ① - 2 「応用英語Ⅱシラバス」

授業科目	必・選	学年	専攻	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間																								
応用英語Ⅱ Applied English II	必修	1年	生産	小林 貢	2	後期週2時間 (合計30時間)	後期週4時間 (合計60時間)																								
<p>[教材] 「ALC NetAcademy 初級・中級者のための TOEIC テストスコアアップコース」 ALC            教科書:「新 TOEIC Test 文法・リーディング中級問題集」 松柏社            補助教科書:「データベース 5500 合格 英単語・熟語」 桐原書店</p>																															
<p>[授業の目標と概要]            TOEIC の Listening 及び Reading の演習により、英文法の理解や語彙力の増強による TOEIC スコアアップのみならず、総合的な実践的英語コミュニケーション能力を向上できるようになること。</p>																															
<p>[授業の進め方]            講義形式で行う。</p>																															
<p>[授業内容]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業項目</th> <th>時間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業ガイダンス</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ALC NetAcademy 初級・中級者のための TOEIC テストスコアアップコース Unit 11~Unit 20 Listening Part Unit 11~Unit 20 Reading Part Unit 11~Unit 20</td> <td>10 11</td> <td>ALC NetAcademy 初級・中級者のための TOEIC テストスコアアップコース Listening Part Unit 11~Unit 20 及び Reading Part Unit 11~Unit 20 を解くことができる。</td> </tr> <tr> <td>ALC NetAcademy 初級・中級者のための TOEIC テストスコアアップコース TOEIC テスト演習 Unit 6~Unit 10 修了テスト (TOEIC テスト形式)</td> <td>5 1</td> <td>修了テストを解くことができる。</td> </tr> <tr> <td>データベース 5500 小テスト Level 3 ~ Level 4 は小テストとして、ALC NetAcademy と並行して行う。</td> <td></td> <td>データベース 5500 小テスト Level 3 ~ Level 4 の英単語の意味を書くことができる。</td> </tr> <tr> <td>教科書:「新 TOEIC Test 文法・リーディング中級問題集」は、宿題として ALC NetAcademy と並行して行う。</td> <td></td> <td>新 TOEIC Test 文法・リーディングの問題を解くことができる。</td> </tr> <tr> <td>後期試験</td> <td>あり</td> <td>上記項目について学習した内容の理解度を確認する</td> </tr> <tr> <td>試験の解説と解答</td> <td>2</td> <td>後期試験の解説と解答、本授業のまとめ、授業アンケート</td> </tr> </tbody> </table>								授業項目	時間	内 容	授業ガイダンス	1		ALC NetAcademy 初級・中級者のための TOEIC テストスコアアップコース Unit 11~Unit 20 Listening Part Unit 11~Unit 20 Reading Part Unit 11~Unit 20	10 11	ALC NetAcademy 初級・中級者のための TOEIC テストスコアアップコース Listening Part Unit 11~Unit 20 及び Reading Part Unit 11~Unit 20 を解くことができる。	ALC NetAcademy 初級・中級者のための TOEIC テストスコアアップコース TOEIC テスト演習 Unit 6~Unit 10 修了テスト (TOEIC テスト形式)	5 1	修了テストを解くことができる。	データベース 5500 小テスト Level 3 ~ Level 4 は小テストとして、ALC NetAcademy と並行して行う。		データベース 5500 小テスト Level 3 ~ Level 4 の英単語の意味を書くことができる。	教科書:「新 TOEIC Test 文法・リーディング中級問題集」は、宿題として ALC NetAcademy と並行して行う。		新 TOEIC Test 文法・リーディングの問題を解くことができる。	後期試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する	試験の解説と解答	2	後期試験の解説と解答、本授業のまとめ、授業アンケート
授業項目	時間	内 容																													
授業ガイダンス	1																														
ALC NetAcademy 初級・中級者のための TOEIC テストスコアアップコース Unit 11~Unit 20 Listening Part Unit 11~Unit 20 Reading Part Unit 11~Unit 20	10 11	ALC NetAcademy 初級・中級者のための TOEIC テストスコアアップコース Listening Part Unit 11~Unit 20 及び Reading Part Unit 11~Unit 20 を解くことができる。																													
ALC NetAcademy 初級・中級者のための TOEIC テストスコアアップコース TOEIC テスト演習 Unit 6~Unit 10 修了テスト (TOEIC テスト形式)	5 1	修了テストを解くことができる。																													
データベース 5500 小テスト Level 3 ~ Level 4 は小テストとして、ALC NetAcademy と並行して行う。		データベース 5500 小テスト Level 3 ~ Level 4 の英単語の意味を書くことができる。																													
教科書:「新 TOEIC Test 文法・リーディング中級問題集」は、宿題として ALC NetAcademy と並行して行う。		新 TOEIC Test 文法・リーディングの問題を解くことができる。																													
後期試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する																													
試験の解説と解答	2	後期試験の解説と解答、本授業のまとめ、授業アンケート																													
<p>[到達目標]            TOEIC の Listening 演習や Reading 演習を重ねることで、英文法の理解や英語の語彙が修得できることに加えて、迅速な英文理解及び情報収集ができるようになること。</p>																															
<p>[評価方法] 合格点は60点である。学年総合成績は、後期試験成績 70%、小テスト、レポート、宿題を 30%で評価する。</p>																															
<p>[関連科目] 応用英語Ⅰ, 応用英語</p>																															
<p>[学習上の注意]            予習・復習及び課題学習を自律的に行うことがポイントである。</p>																															
秋田高専 学習・教育目標		D-2		JABEE 基準		a , f																									



## 資料5-6-①-3 「創造工学演習シラバス」

授業科目	必・選	学年	専攻	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
創造工学演習 Exercise of Creative Engineering	必修	1年	生産	木澤 悟	2	後期週4時間 (合計60時間)	後期週2時間 (合計30時間)
[教材] 教科書:プリント(自作テキスト) 補助教科書:電子工作のためのPIC活用ガイドブック 後閑哲哉著 技術評論社							
[授業の目標と概要] ワンチップマイコンであるPICを用いたサッカーロボットの設計と製作を通してメカトロシステム構築法について学習し、競技会によって成果を発表する。関連する内容について、書籍やインターネットで補助資料を収集できる能力を養う。							
[授業の進め方]演習形式で行います。							
[授業内容]							
授業項目	時間	内 容					
授業ガイダンス	4	授業の進め方と評価の仕方について説明する					
1 メカトロニクスの基礎 (1)実験の目的、競技説明、製作の進め方 (2)PICマイコンの動作 (3)モータドライブとモータ制御 (4)送受信赤外線モジュール (5)プログラミング		製作のための段取りと進め方が理解できる PICの使い方を理解することができる モータドライバの動作原理が理解できる 赤外線モジュールの使い方がわかる c言語によるPICの操作が理解できる					
2 構想と設計 (1)サッカーロボットの構想 (2)メカ部の設計と製図 (3)制御のための電子回路の設計および構成 (4)中間報告会(プレゼンテーション)	16	戦術を基にロボット製作を構想することができる CAD等を利用して設計製図ができる ブレッドボード上で配線し制御回路が理解できる 構想設計したアイデアを発表する					
3 製作 (1)機械加工 (2)制御のための電子回路基盤の作成 (3)プログラムの作成	36	メカ部を旋盤やフライス盤による機械加工ができる 基盤にPICや電子素子を配置し半田付けができる プログラムをPICに転送しデバッグすることができる					
4 サッカーロボット競技会	2	グループで製作したロボットで競技することができる					
5 最終報告レポート	2	設計図、回路図を添付し製作したロボットの特徴や欠点をまとめた報告書を提出できる。本授業のまとめ授業アンケート					
[到達目標] 製作を通して、新しい技術や知識を積極的に取り入れ、創造的な思考を養う。製作過程の中で、失敗を繰り返しながら問題発見能力および問題解決能力の向上を目指す。共同しながら作業を進める能力を獲得する。最終的には競技可能なロボットを製作できること。							
[評価方法] 合格点は60点である。レポート30%、プレゼン20%、アイデア10%、技術力10%、創造性10%、大会結果10%、製作活動への意欲10%で評価する。							
[関連科目] 機械、電気情報系科目全般							
[学習上の注意] 自分でよく考え、いろいろな方法にチャレンジしてみること。話し合う中から良いアイデアが浮かぶ可能性もあるのでグループでの話し合いも大切にすること。							
秋田高専学習・教育目標	C-4, E-1	J A B E E基準	d-2(c), h				

## 資料 5-6-①-4 「創造工学演習シラバス」

授業科目	必・選	学年	専攻	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
創造工学演習 Exercise of Creative Engineering	必修	2年	生産	安東 至	2	後期週 4 時間 (合計 60 時間)	後期週 2 時間 (合計 30 時間)
[教材] 教科書：配付プリントと配布 IC 規格表 補助教科書：「コンパクト電子回路ハンドブック」 高橋 勳 著 丸善							
[授業の目標と概要] 立案したデジタルおよびアナログ IC による電子回路の設計および製作を通じて、デジタル・アナログ IC, FPGA の基本的な使用方法を修得するとともに、回路設計および製作能力を養う。							
[授業の進め方] 演習形式で行う。最後に製作回路の発表とレポート提出を行う。							
[授業内容]							
授業項目		時間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
1. 電子回路製作の基礎							
(1) デジタル回路の基本回路と動作原理		2	デジタル回路の基本回路と動作原理が理解できる。				
(2) アナログ回路の基本回路と動作原理		2	アナログ回路の基本回路と動作原理が理解できる。				
(3) FPGA の設計		5	FPGA の設計手法がわかる。				
2. 立案と設計および製作							
(1) 電子回路の立案		4	製作する電子回路の立案と電子回路の結びつきが理解できる。				
(2) 電子回路の全体設計		4	電子回路の全体設計が行え、全体の動作原理が理解できる。				
(3) 電子回路の詳細設計		8	電子回路の詳細設計が行え、各部の動作原理が理解できる。				
3. 製作							
(1) 電子回路の製作		20	設計回路図面をもとに、電子回路を基板上に製作できる。				
(2) 電子回路の動作確認		10	製作した電子回路の動作を確認し、間違いなどを修復できる。				
4. 製作回路の発表		2	製作回路の立案理由と設計、製作について発表できる。				
5. 最終報告レポート		2	設計した回路図面を添付した報告書をまとめることができる。授業アンケート				
[到達目標] デジタル・アナログ IC や FPGA を活用した電子回路設計技術を積極的に取り入れ、基本的な電子回路設計が出来るようになること。また、立案から完成までの全過程において、創造的な思考、問題の発見とその解決手段を学ぶ。							
[評価方法] レポート 30%、回路設計 20%、製作回路の発表 20%、回路製作への取り組み 30% で評価する。							
[関連科目] 機械、電気系科目全般							
[学習上の注意] 配付資料を参考に、各自文献を調べ、利用できる様々な電子回路を検討すること。製作回路の未発表者とレポート未提出者は単位の取得が困難となるので注意すること。							
秋田高専学習・教育目標		C-4, E-1		J A B E E 基準		d -2(c), h	

**観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

（観点に係る状況）

創造性を育む教育方法として、学生3～4名を1グループとした「創造工学演習」を導入している。

生産システム工学第1学年における創造工学演習では、ロボット競技の企画、調査、設計、開発、試作を行い、競技会を開いてロボットの性能を評価する（前述資料5-6-①-3、資料5-6-②-1）。

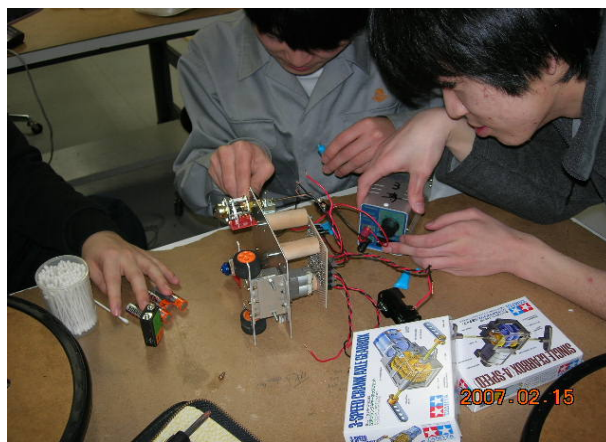
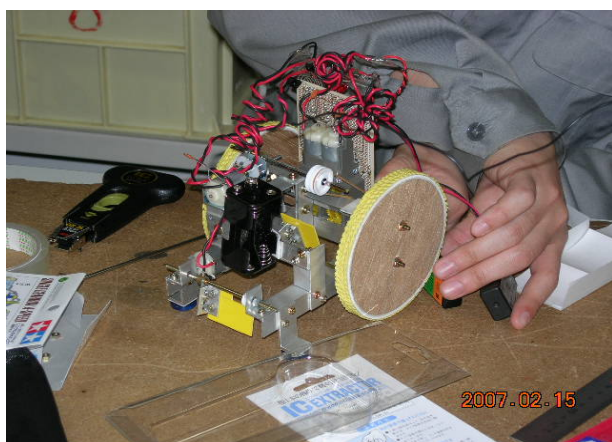
また、生産システム工学第2学年の創造工学演習では、デジタルおよびアナログICによる電子回路の設計および製作を行っている。各グループが興味ある課題を自己提案し、調査、設計、開発、試作を行い、その課程における様々な問題点を調べ、改善し、克服することを学ぶ。最終的には、期限までに試作機を完成させ、発表会を開き質疑応答に応えるという自己提案型創造工学授業である（前述資料5-6-①-4、資料5-6-②-2）。

これら創造工学演習では、これまでの基礎工学知識を土台にして、学生自らのアイデアを「どのような方法で実現できるのか」、「どのような問題解決方法があるのか」をグループで議論し、教員との議論やアドバイスをもとにロボットや電子回路の製作を行っている。

また、特別研究は準学士課程の卒業研究からの延長線上にあり、研究遂行に当たっては学生の自主性を促しながら、指導教員の適切な指導とアドバイスのもとで進めている。これらの経験は学生の豊かな創造性の育成と発展に活かされている。

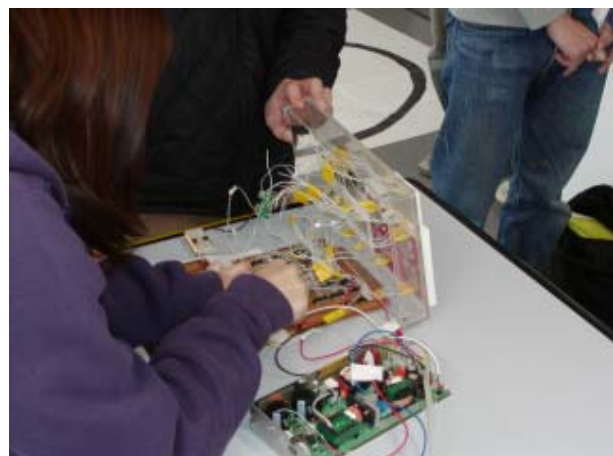
インターンシップは、平成18年度以降の専攻科修了生はすべての学生が、準学士課程もしくは専攻科課程のどちらかで履修するよう指導している（資料5-6-②-3～4）。

資料5-6-②-1 「創造工学演習（生産システム専攻第1学年）」



(出典 担当教員ホームページ)

資料5-6-②-2 「創造工学演習（生産システム専攻第2学年）」



(出典 担当教員資料)

## 資料 5-6-②-3 「専攻科校外実習に関する指導内容」

## 2. 校外実習について

体験重視型の専門教育による実践的・創造的技術者を養成するためのカリキュラムを構成している。

その中で校外実習は、実学を学ぶ上で特に重要な科目として位置付けられる。

特に専攻科に進む学生には選択必修の形で受講させるように指導すること。一方で受け入れ企業を開拓する必要があると考える。

(出典 平成 17 年度第 11 回教員会議資料)

## 資料 5-6-②-4 「インターンシップ単位履修状況」

インターンシップ単位履修状況(平成18年度専攻科課程修了生)

生産システム工学専攻

氏名	授業科目名	単位数	備考
新井 貴之	校外実習	1単位	専攻科課程で単位取得
遠藤 信二	校外実習	1単位	専攻科課程で単位取得
大川 泰典	校外実習	1単位	専攻科課程で単位取得
後藤 智	校外実習	1単位	専攻科課程で単位取得
小森 宏樹	校外実習	1単位	専攻科課程で単位取得
齊藤 絵美	校外実習	1単位	専攻科課程で単位取得
佐藤 圭佑	校外実習A	1単位	準学士課程で単位取得
土田 さくら	校外実習	1単位	専攻科課程で単位取得
奈良 森紹	校外実習A	1単位	準学士課程で単位取得
三浦 明浩	校外実習	1単位	専攻科課程で単位取得
三浦 直哉	校外実習	1単位	専攻科課程で単位取得

環境システム工学専攻

氏名	授業科目名	単位数	備考
浅井 翔	校外実習A	1単位	準学士課程で単位取得
加藤 大輔	校外実習A	1単位	準学士課程で単位取得
鎌田 宏之	校外実習A	1単位	準学士課程で単位取得
小山田 紀暢	校外実習B	2単位	準学士課程で単位取得
庄司 都志哉	校外実習A	1単位	準学士課程で単位取得
土田 昇	校外実習A	1単位	準学士課程で単位取得
藤原 元気	校外実習A	1単位	準学士課程で単位取得

(出典 平成 18 年度「創造工学システムプログラム」修了認定資料から作表)

(分析結果とその根拠理由)

創造性を育む科目として「創造工学演習」や「特別研究」などが設定されており、学生の創造性の育成と発展に活かされているといえる。

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

シラバスは、授業に関する目標、内容、進め方、毎回の授業内容、到達目標、評価方法等が、わかりやすく適切に学生に情報提供できるように、毎年改善を重ねている。シラバスは、各科目担当教員が作成し、目標、授業計画を明示し、試験結果、小テスト結果、レポート結果などの評価割合を明確化している。(資料5-6-③-1)。なお、すべての科目において、担当教員は第1回目の授業で行うガイダンスで、授業の概要や授業計画等をシラバスに基づいて説明している。

資料5-6-③-2は、シラバスの活用に関して学生に行ったアンケート結果である。これより、学生は各科目の成績評価方法の確認や、選択科目の選定においてシラバスを活用している傾向が伺える。

また、アンケート結果から、専攻科学生の学修単位の理解度は84%であり、おおむね良好である(資料5-6-③-3)。

毎回の授業内容についても、教員は適宜シラバスを用いて授業進捗の確認を行い、学生にも授業進捗を確認してもらっている(前述資料5-2-②-1)。

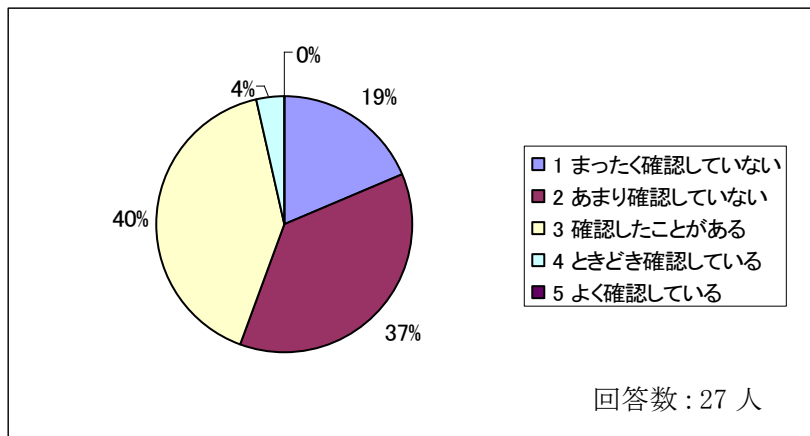
## 資料 5-6-③-1 「平成 19 年度専攻科シラバスの例」

授業科目	必・選	学年	専攻	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
物質循環工学 Material Cycle Eng.	選択	2年	環境	須川 浩	2	前期週 2 時間 (合計 30 時間)	前期週 4 時間 (合計 60 時間)
[教材] 教科書 : 「地球環境問題とリサイクル」 掛本道子著、東京教学社							
[授業の目標と概要] 地球資源の有限性と地球的規模で進む大量生産、大量消費、大量廃棄に伴う諸問題について科学技術的側面から理解し、資源エネルギー枯渇の問題と地球環境のひずみについての課題を理解する。							
[授業の進め方] 講義形式でおこなうが、必要に応じてレポート提出を求める。							
[授業内容]							
授業項目	時間	内容					
授業ガイダンス							
1. 地球環境問題の広がりや循環型社会の構築	2	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 地球環境問題と循環型社会の必要性がわかる。					
2. 資源の有限性と資源の循環	4	地球資源の有限性と資源枯渇が説明できる。					
3. 地球環境の変化 オゾン層破壊、温暖化、酸性雨 水質汚濁、砂漠化、汚染物質の越境	4	地球的規模で進む環境の変化の種類とその規模がわかる。					
4. 廃棄物とゴミの資源化	4	生活廃棄物などのごみの資源化がわかる。					
5. リサイクルとリサイクル法	2	リサイクル関連法規の現状がわかる					
6. 紙資源のリサイクル	2	古紙のリサイクルを説明できる。					
7. 金属資源のリサイクル アルミのリサイクル、スチール缶のリサイクル	4	金属資源のリサイクルを説明できる。					
8. ガラス資源のリサイクル	2	ガラスのリサイクルが説明できる。					
9. プラスチック資源のリサイクル	4	プラスチック資源のリサイクルが説明できる。 授業アンケート。					
前期試験	あり	上記項目で学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	2	前期末試験の解説と解答、授業のまとめ。					
[到達目標] 人類を中心とする生態系のサイティナビリティを確保するためには物質循環社会の構築が必要であり、科学技術の役割の重要性を理解し、問題・課題を合理的に理解し、考察できるようになる。							
[評価方法] 前期末試験 80%、レポート 等の評価を合わせて 20%とする。							
[関連科目] 物理化学、化学工学、生物学、環境工学、環境科学 (専攻科)							
[学習上の注意] 物質循環社会の構築への課題、環境問題の本質的な課題を科学技術の立場から合理的に理解するように学習し、考察できるようになる必要がある。また日頃からこれらの課題について関心を持つ必要がある。							
秋田高専学習・教育目標	C-1	JABEE 基準	d-2 (a)				

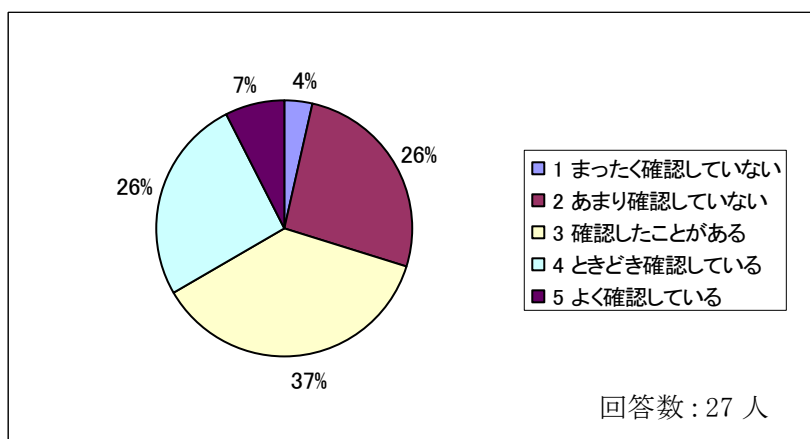


資料 5 - 6 - ③ - 2 「シラバスの活用に関するアンケート」

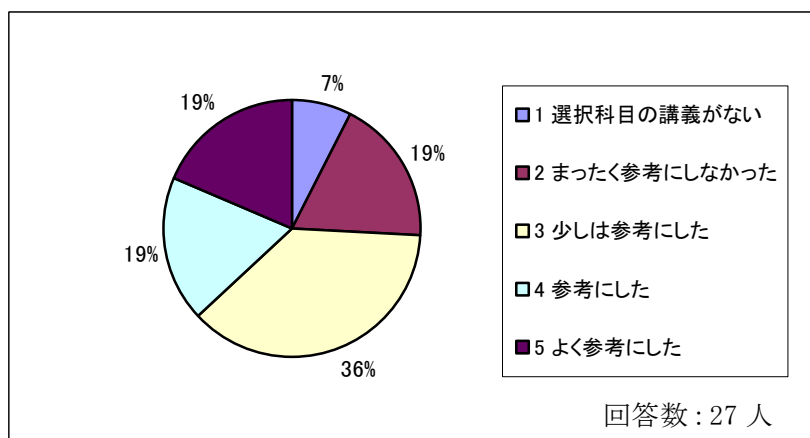
Q7 授業の進み具合や試験範囲などをシラバスを見て確認していますか？



Q8 成績評価の方法についてシラバスにより確認していますか？

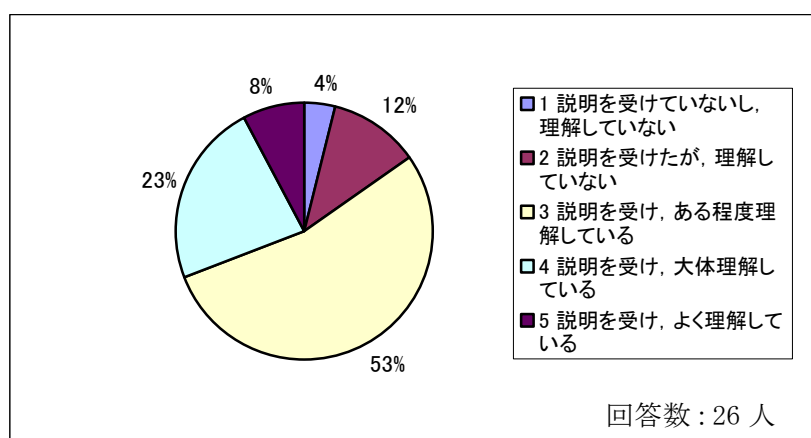


Q9 選択科目の選定において、シラバスを参考にしましたか？



## 資料5-6-③-3 「学修単位の理解度に関するアンケート調査」

Q10 学修単位科目の学習時間の説明が行われ、理解しましたか？



(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果—平成18年度版— p.31)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスには、授業の教材、目標と概要、授業の進め方、毎回の授業内容、到達目標、自学自習時間、評価方法、関連科目、学習上の注意、本校の学習・教育目標、JABEE 基準が示されている。毎年検討が加えられ、改善が繰り返されている。

第1回目の授業で行うガイダンスにおいては、担当教員がシラバスに基づいて授業の概要や授業計画、評価方法などを学生に必ず説明し、授業進度にあわせ、適宜授業中に参照させ活用している。また、学生はシラバスの内容を理解し、授業選択や授業内容修得に活用している。

観点5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

専攻科開設時より、すべての教員が適切な専攻科教育に従事している。また、教育・研究における適切な環境のもとで教育を実践するため、研究室配属に関しては、研究環境の保証と密度の濃い指導体制を確保することが必要であると判断し、1研究室の配属人数は、同一学年では原則2名までという基準を設定している。

また、学生の指導にあたっては、1名の学生に対し、特別研究指導としての主指導教員のほかに、副指導教員を2名配置し、学生の希望をふまえて研究テーマを設定し配属している（資料5-7-①-1～2）。技術職員も、実験装置製作や機器の操作などの研究活動を多方面でサポートしている。

学生は、専攻科第2学年の年度末に行われる特別研究発表会のほかに、中間発表会（専攻科第1学年の学年末）と仮発表会（専攻科第2学年の学位授与機構試験の1～2ヶ月前）を行い、主指導教員および副指導教員のほか、発表会参加者からの質疑応答を受け、その後の研究の進め方などの参考としている。

専攻科学生を受け入れている教員には、学生の人数に応じた研究費が配分されている。

また、専攻科学生は専攻修了までに、少なくとも1回の学会発表を行うよう強く指導している。修了生の研究実績一覧を資料に示す（資料5-7-①-3）。なお、学生の学会発表に対しては旅費を補助し、研究活動を支援している。

（分析結果とその根拠理由）

学生の特別研究の指導には、主指導教員のほかに、適切な助言や討論をしてくれる副指導教員2名を配置し、2年間継続して指導に当たっている。各指導教員は、大学評価・学位授与機構の審査に合格している教員としている。技術職員による実験装置製作や機器の操作などのサポートも受けられる。

また、学生の学会発表に対しては旅費を補助するなど、資金的な面からも研究活動をサポートしている。

以上のことから、専攻科で修学するにふさわしい多面的な研究指導体制が整備されているといえる。

## 資料5-7-①-1 「専攻科学生の指導教員決定に関する申し合わせ」

秋田工業高等専門学校専攻科学生の指導教員（特別研究テーマ）決定に関する申し合わせ

1. 博士の学位を有する教員は、次により特別研究を履修する学生（以下「学生」という。）を受入れ、指導教員となるものとする。  
ただし、当該学生の修業年限（2年）について、指導教員となることができない教員は除くものとする。
2. 大学評価・学位授与機構が実施する特別研究担当教員の資格審査で認定を受けた教員（以下、「特別研究担当教員」という。）と認定を受けていない教員（以下「準特別研究担当教員」という。）とに分ける。指導教員として、受け入れることができる学生数を原則として次のとおりとする。  
特別研究担当教員 1 学年 2 名  
準特別研究担当教員 1 学年 1 名
3. 指導教員は、学生 1 名に対して副指導教員 2 名（1 名は特別研究担当教員とする。）を置かなければならない。  
ただし、副指導教員 2 名を置くことができないときは、専攻科長との相談による。
4. 副指導教員は、原則として博士の学位を有する教員とし、指導できる学生数は専攻科長との相談による。
5. 各教員は、毎年度受入れ可能な最近の研究テーマ数題を専攻主任に提出し、専攻主任はこれを編集して学生に提示する。  
なお、この研究テーマは、研究の内容と方向を示すもので最終的な研究テーマではない。
6. 学生と受入れ教員との調整がつかないときは、専攻科長、各専攻主任、各学科等の専攻科教務委員のもとで調整する。

附 則

この申し合わせは、平成6年4月14日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成18年4月1日から施行する。

（出典 秋田工業高等専門学校規則集）

## 資料5-7-①-2 「専攻科特別研究テーマ一覧」

## 生産システム工学専攻

修了生		指導教員	
氏名	特別研究テーマ	学科	氏名
遠藤 信二	電子銃のシミュレーションの基礎的研究	電気情報工学科	山本 昌志
大川 泰典	アクロボットの振り上げと安定化制御	機械工学科	木澤 悟
後藤 智	平面と曲面からなる二次元柱群の熱伝達	機械工学科	土田 一章 佐々木 章
小森 宏樹	指数せん断流中の揚力線理論を用いた部分キャビテーション翼に及ぼすせん断流効果の解析	機械工学科	伊藤 惇
齊藤 絵美	超音波による移動物体検知のための基礎的研究	機械工学科	茂木 良平
佐藤 圭佑	製作したソーラーカーの走行性能について	機械工学科	山崎 保輔 佐々木 章
土田 さくら	スーパーキャビテーション翼列の運動量理論	機械工学科	伊藤 惇
三浦 明浩	せん断流中においてスーパーキャビテーションを伴う三次元翼列の理論	機械工学科	伊藤 惇
三浦 直哉	三層積層板の振動減衰特性に及ぼす同一面積における形状の影響	機械工学科	木澤 悟
新井 貴之	ミリ波帯におけるネマティック液晶の材料定数の測定	電気情報工学科	田中 将樹
奈良 森紹	エネルギー法を利用した回転型倒立振子の振り上げ制御	機械工学科	木澤 悟

## 環境システム工学専攻

修了生		指導教員	
氏名	特別研究テーマ	学科	氏名
浅井 翔	交通行動からみた地方都市における中心市街地の活性化方策	環境都市工学科	日野 智 折田 仁典
加藤 大輔	湿式合成法による $\text{LiCeMo}_2\text{O}_8$ の結晶構造及び光学特性に及ぼす調製条件の影響	物質工学科	徳光 直樹
鎌田 宏之	Pb-Sb-Mn 系合金のアノード挙動について	物質工学科	野坂 肇
小田山 紀暢	地域の救急医療を支援する道路整備に関する基礎的研究	環境都市工学科	折田 仁典
庄司 都志哉	ナフタレンのジエチニル誘導体の合成	物質工学科	須川 浩
土田 昇	衛星画像を利用した地表面情報の解析と評価について	環境都市工学科	佐藤 悟
藤原 元気	積雪を考慮した地震時の道路閉塞シミュレーションに関する研究	環境都市工学科	水田 敏彦

(出典 平成18年度専攻科特別研究論文集 p.139~140)

## 資料 5 - 7 - ① - 3 「修了生の研究実績一覧」

## 修了生の研究実績一覧

## 生産システム工学専攻

著 者 名	論 文 名	発 表 機 関	発 表 年 月
遠藤 信二 山本 昌志	電子銃解析コードの開発	第31回リニアック技術研究会報告集 p576-578	2006.8
木澤 悟 大川 泰典	アクロボットの振り上げと安定化制御	日本機械学会東北学生会第36回学生員卒業研究発表講演会	2007.3
伊藤 惇 小森 宏樹	指数せん断流中の揚力線理論を用いた部分キャビテーション翼に及ぼすせん断流効果の解析	ターボ機構協会誌, 第34巻第12号, pp.13-17	2006.12
小森 宏樹 伊藤 惇	指数せん断流中の揚力線理論による部分キャビテーション翼の特性解析	日本機械学会, 山梨講演会講演論文集 No050-4, p63-64	2005.10
後藤 智 土田 一 相場 眞也 佐々木 章	平面と曲面からなる二次元柱群の熱伝達	日本機械学会東北支部第42期秋期講演会講演論文集 p61-62	2006.9
後藤 智 土田 一	平面と曲面からなる二次元柱群の熱伝達	秋田高専研究紀要第42号	2007.3
齊藤 絵美 伊藤 桂太 茂木 良平	超音波による移動物体検知のための基礎的検討	日本機械学会東北支部第42期秋期講演会講演論文集 p133-134	2006.9
齊藤 絵美 茂木 良平	シングア라운드法による移動物体検知方式	秋田高専研究紀要第42号	2007.3
佐藤 圭佑 山崎 保輔	製作した Solar Car に関する走行性能について	日本機械学会東北学生会第37回学生員卒業研究発表講演会	2007.3
佐藤 圭佑 山崎 保輔	惰行試験に関する研究：普通自動車への適用	秋田高専研究紀要第42号	2007.3
土田 さくら 伊藤 惇	平行壁間においてスーパーキャビテーションを伴う三次元翼の特性解析	日本機械学会, 第1回埼玉講演会講演論文集 No050-5, p155-156	2005.11

著 者 名	論 文 名	発 表 機 関	発 表 年 月
伊 藤 惇 土 田 さくら	一様せん断流中におけるキャピテーション翼列の解析法	日本機械学会論文集 (B編), 72巻 718号, pp1537-1542	2006.6
三 浦 明 浩 伊 藤 惇	せん断流中におけるスーパーキャピテーション翼の揚力線解析	第14回スペース・エンジニアリング・コンファレンス講演論文集, p23-27	2005.12
伊 藤 惇 伊 藤 哲 也 三 浦 明 浩	せん断流中においてスーパーキャピテーションを伴う三次元翼列の理論	日本機械学会論文集 (B編), 72巻 719号, pp122-128	2006.7
三 浦 直 哉 木 澤 悟	三層積層板の振動減衰特性に及ぼす同一面積における形状の影響	日本機械学会東北学生会第37回学生員卒業研究発表講演会	2007.3
新 井 貴 之 田 中 将 樹	ミリ波領域におけるネマティック液晶の誘電率の測定	第12回高専シンポジウム(沼津)講演要旨集, p.201	2007.1
木 澤 悟 奈 良 森 紹	エネルギー法を利用した回転型倒立振子の振り上げ制御	日本機械学会東北学生会第36回学生員卒業研究発表講演会	2007.3
木 澤 悟 奈 良 森 紹	エネルギー法を利用した回転型倒立振子の振り上げ制御	秋田高専研究紀要, 第42号,	2007.3

## 環境システム工学専攻

著者名	論文名	発表機関	発表年月
日野 智 山田 青葉 浅井 翔 折田 仁典	自家用車によるアクセス機能が中心市街地への訪問行動に及ぼす影響	土木計画学研究・講演集, CD-ROM	2006.12
浅井 翔 竹内 香奈子 日野 智 折田 仁典	交通行動からみた地方都市における中心市街地の活性化方策	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表講演概要, CD-ROM	2007.3
加藤 大輔 徳光 直樹	環境調和型無機黄色顔料の調製と光学特性	第 40 回秋田化学技術協会研究発表会, pp.5-6	2005.11
加藤 大輔 徳光 直樹	モリブデン酸リチウムセリウム湿式合成法における調製条件と光学特性	平成 17 年度日本化学会講演予稿集, p.521	2006.3
Daisuke KATO Naoki TOKUMITSU	Preparation Conditions LiCeMo2O8 as Yellow Pigment by Wet Chemical Synthesis	秋田高専 研究紀要	2007.2
鎌田 宏之 野坂 肇	Pb-Sb-Mn 系合金のアノード挙動について	第 41 回秋田化学技術協会研究発表会, pp.19-20	2006.12
小田山 紀暢 折田 仁典	地域の救急医療を支援する道路整備に関する基礎的研究	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表講演概要, CD-ROM	2007.3
庄司 都志哉 須川 浩	ナフタレンのジエチニル誘導体の合成	平成 17 年度化学系学協会東北大会講演予稿集, p.136, (2P047)	2006.3
土田 昇 佐藤 悟	衛星画像を利用した地表面情報の解析と評価について	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表講演概要, CD-ROM	2007.3
藤原 元気 水田 敏彦	秋田市における積雪期地震時の救急医療施設に対する道路交通障害評価	日本建築学会大会学術概要集 B 構造 II, pp.409-410	2006.9

(出典 平成 18 年度専攻科特別研究論文集 p. 141~143)



観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価、単位認定および修了要件は、秋田工業高等専門学校専攻科授業科目履修規則第4条、7条および第10条によって規定されている。これらは学生便覧およびシラバスに掲載し、全学生に配布し周知している(資料5-8-①-1)。成績の評価の基準として、大学学部のレベルを基準とし、合格点を設定している。なお、これらは専攻科長や各専攻主任およびJABEE委員長が、年度始めの入学ガイダンスや第2学年に対する専攻科ガイダンスにおいて説明し、確実に周知させるとともに、各科目成績評価については、各授業担当教員も第1回目の授業の際に行われる授業ガイダンスで、シラバスを用いて学生に十分説明している。

資料5-8-①-2は、成績評価・単位認定規定や修了要件に関する学生の認知度アンケート結果である。これより、成績評価・単位認定規定は96%、修了認定規定は85%の学生に理解されており、十分な周知が行われているといえる。

平成19年度からは、試験終了後に試験の解答と解説を行う授業時間を設け、成績評価の異議申し立てを受け付ける。なお、試験問題および答案用紙などの成績評価関連資料の保管は、JABEEに準じている。

成績評価、単位認定および修了認定は、成績評価表を基に、専攻科単位認定会議において規定に従い適切になされている。

資料 5-8-①-1 「成績の評価、単位の認定、修了要件に関する規則」

## 専攻科科目履修及び修了要件について

### 1. 授業科目、単位等

各専攻の授業科目及び単位数は、各専攻案内の教育課程表のとおりである。

授業科目の 1 単位は、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

### 2. 履修方法

- (1) 授業科目の履修に当たっては、年度始めに指導教員の署名を受けた「受講申告書」(様式は学生便覧を参照すること。)を所定の期日(前期の授業開始から 2 週間以内)までに学生課教務係へ提出しなければならない。
- (2) 受講申告した選択科目を変更(追加又は取り下げ)する場合は、「受講申告変更届」(様式は学生便覧を参照すること。)を所定の期日(追加の場合は授業開始から 2 週間以内に、取り下げの場合は当該定期試験期間開始の 10 日前)までに学生課教務係へ提出しなければならない。
- (3) 特別研究については、次節を参照すること。

### 3. 特別研究の履修方法

- (1) 学生は、指導教員が提示する「専攻科特別研究教授要項」の中から研究テーマを選択する。
- (2) 学生は、上記により希望する研究テーマを 3 題選択し、順位を付して「特別研究テーマ選択届」(様式は学生便覧を参照すること。)を学生課教務係に提出する。
- (3) 研究テーマは、研究の内容と方向を示すもので、最終的研究テーマではない。
- (4) 学生から提出された「特別研究テーマ選択届」により、研究テーマ(指導教員)を決定する。ただし、希望学生数が受入限度を超える場合は、調整を行う。

### 4. 試験、成績の評価等

- (1) 定期試験は、原則として前期末及び後期末に行うが、授業科目によっては、平素の成績又はレポート等をもって代えることがある。
- (2) 成績は、授業科目ごとに当該授業科目の実授業時数の 4 分の 3 以上の出席がある科目について、試験の成績及び平素の成績を総合して 100 点法によって評価し、次の区分により優、良、可又は不可の評語で表し、優、良、可を合格とする。ただし、校長が認める理由(長期病欠その他)のある場合は、3 分の 2 以上の出席がある科目について評価することができる。

評語	評定区分
優	80 点以上
良	65 点以上 79 点まで
可	60 点以上 64 点まで
不可	59 点以下

- (3) 病気その他やむを得ないと認められる理由によって、定期試験を受験できなかった学生については、追試験を行うことができる。  
 なお、追試験の成績は、上記(2)に準じて評定する。  
 また、追試験の受験を希望する学生は、「追試験受験願」(様式は学生便覧を参照すること。)を所定の期日までに学生課教務係に提出し、当該授業科目担当教員の指示を受けなければならない。
- (4) 成績が不可と評定された学生については、再試験を行うことができる。  
 なお、再試験の成績は最高 60 点として評価する。  
 また、再試験の受験を希望する学生は、「再試験受験願」(様式は学生便覧を参照すること。)を所定の期日までに学生課教務係に提出し、当該授業科目担当教員の指示を受けなければならない。
- (5) 評定が可以上及び合格の科目については、所定の単位が認められる。なお、既得単位の取消及び成績の更新はできない。
- (6) 成績は、前期及び後期試験期間終了後、原則として、2 週間以内に学生課教務係から各人に通知する。

#### 5. 修了要件

- (1) 修了要件は、専攻科に 2 年以上在学(4 年を限度とする。)し、学則第 47 条に規定する教育課程に基づき、62 単位以上を修得しなければならない。
- (2) 以下に示す「創造工学システムプログラム」の修了要件を充たしていること。
- 1) 学位(学士)を取得すること。
  - 2) 取得単位数が専攻科で 62 単位以上、4 年間で 124 単位以上であること。
  - 3) 分野別要件を満たすための基礎工学に関する 5 つの科目群において、各群から少なくとも 1 科目、合計 6 科目についての知識と能力を有すること、分野別要件を満たすための専門工学に関する 4 つの知識と能力を有すること。
  - 4) TOEIC スコアが 400 点相当の英語能力、あるいはこれと同等の英語能力を有すること。

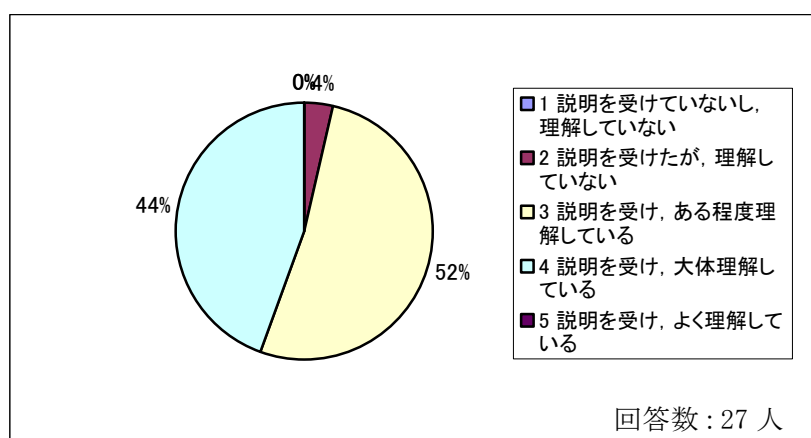
#### 6. 学士の学位取得について

学士(工学)の学位を取得するためには、学位規則第 6 条第 1 項の規定に基づく学士の学位の授与に関する規程(平成 4 年 1 月 14 日規程第 5 号)第 4 条の規定に基づき大学評価・学位授与機構が定める所定の手続きを執らなければならない。

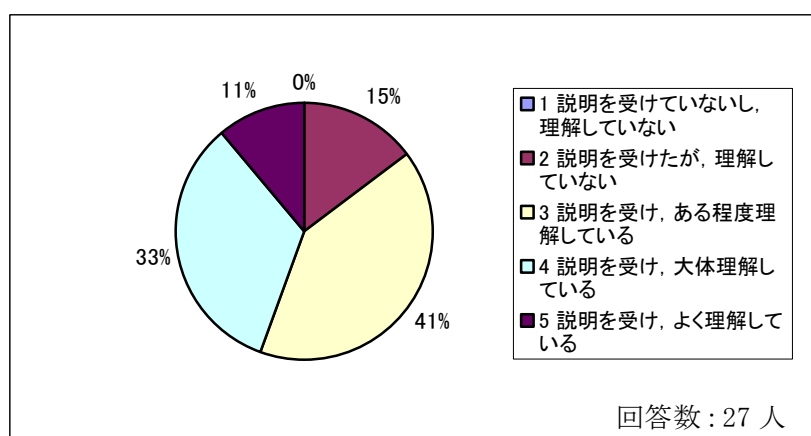
なお、詳細については、大学評価・学位授与機構が発行する「新しい学士への途」を参照すること。

## 資料5-8-①-2 「成績評価・単位認定規定や修了要件に関する学生の認知度アンケート結果」

Q1 成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？



Q2 専攻科修了認定規程の説明を受け、理解していますか？



(自己点検・評価に関わるアンケート調査結果—平成18年度版— p.28)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価、単位認定および修了認定規定が組織として整備され、学生便覧およびシラバスにも掲載されている。また、入学ガイダンスや第2学年に対する専攻科ガイダンス、授業ガイダンスの際にも説明し周知を図っており、学生も96%認知している。また、成績評価については、学生に異議申し立ての機会が与えられ、成績評価・単位認定に関しても、規定に基づいて専攻科単位認定会議を経て適切に実施している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

### <準学士課程>

グローバル化に対応すべく英語教育には力を入れており、第1学年から第5学年まで英語科目を途切れなく配置し、ALC NetAcademyによる情報機器を利用した教育を行うなど、教育課程および授業方法ともに充実した内容になっている。

教養ゼミナールでは、第3学年の学生を15～16人の少人数に分けて、対話・討論型の授業を行っており、低学年からコミュニケーション能力を養う工夫をしている。

また、特別活動を活用した人間性、社会性教育を行うとともに、第1学年の学級担任を専門学科の教員とすることで、学生に将来の進路や展望について話し、将来像を描きやすくし、目的意識を継続できるきめ細かい学生指導が行われている。

### <専攻科課程>

特別研究では、在学期間中少なくとも1回の学会発表を強く推進している。その支援のために、学生の旅費を補助するなど配慮を行っている。

(改善を要する点)

特になし。

## (3) 基準5の自己評価の概要

### <準学士課程>

本校の「達成しようとする基本的な成果」に照らして、授業科目を学年ごとに適切に配置し、教育課程の体系性を確保している。一般科目を低学年に多く配置し、徐々に専門科目を多くすることで、工学の専門分野を段階的に学習できる教育体系としている。人間としての豊かな素養の育成を目指し、低学年では特別活動を行い、高学年では人文科学系の必修、選択科目を設定している。自然科学系科目を理解するために、自然科学系科目を第1学年から第5学年まで段階に応じて学べるように配置している。実践的な英語能力を身につけられるように授業内容を配慮している。専門科目および実験・実習科目は、各学科とも学年の進行に伴って、基礎的な科目から専門的な科目へと、学修の段階に応じて適切に配置している。また、毎年全てシラバスを更新することにより、授業内容の見直しを図っている。

学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応するために、様々な方策を施している。具体的には、「インターンシップを積極的に実施して単位認定をしている」、「秋田県内の大学との単位互換を可能にしている」、「入学生の学力変動に対応するために、数学の授業時間を増やした」、「英語は5年間、継続的に学習できるようにしている」である。

準学士課程の達成しようとする基本的な成果に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態をバランス良く配置している。学生の理解を深めるために、①講義で学んだことを実験・実習を通じて体験できるようにしている、②講義科目であっても演習を取り入れている。教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、情報機器を取り入れた教育を行い、基礎学力不足の学生にも配慮している。

教育課程の編成の趣旨に沿い、適切なシラバスを作成し活用している。シラバスの内容は、学生

が学習を進めるうえで必要な情報をコンパクトにまとめている。シラバスは、各教員による授業ガイダンス、授業の進行状況の学生による確認などに活用している。学生のシラバス活用度については、アンケートにより実態を把握し、良好な結果を得た。

創造性を育む教育方法やインターンシップの活用を積極的に行っている。全学科の第1学年を対象に工作実習を実施している。さらに、創造設計製作、基礎研究、卒業研究においても創造を育む教育を行っている。インターンシップは多くの学生が参加しており、積極的に推進している。

成績評価方法、単位認定規定、進級認定規定、卒業認定規定は明確に定めており、学生便覧およびシラバスに明記し、学生に周知している。これらの規定に従って、教員会議において成績評価や各認定を適切に実施している。

本校は、教育の目的に照らして、生活指導や課外活動などにおいて、人間の素養の涵養が図られるように配慮している。規則、準則を作成し、規則遵守の精神を育てている。学生会活動や課外活動を積極的に支援している。

#### <専攻科課程>

専攻科課程のカリキュラムは、準学士課程との連携を考慮した教育課程としている。研究活動においては、卒業研究と特別研究を併せて、3年間継続して研究活動に取り組むことができ、深い内容を学習できる。

専攻科課程では、準学士課程の教育を基盤とし、効率の良い形で修得できるカリキュラムを編成している。また、本校の教育の目的に照らして、専攻科課程の授業科目は適切に配置されている。

学生からの要望や、学術の発展動向、社会からの要望に対応すべく、インターンシップの履修指導を積極的に行っている。また、秋田県内の高等教育機関との単位互換制度を確立している。

授業形態のバランスが適切で、教育内容に応じた適切な学習指導を行っている。適宜、演習、実習を織り交ぜて講義を行い、学生の理解を助けている。また、自作の教材を用いて授業を行うなど、工夫に努めている。対話・討議形式、自己提案型の創造工学演習、小テストや演習的内容を多く取り入れた授業が行われている。

また、学生の創造性の育成のために、「創造工学演習」や「特別研究」などの科目を配置している。

教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスを毎年作成している。シラバスには学習に必要な情報をまとめている。授業の始めにシラバスを用いて、学習の注意点、特に学修単位について説明している。アンケートの結果、80%を超える学生が学修単位について理解していると答えた。

専攻科課程で修学するにふさわしい多面的な研究指導体制を整備している。特別研究の指導は、主指導教員と2名の副指導教員が当たる。各指導教員は、大学評価・学位授与機構の審査に合格している教員としている。技術職員による実験装置製作や機器の操作などのサポートも受けられる。学生の学会発表に対しては旅費を補助するなど、資金的な面からも研究活動をサポートしている。

組織として、成績評価、単位認定および修了認定規定を整備し、さまざまな方法で学生への周知を図っている。アンケート調査の結果、96%の学生が認知していると答えている。また、成績評価について異議申し立ての機会を設けている。成績評価・単位認定に関しても、規定に基づいて専攻科単位認定会議を経て適切に実施している。

## 基準6 教育の成果

### (1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到係る状況）

本校では、目的に沿って、学生が準学士課程卒業あるいは専攻科課程修了時に、身につける学力や資質・能力を明確に定め、それに対応した授業科目を設定している。本校のカリキュラムでは、準学士課程および専攻科課程ともに、各達成すべき目標ごとに、必修科目と選択科目がバランスよく配置されており、選択科目により偏る状況にはなっていない。すなわち、本校の準学士課程卒業要件、専攻科課程修了要件を満たせば、本校の目的を達成できるようになっている。

学生の達成度状況の把握・確認については、以下のプロセスにて行われる。

＜準学士課程＞

各学生の各科目における最初の達成度把握は、「各科目担当教員」が行う。その結果をもとに、各学生の達成状況は、学期末ごとに「各学科会議」において把握・評価が行われている（資料6-1-①-1～2）。その後、「教員会議」において学内全体における把握・評価が行われている（資料6-1-①-3）。

以上のプロセスを各学年ごとに行い、最終的に卒業認定会議において卒業認定を行っている（資料6-1-①-4）。

＜専攻科課程＞

各学生の各科目における最初の達成度把握は、準学士課程同様「各科目担当教員」が行う。その結果をもとに、「専攻科教員会議」において学内全体における把握・評価が行われ（資料6-1-①-5）、修了認定を行っている。

また、専攻科課程修了要件には、JABEEプログラムを修了することが含まれる。JABEEプログラムの修了要件の確認は、カリキュラム検討委員会で行い、達成状況の把握・確認を行っている（資料6-1-①-6）。

これらのシステムにより、学内の全教員が自らの担当科目にとどまらず、各学生の状況を把握・確認し情報を共有することになり、学内の教育に関する指向性が一致することとなった。

## 資料 6-1-①-1 「秋田工業高等専門学校学科会議規則」

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第18条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校に学科会議（以下「会議」という。）を置く。

第2条 会議は、学科内の運営及び当該学科に所属する学生の指導等について協議し、併せて学科内の連絡調整を図ることを目的とする。

第3条 会議は、学科に所属する教員全員をもって構成する。  
2 会議に必要あるときは、関係職員を出席させることができる。

第4条 会議は主任が招集し、その議長となる。

第5条 会議は、原則として毎月1回開催するものとする。  
2 主任が必要と認めた場合は、その都度招集することができる。

## 附則

- 1 この規程は、平成4年12月15日から施行する。
- 2 秋田工業高等専門学校学科会議規程（昭和47年5月1日）は、廃止する。

## 附則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

（出典 秋田工業高等専門学校規則集）

## 資料 6-1-①-2 「学科会議案内」

**Subject:** 平成18年度第7回学科会議

**From:** "Katsumasa Miyata" <miyata@ipc.akita-nct.ac.jp>

**Date:** Wed, 15 Nov 2006 20:34:28 +0900

**To:** 電気情報工学科教員各位 <e-teach@ipc.akita-nct.ac.jp>, 工藤 幹 先生 <miki@ipc.akita-nct.ac.jp>, 大島 先生 [ohshima@ipc.akita-nct.ac.jp](mailto:ohshima@ipc.akita-nct.ac.jp)

電気情報工学科教員各位、2E担任工藤幹先生、3E担任大島静夫先生

平成18年度第7回学科会議を下記にて開催しますので、お集まりください。

期日:平成18年12月13(木)

時間:16:40～

場所:電気情報工学科 情報交換室

議題:(1)平成18年度後期中間成績について

(2)平成19年度授業担当等について

(3)その他

電気情報工学科 学科主任

宮田克正(6052)

miyata@ipc.akita-nct.ac.jp

（出典 電子メール）



資料 6 - 1 - ① - 3 「秋田工業高等専門学校教員会議規則」

第 1 条 秋田工業高等専門学校に教員会議（以下「会議」という。）を置く。

第 2 条 会議は、次の事項について連絡、協議する。

- (1) 教育課程及び学生の指導に関する事項
- (2) 学生の学業成績及び進級、卒業に関する事項
- (3) その他校長が必要と認めた事項

第 3 条 会議は、校長、教員、事務部長、総務課長、学生課長をもって構成する。

第 4 条 会議に必要あるときは、関係職員を出席させる。

第 5 条 会議は、原則として月 1 回校長が招集し、教務主事が議長となる。

第 6 条 会議の庶務は、総務課において処理する。

附 則

この規程は、昭和47年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和56年 3月 9日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年 4月 1日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 4月 1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

資料 6 - 1 - ① - 4 「平成 18 年度第 13 回教員会議議事録」

## 第 13 回教員会議議事要旨

日 時 平成 19 年 3 月 9 日 (金) 13:00～13:15  
場 所 会議室 A  
出席者 校長, 佐々木, 落合, 茂木, 大上, 山崎(保), 安藤, 土田, 木澤, 小林(義), 今田, 柳原, 宮田, 浅野, 高橋, 田畑, 安東, 山崎(博), 山本, 田中, 伊藤(桂), 竹下, 徳光, 船山, 須川, 傳井, 岡村, 豊嶋, 野坂, 石塚, 西野, 上松, 佐藤(徹), 野中, 羽田, 阿部, 折田, 対馬, 堀江, 佐藤(悟), 櫻田, 水田, 恒松, 日野, 角, 脇野, 手島, 小林(貢), 金子, 菅原, 桑本, 長井, 海上, 水野, 工藤, 成田(文), 成田(章), 麻生, 渡邊, 大島, 黒田, 上田, 佐藤(尊), 白根, 森本, 佐藤(彰), 学生課長

## 【連絡・協議事項】

校長

1. 平成 18 年度卒業認定について  
第 5 学年の各学級担任から, 配布資料に基づき, 学生の成績・出席状況について説明があり, 協議の結果, 機械工学科 35 名, 電気工学科 36 名, 物質工学科 36 名, 環境都市工学科 31 名, 計 138 名の卒業が認定された。
2. その他  
なし。

(出典 総務課総務係資料)

## 資料 6 - 1 - ① - 5 「秋田工業高等専門学校専攻科教員会議規則」

第 1 条 秋田工業高等専門学校に教員会議（以下「会議」という。）を置く。

第 2 条 会議は、次の事項について連絡、協議する。

- (1) 教育課程及び学生の指導に関する事項
- (2) 学生の学業成績及び進級、卒業に関する事項
- (3) その他校長が必要と認めた事項

第 3 条 会議は、校長、教員、事務部長、総務課長、学生課長をもって構成する。

第 4 条 会議に必要あるときは、関係職員を出席させる。

第 5 条 会議は、原則として月 1 回校長が招集し、教務主事が議長となる。

第 6 条 会議の庶務は、総務課において処理する。

附 則

この規程は、昭和47年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和56年 3月 9日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年 4月 1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年 4月 1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 6 - 1 - ① - 6 「秋田工業高等専門学校創造工学システムプログラム規則」

(目的)

第 1 条 この規則は、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）における創造工学システムプログラム（以下「本教育プログラム」という。）の履修、単位認定及び修了確認に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(プログラム構成)

第 2 条 本教育プログラムは、本校修業年限 5 年の課程（以下「本科」という。）の第 4 学年、第 5 学年（以下「プログラム前期課程」という。）及び専攻科課程（以下「プログラム後期課程」という。）の 4 年間で構成する。

2 本教育プログラムの対象科目は、学則別表第 1 から別表第 5 中の第 4 学年及び第 5 学年の配当科目並びに別表第 6 の科目とする。

(履修対象者)

第 3 条 本教育プログラムの履修対象者は、プログラム後期課程に入学した者とする。

2 プログラム後期課程に入学した者の履修の状況及び計画の確認は、カリキュラム検討委員会が行う。

(プログラム前期課程科目の履修)

第 4 条 プログラム後期課程に入学した者は、必要がある場合、プログラム前期課程の科目を履修することができる。

2 前項において、プログラム前期課程の科目を履修しようとする者は、教務主事を経て、校長に願い出て許可を得なければならない。

## (単位の認定)

第5条 本教育プログラムにおける単位認定は、100点法による評価が60点以上の科目とする。

## (プログラム相当科目の単位認定)

第6条 校長は、本教育プログラムに在学中の者が、本校以外の高等専門学校及び大学等（以下「他の高等教育機関等」という。）で修得した単位についても、相当科目として認定することができる。

2 校長は、第3条の履修対象者のうち他の高等教育機関等からプログラム後期課程に入学した者に係る本教育プログラムに相当する科目については、他の高等教育機関等で修得した単位等を本教育プログラムの単位として認定することができる。

3 前2項の認定を受けようとする者は、単位を修得したことを証明する書類を添えて校長に申請するものとする。

4 単位認定に関し必要な事項は、別に定める。

## (修了要件)

第7条 本教育プログラムの修了要件は、次の各号を全て満たすものとする。

一 学位（学士）を取得すること。

二 専攻科修了要件の62単位以上を含み、プログラムの必要単位である124単位以上を修得していること。

三 分野別要件を満たすための基礎工学に関する5つの科目群において、各群から少なくとも1科目、合計6科目についての知識と能力を有すること。及び分野別要件を満たすための専門工学に関する4つの知識と能力を有すること。

四 TOEICスコアが400点相当の英語能力、又はこれと同等以上の英語能力を有すること。

2 本教育プログラムの修了要件の確認は、カリキュラム検討委員会が行う。

3 校長は、本教育プログラムの修了者にプログラム修了証書を授与する。

## (事務)

第8条 本教育プログラムに関する事務は、学生課において処理する。

## 附 則

1 この規則は、平成18年7月3日から施行し、平成18年度においてプログラム後期課程に在籍する学生から適用する。

2 第4条第1項により修得する単位を、本教育プログラムの修了要件以外にも必要とする場合は、科目等履修生として履修する者とする。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## (分析結果とその根拠理由)

本校では、目的に沿った形で、学生が準学士課程卒業時および専攻科課程修了時に身につけるべき学力や資質・能力ごとに、その達成要件（準学士課程卒業要件および専攻科課程修了要件）を定めている。卒業時および修了時における学生の学力や資質・能力、養成する人材像等について、達成状況の把握・評価は、「学科会議」、「教員会議」および「専攻科教員会議」、さらに「カリキュラム検討委員会」において適切に行われている。

観点 6-1-②： 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容、水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

資料 6-1-②-1 に、準学士課程の留年者と退学者および全学生数に対する割合の、過去 5 年間の推移を示す。両者の合計からは、年度によってばらつきが大きく、傾向はみられない。しかし、留年者は過去 3 年間で増加傾向にあり、逆に退学者は年々減少している。

これは、留年しても学力を身につけ、卒業する学生が増えていることを示している。また、担任を中心にしたきめ細かい学習・生活指導もあり、特に第 2 学年以下の退学者数は改善されている。

専攻科における大学評価・学位授与機構による学士の取得者と専攻科修了者の関係では、専攻科設置後の平成 7 年度から平成 17 年度まで、生産システム工学専攻および環境システム工学専攻のいずれもほとんど全員が、専攻科修了と同時に学士の称号を取得している（資料 6-1-②-2）。

準学士課程の卒業研究および専攻科課程の特別研究では、各学科、各専攻について、高度な内容の研究が行われている（資料 6-1-②-3～8）。

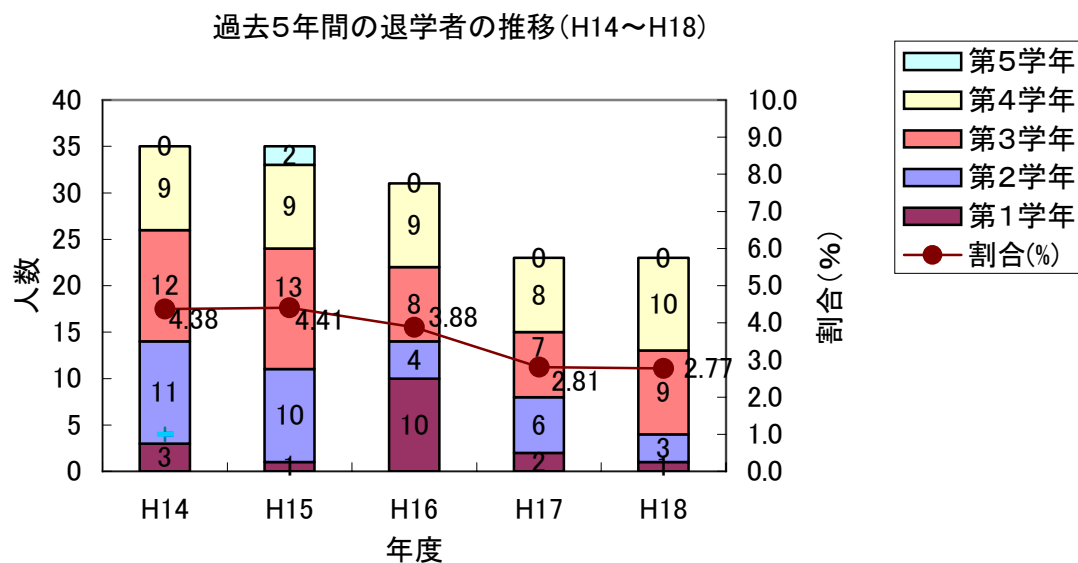
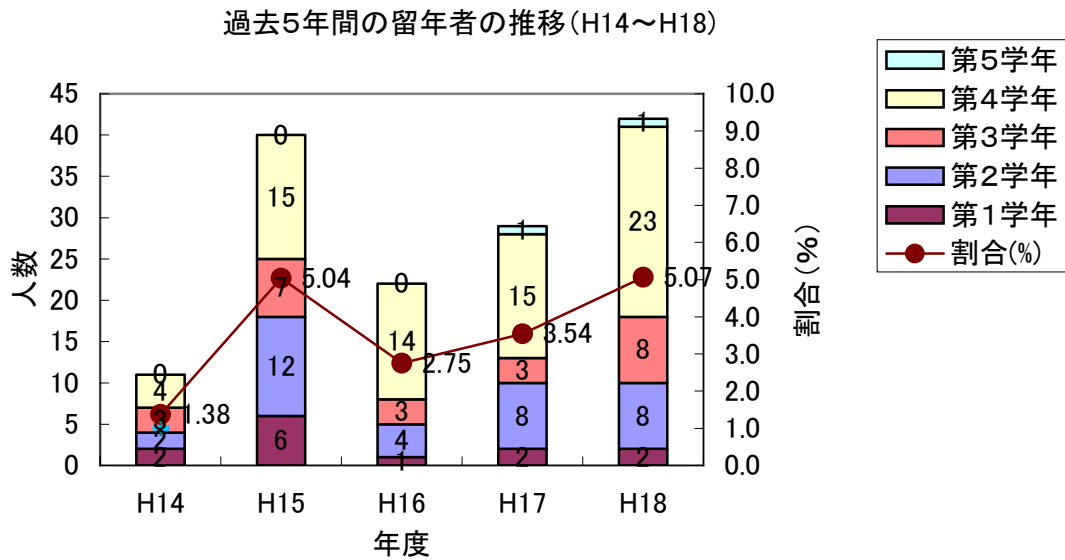
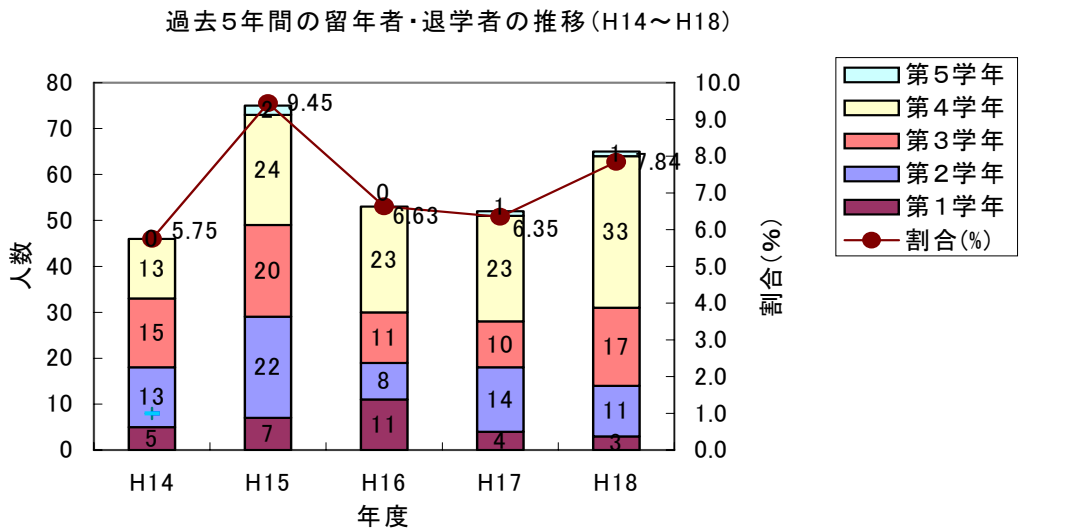
また、後援会による資格試験の受験料補助を利用する学生が多くなっている。特に、英検および TOEIC 受験では、英語教員を中心として学校として取り組んでおり、一定の成果を上げている（資料 6-1-②-9）。特に、準学士課程および専攻科課程とも、TOEIC を対象とした学習が効果を上げており、500 点以上のスコアをもつ成績優秀者が増加している（資料 6-1-②-10～11）。また、専攻科では TOEIC スコアを修了要件に入れており、修了生の英語力を保証するとともに、成績向上に努めている。

ロボコン、プロコンのほか、平成 17 年度からデザインコンペティションにも積極的に参加しており、学生の資質・能力の向上に役立っている。また、エコレース部を中心にソーラーカーおよびバイシクルの大会に参加し、優秀な成績を収めている。このほか、授業内容と関連して、あきた算数・数学フェスティバル、測量コンテスト、秋田の住宅コンクールなどの秋田県内のコンペティションや、SII 全国中学校・高等学校電子辞書洋楽翻訳選手権にも参加実績があり、優秀な成績を収めている（資料 6-1-②-12）。

（分析結果とその根拠理由）

学生が卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力について、進級の状況、修了時の学士取得状況、卒業研究、特別研究の内容などから判断して、教育の成果や効果が上がっているといえる。

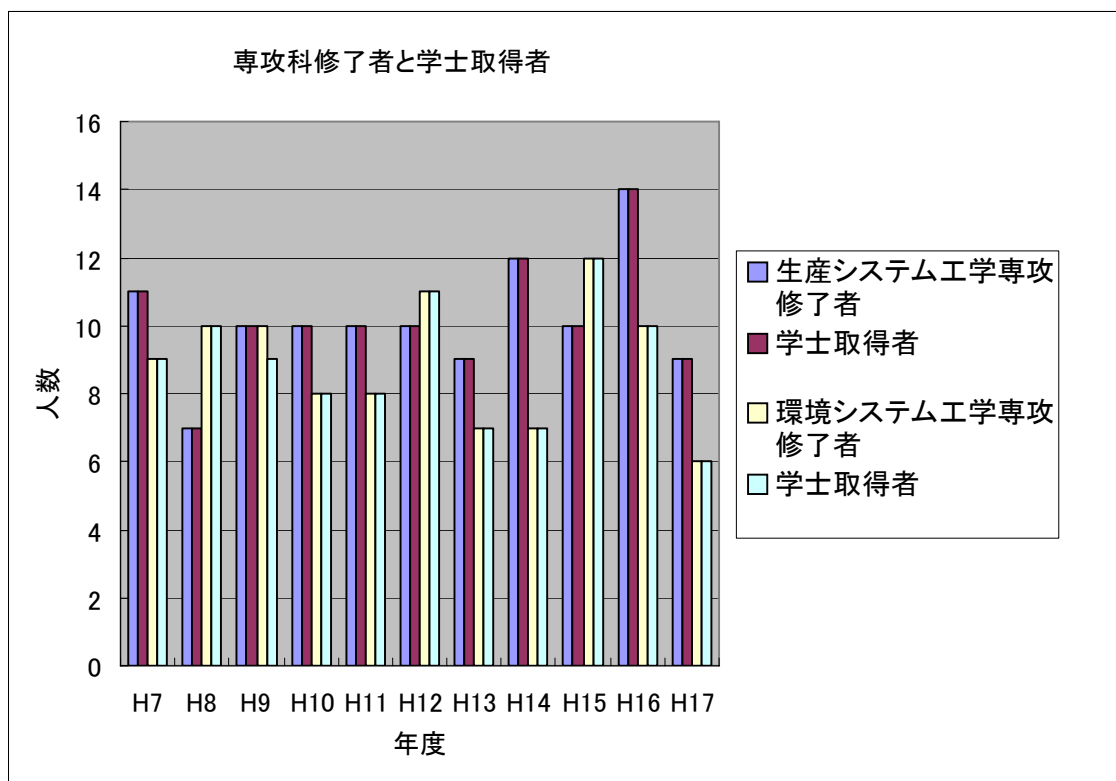
資料 6-1-②-1 「過去5年間の留年・退学学生数の推移」



(出典 教員会議資料から作図)

資料 6-1-②-2 「過去 10 年間に於ける専攻科修了者と学士取得者」

過去 10 年間に於ける専攻科修了者と学士取得者



(出典 専攻科成績判定会議資料 (平成 17 年 3 月 10 日))

## 資料 6-1-②-3 「卒業研究テーマ一覧（平成 17 年度機械工学科）」

## 《平成17年度卒業研究論文題目》

## 機械工学科

卒業研究テーマ	学 生	指導教官
○ CNC 旋盤加工空間内の空気挙動の数値解析	佐藤 昭洋	今田 良徳
○ CNC 旋盤加工空間内の熱挙動に関する研究	斎藤 僚介	今田 良徳
○ CNC 旋盤加工空間内の空気挙動の観察	渡部 和也	今田 良徳
○ スターリングエンジンに関する研究	阿部 貴史, 佐藤 諒一	土田 一
○ 自動車用熱交換器の性能向上に関する基礎研究	鎌田 圭, 舟木 裕輝	土田 一
○ 格子縞音場実現のための理論および実験による検討	伊藤 桂太, 奈良 卓	茂木 良平
○ ドップラーシフト測定に及ぼす不要波の影響の解析 および FFT の作成	中山 智生	茂木 良平
○ 超音波領域から可聴領域への周波数変換回路の設計製作	佐藤 翼	茂木 良平
○ 夏場における車内温度上昇防止対策	大越 裕介, 藤島 陽介	山崎 保輔
○ ソーラーカーの走行性能に関して	佐藤 郁弥	山崎 保輔
○ 制振鋼板における振動モード減衰効果に及ぼす影響	佐藤 優希	木澤 悟
○ アクロボットの振り上げ制御に関する研究	佐藤 琢真, 伊藤 広明	木澤 悟
○ 2 足歩行ロボットの設計と製作	菊地 賢	木澤 悟
○ 水中振動パラメーターの算定に関する研究	藤原 太陽, 堀井 拓人	小林 義和
○ アルミニウム缶の機械的性質が耐突き刺し性に及ぼす影響	石黒 篤, 渡部 洋紀	小林 義和
○ 水平軸風車の出力モデル理論と年間発電量	土田 千夏	伊藤 惇
○ 平衡 2 平面間内のせん断流中に置かれた 3 次元キャ ピテーション翼の揚力線解析	山形 好裕	伊藤 惇
○ 異方性降伏条件式とその図形表示	長澤 圭晃, 渡部 健太	大上 哲郎
○ 深絞り加工のシミュレーション	能登屋 諭, 佐藤 慶	大上 哲郎
○ 温度流速計による加熱自由噴流の測定	伊藤 祐大, 松橋 祐貴 工藤 智	渡部 英昭
○ 環境を考慮したものづくりの現状についての調査研究	菅原 賢人	落合 雄二
○ Si <sub>3</sub> N <sub>4</sub> と A6061合金の拡散接合	工藤 典寿, 得平 諒 福島 朋美	安藤 正昭
○ 蓄熱材を含んだ木材の熱物性値について	渡部 宙	佐々木 章



## 資料 6-1-②-4 「卒業研究テーマ一覧（平成 17 年度電気工学科）」

## 電気工学科

卒業研究テーマ	学 生	指導教官
○ 特徴抽出法による欠陥検査	松田 和弥	柳原 昌輝
○ 画像演算による鮮明化について	柳橋 幸治	柳原 昌輝
○ 電気的特性による Y 薄膜/GaAs 接触界面の研究	上野 俊輔, 大塚 啓太	浅野 清光
○ 可視光応答型高効率酸化チタン薄膜の実用化研究	佐々木夢公, 平野 真司	浅野 清光
○ ウランカルコゲナイドのバンド理論による磁気モーメントと軌道分極の効果	三浦 大介	成田 章
○ LAPW 法によるバンド計算の理論とプログラム作成および基礎的検討	村越 政之	成田 章
○ DC サーボモータドライブ用 H ブリッジ回路の設計	森下 功太	山崎 博之
○ PAM 方式極数切換誘導電動機の起磁力分布の考察	天野 大器, 奥山 泰明	山崎 博之
○ 電磁場解析における GUI の研究	藤原 友希	山本 昌志
○ 粒子コードによる電磁場と荷電粒子の相互作用の基礎的研究	相場 亮人	山本 昌志
○ 有限積分法による電磁場の時間領域解析の基礎的研究	滑川 雅人	山本 昌志
○ 浮遊帯域熔融法による単結晶の育成	土井 直樹	黒田 潔
○ 溶媒移動型浮遊帯域熔融法による $\text{La}_{1.85}\text{Sr}_{0.15}\text{CuO}_4$ 単結晶育成	澤井 泰	黒田 潔
○ 秋田高専の負荷平準化と高調波測定に関する基礎研究	岡部 祐, 萩野 文人	高橋 身佳
○ 希土類永久磁石モータの電気自動車への応用に関する基礎研究	黒崎 皓平, 高橋 一秀	高橋 身佳
○ ピッチ判定における優位耳の基礎的研究	小間屋佑磨	大島 静夫
○ 劣化信号修復法に関する予備的検討	菅原 剛	大島 静夫
○ 直流高電圧における積雪の絶縁破壊進展特性	小野 純弥, 福田 俊介	田畑 季章
○ 小型 HID ランプの高周波点灯動作特性	武田 昂介	田畑 季章
○ コンパクトレンジ用オフセットアンテナの近傍界特性	大井 康充, 原田 宏美	宮田 克正
○ コーナリフレクタアンテナの放射パターン計算について	佐藤 慎也	宮田 克正
○ 誘電体装荷導波管スロットアレーアンテナの整合	渡部 雄太	宮田 克正
○ 液晶・高分子複合材料を用いた回折光学素子の試作	渡邊 慎一	田中 将樹
○ SIT の低周波雑音特性のバイアス依存性に関する検討	長谷川 祐	伊藤 桂一
○ ダイオード整流回路を用いた電解コンデンサレスフライホイール式単相 UPS のアクティブフィルタ制御	柴田 純司	安東 至
○ 黄金分割法を用いたレグ共通形電力変換器の高効率完全デジタル制御	進藤将太郎	安東 至
○ 双方向スイッチング回路を用いた高効率 UPS における降圧チョッパ制御	三浦 雄太	安東 至

## 資料 6-1-②-5 「卒業研究テーマ一覧 (平成 17 年度物質工学科)」

## 物質工学科

卒業研究テーマ	学 生	指導教官
○黄色無機顔料の光学特性に及ぼす組成及び固相反応条件の影響	チャンタマート・ソーダー	徳光 直樹
○水素による水溶液中の亜硝酸イオン還元速度に及ぼす電界付与の影響	豊嶋 孝大	徳光 直樹
○平衡濃度を超える新規凝縮水へのアンモニア吸収	林 一輝	徳光 直樹
○浮遊帯域溶融法による酸化物単結晶の育成	永沢 友康	中島 理
○蛍石型 Bi-2222系酸化物の合成, 構造および特性	牧野 翔	中島 理
○三選性ジヒドロピリジン誘導体の合成	伊藤 慎, 森本 正善	豊嶋 幸子
○1,4-ジヒドロピリジン誘導体の合成	渡邊 昇	豊嶋 幸子
○ナフタレンのジエチニル誘導体の合成	関谷 喜史, 船木 憲治	須川 浩
○カルバゾールのジエチニル誘導体の合成	奥山 雄太	須川 浩
○固相法による BaTiO <sub>3</sub> 生成に伴う膨張挙動に及ぼす BaCO <sub>3</sub> 粒径の影響	高橋 渉	傳井 栄
○シュウ酸バリウムチタン・四水和物の合成と熱分解過程	鈴木 空海	傳井 栄
○Ti (0001) 表面の初期酸化過程に関する研究	青山 大喜, 藤原 春樹	石塚 眞治
○フミン酸の抽出・定量方法の検討	高坂 英壺	石塚 眞治
○色素増感太陽電池の電極作成に関する研究	石山 洋佑	西野 智路
○CaCo 酸化物と ZnAl 酸化物の電気抵抗	高橋 拓実	西野 智路
○バイオディーゼル燃料作成の基礎的研究	薄田 洋平	西野 智路
○光殺菌に及ぼす栄養源添加の影響	菅原 崇聖	船山 斎
○光殺菌に及ぼすチタニア微粒子添加の影響	深澤 有輝	船山 斎
○鉛をベースとする新しいアノード材の開発	飯坂 亮	野坂 肇
○鉛合金アノードの変形について	川辺 久俊	野坂 肇
○鉛合金アノードの連続重量測定	檜山 渉	野坂 肇
○オゾンによる油脂の分解	中山 千寿, 保坂 綾子	岡村 澄夫
○鉄酸化細菌の窒素代謝に関わる酵素の研究	萩谷 将治	佐藤 彰彦
○抗ウイルス活性を指標とした HIV 融合ペプチド類似体の創製	高野 美穂	千葉 卓男
○抗 HIV 活性を目的とするアシルトリプトファン創製	蒔苗 大治	千葉 卓男
○2-ヒドラジノアセトアセチルアミノ酸誘導体の抗ウイルス剤への応用	相原 梓	千葉 卓男
○ポルフィリン合成と高次機能触媒の創製に関する研究	金森 瞬	佐藤 徹雄
○ルテニウム触媒によるアルコールの酸化反応	駒野谷 将	佐藤 徹雄

## 資料 6-1-②-6 「卒業研究テーマ一覧（平成 17 年度環境都市工学科）」

## 環境都市工学科

卒業研究テーマ	学 生	指導教官
○ GIS を利用した秋田市の地震災害危険度表示システムの試作	伊藤 宏規	水田 敏彦
○ やや長周期微動のアレイ観測による秋田市の S 波速度構造の推定	大橋 俊夫	〃
○ 常時微動に基づく秋田市の地盤震動特性に関する研究	渡邊 和也	〃
○ 八郎湖と流入河川馬踏川の水質に関する調査と考察	伊藤 俊祐, 桜庭 浩樹 高橋 慎也	羽田 守夫
○ 藻類の栄養塩摂取機能に関する基礎的研究	篠原 茂樹	〃
○ ごみ溶解スラグを用いた土質改良について	伊藤 隼人, 徳永 雄太	対馬 雅己
○ 再構成した高有機質土の一軸・三軸圧縮強さに及ぼす異方圧密履歴の影響	佐藤亜由美, 高橋 永幸	〃
○ 高有機質土および粘土とその混合土の強度・変形特性に及ぼす繰返し応力の影響	若狭雄二郎	〃
○ 衛星画像処理と PIV 計測法を用いた移流解析について	高橋 啓太, 三浦 祐剛	佐藤 悟
○ 植生を有する開水路流れと乱れ特性について	岩谷 栄林	〃
○ 都市ごみ焼却飛灰懸濁液中の溶存重金属濃度変化	藤原 篤	肴倉 宏史
○ 拡散溶出試験の期間短縮による予測溶出量のばらつきを検討	小松 浩之	〃
○ 路盤材利用再生材の環境暴露試験による溶出挙動への影響	佐藤 有香	〃
○ ごみ溶解スラグを用いた地盤改良土の溶出挙動評価	菅原 陽介	〃
○ プレストレス木床版歩道橋の試設計とコスト評価	今野 勇人	堀江 保
○ LVL のプレストレス木床版への適用の可能性	佐藤 昌紀	〃
○ 自然環境下におけるプレストレス木床版の緊張力変化	佐藤 悠樹	〃
○ 明治天皇秋田巡幸における休泊施設の平面形式と使われ方について	石川 仁恵	阿部 和彦
○ 奥州街道の本陣における平面構成と地域特性について	押切 友貴	〃
○ ランドスケープデザインの手法の分類と南外地区における地域景観を考慮した手法選択について	伊藤 将司	恒松 良純
○ 秋田市内の既存建築物の景観に対するイメージの研究	鎌田 光明	〃
○ 集合住宅の配置計画の特徴と秋田市中心部への提案	佐藤 旬	〃
○ Y 小学校教員に対するアンケート調査をもとにした改築計画の提案	長谷山善幸	〃
○ 冬タイヤ交換行動の要因分析に関する研究	加藤 慶彰	日野 智
○ 道路交通情報のユーザーニーズ分析に関する研究	佐藤 琢彦	〃
○ 訪問行動に着目した地方都市の活性化方策に関する研究	山田 青葉	〃
○ 秋田県における除雪事業計画の都市間比較に関する研究	伊藤 大輔	〃
○ 石灰処理によるコンクリート配合材料の再資源化技術の開発	松永 篤史, 三浦 徳也 佐藤 貴康	桜田 良治
○ アラミド繊維で補強した RC 部材の強度特性	門脇 徹, 深沢 敦	〃
○ 住民参加による歩道景観整備と評価に関する調査研究一本荘・石脇地区歩道整備一	遠藤 学	折田 仁典
○ 救急車の安全走行支援のための情報システム構築に関する調査研究	鎌田 崇弘	〃
○ 菅江真澄の足跡を活かした観光振興の可能性に関する基礎的研究	木村 太一	〃
○ 世界遺産白神山地の観光振興に関する基礎的研究	藤川 博樹	〃

## 資料 6-1-②-7 「特別研究テーマ一覧（平成 17 年度生産システム工学専攻）」

## 《平成17年度専攻科特別研究論文題目》

## 生産システム工学専攻

テ	マ	学 生	指導教官
○ 平行壁間においてスーパーキャピテーションを伴う三次元翼の解析法		石井 優	伊藤 惇
○ 高分子絶縁材料中における球晶と水トリーに関する研究		鈴木 正勝	柳原 昌輝
○ 交流チョッパを用いた高効率単相 UPS の開発		中屋 元志	安東 至
○ 高周波電磁場解析のための 2 次要素を使った有限要素法の研究		夏井 拓也	山本 昌志
○ CNC 旋盤加工空間での空気流の数値解析と可視化実験		仁村 浩治	今田 良徳, 落合 雄二
○ SIT 発振回路の発振器雑音に関する研究		益子 修一	伊藤 桂一, 宮田 克正
○ 超音波による移動体識別のための基礎研究		水野 歩	茂木 良平
○ 静磁場解析のための二次要素を用いる有限要素法の研究		宮田 翔吾	山本 昌志
○ アルミ平板の切欠き曲率半径の応力集中に及ぼす影響		渡邊 祝幸	大上 哲郎

(出典 秋田工業高等専門学校研究紀要 第 42 号 p.100)

## 資料 6-1-②-8 「特別研究テーマ一覧（平成 17 年度環境システム工学専攻）」

## 環境システム工学専攻

テ	マ	学 生	指導教官
○ 高所にポンプ圧送した吹付けモルタルの塩分浸透抵抗性に関する研究		伊藤 俊治	桜田 良治
○ 色素増感太陽電池の焼成過程における温度変化が及ぼす影響		大友 健太	石塚 眞治
○ 過圧密履歴を受けた高有機質土および粘土のせん断特性について		佐藤 大作	対馬 雅己
○ 街並みの構成要素の色彩に関する比較分析		庄司 江美	恒松 良純, 阿部 和彦
○ 秋田県の土砂災害情報をリアルタイムに算出するシステムの確立に関する基礎的研究		菅原 達哉	水田 敏彦
○ 光殺菌に及ぼす光触媒及び超音波の影響		田中 学	船山 齊

(出典 秋田工業高等専門学校研究紀要 第 42 号 p.101)

資料 6-1-②-9 「資格取得の状況」

● 実用英語技能検定 The Step Test

● 合格者数(過去5年間) 平成18年5月1日現在 As of May. 1, 2006

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
2 級	4	3	10	3	10
準 2 級	124	103	70	98	109
3 級	122	106	105	108	93
計	250	212	185	209	212

本校は平成11年度から平成17年度まで、7年連続して実用英語技能検定奨励賞を受賞しております。

● 工業英語検定 English Technical Writing Test

● 合格者数(過去5年間) 平成18年5月1日現在 As of May. 1, 2006

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
3 級	5	0	1	3	0
4 級	6	2	0	0	0
計	11	2	1	3	0

● TOEIC IP Test of English for International Communication Institutional Program

● スコア分布 平成18年2月4日実施 Execution of February. 4, 2006

得 点	人 数
500~	18
450~495	14
400~445	23
350~395	45
計	100



秋田ふき

(出典 平成18年度学校要覧 p.34)

資料 6-1-②-10 「TOEIC 関係資料」

秋田 さ き が け
2006年(平成18年)4月26日 水曜日
(4)



秋田高専のTOEIC得点分布

● 500以上  
● 450~495点  
● 400~445点

## コミュニケーション能力向上に力 TOEIC導入し効果

**目標の5年間で3倍超**

ネットも活用、実践的に

秋田高専の秋田工業高等専門学校(八戸七十六)は、学生に国際化を推進し、世界共通のコミュニケーション能力を身に付け、グローバル社会で活躍する人材を育成することを目的として、TOEICを導入し、実践的に学習を進めています。

TOEIC導入の経緯は、平成13年度から始まり、平成14年度に正式に導入されました。当初は、TOEICの導入に賛否両論ありましたが、現在は、TOEICの導入が、学生の英語力向上に大きく貢献していることが明らかになっています。

特に、TOEICの導入により、学生の英語力向上に大きく貢献していることが明らかになっています。また、TOEICの導入により、学生の英語力向上に大きく貢献していることが明らかになっています。

秋田高専のTOEIC導入は、学生に国際化を推進し、世界共通のコミュニケーション能力を身に付け、グローバル社会で活躍する人材を育成することを目的として、TOEICを導入し、実践的に学習を進めています。

TOEIC導入の経緯は、平成13年度から始まり、平成14年度に正式に導入されました。当初は、TOEICの導入に賛否両論ありましたが、現在は、TOEICの導入が、学生の英語力向上に大きく貢献していることが明らかになっています。

特に、TOEICの導入により、学生の英語力向上に大きく貢献していることが明らかになっています。また、TOEICの導入により、学生の英語力向上に大きく貢献していることが明らかになっています。

メールアドレス: [kyo@ipc.akita-nct.ac.jp](mailto:kyo@ipc.akita-nct.ac.jp)

(出典 技術を創る秋田工業高等専門学校案内 2007 p.10)

資料 6 - 1 - ② - 11 「TOEIC 関係資料」

# ラーナー・オートノミーと グローバル時代を生きる力となる 実践的英語コミュニケーション能力の育成

◎秋田工業高等専門学校◎

## 国際的センスを持った工業技術者を育成

秋田工業高等専門学校（秋田市）は、1964（昭和39）年4月に創設された国立の工業高等専門学校。「機械工学科」、「電気工学科」、「物質工学科」、「環境都市工学科」の4学科が設置されており、各学科1年から5年まで1学級40名を定員とし、現在全校で約800名が学んでいます。また、同校卒業生の進路の一つとして、生産システム工学専攻と環境システム工学専攻の専攻科が各2年課程で設けられています。

同校では、昨年2001年4月から「実践的英語コミュニケーション能力の育成を目的とする秋田高専英語教育改善プロジェクト」がスタート。その際、カリキュラムの中にTOEICが導入されました。同校校長の石亀希男先生は、その背景を次のように説明します。

「99年の赴任以来、私の抱いてきた目標は国際的なセンスを備えた工業技術者の育成で、そのためにも英語能力を強化する必要性を感じていました。この頃は、企業においては採用・昇進などでTOEICスコアが重視され、JABEE®においても国際的に通用する英語コミュニケーション基礎能力が求められるなど、技術者教育をめぐる環境も変化していました。本校においても、今後の展開を再考察して英語能力向上に繋げることが課題の一つだったのです。その意味で、学内のみで通用す



秋田工業高等専門学校校長  
石亀希男先生

る評価基準に頼るのではなく、学外の評価基準を用いて英語能力を比較・評価することは意義のあることでした」

かつて石亀先生は、東北大学在職中に「21世紀における東北大学の英語教育を考える会」の座長を務めた経験を持ち、その頃から、社会的に広く認知され始めていたTOEICに注目していました。

(出典 TOEIC Newsletter80 p. 6)

## 資料 6 - 1 - ② - 12 「外部コンペティション参加状況」

## 外部コンペティションの参加状況

## エコレース部の大会参加状況

年度	出場大会名	マシン名	カテゴリー	クラス	順位
H16	W. E. M.	颯	燃料電池	ジュニア	3
	W. E. M.	颯	鉛蓄電池	ジュニア	27
	W. S. B. R.	大友軍団号	A	オープン	10
	W. S. B. R.	颯	S	ジュニア	12
	W. S. B. R.	ANCT-Vver. 2	S	オープン	5
H17	W. E. M.	颯	燃料電池	オープン	5
	W. E. M.	颯	鉛蓄電池	ジュニア	17
	W. S. B. R.	颯	S	オープン	3
	W. S. B. R.	大友さん	A	オープン	5
H18	W. E. M.	颯	燃料電池	オープン	5
	W. E. M.	颯	鉛蓄電池	ジュニア	61(バンク)

※ W. S. B. R. : ワールドソーラーバイシクルレース

※ W. E. M. : ワールドエコノムーブ

## ロボットコンテストの参加状況

大会年度	テーマ	ロボット名	戦績
第15回(H14)	プロジェクトBOX	キャッチャーG	東北1回戦敗退 特別賞
		ぐらいふえん	東北1回戦敗退 アイデア賞 特別賞
第16回(H15)	鼎(KANAE)	T. T	東北1回戦敗退 特別賞
		トランスポート	東北1回戦敗退
第17回(H16)	マーズラッシュ	救護魂V	東北1回戦敗退
		ANGARAG	東北1回戦敗退 特別賞
第18回(H17)	大運動会	ふみきりあし	東北2回戦敗退
		くるくるあるみん	東北1回戦敗退
第19回(H18)	ふるさと自慢特急便	ぶりこ	東北優勝 全国3回戦敗退
		杉こまち	東北1回戦敗退

## プログラミングコンテストの参加状況

大会年度	参加部門	タイトル	戦績
第13回(H14)	競技部門	OCIMUSHA	準優勝
第14回(H15)	競技部門		2回戦敗退
第15回(H16)	競技部門	Panel Sort	1回戦敗退
第16回(H17)	競技部門	健作君～僕の目はごまかせない～	1回戦敗退
第17回(H18)	競技部門	解を尋ねて三千里～友よ行かん～	2回戦敗退

## デザインコンペティションの参加状況

大会年度	参加部門	タイトル	戦績
第2回(H17)	環境デザインC	ぼっちゃんどいっしょ!	予選通過 本大会出場
第3回(H18)	環境デザインC	多彩宿～SHIKIとどうかする旅館	予選通過ならず
	構造デザインC	檜木内橋	5位
		CLOWN CROWN	22位

※ Cはコンペティション

※ 構造デザインコンペティションは別名「ブリッジコンテスト」

## あきた算数・数学フェスティバル

大会年度	タイトル
第3回(H14)	$\pi$ が無理数であることの証明
	複素数の幾何学的意味
第4回(H15)	日本の人口増加についての解析
	eが超越数であることの証明
	Papproximation< $\pi$ のいろいろな求め方>
第6回(H17)	打上花火の軌跡について

(出典 JABEE 自己点検書(本文編) p.102～103 に一部内容を追加)

観点 6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

<進路の状況>

過去3年間において、準学士課程卒業後はほぼ100%の就職率を満たしている（資料6-1-③-1～3）。平成17年度機械工学科、および平成15年度環境都市工学科において、それぞれ1名ずつ進路未決定者がいるが、率の観点から判断すると社会の要請する人材養成を満足していると考えられる。

同様に過去3年間において、準学士課程卒業後専攻科進学もしくは大学編入学する学生は、64名、66名、65名と推移し（資料6-1-③-4）、入学時定員160名を考慮すると、その40%強がさらに高度な教育を受けようと志願しており、本校は学生に対しより高度な学習に対する意欲を喚起していると考えられる。

専攻科課程においても、準学士課程同様にその修了後はほぼ100%の就職率を満たしている（資料6-1-③-1～3）。

資料6-1-③-5に、過去3年間における全卒業生および全修了生に対する就職者・進学者・進路未決定者等の割合を示す。特に、準学士課程では就職者・進学者がほぼ同数となっており、本校の準学士課程卒業生は、即戦力として企業（社会）に求められている。また、より学習意欲を喚起され進学していると考えられ、バランスのとれた本校での教育の結果であると考えられる。

<進路先の状況>

準学士課程各学科および専攻科課程各専攻の専門性が活かされる分野に、就職あるいは進学していることを示すため、資料6-1-③-6～8に、過去3年間における全卒業生および全修了生の就職先と進学先を示す。

機械工学科の卒業生は、機械に関わる製造業への就職が多い。電気情報工学科は、電気機器製造、ソフトウェアに関わる企業への就職が多い。物質工学科は、化学工業への就職が多い。環境都市工学科は、建設業への就職が多い。これらから、卒業生のほとんどは製造業に進み、専門性を活かした就職先に進んでいるといえる。

専攻科課程修了生は、製造業に就職しており、各専攻の専門性に沿っているといえる。

準学士課程卒業生の進学先としては、東北・北海道・信越・関東・中部地区の大学がまんべんなく選択されており、それぞれの専門に沿った学科に進学している。

専攻科課程修了生に関しても、より高度で専門的な研究を目指した大学院進学者が存在し、専攻科課程の教育が、学生のさらなる研究意欲を喚起した結果と考えられる。



資料 6 - 1 - ③ - 1 「平成 18 年度進路状況」

平成19年3月卒業・修了者の進路状況

秋田工業高等専門学校

(平成19年3月31日現在)

本 科	★求人倍率 総線 32.5 倍 電気 23.1 倍 物質 10.8 倍 環境 12.3 倍 (本科全体) 18.9 倍		就職者数内訳										進学希望者数				進学者数内訳										その他																					
	卒業予定者数		求人企業数		求人数		就職希望者数		県外内定者数		県内内定者数		未定着数		県外割合 (%)	県内割合 (%)	未定割合 (%)	大 学		専 攻 科		専門学校等		未定着		その他																						
	男	女	県外	県内	合計	県外	県内	合計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女																				
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計																				
機械工学科	32	3	35	497	23	520	497	23	520	13	3	16	9	2	11	4	1	5	0	0	0	0	0	0	66.8	31.3	0	19	0	19	6	0	6	11	0	11	1	0	1	0	1	0	0	0				
電気工学科	34	2	36	511	20	531	511	20	531	22	1	23	21	1	22	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	95.7	0	4.3	12	1	13	9	0	9	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
物質工学科	30	6	36	259	11	270	259	11	270	21	4	25	18	3	21	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	84	16	0	8	2	10	5	2	7	3	0	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	
環境都市工学科	28	5	31	203	6	209	203	6	209	14	3	17	13	0	13	0	3	3	1	0	1	0	1	0	1	76.5	17.6	5.9	12	2	14	7	2	9	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	122	16	138	1470	60	1530	1470	60	1530	70	11	81	61	6	67	7	5	12	2	0	2	0	2	0	2	82.7	14.8	2.5	51	5	56	27	4	31	22	1	23	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1	

専 攻 科	★求人倍率 生産システム 29.1 倍 環境システム 34.5 倍 (専攻科全体) 31 倍		就職者数内訳										進学希望者数				進学者数内訳										その他																				
	修了予定者数		求人企業数		求人数		就職希望者数		県外内定者数		県内内定者数		未定着数		県外割合 (%)	県内割合 (%)	未定割合 (%)	大 学 院		専 門 学 校 等		その他		未定着		その他																					
	男	女	県外	県内	合計	県外	県内	合計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女																			
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計																			
生産システム工学専攻	9	2	11	303	17	320	303	17	320	9	2	11	5	0	5	4	2	6	0	0	0	0	0	0	0	45.5	54.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
環境システム工学専攻	7	0	7	198	9	207	198	9	207	6	0	6	4	0	4	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	66.7	33.3	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	16	2	18	501	26	527	501	26	527	15	2	17	9	0	9	6	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	52.9	47.1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(出典 学生課学生支援係資料)

資料 6-1-③-2 「平成 17 年度進路状況」

●平成17年度進路状況 Course of Graduates							
区 分 Classification	機械工学科 Mechanical Engineering	電気工学科 Electrical Engineering	物質工学科 Applied Chemistry	環境都市工学科 Civil and Environmental Engineering	生産システム工学専攻 Production Systems Engineering Course	環境システム工学専攻 Environment Systems Engineering Course	計 Total
求人企業数 Companies	245社	304社	148社	103社	167社	111社	1,078社
求人人数 Jobs Offered	245名	304名	148名	103名	167名	111名	1,078名
卒業生数 Graduates	36	34	32	41	9	6	158
就職希望者数 Applicants	23	16	16	20	6	5	86
就職者数 Employed	22	16	16	20	6	5	85
進学 Entrance into Universities	13(1)*	18	16	19	3	1	70
その他 Others	1	0	0	2	0	0	3
求人倍率 Rate of Situations Offered	10.7倍	19.0倍	9.3倍	5.2倍	27.8倍	22.2倍	12.5倍
就職率 Rate of Employment	95.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%

() \*は各種専門学校等進学者数を示す

(出典 平成 18 年度学校要覧 p. 33 ただし修正してある)

資料 6-1-③-3 「平成 16 年度進路状況」

●平成16年度進路状況 Course of Graduates							
区 分 Classification	機械工学科 Mechanical Engineering	電気工学科 Electrical Engineering	物質工学科 Applied Chemistry	環境都市工学科 Civil and Environmental Engineering	生産システム工学専攻 Production Systems Engineering Course	環境システム工学専攻 Environment Systems Engineering Course	計 Total
求人企業数 Companies	214社	247社	119社	89社	126社	82社	877社
求人人数 Jobs Offered	214名	247名	119名	89名	126名	82名	877名
卒業生数 Graduates	39	27	27	29	14	10	146
就職希望者数 Applicants	15	19	11	6	13	9	73
就職者数 Employed	15	19	11	6	13	8	72
進学 Entrance into Universities	22	8	16	<b>23(3)*</b>	1	1	68
その他 Others	2	0	0	0	0	1	6
求人倍率 Rate of Situations Offered	14.3倍	13.0倍	10.8倍	14.8倍	9.7倍	9.1倍	12.0倍
就職率 Rate of Employment	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	88.9%	98.6%

() \*は各種専門学校等進学者数を示す

(出典 平成 17 年度学校要覧 p. 48 ただし修正してある)

## 資料6-1-③-4 「卒業生の専攻科入学、大学編入学状況（最近5カ年）」

●卒業生の専攻科入学、大学編入学状況(最近5カ年) Entrance into Advanced Engineering Faculty and Universities															
区分 学科 Department	14年度 2002			15年度 2003			16年度 2004			17年度 2005			18年度 2006		
	専攻科 Advanced Engineering Faculty	大学 Universities	計 Total	専攻科 Advanced Engineering Faculty	大学 Universities	計 Total	専攻科 Advanced Engineering Faculty	大学 Universities	計 Total	専攻科 Advanced Engineering Faculty	大学 Universities	計 Total	専攻科 Advanced Engineering Faculty	大学 Universities	計 Total
機械工学科 Mechanical Engineering	8	11	19	7	10	17	5	11	16	7	15	22	4	8	12
電気工学科 Electrical Engineering	2	12	14	10	8	18	6	7	13	1	7	8	12	6	18
物質工学科 Applied Chemistry	5	13	18	8	11	19	4	15	19	3	13	16	7	9	16
環境都市工学科 Civil and Environmental Engineering	6	9	15	4	14	18	4	12	16	5	15	20	6	<b>13</b>	<b>19</b>
計 Total	21	45	66	29	43	72	19	45	64	16	50	66	29	<b>36</b>	<b>65</b>

(出典 平成18年度学校要覧 p.33 ただし修正してある)

## 資料6-1-③-5 「全卒業生（修了生）に対する就職者・進学者・進路未決定者等の割合」

全卒業生に対する就職者・進学者・進路未決定者等の割合									
卒業年度	卒業生数 (人)	就職者数		進学者数		各種専門学校 等進学者数		進路 未決定者数	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
平成16年度	122	51	41.8%	66	54.1%	3	2.5%	2	1.6%
平成17年度	143	74	51.7%	65	45.5%	1	0.7%	3	2.1%
平成18年度	138	79	57.3%	54	39.1%	1	0.7%	4	2.9%

全修了生に対する就職者・進学者・進路未決定者等の割合									
修了年度	修了生数 (人)	就職者数		進学者数		進路 未決定者数			
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)		
平成16年度	24	21	87.5%	2	8.3%	1	4.2%		
平成17年度	15	11	73.3%	4	26.7%	0	0.0%		
平成18年度	18	17	94.4%	1	5.6%	0	0.0%		

(出典 進路関係資料から作表)

資料 6-1-③-6 「平成 19 年 3 月卒業（修了）者の就職先及び進学先一覧」

平成 19 年 3 月卒業（修了）者の就職先及び進学先一覧					(平成 19 年 3 月 1 日現在)				
学科(専攻)名	本 科	専攻科	合 計	就職先					
				機械	電気	物質	環境	生産	環境
就職内定先及び進学先	機械	電気	物質	環境	生産	環境	生産	環境	計
<b>建設業</b>									
(株)NIPPOコーポレーション		2							2
東亜建設工業(株)		1							1
(株)新井組		1							1
(株)むつみワールド		1							1
三建設備工業(株)		1							1
旭シンクロテック(株)		1							1
菊川工業(株)		1							1
住友金属パイプエイジ(株)		1							1
前田道路(株)		1							1
(株)トウエイハウス		1							1
(株)白石		1							1
日揮プロジェクトサービス(株)		1							1
大林道路(株)		1							1
シンヨー(株)		1							1
むつみ造園土木(株)		1							1
小 計	2		14						16
<b>繊維工業</b>									
東レ(株)		1							1
小 計	1		1						1
<b>化学工業</b>									
塩野義製薬(株)		1							1
大日精化工業(株)		1							1
大日本インキ化学工業(株)		1							1
中外製薬(株)		1							1
J S R(株)		1							1
日本ゼオン(株)川崎工場		1							1
昭和電工(株)		1							1
日立化成工業(株)下館事業所		1							1
第一ファルマテック(株)		2							2
(株)日本触媒		1							1
小 計	11		11						11
<b>石油・石炭製品製造</b>									
新日本石油化学(株)		1							1
東燃ゼネラル石油(株)		1							1
出光興産(株)		1							1
小 計	3		3						3
<b>一般機械器具製造</b>									
(株)牧野フライス製作所	1								1
フジテック(株)								1	1
小 計	1								2
<b>電気機器製造</b>									
T D K T D K(株)	1	1							2
(株)リコー(厚木)	1								1
ソニー宮城(株)	1								1
(株)日立メティコ	1								1
(株)日立エレクトリックシステムズ	1								1
セイコーエプソン(株)	1								1
ソニーEMCS(株)	2								2
T D K - M C C(株)	1								1
(株)東北フジクラ							1		1
五洋電子(株)							2		2
(株)日立製作所							1		1
小 計	4	5	1				4		14
<b>輸送用機器器具製造</b>									
いすゞエンジニアリング(株)	2								2
(株)エンアージュケーシングシステム	1								1
(株)スズキ部品秋田	1								1
本田技研工業(株)		2							2
(株)日産テクノ						1			1
(株)DRD						1			1
小 計	4	2				2			8
<b>精密機器製造</b>									
ニプロファーマ(株)	1								1
(株)アキタ・アダマンド	1	1							2
並木精密宝石(株)		1							1
J U K I 電子工業(株)						2			2
ニプロ(株)							1		1
小 計	2	2				2	1		7
<b>その他製造業</b>									
凸版印刷(株)		1							1
(株)I N A X		1							1
(株)日立ハウステック結城工場		1							1
レンゴー(株)八潮工場		1							1
(株)フルヤ金属		1							1
東電化工業(株)		1							1
田中貴金属工業(株)		1							1
住友大阪セメント(株)						1			1
三菱マテリアルテクノ(株)						1			1
小 計	1	6	1	1					9
<b>運輸業</b>									
J R 東日本旅客鉄道株				1					1
日本貨物鉄道(株)東北支社					1				1
小 計				1	1				3
<b>電気・ガス・情報通信業</b>									
東北発電工業(株)		1							1
東北電力(株)		1							1
(株)NTTドコモ東北		1							1
(株)NTT-ME		3							3
小 計	1	5							6
<b>サービス業</b>									
(株)アルメックス	1						1		2
(株)J A L 航空機整備備成田	1								1
セコム(株)		2							2
総合警備保障(株)		3							3
三菱電機ビルテクノサービス(株)		1							1
ビクターサービスエンジニアリング(株)		1							1
パイオニアシステムテクノロジー(株)		1							1
(株)日立ビルシステム		1							1
(株)アルプス技研							1		1
(株)建設技術研究所								1	1
小 計	2	9					2	1	14
<b>医療・福祉</b>									
医療法人 松田会									1
小 計									1
<b>不動産業</b>									
(株)サンシティ									1
小 計									1

学科(専攻)名	本 科	専攻科	合 計	就職内定先及び進学先					
				機械	電気	物質	環境	生産	環境
就職内定先及び進学先	機械	電気	物質	環境	生産	環境	生産	環境	計
<b>専攻科進学</b>									
秋田高専専攻科	11	4	3	5					23
小 計	11	4	3	5					23
<b>大学進学</b>									
秋田大学	1			1					2
弘前大学	1	1							2
岩手大学					1				1
新潟大学	1	1							2
長岡技術科学大学	3	3	4	5					15
信州大学			1						1
神戸大学		1							1
電気通信大学		1							1
豊橋技術科学大学		2	2						4
前橋工科大学				1					1
宇都宮大学						1			1
小 計	6	9	7	9					31
<b>大学院進学</b>									
大阪大学 大学院									1
小 計									1
<b>専門学校・各種学校進学等</b>									
日本自動車大学校	1								1
小 計	1								1

就職	学 科					計
	機械	電気	物質	環境	生産	
就職	16	22	25	16	11	6
就職	16	22	25	16	11	6
進学	18	13	10	14	0	1
計	34	35	35	30	11	7

(出典 学校だより Vol.71 p. 5)

資料 6-1-③-7 「平成 18 年 3 月卒業（修了）者の就職先及び進学先一覧」

平成 18 年 3 月卒業（修了）者の就職先及び進学先一覧

(平成 18 年 3 月 31 日現在)

学科(専攻)名 就職内定先及び進学先	本科					専攻科 合計
	機械	電気	物質	環境 都市	生産 システム	
<b>農業</b>						
秋田南教農協同組合				1		1
小計				1		1
(昨年度末)				1		1
<b>建設業</b>						
株青葉コンサルタント				1		1
株新井組				1		1
株住友大板セメント				1		1
株トマック				1		1
旭シンクロテック株				1		1
菊川工業株				1		1
住友金属プラントック株				1		1
前田道路株				1		1
水谷建設株東日本支社				1		1
山崎建設株				1		1
太田防水工業株				1		1
鹿島道路				1		1
小計				11		11
(昨年度末)	1			2		5
<b>金融業</b>						
秋田銀行						1
小計						1
(昨年度末)						0
<b>食品製造業</b>						
雪印乳業株			1			1
小計			1			1
(昨年度末)			1			1
<b>繊維工業</b>						
株日清紡	1					1
小計	1					1
(昨年度末)						0
<b>化学工業</b>						
花王株			1			1
株カネカ			1			1
塩野義製薬株			1			1
住友化学株			1			1
大日精化工業株			1			1
チッソ石油化学株			1		1	2
東レ株			1			1
東洋インキ製造株			1			1
大日本インキ化学工業株						1
小計			8		1	10
(昨年度末)	2	3				8
<b>石油・石炭製品製造</b>						
コスモ石油株		1	1			2
新日本石油株			1			1
小計		1	2			3
(昨年度末)		1	1			3
<b>金属製品製造</b>						
小計						1
(昨年度末)						1
<b>一般機器製造</b>						
株太陽インターナショナル	1					1
ISG株	1					1
高砂熱学工業株	1					1
小計	3					3
(昨年度末)	1					2
<b>電気機器製造</b>						
株OA研究所	1					1
TDK-MCC	1					1
株日立製作所	1					1
JUKI電子工業株		1				1
カンオテクノ株		1				1
京セラ株総合工場		1				1
ソニー宮城株			1			1
五洋電子株					2	2
小計	3	3	1	0	2	9
(昨年度末)	3	3	1		1	8

学科(専攻)名 就職内定先及び進学先	本科					専攻科 合計
	機械	電気	物質	環境 都市	生産 システム	
<b>精密機器製造</b>						
株JUKI	1					1
TDK株	1	3	1		1	6
日発精密工業株	1					1
株扶桑精巧	1					1
田中貴金属工業株			1			1
株アズマ					1	1
小計	4	3	2		1	11
(昨年度末)	1	2	3	0	3	9
<b>その他製造業</b>						
石川島汎用機サービス株	1					1
ケーヒン株	1					1
本田技研工業株	1	1				2
津田工業株	1					1
株テクモ	1					1
株日野自動車	1					1
日本オーチスエレベーター株		1				1
ニプロファーマ株			1			1
宇宙航空研究開発機構				1		1
牧野フライス株					1	1
小計	6	2	1	1	1	11
(昨年度末)	8	3			2	13
<b>運輸業</b>						
日本貨物鉄道株東北支社				2		2
JR東日本株				1		1
小計				2		3
(昨年度末)				1		1
<b>電気・ガス・通信業</b>						
NHK		1				1
大阪ガス株				1		1
小計		1		1		2
(昨年度末)		3				3
<b>サービス業</b>						
秋田ゼロックス株(県内)	1					1
株アルメックス	1					1
株リキネット	1					1
株秋田ルミナ(県内)	1					1
JAL航空機整備成田株			1			1
GE種河メディカルシステムズ株			1			1
総合警備保障株			1			1
日本原子力発電株			1			1
富士電機システムズ株			1			1
三菱電機ビルテクノサービス株			1			1
中外テクノビジネス				1		1
フジテック株				1		1
丸水中央水産株				1		1
日本興亜損保秋田支店				1		1
小計	4	6	1	3		14
(昨年度末)	2	4	1	3	4	15
<b>法人・官公庁</b>						
県庁職員	1					1
社団法人東北建設協会				1		1
医療法人久幸会					1	1
小計	1			1		3
(昨年度末)						2

学科(専攻)名 就職内定先及び進学先	本科					専攻科 合計		
	機械	電気	物質	環境 都市	生産 システム			
<b>専攻科進学</b>								
秋田高专専攻科	4	12	7	6		29		
小計	4	12	7	6		29		
(昨年度末)	7	1	3	5		16		
<b>大学進学</b>								
秋田大学	2	2		3		7		
東北大学		1	1			2		
弘前大学	1					1		
岩手大学			2			2		
山形大学			1			1		
新潟大学	2		2			4		
北海道大学				2		2		
長岡技術科学大学	2	1	1	3		7		
信州大学			1			1		
群馬大学	1					1		
千葉大学			1			1		
横浜国立大学			1			1		
豊橋技術科学大学			1	4		5		
多摩大学				1		1		
小計	8	6	9	13		36		
(昨年度末)	15	7	13	15		50		
<b>大学院進学</b>								
秋田大学大学院					2	2		
東京大学大学院					1	1		
東京工業大学大学院						1		
小計					3	4		
(昨年度末)					1	2		
<b>専門学校・各種学校進学等</b>								
秋田中通看護学院	1					1		
小計	1					1		
(昨年度末)					3	3		
進路	就職	22	16	16	20	6	5	85
進学	13	18	16	19	3	1	70	

(出典 学校だより Vo1.69 から作表)

資料 6-1-③-8 「平成 17 年 3 月卒業（修了）者の就職先及び進学先一覧」

平成 17 年 3 月卒業（修了）者の就職先及び進学先一覧

(平成 17 年 3 月 31 日現在)

学科(専攻)名 就職内定先及び進学先	本科				専攻科		合計
	機械	電気	物質	環境都市	生産システム	環境システム	
<b>農業</b>							
(昨年度末)				1			1
<b>建設業</b>							
機ユアテック		1					1
旭シンクロテック機				1			1
横河ブリッジ				1			1
日陽エンジニアリング機					1		1
機沢木組						1	1
住友金属フランテック機							
小計	1			2	1		5
(昨年度末)				8		2	10
<b>印刷業</b>							
小計							1
(昨年度末)					1		1
<b>食品製造業</b>							
森永乳業機			1				1
小計			1				1
(昨年度末)	3	1					5
<b>繊維工業</b>							
小計							1
(昨年度末)							1
<b>化学工業</b>							
TDK機		2					2
住友化学			1				1
エスエス製薬			1				1
日本ブチル機			1				1
大日本インキ化学工業機						1	1
テッソ石油化学機						1	1
機東燃化学						1	1
小計	2	3				3	8
(昨年度末)	4	7				1	13
<b>石油・石炭製品製造</b>							
新日本石油化学		1					1
機カネカ			1				1
石油資源開発機					1		1
小計	1	1				1	3
(昨年度末)	2	2					4
<b>金属製品製造</b>							
東洋製罐機			1				1
小計			1				1
(昨年度末)	1						1
<b>一般機器製造</b>							
機森精機製作所	1						1
機山岡製作所						1	1
小計	1						2
(昨年度末)	2					1	3
<b>電気機器製造</b>							
機デザインネットワーク	2						2
ソニー宮城機	1						1
アルプス電気機		1					1
CICテクノロジー機		1					1
京セラ機		1					1
アクティス			1				1
機国際電気エンジニアリング						1	1
小計	3	3	1			1	8
(昨年度末)	1	2	1				4

学科(専攻)名 就職内定先及び進学先	本科				専攻科		合計
	機械	電気	物質	環境都市	生産システム	環境システム	
<b>精密機器製造</b>							
機放電加工研究所	1						1
東芝メディカル		1					1
半導体エネルギー研究所			1				1
東電化学工業機(県内)			1				1
機アズマ			1				1
アネルバ機					1		1
JUKI電子工業機(県内)	1				1		2
機倉元製作所					1		1
小計	1	2	3	0	3		9
(昨年度末)	3	2					5
<b>その他製造業</b>							
磐田工業機(県内)	1						1
機日産ディーゼル研究所	1						1
機ニッソーサービス	1						1
機テクモ	1						1
石川島汎用機サービス	1						1
日産自動車機	1	1					2
土佐製作(県内)	1						1
NSデザイン	1						1
本田技研工業機		1					1
機牧野フライス					1		1
機日産テクノ					1		1
機山二		1					1
小計	8	3			2		13
(昨年度末)	4	2			2		10
<b>運輸業</b>							
JR西日本機				1			1
小計				1			1
(昨年度末)				1			2
<b>電気・通信業</b>							
東北電力機		2					2
NTTドコモ東北		1					1
小計		3					3
(昨年度末)		1					1
<b>サービス業</b>							
機JAL航空機整備成田	1						1
機オーバル	1						1
三菱ビルテクノサービス機	1						1
機セコム	1						1
機ビジョンケア(県内)	1						1
機サンルーラル大湯(県内)		1					1
機オールホンダ秋田(県内)				1			1
機プレスステージインターナショナル				2			2
機ジャパンアウトソーシング					1		1
機JAL航空機整備東京					1		1
総合警備保障	1				1		2
机ロフワイドエンジニアリング機					1		1
機エースジャパン						1	1
小計	2	4	1	3	4	1	15
(昨年度末)	1	9	3	3	2	2	20
<b>官公庁</b>							
秋田県分析化学センター						1	1
秋田県環境測定センター						1	1
小計						2	2
(昨年度末)						1	2

学科(専攻)名 就職内定先及び進学先	本科				専攻科		合計
	機械	電気	物質	環境都市	生産システム	環境システム	
<b>専攻科進学</b>							
秋田高专専攻科	7	1	3	5			16
小計	7	1	3	5			16
(昨年度末)	5	6	4	4			19
<b>大学進学</b>							
秋田大学	9	1	3	6			19
岩手大学			1				1
筑波大学			1				1
岐阜大学			1				1
新潟大学	1	2	3	1			7
長岡技術科学大学	2	1		3			6
宇都宮大学		1					1
千葉大学	1						1
神戸大学		1					1
京都大学			1				1
豊橋技術科学大学	1	1	1	2			5
島根大学			2				2
東京電機大学				1			1
前橋工科大				2			2
長崎大学	1						1
小計	15	7	13	15			50
(昨年度末)	11	7	15	12			45
<b>大学院進学</b>							
秋田大学大学院						1	1
長岡技術科学大学大学院					1		1
小計					1	1	2
(昨年度末)					2	2	4
<b>専門学校・各種学校進学等</b>							
パンタンキャリアスクール			1				1
東北電子専門学校				1			1
秋田アカデミー			1				1
小計			1	1			2
(昨年度末)							2
<b>進路</b>							
就職	15	19	11	6	13	8	72
進学	22	8	16	23	1	1	71

(出典 学校だより Vo1.67 から作表)

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断すると、卒業生、修了生は、各学科および各専攻の特徴を活かした就職先あるいは進学先を選択しており、本校の教育の成果や効果が上がっているといえる。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

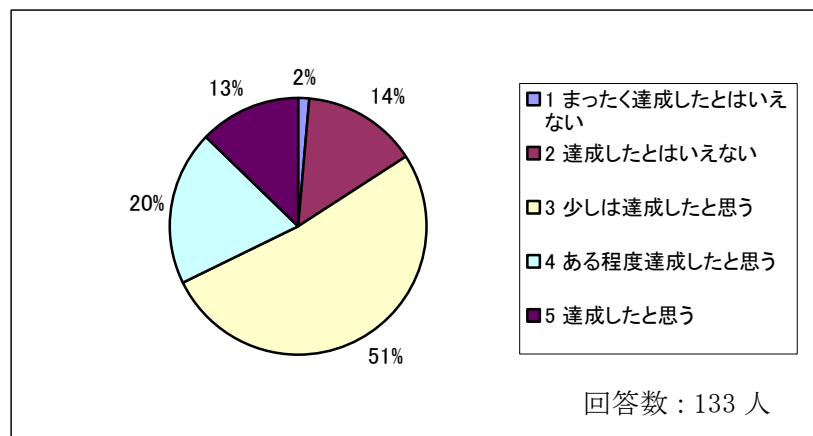
準学士課程第 5 学年の学生に達成度評価を行った結果を，資料 6-1-④-1 に示す。達成度評価は，学校の目的にある基本的な成果（A）～（F）および「学科ごとの成果」の 7 項目について，アンケートにより 5 段階評価で行った。各項目とも 3 以上の評価をした学生の割合は 80% 台であり，おおむね学校の意図する教育の成果は上がっているといえる。

専攻科課程の学生に対する達成度評価を行った結果を，資料 6-1-④-2 に示す。準学士課程と同様に 5 段階評価によるアンケートで，成果（1）～（3）および「専攻ごとの成果」の 4 項目について達成度評価を行った。各項目とも 3 以上の評価をした学生の割合は，成果（2）「プレゼンテーション能力」と「専攻ごとの成果」では 100% であり，それ以外の成果（1）「課題解決能力」82%，成果（3）「複合領域への対応」は 91% と達成の状況が良好であり，教育の成果が上がっている。

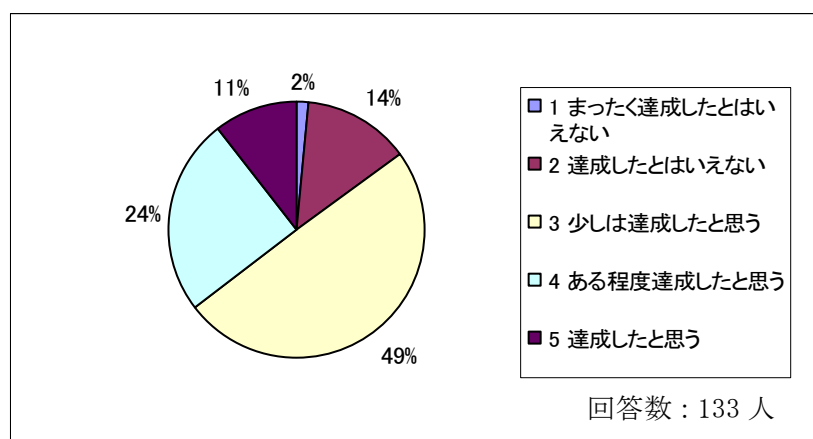


## 資料 6 - 1 - ④ - 1 「平成 18 年度 第 5 学年による達成度評価」

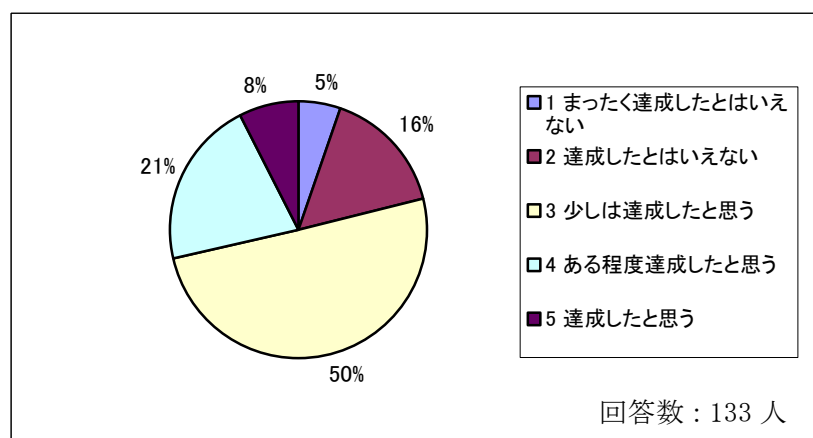
Q11 基本的な成果(A)「人間としての素養」の達成度は、どの程度と考えていますか？



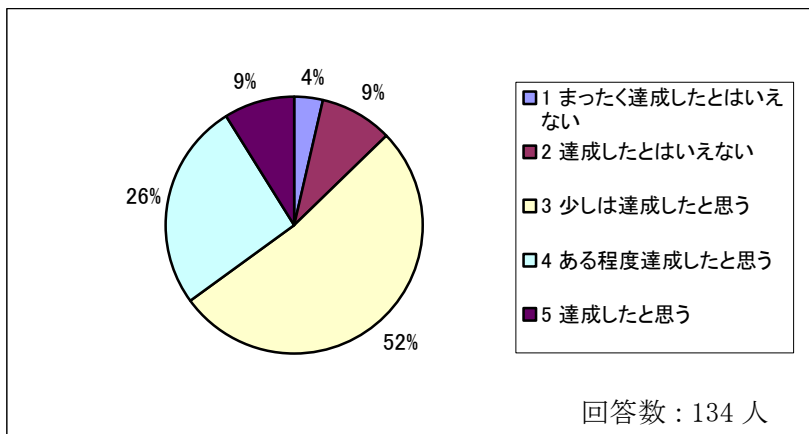
Q12 基本的な成果(B)「基礎学力の充実」の達成度は、どの程度と考えていますか？



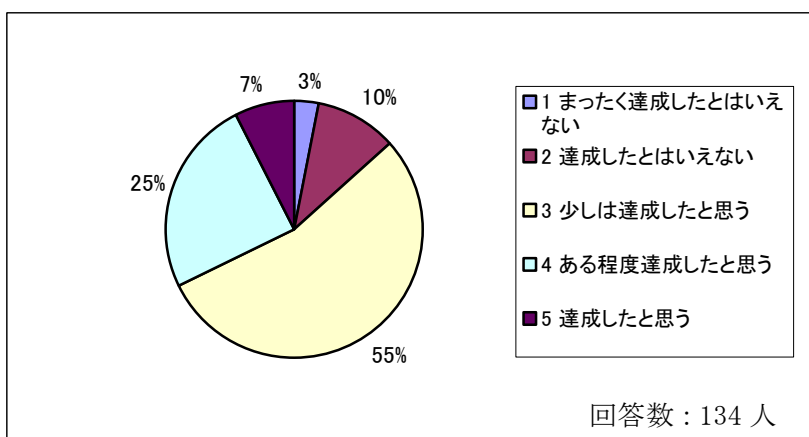
Q13 基本的な成果(C)「コミュニケーション能力」の達成度は、どの程度と考えていますか？



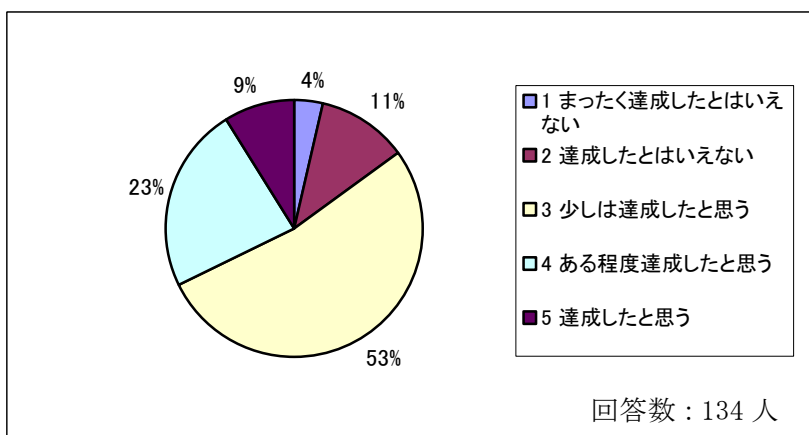
Q14 基本的な成果(D)「工学基礎知識の習得」の達成度は、どの程度と考えていますか？



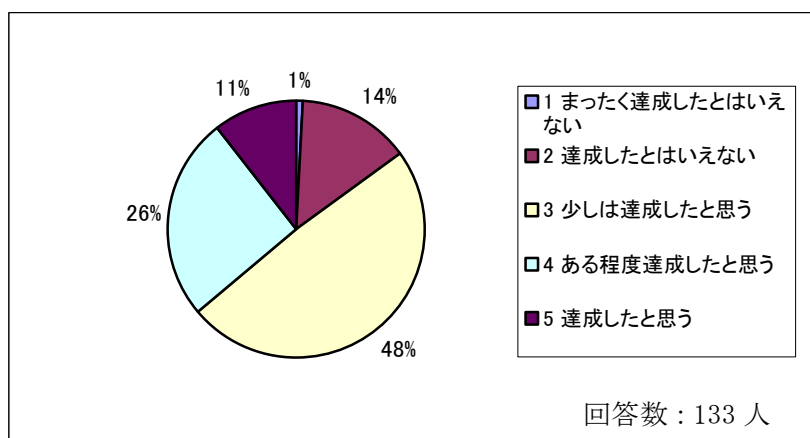
Q15 基本的な成果(E)「実践的な能力」の達成度は、どの程度と考えていますか？



Q16 基本的な成果(F)「専門的な知識の充実」の達成度は、どの程度と考えていますか？



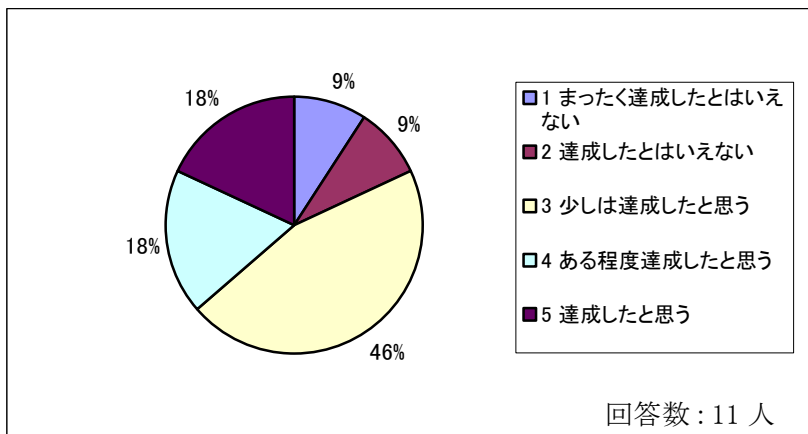
Q17 基本的な成果「学科ごとの成果」の達成度は、どの程度と考えていますか？



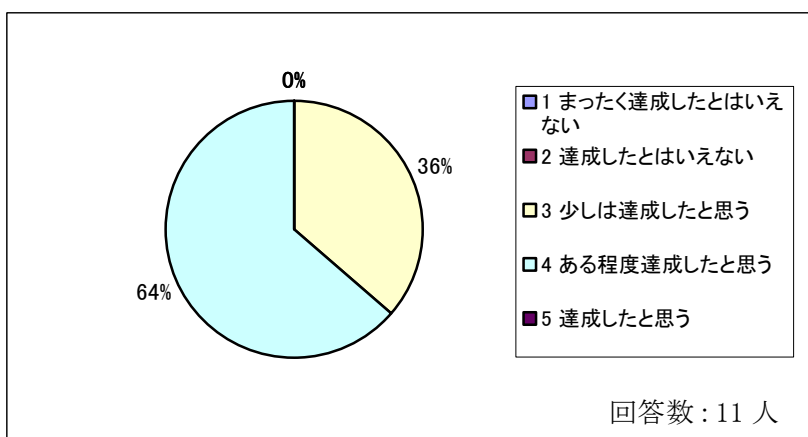
(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成 18 年度版－ p. 24～26)

## 資料 6 - 1 - ④ - 2 「平成 18 年度 専攻科学生による達成度評価」

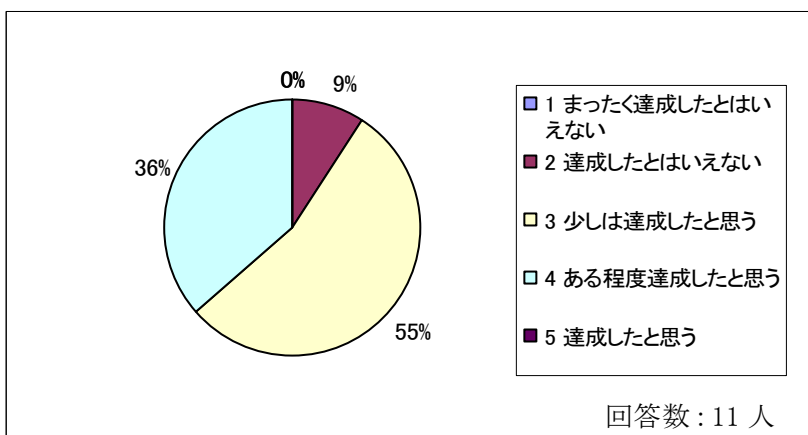
Q11 (修了生) 成果(1)「課題解決能力」の達成度は、どの程度と考えていますか？



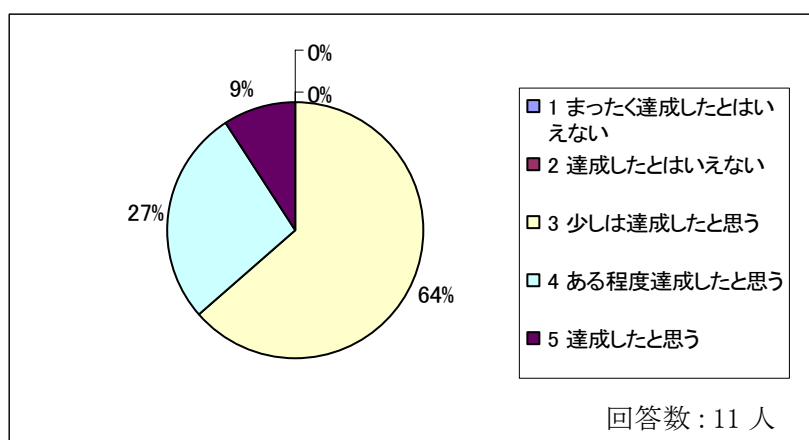
Q12 (修了生) 成果(2)「プレゼンテーション能力」の達成度は、どの程度と考えていますか？



Q13 (修了生) 成果(3)「複合領域への対応」の達成度は、どの程度と考えていますか？



Q14 (修了生) 成果「専攻ごとの成果」の達成度は、どの程度と考えていますか？



(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成18年度版－ p. 31～32)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程第5学年および専攻科課程の学生に対して、学校の目的にある基本的な成果について、アンケートによる達成度評価を行った。アンケート結果から、学校の意図する教育の成果は上がっており、特に専攻科課程の学生による達成度評価は良好であった。

以上のことから、教育の成果や効果が上がっているといえる。

観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。  
また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

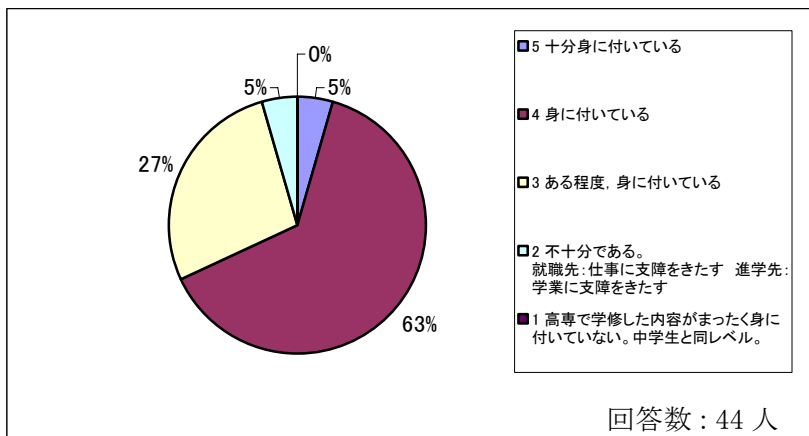
平成 17 年度準学士課程卒業生および専攻科課程修了生の進路先関係者ならびに卒業生，修了生に，学校の目的に対する達成度について，アンケート調査を行った。

準学士課程卒業生の進路先関係者ならびに卒業生について，達成度評価は，学校の目的にある基本的な成果（A）～（F）および「学科ごとの成果」の 7 項目について，アンケートにより 5 段階評価で行った。各項目とも 3 以上の評価の割合は，進路先関係者による評価では 90% 台後半となり（資料 6-1-⑤-1），卒業生の評価では 90% 台を中心に，いずれの項目でも約 80% 以上となった（資料 6-1-⑤-2）。

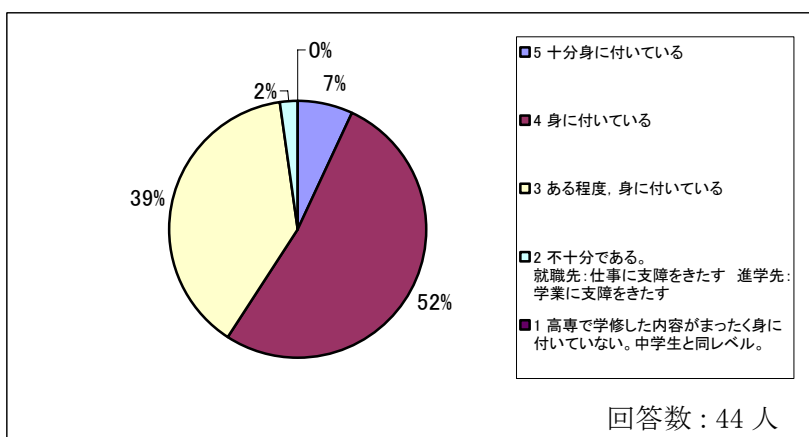
同様に，専攻科課程修了生の進路先関係者ならびに修了生に対し，基本的な成果（1）～（3）および「専攻ごとの成果」の 4 項目について，アンケート調査を行った。各項目とも 3 以上の評価の割合は，進路先関係者による評価では 100% となり（資料 6-1-⑤-3），修了生の評価では 2 項目で 100%，他の 2 項目でも約 86% となった（資料 6-1-⑤-4）。

## 資料 6 - 1 - ⑤ - 1 「秋田高専準学士課程卒業生の学力や能力に関する調査結果（進路先関係者）」

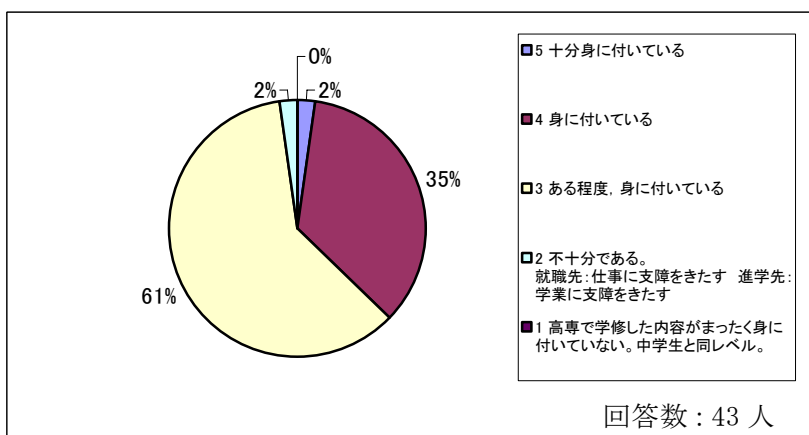
Q1 基本的な成果(A)「人間としての素養」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか？



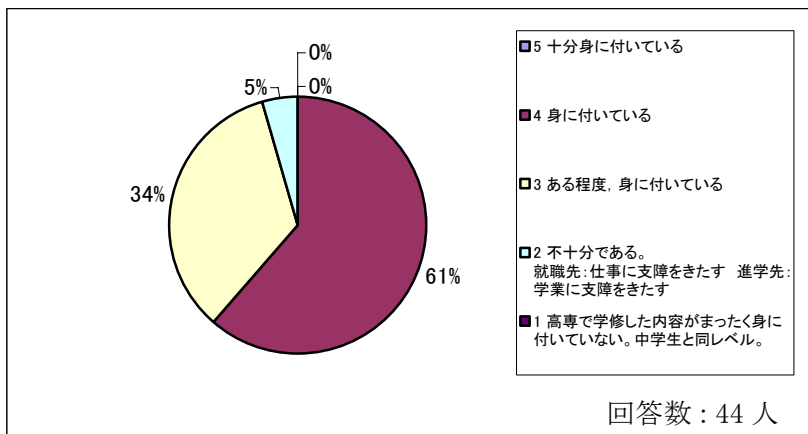
Q2 基本的な成果(B)「基礎学力の充実」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか？



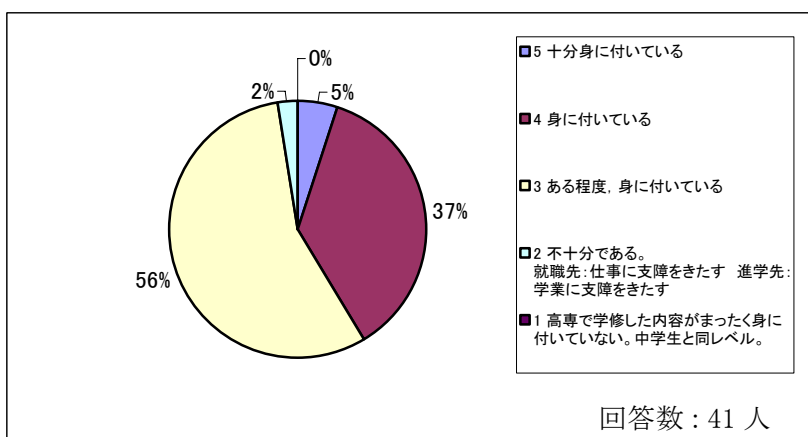
Q3 基本的な成果(C)「コミュニケーション能力」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか？



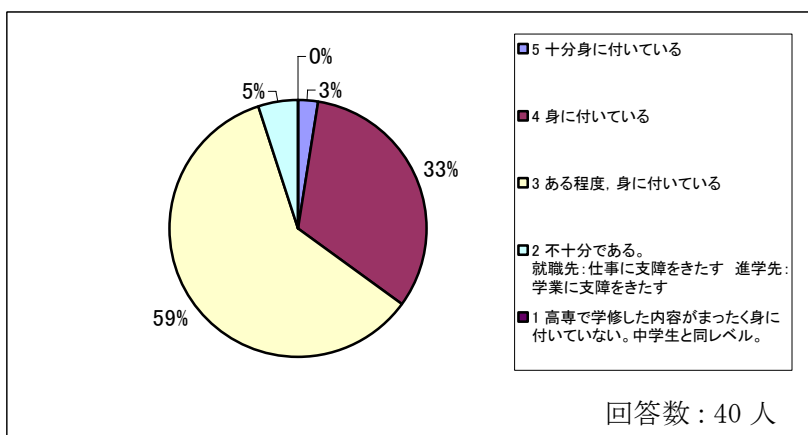
Q4 基本的な成果(D)「工学基礎知識の習得」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか？



Q5 基本的な成果(E)「実践的な能力」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか？

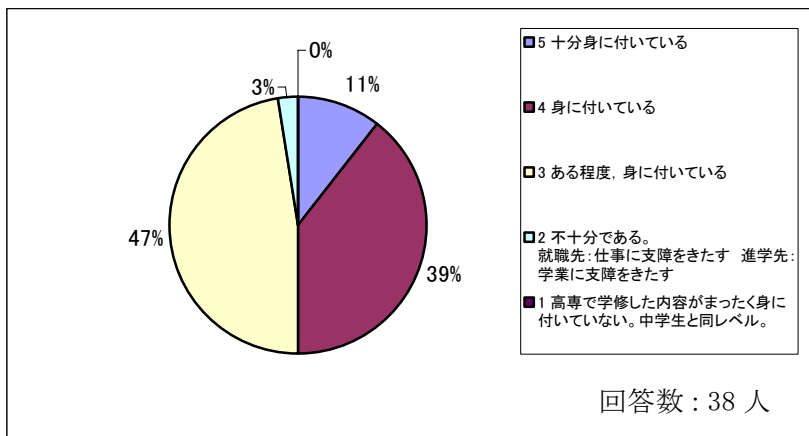


Q6 基本的な成果(F)「専門的な知識の充実」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか？





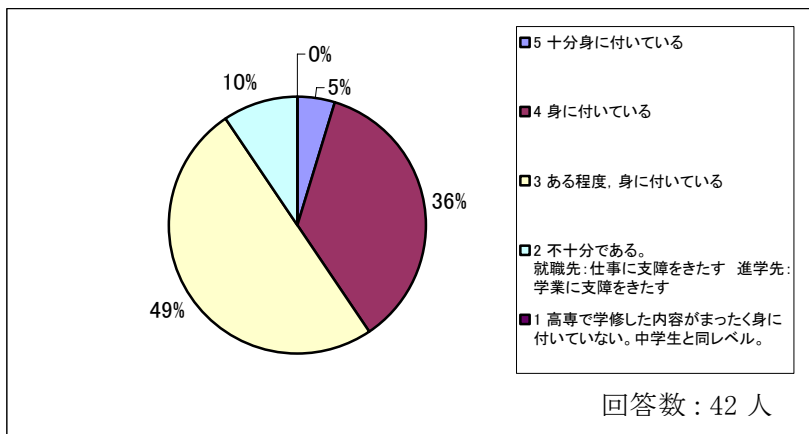
Q7 基本的な成果「学科ごとの成果」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか？



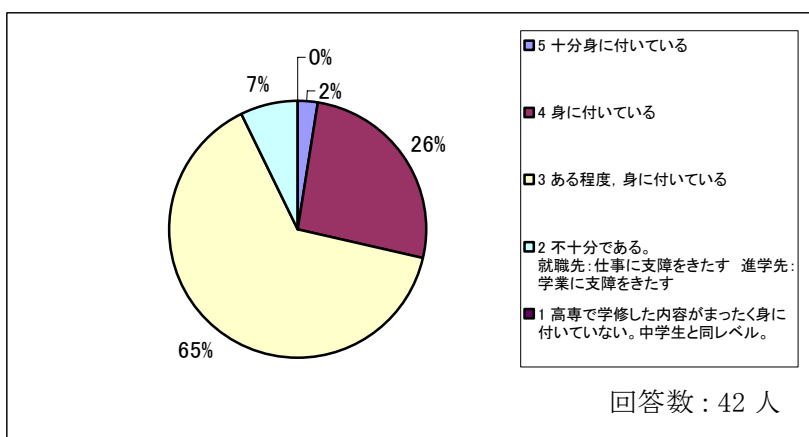
(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成18年度版－ p. 34～36)

資料 6 - 1 - ⑤ - 2 「秋田高専準学士課程卒業生の学力や能力に関する調査結果 (H17 年度卒業生)」

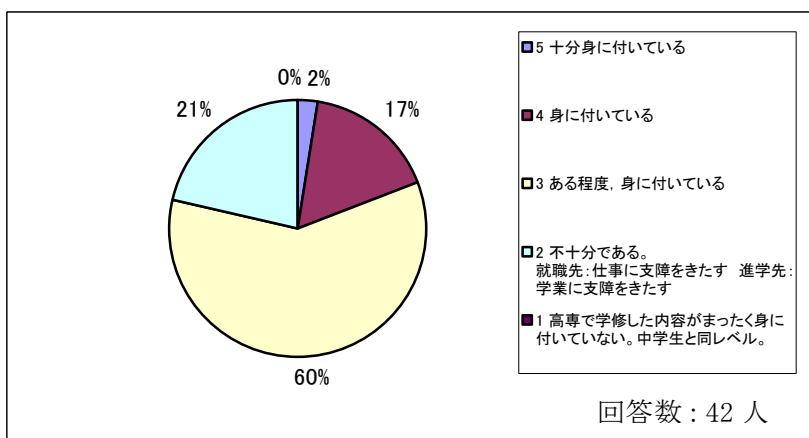
Q1 基本的な成果(A)「人間としての素養」の達成度を自己評価してください。



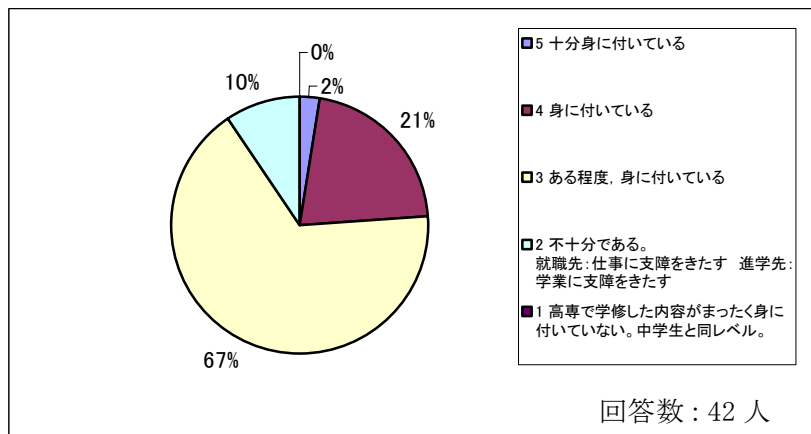
Q2 基本的な成果(B)「基礎学力の充実」の達成度を自己評価してください。



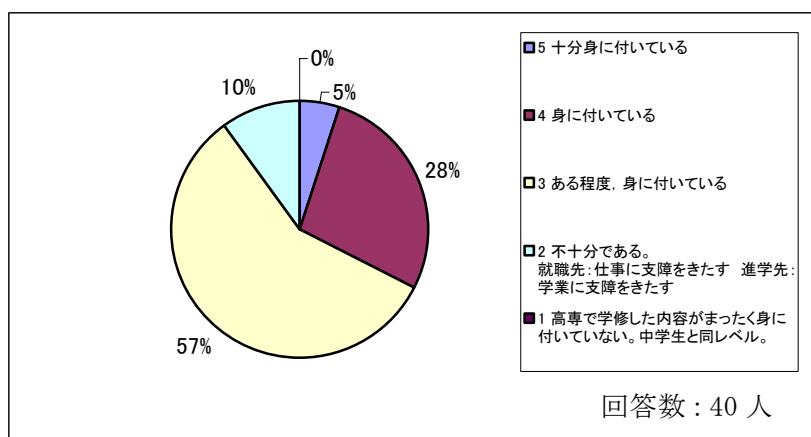
Q3 基本的な成果(C)「コミュニケーション能力」の達成度を自己評価してください。



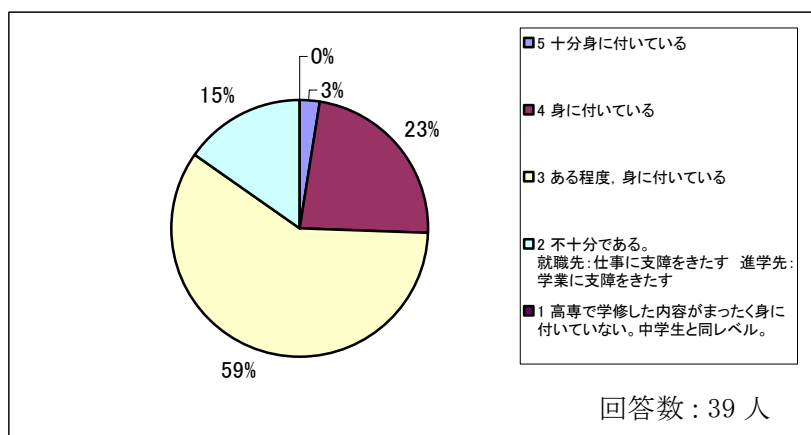
Q4 基本的な成果(D)「工学基礎知識の習得」の達成度を自己評価してください。



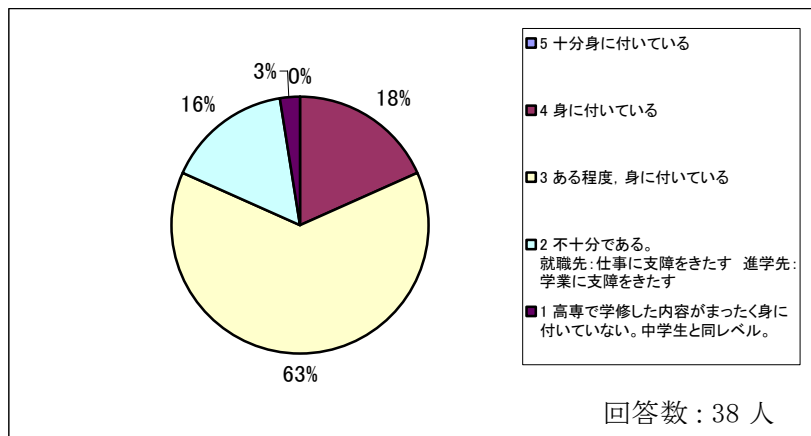
Q5 基本的な成果(E)「実践的な能力」の達成度を自己評価してください。



Q6 基本的な成果(F)「専門的な知識の充実」の達成度を自己評価してください。



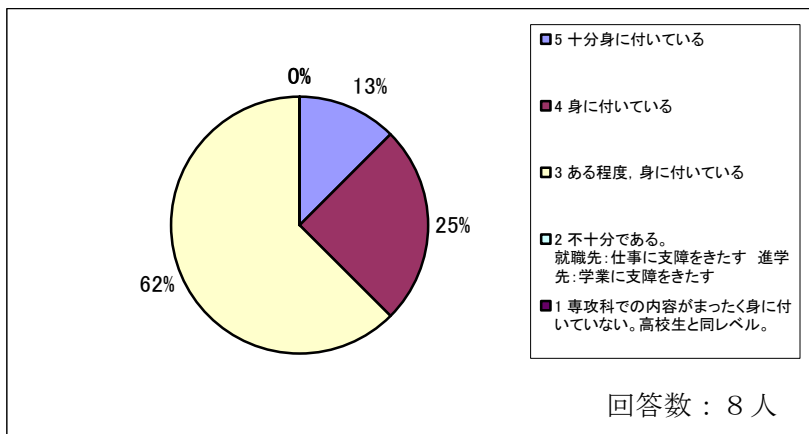
Q7 基本的な成果「学科ごとの成果」の達成度を自己評価してください。



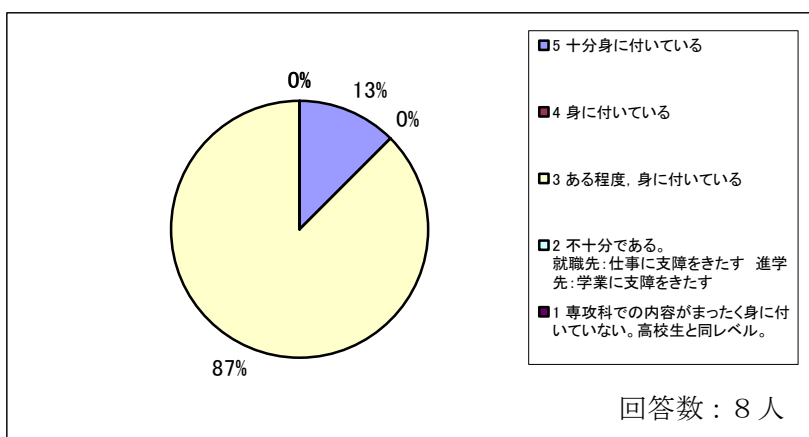
(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成 18 年度版－ p. 38～40)

資料 6-1-⑤-3 「秋田高専専攻科修了生の学力や能力に関する調査結果（進路先関係者）」

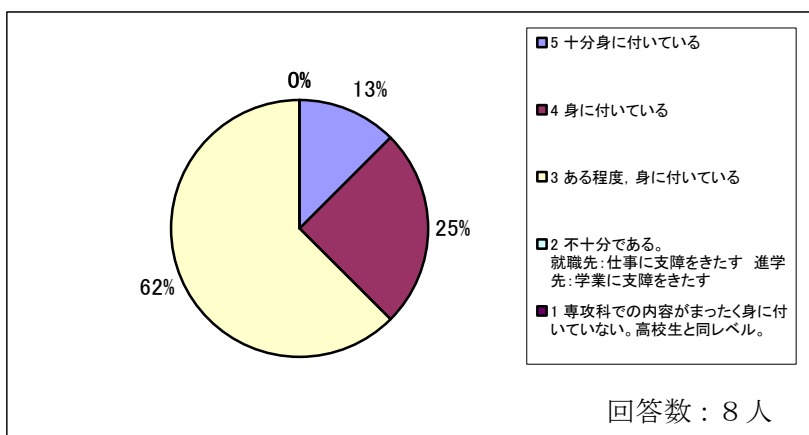
Q1 （修了生）成果(1)「課題解決能力」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか？



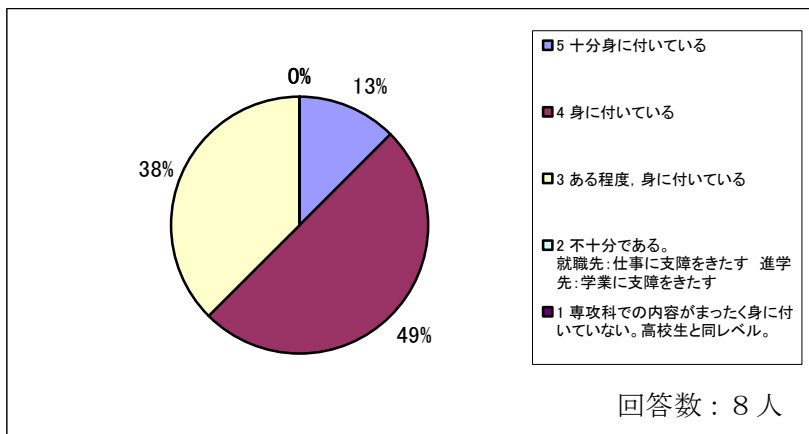
Q2 （修了生）成果(2)「プレゼンテーション能力」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか？



Q3 （修了生）成果(3)「複合領域への対応」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか？



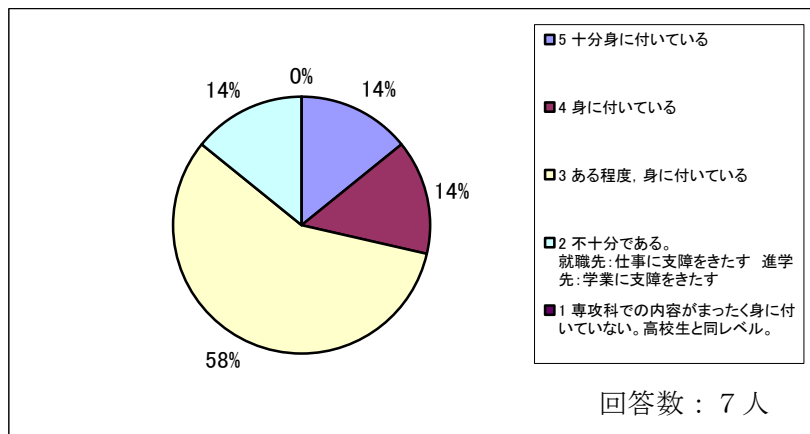
Q4 (修了生) 成果「専攻ごとの成果」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか？



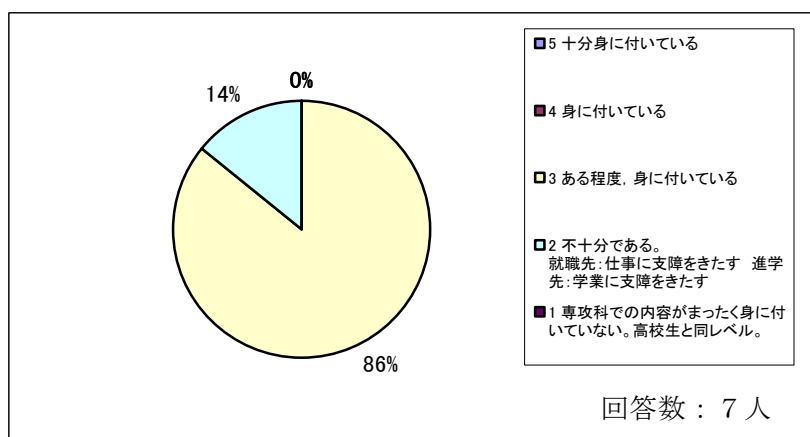
(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成18年度版－ p. 42～43)

## 資料 6-1-⑤-4 「秋田高専専攻科修了生の学力や能力に関する調査結果 (H17 年度修了生)

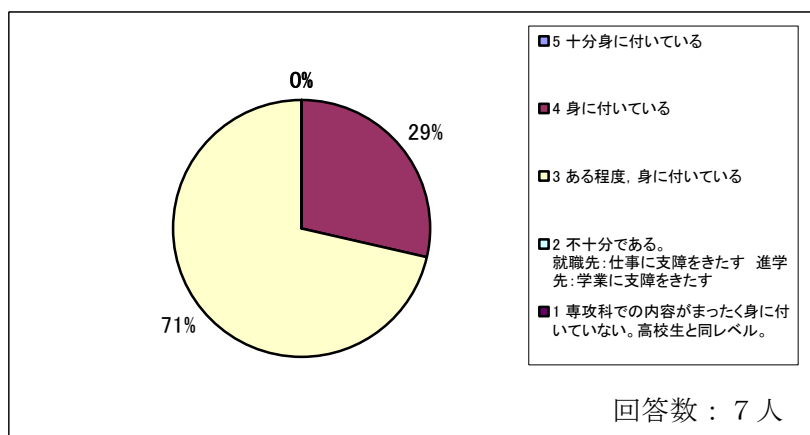
Q1 (修了生) 成果(1)「課題解決能力」の達成度を自己評価してください。



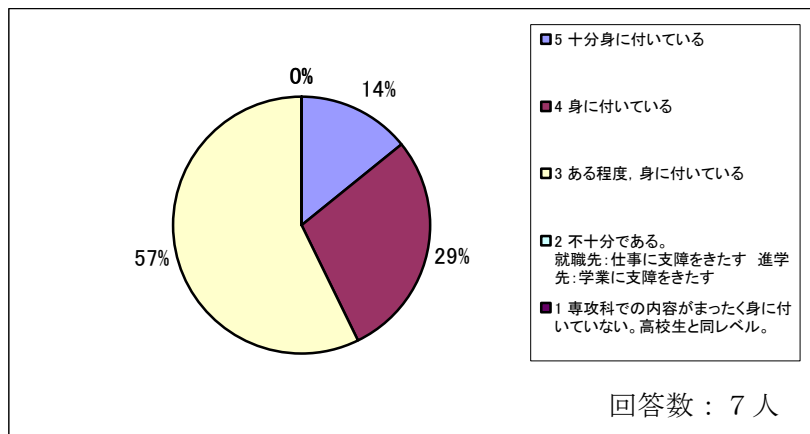
Q2 (修了生) 成果(2)「プレゼンテーション能力」の達成度を自己評価してください。



Q3 (修了生) 成果(3)「複合領域への対応」の達成度を自己評価してください。



Q4 (修了生) 成果「専攻ごとの成果」の達成度を自己評価してください。



(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成18年度版－ p.45～46)

(分析結果とその根拠理由)

平成17年度準学士課程卒業生および専攻科課程修了生の進路先関係者ならびに卒業生、修了生に、学校の目的に対する達成度について、アンケート調査を行った。アンケート調査結果から、卒業(修了)生や進路先関係者からの評価は良好であり、教育の成果は上がっているといえる。



## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

準学士課程、専攻科課程ともに就職率はほぼ 100%であり、準学士課程では 40%強が進学を希望している。ほとんどの学生は、それぞれの各学科、各専攻の専門分野を活かす就職先、進学先に進んでいることから、本校の目的に沿った卒業生、修了生を輩出しており、教育の成果が上がっている。

英検や TOEIC などの資格試験を利用した教育には、英語教員を中心に学校として取り組んでおり、一定の成果を上げている。特に、準学士課程および専攻科課程とも、TOEIC を対象とした学習が効果を上げており、成績優秀者が増加している。

### (改善を要する点)

特になし。

## (3) 基準 6 の自己評価の概要

本校のカリキュラムでは、準学士課程および専攻科課程とも、各達成すべき目標ごとに、必修科目と選択科目がバランスよく配置されており、選択科目により偏る状況にはなっていない。すなわち、本校の卒業要件、修了要件を満たせば、本校の目的を達成できるようになっている。学校として達成状況を把握・評価するために、準学士課程では学科会議および教員会議が、専攻科課程では専攻科教員会議が行われている。

最近の進級状況より、準学士課程では留年者は増加傾向にあるものの、退学者は年々減少しており、留年しても学力を身につけて卒業する学生が増えていることを示している。また、担任を中心にしたきめ細かい学習・生活指導もあり、特に第 2 学年以下の退学者数は改善されている。

専攻科課程における特別研究は、それぞれの専攻分野について高度な内容が行われており、修了者のほぼ全員が学位取得していることから、学力および研究能力を身につけているといえる。

英検および TOEIC 受験を利用した教育に、英語教員を中心に学校として取り組んでおり、一定の成果をあげている。特に、準学士課程および専攻科課程とも、TOEIC を対象とした学習が効果を上げており、成績優秀者が増加している。TOEIC スコアは専攻科課程の修了要件にも入っており、修了生の英語力を保証するとともに、成績向上のための努力をしている。

また、ロボコン、プロコン、デザコンなどの外部コンペティションにも積極的に参加し、優秀な成績を収めていることから、学生の資質・能力の向上に役立っている。

準学士課程、専攻科課程ともに就職率はほぼ 100%であり、準学士課程では 40%強が進学を希望している。ほとんどの学生は、それぞれの各学科、各専攻の専門分野を活かす就職先、進学先に進んでいることから、本校の目的に沿った卒業生、修了生を輩出しており、教育の成果が上がっている。

準学士課程第 5 学年および専攻科課程の学生に対して、学校の目的にある基本的な成果について、アンケートによる達成度評価を行った。また、平成 17 年度準学士課程卒業生および専攻科課程修了生の進路先関係者ならびに卒業生、修了生に、学校の目的に対する達成度について、アンケート調査を行った。いずれのアンケート調査結果も評価はおおむね良好であり、本校の教育の成果や効果は上がっている。

## 基準7 学生支援等

### (1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程では、年度始めに全ての学年において、学級担任から学習上の留意事項が、1年間のスケジュールとともに説明されている(資料7-1-①-1)。この際、学生便覧、シラバスが活用され、各学科の履修要領、本校の目的、自学自習などの学習支援についてオリエンテーションが行われている。

加えて、第1学年では「新入生オリエンテーション」において、教務主事、学生主事、学生相談室長による説明と施設見学を行う(資料7-1-①-2)。

専攻科課程では、第1学年と第2学年の年度始めにそれぞれガイダンスが行われており、学習を進めるための解説を行っている(資料7-1-①-3)。

全教員がオフィスアワーを週1回、各1時間以上ずつ設定し、学生の学習の相談を受け、助言を行っている(資料7-1-①-4)。アンケートの集計結果より、準学士課程および専攻科課程の学生とも、オフィスアワーの制度は知っていると回答する割合が90%程度であるが、実際に利用している学生の割合は50~60%台に留まった。しかし、オフィスアワー以外の時間帯も含めると80~90%の学生は質問したことがあり、教員の対応もおおむね良好であるといえる。(資料7-1-①-5)。

資料7-1-①-1 「学校の諸制度に関するオリエンテーション」

平成19年4月4日

学級担任各位

教務主事

学校の諸制度に関するオリエンテーションについて

学級担任はホームルームなどの時間を利用して、年度当初に下記の点について学生へガイダンスをお願いします。説明に当たっては学生便覧、授業計画を活用して下さい。

○単位認定、成績評価、進級要件（5年生担任は卒業要件）について

- ・それぞれ学生便覧、授業計画を用いて説明する。
- ・学修単位には自学自習の時間が含まれることを説明する。

○本校の目的について

- ・目的は学生便覧、授業計画に掲載されていることを説明する。
- ・(A)は人文系科目、(B)は自然科学系科目、(C)は外国語科目にそれぞれ対応している。
- ・(D)は専門講義科目、(E)は専門実験科目、(F)は基礎（工学）研究、卒業研究にそれぞれ対応している。

○自学実習などの学習支援について

- ・自学自習について（予習復習の必要性、図書館、情報処理センターなどの活用）
- ・オフィスアワー制度について説明すること。
- ・資格試験の受験料補助

○JABEE プログラムについて

- ・学生便覧を参考に説明すること。

○欠課および公欠について

- ・欠課した場合は必ず届けを出すこと。欠課措置を必ず行うこと。
- ・公欠の場合は必ず届けを出すこと（部活動ではクラブ単位、就職などは個人で提出すること。）

○学校の諸規則について

- ・「学生指導の手引（取扱注意）」を参考に説明すること。
- ・学校の諸規則は学生便覧に掲載されている。

○年間日程について

- ・試験期間後に異議申立の機会があることを説明すること。
- ・再試験について

(出典 教職員配付資料)

## 資料7-1-①-2 「新入生オリエンテーション」

## 平成18年度新入生オリエンテーション日程表

平成18年4月10日(月)

時間	事 項	場 所
8:45	出席調査 (学級担任)	学級講義室
8:55	開講のことば (学生課長)	大講義室
	日程説明 (学生課長)	
9:00	勉学について (教務主事)	
9:10	学生生活について (学生主事)	
9:20	学生相談室の利用について (学生相談室長)	
9:30	< 休 憩 >	
9:35	施設見学 (各学級ごと)	図書館、情報処理センター、他
11:20	見学終了後、休憩 ※11:25までに見学を終えて学級講義室に入ること	学級講義室
11:30	学級講義室で学科主任・学級担任の話	

- 備 考
1. 出席調査は学級担任が行う。
  2. 大講義室で行う日程の出席者  
教務主事、学生主事、学生相談室長、学級担任、学生課長(進行)、  
専門員、教務係長  
※ 出席する教員に係る授業変更の手続きは、各自において  
所要の手続きを行うこと。
  3. 施設見学の案内は学級担任が行う。
  4. 学生には「学生便覧」、筆記用具を携帯させること。
  5. 施設見学は別紙5の2の日程により行う。

(出典 平成18年度新入生オリエンテーション実施要項)

## 資料7-1-①-3 「専攻科ガイダンス」

## 平成18年度専攻科学生（第1学年，第2学年）ガイダンスでの説明事項

## 1. 修了要件について

- (1) 専攻科に2年以上在学し，規定された教育課程に基づき62単位以上を修得すること。

必修科目		選択科目			備考
一般科目	専門専攻科目	一般科目	専門共通科目	専門専攻科目	
4単位	22単位	8単位以上	8単位以上	20単位以上	62単位以上

- (2) 平成18年度修了生からJABEEプログラムである「創造工学システムプログラム」の修了要件を充たしていること。

創造工学システムプログラムの修了要件は次のとおり

- 1) 学位（学士）を取得すること。
  - 2) 取得単位数が専攻科で62単位以上，本科4，5年の4年間とで124単位以上であること。
  - 3) 分野別要件を満たすための基礎工学に関する5つの科目群において，各群から少なくとも1科目，合計6科目についての知識と能力を有すること，分野別要件を満たすための専門工学に関する4つの知識と能力を有すること。
  - 4) TOEICスコアが400点相当の英語能力，あるいはこれと同等の英語能力を有すること。
2. 出席時数について
- (1) 履修科目を3/4以上出席しなければ試験を受ける資格なし。
- (2) 実験，演習等は3/4以上出席しなければ不合格。
3. 不正行為（カンニング）をした場合の成績について
- 試験中，不正行為（カンニング）を行った者は，当該試験全科目の成績が零点
4. 特別研究について
- 特別研究は，研究成果（特別研究論文）を提出し，研究成果の口頭発表を行わなければならない。
5. 学協会等における研究発表（口頭，ポスター）について
- 2年間のうちで，少なくとも1回以上は発表すること。

（出典 平成18年度専攻科ガイダンス配付資料）

資料7-1-①-4 「オフィスアワーの実施状況」

## 平成19年度前期オフィスアワー実施状況一覧

氏名	職名	実施曜日	実施時間
島田 昌彦	学校長	なし	なし
<b>機械工学系</b>			
佐々木 章	教授	火曜日	16:00～17:00
落合 雄二	教授	水曜日	16:00～17:00
茂木 良平	教授	木曜日	16:40～17:40
大上 哲朗	教授	火曜日	16:15～17:15
山崎 保輔	准教授	金曜日	12:15～12:45
		金曜日	16:45～17:15
安藤 正昭	准教授	水曜日	15:00～17:00
土田 一	准教授	月曜日	16:15～17:15
木澤 悟	准教授	水曜日	16:00～17:00
小林 義和	准教授	木曜日	16:00～17:00
岡本 正人	准教授	火曜日	16:00～17:00
今田 良徳	助教	火曜日	16:35～17:15
		木曜日	16:35～17:15
渡部 英昭	助教	木曜日	12:15～13:00
		木曜日	16:45～17:00
<b>電気情報工学系</b>			
柳原 昌輝	特任教授	水曜日	16:15～17:15
宮田 克正	教授	月曜日	16:00～17:00
浅野 清光	教授	月曜日	16:45～17:15
		木曜日	16:45～17:15
高橋 身佳	教授	月曜日	16:00～17:00
田畑 季章	准教授	金曜日	16:00～17:00
安東 至	准教授	月曜日	16:40～17:10
		金曜日	16:40～17:10
山崎 博之	准教授	月曜日	16:30～17:00
		木曜日	16:35～17:05
山本 昌志	准教授	月曜日	16:15～17:15
		金曜日	16:45～17:15
田中 将樹	講師	月曜日	16:45～17:15
		火曜日	16:45～17:15
伊藤 桂一	助教	水曜日	16:15～17:15
竹下 大樹	助教	水曜日	16:15～17:15

## 物質工学系

船山 齊	教授	月曜日	16:15~17:15
須川 浩	教授	月曜日	16:15~17:15
岡村 澄夫	教授	木曜日	16:15~17:15
豊嶋 幸子	准教授	水曜日	16:15~17:15
野坂 肇	准教授	火曜日 金曜日	16:45~17:15 16:45~17:15
石塚 眞治	准教授	水曜日	16:15~17:15
西野 智路	准教授	水曜日	16:15~17:15
上松 仁	准教授	金曜日	14:55~15:55
丸山 耕一	准教授	水曜日	16:00~17:00
佐藤 徹雄	助教	水曜日	15:30~16:30
野中 利瀬弘	助教	金曜日	16:15~17:15

## 環境都市工学系

羽田 守夫	教授	火曜日	16:40~17:40
折田 仁典	教授	月曜日	16:15~17:15
対馬 雅己	教授	金曜日	16:00~17:00
堀江 保	教授	木曜日	16:00~17:00
佐藤 悟	准教授	月曜日	16:15~17:15
桜田 良治	准教授	火曜日	16:35~17:35
水田 敏彦	准教授	月曜日	16:40~17:40
恒松 良純	准教授	火曜日	16:00~17:00
金 主鉉	准教授	金曜日	16:00~17:00
日野 智	助教	木曜日	16:00~17:00
角 哲	助教	月曜日	16:40~17:40

## 人文科学系

脇野 博	教授	水曜日	16:00~17:00
手島 邦夫	教授	水曜日	16:00~17:00
小林 貢	准教授	水曜日	16:00~17:00
金子 淳	准教授	水曜日	15:45~16:45
菅原 隆行	准教授	木曜日 金曜日	15:00~16:00 15:00~16:00
桑本 裕二	准教授	水曜日	16:00~17:00
長井 栄二	講師	月曜日	16:35~17:35
水野 麗	講師	木曜日	15:30~16:30
古河 美喜子	講師	水曜日	16:00~17:00

自然科学系			
成田 文雄	教授	金曜日	16:00～17:00
成田 章	教授	水曜日	16:00～17:00
麻生 正道	教授	水曜日	15:45～16:45
渡邊 朋雄	教授	水曜日	16:00～17:00
大島 静夫	教授	月曜日	16:40～17:10
		金曜日	16:40～17:10
上田 学	准教授	火曜日	16:45～17:15
		木曜日	16:45～17:15
佐藤 尊文	准教授	火曜日	16:45～17:45
白根 弘也	准教授	なし	なし
森本 真理	准教授	火曜日	16:45～17:15
		水曜日	16:45～17:15
吉井 洋二	准教授	火曜日	16:00～17:00
佐藤 彰彦	講師	水曜日	16:15～17:15
上林 一彦	講師	水曜日	16:15～17:15

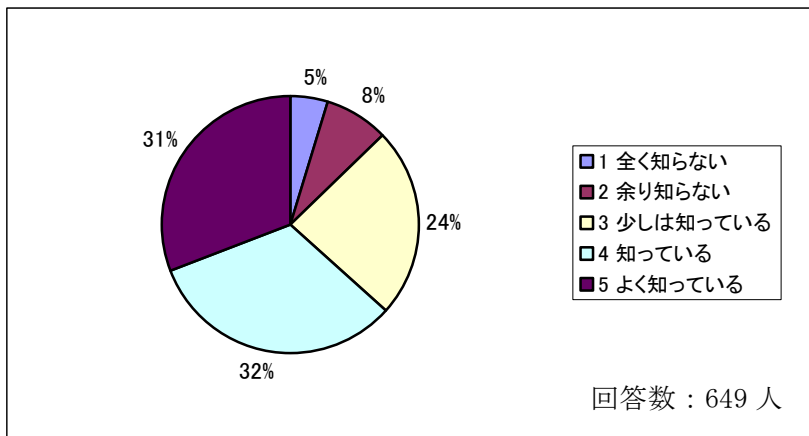
(出典 学生課教務係資料)



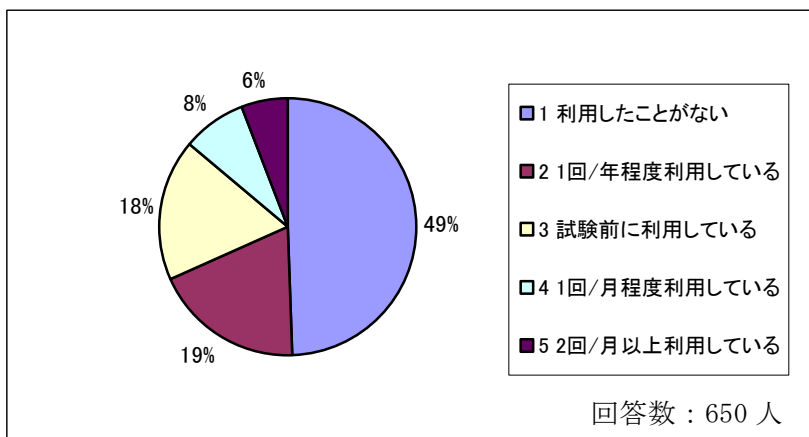
資料7-1-①-5 「オフィスアワーのアンケート結果」

<準学士課程の1～4年生>

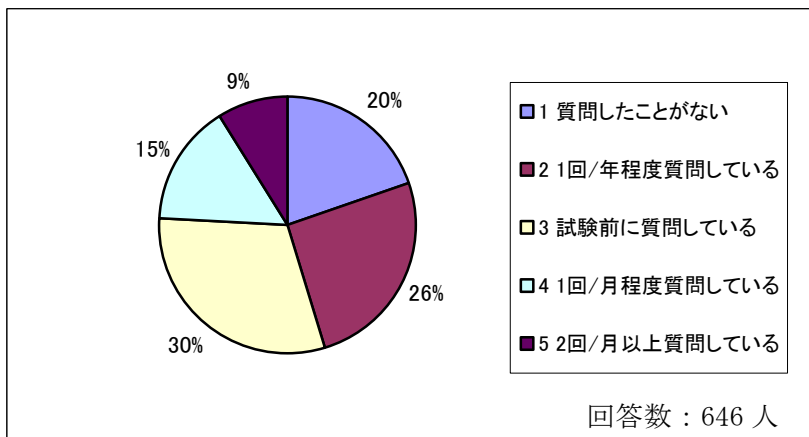
Q3 オフィスアワーの制度を知っていますか？



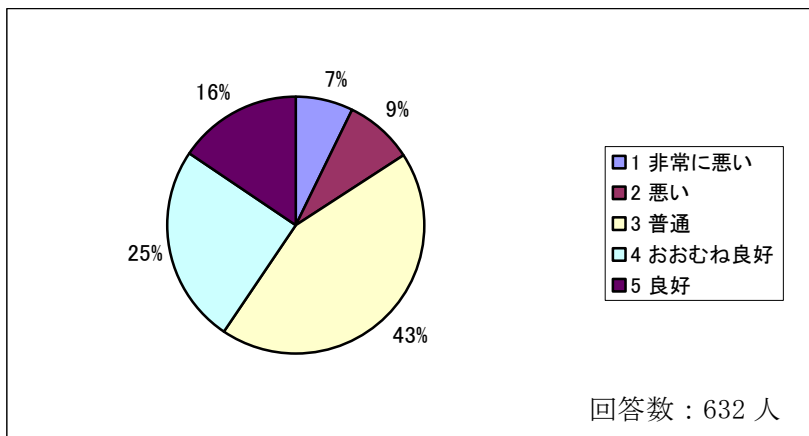
Q4 オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？



Q5 オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？

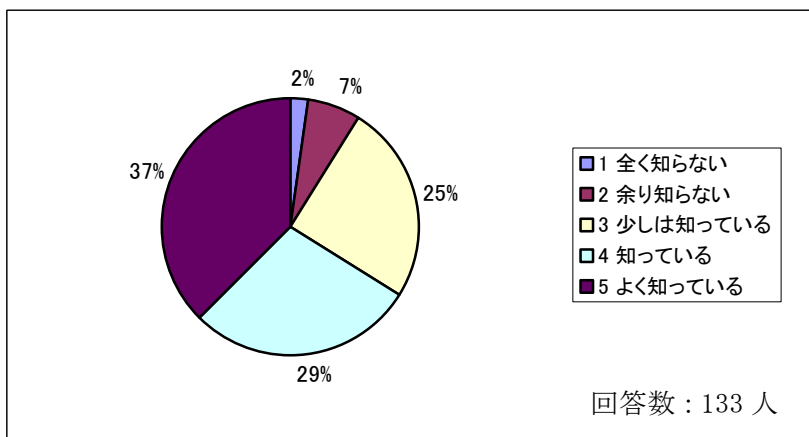


Q6 授業時間外で教員に質問したときの、教員の対応はどうでしたか？

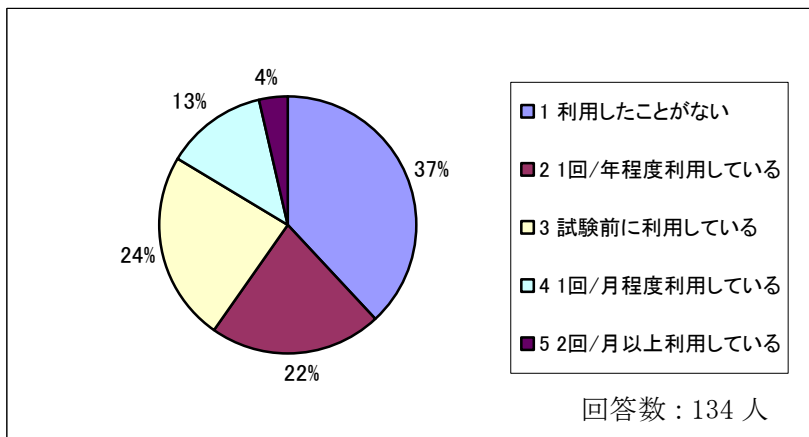


< 準学士課程卒業予定者 >

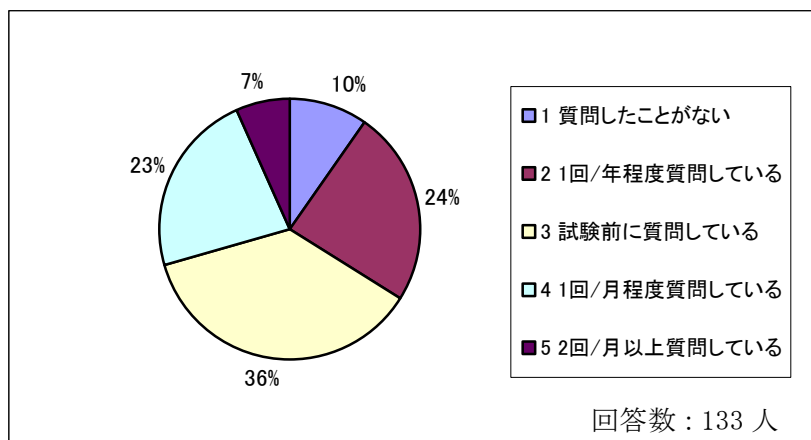
Q3 オフィスアワーの制度を知っていますか？



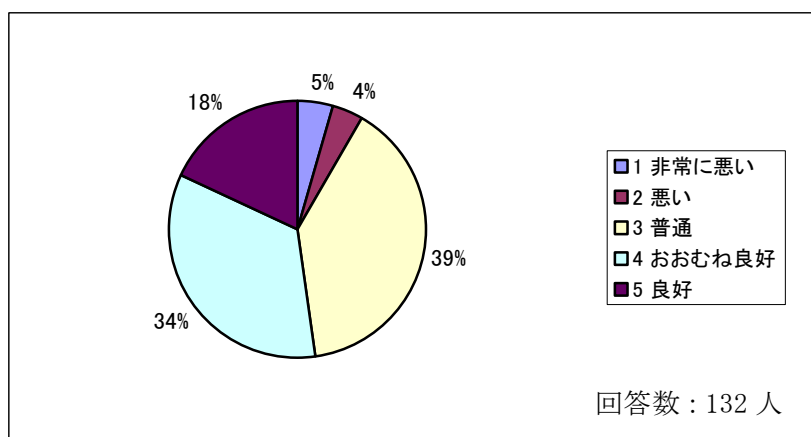
Q4 オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？



Q5 オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？

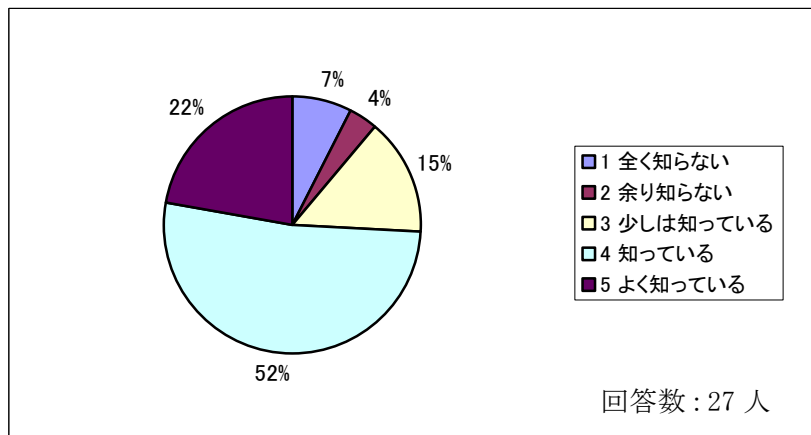


Q6 授業時間外で教員に質問したときの、教員の対応はどうでしたか？

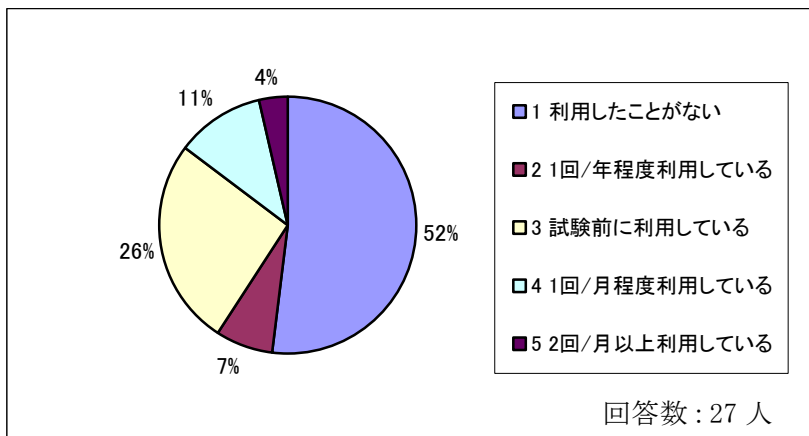


<専攻科課程>

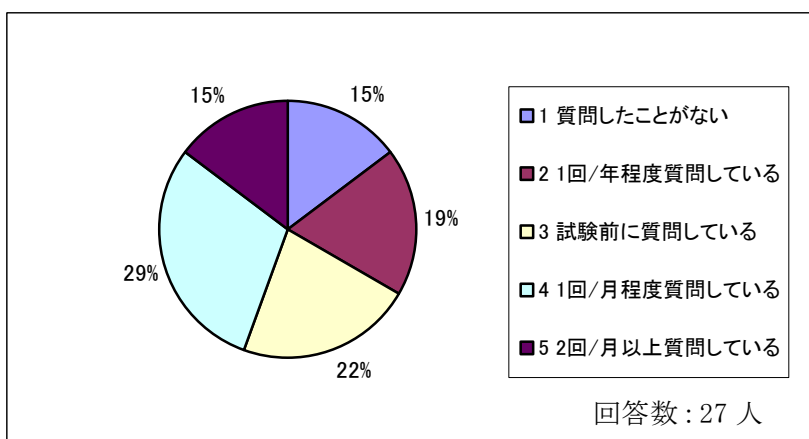
Q3 オフィスアワーの制度を知っていますか？（専攻科課程）



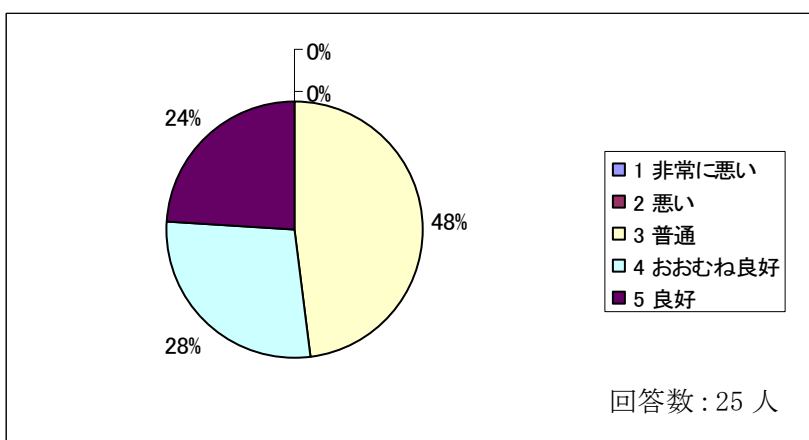
Q4 オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？



Q5 オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？



Q6 授業時間外で教員に質問したときの、教員の対応はどうでしたか？



(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果－平成18年度版－ p.16～17・21～22・28～29)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程においては、学習を進めるために、担任から単位認定、成績評価、進級・卒業要件や本校の目的、自学自習などの学習支援などが説明されている。また、第1学年では「新入生オリエンテーション」、専攻科課程では、第1学年全体と第2学年全体でそれぞれガイダンスが行われており、学習を進めるための解説を行っている。

全教員がオフィスアワーを週1回、各1時間以上ずつ設定し、学生の学習の相談を受け、助言を行っている。アンケートの結果から、オフィスアワー以外の時間帯も含めると80～90%の学生が質問に行っており、教員の対応もおおむね良好であるといえる。

このように、学習を進めるためのガイダンスおよび、学生の学習相談・助言の体制が整備され、機能しているといえる。

観点 7-1-②： 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。）及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

各クラスの教室以外の自主的学習環境としては、図書館および情報処理センターが主に利用されている。図書館の学習スペースとしては、閲覧席のほか、ブースで仕切られた個人閲覧室、学習用パソコン 12 台が整備されており、長期休業中を除いて平日は 20 時までの夜間と土曜日にも開放されている。平成 18 年度の入館者数は月平均約 5,000 名、うち夜間開館時間帯で月平均約 870 名、土曜日にも月平均約 130 名が利用している（資料 7-1-②-1～2）。

また、情報処理センターは、情報教育ルームとマルチメディアルームにパソコンがそれぞれ 50 台、22 台整備されており、講義等の使用時間を除く時間帯において、自主学習に活用されている。平成 18 年度の利用者数は、情報教育ルームは月平均約 1,130 名、マルチメディアルームは約 610 名である（資料 7-1-②-3～4）。平成 18 年 8 月から、情報処理センターも夜間開放をしており、学生の自主的学習を支援している。

さらに、電気情報工学科および専攻科生産システム工学専攻の学生は、パソコン 52 台を備えた電気情報工学科棟内のコンピュータールームを利用出来るようにしている。

厚生施設としては資料 7-1-②-5 に示すように、食堂と売店、保健室、学生相談室を備えた厚生会館が整備されており、学生の福利厚生に大きく寄与している。また、コミュニケーションスペースとしては厚生会館のほか、図書館 1 階のロビーおよび管理棟 3 階にあるスカイラウンジが学生の集う場所になっており、部活動および学生会活動のミーティング場所としても利用されている。スカイラウンジは飲料の自動販売機を備えており、学生同士の談話や自習の場として広く利用されている。

#### 資料 7-1-②-1 「図書館利用心得」

図書館は学生にとって教養と学習の場である。学生諸君は大いに活用し充実した学生生活を送るようにしてもらいたい。以下の利用に際しての基本的な説明をよく読んで有効に利用して欲しい。

##### 1. 開館の時間

平日 8 時 40 分から 20 時まで（長期休業期間は 8 時 40 分から 17 時まで）  
土曜日 10 時から 16 時まで（長期休業期間は閉室）

##### 2. 閉館日

日曜日、祝祭日、年末年始、学生の長期休業期間中の土曜日。  
学校行事等で臨時に閉室するときは掲示、放送等で連絡する。

##### 3. 閲覧

閲覧室には現在、図書 60,000 冊、雑誌 20 種が配架されている。閲覧席は一般席 80 席、個人閲覧席 7 席、雑誌コーナーとして 8 席が配置されており、どの席でも利用できる。図書、雑誌は自由に書架から取り出して閲覧することができるが、閲覧を終えた図書は書架の前に配置されている返本台に返すこと。

図書館は多数の人が共同で利用する所であるから、他の利用者に迷惑をかけるような行為はしないこと。飲食・携帯電話の通話は禁止されている。

##### 4. 館外貸出

図書は 5 冊以内、2 週間の期限で館外に貸出を受けることができる。ただし、期限日までに返却していない図書があるときは新たな貸出を受けることはできない。

貸出を受けるときは、自分の利用者カードと図書をカウンターに提出し、貸出処理を受けること。利用者カードは入学時に交付され卒業まで有効である。なお、辞書、事典、ハンドブック等で貸出が不適当な図書（禁帯出ラベルが貼られている）は館内でのみ利用すること。

#### 5. 図書の所蔵検索

本校の図書は開架書架に配架されているほかに書庫、電動書架及び教員研究室にも備えられている。どのような図書が所蔵しているかは次の方法で調べることができる。

##### (1) 現物を見る方法

開架図書、電動書架、書庫の図書は現物を直接見ることができる。これらの図書は本の背ラベルに記入されている番号順に配架されている。

この番号は日本十進分類法（NDC）という分類方法により分類番号を付けたもので図書の内容（主題）及び配架位置を表すものである。

##### (2) 蔵書検索端末機による検索

検索は書名（書名中の一部の単語のみでも可）、著書名（姓のみでも可）から、あるいはその組み合わせで検索できる。また、NDCの番号からも検索できる。なお、学内LANに接続されているパソコンからも検索できる。（<http://akita-nct.jp/libra/>）

現在、検索できる図書はコンピュータに図書データの入力されている36,000冊であるが、日々データ入力が行われているので検索できる図書が増えていく。

##### (3) 目録カードによる検索

平成10年度以前に受入した図書は目録カードが備えられている。上記(1)、(2)の方法で見つからなかったときは、カードで検索を試みる。

書名、著書名、分類別のカード目録が備えられている。

#### 6. 電動書架及び書庫

電動書架及び書庫には研究用図書、学術雑誌および利用度の低くなった図書を収蔵している。

#### 7. 視聴覚資料

視聴覚資料としてCD、ビデオテープ、DVDがあり所蔵目録を閲覧室に備えている。CDは2点以内、1週間の期限で館外貸出を受けることができる。ビデオテープ、DVDは個人用AV設備での利用に限られている。CDの貸出を希望するときは、カウンターで利用者カードにより貸出処理を受けること。

##### ○個人用AV設備

《設備》

視聴覚ブース 3台

《利用申込み方法》

カウンターでヘッドホン利用資料の貸出を受ける。

《利用時間》

開館時間中

##### ○CD-ROM・DVD-ROM検索

平凡社世界大百科事典、日本大百科全書等が利用可能である。

《設備》

検索用パソコン 1台

《利用申込み方法》

「CD-ROM利用簿」に所定の事項を記入のうえ利用する。

《利用時間》

開館時間中

#### 8. パソコンの利用

12台設置されており、開館中はいつでも使用できるが使用に際しては備え付けの利用の手引き及び掲示の注意事項をよく読んで正しく使用のこと。使用方法は情報処理センターのパソコンと同様である。

#### 9. 備付希望図書

図書館に備え付けて欲しい図書等があれば、「備付希望図書申込票」に記入のうえ申込みすることができる。

#### 10. 図書館利用の質問等について

図書館の利用について、あるいは資料について聞きたいことがあれば、遠慮なく係員に質問すること。

（出典 平成19年度学生便覧 p.53～p.55）

## 資料7-1-②-2 「平成18年度開館日及び入館者数」

## 平成18年度開館日数及び入館者数

	開館日数			入館者数			1日平均	夜間平均	土曜平均
	総数	夜間	土曜	総数	夜間	土曜日			
4月	23	16	3	4,603	580	129	200.1	36.3	43.0
5月	23	20	3	5,640	951	204	245.2	47.6	68.0
6月	26	21	4	6,272	1,040	207	241.2	49.5	51.8
7月	22	12	2	4,639	677	70	210.9	56.4	35.0
8月	17	4	0	2,732	245	0	160.7	61.3	0.0
9月	24	20	4	6,065	1,065	120	252.7	53.3	30.0
10月	24	21	3	4,843	1,046	84	201.8	49.8	28.0
11月	25	20	5	6,244	1,265	260	249.8	63.3	52.0
12月	22	15	3	5,251	882	114	238.7	58.8	38.0
1月	18	16	3	4,973	1,173	90	276.3	73.3	30.0
2月	19	17	3	5,686	1,333	260	299.3	78.4	86.7
3月	22	4	1	2,872	124	97	130.5	31.0	97.0
合計	265	186	34	59,820	10,381	1,635	225.7	55.8	48.1

※うち、学外者入館者数:85

(出典 平成19年度第1回図書館運営委員会資料)

## 資料7-1-②-3 「情報処理センター利用心得」

情報処理センター（以下「センター」という。）は、学生に対する情報処理教育、教職員の学術研究等のために設けられた共同利用の施設なので、この心得や利用の手引きをよく読んで皆で大切に利用しよう。

## 1. 利用時間

学 期	曜 日	利 用 時 間
通 年	月曜日～金曜日	8時30分～19時00分

土・日曜日および祝祭日は休館。また、授業等で使用しているときは学生の個人利用はできない。なお、学校行事等により、休館および利用時間を変更するときは、掲示等で連絡する。

## 2. センターへの入室

玄関でセンター備え付けのスリッパに履きかえ、下足は下足箱に必ず入れること。

## 3. 学生の利用できる機器

情報教育ルームおよびマルチメディアルームに設置されているものに限る。

## 4. ユーザ名とパスワードについて

センター、図書館、学生寮に設置されているパソコンを利用するには、ユーザ名とパスワードが必要となる。ユーザ名とパスワードの発行条件は、第1学年の情報処理関連科目の最初に情報モラルに関する講義を受ける必要がある。利用したい学生は係員に申し出て、ユーザ名とパスワード（電子メールアドレスも含む）の発行を受けること。なお、これらは卒業まで有効である。

## 5. 資料について

- 1) センターの各室に備え付けてあるマニュアルや利用の手引きは、室外に持ち出さないこと。
- 2) 必要に応じて、マニュアルの貸出を受けることができるので、係員に申し出て貸出処理を受けて、指定された期限日まで必ず返却すること。



6. 印刷出力について

- 1) 印刷出力を行う際には、ディスプレイ上で十分に確認・検討し、用紙を無駄使いしないように心がけること。
- 2) 不要になった印刷用紙は再利用するので、備え付けのバスケットに折らないで捨てること。

7. インターネット接続サービスについて

個人のノートパソコンを学校に持ってきて、下記場所からインターネットに接続することができる。利用希望者は登録が必要なので、情報処理センター係員に申し出ること。

- 1) 科学技術教育棟2F～4F（1～3年生教室）
- 2) 講義室棟1F～3F教室（4～5年生教室）
- 3) 各学科棟（機械・電気情報・物質・環境都市）のオープンスペース
- 4) 学生寮パソコン室

8. ネットワーク利用について

- 1) 本校のコンピュータネットワークは、教育、学術研究及び学校業務における利用を目的としており、以下の行為を禁止する。
  - ①クラッキング行為（他人のパスワードを利用する一切の行為、コンピュータウイルスを配付する行為など）
  - ②通信を妨害する行為（チェーンメールの発信、および不要なトラフィックを意図的に流す行為など）
  - ③人権侵害に属する行為（個人を誹謗・中傷するような内容の記事を発信する行為など）
  - ④営利妨害（ネットワークを通じて、営利目的の情報を発信する行為など）
  - ⑤迷惑行為（他人に不快感を与えるウェブサイトの閲覧行為など）
- 2) 上記行為を行った場合は、学生処分の対象とする。

9. その他の注意事項

- 1) センターは、情報処理教育の共同利用施設なので、ゲームは固く禁ずる。
- 2) センター内では静粛にするとともに整理、整頓に気を配ること。
- 3) 飲食等は固く禁ずる。
- 4) センター内の諸掲示には目を通しておくこと。
- 5) 使用中トラブル生じたら、そのままの状態ですぐに係員に申し出て指示を受けること。
- 6) 利用の手引きをよく読み、内容を十分理解してから利用すること。

(出典 平成19年度学生便覧 p.59～p.60)

資料7-1-②-4 「情報処理センター各室利用者数」

情報処理センター各室利用者数

マルチメディアルーム（旧パソコン室）


月	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
4月	290	196	6	535	883	946	1,375	329	461	248				399	645	
5月	393	334	523	820	1,368	1,191	1,756	647	416	175				458	570	538
6月	544	391	551	1,039	1,468	1,463	1,841	750	313	197				608	707	572
7月	264	478	408	773	1,077	958	1,100	426	297	234				391	616	477
8月	20	160	177	396	976	788	978	399	180	180				250	308	390
9月	496	481	376	835	1,480	1,449	1,175	558	288	229				607	864	798
10月	303	520	503	1,266	2,120	1,859	1,772	609	302	334				545	608	789
11月	468	296	742	3,530	1,512	1,361	1,657	447	261	228				526	709	681
12月	138	396	354	691	1,015	1,117	1,195	392	175	113				615	559	476
1月	390	255	907	692	908	1,062	1,003	354	254	178				591	736	593
2月	472	303	1,140	1,674	1,804	1,800	1,633	390	359	235				705	853	791
3月	116		959	992	807	1,061		318	114	0				556	513	560
計	8,894	8,810	6,646	13,243	15,418	15,066	16,486	6,619	3,420	2,361	0	5,852	7,442	7,310		

情報教育ルーム（旧教育用端末室）

月	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
4月	219	294	10	333	441	567	502	158	1,091	948	1,047	927	636	1,200		
5月	364	575	462	598	941	792	844	1,272	1,564	1,321	1,350	760	1,021	1,336		
6月	473	378	502	614	816	876	754	1,313	1,573	1,197	1,224	944	1,070	1,418		
7月	508	310	481	490	655	542	641	1,114	1,185	1,119	1,060	567	888	1,136		
8月	130	151	131	210	469	254	466	1,022	613	520	646	368	429	519		
9月	533	396	765	557	1,135	933	673	1,264	1,519	995	1,129	555	1,134	1,212		
10月	425	793	602	504	950	829	758	1,713	2,079	1,783	1,608	905	814	1,473		
11月	623	581	1,092	462	874	680	621	1,503	1,471	1,356	1,257	1,026	1,048	1,488		
12月	489	674	520	422	588	699	611	1,448	1,115	1,002	910	846	704	857		
1月	967	393	834	376	408	536	400	1,182	1,208	1,179	968	978	855	1,145		
2月	750	525	1,075	959	917	1,065	700	1,675	1,782	1,471	1,461	1,010	1,158	1,427		
3月	125		218	176	165	167		660	606	338	364		238	295		
計	5,606	5,070	6,692	5,701	8,359	7,930	6,970	14,324	15,806	13,229	13,024	8,886	9,995	13,506		

(出典 秋田高専グループウェア (情報処理センター掲示板))

## 資料 7-1-②-5 「厚生会館の施設概要」



## STUDENTS' HALL

厚生会館は、学生の課外活動や日常生活に利便を提供し、学生及び職員の福利厚生維持、増進を図るために設置されたものである。1階には学生、職員用の食堂、売店、談話コーナー、2階には保健室、30畳の和室、相談室などがあり、健康相談、クラブ活動、合宿研修などに活用されている。

The Students' Hall was built as a welfare facility in order to give convenience to students and staff in extracurricular activities as well as in daily life, and promote a welfare program. The two-storied building has a cafeteria, a store and a lounge on the first floor. On the second floor, there are a nurse's room, a 30-tatami-mat room and a counseling room. These facilities are often used for health check, club activities, study camps and so on.

**● 施設 Facilities**

名 称 Name		面 積 Area	名 称 Name		面 積 Area
1階 First Floor	食 堂 Cafeteria	180㎡	2階 Second Floor	保 健 室 Nurse's Room	57㎡
	厨 房 Kitchen	60		カ ウ ン セ リ ン グ 室 Counseling Room	29
	売 店 Store	45		課 外 活 動 共 用 室 Room for Extracurricular Activities	37
	談 話 コ ー ナ ー Lounge	60		和 室 Japanese-Style Room	58
	ホ ー ル Hall	66		廊 下 ・ そ の 他 Corridor and Others	47
	廊 下 ・ そ の 他 Corridor and Others	41		延 面 積 Total Area	

(出典 平成 19 年度学校要覧 p. 35)

## (分析結果とその根拠理由)

学生の自主的学習を支援するために、図書館および情報処理センターが整備されており、図書館は夜間および土曜日にも開放することにより学習場所を提供し、情報処理センターも学生が自主的にパソコンを使える環境を提供していることから、多くの学生に利用されている。福利厚生施設としては、厚生会館を中心に役割を果たしており、学生同士のコミュニケーションをとるうえで不可欠な存在になっている。

以上のことから、キャンパス生活、環境等は整備され、効果的に利用されているといえる。

観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

本校ホームページに「校長への提案箱」を設け、学生のニーズの把握に努めている（資料7-1-③-1）。また、学校の制度に関するアンケートの自由記述欄に学習支援等に関する項目を設けて、ニーズの把握に努めている（資料7-1-③-2）。

資料7-1-③-1 「校長への提案箱」

秋田工業高等専門学校  
Akita National College of Technology

在校生の皆さんへ

前のページへ戻る TOPページへ戻る

| 掲載日 2006/11/16 | 掲載内容有効期限 ----/--/-- | 担当者 教務主事 |

トップページ >> 在校生のみなさんへ >>

**校長への提案箱(校内限定)**

**あなたの声を学校にお寄せ下さい！**

「校長への提案箱」は、本校の学生の皆さんからのご意見やご要望を学校教育や学生支援に生かすための制度です。

日頃考えていることや、アイデアなどありましたらお寄せ下さい。

いただいた提案と、それに対する学校の回答を、氏名、メールアドレスなど個人情報を伏せた上で、ホームページで公開させていただく場合がありますのでご了承ください。

**[意見・要望]**  
**[質問に対する回答箱]**

| 行事予定の変更 | 休業期間の告知 | 緊急連絡 | 本科のシラバス | 専攻科のシラバス |  
| 学生相談室 | セクハラへの取り組み | 拾得物のお知らせ(校内限定) | **校長への提案箱(校内限定)** |

前のページへ戻る TOPページへ戻る

(出典 秋田工業高等専門学校ホームページ)

## 資料7-1-③-2 「アンケートの自由記述欄」

## A 学校の授業の諸制度に関するアンケート（準学士課程 1～4年生）

学校には、授業やテストを受け、そして進級するための種々の制度があります。このアンケートは、その制度の理解度を調べることを目的としています。この結果は、制度の改善に役立てる基本的なデータになります。

注1：隣の文字枠やマーク枠にはみ出さないように記入してください。  
枠の中に大きく記入してください。  
HBの鉛筆・シャープペンシルで記入してください。

良い例 <input checked="" type="checkbox"/>	悪い例 <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>
--	--

## 基本項目

Q0-1 学年 1年  2年  3年  4年

Q0-2 学科 M  E  C  B

設問	回答				
	5	4	3	2	1
Q1 成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q2 進級規程の説明を受け、理解していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q3 オフィスアワーの制度を知っていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q4 オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q5 オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q6 授業時間外で教員に質問したときの、教員の対応はどうでしたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q7 授業の進み具合や試験範囲などをシラバスを見て確認していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q8 成績評価の方法についてシラバスにより確認していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q9 (4年生のみ) 選択科目の選定において、シラバスを参考にしましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q10 (4年生のみ) 学修単位科目の学習時間の説明が行われ、理解しましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q11 本校の学習システムについて、要望があれば記入してください（自由記述）					

(出典 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果—平成18年度版— p.15)

(分析結果とその根拠理由)

ホームページに校長への提案箱を設けるとともに、アンケートの自由記述欄に学習支援等に関する項目を設けて、ニーズを汲み上げている。

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

資格試験や検定試験に対しては，単位認定する制度が整備されており，近年この単位認定者が増加している(資料7-1-④-1～2)。

また，資格試験や検定試験受験者には，後援会から受験費用に対して補助が実施されている(7-1-④-3)。図書館には資格試験コーナーが設けられるなど，支援体制も整っている。

平成18年度の資格試験の受験料補助の実績は，資料7-1-④-4のとおりである。

#### 資料7-1-④-1 「校外学修の単位認定について」

◎校外学修の単位認定について

TOEICの合格点500点以上修得者，実用英語検定と工業英語検定の合格者については，申請により，次のとおり単位の認定を行う。(ただし，本校在学中に修得した場合に限る。)

名称	級区分	認定単位数	名称	級区分	認定単位数	名称	級区分	認定単位数
TOEIC	500点以上	2単位	実用英語 技能検定	2級	2単位	工業英語 能力検定	3級	1単位
	650点以上	4		準1級	4		2	4
				1級	6		1	6

申請時期は4学年末とするが，5学年の場合は修得次第とする。

(出典 平成19年度学生便覧 p.22)

#### 資料7-1-④-2 「外国語技能審査の合格による単位修得認定状況の一覧」

##### 外国語技能審査の合格による単位修得認定状況の一覧

年度	申請者数	単位認定科目数計	単位認定単位数計
H17	9	9	18
H18	8	18	27
H19	10	10	29

※H19は平成19年4月現在の状況

(出典 学生課教務係資料)

資料7-1-④-3 「資格試験受験料補助について」

教員会議資料	6
18年2月8日	

## 資格試験受験料補助について

	受験料	補助する金額
1. 初級システムアドミニストレータ試験	5,100円	2,000円
2. 基本情報技術者試験	5,100円	2,000円
3. ソフトウェア開発技術者試験	5,100円	2,000円
4. 機械設計技術者試験	8,000円	2,000円
5. 第2種電気工事士試験	5,200円	2,000円
6. 危険物取扱者資格試験	甲種：5,000円	2,000円
	乙種：3,400円	1,000円
	丙種：2,700円	1,000円
7. 土木・管工事・造園施工技術者試験	4,100円	2,000円

上記試験は、本科2年～専攻科2年の学生を対象とし受験料を補助する。  
 受験料補助は1人に対し、年1回とする。

(出典 平成17年第10回教員会議資料)

資料7-1-④-4 「資格試験受験料補助の状況」

## 平成18年度資格受験者数

TOEIC	225人
漢字検定	175人
基本情報技術者試験	9人
初級システムアドミニストレータ試験	12人
	<u>計421人</u>

(出典 学生課学生支援係資料)

(分析結果とその根拠理由)

資格試験や検定試験を単位化する制度が整備され、受験者に対して財政的な補助も実施し、社会情勢の変化に応じて見直しも行っている。資格試験コーナーの設置等、受験しやすい状況をつくっている。

観点7-1-⑤： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

外国人留学生の学習支援・生活支援等のためにチューター制度を設け、寮生をもって充てることで、寮生活も円滑に過ごせるよう配慮している（資料7-1-⑤-1～2）。また、「外国人留学生委員会」を設置し、外国人留学生をサポートしている（資料7-1-⑤-3）。留学生の補充教育として、「日本語教育」および各学科専門基礎の科目を行っている（資料7-1-⑤-4）。

第4学年への編入生には、編入学前に説明会を行い、英語、数学、専門科目について学習指導を行っている（資料7-1-⑤-5）。また、入学後は数学について補充教育を行っている（資料7-1-②-6）。

資料7-1-⑤-1 「平成19年度 外国人留学生チューター名簿」

平成19年度チューター名簿			
平成19年4月現在			
チューター学生氏名	留 学 生		
	学科・学年・氏名	国 籍	留学生種別
機械工学科4年 高橋 雅 志	機械工学科4年 モハマト フィルグウス ビン ロスリ	マレーシア	政府派遣
電気情報工学科4年 佐々木 世 界	電気情報工学科4年 インティサン チョン エン	ラオス	国 費
電気情報工学科4年 鈴木 幸 二	電気情報工学科4年 ナィム ビン オスマン	マレーシア	政府派遣
環境都市工学科4年 佐藤 壮	環境工学科4年 リフ チャン ホトラー	カンボジア	国 費
機械工学科3年 幸坂 将 大	機械工学科3年 モハマト エクワン ビン アフトゥル ラヒム	マレーシア	政府派遣
物質工学科3年 阿部 翔 平	物質工学科3年 ハティナサラティ フランク ケラルト ヨシア	インドネシア	国 費
環境都市工学科3年 松井 和 輝	環境都市工学科3年 イット ウィサル	ベトナム	国 費

（出典 学生課教務係資料）

資料7-1-⑤-2 「チューター制度について」

（留学生相談員）

第7条 留学生の学習及び生活上の助言を行うため、留学生相談員（以下「相談員」という。）を置くものとする。

2 相談員は、本校の学生の中から、当該学科主任及び指導教員その他必要と思われる教員と協議の上選出し、校長が委嘱する。

3 相談員は、留学生に関し、必要に応じ指導教員に連絡し、その指導を受けるものとする。

（出典 秋田工業高等専門学校規則集）

資料 7 - 1 - ⑤ - 3 「秋田工業高等専門学校外国人留学生委員会規則」

(平成 2 年 10 月 16 日 規程 第 7 号)

(設置)

第 1 条 秋田工業高等専門学校外国人留学生規則第 5 条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校における外国人留学生（以下「留学生」という。）に関する事項を審するため、外国人留学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 留学生の受入れに関する事
- 二 留学生の教育指導に関する事
- 三 留学生の厚生補導に関する事
- 四 その他留学生に関する基本的事項に関する事

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教務主事、学生主事及び寮務主事
- 二 教務主事補、学生主事補及び寮務主事補のうちから校長の任命する者各 1 名
- 三 留学生在籍学科の留学生指導教員各 1 名
- 四 学生課長

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員会は、必要に応じ委員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

附 則

この規程は、平成 2 年 10 月 16 日から施行する。

附 則

この規程は、昭和 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、昭和 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)



資料7-1-⑤-4 「留学生の日本語学習および専門基礎のために開設されている科目(平成18年度)」

・日本語学習

3年生全学科の留学生(「日本語教育」6単位)

前期:火曜日3~4時限目,水曜日5~6時限目,木曜日5~6時限目

後期:火曜日3~4時限目,水曜日5~6時限目,木曜日5~6時限目

・専門基礎

3年生機械工学科の留学生(「機械基礎」4単位)

前期:月曜日5~8時限目

後期:月曜日3~4時限目,火曜日5~6時限目

3年生電気情報工学科の留学生(「電気基礎」4単位)

前期:月曜日1~2時限目,火曜日5~6時限目

後期:月曜日1~2時限目,火曜日5~6時限目

3年生環境都市工学科の留学生(「建設基礎」4単位)

前期:木曜日1~2時限目,金曜日3~4時限目

後期:月曜日3~4時限目,金曜日5~6時限目

(出典 平成18年度授業時間割(前期・後期))

資料7-1-⑤-5 「平成19年度編入学生選抜試験合格者に対する「入学説明会」の開催について」

平成18年9月4日

電気情報工学科主任 殿

校 長

平成19年度編入学生選抜試験合格者に対する「入学説明会」の  
開催について（通知）

下記のとおり開催しますので、出席方よろしく申し上げます。  
なお、配付資料等がありましたら、9月20日（水）までに学生課専門員あてお届け  
願います。

記

1. 日 時 平成18年9月25日（月） 14:00～

2. 場 所 テクノコミュニティ

3. 次 第

(1) あいさつ 成田 文雄 教務主事

(2) 学習指導について

・英語について 人文科学系 小林 貢 助教授

・数学について 自然科学系 佐藤 尊文 助教授

・専門について 機械工学科主任 佐々木 章 教 授

電気情報工学科主任 宮田 克正 教 授

環境都市工学科主任 折田 仁典 教 授

(3) 質疑応答ほか

4. その他

説明会終了後、合格者（別紙名簿のとおり）と当該学科主任との面談を当該  
学科主任の研究室等で行ってください。

（出典 学生課教務係資料）

## 資料7-1-⑤-6 「4学年編入生への補充授業の実施状況」

## 編入生に対する補充授業一覧

## 平成18年度

対象学生	学科	講義名	前期	後期
4年編入生	機械工学科	数学補習	金曜7,8時限	
	電気情報工学科		金曜7,8時限	
	環境都市工学科		金曜7,8時限	

## 平成19年度

対象学生	学科	講義名	前期	後期
4年編入生	機械工学科	数学補習	金曜7,8時限	
	電気情報工学科		金曜7,8時限	

(出典 平成18, 19年度授業時間割(前期)から抜粋)

## (分析結果とその根拠理由)

外国人留学生の学習支援・生活支援等のためにチューター制度を設け、補充教育として、「日本語教育」および各学科専門基礎の科目を行っている。

第4学年への編入生には、編入学前に説明会を行い、英語、数学、専門科目について学習指導を行っている。また、入学後は数学について補充教育を行っている。

以上のことから、特別な学習支援が必要な者に対する学習支援体制が整備され、機能しているといえる。

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

運動部は顧問2人体制(一部クラブは3人)、文化部、同好会は顧問1人体制(一部クラブは2人)でクラブ活動の指導に当たっている(資料7-1-⑥-1~2)。学生会の活動は、学生主事補がその指導に当たり、ロボコン、プロコン、デザコンは専門学科の教員および技術職員が指導に当たっている。外部コーチを依頼し、専門的に指導にあたるクラブには、後援会が財政的支援を行っている(資料7-1-⑥-3)。また、クラブ活動の円滑な実施と連携のために、クラブ指導教員会議を行っている。

部室等も整備されているほか、厚生会館2階に合宿所が整備されており、長期休業中のクラブ活動で利用されている(資料7-1-⑥-4)。

後援会は、地区高専大会や全国大会の参加費用を一部負担しており、クラブ活動を財政的に支援している。

資料 7-1-⑥-1 「平成 19 年度クラブ指導教員一覧」

## 平成19年度クラブ指導教員一覧 (五十音順)

ク ラ ブ 名		指 導 教 官 名	
体 育 系	陸 上 競 技 部	成 田 章	渡 邊 朋 雄
	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部	安 東 至	金 主 鉉
	バ レ ー ボ ー ル 部 ( 男 )	佐 藤 悟	西 野 智 路
	〃 ( 女 )	岡 本 正 人	竹 下 大 樹
	ソ フ ト テ ニ ス 部	上 松 仁	長 井 栄 二
	卓 球 部	浅 野 清 光	茂 木 良 平
	柔 道 部	金 子 淳	渡 部 英 昭
	剣 道 部	対 馬 雅 己	水 野 麗
	サ ッ カ ー 部	石 塚 眞 治	丸 山 耕 一
	硬 式 野 球 部	田 中 将 樹	吉 井 洋 二 脇 野 博
	水 泳 部	小 林 貢	佐 藤 徹 雄
	ラ グ ビ ー 部	土 田 一	野 坂 肇 野 中 利 瀬 弘
	山 岳 部	小 林 義 和	高 橋 身 佳
	テ ニ ス 部	手 島 邦 夫	古 河 美 喜 子
	ハ ン ド ボ ー ル 部	上 田 学	角 哲
	合 気 道 部	安 藤 正 昭	桑 本 裕 二
	少 林 寺 拳 法 部	折 田 仁 典	桜 田 良 治
	バ ド ミ ン ト ン 部	麻 生 正 道	田 畑 季 章
	ビ リ ヤ ー ド 同 好 会	水 野 麗	
	文 化 系	エ コ レ ー ス 部	木 澤 悟
囲 碁 将 棋 部		大 島 静 夫	
電 気 部		宮 田 克 正	
写 真 部		伊 藤 桂 一	
吹 奏 楽 部		菅 原 隆 行	森 本 真 理
茶 道 部		豊 嶋 幸 子	
生 活 文 化 テ ー サ ー 同 好 会		大 上 哲 郎	
外 国 語 同 好 会		古 河 美 喜 子	
現 代 視 覚 文 化 研 究 同 好 会		高 橋 身 佳	
萬 画 研 究 同 好 会		長 井 栄 二	
ロ ボ ッ ト コ ン テ ス ト	文 芸 同 好 会	手 島 邦 夫	
	ロ ボ ッ ト コ ン テ ス ト	小 林 義 和	山 崎 博 之 西 野 智 路 角 哲
	プ ロ グ ラ ミ ン グ コ ン テ ス ト	山 本 昌 志	
テ ー サ ー 同 好 会	恒 松 良 純	日 野 智	

(出典 役職教員・各種委員会委員等名簿 平成 19 年度)

資料7-1-⑥-2 「部活動報告書」

## 部活動指導実施報告書(5月分)

部(同好会)名 硬式野球部職名 講師氏名 白根弘也

提出年月日 平成18年6月5日

実施日	指導時間	指導場所	指導内容
3日(水)	7:00~18:00	協和球場	練習試合(対 男鹿海洋. 秋公益大)
4日(木)	7:00~17:30	協和球場	練習試合(対 秋田大. 弘前学院聖愛)
5日(金)	8:30~13:00	本校 野球場	練習
7日(日)	8:30~13:00	本校 野球場	練習
20日(土)	7:00~18:00	秋田県立 野球場	練習試合(対 鷹巣. 角館)
27日(土)	6:30~16:00	太田球場	練習試合(対 大農太田)
日( )	: ~ :		
日( )	: ~ :		
日( )	: ~ :		
日( )	: ~ :		

記入上の注意 指導場所 ①本校施設内 ②具体的に記入

指導内容 ①練習試合 ②具体的に記入

氏名欄は、自署とします。

(出典 学生課学生支援係資料)

資料 7-1-⑥-3 「指導者謝金申請書」

## 指導者謝金申請書（後援会予算）

申請年月日 年 月 日

クラブ		指導教員	
-----	--	------	--

希望金額	円
------	---

希望理由：

謝金内訳：

&lt;注意&gt;署名欄は自署とする。

(出典 学生課学生支援係資料)

## 資料7-1-⑥-4 「合宿日誌」

学生主事	学生課長	課長補佐	学生支援係長	学生支援係

## 合宿日誌（厚生会館）

宿日直者 ④		平成 年 月 日 ( ) 天候	
合宿室引渡し（引継ぎ）点検確認「鍵、建具の破損、清掃等」			
鍵、（戸締りを含む）	建具の破損	清掃状況	
補導関係			
学生主事への連絡事項			
学生係への連絡事項			
宿日直者への連絡事項（学生係で記入）			

(出典 学生課学生支援係資料)

(分析結果とその根拠理由)

学校のクラブ指導体制は整備されており、クラブ指導教員会議で連携を図っている。部室、合宿所も整備されており、長期休業中の活動もサポートしている。外部コーチ、高専大会旅費については、後援会から財政的なサポートがある。

以上のことから、学生のクラブ活動などの課外活動に対する支援体制は整備されており、クラブ活動は活発に行われているといえる。



観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生の生活面をサポートするために、全学年に学級担任を配置している。専攻科では、専攻主任、特別研究指導教員が主にこの役割を担う。

このほか、多様化する学生の悩みに対応するために、学生相談室を設置している。学生相談室は、相談室長や相談室員、およびカウンセラーにより構成されており、教室や掲示板にポスターを掲載するなど、学生に利用しやすいように周知している(資料7-2-①-1~3)。セクシャル・ハラスメントへの対応については、相談員を設置して相談の窓口になるとともに、防止に努めている(資料7-2-①-4)。

学生の授業料など経済面に関しては、入学料・授業料免除制度や各種奨学金制度(日本学生支援機構・自治体等)により支援を行っている。学級担任から学生にはこれらの制度の周知、助言を行い、入学料・授業料の減免、奨学金の貸与等に関しては、学生委員会において調整、決定している(資料7-2-①-5~7)。

## 資料 7 - 2 - ① - 1 「学生相談室に関する規則」

## 秋田工業高等専門学校学生相談室規則

(目的及び設置)

第1条 秋田工業高等専門学校に、学生が学生生活の中で出会う一身上の問題に対して相談にのり、適切な助言を与えて、解決のために協力することを目的として、学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。

(教職員)

第2条 相談室に、次の教職員を置く。

- (1) カウンセラー 若干名  
カウンセラーは校長が委嘱する。
- (2) 相談室長  
相談室長は、教員の中から校長が任命し、校長が直属する。
- (3) 相談室員  
相談室員は、校長が任命する。

2 補助員として、保健室看護師を充てる。

(教職員の業務)

第3条 カウンセラーは、次の業務を行う。

- (1) 学生の学業・進路・クラブ活動に関する相談
- (2) 病気・その他個人的な問題に関する相談

2 相談室長は、次の業務を行う。

- (1) 相談室の管理・運営に関すること。
- (2) 学生相談の実施計画に関すること。
- (3) 学生相談に関する教職員の研修に関すること。
- (4) その他必要な事項

3 相談室員は、相談室長を補佐する。

(教職員の任期)

第4条 教職員の任期は、1年とする。

(守秘義務)

第5条 カウンセラー・相談室長及び室員は、職務上知り得た個人的な秘密を保持することを厳守しなければならない。

(相談室会議)

第6条 相談室の業務に関しては、相談室会議において協議する。

- 2 相談室長は、相談室会議を招集し、議長となる。
- 3 カウンセラー及び室員は、相談室会議の開催を相談室長に求めることができる。

(庶務)

第7条 相談室に関する庶務は、学生課において処理する。

(細則)

第8条 この規則に定めるもののほか、相談室の運営に関して必要な事項は別に定めることができる。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 7-2-①-2 「学生相談室ポスター」

**学生相談室**

厚生会館2階

○ 担当者と開室日  
専任カウンセラー (H.18年度・右予定表)  
高橋賢一 先生 (医師)  
上村佐知子 先生 (臨床心理士)  
本校相談室担当教員 (随時対応します)  
佐藤 悟 室長 (環境都市工学科 6068)  
土田 一 室員 (機械工学科 6035)  
水野 麗 室員 (人文科学系 6086)

○ 相談室の開室時間 午後3時～5時

○ その他  
希望者は直接相談室を訪れるか、室長または保健室 若木看護師(6022)へ連絡ください。

☆☆ 相談者の秘密は厳守します ☆☆

○ 相談室長専用携帯&メール  
090-6784-3805  
friend-174624390819@docomo.ne.jp

高橋賢一先生 (火曜担当)  
5月9日と30日  
6月13日と27日  
7月11日  
8月29日  
9月5日と26日

上村佐知子先生 (月曜担当)  
5月8日と29日  
6月5日と12日  
7月3日と10日  
9月4日と11日

今年度より担当いただく上村佐知子先生は、臨床心理士のお立場からスクールカウンセラーとして広くご活躍の先生です。いつでも気軽な気持ちで相談室を訪れてください。

(出典 学生相談室長資料)

## 資料 7-2-①-3 「学生相談室利用状況」

## 学生相談室利用状況 (延べ人数)

## 1. 利用者数

利用者種別 \ 年度	H14	H15	H16	H17	
学 生	低学年	16	32	23	37
	高学年	2	4	19	11
	専攻科	調査なし	調査なし	5	1
保 護 者	3	5	6	3	
教 職 員	13	31	11	8	
合 計	34	75	64	60	

※18年度は年度途中のため、未集計

## 2. 担当別利用者数

担当者 \ 年度	H14	H15	H16	H17
カウンセラー	7	24	27	28
室員・看護師	27	51	37	32

(出典 学生相談室長資料)

## 資料7-2-①-4 「セクシュアル・ハラスメントについて」

## (7) セクシュアル・ハラスメントについて

## ○セクシュアル・ハラスメントとは

「性的嫌がらせ」を意味します。これには誰かがあなたに対して、あなたが望まない性的な言葉を投げかけたり、性的な態度・接触・行為を行い、それによってあなたが被害や不利益を受けることを含みます。

セクシュアル・ハラスメントは、教員と学生、先輩と後輩、上級生と下級生の間や、クラス、課外活動および研究室などで起こり得ます。

女性から男性に対して、また、同性同士でも行われる場合があります。

## ○セクシュアル・ハラスメントの被害にあったら

あなたがこのような行為で不快に感じたり、断ったのに相手が聞き入れない時や、あなたの学業成績や学生としての様々な活動・就職、身体的安全に影響があるのではと不安に感じた時は、相談員にすぐ連絡してください。

## ○セクシュアル・ハラスメントの相談窓口

以下の相談員が相談に応じますので、一人で悩まずに相談してください。

相談することがあなたの不利になることはありません。プライバシーは完全に守ります。

## セクシュアル・ハラスメント相談員

所 属 等	氏 名	内線	Eメール等
電気情報工学科 (学生相談室長)	田 畑 季 章	6049	tahata@ipc.akita-nct.ac.jp
自然科学系(学生相談室員)	佐 藤 彰 彦	6092	akihiko@ipc.akita-nct.ac.jp
物質工学科(学生相談室員)	佐 藤 徹 雄	6065	tetsuo@ipc.akita-nct.ac.jp
学 生 課(看護師)	若 木 宗 子	6022	wakagi@ipc.akita-nct.ac.jp
学生相談室カウンセラー (臨床心理士)	上 村 佐知子	7017	原則として隔週1回出校 (曜日等は未定)
学生相談室カウンセラー (精神科医師)	高 橋 賢 一	7017	原則として隔週1回出校 (曜日等は未定)
総 務 課 長	長 代 健 児	6004	s-kacho@ipc.akita-nct.ac.jp
学 生 課 長	工 藤 美 明	6016	g-kacho@ipc.akita-nct.ac.jp
技術教育支援センター	伊 藤 恵	6100	megu@ipc.akita-nct.ac.jp

(出典 平成19年度学生便覧 p.46～47)

資料 7-2-①-5 「授業料免除及び徴収猶予等の制度について」

## 7. 福利厚生

### (1) 授業料免除及び徴収猶予等の制度について

授業料の免除等については、「秋田工業高等専門学校授業料等免除及び徴収猶予に関する規程」の定めるところにより、経済的理由等で納付が困難な者は免除、徴収猶予及び月割分納を願い出ることができます。

前期分は2月中旬、後期分は8月上旬頃に申請書を配付しますので学生課学生支援係から受け取ってください。なお、配付日については、掲示にてお知らせします。

#### 免除等対象者

- (1) 経済的理由により納付困難な者で、学業、人物ともに優秀と認められる場合。
- (2) 学生又は学資負担者が風水害等の災害を受け、納付が著しく困難と認められる場合。
- (3) 授業料の各期ごとの納期（前期分は4月末日・後期分は10月末日）前6か月以内において、学資負担者が死亡し、納付が著しく困難と認められる場合。
- (4) 特別の事情があると認められる場合。

#### 注意事項

- (1) 授業料免除等を希望する者は、授業料免除願、徴収猶予願又は月割分納願に所得証明書等添付して学生課学生支援係に提出しなければなりません。
- (2) 徴収猶予願には、納付可能な同一期の月日を記入して提出しなければなりません。
- (3) 月割分納が許可された場合、年額授業料の12分の1相当額を毎月末日（休業期間中の分については、当該休業期間の開始前）までに納付しなければなりません。

(出典 平成19年度学生便覧 p.41)

## 資料 7-2-①-6 「奨学制度について」

## (2) 奨学制度について

## ① 独立行政法人日本学生支援機構（以下「機構」という。）について

機構は、独立行政法人通則法の定めるところにより設立され、我が国の大学等において学ぶ学生等に対する適切な修学環境を整備し、もって次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成に資するとともに、国際相互理解の増進に寄与することを目的とする。

## (1) 出願資格

本校に在学する学生で、人物・学業ともに特に優れ、経済的理由により著しく修学困難な者であること。

## (2) 高等専門学校奨学生の種類及び貸与月額（平成18年度）

## 第一種貸与奨学生

学年	第一種貸与奨学生	
	自宅通学	自宅外通学
1～3	21,000 <sup>円</sup>	22,500 <sup>円</sup>
4～5	44,000 <sup>円</sup>	50,000 <sup>円</sup>
専攻科	45,000 <sup>円</sup>	51,000 <sup>円</sup>

予約採用 中学校3学年在学中にその中学校を経て機構奨学生に採用候補者として採用され本校へ進学した学生。

在学採用 本校へ入学後出願して採用された学生。

前表自宅外の金額は、現に自宅外から通学している者。

緊急採用 家計急変のため緊急に奨学金貸与の必要が生じ、採用された学生。（随時受付）

## (3) 奨学金の貸与期間

奨学金の貸与期間は、奨学生に採用されたときから本校の最短修業年限（本科5年、専攻科2年）の終期までとなっています。

## (4) 奨学生出願の手續及び採否決定

本科、専攻科年1回奨学生の募集がありますので出願希望者は奨学金案内等関係書類を受け取ってください。

開催日時は別途通知します。

○募集時期 1次 2月上旬

所定の手続きによって応募した学生の中から、人物・健康・学力・家計についての学校の選考機関において総合審査し適格者を機構に推薦します。採否は機構が決定し、校長は採用決定通知にもとづき本人及び連帯保証人に通知します。

## (5) 奨学金振込口座の開設

奨学生に採用された場合、奨学金の振り込みを受けるために本人名義の口座を開設し、奨学金振込口座届を提出してください。口座を開設する際の手続きは、一般の普通預金口座開設と同じ方法で奨学生各自が銀行窓口で行ってください。

## (6) 奨学金の振込・払出

奨学金は毎月（4・5月分は5月に、又3月満期者は2・3月分は2月に）直接各自の銀行口座に振り込まれます。

振り込まれた奨学金は、毎月11日以降（4月分と5月分の振込分は5月16日以降）いつでも払出しすることができます。

なお、払出方法は一般の普通預金払出手続きと同じです。

## (7) 奨学生の継続願の提出

奨学生は毎年、2月の学校が定める期間内に学生支援係へ奨学金継続願の提出をしなければなりません。資格の確認、適格認定された者に対しては引続き奨学金が振り込まれ、確認できなかった者に対しては、振り込みが保留され、認定できなかった者は廃止となります。

やむを得ない事情により資格確認を受けられなかった者は、「奨学金振込保留解除願」を提出することによって振り込みが再開されます。資格確認を受けなかった者が次回の資格確認時期までに「奨学金振込保留解除願」を提出しなかった場合は「廃止」の処置がとられます。

## (8) 奨学生の諸報告

奨学生は休学・復学・転学・退学・通学状況の異動及び本人又は連帯保証人の氏名、住所変更があったときは、遅滞なく届出なければなりません。届出が遅れ、交付されるべきでない奨学金が振り込まれた場合は超過分を機構に送金し、返戻しなければなりません。

## (9) 奨学生の学生生活

奨学生に採用された者は、他の模範となり責任をもった学生であることが望まれます。学業不振、性行不良の者は廃止・一か年停止などの措置がとられることがあります。

## (10) 奨学金の返還

奨学金は貸与なので卒業後、規定に従って必ず返還しなければなりません。多少の困難はあっても社会的責任上、また、返還金が直ちに奨学金となり後輩に貸与される重要な財源となりますので、返還を確実に履行しなければなりません。

奨学生は卒業、退学、辞退、廃止等によって、奨学金の貸与を受けなくなったときは、直ちに「返還誓約書」を連帯保証人・保証人と連署して提出しなければなりません。

返還は貸与終了の月の翌月から起算して6か月を経たのち20年以内に月賦又は年賦の方法で返還することになります。（奨学金に利子は付きません。）

## (11) 奨学金の返還免除

## (イ) 死亡・心身障害のときの返還免除

本人が死亡又は心身障害となり、相続人（本人）、連帯保証人及び保証人のいずれもが、返還不能になったときは、願い出によって返還未済額の全部又は一部の返還を免除することがあります。

## ② その他の奨学生について

地方公共団体、民間団体等の育英奨学制度がありますが、これらはその団体が所在地出身学生に限るものが多く、出願、採用時期もまちまちで本人が直接手続きするところが多くなっています。

なお、学校の推薦が必要なときは学生課学生係に申し出てください。また、採用が決定したときは必ず学生係に連絡してください。

奨学生に関する事務はすべて学生係で扱っていますので、質問・疑問のある方は申し出るようにしてください。

(出典 平成19年度学生便覧 p.42～44)

## 資料7-2-①-7 「平成18年度授業料免除者数および各種奨学金受給者数」

## 平成18年度授業料免除者数

区分	申請者数	全額免除		半額免除		対象外	備考
		適	不適	適	不適		
前期	84名	28名	4名	36名	6名	10名	
後期	81名	26名	6名	38名	7名	4名	

## 平成18年度各種奨学金受給者数

日本学生支援機構	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計
		11名	14名	17名	23名	19名	12名

秋田県育英会	7名
五城目育英会	1名
関育英会	2名

(出典 学生課学生支援係資料)



(分析結果とその根拠理由)

学生の生活面をサポートするために、全学年に学級担任を配置しており、専攻科では専攻主任、特別研究指導教員が主にこの役割を担う。

このほか、多様化する学生の悩みに対応するために、学生相談室を設置し活用されている。セクシャル・ハラスメントへの対応については、相談員を配置して相談の窓口になるとともに、防止に努めている。

学生の授業料など経済面に関しては、入学料・授業料免除制度や各種奨学金制度により支援を行っている。

以上のことから、学生の生活や経済面に关わるサポート体制が整備され、機能しているといえる。

観点7-2-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では、平成3年度から外国人留学生を受け入れており、平成19年度は10名が在籍している。第3学年および第4学年の外国人留学生にはチューターを配置し、寮生をもって充てている（前述資料7-1-⑤-1～2）。また、外国人留学生委員会を設置して、留学生の受け入れや指導体制などを審議し、委員は留学生指導教員として留学生をサポートしている（前述資料7-1-⑤-3）。

学生寮においても外国人留学生の生活をサポートしており、寮内の一部を外国人留学生フロアとして使用し（資料7-2-②-1）、留学生専用のシャワー室および補食室などを完備している（資料7-2-②-2）。

資料7-2-②-1 「青森寮西1棟部屋割り(留学生スペース)」

平成19年度前期西1棟部屋割名簿

19.04.01

◆3階

1M 稻上 竹蔵 1M 後藤 大尊 ⑬	313	2E 藤井彰太郎 3C 初沢 雄大 ⑬	314	1M 小松慎太郎 1M 佐藤 隼人 ⑬	315	階段	便所 洗面所	320	319	318	317	316	315	314	313	322	323
4M 渡部耕太郎 ⑩	301	4B 和田 仰 ⑨	302	4B 和藤 和幸 ⑨	303	2E 樋場 貴俊 2C 近江 健士 ⑨	304	309	308	307	306	305	304	303	302	311	312

◆2階

5C 横山 浩夢 ⑬	212	3M 相庭 泰啓 3C 佐々木 啓 ⑬	213	階段	214	便所 洗面所	219	220	221	222
4M 大山 祐也 ⑨	201	4E 今野 達斗 ⑨	202	2M 今野 麻人 2M 武石 逸 ⑨	203	204	208	209	210	211

◆1階

5M モバト ロア ⑬	111	5E モバト フライダウ ⑬	112	玄関	117	118	119	120	
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110

【注1】丸付き数字は部屋の大きさ(m<sup>2</sup>)。【注2】1階の○印はストーブ用穴のある部屋。【注3】[指]は指導生。  
※2人部屋の場合、部屋図面上段の者が電話番決定上、入口から入って右側となります。

(出典 学生課寮務係資料)

資料7-2-②-2 「青雲寮留学生設備」



(出典 学生課寮務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

外国人留学生を支援するための組織および施設が整備されており、活用されているといえる。

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

学生寮は学校敷地内に設置され、管理棟のほか寮生の居室が4棟あり、その中には女子棟（東1号棟）1棟を含む（資料7-2-③-1）。女子棟には専攻科学生1名を含む23名がおり、寮全体では201名が在寮している（平成19年5月1日現在）。

寮内の設備は、各居室にベッド、シャッターケース、机および椅子が備え付けられ、その他各棟に共有施設と設備が整備されている（資料7-2-③-2）。また、寮生の希望によりテレビ、パソコン、冷蔵庫を制限付きで許可している（資料7-2-③-3）。

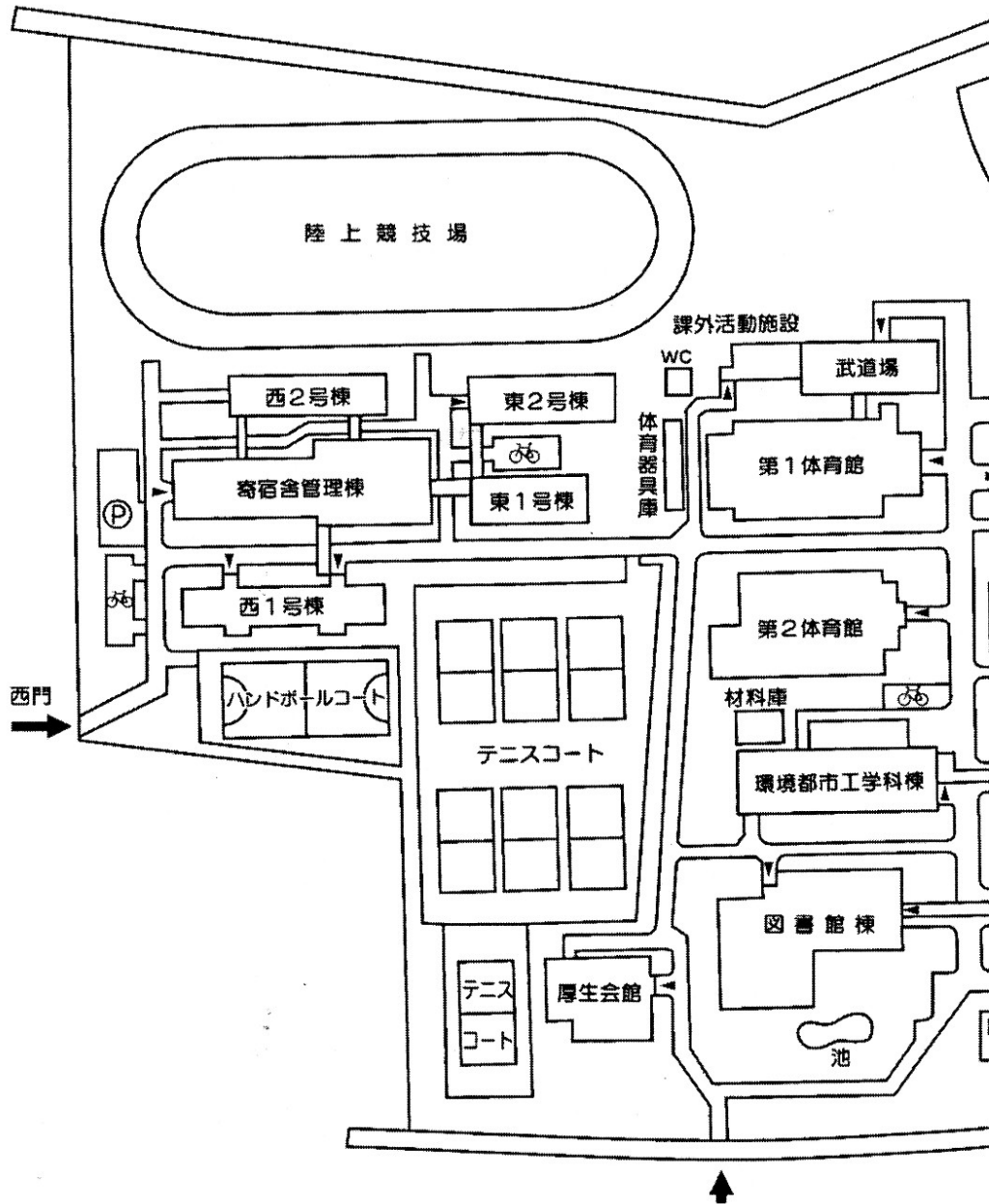
寮経費は、寄宿料、寮費、給食費を合わせて月額約33,000円で、その他、寮生会費が年額で5,000円である（資料7-2-③-4）。

寮運営組織は、寮務委員会（資料7-2-③-5）であるが、寮生指導は主に寮務主事（1名）、主事補（3名）が行い、寮生の事務手続きは寮務事務係（2名）が担当している。また、教員、事務系職員が交代で毎日宿日直勤務を行い、朝と夜に点呼を行い、在寮確認、寮生の指導等に対応している（資料7-2-③-6）。また、寮長を中心とする寮生会が組織され（資料7-2-③-7）、共同生活を円滑に行うために、寮生自身による運営が行われている。

寮生の居室は、2人部屋（第1・2学年）および個室（第3～5学年）を基本とするが、各棟各フロアには談話室が設けられ、寮生同士の交流が図られている。また、各棟に自学自習室を設置し、特に、低学年の2人部屋の寮生のために便宜を図っている（資料7-2-③-8）。また、パソコン室も設置し、有効に活用されている。

寮スタッフ（主事・主事補）により、年4回行われる試験結果を担任から報告してもらい、寮生の成績および欠課時数を集計し、特に、目立つ寮生に対する指導を行っている（資料7-2-③-9）。

資料 7-2-③-1 「寮棟配置図」



(出典 平成 19 年度学生便覧 p. 163)

## 資料 7-2-③-2 「寮共有施設と設備」

## 2. 施設と設備

寮生の居室には、ベッド、シャッターケース、机および椅子が備え付けてあります。

また、共用施設と設備は次のとおりです。

事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理棟正面玄関横にあります。</li> <li>・学生寮の管理運営、学生の入退寮、学生寮の諸経費、宿日直、寮生の給食、栄養指導及び衛生管理等を行っています。</li> </ul>
寮務主事室 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寮生の指導や寮務スタッフ、寮生会役員との打ち合わせ場所となっています。</li> </ul>
宿直室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理棟と西2棟にあり、夜間や土日祝祭日に教員と事務系職員が勤務して、寮生の指導や点呼、事故等の緊急時に対応します。</li> </ul>
食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寮生がともに食事を摂れる明るく広い空間です。</li> <li>・開寮期間中は、土日祝祭日も含めて毎食食べられる。セルフサービス方式で、ご飯・みそ汁はお代わりが可能です。</li> </ul>
補食室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各棟に一室ずつあり、湯沸器とガスコンロ、電子レンジ、冷蔵庫を設置しています。</li> <li>・簡単な夜食を作ることができます。</li> </ul>
浴室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開寮期間中は毎日入浴できます。</li> <li>・男子用浴室は管理棟内にあり、浴室のほか多数のシャワーが使用できます。</li> <li>・女子用浴室は女子棟内にあり、シャワー付のユニットバスが6台設置されています。</li> <li>・男子留学生用にユニット方式のシャワールームが2台設置されています。</li> </ul>
洗面所 トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各棟各階にあります。</li> <li>・洋式トイレは各棟の1階に1箇所ずつあります。</li> </ul>
ラウンジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理棟正面玄関ホールの奥にあり、テレビ・雑誌・新聞などを備え寮生の社交場となっています。</li> </ul>
談話室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各棟に一室ずつあり、テレビが視聴できます。</li> </ul>
パソコン コーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理センターやインターネットに接続可能なパソコンがパソコン室に3台、寮生会室に6台、女子棟パソコンルームに4台設置してあります。（P20参照）</li> </ul>
自学自習室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各棟の空室を利用し、自学自習室を設置しています。</li> <li>・室内には、個人の持ち物は置かないようにしてください。</li> </ul>
休養室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理棟にあります。</li> </ul>
寮生会室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寮生による寮運営に関わる協議の場所となっています。</li> </ul>
電話機	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人電話システムを導入しており、各居室に専用の電話機が設置されています。</li> </ul>
洗濯場 物干し場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各棟各階に全自動洗濯機と乾燥機を備えています。</li> <li>・東2棟と西2棟には屋上に物干し場があります。</li> <li>・東1棟（向日葵棟）内に乾燥室を設けています。</li> </ul>
売店	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理棟に売店があります（開店時間帯午後7時～9時）。</li> <li>・自動販売機も2台備えてあります。</li> </ul>
自転車置き場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根付きのものが西棟側と東棟側にあります。</li> </ul>

（出典 平成19年度寮生心得 p.9）

## 資料 7-2-③-3 「テレビ、パソコン、冷蔵庫の持ち込み」

## 12. 諸願届

次の各項に該当する場合には、届出あるいは許可の申請が必要ですので、事務室に申し出て下さい。

種 類	時 期	備 考
入 寮 願	2 月	学級担任(指導教員)の捺印をもらい提出
退 寮 願	その都度	学級担任(指導教員)の捺印をもらい5日前まで提出
外 出 許 可 願	その都度	P11～P15参照
外 泊 許 可 願	その都度	P11～P15参照
テ レ ビ 持 込 許 可 願	前期 4 月 後期 10 月	14インチ以下でNHKとの受信契約が条件 本科1、2年生の所持は認めません。
パ ソ コ ン 持 込 許 可 願	その都度	
冷 蔵 庫 持 込 許 可 願	前期 4 月 後期 10 月	消費電力100W以下の小型のもの
自 転 車 登 録 申 込 書	前期 4 月 後期 10 月	登録手続きをし、ステッカーを貼る
弁 当 依 頼 書	その都度	1週間前までに届けること
夕 食 時 間 外 喫 食 届	その都度	卒業研究、クラブ活動のため夕食時間に間に合わない場合、当日の12時30分まで届けること。
欠 食 届	その都度	1週間前までに届けること。受付は昼のみ
食 券 カ ー ド 再 発 行 願	その都度	再発行は平日の昼のみ
在 寮 証 明 書	その都度	2日後に交付
施 設 設 備 使 用 許 可 願	その都度	1週間前までに届けること

## 13. 持込みを禁じている物品

寮内では火災発生防止、節電、勉学の妨げになる等の理由により、一部の物品の所持・使用を禁止しています。

もし、持込みを禁じている物品が、居室内等で発見された場合は、処罰を受けたり没収されたりすることになりますので、注意して下さい。

- (1) 消費電力の大きいもの（電気ポット・電子レンジなど）
- (2) 火災・事故等の危険性のあるもの（電気ストーブ・電気コンロ・電気コタツなど）
- (3) 騒音・電磁波等で周囲に迷惑を及ぼすもの（大型無線機など）
- (4) 勉学の妨げになるもの（ゲーム機など）
- (5) その他、共同生活にふさわしくないものおよび高価なもの

(出典 平成19年度寮生心得 p.19)



## 資料 7-2-③-4 「寮経費」

## 1. 経費について

寮で生活するために、次の経費が必要です。

- (1) 寄宿料 2人部屋：月額 700 円， 個室：月額 800 円
- (2) 寮費月額 8,200 円（光熱水費， 冬季暖房費， 雑費， 特別献立費等に充てられます。）
- (3) 入寮費 3,000 円（新規入寮者のみ納入していただきます。）
- (4) 寮生会費 年額 5,000 円（寮生会から徴収されます。）
- (5) 寮生会入会金 1,000 円（新規入寮者のみ納入していただきます。）
- (6) 給食費 月額 約 24,000 円（給食材料費， 人件費等に充てられます。）

上記の(1)から(5)までの納付金は、口座振替（4月と10月の2回自動引落）となっており、詳細については その都度、会計課から通知されます。また(6)については、別途委託業者から通知されます。

（出典 平成 19 年度寮生心得 p. 21）

## 資料 7-2-③-5 「寮務委員会規則」

## 秋田工業高等専門学校寮務委員会規則

## （設置）

第 1 条 秋田工業高等専門学校寄宿舎規則第 6 条第 2 項の規定に基づき、秋田工業高等専門学校に学生寮に関する事項を調査、審議することを目的とし、秋田工業高等専門学校寮務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## （審議事項）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 学生の入寮及び退寮に関すること。
- 二 学生寮生活の福祉増進及び規律保持に関すること。
- 三 学生寮関係の苦情処理に関すること。
- 四 その他必要な事項に関すること。

## （組織）

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 寮務主事
- 二 寮務主事補
- 三 各学科等から選出された教員 各 2 名
- 四 学生課長

## （任期）

第 4 条 前条第 3 号に定める委員の任期は 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## （委員長）

第 5 条 委員会に委員長を置き、寮務主事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

## （委員以外の者の出席）

第 6 条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて、その意見を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会に関する庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営上必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和40年9月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和41年8月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和48年3月19日から施行し、昭和47年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和56年3月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料7-2-③-6 「勤務体制」

## 2. 教職員の勤務体制

管理棟玄関脇に、学生課寮務係の事務室があり、平日の日中は事務系職員2名が勤務しています。また、開寮期間中の平日夜間と土日祝祭日には、教員と事務系職員がそれぞれ勤務しています。

勤務体制は、夜間の宿直勤務が3～4名、土日祝祭日の日直勤務が2名となっており、この体制を表にすると、次のようになります。

	8:30	17:15	翌日8:30
平 日	寮務係 事務系職員2名		管理棟宿直：教員1名、事務系職員1名 西二棟宿直：教員1名 女子棟半宿直：教員1名(月1・2回)
土日祝祭日	管理棟日直 教員1名、事務系職員1名		管理棟宿直：教員1名、事務系職員1名 西二棟宿直：教員1名

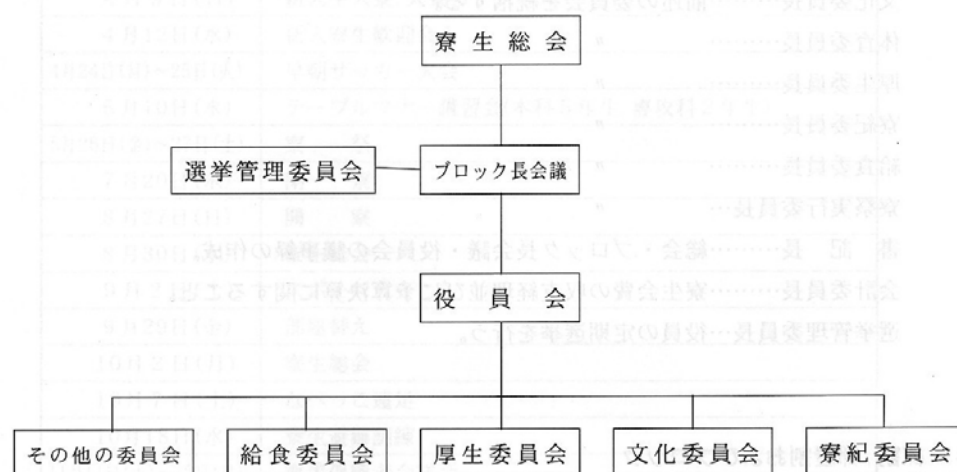
(出典 平成19年度寮生心得 p.4)

## 資料 7-2-③-7 「寮生会組織」

## 3. 寮生会

学生寮には、寄宿舍規則の主旨に則り、学校の指導の下に寮生の共同生活を自律的に運営し、寮生活全般の便宜を図ることを目的とする寮生会があります。

寮生会は、寮生全員をもって構成します。寮生は寮生会の運営について常に関心を持ち、その活動に積極的に参加しなければなりません。以下に寮生会の組織を簡単に示します。



## (1) 組織と役割

総 会…………寮生全員をもって構成される最高議決機関であり、定期総会は前後期毎に一回開催される。

ブロック長会議…ブロック長、寮長、副寮長、各委員長および書記によって構成され、総会に次ぐ議決機関である。

役 員 会…………総会・ブロック長会議の審議機関であると共に、寮生会の執行機関である。

文化委員会…………寮生の趣味娯楽に関すること、寮生会誌（青雲）の編集、並びに文化行事の企画運営を行う。

体育委員会…………体育行事の企画運営を行う。

厚生委員会…………寮生の保健衛生・寮内の清掃美化に関すること、清掃用具の管理、並びに下足の整理などを行う。

寮紀委員会…………日課等諸規律および防災の徹底をはかり、寮内における風紀に関することを行う。

給食委員会…………食事の献立などに関すること、さらに食堂および補食室の清掃と管理を行う。

寮祭実行委員会…寮祭の企画運営を行う。

(出典 平成 19 年度寮生心得 p. 5)

資料7-2-③-8 「自学自習室（寮内掲示）」

## 自学自習室の設置

夏休み以降、各棟に自学自習室を設置しました。  
現在、寮で使用していない、机、イスを利用して29席設置しましたが、  
今後、使用状況により増設することも考えています。

部屋番号と席数は次の通りです。

東1棟 106（4席）  
東2棟 202（4席）  
西1棟 103（2席）、104（2席）、105（2席）、  
106（2席）、107（2席）  
西2棟 110（3席）、205（4席）、310（4席）

使用方法については、使用状況により寮生の意見も取り入れ決めますが、  
とりあえず次の注意事項は守ってください。

- （1）勉強に必要なものだけを持参し、終了後は必ず持ち帰り、部屋には私物を置かないようにしてください。
- （2）自学自習を目的としているので、部屋では静粛にしてください。
- （3）使用時間は、消灯（23:30）までとします。
- （4）使用者は、使用簿に必ず記入してください。

寮 務 主 事

（出典 学生課寮務係資料）

## 資料7-2-③-9 「寮生の成績指導（寮務スタッフ資料の抜粋）」

クラス	氏名	H17年度学年末		前期中間		前期末		後期中間		後期末	
		席次	欠課時数	席次	欠課時数	席次	欠課時数	席次	欠課時数	席次	欠課時数
		1/40	44	3/36	10						
		29	46	30	12						
		38	56	19	2						
		18	18	25	10						
		9	0	8	2						
		17	23	28	10						
		16	0	23	0						
		36	48	35	44						
		26	58	14	6						
		30	76	26	10						
		30	68	32	16						
		15	16	9	0						
		4/42	0	3/36	12						
		9	0	7	16						
		24	0	36	13						
		18	10	17	56						
		25	9	32	16						
		23	2	21	6						
		21	0	14	24						
		5	12	15	22						
		29	10	22	7						
		26/36	34	16/36	10						
		29	0	33	16						
		3	2	2	0						
		16	0	17	0						
		17	4	7	0						
		17/36	46	16/31	11						
		4	12	1	10						
		24	38	25	30						
		28	131	18	22						
		19	24	17	9						
		14	8	13	14						
		26	4	24	4						
		30	117	26	33						
		5	0	23	4						

(出典 学生課寮務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生寮は学校敷地内にあるので、教育寮として位置づけられ、第1学年から留学生および専攻科学生まで、基本的には同一規則のもとに運営している。生活していくうえで十分な施設・設備を整えているほか、寮務委員会、寮務スタッフ（主事、主事補、寮務係）による管理および宿日直体制により、生活面全般に対する支援が行われている。勉学面でも学習時間の設定や自学自習室の設置のほか、パソコン室も整備され有効に機能している。

**観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

準学士課程の学生に対する進路指導に関しては、主に第5学年の学級担任が窓口となり、各学科主任と連携しながら対応している。専攻科課程の学生に対しては、主に各専攻主任が窓口となり、特別研究担当教員と連携して対応しており、いずれの課程も学生課事務職員の協力を得て進めている。

進路指導の一環として、準学士課程第4学年には就職講演会と保護者進路相談会を行っている(資料7-2-④-1~2)。就職講演会は例年12月に行い、学生の就職、進学に対する興味と意欲の喚起に努めている。なお、就職講演会は専攻科課程第1学年も対象としている。1月末に行われる保護者進路相談会では、学生、保護者、学級担任の間で進路に関する共通認識をもってもらい、希望や状況について相談して、進路情報を共有できるよう配慮している。

就職・進学のための資料は、学生課前の進路コーナーや各学科のコミュニティホールにおいて閲覧でき、過年度の本校の就職、進学の情報については学校のホームページで閲覧できるほか、学校だよりも掲載している(資料7-2-④-3)。

就職先の開拓や、進路に関する学生指導、支援などを円滑に行うために、進路対策委員会を設置している(資料7-2-④-4)。また、学科主任、第4学年学級担任、専攻主任は、就職先を開拓するために企業訪問を行っている。

以上のようなきめ細かい学生への進路指導取り組みの結果、卒業時にはほぼ全員の進路が決定しており、常に就職率が100%近い状態を維持している。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の学生に対しては、主に第5学年の学級担任が窓口となり、専攻科課程の学生に対しては、主に各専攻主任が窓口となり、関係教員と連携しながら学生課事務職員の協力を得て進路指導を進めている。

進路指導の一環として、就職講演会や保護者進路相談会などを行っており、学生、保護者、学級担任の間で進路に関する情報を共有できるよう配慮している。

就職先の開拓や、進路に関する学生指導、支援などを円滑に行うために、進路対策委員会を設置しているほか、学科主任、第4学年学級担任、専攻主任は、就職先を開拓するために企業訪問を行うなどの努力を重ねている。

以上のことから、就職や進学などの進路指導体制は整備されており、就職率が100%近い状態を維持していることに示されているように、進路指導体制は機能しているといえる。

資料7-2-④-1 「平成17年度就職講演会実施要項」

## 平成17年度就職講演会実施要項

1. 目的 学生が就職活動を行う際の必要な知識、情報を教授してもらうことを目的とする。
2. 日時 平成17年12月21日(水) 14時40分～16時15分
3. 場所 本校 大講義室及び各学科教室
4. 対象 4年生158名, 専攻科1年生17名
5. 講師 【 講 演 】(14時45分～15時45分)  
ハローワークプラザ秋田  
学生就職支援センター  
三 澤 賢 治 氏
- 【 今年度の就職状況について 】(15時50分～16時15分)  
機械工学科5年生担任 山 崎 保 輔  
電気工学科5年生担任 安 東 至  
物質工学科5年生担任 徳 光 直 樹  
環境都市工学科5年生担任 対 馬 雅 己

(出典 学生課教務係資料)

資料7-2-④-2 「平成17年度保護者進路相談会実施要項」

## 保護者進路相談会実施要項

1. 日 時 平成18年1月28日(土) 12時30分から  
平成18年1月29日(日) 12時30分から
2. 場 所 秋田工業高等専門学校 大講義室(全体会)
3. 学校側出席者 学生主事, 学科主任, 4学年学級担任, 5学年学級担任  
学生課長, 学生係長, 学生係員
4. 次 第
- 1) 全体会
    - ・学生主事から進路状況について説明
  - 2) 学科別懇談会
    - ・学科別進路状況について
    - 学科主任及び5学年学級担任から
  - 3) 個別懇談会
    - ・学級担任, 保護者及び学生の三者面談

## 各学科の面接室及び控室

学 科	面 接 室	控 室
機 械 工 学 科	茂木研究室	専攻科講義室Ⅱ
電 気 工 学 科	高橋研究室	電気情報工学科オフィス及び 電気計測実験室
物 質 工 学 科	西野研究室	情 報 交 換 室
環 境 都 市 工 学 科	羽田研究室	環境都市工学科コミュニティーホール

※個別懇談会については, 希望者のみとする。

(出典 学生課教務係資料)



資料7-2-④-3 「秋田工業高等専門学校ホームページ 進路情報（就職・進学状況（抜粋）」


 秋田工業高等専門学校  
Akita National College of Technology


 進路情報


| 掲載日 2007/01/22 | 掲載内容有効期限 2008/01/22 | 担当者 学生課学生支援

トップページ &gt;&gt; 進路情報 &gt;&gt;

## 本科の就職・進学状況

| 就職 | 進学 |

## 就職

高専の卒業生は、それぞれの専門分野の会社や官公庁に入って活躍し、前途有望な技術者として、社会に認められています。  
本校は、昭和44年3月、第1回の卒業生を社会に送り出して以来、経済界の不況の折にもほとんど影響を受けず、就職率はほぼ100%の実績をあげています。

## ■平成17年度卒業生の就職状況

	卒業生	進学者	就職者	その他	求人企業数	求人数	求人倍率
機械工学科	36	13	22	1	245	245	10.7
電気工学科	34	18	16	0	304	304	19.0
物質工学科	32	16	16	0	148	148	9.3
環境都市工学科	41	19	20	2	103	103	5.2
計	143	66	74	3	800	800	10.8

※「その他」には就職活動・進学準備の者、専門学校入学者を含む

## ■最近5か年の就職状況と就職先

	卒業生	進学者	就職者	その他	求人企業数	求人数	求人倍率
17年度	143	66	74	3	800	800	10.8
16年度	122	66	51	5	669	669	13.1
15年度	140	64	68	8	649	655	9.5
14年度	142	78	59	4	645	649	11.0
13年度	143	68	62	13	720	723	11.1

※太字は県内企業等を示す。就職先名欄が色塗りの場合(■)は平成18年度3月卒業生の就職先を示す。

(出典 秋田工業高等専門学校ホームページ)

## 資料7-2-④-4 「秋田工業高等専門学校進路対策委員会規則」

## 秋田工業高等専門学校進路対策委員会規則

(設置)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第18条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校の学生の就職及び進学に関することを審議するため秋田工業高等専門学校進路対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 主事
- (3) 専攻科長
- (4) 学科主任
- (5) 専攻主任
- (6) 5学年学級担任
- (7) 事務部長

(審議事項)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じて次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学生の就職に関する事項。
- (2) 学生の進学に関する事項。
- (3) その他必要な事項

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ校長の指名した委員が議長の職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員会は、必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、学生課長をもって充てる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営上必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成17年1月27日から施行する。
- 2 秋田工業高等専門学校就職対策委員会規程は、廃止する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学生の自主的学習場所として図書館と情報処理センターがあり、夜間開放するなど利便性を高め、広く利用されている。

資格試験および単位認定に対しては、単位認定する制度が整備されており、資格試験の受験料の補助を行うなどの支援をしている。

外国人留学生にはチューター制度を設け、学習支援・生活支援を行っているほか、補充教育として、専門基礎および日本語教育について授業を行っている。同様に、工業高校からの第4学年への編入学生に対しても数学の補充授業を行うなど配慮している。

(改善を要する点)

特になし。

## (3) 基準7の自己評価の概要

年度始めに全ての学年において、学級担任から学習上の留意事項が、1年間のスケジュールとともに説明されている。この際、学生便覧、シラバスが活用され、単位認定、成績評価、進級・卒業要件や、本校の目的、自学自習などの学習支援などについて説明される。特に、準学士課程の第1学年では「新入生オリエンテーション」が、専攻科課程においても、第1学年と第2学年にそれぞれガイダンスが行われており、学習を進めるための解説を行っていることから、学生が自主的学習を進めるうえでのガイダンスが整備されている。

また、全教員がオフィスアワーを週1回、各1時間以上ずつ設定し、学生の学習の相談を受け、助言を行っている。

学生の自主的学習場所として図書館と情報処理センターがあり、夜間開放するなど利便性を高めている。厚生施設やコミュニケーションスペースとしては、厚生会館などが広く利用されている。

資格試験および単位認定に対しては、単位認定する制度が整備されており、資格試験の受験料の補助を行うなどの支援をしている。

外国人留学生にはチューター制度を設け、学習支援・生活支援を行っているほか、補充教育として、専門基礎および日本語教育について授業を行っている。同様に、工業高校からの第4学年への編入学生に対しても数学の補充授業を行うなど配慮している。

クラブ活動は顧問2人体制を基本として指導を行っており、学生会は学生主事補が指導している。各クラブの部室や合宿所も整備されており、長期休業中でも活動できる。後援会からの学外コーチ謝金や高専大会への参加費補助などの財政的支援体制が整っている。

学生の生活指導・支援を行うため学級担任を配置しており、個人的な悩み事の相談先として、学生相談室が整備されている。セクシャル・ハラスメントに関しては、別途相談員を置き対応している。経済面に対する支援として、入学料・授業料免除制度や各種奨学金制度があり、機能している。

学生寮は学校敷地内にあり、女子寮1棟を含む4棟に201名在寮している。寮生への指導および対応は、寮務主事を中心に主事補、寮務事務係が主に担当し、開寮期間中は教職員が交代で宿直または日直を行い、点呼および指導が行われている。寮生会による寮生自身での運営により、共同生活を円滑に行っているほか、各棟に自学自習室を設置するなど、学校生活および勉学の場として有効に機能している。

進路指導体制としては、準学士課程第5学年の学級担任および各専攻主任が、各学科主任と連携して対応に当たっており、進路対策委員会の支援体制が整っている。進路関係の資料も学生課前や各学科コミュニティホールにそろっており、学生はいつでも閲覧できるようになっている。就職講演会や保護者進路相談会を実施するなどきめ細かい対応により、卒業、修了時にはほぼ全員が進路を決定している。

## 基準 8 施設・設備

### (1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

本校の施設は、平成 13 年 1 月に科学技術教育棟が新築され、同年 7 月に講義室棟・研究室棟・管理棟の改修が行われ、次いで平成 14 年 7 月には物質工学科棟が、さらに平成 15 年 10 月に機械工学科・電気工学科・環境都市工学科棟および実習工場の改修が行われ、工業技術実習センターが新築され、校舎の全面的改築が終わった。現在の施設の概況および配置図を、資料 8-1-①-1～2 に示す。

教室、実験室など各部屋の面積および主要設備の概要を、資料 8-1-①-3 に示す。実験室については、資料 8-1-①-4 に示すとおり、卒業研究・特別研究を行うには十分な面積が確保されている。

電気情報工学科が電気工学科から名称変更した際に、学科内にコンピュータールームを設置するなど、ニーズに対応した施設整備が行われている。

実験室、演習室、情報処理センターなどの授業利用状況を、資料 8-1-①-5 に示す。情報処理センターは稼働率が高く、よく利用されている。その他の実験室も利用頻度は高く、有効に使用されている。

障害を持つ学生は現在在籍していないが、キャンパス内の建物の玄関にはスロープが設置されているとともに、エレベーターと各建物間を結ぶ連絡通路を使用することにより、校舎内を車椅子で移動することが可能である。障害者用トイレも 7 箇所を設置されているほか、車椅子、担架なども設置している（資料 8-1-①-6）。

また、教室、実験室は学生が清掃し、校舎全般の清掃は業者委託することで、改修後の美観と清潔感を維持しており、学生の良好な学習環境を整えている。資料 8-1-①-7 にあるように、校舎のデザインは学生にも好評である。

(分析結果とその根拠理由)

授業、実験実習、卒業研究、特別研究などを行うために必要な施設、設備は整備されており、情報処理センター、実験室など有効に活用されている。

また、障害を持つ学生に対する施設面での整備もなされている。

日々の清掃もあり、校舎は改修工事後の美観と清潔感を維持しながら、学生の良好な学習環境を整えており、学生にも好評である。

資料 8-1-①-1 「施設の概況」

## 施設の概況

## FACILITIES

●敷 地 Land

校舎 College Buildings 46,257㎡ | 寄宿舍 Dormitory 18,743㎡ | 運動場 Playground 32,659㎡ | 職員宿舎 Staff Housing 3,757㎡ | 計 Total 101,416㎡

●建 物 Buildings 平成19年4月1日現在 As of Apr. 1, 2007

		区 分 Classification	構 造 Structure	延 面 積 Total Area	竣 工 年 月 Completion Date	
校 舎 College Buildings		管 理 棟 Administration Building	R3	1,411㎡	S 39. 3	
		講 義 室 棟 (高学年) Classroom Building (for Junior/Senior-year Students)	R3	2,325	S 39. 3	
		科 学 技 術 教 育 棟 (低学年) Science and Technology Forum (for Lower-year Students)	}	R4	1,920	H 13. 1
		地 域 共 同 テ ク ノ セ ン タ ー Research Incubator Center For Industrial Collaboration and Technological Innovation				
		階 段 教 室 棟 Lecture Hall Building	R2	692	S 55. 3	
		研 究 教 室 棟 General Education Teaching Staffs' Office Building	R3	512	S 41. 3	
		機 械 工 学 科 棟 Mechanical Engineering Department Building	//	1,754	S 41. 3	
		電 気 情 報 工 学 科 棟 Electrical and Computer Engineering Department Building	//	1,892	S 41. 3	
		物 質 工 学 科 棟 Applied Chemistry Department Building	//	1,779	S 41. 3	
		物 質 工 学 科 棟 (生 物 棟) Applied Chemistry Department Building	//	510	H 6. 3	
		環 境 都 市 工 学 科 棟 Civil and Environmental Engineering Department Building	//	1,884	S 45. 3	
		専 攻 科 棟 Advanced Engineering Faculty Building	//	936	H 8. 3	
		実 習 工 場 Practice Workshop	S1	646	S 40. 3	
		工 業 技 術 実 習 セ ン タ ー Manufacturing Technology Practice Center	//	200	H 15.10	
		情 報 処 理 セ ン タ ー Information Processing Center	R1	314	S 49. 3	
		熱 機 関 実 験 室 Laboratory for Heat Engine	B1	134	S 46. 3	
		電 気 工 作 実 習 室 Laboratory in Electric Engineering	//	98	S 46.12	
		渡 廊 下 Connecting Corridor		422		
		小 計 Subtotal		17,429		
	宿 舎 Dormitory		寄 宿 舎 管 理 棟 Dormitory (Administration Building)	R1	1,017	S 45. 3
		// 東 1 棟 Dormitory (East 1)	R3	879	S 45. 3	
		// 東 2 棟 Dormitory (East 2)	//	1,168	S 45. 3	
		// 西 1 棟 Dormitory (West 1)	//	1,342	S 39. 3	
		// 西 2 棟 Dormitory (West 2)	//	1,094	S 41. 3	
		渡 廊 下 Connecting Corridor		113		
	小 計 Subtotal		5,613			
其 他 Others		図 書 館 Library	R2	1,588	S 47.11	
		厚 生 会 館 Students' Hall	//	680	S 56. 3	
		第 1 体 育 館 Gymnasium 1	S1	995	S 41. 3	
		第 2 体 育 館 Gymnasium 2	//	894	S 53.12	
		武 道 場 Kendo/Judo Hall	//	474	S 43. 1	
		プ ール (屋 根 付) Swimming Pool	R1	136	H 6. 8	
		課 外 活 動 施 設 Rooms for the Club Activities	S1	155	S 59. 3	
		課 外 活 動 部 室 Club Rooms	//	235	S 42. 3	
		警 備 員 室 Guardhouse	R1	13	S 39. 5	
		車 庫 Garage	S1	82	S 39. 5	
		車 庫 Garage	//	70	S 41. 3	
		ボ イ ラ 室 Boiler Room	R1	145	S 39. 5	
		受 変 電 機 械 室 Room of Demand and Indicator	//	75	S 47.11	
		廃 棄 物 保 管 庫 Waste Warehouse	S1	80	S 54. 3	
		渡 廊 下 Connecting Corridor		29		
		屋 外 便 所 Outdoor Washroom		30		
		体 育 器 具 庫 Storehouse for Physical Exercise or Other Activities		296		
		材 料 庫 Material Warehouse etc.		178		
		小 計 Subtotal		6,155		
		職 員 宿 舎 Staff Housing		849		
	小 計 Subtotal		849			
	合 計 Grand Total		30,046			

R : 鉄筋コンクリート造り Reinforced Concrete      S : 鉄骨造り Steel Frame Work      B : ブロック造り Block

(出典 平成19年度学校要覧 p.37)

資料 8-1-①-2 「施設配置図」



(出典 平成 19 年度学校要覧 p. 38)

## 資料 8-1-①-3 「教室、実験室、演習室、図書館、情報関連設備等の面積および主要設備の概要」

①教室は以下の通りである。

表 4-3 教室の面積および主要設備

名 称	面積(m <sup>2</sup> )	室数	場 所	設 備
教室(講義室)高学年	84	8	講義室棟	プログラム1・2年用, スクリーン
教室(講義室)低学年	81	12	科学技術教育棟	本科1~3年用, スクリーン
講義室 301	47	1	講義室棟	スクリーン
階段教室	217	1	階段教室棟	プロジェクター, スクリーン
合併教室	106	1	階段教室棟	CRT, スクリーン, ビデオ
講義室 I	53	1	専攻科棟	CRT, スクリーン, ビデオ
講義室 II	53	1	専攻科棟	CRT, スクリーン, ビデオ
大ゼミナール室	142	1	図書館	CRT, スクリーン, ビデオ
小ゼミナール室	98	1	図書館	TV, スクリーン, ビデオ
音楽鑑賞室	49	1	図書館	スクリーン
テクノコミュニティ	124	1	科学技術教育棟	TV, スクリーン, ビデオ

②実験室は以下の通りである。

表 4-4 実験室の面積および主要設備

名 称	面積(m <sup>2</sup> )	室数	場 所	設 備
物理実験室	141	1	管理棟	発振器, ガイガーカウンタ
応用物理実験室	40	1	管理棟	光スペクトラムアナライザ
化学実験室	141	1	管理棟	試験装置, 実習装置
合計	322			
機械工学科関係実験室				
創造工房	90	1	機械工学科棟	オシロスコープ
メカトロ実験室	78	1	機械工学科棟	撮影機
金属材料実験室	36	1	機械工学科棟	真空排気装置, ポンプ
工作機械実験室	52	1	機械工学科棟	切削工具動力計
精密加工・測定室	52	1	機械工学科棟	顕微鏡, 光弾性, 投影機
流体工学実験室	78	1	機械工学科棟	ポンプ, マノメータ
材料力学実験室	78	1	機械工学科棟	荷重計, 衝撃試験機
計算力学実験室	52	1	機械工学科棟	電子計算機
熱機関実験室	72	1	熱機関実験室	風洞
熱工学実験室	42	1	熱機関実験室	電気動力計, 冷却装置
合計	630			
電気情報工学科関係実験室				
半導体工学実験室	42	1	電気情報工学科棟	真空蒸着装置
電気機械実験室	78	1	電気情報工学科棟	実験用発電機, 3相調整器
マルチメディア実験室	52	1	電気情報工学科棟	投影装置



名 称	面積(m <sup>2</sup> )	室数	場 所	設 備
電気計測実験室	78	1	電気情報工学科棟	実習装置, ブリッジ
電力工学実験室	52	1	電気情報工学科棟	高圧試験装置
電子物性実験室	52	1	電気情報工学科棟	光学特性測定システム
電気機器実験室	52	1	電気情報工学科棟	発電機, 信号発生器
電気応用実験室	52	1	電気情報工学科棟	デジタルメモリ, 電力計
情報工学実験室	52	1	電気情報工学科棟	電子計算機
電磁波工学実験室	68	1	電気情報工学科棟	スペクトラムアナライザ
パワーエレクトロニクス実験室	52	1	電気情報工学科棟	オシロスコープ,
画像工学実験室	52	1	電気情報工学科棟	恒温器
電子情報工学実験室	78	1	電気情報工学科棟	回路実験装置, 実習装置
電気工作実習室	78	1	電気工作実習室	旋盤, フライス盤
合計	838			
物質工学科関係実験室				
分析化学実験室	130	1	物質工学科	オートスチール
X線実験室	13	1	物質工学科	
天秤室	13	1	物質工学科	天ピン
無機・有機化学実験室	130	1	物質工学科	高速遠心分離器
物理化学実験室	104	1	物質工学科	偏光計, 分光光度計
準備室・物性解析室	52	1	物質工学科	
表面科学室	26	1	物質工学科	四重極質量分析計
化学工学実験室	130	1	物質工学科	多段連続精留装置
構造解析室	52	1	物質工学科	フーリエ変換赤外分光光度計
無機材料研究室	78	1	物質工学科	定電流電解装置
有機材料研究室	78	1	物質工学科	融点測定器
環境工学研究室	52	1	物質工学科	マイクロ冷却遠心機
プロセス工学研究室	78	1	物質工学科	循環型光触媒紫外線殺菌ユニット
生物化学実験室	80	1	物質工学科	
低温室(前室含む)	24	1	物質工学科	フラクションコレクター
材料プロセッシング実験室	21	1	物質工学科	恒温水槽
微生物学実験室	80	1	物質工学科	高性能分離用超遠心機
培養室(前室含む)	24	1	物質工学科	液体クロマトグラフ
生物工学実験室	80	1	物質工学科	高圧蒸気滅菌器
電子顕微鏡室(前室含む)	24	1	物質工学科	査走電子顕微鏡
合計	1269			
環境都市工学科関係実験室				
水理実験室	154	1	環境都市工学科	水理実験装置
地盤実験室	62	1	環境都市工学科	三軸圧縮試験装置
解析室(コンクリート・構造実験室に付属)		1	環境都市工学科	

名 称	面積(m <sup>2</sup> )	室数	場 所	設 備
コンクリート・構造実験室	234	1	環境都市工学科	細孔分布測定装置
準備室・精密計測室	42	1	環境都市工学科	電子セトライト
環境都市工学実験室	42	1	環境都市工学科	
水工・地盤研究室	62	1	環境都市工学科	
計画・材料研究室	62	1	環境都市工学科	
衛生工学実験室	92	1	環境都市工学科	原子吸分光光度計
デザイン・構造研究室	42	1	環境都市工学科	構造物万能試験機
環境・防災研究室	42	1	環境都市工学科	
循環資源工学研究室	42	1	環境都市工学科	
合計	<b>876</b>			
専攻科関係実験室				
生産システム工学実験室	53	1	専攻科棟	
材料・物性実験室	70	1	専攻科棟	スパッタリング装置, ホンシステム
機器分析室	26	1	専攻科棟	
環境・微生物実験室	55	1	専攻科棟	高速液体クロマトグラフィー
低温室(前室含む)	25	1	専攻科棟	恒温恒湿装置
建築設計演習室	55	1	専攻科棟	電子セトライト
情報・制御実験室	50	1	専攻科棟	発振器, スペクトラムアナライザ
合計	<b>334</b>			
地域共同テクノセンター				
テクノラボ	124	1	科学技術教育棟	
合計	<b>124</b>			

③実習工場および工業技術実習センターは以下の通りである。

表 4-5 実習工場の面積および主要設備

名 称	面積(m <sup>2</sup> )	室数	場 所	設 備
第1実習工場	319	1	機械工場	旋盤, フライス盤, 作業台
第2実習工場	136	1	機械工場	マシニングセンター, 形削盤
溶接実習工場+ポンベ室	57	1	機械工場	溶接実習装置
プログラム実習室	34	1	機械工場	電子計算機
工業技術実習センター	200	1	工業技術実習センター	ボール盤, 旋盤, 作業台

④演習室は以下の通りである。

表 4-6 演習室の面積および主要設備

名 称	面積(m <sup>2</sup> )	室数	場 所	設 備
製図室	174	1	機械工学科	ドラフター
CAD室	108	1	機械工学科	パソコン
製図室	154	1	環境都市工学科	
視聴覚・LL室(録音室含む)	165	1	図書館	LL装置

⑤図書館は以下の通りである。

表 4-7 図書館の面積および主要設備

名 称	面積(m <sup>2</sup> )	室数	場 所	設 備
開架書庫・閲覧室	455	1	図書館	閲覧席(一般席80, 雑誌コーナー8)
個人閲覧室	18	1	図書館	
閉架書庫	47	1	図書館	
談話ホール	47	1	図書館	

蔵書数は、和書 69335 冊、洋書 12892 冊の合計 82227 冊である。  
雑誌は、和雑誌 692 種類、洋雑誌 78 種類の合計 770 種類である。  
視聴覚資料として、レコード、CD、ビデオテープ、DVD があり、個人用 AV 設備として視聴覚ブース 3 台がある。また、学習用パソコン 12 台と情報検索用パソコン 2 台を設置している。  
図書の所蔵検索は、館内の蔵書検索用パソコン及び校内の学内 LAN に接続されたパソコンでも可能であり、CD-ROM・DVD-ROM 検索も可能である。

図書館の開館時間は以下の通りであり、学生、職員はもとより、一般にも開放している。

表 4-8 図書館の開館時間

平 日	8:40~20:00(長期休業中は8:40~17:00)
土曜日	10:00~16:00(長期休業中は閉館)

⑥情報関連施設は以下の通りである。

表 4-9 情報関連施設の面積および主要設備

名 称	面積(m <sup>2</sup> )	室数	場 所	設 備
情報教育ルーム	88	1	情報処理センター	パソコン MintWave VID MiNTPC ridottoA 49 台, ソフト RedhatEnterpriseLinuxWS Ver3, WindowsXP, OfficeXP, 一太郎 12, 花子 12, BASIC/98win, StarSuite8, 各種フリーソフト, プリンタ Epson LP-2500 4 台, 周辺機器 液晶プロジェクター, A3 スキャナ
マルチメディアルーム	88	1	情報処理センター	パソコン HP d330SF/CT, IBM ThinkCentre (S50, A50P) 計 22 台, ソフト RedhatEnterpriseLinuxWS Ver3, WindowsXP, Office2003, 一太郎 2004, StarSuite8, 花子 2004, Lotus1-2-3 2001, Mathematica5, ANSYS/ED5.6, 各種フリーソフト, プリンタ Epson LP-7900, LP-8200CPD 計 3 台, 周辺機器 MO, CD-R/RW, DVD-R/RW/RAM, メモリーカードリーダー, 液晶プロジェクター, A4 スキャナ
デジタルラボ	15	1	情報処理センター	
サーバルーム	20	1	情報処理センター	サーバ IBM xSeries(220, 236, 330), pSeries640 等 15 台, ソフト AIX, Windows(NT, 2000, 2003), Linux(Redhat linux, Turbolinux), 各種言語&アプリケーション, プリンタ EPSON LP-9100, MJ-6000C, PM-950C, Canon MP730 計 4 台, 周辺機器 MO, CD-R/RW, DVD-R/RW/RAM, メモリーカードリーダー, テープ, デジタルカメラ, デジタルビデオカメラ等
計算機室/リフレッシュルーム	26	1	専攻科棟	パソコン NEC 4 台, プリンタ 4 台

本校では、情報センターを設置して、校内のネットワーク管理、情報処理教育などを整備し、学生の学習支援等のために開放している。利用時間は 8:30～17:15、また、学生のインターネット等使用の便を図るために、図書館と学生寮内に端末を、それぞれ 12 台、13 台ずつ設置している。

⑦自習・休憩施設は以下の通りである。

表 4-10 自習・休憩施設の面積および主要設備

名 称	面積 (㎡)	室数	場 所	設 備
スカイラウンジ	49	1	管理棟	
オープンスペース	368	1	機械工学科	テーブル, ホワイトボード
オープンスペース	373	1	電気情報工学科棟	テーブル
オープンスペース	210	1	物質工学科	テーブル
オープンスペース	322	1	環境都市工学科	テーブル
リフレッシュルーム+計算機室	26	1	専攻科棟	パソコン
談話コーナー	60	1	厚生会館	テーブル
食堂	180	1	厚生会館	
売店	45	1	厚生会館	
保健室	57	1	厚生会館	
学生相談室	29	1	厚生会館	

また、放課後の教室は、自習・休憩場所として自由に利用させている。

⑧体育施設は以下の通りである。

表 4-11 体育施設

名 称	面積 (㎡)	室数	場 所	備 考
体育室	848	1	第1体育館	
体育器具庫(トレーニングルーム)	89	1	第1体育館	
測定室	44	1	第1体育館	
器具庫	23	1	第1体育館	
研究室	17	1	第1体育館	
体育室	840	1	第2体育館	
器具庫	96	1	第2体育館	
器具庫	21	1	第2体育館	
武道場	422	1	武道場	

上記の他に、陸上競技場(400mトラック)、野球場、プール(25m×8コース)、テニスコート(7面)、ハンドボールコートがある。

(出典 JABEE 自己点検書 本文編 p.82~87)

## 資料 8-1-①-4 「学生 1 人当たりの実験室面積」

表 4-13 学生 1 人当たりの実験室面積

実験室	面積(m <sup>2</sup> )	学生一人当たりの面積(m <sup>2</sup> )
機械工学科実験室	630	14.2
専攻科棟実験室	53	
電気情報工学科	838	20.0
専攻科棟実験室	120	
物質工学科	1,269	28.1
専攻科棟実験室	81	
環境都市工学科	876	19.9
専攻科棟実験室	80	

このように、特別研究、卒業研究を行うには十分な面積がある。

(出典 JABEE 自己点検書 本文編 p.88)

資料 8 - 1 - ① - 5 「平成 19 年度前期 実験室, 演習室等の使用状況」

平成19年度前期 実験室, 演習室等の使用状況

場所	月		火		水		木		金						
◎管理棟, 図書館, 情報処理センター, 階段教室棟, 科学技術教育棟															
情報処理センター (情報教育ルーム)	34	2B	基礎設計演習 II	12	2M	情報処理 II	34	2C	情報処理	56	3C	英語	12	1B	情報処理 I
	56	3B	英語	34	3M	英語							34	3E	英語
	78	2B	情報処理 II	56	1M	情報処理 I							56	専1	応用英語 I
(マルチメディアルーム)	56	生1	生産システム工学特別実験	34	4M	工学実験	5-8	生1	生産システム工学特別実験				56	5M	工学実験
第1ゼミ室				78	3年	教養ゼミナール	56	1EC	芸術						
第2ゼミ室							56	2EC	芸術						
大講義室	12	4年	法と経済												
合併教室	12	4年	社会と文化	78	3年	教養ゼミナール	34	5C	有機工業化学						
LL教室	34	1B	英語LL演習	12	1M	英語LL演習							12	1C	英語LL演習
	56	1E	英語LL演習	78	3年	教養ゼミナール									
化学実験室	56	2B	化学 II	12	1E	化学 I	12	1B	化学 I	34	2M	化学 II	12	2E	化学 II
				34	1M	化学 I							34	1E	化学 I
				34	1B	化学 I									
				78	3年	教養ゼミナール							56	1M	化学 I
物理実験室	56	1C	生物	12	3C	応用物理									
	56	1E	生物	56	3B	応用物理									
301教室	12	5年	独語 II	78	3年	教養ゼミナール				12	5C	遺伝子工学	12	5C	タンパク質工学
テクノコミュニティ	12	専1	応用力学	12	生1	エネルギー変換工学	12	専1	量子力学	12	専1	システム情報工学			
	34	生2	オプトエレクトロニクス	34	生2	磁気工学	34	専1	環境科学	34	専1	熱・統計力学			
◎機械工学科															
実習工場	56	1M	工作実習 I	34	1C	工作実習				56	2M	工作実習	78	1B	工作実習
機械製図室	34	2M	設計製図	34	1E	電気製図	12	3M	設計製図				12	1M	設計製図
													34	5M	設計製図
CAD室	56	生1	生産システム工学特別実験				5-8	生1	生産システム工学特別実験				12	3M	コンピュータ製図
													56	5M	工学実験
機械工学実験室										56	4M	工学実験			
材料力学実験室	56	生1	生産システム工学特別実験				5-8	生1	生産システム工学特別実験	56	4M	工学実験	56	5M	工学実験
流体力学実験室	56	生1	生産システム工学特別実験				5-8	生1	生産システム工学特別実験				56	5M	工学実験
精密加工・精密測定室										56	4M	工学実験			
創造工房													56	5M	工学実験
熱機関実験室	56	生1	生産システム工学特別実験				5-8	生1	生産システム工学特別実験				56	5M	工学実験
生産システム実験室										56	4M	工学実験			
◎電気情報工学科															
コンピュータールーム	56	3E	実験実習	12	2E	情報処理応用	34	5E	計算機応用	34	4E	コンピュータグラフィックス特論	12	1E	情報処理基礎
				34	1E	電気製図	5-8	生1	生産システム工学特別実験	34	5E	電気設計	34	5E	電子回路
				56	4E	実験実習				56	2E	基礎工学実験	56	5E	実験実習
電気計測実験室	56	3E	実験実習	56	4E	実験実習	5-8	生1	生産システム工学特別実験	78	4E	工学研究	56	5E	実験実習
電気機械実験室	56	3E	実験実習	56	4E	実験実習	5-8	生1	生産システム工学特別実験	56	2E	基礎工学実験	56	5E	実験実習
電気工作実習室										56	2E	基礎工学実験			
◎物質工学科															
無機・有機化学実験室	56	3C	無機化学実験				5-8	環1	環境システム工学特別実験				56	3C	有機化学実験
分析化学実験室							5-8	環1	環境システム工学特別実験	56	2C	分析化学実験			
物理化学実験室							5-8	環1	環境システム工学特別実験				3-8	4C	物理化学実験
化学工学実験室							5-8	環1	環境システム工学特別実験						
物質工学実験室	5-8	5C	物質工学実験	5-8	5C	物質工学実験									
微生物工学実験室	5-8	5C	微生物工学実験	5-8	5C	微生物工学実験	5-8	環1	環境システム工学特別実験						
生物工学実験室	5-8	5C	生物工学実験	5-8	5C	生物工学実験	5-8	環1	環境システム工学特別実験						
◎環境都市工学科															
製図室	34	4B	環境都市デザイン演習 I	56	1B	意匠設計 I				12	5B	環境都市デザイン演習 II			
										78	2B	意匠設計 II			
衛生工学実験室	56	環1	環境システム工学特別実験				5-8	環1	環境システム工学特別実験	56	5B	環境都市工学実験実習			
コンクリート工学実験室	56	環1	環境システム工学特別実験	5-8	4B	環境都市工学実験実習	5-8	環1	環境システム工学特別実験	56	5B	環境都市工学実験実習			
水理実験室	56	環1	環境システム工学特別実験	5-8	4B	環境都市工学実験実習	5-8	環1	環境システム工学特別実験						
地盤工学実験室	56	環1	環境システム工学特別実験	5-8	4B	環境都市工学実験実習	5-8	環1	環境システム工学特別実験						

(出典 平成 19 年度授業時間割表 (前期) から作表)

資料 8 - 1 - ① - 6 「障害者用設備」



(出典 総務課資料)



資料 8-1-①-7 「学生集う快適空間 (新聞記事)」

き が け (第3種郵便物認可)



光があふれる澄り麗下。天気の良い日は、まるで、光の橋。▲



▶木製の丸いテーブルとおしゃれなデザインのスカイラウンジ

## 学生集う 快適空間

近年改装された秋田高専には、学生たちが集う最適なスポットがたくさんある。その中のいくつかを紹介。

**スカイラウンジ**  
休みの時間の学生たちのくつろぎ空間。ここにある自動販売機の一番人気のココアを飲みながら眺める空と山は格別。女子学生が座っておしゃべりする様子はまるでカフェ。テストが近づくと快適な学習スペースへと

変身。する。▲  
「澄り麗下」  
校舎と校舎を結ぶ渡り廊下が数箇所ある。中でも目に留まるのが、機械科棟と電気科棟を結ぶ、光あふれる真っ白な廊下。天気や時間によって空を張りの聲が明るく爽快

変える。とても幻想的で心が癒やされる。▲  
「吹き抜け」  
一―二年生までの教室がある科学技術棟。四階建ての最上階まで吹き抜けになっている。ガラス張りの壁が明るく爽快

「コンクリート壁」  
科学技術棟にある打ちっ放しのコンクリート壁。ヒンヤリとした肌触りは、特に夏場に人気

▲玄関を入ると、一気に最上階まで吹き抜けが続く科学技術棟。そこは光が降り注ぐ明るい空間

▲科学技術棟にある打ちっ放しのコンクリート壁。ヒンヤリとした肌触りは、特に夏場に人気

# 発信

秋田高専生の5年間は、厳しい授業、実験、実習の連続だが、卒業生への企業、大学からの評価は高く、ほぼ希望通りの就職、進学ができる。

卒業生の半分は就職だが、県内外の企業からの求人情率は約20倍。

また、大学への進学も盛んだ。

**厳しい「授業」「実習」…  
企業、大学から高い評価**

過去3年間の主な進学先は、秋田大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、新潟大学、岩手大学、

▼住所 秋田市飯島文京町1の1

(出典 秋田魁新報 平成 19 年 5 月 4 日 19 面)

**観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。**

(観点に係る状況)

観点に係る審議は、情報処理センター専門委員会で行われ、規則が定められている(資料8-1-②-1)。委員会の構成員は、教育内容・教育方法ニーズを把握するために、全学科・学系から代表教員各1名、セキュリティ管理のために、さらに総務・学生課の代表職員各1名、および情報処理センターの技術職員1名としている(資料8-1-②-2)。

資料 8-1-②-1 「秋田工業高等専門学校情報処理センター規則(抜粋)」

(目的)

第2条 センターは、秋田工業高等専門学校(以下「本校」という。)学生に対する情報処理教育、職員の学術研究及び本校運営に必要な校務の利用に供することを目的とする。

(業務)

第3条 センターにおける業務は、次のとおりとする。

- (1)教育用電子計算機、パーソナルコンピュータ及び情報ネットワーク(以下「電子計算機システム」という。)の管理運営及び保守に関すること。
- (2)電子計算機システムの利用に伴う調査、研究に関すること。
- (3)情報処理教育に関すること。
- (4)その他情報センターに関すること。

(専門委員会)

第5条 情報教育に関する事項、電子計算機の将来構想に関する事項、情報ネットワークに関する事項、情報セキュリティに関する事項の協議及び連絡調整等を図るため、センター専門委員会(以下「専門委員会」という。)を置く。

(略)

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

資料 8-1-②-2 「情報処理センター専門委員会の構成員」

- 委員長 センター長 大島 静夫(自然科学系)  
 委員 教務主事補 西野 智路(物質工学科)  
 委員 今田 良徳(機械工学科)  
 委員 竹下 大樹(電気情報工学科)  
 委員 野中 利瀬弘(物質工学科)  
 委員 日野 智(環境都市工学科)  
 委員 水野 麗(人文科学系)  
 委員 佐藤 彰彦(自然科学系)  
 委員 岡部 克利(技術教育支援センター 情報処理センター技術職員)  
 委員 佐藤 尚洋(総務課 総務係長)  
 委員 丸山 貴生(学生課 教務担当)

(出典 平成19年度役職教員・各種委員会委員等名簿 p.19)

観点に係る情報ネットワークに関するニーズは、情報処理センター専門委員会で現状の把握がなされ、審議されている。平成 18 年度は、情報処理教育に関しては「情報モラル教育の導入」と「e-Learning システムの導入」、情報セキュリティに関しては「迷惑メール対策のシステムの導入」、設備に関しては「A1 サイズインクジェットプリンタの導入」、利用環境に関しては「時間外利用制度の導入」を実施している（資料 8-1-②-3）。

情報処理センター内に「情報処理センター投書箱」を設け（資料 8-1-②-4）、学生のニーズの収集に努めている。

資料 8-1-②-3 「平成 18 年度第 1 回 情報処理センター専門委員会議事録」

日 時 平成18年6月26日（月） 16:45 ～ 17:20

場 所 会議室A

出席者 委員長 大島静夫（情報処理センター長）

委 員 森本真理，木澤悟，竹下大樹，西野智路，日野智，水野麗，  
佐藤尚洋，藤田大和，丸山貴生，神智也，岡部克利

1. 平成18年度 情報処理センター予算について委員長（情報処理センター長）から以下の説明があった。

1) (略)

2) 老朽化し買換の必要があった学生用の椅子50脚（情報教育ルーム用）や、教職員から要望があったポスター印刷等が出来る大判インクジェットプリンタ（A1サイズ）の購入を予定している。

2. 情報モラル教育について

今年度から新1年生に対して情報モラル教育の講義を実施した。今後も継続しこれから入学する学生に対して毎年実施予定である。また、在校生に対しても、講義で使用したテキストを配布し、情報モラル教育の徹底を図りたい。

3. 情報セキュリティ対策について

現在、スパムメール除去サーバの利用者のスパムメールは隔離され、利用者が削除する設定であるが、ブラックリストとインテンション解析（スパムメールデータベースを参照）にて隔離されたスパムメールは、自動削除することにしたい。新設定の除去サーバの利用に関しては、8月までに利用者にもその内容を伝え、利用の意志を最終確認する予定である。

4. 情報処理センターの時間外利用について

今年から英語科でe-Learningを利用した授業を、3年生と専攻科1年生を対象に行っている。数学科でも補助授業としてパソコンを利用した学習環境を年内に導入予定である。

さらにJABEEにおける自学自習を促すために、情報処理センターの時間外解放を9月から行う予定である（月・水・金 17:15-20:00 休業期間除く）。

サービス要員として、4年生・専攻科1年生の学生バイト(女子も可)を採用する予定である。

5. 秋田高専公式ホームページの更新について

秋田高専ホームページのリニューアルを予定している。これは、訪問者がより簡単に欲しい情報を選択できるようにするためである。

以上

(出典 平成 18 年度第 1 回 情報処理センター専門委員会議事要旨)

## 資料 8-1-②-4 「情報処理センター投書箱」

『情報処理センター投書箱』記入用紙	
情報処理センターに関するご意見やご要望等をお聞かせ下さい 【 記入後はセンターロビー設置の投書箱に投函願います 】	
記入年月日	平成 年 月 日
所 属	本科学学生( 年) / 専攻科学生( 年)
ご意見 ご要望	
※回答が必要な方は、下記のご記入もお願い致します	
氏名:	
メール:	(携帯可)

(出典 「情報処理センター投書箱」記入用紙)

情報資産のセキュリティに関する包括的な規定として、「秋田工業高等専門学校情報セキュリティポリシー」を定め、高度な安全性を確保するための体制を整備している(資料8-1-②-5)。

## 資料 8-1-②-5 「秋田工業高等専門学校情報セキュリティポリシー (抜粋)」

## 1. 情報セキュリティの基本方針

高度情報社会において、秋田工業高等専門学校(以下「本校」という。)が工業技術者の教育活動及び研究活動を高めるためには、本校の情報基盤の整備に加えて、情報資産のセキュリティを確保することが不可欠である。このため、本校の情報資産を守るため、「情報セキュリティポリシーに関するガイドライン(平成12年7月18日内閣安全保障・危機管理室、情報セキュリティ対策推進会議決定)(以下「ガイドライン」という。)」を踏まえ、本校における継続的かつ安定的な教育研究業務の実施を確保するとともに、国民の安全、安心及び信頼の下に本校にふさわしいセキュリティ水準を達成するよう、「秋田工業高等専門学校情報セキュリティポリシー」(以下「ポリシー」という)を策定し、情報セキュリティの確保に最大限取り組むこととする。また、本校の全ての職員等は、この目的を果たすためセキュリティポリシーの実施に責任を負うとともに、これを尊重し、遵守しなければならない。  
(略)

(出典 秋田工業高等専門学校情報セキュリティポリシー)

情報処理センターには技術職員を1名配置し、情報ネットワークの管理として、コンピュータウイルス情報の監視および利用者への周知、ファイアウォール・メールサーバの保守などを行っている。これらの事項の関連情報は、情報処理センター発行の「いんぷお」として、全教職員に配布し周知されている（資料8-1-②-6）。

教育用パソコンは、二つのパソコン室に整備されている。情報教育ルームには、Windows XP と Linux を OS とするパソコン 50 台、マルチメディアルームには、Windows XP と Linux を OS とするパソコン 22 台を備えている。これらの各パソコン室は、情報モラル教育、プログラミング教育、語学教育（e-Learning）、CAD 教育、実験実習、および卒業研究などに利用されている（資料8-1-②-7）。

各パソコン室には、教育効果を上げるために大型プロジェクタを準備し、教員の操作画面が見えるようにしている。これらの全てのネットワーク関連の設備は、本科学生および専攻科学生の情報教育等に活用されている。

また、教職員用のグループウェアとしては、ロータスノートが稼働しており、全教職員に ID を発行し、スケジュール管理、校内連絡、文書管理などに利用されている（資料8-1-②-8）。

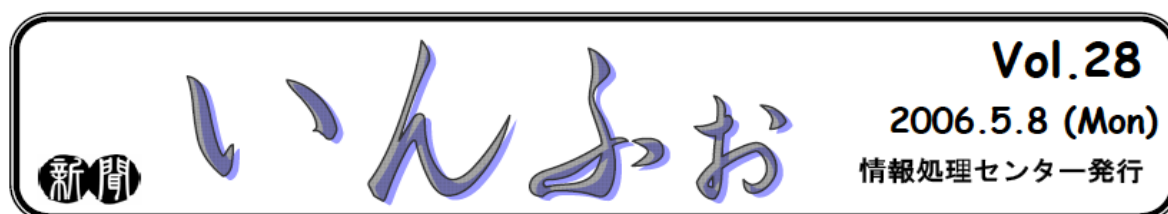
本校の LAN は、学術回線の秋田 NOC（秋田大学）を経由してインターネットに接続されており、平成 18 年 2 月 28 日に 1.5 Mbps から 10 Mbps へ、その通信速度を向上させている（資料8-1-②-9）。

本校で IP アドレスを有しネットワーク接続可能なパソコンは、機械工学科 112 台、電気情報工学科 153 台、物質工学科 52 台、環境都市工学科 80 台、事務部 135 台で合計 610 台である。さらに、2つのパソコン室（72 台）、図書館（12 台）や学寮（13 台）に設置されたパソコンも合わせると、その数は 700 台を超える。また、各教室をはじめとする校内のほぼ全ての部屋に情報コンセントが設置され、どこからでも校内 LAN を使用することができるよう、ネットワーク環境が整備されている（資料8-1-②-10）。

二つのパソコン室は、平日は 8:30～19:15 まで使用可能であり、平成 17 年度において年間利用者数は 17,437 人、月平均利用者数は 1,453 人である（資料8-1-②-11）。また、自学自習の環境を提供することを目的に、授業での使用がない場合はパソコン室を使用可能としており、さらに図書館と学生寮内に端末コーナーを設け、学生の情報処理教育の支援に努めている。

学生のネットワークトラブル防止に対する取り組みとして、平成 18 年 3 月に情報モラル教育に関する講義資料（資料8-1-②-12）を作成し、平成 18 年 4 月から第 1 学年を対象に、情報処理担当教員が情報モラルについての講義を 1 回行うことにしている（資料8-1-②-13）。

このように、本校では、教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理のもとに適切に整備され、有効に活用されている。



情報処理センター長 大島 静夫  
センター係員 神 & 岡部

## 迷惑メール対策システムの導入

ここ数年、秋田高専でも「迷惑(スパム)メール」の受信件数が大幅に増加しております。このような多くの迷惑メールを受信することにより、必要なメールと迷惑メールを自分で判断して分類し、必要なメールを探し出すのに膨大な時間がかかり、重要なメールを見落とす危険も大きく、業務効率を著しく低下させていました。このような状況でしたので、皆様から対策の要望が多く寄せられ、学校としてきちんとした対応が強く求められておりましたが、この度、関係者各位のご協力により「迷惑メール対策システム」を導入することになりました。これにより、迷惑メールをサーバ側で自動検知および隔離が可能となり、自分でメールのフィルタ設定やソフトのインストールが不要となり、メール分類の負担が軽減されることが期待できます。

## 平成18年5月9日(火)運用開始

設定および利用方法などの詳細につきましては、別紙の説明書を参照して下さい。  
なお、ご利用に際してご不明な点がございましたら、センター(神)までご連絡下さい。

### 注意事項

- ★ 迷惑メールの自動検知&隔離を有効にするには、各自で設定操作が必要です。この操作を行わないと検知&隔離は行われません。(初期設定は無効になっています)
- ★ 迷惑メールの検知率は、必ずしも 100% ではありません。未検知や誤検知もありますので、ご注意下さい。
- ★ 検知された迷惑メールは、サーバ側の個々の隔離ボックスに一時保管(30日間)されますが、最終確認や管理(再送信&削除)は各自で責任を持って行って下さい。


「メーリングリスト」も迷惑メールの自動検知&隔離を有効にすることが可能です！

## メール以外のウイルスにご注意を

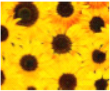
平成18年3月に、専用回線が「1.5M」から「10M」へ増速されましたが、これにより、「ファイアウォール」が能力不足となり、メール以外のウイルスチェックができないという問題が発生しています。「1.5M」の時は、ファイアウォールにて、「WEB」、「FTP」、「スパイウェア」などのウイルスチェック機能が順調に稼働していましたが、回線が「10M」に増速されてからは、ファイアウォールを通過するデータ量が膨大となり、ウイルスチェックの処理に時間がかかり、通信速度が半減され極端に遅くなりました。このような状況でしたので、現在、通信スピードを重視して、この機能を稼働させていない(停止)状況です。これにより、電子メール以外からのウイルス侵入の危険が発生していますので、各自でご注意下さいますよう、お願い致します。

電子メールのウイルス対策は、従来どおり、ファイアウォールとは別サーバにて稼働中です！

資料 8-1-②-7 「情報処理センター使用時間割表（前期）平成 19 年度」



## 情報処理センター使用時間割表(前期)平成19年度



閉館時間 ☆情報処理センター /月～金→午前8:30～午後7:00(長期休業中、テスト期間は午後5:15)  
 ☆図書館 /月～金→午前8:30～午後8:00 /土→午前10:00～午後4:00

時間 曜日	1 8:45 ～ 9:40	2 9:40 ～ 10:25	3 10:35 ～ 11:25	4 11:25 ～ 12:15	5 13:05 ～ 13:55	6 13:55 ～ 14:45	7 14:55 ～ 15:45	8 15:45 ～ 16:35
月			基礎設計演習Ⅱ (2B) 水田・恒松 情報教育		英語 (3B) 古河 情報教育		情報処理Ⅱ (2B) 金 情報教育	
火	情報処理Ⅱ (2M) 小林義和 情報教育		英語 (3M) 菅原 情報教育		情報処理Ⅰ (1M) 木澤 情報教育		教養ゼミナール (3年) 水野 マルチメディア	
水			情報処理 (2C) 昌子 情報教育		工学実験(4M) 情報教育・マルチメディア 火曜日 5-7 時間目			
木					英語 (3C) チエケツ 情報教育			
金	情報処理Ⅰ (1B) 角 情報教育		英語 (3E) 菅原 情報教育		応用英語Ⅰ (専1) 菅原 情報教育		工学実験(5M) マルチメディア 金曜日 5-7 時間目	

情報教育:情報教育ルーム マルチメディア:マルチメディアルーム 平成 19 年 4 月 改訂

(出典 情報処理センター使用時間割表（前期）平成 19 年度)

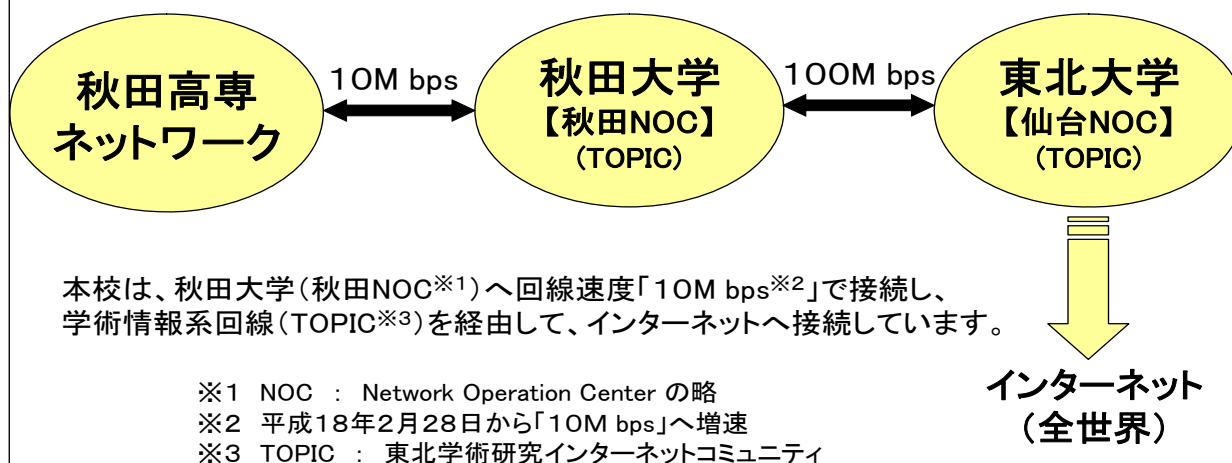
資料 8-1-②-8 「グループウェア ロータスノーツ」



(出典 秋田高専グループウェア)

資料 8-1-②-9 「インターネット外部接続構成図」

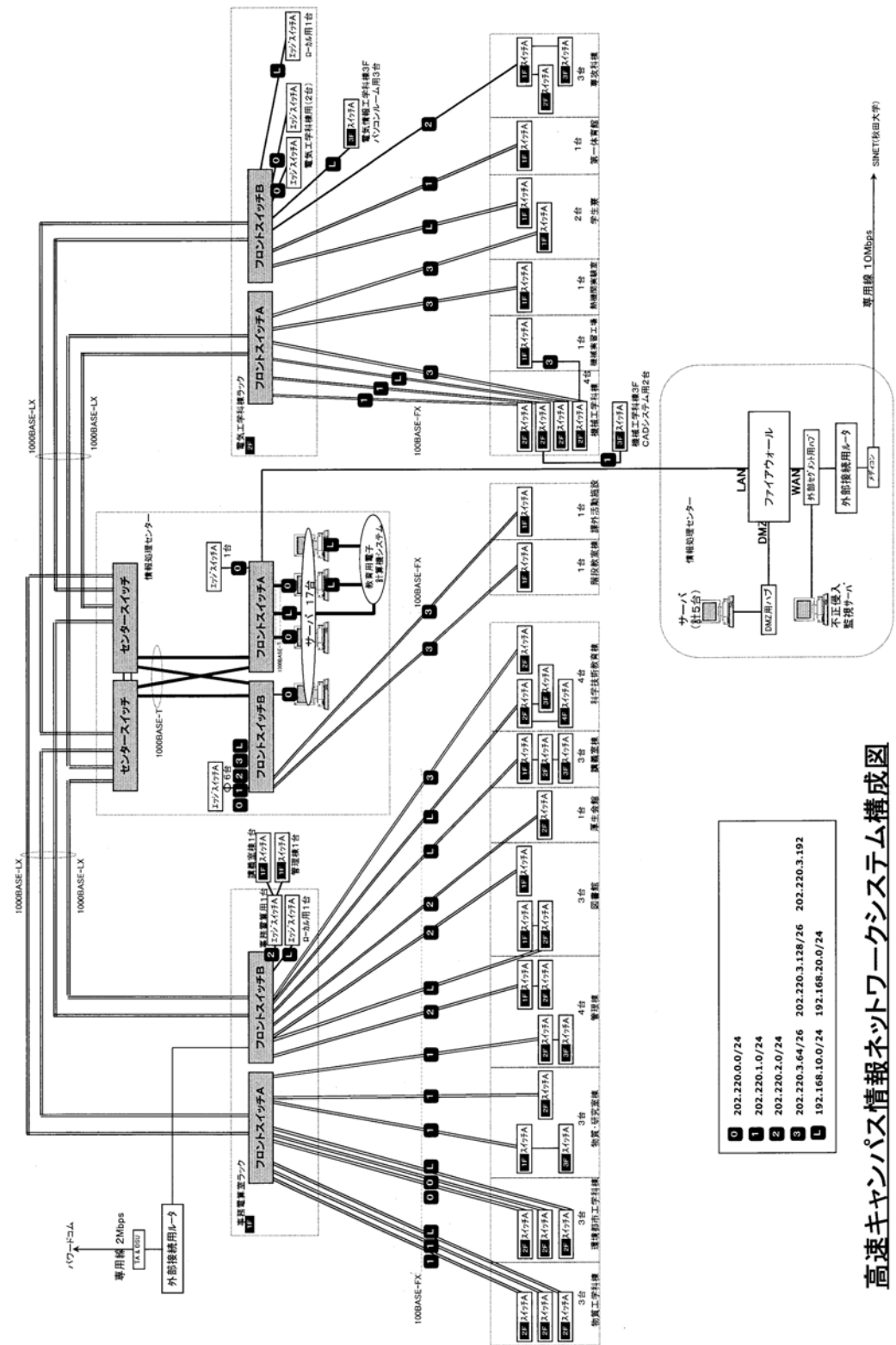
## 秋田高専インターネット接続図



(出典 秋田高専グループウェア (情報処理センター) )



資料 8-1-②-10 「高速キャンパスネットワークシステム構成図」



高速キャンパス情報ネットワークシステム構成図

(出典 秋田高専グループウェア (情報処理センター))

## 資料 8-1-②-11 「情報処理センター利用者数（2室合計）」

平成(年度)	15	16	17
4月	1,047	927	1,035
5月	1,350	1,218	1,591
6月	1,224	1,552	1,777
7月	1,060	958	1,504
8月	646	618	737
9月	1,129	1,162	1,998
10月	1,608	1,450	1,422
11月	1,257	1,552	1,757
12月	910	1,461	1,263
1月	968	1,569	1,591
2月	1,461	1,715	2,011
3月	364	556	751
合計	13,024	14,738	17,437

(出典 秋田高専グループウェア (情報処理センター))

## 資料 8-1-②-12 「情報モラル 講義資料 抜粋」

秋田工業高等専門学校 情報モラル講義資料作成委員会

山本 昌志, 木澤 悟, 佐藤 彰彦, 佐藤 悟

## 概要

本テキストは、情報関係の第一回目の講義で使用する。これと PowerPoint を用いて、新入生にコンピューターや携帯電話のような情報機器を使うときの基本的なモラルを説明する。情報モラルの取り扱う範囲は広いが、特に最初に注意すべきことを中心にまとめている。情報モラルを学習する理由と現代のネット社会での情報の特徴を最初に述べ、重要と思われる具体的なモラルの内容を説明している。ここで取り上げている情報モラルは、情報の信憑性、出会い系サイト、著作権、個人情報の流出、不正アクセス、パスワード、電子メールと携帯電話のネチケット、ネット中毒に関することである。100 分の講義 1 回で全てを述べることは不可能なので、講師が重要と考える内容を選択することになる。あるいは、2 回に分けてもよい。本テキストは毎年改訂し、少しずつ良いものに仕上げたい。

1. 本日の学習内容
  2. なぜ情報モラルを学習するか?
  3. 現代の情報の特徴
  4. 情報モラル
    - 4.1 情報受信
      - 4.1.1 情報の信憑性
      - 4.1.2 出会い系サイト
    - 4.2 情報発信
      - 4.2.1 著作権
      - 4.2.2 個人情報の流出
    - 4.3 セキュリティ
      - 4.3.1 不正アクセス
      - 4.3.2 パスワードの不正使用
    - 4.4 ネチケット
      - 4.4.1 電子メール
      - 4.4.2 携帯電話
  - 4.5 心身の健康
    - 4.5.1 生活習慣
5. まとめ

(略)

(出典 情報モラル講義資料)

## 資料 8 - 1 - ② - 13 「平成 19 年度 授業計画」

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
情報処理 I Information Processing I	必修	1年	M	木澤 悟	1	前期週 2 時間 (合計 30 時間)	
[教材] 教科書: 「学生のための C」, 内山 章夫, 他 東京電機大学出版局 自主教材: 自作プリント							
[授業の目標と概要] 言語Cを通じてコンピュータとは何か, どのような機能を持ったものなのかを認識できる能力とコンピュータを使いこなせる能力を修得する。							
[授業の進め方] 毎時間, コンピュータを利用した演習形式で行う。理解度を深めるためにレポートの提出を求めることもあります。中間試験で合格点を取れない場合は, 再試験を行う場合がある。							
[授業内容]							
授業項目		時間	内容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する				
1. コンピュータの基礎							
(1) 情報モラル		1	メールやインターネットを利用する場合の約束事を理解できる				
2. Windows 入門							
(1) PC の操作		1	PC を操作することができる				
(2) Explorer, メール の操作		1	メールやインターネットを利用する場合の約束事を理解できる				
3. 言語 C							
(1) エディタの操作		2	コマンドの入力, データのセーブができる				
(2) 入出力		2	コマンドを利用して CRT に文字を出力できる。				
(3) 四則演算		2	コマンドを利用して四則演算ができる				
(4) 条件文		3	IF 文を用いたプログラムが組める				
		3					
前期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		1	中間試験の解説と解答				
(5) 繰り返し1		2	for 文を用いたプログラムが組める				
(6) 繰り返し2		2	while 文を用いたプログラムが組める				
(7) 組み込み関数		3	組み込み関数を利用できる				
(8) 一次元配列		3	一次元配列を使ったプログラムを作成できる				
(9) 二次元配列		3	二次元配列を使ったプログラムを作成できる				
前期末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答と授業アンケート		2	前期末試験の解説と解答, 授業アンケート, 本授業のまとめ				
[到達目標] 各自がコンピュータを十分に扱えることを目標とする。情報処理にかかわらず, 問題解決をする手段の一つとしてコンピュータを効果的に活用できるようになること。							
[評価方法] 合格点は50点である。試験(中間試験, 前期末試験)を90%, 課題を10%で評価する。 学年総合評価 = $0.9 \times (\text{前期中間試験} + \text{前期末試験}) / 2 + \text{課題点}$ 特に, レポート・宿題の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。							
[関連科目] 情報処理(2年), 情報処理(3年)							
[学習上の注意] 失敗を恐れず, 情報処理センタのコンピュータをどんどん使って欲しい。ただし, 利用に当たっては利用規則を遵守すること							
秋田高専学習・教育目標		B-1		JABEE 基準			

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
情報処理基礎 Basic Information Processing	必修	1年	E	竹下大樹	2	通年週2時間 (合計60時間)	
[教材] 教科書：「C言語によるプログラミング 基礎編 第2版」 内田智史 監修 オーム社 その他： 自製プリントの配布							
[授業の目標と概要] C言語を例にとりて、コンピュータプログラミングの基礎を学習する。コンピュータの使い方、およびプログラム作成の基礎事項を修得する。							
[授業の進め方] 講義形式、および演習形式で行う。必要に応じて適宜小テストを実施し、また演習課題、レポート、宿題を課す。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
1 PC基本操作とプログラミング基礎		1	情報機器を使うときの基本的なモラルが理解できる。				
(1) 情報モラル		1	C言語を使った基本的なプログラムの作成と実行ができる。				
(2) プログラミング基礎		2					
前期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		1	前期中間試験の解説と解答				
2 C言語プログラミング		5	変数が理解でき、式を用いたプログラムが書ける。				
(1) 変数と式		8	条件判断処理を用いたプログラムが書ける。				
(2) 制御の流れ1			繰り返し処理を用いたプログラムが書ける。				
前期末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	前期末試験の解説と解答				
(3) 制御の流れ2		4	条件判断処理と繰り返し処理を用いたプログラムが書ける。				
(4) 関数		10	無条件分岐、条件演算子を用いたプログラムが書ける。 関数の有用性が理解でき、プログラムが書ける。				
後期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		1	後期中間試験の解説と解答				
(5) 配列		7	配列を使うことができる。				
(6) 文字列		6	文字列を取り扱うことができる。				
学年末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	学年末試験の解説と解答、本授業のまとめ、授業アンケート				
[到達目標] C言語の文法を一通り理解し、初等的なデータ構造やアルゴリズムを使ったプログラムが書けるようになること。情報処理や数学、電気・電子工学の問題にそれが適用できるようになること。							
[評価方法] 合格点は50点である。各中間、期末の成績は、試験結果70%、小テスト・演習課題・レポート・宿題を30%で評価する。特に、レポート・宿題の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績 + 後期中間成績 + 学年末成績) / 4							
[関連科目] 情報処理応用、コンピュータ基礎、ソフトウェア工学、コンピュータシミュレーション							
[学習上の注意] プログラムの動作を理解するためには、1行1行自分の頭で根気強く考え、その流れを理解することが重要である。そうして、理解した後、実際に自らプログラムを書き、その技術を習得しなければならない。							
秋田高専学習・教育目標		B-2	JABEE基準				

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
情報処理 Information Processing	必修	1年	C	西野 智路	1	後期週2時間 (合計30時間)	
[教材] 自製プリントの配布							
[授業の目標と概要] コンピュータ操作やプログラミングの基本技術を学習することにより、問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための考え方や方法を修得する。							
[授業の進め方] 講義形式および実習形式でおこなう。必要に応じて適宜小テストを実施し、またレポートを課す。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授業項目		時間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
1. 情報モラル		1	情報技術に関するモラルが理解できる。				
2. BASICの操作		2	BASICの操作がわかる。				
3. データの入出力							
(1) 変数		2	変数の取り扱い方がわかる。				
(2) データの入出力		2	入出力命令の使い方がわかる。				
4. 繰り返し処理		4	繰り返し処理の使い方がわかる。				
5. 関数		2	関数の定義の仕方と使い方がわかる。				
後期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		1	前期中間試験の解説と解答				
6. グラフィックス							
(1) 線		1	グラフィック機能を用いて線を表示することができる。				
(2) 関数		2	関数を定義し、グラフ表示することができる。				
7. 条件分岐							
(1) アルゴリズム		2	アルゴリズムを用いたプログラムをつくることができる。				
(2) フローチャート		4	フローチャートを読み書きすることができる。				
8. ファイルの処理		2	ファイルの読み書きをすることができる。				
9. 配列		2	配列を用いたプログラムをつくることができる。				
学年末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	前期末試験の解説と解答、本授業のまとめ、授業アンケート				
[到達目標] パソコンの基本的操作ができること。BASIC言語を利用してプログラムの基本技術を身につけることができるようになること。							
[評価方法] 合格点は50点である。中間、期末の成績は、試験結果80%、小テスト・レポートを20%で評価する。とくに、レポートの未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 学年総合成績 = (後期中間成績 + 学年末成績) / 2							
[関連科目] 情報処理 (2年)							
[学習上の注意] 演習問題を通じてパソコンの基本操作とプログラム作成に慣れ、自分の力でプログラムするのがポイントである。							
秋田高専学習・教育目標		B-1		JABEE基準			

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
情報処理I Information Processing	必修	1年	B	金 主 角 鉦 哲	2	通年週2時間 (合計60時間)	
[教材] 教科書:「情報B 情報世界のしくみ」、坂村健、清水謙太郎、越塚登著、数研出版 補助教科書:「ザ・BASIC/98」、戸川隼人著、サイエンス社、その他資料を配布する							
[授業の目標と概要] 多方面から要求される情報処理能力に対応するため、その根幹となるコンピュータを有効に利用できる基本的な技量と、動作原理に関する知識を習得する。							
[授業の進め方] 講義と演習室での実習を併行して行う。適宜、小テストの実施・レポートの提出を求める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
1. 情報の表現方法							
(1) 情報とコンピュータモラル		3	情報社会におけるコンピュータとモラルがわかる。				
(2) 情報の表現		4	情報の表現と変換が理解できる。				
(3) 情報の伝達と記録		4	デジタル情報の伝達と記録の特徴がわかる。				
(4) 情報技術を利用した問題解決		2	情報技術による問題解決法、その信頼度と検証法がわかる。				
前期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解答と解説		1	中間試験の解答と解説。				
2. コンピュータによる情報処理							
(1) ハードウェア		3	コンピュータの基本構成とプログラムの仕組みが理解できる。				
(2) ソフトウェア		4	ソフトウェア、OS、言語プロセッサ等が理解できる。				
(3) コンピュータでの情報処理の特徴		6	PCによる情報処理の特徴を具体的に説明できる。				
(4) コンピュータと情報通信			コンピュータの情報通信方式が理解できる。				
前期期末試験		あり	上記項目について学習した内容の到達度を確認する。				
試験の解答と解説		1	前期期末試験の解答と解説。				
3. BASICによるプログラミング							
(1) 入出力と計算		3	入出力と計算の違いが説明できる。				
(2) 繰り返し		4	繰り返し処理を用いてプログラムを組むことができる。				
(3) 添え字付変数		4	添え字付変数のしくみと有効性を説明できる。				
(4) 判断と分岐		2	判断分岐処理を用いてプログラムを組むことができる。				
後期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解答と解説		1	中間試験の解答と解説。				
(5) 文字処理		4	数字と文字の処理方法の違いが説明できる。				
(6) グラフ表示		6	グラフ表示を利用したプログラムを組むことができる。				
(7) 行列の計算		2	行列の計算をプログラムを組むことによって実行できる。				
学年期末試験		あり	上記項目について学習した内容の到達度を確認する。				
試験の解答と解説		2	学年末試験の解答と解説、本授業のまとめ。授業アンケート				
[到達目標] 多方面から要求される情報処理能力に対応するため、その根幹に位置するコンピュータを有効に利用するためのコンピュータの基本的技量と動作原理を理解し、有効に使いこなせること。							
[評価方法] 合格点は50点である。前期末と学年末(後期)の成績はそれぞれの中間と期末の試験結果を70%、小テスト、レポート、演習課題を30%で評価する。学年総合評価=(前期末試験+学年末試験)/2							
[関連科目] 基礎数学I・II・III							
[学習上の注意] 座学で学んだ内容をパソコン演習室で再確認すること。レポート提出に責任を持ち、期日を厳守すること。							
秋田高専学習・教育目標		B-1		JABEE基準			

(分析結果とその根拠理由)

情報処理センター専門委員会の審議などにより、学生のニーズが適切に把握されている。また、セキュリティポリシーが定められ、迷惑メール防止システムの導入など、常に情報ネットワークの適切な管理を行っている。教室を含む校内のほぼ全ての部屋に情報コンセントが設置され、校内 LAN がどこからでも使用できるよう、情報ネットワークが整備されている。二つのパソコン室等に設置されたパソコンは、講義の行われていない場合は利用可能としており、利用者の便宜が図られている。パソコン室の利用者数は月平均約 1,500 名である。また、ネットワークトラブル防止の観点から、情報モラル教育を導入している。

以上のことから、本校では情報ネットワークが適切に整備され、有効に活用されているといえる。

**観点 8-2-①： 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。**

(観点に係る状況)

図書館は，閲覧室，開架書架のほか，学術雑誌を収容する電動書架，参考図書書架，資格本およびシラバスコーナーが整備され，ビデオ，CDなどの視聴覚資料も所蔵しており，閲覧可能な状態になっている（資料 8-2-①-1）。

平成 19 年 3 月現在の蔵書数は，資料 8-2-①-2 に示すように，和書 69,840 冊，洋書 12,931 冊の合計 82,771 冊である。分類別冊数，受入冊数ともに自然科学，工学に関する図書が多くなっている。図書館内の蔵書は，蔵書検索システム OPAC により，利用者は Web ブラウザから検索できるようになっている。

また，図書館のホームページから文献検索データベースとして，GeNii 学術コンテンツポータル，KANON，JDream の 3 つを利用することができ，SD，ACS，AIP/APS 等の電子ジャーナルを閲覧することができる。館内にない資料は，文献複写サービスを利用することにより入手可能である。

平成 18 年度の利用者数は 59,820 名であり（前述資料 7-1-②-2），貸出冊数は 6,267 冊であった（資料 8-2-①-3）。過去 5 年間の貸出冊数と人数の推移から，利用状況は一定の水準を維持している。

図書の整備方針は，図書館運営委員会が中心となって決定する。授業または研究に使う図書および資料を，学生向けの学科選定図書として学科ごとに教員から選定してもらい，各学科，学系の各専門分野の授業および研究に関する図書が系統的に整備されている。学科選定図書申請時には，図書の用途および請求理由を明記することになっており，不適切な申請が行われた場合には，請求を認めない場合もある（資料 8-2-①-4）。また，学科内で優先順位をつけることで，重要な図書を優先的に購入できるようになっている。

これ以外にも，平成 17 年度から特定分野強化資料として，毎年 3 分野程度について重点的に図書を整備しており，パスファインダーとして図書館ホームページ等で紹介している（資料 8-2-①-5）。

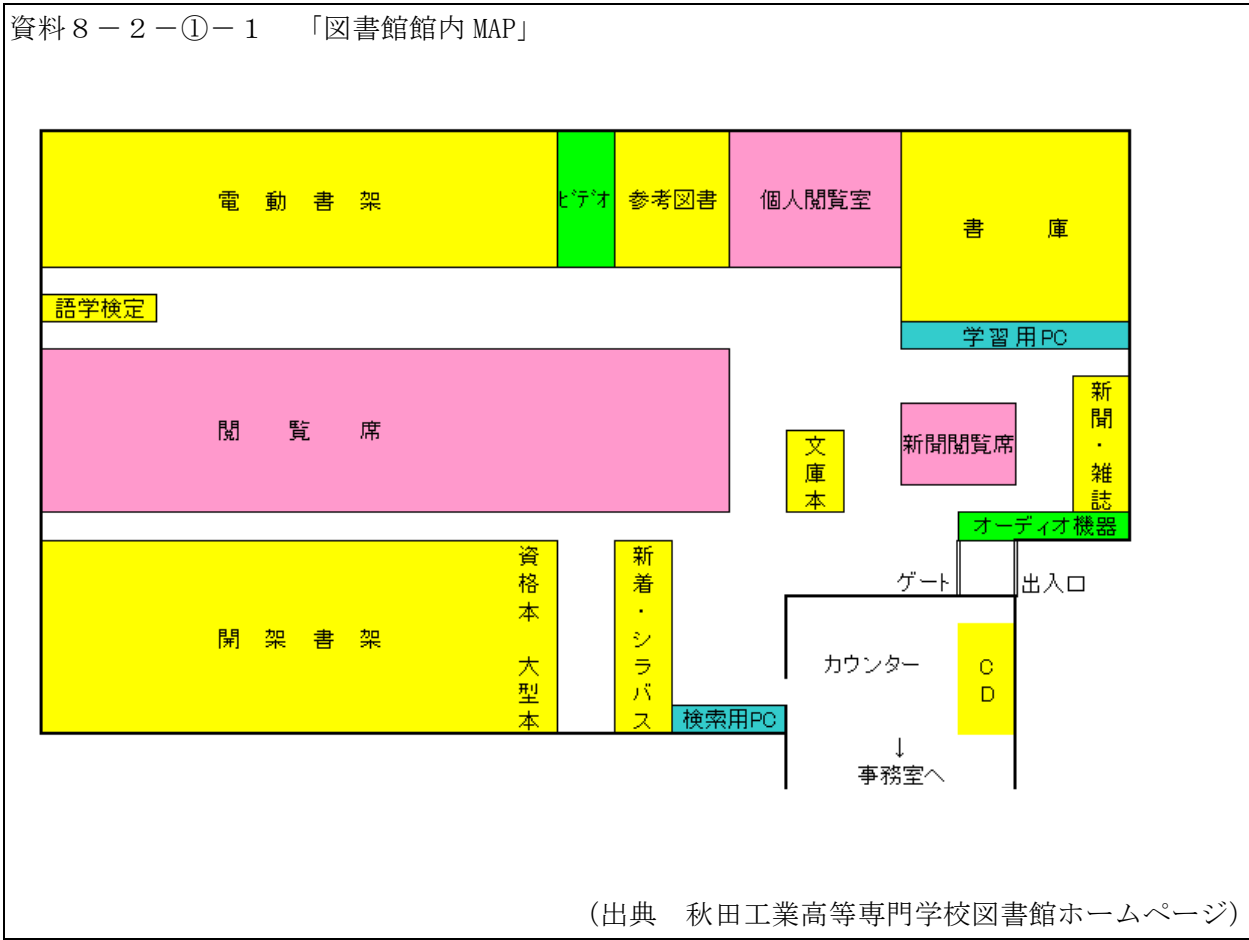
また，学生に対する学習支援のため，シラバス記載の教科書および参考書は図書館で一覧できるように整備されている。

図書の充実と学生の図書館利用促進のため，ブックハンティングを行っており，科学系以外の図書を含む学生の希望する図書を購入することができる。平成 18 年度は約 90 冊の図書を購入した（資料 8-2-①-6）。また，図書館には備付希望図書申込票が置いてあり，学生は随時図書館に要望できるようになっている。

これ以外にも，図書館の利用促進に向けた取り組みとしては，読書コンクールが行われており，国語担当の教員を中心に学生に参加を呼びかけて，平成 18 年度は 67 編の応募があった（資料 8-2-①-7）。



資料 8 - 2 - ① - 1 「図書館館内 MAP」



資料 8 - 2 - ① - 2 「図書館蔵書冊数および分類別蔵書冊数」

## 蔵書冊数

平成19年3月31日現在

種別	和	洋	計(冊)
図書	65,071	6,193	71,264
製本雑誌	4,769	6,738	11,507
合計	69,840	12,931	82,771

## 分類別蔵書冊数

平成19年3月31日現在

区分	図 書		
	和	洋	計(冊)
0 総 記	3,204	247	3,451
1 哲 学	2,735	286	3,021
2 歴 史	4,928	35	4,963
3 社会科学	5,099	374	5,473
4 自然科学	14,613	1,592	16,205
5 工 学	17,146	751	17,897
6 産 業	1,162	7	1,169
7 芸 術	3,361	48	3,409
8 語 学	3,536	1,164	4,700
9 文 学	9,287	1,689	10,976
小 計	65,071	6,193	71,264
製本雑誌	4,769	6,738	11,507
合計	69,840	12,931	82,771

## 雑誌所蔵種類数

平成19年3月31日現在

雑誌	和	洋	計
	715	78	793

平成19年3月31日現在

単位:冊

分類別冊数

区分	前年度冊数		受入		返納		増減		今年度冊数	
	和	洋	和	洋	計	和	洋	計	和	洋
0 総記	3,067	247	197	0	197	60	137	0	3,204	247
1 哲学	2,728	286	3,014	8	8	1	7	0	2,735	286
2 歴史	4,841	35	4,876	0	127	40	87	0	4,928	35
3 社会科学	5,042	373	5,415	1	70	12	57	1	5,099	374
4 自然科学	14,466	1,583	16,049	229	238	82	147	9	14,613	1,592
5 工学	17,253	759	18,012	384	385	491	-107	-8	17,146	751
6 産業	1,140	7	1,147	24	24	2	22	0	1,162	7
7 芸術	3,342	48	3,390	26	26	7	19	0	3,361	48
8 語学	3,465	1,162	4,627	75	77	4	71	2	3,536	1,164
9 文学	9,221	1,689	10,910	73	73	7	66	0	9,287	1,689
図書小計	64,565	6,189	70,754	1,212	1,225	706	506	4	65,071	6,193
製本雑誌	4,770	6,703	11,473	43	78	44	-1	35	4,769	6,738
合計	69,335	12,892	82,227	1,255	1,303	759	505	39	69,840	12,931

受入別冊数

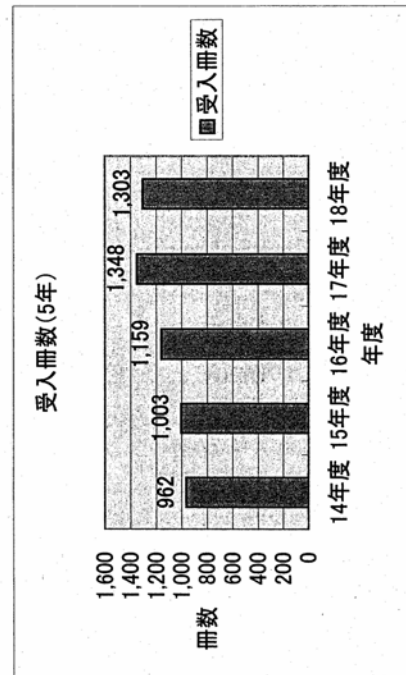
種別	和	洋	計
寄贈	113	1	114
購入	1099	12	1111
製本	43	35	78
合計	1255	48	1303

視聴覚資料受入数

17

受入冊数

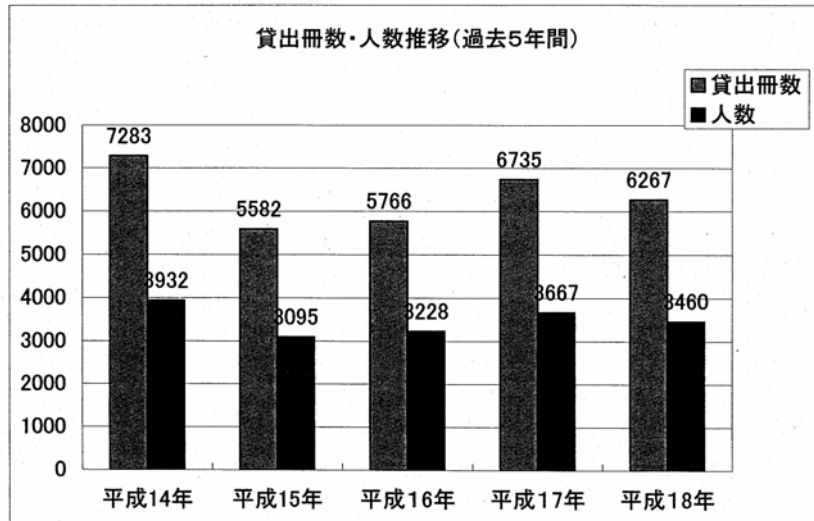
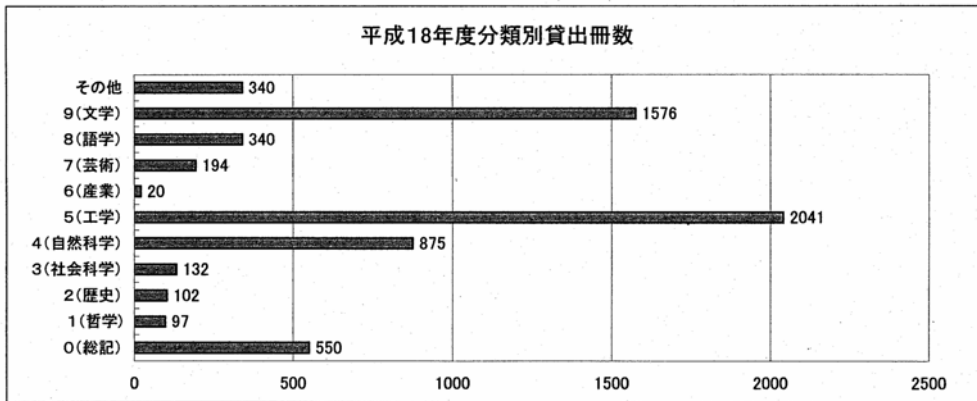
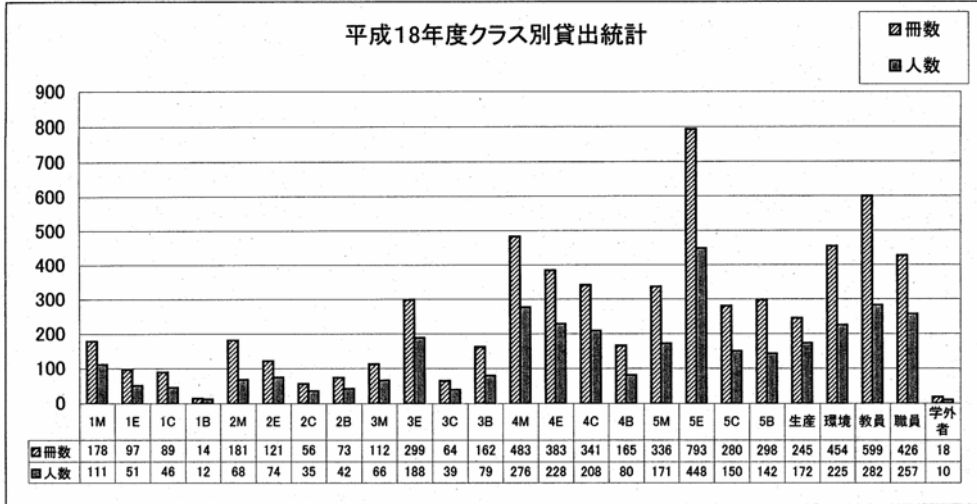
区分	14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		
	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
	計		計		計		計		計		
0 総記	116	0	116	1	193	0	177	0	177	197	0
1 哲学	3	0	3	8	45	0	7	0	7	8	0
2 歴史	139	0	139	0	99	0	76	0	76	127	0
3 社会科学	27	1	28	3	59	0	44	0	44	69	1
4 自然科学	165	5	170	9	187	9	213	9	222	229	9
5 工学	269	0	269	4	325	7	476	1	477	384	1
6 産業	17	0	17	0	13	0	22	0	22	24	0
7 芸術	12	4	16	0	36	0	26	0	26	26	0
8 語学	64	0	64	6	27	7	34	2	79	75	2
9 文学	74	0	74	0	77	2	119	0	119	73	0
図書小計	886	10	896	31	1,061	25	1,237	12	1,249	1,212	13
製本雑誌	36	30	66	29	29	44	67	32	99	43	35
合計	922	40	962	60	1,090	69	1,304	44	1,348	1,255	48



(出典 平成 19 年度第 1 回図書館運営委員会資料)

資料 8 - 2 - ① - 3 「貸出冊数・人数推移（過去 5 年間）」

貸出関係統計



(出典 平成 19 年度第 1 回図書館運営委員会資料)

資料 8 - 2 - ① - 4 「学科選定教育資料・図書推薦リスト」

提出期限 平成 18 年 5 月 31 日 (水)

図書館

学科選定教育資料・図書推薦リスト(前期分)

学科・系名 電気情報工学科

優先 順位	教育資料・教材名・著者名・出版社	ISBN・品番等	金額	用途	請求理由
1	Code Complete 第2版(上)―完全なプログラミン グを目指して、ステイプ マコネル、日経BPソフ トプレス	4-89100- 455-X	¥6,405	講義の副読本として	情報処理とプログラミングに関する講義お よび実習の参考図書
2	Code Complete 第2版(下)―完全なプログラミン グを目指して、ステイプ マコネル、日経BPソフ トプレス	4-89100- 456-8	¥6,405	講義の副読本として	情報処理とプログラミングに関する講義お よび実習の参考図書
3	CIP法―原子から宇宙までを解くマルチス ケール解法、矢部 孝、森北出版	4627918313	¥3,570	卒業研究用として	卒業研究論文用の背景と応用に関する参 考図書
4	流体計算と差分法、桑原 邦郎、朝倉書店	4254231059	¥3,570	卒業研究用として	卒業研究論文用の背景と応用に関する参 考図書
5	コンピュータによる流体力学、J. H. ファー ツィガー、シュプリンガー・フェアラーク東京	4431708421	¥5,400	卒業研究用として	卒業研究論文用の背景と応用に関する参 考図書
6	半導体センサ工学、宮尾 亘、朝倉書店	4254221320	¥2,940	実験実習レポートの考察用	5E実験「光半導体センサ」の計算および関 連する考察に特に参考となる図書
7	基礎センサ工学、高橋 清・伊東 謙太郎 共著、電気学会	4886862144	¥2,520	実験実習レポートの考察用	5E実験「光半導体センサ」の計算および関 連する考察に特に参考となる図書
8	SiC素子の基礎と応用、荒井和雄・吉田貞 史 共著、オーム社	4274948854	¥5,040	学生の卒業研究用	卒業研究論文用の背景と応用に関する参 考図書
9	半導体SiC技術と応用、松波弘之、日刊工 業新聞社	4526050962	¥3,990	学生の卒業研究用	卒業研究論文用の背景と応用に関する参 考図書
10	オプト・デバイスの基礎と応用―特性を100%活 かした回路設計のための・蝦名清志／編・CQ出 版	4-7898- 3035-7	¥3,150	実験実習	実験実習での参考資料として
	合 計				

\* 優先順に記入してください。  
\* 欄が足りないときは行を挿入してください。

(出典 秋田高専図書館資料)

## 資料 8 - 2 - ① - 5 「特定分野強化資料」

## パスファインダー～情報の道案内①

## ライフサイクルアセスメント・グリーンケミストリー

環境問題について専門的に評価するには？環境に優しい化学とは？調べてみましょう。

## キーワード

検索のためのキーワードは・・・

ライフサイクルアセスメント	LCA	グリーンケミストリー
---------------	-----	------------

## 入門的な情報源

言葉の意味やテーマの意味が不明確な場合は百科事典、用語事典を引いてみましょう。  
新しい分野のため、最新のものを使しましょう。

<図書館で所蔵している図書の一例>

書名	請求記号	配置場所
安全の百科事典	519.9-A49	参考図書
エネルギー・環境キーワード辞典	501.6-N77	参考図書
生物工学ハンドブック	460.36-N77	参考図書

## 図書館の図書を探す

## ●テーマの棚に行って探す

図書には 1 冊毎にテーマを表す分類番号が付いていて、この番号順に書架に並んでいます。

<関連分野の分類記号>

519	公害・環境工学	518	衛生工学		
-----	---------	-----	------	--	--

※各分野の環境問題については、519 ではなく、その分野に並んでいます。例えば建設の時の環境問題については 510 (建設・土木工学) にあります。グリーンケミストリーについては内容によって化学(430)・合成化学(434)・化学工業(570)等に分散しています。

## ●OPAC で調べる

オンライン目録(OPAC)で本校図書館の蔵書を調べることができます。資料の所蔵の有無、配架場所、請求記号がわかります。

## ●図書館で所蔵している図書(一例)

<平成 17 年度特定分野強化資料として購入>

書名等	請求記号	配置場所
LCA(ライフサイクルアセスメント)を用いた環境情報開示の新戦略 / 柳澤衛著(第一法規)	519.15-Y53	開架図書
LCAの実務(LCAシリーズ2) / 稲葉敦監修(産業環境管理協会)	519.15-I51	開架図書
ライフサイクルアセスメント / (産業環境管理協会)	519.15-I81	開架図書
農業におけるライフサイクルアセスメント(農環研シリーズ) / 農林水産	519.15-N91	開架図書

(出典 秋田工業高等専門学校図書館ホームページ)

資料 8-2-①-6 「ブックハンティング実施要項」

平成 18 年 6 月 19 日

## ブックハンティング実施要項

図 書 館 長

1. 実施期日：平成 18 年 6 月 21 日（火）～7 月 5 日（水）
2. 担当者：各クラス文化委員
3. 方法：
  - ①担当者は「ブックハンティング担当者全体ミーティング」に参加する。
  - ②クラスにブックハンティングについて周知する。
  - ③クラスの希望をまとめ、「購入希望リスト」を作成する。
  - ④「購入希望リスト」を図書館へ提出する。  
提出されたリストについては図書館で集約し、学校図書としてふさわしくないもの等を除き、購入し配架する。
4. スケジュール  
担当者全体ミーティング 6 月 21 日（水） 16 時～ 図書館棟第 1 ゼミナール室  
※各クラス文化委員は全員参加すること  
「購入希望リスト」提出締切 7 月 5 日（水） 提出先：図書館
5. 購入金額：1 万円前後／クラス
6. 購入図書選定上の注意  
下記のような図書は原則的に除く。
  - ① 漫画
  - ② 雑誌およびその増刊号（特集号）
  - ③ 公序良俗に反するもの

（出典 平成 18 年度第 2 回図書館運営委員会資料）



資料 8-2-①-7 「読書感想文コンクール作品募集要項」

## 読書感想文コンクール作品募集要項

内容	文学作品 / ノンフィクション / 科学論文 / 科学エッセイ 等								
字数	2000字以内（原稿用紙換算5枚）								
記名	氏名・学年・クラスを明記のこと								
公示	平成18年6月21日（水） ポスターの貼り出し								
締切	平成18年9月14日（木）								
提出方法	ワープロソフト（word または一太郎）で作成し、メールの添付ファイルまたはフロッピーディスクで提出する あるいは400字詰め原稿用紙に手書きする（感想文に書いた本の書名の記入を確認して提出）								
提出先	図書館 <a href="mailto:tosho-dr@akita-nct.jp">tosho-dr@akita-nct.jp</a>								
審査方法	審査委員長は図書館長とする 図書館運営委員の中から審査員希望者を募る（6名程度） 昨年度と同様に、審査員の持ち点（10点）を配分する形で入賞者を決める								
発表	9月末日までに選考結果を発表する （表彰式は高専祭 ロボコン・プロコン・ラグビーの壮行会にて）								
表彰	入賞者には賞状を授与し、副賞として図書券を贈る また最優秀作品は『図書館だより』に掲載する								
	<table> <tr> <td>最優秀賞</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>優秀賞</td> <td>数名</td> </tr> <tr> <td>佳作</td> <td>数名</td> </tr> <tr> <td>参加賞</td> <td>全員</td> </tr> </table>	最優秀賞	1名	優秀賞	数名	佳作	数名	参加賞	全員
最優秀賞	1名								
優秀賞	数名								
佳作	数名								
参加賞	全員								

\* 各担任を通じて、読書の好きな学生や文章力のある学生に参加をよびかけてもらう

（出典 平成18年度第2回図書館運営委員会資料）

(分析結果とその根拠理由)

図書、学術雑誌、視聴覚資料等は、蔵書数が合計 82,771 冊であり、工学系分野を主体として多岐に渡る分野を網羅している。全教員の協力のもと、図書館運営委員会を中心に図書の充実に務めており、授業および研究に活用されている。また、図書館の利用促進のために、ブックハンティングなどで学生の声を取り入れるなどもしている。

以上のことから、教育研究上必要な資料は系統的に整備されており、有効に活用されているといえる。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

日々の清掃もあり、校舎は改修工事後の美観と清潔感を維持しながら、学生の良好な学習環境を整えており、学生にも好評である。

教室を含む校内のほぼ全ての部屋に情報コンセントが設置され、校内 LAN がどこからでも使用できるよう、情報ネットワークが整備され活用されている。また、学生には情報モラル教育を導入し、ネットワークトラブル防止に積極的に取り組んでいる。

(改善を要する点)

特になし。

## (3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の施設は、平成 13 年から一部施設を除き改修工事が段階的に行われ、平成 15 年に完成した。教室は科学技術教育棟、講義室棟に、実験室は各学科棟、管理棟に配置され、専攻科棟も含め十分なスペースが確保されている。

また、日々の清掃もあり、校舎は改修工事後の美観と清潔感を維持しながら、学生の良好な学習環境を整えており、学生にも好評である。

学生の自由な利用が可能な二つのパソコン室等があり、充実した設備が適切な管理のもとで有効に活用されている。また、校内の全ての部屋に情報コンセントが設置され、校内 LAN がどこからでも使用できるよう、情報ネットワークが整備されている。情報処理センター専門委員会により、教育内容・方法や学生のニーズの適切な把握、情報処理教育の効率的な管理運用が行われ、情報ネットワークは情報処理教育に有効に活用されている。また、情報モラル教育を導入し、ネットワークトラブル防止に積極的に取り組んでいる。

図書の整備方針は、図書館運営委員会が中心となって決定している。学科選定図書など教員による協力のもと、系統的に図書が整備されている。図書の利用促進のために、ブックハンティングや読書コンクールなどに取り組んでいる。年間の利用者数は 6 万人弱、貸出冊数は約 6,300 冊と、学生および教職員に広く利用されている。

## 基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

### (1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

本校教員の教育活動の実態を示す資料としては、教員活動報告書(資料 9-1-①-1)、教員の活動計画・報告書(資料 9-1-①-2)がある。また、授業内容の自己点検評価を各教科ごとに提出している(資料 9-1-①-3~4)。

教育活動データとして、成績資料は学生課教務係が管理している。また、毎年各授業に対する学生の授業アンケートが実施されている。アンケート結果をもとに、各教員は「学生による授業アンケート」の対応・課題をまとめ、提出している(資料 9-1-①-5)。

これらのデータをもとに、校長による業績評価が行われている(資料 9-1-①-6)。さらに、教育を中心とした活動に顕著な業績を上げている教員に対しては、校長賞が与えられ顕彰している(資料 9-1-①-7)。

資料 9 - 1 - ① - 1 「教員活動報告書」

様式 1 号

## 教員活動報告書

(平成 年 月～平成 年 月)

提出締切：平成 年 月 日 ( )

学科等名	職名	氏名
項目	記入欄	
① 役職		
② 委員会		
③ 授業科目		
④ クラブ指導		
⑤ ロボコン、プロコン、デザコン		
⑥ 研究活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究論文</li> <li>・ 総説、解説</li> <li>・ 特許</li> <li>・ 口頭発表</li> <li>・ 科研費</li> <li>・ 共同研究</li> <li>・ 受託研究</li> <li>・ 奨学寄附金</li> <li>・ 受賞</li> </ul>	
⑦ 研修		
⑧ 外部委員会委員		
⑨ 学協会委員会委員 (支部含む)		
⑩ 入学関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 編入学試験問題担当</li> <li>・ 専攻科入学試験問題担当</li> <li>・ 予備問題担当</li> </ul>	
⑪ その他		

(出典 総務課人事係資料)

## 資料 9 - 1 - ① - 2 「教員の活動計画・報告書」

様式 2 号

## 平成 年度 教員の活動計画・報告書

活動計画書の提出：6月中旬  
活動報告書の提出：翌年の4月末

学科名	職名	氏名
活動の計画 (本表一枚に簡潔に箇条書きに記載してください。)		活動の報告 (計画と対応して記載してください。)
【教育】		
【課外活動支援】		
【クラス担任教員はクラス運営】		
【主事・主事補、館長・館長補、各センター長と学科主任、学系主任、専攻主任の教員は担当運営】		
【研究】		
【その他】		

(出典 総務課人事係資料)

資料 9-1-①-3 「授業担当科目の自己点検評価報告書」

授業担当科目の自己点検評価報告書									
授業科目	必・選	担当教員	学年	学科	単位数	授業時間			
[教材]						a) 適切さの判定 A B C (○で囲んで下さい)			
[試験結果]									
試験データ			80点以上 (人数)	79~70点 (人数)	69~60点 (人数)	59点以下 (人数)	最高点 (点数)	最低点 (点数)	平均点 (点数)
授業項目									
前期中間試験									
前期末試験									
後期中間試験									
学年末試験 (卒業試験)									
b) 授業全体における学習到達度の判定					基礎力		応用力		
					A B C		A B C		
[成績の評価方法]							c) 評価方法		
							A B C		
d) 授業全体に対する自己評価					判定		A B C		
授業及び試験の内容・方法で改善すべき点									

(出典 学生課教務係資料)

資料 9-1-①-4 「自己点検評価報告書の作成・提出について」

自己点検評価報告書の作成・提出について

平成18年4月11日

教務主事

本報告書は、学生課教務係へ御提出下さい。

<提出日> 平成17年度の授業科目について、4月28日(金)までに

○本校の授業担当教員の全員が対象。

ただし、非常勤の場合は、可能な限り提出を依頼。(各系・各学科主任より)

○実験・実習は、学生全員に対する指導内容が同一でない場合に限り、評価しにくい点を考慮して、評価の対象外とする。

○連名で担当されている場合は、担当項目について担当者別にそれぞれ評価する。

ただし、連名の場合の担当者名は、次のように記入する。

秋田太郎・土崎一郎が連名の場合

秋田太郎担当分については・・・秋田太郎(土崎一郎)

土崎一郎担当分については・・・土崎一郎(秋田太郎)

○教材は教科書・参考書・問題集などを含め総合的に判断する。

○授業項目…授業内容の項目について重要な項目をシラバスの内容から選択する。

通年科目の場合・・・・・・・・・・10項目程度

前期・後期終了科目の場合・・・・5項目程度

○評価方法

各授業のシラバスの内容を記入する。

○評価 A, B, C は、それぞれ優, 良, 可で判定する。

(出典 学生課教務係資料)

資料9-1-①-5 『学生による授業アンケート』の対応・課題

「学生による授業アンケート」の対応・課題

学科・系 教員名

記入欄（年度毎に簡潔に記入）

1. 16年度

「学生からあげられた主な要望、評価、感想、反省」

- (1)
- (2)
- (3)

「教員の対応・課題」

- (1)
- (2)
- (3)

2. 17年度

「学生からあげられた主な要望、評価、感想、反省」

- (1)
- (2)
- (3)

「教員の対応・課題」

- (1)
- (2)
- (3)

(注)「学生からあげられた主な要望、評価、感想、反省」の(1)について「教員の対応・課題」は(1)へそれぞれご記入ください。

(出典 学生課教務係資料)



資料 9-1-①-6 「教員業績評価実施要項」

秋田工業高等専門学校教員業績評価実施要項

平成18年 7月 3日  
校長 裁 定

(趣旨)

第1条 この要項は、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員の教育水準の向上を図るため、教育研究活動等の状況について、本校教員の業績評価（以下「業績評価」という。）を行うために必要な事項を定める。

(業績評価の項目)

第2条 業績評価の項目は、別表（様式1号、様式2号）のとおりとする。

(実施方法)

第3条 業績評価は、教員が現在行っている教育研究活動等について、教員活動報告書（様式1号）及び教員の活動計画・報告書（様式2号）に基づき、校長が実施する。

2 業績評価の方法は、教員の職名別に9段階（A, B, C, D, E, F, G, H, I）に区分して評価する。

(実施時期)

第4条 業績評価は、毎年11月に実施する。

(結果通知)

第5条 校長は、業績評価を実施したときは、その結果を教員に通知する。

2 業績評価の結果、H及びIに評価された教員は、校長が面談を行うものとする。

(異議申立)

第6条 業績評価の結果について、教員は前条第一項の通知を受けてから2週間以内に校長へ異議を申し立てることができる。

(雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか、業績評価の実施に関し必要な事項は、校長が定める。

附 則

この要項は、平成18年 7月 3日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 9 - 1 - ① - 7 「教員顕彰要項」

## 秋田工業高等専門学校教員顕彰要項

## (目的)

第1 この要項は、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）における学生教育を中心とした分野及び管理運営やFD活動において、顕著な業績を上げている教員を顕彰するため、必要な事項を定めるものとする。

## (顕彰基準)

第2 本校における教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等において顕著な功績が認められる者及び本校の名誉となり、又は教職員の模範となる功労があった者とする。

## (賞の名称)

第3 賞の名称は、秋田工業高等専門学校校長賞（以下「校長賞」という。）とする。

## (受賞者の決定)

第4 受賞者の決定は、校長が行う。

## (校長賞の授与)

第5 校長は、受賞者に別紙様式1による校長賞を授与する。

## (副賞)

第6 校長は、第5の校長賞に併せて副賞を添えることができるものとし、副賞については、その都度校長が定める。

## (顕彰の時期)

第7 顕彰の時期は、原則として4月開催の教員会議の席上で行う。

## (事務)

第8 秋田工業高等専門学校教員顕彰（以下「教員顕彰」という。）に関する事務は、総務課において処理する。

## (補則)

第9 この要項に定めるもののほか、教員顕彰に関し必要な事項は、校長が定める。

## 附 則

この要項は、平成17年3月3日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## (分析結果とその根拠理由)

各教員は教育活動のデータとして、教員活動報告書ならびに教員の活動計画・報告書を、授業に関しては、自己点検評価報告書を教科ごとに提出している。また、学生による授業アンケートを行うと同時に、各教員はアンケートに対して対応・課題をまとめて提出している。

上記のデータをもとに、教員の業績評価ならびに教員顕彰を行っている。

以上のことから、教育活動の実態を示すデータや資料が収集・保管され、評価を実施できる体制を整備しているといえる。

観点9-1-②： 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

本校では学生からの意見聴取として、授業アンケート調査を実施している。また、学生からの意見等を反映するため、「学校の諸制度に関するアンケート」「学習の達成度に関するアンケート」を行っている（資料9-1-②-1～3）。

授業アンケートは平成13年から毎年実施され、その結果は授業ごとに集計された後、各担当教員に返却されている（資料9-1-②-4～5）。アンケート結果は、平成16年の「自己点検・評価報告書－現状と課題（第3回報告書）」に「学生による授業アンケート調査報告書」としてまとめ、現状における課題を整理して報告されている（資料9-1-②-6）。また、アンケート結果を受けて、各教員は「学生による授業アンケート」の対応・課題をまとめて提出しており、『学生による授業アンケート』の対応・課題－平成16年度・平成17年度版－として報告した（資料9-1-②-7）。

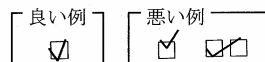
これらのアンケート結果は、自己点検・評価委員会のアンケート実施作業グループにより、分析および評価を行っている。その結果はまとめられ、教育改善委員会に報告するとともに、自己点検・評価に反映されている。

資料 9-1-②-1 「学校の授業の諸制度に関するアンケート（準学士課程 1～4年）」

A 学校の授業の諸制度に関するアンケート（準学士課程 1～4年生）

学校には、授業やテストを受け、そして進級するための種々の制度があります。このアンケートは、その制度の理解度を調べることを目的としています。この結果は、制度の改善に役立てる基本的なデータになります。

注1：隣の文字枠やマーク枠にはみ出さないように記入してください。  
枠の中に大きく記入してください。  
HBの鉛筆・シャープペンシルで記入してください。



基本項目

Q0-1 学年 1年  2年  3年  4年

---

Q0-2 学科 M  E  C  B

---

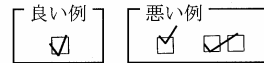
設問	回答				
	5	4	3	2	1
Q1 成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q2 進級規程の説明を受け、理解していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q3 オフィスアワーの制度を知っていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q4 オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q5 オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q6 授業時間外で教員に質問したときの、教員の対応はどうでしたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q7 授業の進み具合や試験範囲などをシラバスを見て確認していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q8 成績評価の方法についてシラバスにより確認していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q9 (4年生のみ) 選択科目の選定において、シラバスを参考にしましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q10 (4年生のみ) 学修単位科目の学習時間の説明が行われ、理解しましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q11 本校の学習システムについて、要望があれば記入してください (自由記述)					

資料 9 - 1 - ② - 2 「学校の授業の諸制度と学習の達成度に関するアンケート(準学士課程卒業予定者)」

B 学校の授業の諸制度と学習の達成度に関するアンケート(準学士課程卒業予定者)

学校には、授業やテストを受け、そして進級するための種々の制度があります。このアンケートは、その制度の理解度を調べることを目的としています。この結果は、制度の改善に役立つ基本的なデータになります。

注1：隣の文字枠やマーク枠にはみ出さないように記入してください。  
枠の中に大きく記入してください。  
HBの鉛筆・シャープペンシルで記入してください。



基本項目

Q0-1 学科 M  E  C  B

設問	回答				
	5	4	3	2	1
Q1 成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q2 卒業認定規程の説明を受け、理解していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q3 オフィスアワーの制度を知っていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q4 オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q5 オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q6 授業時間外で教員に質問したときの、教員の対応はどうでしたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q7 授業の進み具合や試験範囲などをシラバスを見て確認していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q8 成績評価の方法についてシラバスにより確認していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q9 選択科目の選定において、シラバスを参考にしましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q10 学修単位科目の学習時間の説明が行われ、理解しましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q11 基本的な成果(A)「人間としての素養」の達成度は、どの程度と考えていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q12 基本的な成果(B)「基礎学力の充実」の達成度は、どの程度と考えていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q13 基本的な成果(C)「コミュニケーション能力」の達成度は、どの程度と考えていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q14 基本的な成果(D)「工学基礎知識の習得」の達成度は、どの程度と考えていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q15 基本的な成果(E)「実践的な能力」の達成度は、どの程度と考えていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q16 基本的な成果(F)「専門的な知識の充実」の達成度は、どの程度と考えていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q17 基本的な成果「学科の成果」の達成度は、どの程度と考えていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q18 卒業に際して、本校の学習システムについて、改善を提案してください(自由記述)					

資料 9-1-②-3 「学校の授業の諸制度と学習の達成度に関するアンケート（専攻科課程）」

C 学校の授業の諸制度と学習の達成度に関するアンケート（専攻科課程）

学校には、授業に関する種々の制度があります。また、修了時に身につけるべき「教育の基本的な成果」も決めています。このアンケートは、これらについて専攻科課程の学生の状況を調べることが目的としています。結果は、今後の教育の改善に役立つ基本的なデータになります。

注1：隣の文字枠やマーク枠にはみ出さないように記入してください。  
枠の中に大きく記入してください。  
HBの鉛筆・シャープペンシルで記入してください。



基本項目

- Q0-1 学年 1年  2年
- Q0-2 専攻 生  環

設問	回答				
	5	4	3	2	1
Q1 成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q2 専攻科修了認定規程の説明を受け、理解していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q3 オフィスアワーの制度を知っていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q4 オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q5 オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q6 授業時間外で教員に質問したときの、教員の対応はどうでしたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q7 授業の進み具合や試験範囲などをシラバスを見て確認していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q8 成績評価の方法についてシラバスにより確認していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q9 選択科目の選定において、シラバスを参考にしましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q10 学修単位科目の学習時間の説明が行われ、理解しましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q11 (修了生)成果(1)「課題解決能力」の達成度は、どの程度と考えていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q12 (修了生)成果(2)「プレゼンテーション能力」の達成度は、どの程度と考えていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q13 (修了生)成果(3)「複合領域への対応」の達成度は、どの程度と考えていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q14 (修了生)成果「専攻ごとの成果」の達成度は、どの程度と考えていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q15 本校の学習システムについて、改善を提案してください（自由記述）					

資料 9-1-②-4 「学生による授業評価に関する実施要綱」

## 「学生による授業評価」実施要綱

自己点検・評価委員会

### 1. 「学生による授業評価」実施の目的

「学生による授業評価」（以下、「授業評価」と記す）は、各授業担当教員が自ら行う授業改善に資することを目的とする。

### 2. 「授業評価」実施授業科目

原則として本校で開講するすべての授業科目（常勤・非常勤講師）を対象とする。

### 3. 「授業評価」実施の時期

「授業評価」は適宜、当該年度内に実施する。

### 4. 「授業評価」実施の方法

「授業評価」は各授業担当教員が授業時間の終了直前あるいは直後、学生による授業アンケートとして実施する。アンケート回答用紙は別に定めるものとする。

### 5. 「授業評価」実施報告の義務

各授業担当教員はアンケート調査実施後、アンケート回答用紙を速やかに学生課教務係に提出する。

### 6. アンケート回答用紙及びデータ処理について

- ・学生課はアンケート回答用紙をデータ処理するまで厳重に保管する。
- ・自己点検・評価委員会の管理のもと提出されたアンケートのデータ処理を行う。
- ・データ処理の結果を各授業担当教員に報告するとともにアンケート回答用紙は各授業担当教員に返却する。その際、全学的データも報告する。

### 7. データの公表について

情報公開法により、データを公表する。

ただし、各授業担当教員が自ら授業評価の結果及び全学的データを、教育方法の改善及び研究上の目的などで公表しようとする場合は、自己点検・評価委員会の許可を得なければならない。

(出典 自己点検・評価委員会資料)

## 資料 9 - 1 - ② - 5 「授業アンケート」

## A 授業アンケート（講義科目）

このアンケートは、授業についての学生の意見を求め、今後の授業内容や方法の改善のための参考として行うものです。学科、学年、授業曜日、授業時間以外は無記名ですので、授業を受けて感じたことを素直に回答して下さい。各設問に対して該当する欄にチェックをつけるか又は記述で回答してください。

注1：隣の文字枠やマーク枠にはみ出さないように記入してください。  
枠の中に大きく記入してください。  
HBの鉛筆・シャープペンシルで記入してください。

良い例	悪い例
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>

## 基本項目

Q0-1 学年 1年  2年  3年  4年  5年  専1  専2

Q0-2 学科 M  E  C  B  生  環

Q0-3 曜日 月  火  水  木  金

Q0-4 時限 1時限  2時限  3時限  4時限  5時限  6時限  7時限  8時限

注2：時限は、該当授業の開始時限にチェックをつけてください。

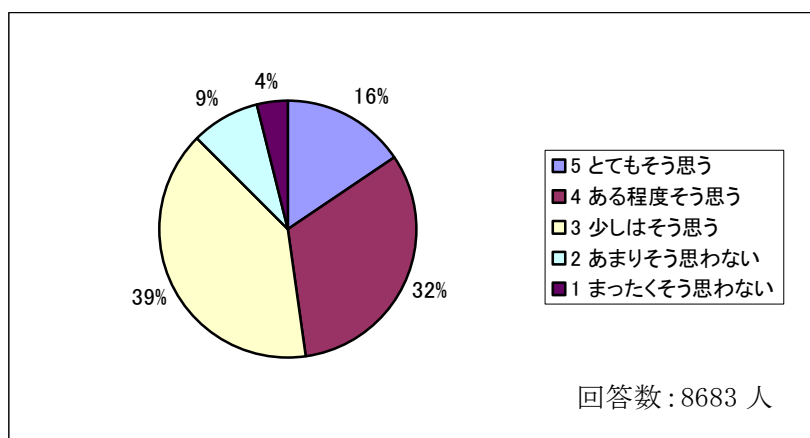
回答選択肢コード	5：とてもそう思う	4：ある程度そう思う	3：少しはそう思う
	2：あまりそう思わない	1：全くそう思わない	

設問	回答				
	5	4	3	2	1
Q1 あなたの授業への取り組みは積極的だったと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q2 この科目について、十分に予習や復習をしましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q3 授業のガイダンスにおいて先生はシラバスを活用していたと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q4 授業のガイダンスにおいてシラバスの内容を理解したと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q5 シラバスを見ることで評価方法や授業の進行状況の把握や理解の助けになったと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q6 レポート・課題・小テストなどにきちんと取り組んだと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q7 この科目の内容を十分に理解したと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q8 授業中、集中していたと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q9 試験の準備は十分にしましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q10 先生の話し方、授業の進め方は適切だったと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q11 板書の文字（大きさ・見やすさ）、説明は適切だったと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q12 先生は学生の理解を確認しながら授業をすすめていたと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q13 授業中または時間外でも、質問しやすかったですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q14 先生は授業の準備や工夫を十分にしていたと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q15 先生は新しい知識を身に付けさせようと努力していたと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q16 先生は授業の進度に合わせ、関連する適切な情報を与えてくれましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q17 この科目を学ぶことの意義について、十分な説明がありましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q18 理解を深めるための小テスト・演習・宿題の回数は適切でしたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q19 試験問題は授業に沿った内容だったと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q20 この授業には全体として十分に満足できましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q21 授業を受けての感想、反省について（自由記述）					

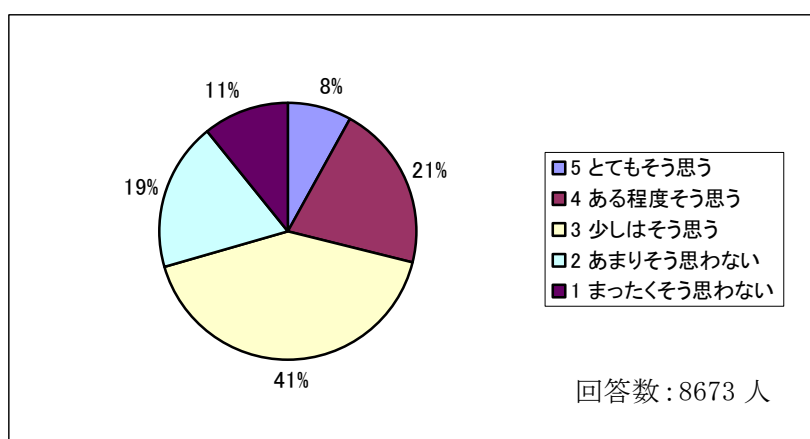


## 資料 9-1-②-6 「自己点検・評価報告書（授業アンケート集計結果）」

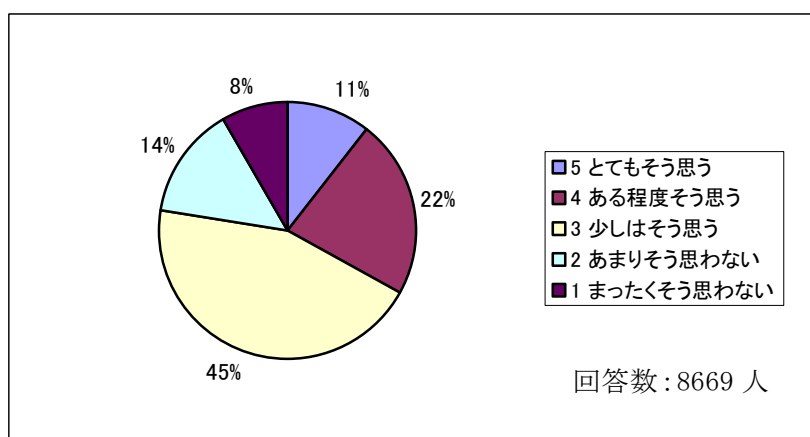
Q1 あなたの授業への取り組みは積極的だったと思いますか



Q2 この科目について、十分に予習や復習をしましたか



Q3 授業のガイダンスにおいて先生はシラバスを活用していたと思いますか



(出典 授業アンケート調査結果－平成 18 年度版－ p. 25)

## 資料 9-1-②-7 「授業評価アンケート課題と対応」

16 年度「学生による授業評価アンケート」の課題と対応

学科・系・・・ 教員名・・・・・・

「学生からあげられた主な要望，評価，感想，反省」

- (1) 黒板を消すのが早い。
- (2) 時間通り終わって欲しい。
- (3) 説明が丁寧でわかりやすい
- (4) 板書がきれいである。
- (5) 前の復習をしてから授業にはいるのでよい。
- (6) 質問しなくても学生の表情を読み取って説明してくれるので良い。

「教員の対応・課題」

- (1) 黒板を消して良いか確認してから消すようにする。
- (2) 16 年度は 15 分の休み時間に延長できた。学生が誤解している。出来るだけ休み時間に入らないように工夫する。
- (3) (3) ～ (6) についてはこれからも続けたい。

17 年度「学生による授業評価アンケート」の課題と対応

学科・系 教員名

「学生からあげられた主な要望，評価，感想，反省」

- (1) たまに黒板を消すのが早い。
- (2) 教室の一番後ろでは声が聞き取りにくい。
- (3) 文字式の添字が見えない。
- (4) 理論が実際にどのように使われているか説明してほしい。
- (5) 板書がきれいで授業がわかりやすい。
- (6) 小テスト，レポートそれに授業中問題を解かせてくれるので理解しやすい。

「教員の対応・課題」

- (1) さらに気をつけたい。
  - (2)，(3) 説明が聞こえるか，文字が見えるか確認している。  
平成 16 年度と平成 17 年度のアンケート結果（グラフ）を比較するとほとんどの項目において内容が向上している。（している，ある程度している）
  - (4) 理論と実際の関係を説明の時に話す。
  - (5)，(6) についてはこれからも続けたい。
- 平成 16 年度と平成 17 年度のアンケート結果（グラフ）を比較するとほとんどの項目において内容が向上している。（している，ある程度しているの  
和が 99% になった設問もある。）平成 18 年度も維持していきたい。

(出典 「学生による授業アンケート」の対応・課題 平成 16 年度・平成 17 年度版)

(分析結果とその根拠理由)

学生からの意見聴取は、「授業アンケート」と「学校の諸制度に関するアンケート」により行っている。

これらのアンケート結果は，自己点検・評価委員会のアンケート実施作業グループにより，分析および評価を行っている。その結果はまとめられ，教育改善委員会に報告するとともに，自己点検・評価に反映されている。

観点 9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

本校独自の取り組みとして、外部評価委員会による外部評価を受けることを目的の一つとして、秋田工業高等専門学校参加会が設立された。（資料 9-1-③-1）。参加会（外部評価）報告書では高い評価と数多くのコメントが得られ、本校の教育機能改善の一助となっている（資料 9-1-③-2）。

また、平成 17 年度準学士課程卒業生および専攻科課程修了生の進路先関係者ならびに卒業生、修了生に、学校の目的に対する達成度について、アンケート調査を行った（資料 9-1-③-3～4）。アンケートの自由記述欄を含めて意見を聴取した結果は、自己点検・評価委員会でまとめられ、教育改善委員会で審議されている。

## 資料 9 - 1 - ③ - 1 「秋田工業高等専門学校外部評価実施要項」

## 秋田工業高等専門学校外部評価実施要項

制定 平成17年4月25日  
校長 裁定

## (目的)

第1条 この要項は、秋田工業高等専門学校参与会（以下「参与会」という。）による外部評価（以下「評価」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

## (評価項目)

第2条 参与会規則第3条第2号に定める事項の評価項目は、次のとおりとする。

- (1) 教育活動に関する事
- (2) 研究活動に関する事
- (3) 学生支援に関する事
- (4) 社会との連携に関する事
- (5) 管理・運営に関する事
- (6) その他参与会が必要と認める事項

## (実施方法)

第3条 評価は、資料による調査のほか、本校で実施するヒアリング、校内視察等に基づき実施する。

## (資料)

第4条 評価に必要な資料は、秋田工業高等専門学校自己点検・評価委員会が作成する。

## (報告書)

第5条 参与会は、評価の結果について外部評価報告書（以下「報告書」という。）を作成し、校長に提出する。

2 報告書は、公表するものとする。

## (改善)

第6条 校長は、報告書に基づき、関連する委員会等へ改善策の検討を付託するなどして、改善に努めるものとする。

## (雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

## 附 則

この要項は、平成17年4月25日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 9-1-③-2 「参加会（外部評価）報告書」

## V 外部評価項目集計結果

外部評価項目集計表

評 価 項 目	評 価 点 数								
	A 参 与	B 参 与	C 参 与	D 参 与	E 参 与	F 参 与	G 参 与	合計	平均
第1章 教育および研究									
評価項目： 1 教育方針、教育目標、教育内容および水準	5	5	5	5	5	5	4	34	4.9
評価項目： 2 学生の受入れ	4	4	5	4	5	4	3	29	4.1
評価項目： 3 教育指導	5	4	5	5	4	4	4	31	4.4
評価項目： 4 研究活動	4	4	4	5	3	3	3	29	4.1
第2章 学生支援									
評価項目： 1 教務関係	5	4	5	5	4	4	3	30	4.3
評価項目： 2 厚生補導関係	5	4	5	5	4	5	4	32	4.6
評価項目： 3 学生寮関係	5	4	5	5	4	5	4	32	4.6
第3章 地域社会との連携									
評価項目： 1 一日体験入学	5	4	5	5	4	5	4	32	4.6
評価項目： 2 公開講座	4	4	5	5	4	4	3	29	4.1
第4章 業務運営、財務内容、社会への説明責任									
評価項目： 1 施設設備の整備	4	4	4	4	4	4	3	27	3.9
評価項目： 2 学生の安全	4	4	4	4	3	5	3	27	3.9
合 計	50	45	52	52	44	48	38	329	47
平 均	4.5	4.1	4.7	4.7	4.0	4.4	3.5	29.9	4.3

## 《記入要領》

- 評価点数 5：優れている  
 4：やや優れている  
 3：普通  
 2：やや劣っている  
 1：劣っている

## VI 総 評

① 中期目標に掲げる人材育成を目指して、学生寮の運営、課外活動の指導、教養教育・専門教育の改善、入試対策などに学校長をはじめとする全教職員が一丸となって努力されていることに敬意を表します。学生の学力低下が進む中で、独自テキストの作成、オフィスワーカーの工夫など効果的な対応が随所に見られ、その努力の成果が現れつつあります。また、地域共同テクノセンターを中心とする地域貢献活動や共同研究の推進をはじめとする外部資金獲得の努力も高く評価されます。

その一方で、施設・設備の充実など予算面の観点から大変困難な課題も多く、高専機構全体で努力を継続的に行っていただきたいと思います。教員の研究面での活動も、学位取得者の充足率や論文数などで更なる努力が期待されます。また、教育・研究面での国際化のために教職員の海外研修機会の確保にも是非とも努力していただきたいと思います。

全体的に教職員数や予算の不足感がある中での教育・研究・社会貢献活動は相当の努力が必要ですが、これまでの秋田工業高等専門学校の行ってきた具体的な実施策は堅実に効果を見せていると評価できます。今後の検討を大いに期待しています。

② 学校全体で、子供の能力を発掘し社会に役立つ人間を送り出す努力と教員の熱意を感じました。

こうした校長先生はじめ教員の方々の努力は、学生や保護者が自然に肌で感じ学校を高めてくれることだと思います。

③ 5年間の一貫教育ができるという特徴を生かす教育体系を考えてもらいたい。

「社会が求める人材」の概念は理解されているようであるが、(例えば将来大局的な見方ができ、さまざまな問題を自ら発見し解決できる技術者)具体的にどのような教育をすれば実現できるのかが課題と考える。

「問題」は顕在しているとは限らないが、顕在しているものを解決するだけでも評価はされる。

ただし解決までのプロセスに個人差が出る。これが実力の差と判断される。

- ・予兆をつかんで初期段階で防いだ。
- ・ベスト、理想系思考で解決策を検討した。多くのケースで考えた。
- ・自分の課題を認識し、その目標達成に注力できている。
- ・自分に不足なものは先輩上司同僚更に外部からも取り入れる積極性がある。等々。
- ・再発防止のため真の原因の解消まで深く考えた。

このような対応は一朝で身につくものでなく、まして15歳～20歳の社会を知らない世代に無理があるし、期待もしていない。実践でもまれながら成長していくものである。ただ問題にぶつかった時、考えるプロセスを知っているかないか差が出るので、課題を与え考えさせる教育をお願いしたい。

以上いろいろ書きましたが、5年一貫教育できるメリットを生かし、実験、実習、テーマ研究等の実践的体験の場をできるだけ増やし、失敗、悩み、完成の喜び等技術者としてマインドを養成していただきたいと思います。

④ 外部環境が変化していく中で、変わらぬ基本を持ちつつ、社会ニーズに対応して、充実した教育を行っているように見える。各教科等、各レベルでの対応がきちんとしており、その結果が全体に現れていると思うが、全体を見る時にそれぞれの適切な数値指標があると、その推移により課題が見えるように思う。課題への対応には時間がかかる場合もあるので、中期計画に反映させ実行を推進していただきたい。

⑤ 校長先生をはじめ、関係者の方々が非常に熱心に取り組んでおられ、感銘いたしました。高専は最も吸収力の高い10代後半に大学受験がなく、その代わり、向上心や自立心の高い学生は多くのことを学べるチャンスに満ちた時間を過ごせると思います。自立、チャレンジのスピリットにあふれた学生を一人でも多く育成していただきたいと期待しております。

⑥ 地域における秋田高専の存在意義を高めていく努力を常に心掛け、怠らないでいただきたい。情報を校内はもとより地域社会に向けて発信し続けること、また外からの情報の受信力を高めていくこと、運営形態が変化してきた中では、この双方が強く求められているのではないだろうか。点検・評価で指摘されていたとおり、抱えている課題は山積している。高専の将来にとって手をこまねいていられないものばかりだが、人材育成に近道はないと思うので、一つ一つ、毎年毎年前進させていっていただきたい。

(出典 参与会(外部評価)報告書 平成17年9月 p.15)

## 資料 9-1-③-3 「秋田高専準学士課程卒業生の学力や能力に関する調査（進路先関係者）」

## A 秋田高専準学士課程卒業生の学力や能力に関する調査（進路先関係者）

秋田工業高等専門学校のH17年度準学士課程卒業生の学力について、判断を頂きたいと思います。これは、教育改善の基礎データとして利用することを考えております。

注1：隣の文字枠やマーク枠にはみ出さないように記入してください。  
枠の中に大きく記入してください。  
HBの鉛筆・シャープペンシルで記入してください。



## 基本項目

Q0-1 学科 機  電  物  環

機：機械工学科  
電：電気工学科  
物：物質工学科  
環：環境都市工学科

設問	回答				
	5	4	3	2	1
Q1 基本的な成果(A)「人間としての素養」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q2 基本的な成果(B)「基礎学力の充実」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q3 基本的な成果(C)「コミュニケーション能力」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q4 基本的な成果(D)「工学基礎知識の習得」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q5 基本的な成果(E)「実践的な能力」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q6 基本的な成果(F)「専門的な知識の充実」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q7 基本的な成果「学科の成果」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q8 本校あるいは工業高等専門学校の教育に関して、意見をお聞かせください（自由記述）					



資料 9 - 1 - ③ - 4 「秋田高専準学士課程卒業生の学修達成度の自己評価 (H17 年度卒業生)」

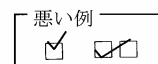
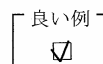
B 秋田高専準学士課程卒業生の学修達成度の自己評価 (H17年度卒業生)

秋田工業高等専門学校での学修達成度を進路先での経験を通して、自己評価していただきます。秋田高専の今後の教育内容を改善するための基礎データを取得することを目的としています。

注 1 : 隣の文字枠やマーク枠にはみ出さないように記入してください。

枠の中に大きく記入してください。

H B の鉛筆・シャープペンシルで記入してください。



基本項目

Q0-1 学科 機  電  物  環

機 : 機械工学科  
 電 : 電気工学科  
 物 : 物質工学科  
 環 : 環境都市工学科

設問	回答				
	5	4	3	2	1
Q1 基本的な成果(A)「人間としての素養」の達成度を自己評価してください	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q2 基本的な成果(B)「基礎学力の充実」の達成度を自己評価してください	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q3 基本的な成果(C)「コミュニケーション能力」の達成度を自己評価してください	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q4 基本的な成果(D)「工学基礎知識の習得」の達成度を自己評価してください	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q5 基本的な成果(E)「実践的な能力」の達成度を自己評価してください	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q6 基本的な成果(F)「専門的な知識の充実」の達成度を自己評価してください	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q7 基本的な成果「学科の成果」の達成度を自己評価してください	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q8 本校あるいは工業高等専門学校の教育に関して、意見をお聞かせください (自由記述)					

(分析結果とその根拠理由)

本校の外部関係者による評価として「本校外部評価委員による評価」があり，そこからの助言を本校の教育改善に反映しながら，本校の個性化・高度化・活性化を実現できる高等教育機関としての継続的な努力をしている。

また，平成 17 年度準学士課程卒業生および専攻科課程修了生の進路先関係者ならびに卒業生，修了生に，学校の目的に対する達成度について，アンケート調査を行った。アンケートの自由記述欄を含めて意見を聴取した結果は，自己点検・評価委員会でまとめられ，教育改善委員会で審議されている。

以上のことから，学外関係者の意見が，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているといえる。

観点 9-1-④： 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

秋田高専の教育課程に関する組織図を、資料 9-1-④-1 に示し、以下に主な役割を記す。

教務委員会および専攻科教務委員会が教務関連の企画・立案を行い（Plan）、準学士課程と専攻科課程にまたがる事項については、カリキュラム検討委員会で審議する（資料 9-1-④-2～4）。その結果をふまえて各教員が実施する（Do）。

教育活動に関する点検・評価（Check）は、自己点検・評価委員会で行う（資料 9-1-④-5）。特に授業アンケートを含む各種アンケートは、自己点検・評価委員会内のアンケート実施対応ワーキンググループで、集中的に行う体制になっている（資料 9-1-④-6）。

点検・評価の結果は教育改善委員会に報告され、問題点について見直し、教育課程および教育方法について審議し、提言を行う（Action）（資料 9-1-④-7）。

この提言を受けて、教務委員会、専攻科教務委員会およびカリキュラム検討委員会では、新たな改善策について企画・立案が行われる。

以上のように、P→D→C→A→P の順で教育の質をスパイラルアップするシステムが整備されている。また、この PDCA サイクルを含めた教育課程全体の企画調整と運営は、運営委員会において行われる（資料 9-1-④-8）。

平成 18 年度に実施した授業アンケートの結果および自己点検・評価に関わるアンケートの結果は、教育改善委員会において審議され、教育改善のための提言が行われた（資料 9-1-④-9）。

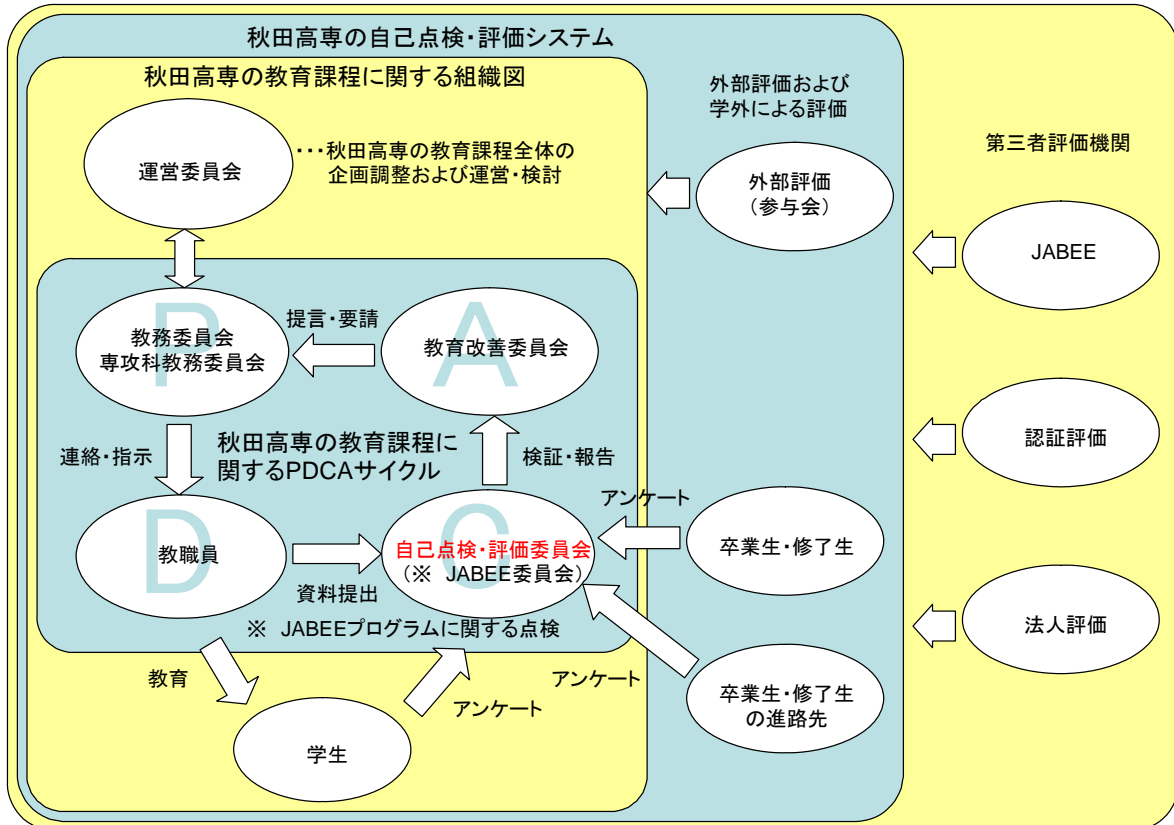
また、JABEE プログラムに関する点検は、JABEE 委員会および教育プログラム改善専門部会が行っている（資料 9-1-④-10～11）。その結果から、教育改善委員会が改善要請をする。平成 18 年 3 月に行われた教育改善委員会では、33 項目の改善すべき項目について審議と提言を行った（資料 9-1-④-12）。

改善例としては、教育改善委員会から「専攻科修了認定会議および単位認定会議が実施されていない」ことについて提言され、平成 18 年 4 月に行われた専攻科教務委員会において、専攻科修了認定会議および単位認定会議を行うことが決定され、同年 9 月に実施されている（資料 9-1-④-13）。

資料 9-1-④-1 「秋田高専の教育課程に関する組織図ならびに自己点検・評価，外部評価，第三者評価の関連図」

資料2

秋田高専の教育課程に関する組織図ならびに自己点検・評価、外部評価、第三者評価の関連図



認証評価委員長

(出典 平成 18 年度第 2 回自己点検・評価委員会会議資料)

## 資料 9 - 1 - ④ - 2 「教務委員会規則」

## 秋田工業高等専門学校教務委員会規則

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第18条の規則に基づき、秋田工業高等専門学校に教育計画等教務に関する事項を審議するため秋田工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程に関すること。
- 二 学校行事に関すること。
- 三 学生の授業時間割の編成に関すること。
- 四 学生の試験に関すること。
- 五 その他必要な事項に関すること。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教務主事
- 二 教務主事補
- 三 各学科等から選出された教員 各2名  
ただし、2名のうち1名は専攻科を担当する教員とする。
- 四 学生課長

## (任期)

第4条 前条第3号に定める委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

## (委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて、その意見を求めることができる。

## (庶務)

第7条 委員会に関する庶務は、学生課において処理する。

## (雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営上必要な事項は、別に定める。

## 附則

この規程は、昭和40年9月1日から施行する。

## 附則

この規程は、昭和41年8月1日から施行する。

## 附則

この規程は、昭和49年4月1日から施行する。

## 附則

この規程は、昭和55年4月1日から施行する。

## 附則

この規程は、昭和56年3月9日から施行する。

## 附則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

## 附則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 9 - 1 - ④ - 3 「専攻科教務委員会規則」

## 秋田工業高等専門学校専攻科教務委員会規則

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校専攻科規則第5条に基づき、専攻科教務に関する事項を審議するため、秋田工業高等専門学校専攻科教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程に関すること。
- 二 学生の授業時間割の編成に関すること。
- 三 学生の試験に関すること。
- 四 学校行事に関すること。
- 五 その他必要な事項に関すること。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 専攻科長
- 二 各専攻主任
- 三 各学科等から選出された専攻科を担当する教員 各1名  
(秋田工業高等専門学校教務委員会規則第3条第1項第3号に掲げる専攻科を担当する教員)
- 四 学生課長

## (任期)

第4条 前条第3号に掲げる委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

## (委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて、その意見を求めることができる。

## (庶務)

第7条 委員会に関する庶務は、学生課において処理する。

## (雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営上必要な事項は、別に定める。

## 附則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 9-1-④-4 「カリキュラム検討委員会規則」

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第18条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育課程に関する重要な事項を審議するため、秋田工業高等専門学校カリキュラム検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議・検討する。

- 一 修学年限5年の課程（以下「本科」という。）及び専攻科の教育課程の編成等に関して、本校の教育目標を達成するための体系的教育課程の編成に関すること。
- 二 「創造工学システムプログラム」に関すること。
- 三 その他本科及び専攻科の教育課程の編成上重要な諸問題に関すること。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教務主事
- 二 専攻科長
- 三 教務主事補
- 四 各専攻主任
- 五 各学科等から選出された教務委員会委員 各2名
- 六 学生課長

## (任期)

第4条 前条第5号に掲げる委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

## (委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて、その意見を求めることができる。

## (専門部会)

第7条 委員会に特定の事項を調査・検討するため専門部会を置くことができる。

2 専門部会の部会長及び委員は校長が指名する。

## (庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、学生課において処理する。

## 附 則

この規則は、平成18年 4月 1日から施行する。

## 附 則

この規則は、平成19年 4月 1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 9 - 1 - ④ - 5 「自己点検・評価委員会規則」

## 秋田工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則

## (目的)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第18条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うため、秋田工業高等専門学校自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 主事
- 三 専攻科長
- 四 専攻主任
- 五 各学科等から各2名
- 六 事務部長
- 七 課長
- 八 その他校長が必要と認める者

## (委員の任期)

第3条 前条第8号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
- 2 委員会に副委員長を置き、委員長が指名する。
  - 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
  - 4 委員長に事故等があるときは、副委員長がその職務を代行する。

## (委員以外の者の出席)

第5条 委員会は、必要に応じ委員以外の者の者を出席させて意見を聴くことができる。

## (委員会等への付託)

第6条 委員会は、自己点検・評価に関する具体的な事項の設定及び実施方法等についての原案策定を関係委員会に付託することができる。

## (報告及び公表)

- 第7条 委員会は、毎年度自己点検・評価を実施し、関係委員会からの答申等を取りまとめて、その都度、校長に報告するものとする。
- 2 校長は、自己点検・評価の結果を必要に応じ公表するものとする。

## (庶務)

第8条 委員会の庶務は、企画室において処理する。

## (補則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営上必要な事項は別に定める。

## 附 則

この規程は、平成 4年10月 7日から施行する。

## (略)

## 附 則

この規則は、平成 19年 4月 1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)



資料 9-1-④-6 「平成 18 年度第 2 回自己点検・評価委員会議事要旨」

### 平成18年度 第2回自己点検・評価委員会議事要旨

日 時 : 平成19年1月26日(金) 16:40~17:10

場 所 : 会議室A

出席者 : 島田委員長, 成田文委員, 脇野委員, 堀江委員, 大上委員, 対馬委員, 宮田委員,  
山本委員, 傳井委員, 上松委員, 佐藤悟委員, 水田委員, 小林委員, 工藤委員,  
成田章委員, 佐藤義委員, 星委員, 栗澤委員, 工藤専門員, 伊藤専門職員

欠席者 : 須川委員, 佐々木委員, 木澤委員, 手島委員, 長代委員

#### 議題 1. 機関別認証評価に関するアンケートの実施について

宮田委員から, 認証評価に必要なアンケート内容, アンケート対象, 窓口等について資料1に基づき説明があった。

また, 秋田高専の教育課程に関する組織図ならびに自己点検・評価, 外部評価, 第三者評価の関連について資料2に基づき説明があった。

#### 議題 2. アンケート実施対応ワーキンググループの設置について

島田委員長から, アンケート実施対応ワーキンググループの設置について提案があり, 脇野, 上松, 佐藤(悟)及び小林の4委員が選出され, 脇野委員を委員長とすることが承認された。

この後, 宮田委員から, 認証評価に係るアンケートの具体的な実施項目について資料3に基づき説明があった。

アンケートの内容は認証評価委員会及び教務委員会で作成し, それをアンケート実施対応ワーキンググループが各アンケートの担当窓口へ渡し, アンケート実施対応ワーキンググループがアンケート結果を集計して必要な体裁にまとめることとした。

(出典 秋田高専グループウェア)

## 資料 9 - 1 - ④ - 7 「教育改善委員会規則」

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第18条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (目的)

第2条 委員会は、本校の教育理念・教育目標を実現するため、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を推進し、これに積極的に取り組むことにより、本校における教育の改善を図ることを目的とする。

## (審議事項等)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、前条の目的を達成するため、創造工学システムプログラムの改善に関する事項並びに教育内容、授業方法及び教育改善に関する事項等について審議し、カリキュラム検討委員会に提言するとともに、必要に応じFD研修会等を企画・実施する。

## (組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- 一 教務主事補 1名
- 二 各専攻主任
- 三 各学科等から選出された教員 各1名
- 四 学生課長
- 五 その他校長が必要と認める者

## (任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。  
2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長・副委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は校長が指名する者をもって充て、副委員長は委員の互選により選出するものとする。  
2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。  
3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を行う。

## (委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

## (専門部会)

第8条 委員会に特定の事項を調査・検討等するため専門部会を置くことができる。  
2 専門部会の部会長及び専門委員は、委員長が指名する。

## (審議事項の報告)

第9条 委員長は、委員会において審議された事項を整理し、校長へ報告しなければならない。

## (庶務)

第10条 委員会に関する庶務は、学生課において処理する。

## 附 則

1. この規則は、平成17年11月2日から施行する。
2. 平成17年度中に委嘱される委員の任期は、第5条第1項の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

## 附 則

この規則は、平成17年12月 5日から施行する。

## (略)

## 附 則

この規則は、平成19年 4月 1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 9 - 1 - ④ - 8 「運営委員会規則」

## 秋田工業高等専門学校運営委員会規則

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校の管理運営を円滑に行うため、秋田工業高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 主事
- 三 専攻科長
- 四 専攻主任
- 五 図書館長
- 六 学科主任等
- 七 学級担任会の代表1名
- 八 事務部長
- 九 その他校長が指名する者

## (審議事項)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学則その他重要な規則の制定、改廃に関する事。
- (2) 予算概算の方針に関する事。
- (3) 学科の設置、廃止に関する事。
- (4) 学生の厚生補導及び身分に関する重要事項
- (5) その他教育施設及び学校運営に関する重要事項

## (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

## (委員以外の者の出席)

第5条 委員会は、必要に応じ委員以外の者を出席させて意見を聴くことができる。

## (幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、課長をもって充てる。

## (庶務)

第7条 委員会の庶務は、総務課において処理する。

## (雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営上必要な事項は、別に定める。

## (改廃)

第9条 この規則の改廃は、校長が行う。

## 附 則

この規程は、昭和40年 9月 1日から施行する。

## (略)

## 附 則

この規則は、平成19年 4月 1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 9-1-④-9 「第 2 回教育改善委員会議事録要旨」

## 第 2 回 教育改善委員会議事要旨 (案)

日 時 平成 19 年 5 月 29 日 (火) 16:45～17:15

場 所 会議室 B

出席者 対馬委員長, 西野, 大上, 土田, 田中, 石塚, 佐藤 (悟), 長井, 渡邊, 工藤

## 1. 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果について

委員長より, 調査結果で全ての項目を検討することは困難であることから, アンケート調査による各設問に対して, 周知度, 理解度等で肯定的な意見が 60% を超えるものについて, 全体的に良好な結果であるとした旨提案があり了承された。

続いて, 資料 1 に基づき個々の設問について検討をした。検討結果は以下のとおり。

## 1) 「学校の目的とアドミッションポリシー」の周知について

非常勤教員に対しては, 学校の目的とアドミッションポリシーに関する啓蒙活動を積極的に行う必要があると考えられる。また専攻科担任および専攻科教科担当教員が入学式や始業式, 講義等のガイダンスでさらなる指導が必要と思われる。

## 2) 「学校の授業の諸制度 (オフィスアワー) と学習の到達度」について

本科および専攻科の担任や教科担当教員がガイダンス等を通して, 粘り強い指導が必要と思われる。また, オフィスアワーの運用方法を改善することも検討していただきたい。

以上の検討結果は, 教務委員会および専攻科教務委員会へ提言することとした。

## 2. 授業アンケート調査結果について

このアンケート調査結果の周知度, 理解度等については, 自己点検・評価に関わるアンケート調査結果と同様な基準を適用し, 委員長より資料 2 に基づき次の設問について検討をした。

「授業科目 (前期) 講義, 体育, 実験実習科目」のアンケートについて

ほとんどが予習, 復習及びシラバスの利用をしておらず, 成績低下に繋がっている。これについては, 担任及び教科担当教員が学生に対し周知徹底することとしたい。また講義科目の予習・復習に関して, 全体的に学生がどの程度の負荷なのか調査してみることもよいと思われる。

以上の検討結果は, 教務委員会へ提言することとした。

## 3. その他

なし

(出典 教育改善委員会資料)

## 資料 9 - 1 - ④ - 10 「JABEE 委員会規則」

## 秋田工業高等専門学校JABEE委員会規則

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第18条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、日本技術者教育認定機構（以下「JABEE」という。）が認定する「技術者教育プログラム」に関する委員会（以下「JABEE委員会」という。）を置く。

## (任務)

第2条 JABEE委員会（以下「委員会」という。）は、校長の諮問に応じてJABEEが認定する技術者教育プログラム（以下「JABEEプログラム」という。）に関する次の事項について審議及び対応を行う。

- 一 JABEEプログラムの認定申請（中間審査及び認定継続審査の申請を含む。）に関すること。
- 二 前号の認定申請に必要な資料等の収集・保存に関すること。
- 三 第一号の認定申請に係る審査への対応及びその準備等に関すること。
- 四 JABEEプログラムの実施に関し必要な事項に関すること。
- 五 JABEEプログラムの実施状況の点検・検証に関すること。
- 六 その他JABEEプログラムに関する調査・研究に関すること。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- 一 教務主事
- 二 専攻科長
- 三 各専攻主任
- 四 各学科等から選出された教員 各2名
- 五 事務部長
- 六 総務課長及び学生課長
- 七 その他校長が必要と認める者

## (任期)

第4条 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。  
2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長・副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は校長が指名する者をもって充て、副委員長は、委員の互選により選出するものとする。  
2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。  
3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を行う。

## (委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

## (専門部会)

第7条 委員会に、特定の事項を調査・検討及び点検・検証するため、専門部会を置くことができる。  
2 専門部会の部会長及び委員は校長が委嘱する。

## (庶務)

第8条 委員会の庶務は、企画室において処理する。

## 附 則

1. この規則は、平成17年11月2日から施行し、平成17年4月1日から適用する。
2. 秋田工業高等専門学校JABEE委員会の設置について（平成13年11月16日校長裁定）は廃止する。

## 附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 9 - 1 - ④ - 11 「教育プログラム改善専門部会細則」

## 秋田工業高等専門学校教育プログラム改善専門部会細則

## (設置)

第1条 この細則は、秋田工業高等専門学校JABEE委員会（以下「JABEE委員会」という。）規則第7条第1項の規定に基づき、教育プログラムに関し点検・検証等するため、教育プログラム改善専門部会（以下「専門部会」という。）を置く。

## (協議事項)

第2条 専門部会は、教育プログラムの点検・評価について、次の事項を協議し、JABEE委員会に提言する。

- 一 学校全体の学習・教育目標に関する事
- 二 教育課程に関する事
- 三 教育方法に関する事
- 四 学習・教育目標達成度に関する事
- 五 教育環境等に関する事
- 六 その他教育プログラムの点検・評価に関する事

## (専門部会長・専門委員)

第3条 専門部会に専門部会長及び専門委員を置き、JABEE委員長が指名する者をもって充てる。

- 2 専門部会長は、専門部会を招集し、その議長となる。

## (任期)

第4条 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (部門委員会)

第5条 専門部会に部門単位の学習・教育目標との整合性、授業内容と方法、到達目標、達成度、教育環境等の点検・評価を実施するため、次の部門委員会を置く。

- 一 機械系部門委員会
- 二 電気情報系部門委員会
- 三 物質系部門委員会
- 四 環境都市系部門委員会
- 五 人文科学系部門委員会
- 六 自然科学系部門委員会
- 七 専攻科部門委員会

- 2 各部門委員会は、当該学科等に置き、所属学科等の教員をもって構成する。

## (協議事項の報告)

第6条 専門部会長は、専門部会において協議された事項を整理し、JABEE委員長へ報告しなければならない。

## (庶務)

第7条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

## 附 則

1. この細則は、平成18年 1月10日から施行する。
2. 平成17年度中に委嘱される委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

## 附 則

この細則は、平成19年 4月 1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

資料 9-1-④-12 「JABEE 委員会 専門部会『教育プログラム改善専門部会』要請項目改善確認シート」

修正日 2006.12.8

JABEE委員会 専門部会 「教育プログラム検討専門部会」要請項目 改善確認シート

No.	項目	専門部会 要請日	教育課程委員会 提言日	提言後の検討した委 員会等	改善確認日	確認者	備考(検討すべき委員 会参照資料、問題点)
1	オフイスワーを実施時間を居室に掲示していない教員がいる。	12/26/05	-	教員会議	2/20/06	中島	
2	助手を授業担当者として扱って良いのか。	12/26/05	1/27/06	3/1/06教育改善委員会	2/7/06	中島	
3	留学生向け授業で、シラバスが掲載されていない教科がある。	12/26/05	3/1/06議事録	5/9/06教務委員会	6/5/06	木澤	別冊で保管
4	期末試験あるいは学年末試験、更には最終成績が49点以下の学生の救済が、現状の補正試験では実現不可能であるが、現状の評価方法で良いのか。	12/26/05	3/1/06議事録	5/9/06教務委員会	検討中		
5	補習授業の実施方法が整備されていない。	12/26/05	3/1/06議事録	5/9/06教員会議	6/5/06	木澤	実施記録で対応
6	5年生卒業前に実施される追加認定試験は、次単位数が何単位でも受検が許可されることになっているが、現在の規定のまま良いのか。	12/26/05	3/1/06議事録	3/1/06教育改善委員会	不要		
7	前期末あるいは学年末成績における「二次締切り」の評価方法は明確になっているのか。	12/26/05	3/1/06議事録	5/9/06教務委員会	検討中		
8	専攻科「開設科目」表の学期別担当や担当教員がシラバスと異なるものがある。	12/26/05	3/1/06議事録	専攻科長	4/4/06	木澤	H18学生便宜対応
9	専攻科担当教員と思われる教員も、専攻科履修要項や特別研究教授要項などに記載されていない教員がいる。	12/26/05	3/1/06議事録	専攻科長			工藤さんに確認
10	専攻科における女職課程履修、欠履措置確認が本科のように具体化されていない。	12/26/05	3/1/06議事録	教務主事	4/4/06	木澤	H18シラバス対応
11	専攻科修了認定会議および単位認定会議が実施されていない。	12/26/05	(3/1/06)			中島	
12	専攻科修了認定会議および単位認定会議が実施されていない。	12/26/05	2/22/06		3/8/06	中島	
13	専攻科期末試験不合格者の救済方法は再試験のみであるが、これで良いのか。	12/26/05	3/1/06議事録	69リキョウラム検討委員	04/26/06	菅原	
14	各種アンケートが整備されていない。また、本校ではどのようなアンケートを実施しているのか。更に、本校ではどのような目的でアンケートを実施し、アンケート(学生による授業評価、企業に対する本校卒業生の評価など)を行う必要性は明確になっているのか。また、実施したアンケート結果はどのような形で以後反映させているのか。	12/26/05	3/1/06議事録	校長、教務主事	未解決		
15	シラバスにおける評価方法で「総合的に評価する」との記述は、評価基準として非常にあいまいな表現であり問題がある。	12/26/05	1/27/06	教務主事	2/7/06	中島	
16	人文・自然科学系のシラバスは学科単位での記載となっていない(なお、シラバスは電子データとしても教務係で保管するのが望ましいのではない)。	12/26/05	1/27/06	教務主事	2/7/06	中島	
17	卒業研究、特別研究の指導方法、評価方法、実時間配分方法、中間発表の実施などについて、全ての学科で同様な対応が採られている。	12/26/05	3/1/06議事録	専攻科教務委員会 務委員会	6/5/06	木澤	H18教務事務ガイDP43
18	本科においては、他の専攻で取得可能な単位数について、「30単位を超えない範囲で履修と見なす」と規則化されている(学生便宜委員の第13条の2)が、単位取得の証明方法が明確になっていない。	12/26/05	3/1/06議事録	教務主事	7/5/06	木澤	7/5/06教員会議資料
19	本科において、「大学・短期大学等における学修を本校における選択科目の履修と見なし、単位を認定することができる」と規則化されている(学生便宜委員の第13条の3)が、学修とは何を意味するのか。また、他の高等教育機関で取得した単位は、必修科目、選択科目のどちらに加盟することになっているのかが明確になっていない。	12/26/05	3/1/06議事録	教務主事	7/5/06	木澤	7/5/06教員会議資料
20	専攻科では「大学・短期大学等における修得単位は20単位を限度に履修し取得したと見なす」と規則化されている(専攻科履修要項15頁の第9条)が、単位取得の証明方法が明確になっていない。	12/26/05	3/1/06議事録	教務主事	7/5/06	木澤	7/5/06教員会議資料
21	学習・教育目標各項目の評価の中で「TOEIC 400点相当」とあるが、相当とはどの程度をいうのか明確になっていない。	12/26/05	3/13/06	英語科	3/13/06	JABEE委員会	Label委員会報告
22	学習に関する「校外学修」により認定された単位(英検など)は、英語力(コミュニケーション能力)として総合的に評価する方法は確立しているのか。	12/26/05	3/1/06議事録	英語科	6/5/06	木澤	6/5/06教務主事報告資料
23	4年生の「校外実習」が選択科目であることに問題はないのか。また、専攻科の授業科目に「校外実習」がなくて良いのか。	12/26/05	3/8/06	専攻科科長	4/4/06	木澤	H18年度実施
24	教育改善委員会とは別に「FD委員会」の設置が必要ではないのか。	12/26/05	3/1/06議事録	校長	12/8/06	部会	Jabee委員会差し戻し
25	教育に対する「教員間連絡ネットワーク組織」が存在しておらず、設置が必要ではないのか。	12/26/05	3/1/06議事録	5/9/06教務委員会	検討中		
26	「教育内容」に対する学生へのアンケートは必要ではないのか。	12/26/05	3/1/06議事録	5/9/06教務委員会	検討中		「教育内容」とは
27	「授業アンケート」の実施が年1回では、少なすぎるのではないのか。	12/26/05	3/1/06議事録	5/9/06教務委員会	検討中		
28	在学中にJABEEプログラム修了が不可能であることが明らかになった学生に対する、その後の具体的な処置方法が決定していない。	12/26/05	3/1/06議事録	5/9/06教務委員会	7/11/06	木澤	新井、奈良は修了要件を満了するために必修科目を履修
29	専攻科H18修了生およびH17修了生は、本科在学中50点で単位の認定を受けた年度がある(H18修了生はH15[4年生]、H17修了生はH14~15[4~5年生])が、このまま単位認定するのか。	12/26/05			3/13/06	JABEE委員会	庶務課野口氏の報告
30	JABEE認定校から専攻科に編入学してきた学生について、本科4・5年時の取得単位(他校で取得した単位)を本校において無条件で認定するのか。	12/26/05	3/1/06議事録	教務主事	7/5/06	木澤	7/5/06教員会議資料
31	JABEE非認定校から専攻科に編入学してきた学生について、4・5年時の取得単位(他校で取得した単位)を、本校において無条件で認定するのか。	12/26/05	3/1/06議事録	教務主事	7/5/06	木澤	7/5/06教員会議資料
32	各種外部試験(語学学校外学修や資格試験等)に対する本校での評価方法は具体化されているのか。	12/26/05	3/1/06議事録	未検討	12/8/06	部会	Jabee委員会差し戻し
33	学習・教育目標(9-1)「数学、自然科学および情報技術」における情報技術科目が存在しない。	12/26/05	3/1/06議事録	未検討	未解決		Jabee委員会差し戻し

(出典 JABEE 委員会資料)

## 資料 9-1-④-13 「専攻科学生の単位認定、修了認定について（専攻科教務委員会案）」

専攻科学生の単位認定、修了認定について (専攻科教務委員会案)		平成18年4月 須川
1. 前期末試験から単位認定会議までの日程		
前期末試験の日程 (5日間) 予定 9月19日(火)～9月25日(月)		
再試験を含めて成績結果を教務係に報告 締め切り 9月28日(木) 3日間	再試験をおこなうか否かは担当教員が決定	
専攻科教員会議 単位認定会議 9月29日(金)	○学位申請受付 10月1日～10月7日	
2. 後期末試験から単位認定、修了認定会議まで日程		
(専2)2学年成績締切(2月15日(木)) 修了認定会議 2月20日(火)	○2月2日(水) 特別研究発表日	
(専1)後期末試験の日程 (5日間) 予定 3月1日(木)～3月7日(水)	○3月7日(水) 終業式・閉寮	
後期末試験の試験結果の開示(掲示) 3月8日(木)～3月14日(水) 5日間		
再試験を含めて成績結果を教務係に報告 締め切り 3月20日(火)	○3月18日(日) 修了式	
本科の進級認定会議と同時に開催 専攻科教員会議 単位認定会議		

(出典 専攻科教務委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、PDCA サイクルによる教育の質の向上、改善を行うシステムが整備されている。また、教育改善委員会による提言を受け、教育改善が行われている。



観点 9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

学生による授業評価のためのアンケート調査の結果は、各担当教員に返却されており、学生から指摘された問題点等について、個々の教員が改善のための対応表を作成し、前年度より良くする方策を示している(前述資料 9-1-②-7)。

また、本校教員による公開授業が年 2 回実施されており、ほかの教員の授業を参観することにより、相互に授業方法等の質的向上を図ることを目的としている。参観した教員は「公開授業記録」を記載・提出することが義務付けられ、この記録は公開授業を行った教員の授業内容の改善のためにフィードバックされる(資料 9-1-⑤-1~2)。

平成 18 年度からは公開授業に関する研究会を行い、校長も参加のもとで授業方法などに関して活発な討論が行われた(資料 9-1-⑤-3)。

教員の教育に関する貢献については、平成 14 年度から実施された国立高等専門学校教員顕彰の評価法に基づき評価し、「教員顕彰者の推薦」を行っている。この顕彰制度は、各教員の教育力向上に向けての目標となっている。本校の教員の教育に関する貢献度評価としては、① 教員の自己評価、② 教員同士による教員評価、③ 学生による教員評価がある。

#### ① 教員の自己評価

平成 14 年度に実施された国立高等専門学校教員顕彰の評価法を改訂し、平成 15 年度から、国立高等専門学校協会から示されている「教員の教育業績等の評価」(資料 9-1-⑤-4)により、教員自身が教育貢献度を自己評価している。この評価項目には、1) 授業について、2) FD 活動・地域貢献、3) 学生生活指導、4) 経歴関係等の大項目があり、高専教員の業務を広く網羅した自己評価項目を示している。また、この評価法は点数で集計する方法を採っており、各教員は教育現場での自己の活動について客観的に評価し、高専における教育の充実・向上を目指している。

#### ② 教員同士による教員評価

平成 15 年度から実施されている。教員同士により教育貢献が顕著であると思われる教員を推薦し、評価の高い教員を順位付けしている。

#### ③ 学生による教員評価

学生による教員評価に関するアンケート(資料 9-1-⑤-5~6)を実施し、授業評価の高い教員を推薦している。

以上より、①~③の評価を総合し、その結果もっとも高い評価を得た教員を「教員顕彰者の推薦」により表彰する形式を取り、4月に行われる教員会議で教員が公表され、1名の教員が表彰を受けた(資料 9-1-⑤-7)。

また、平成 16 年度から校長賞を創設し、本校における教育活動・学生生活指導・地域社会への貢献等において顕著な功績が認められた教員や、教職員の模範となる功労のあった教員を対象に、校長表彰を実施している。平成 17, 18 年度には教員顕彰の被推薦者と、各学科で学術賞を受賞した学生の指導教員に校長賞が授与されている(資料 9-1-⑤-7)。

資料 9 - 1 - ⑤ - 1 「平成 18 年度公開授業について」

平成 18 年 5 月 12 日

教 員 各 位

教 務 主 事

専 攻 科 長

平成 18 年度 公開授業について

平成 18 年度の公開授業を下記により行いますので、よろしくお願ひします。

記

(1)前期，後期にそれぞれ，2 回ずつ行います。

前期期日：5 月 22 日（月）～6 月 2 日（金）および 6 月 26 日（月）～6 月 29 日（木）

後期期日：未定（後日，別途通知予定）

(2)各期で公開授業担当もしくは参観のいずれかにより，教員全員が参加していただく予定です。

(3)公開授業担当教員は前期 12 名，後期 12 名の予定です。

(4)対象学年：本科 1 年～5 年及び専攻科

(5)5 月 22 日（月）～6 月 2 日（金）の公開授業担当教員には 17 年度行った担当教員 5～6 名を含み，その教員は 4 年，5 年，専攻科の科目を担当することとします。（JABEE 対応）

(6)参観教員は教務委員，JABEE 委員にこだわらないが，可能なら 17 年度の参観教員を含むようにする。参観教員人数は 1 授業に対し 5 人を予定しておりますが，他に参観を希望される教員は自由とする。参観した教員は報告書を電子ファイルで教務係へ提出してください。

(7)参観時間については，開始 20 分，終了前 20 分は必ず参観してください。

(8)参観教員の報告書は，参観の日から 7 日以内に教務係へ提出してください。

(9)前期の計画は別添のとおりです。

（出典 学生課教務係資料）

資料 9-1-⑤-2 「公開授業記録表」

整理番号 \_\_\_\_\_

## 平成 17 年度 公開授業記録表

学年・学科 5 年全学科

授業科目 \_\_\_\_\_

担当教員 \_\_\_\_\_

実施日 平成 17 年 11 月 21 日 (月)実施時間 8 : 55 ~ 10 : 25

記載者氏名 \_\_\_\_\_

## 1. 授業内容 (良い : ◎, 大体良い : ○, 要改善 : △ を記入して下さい)

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| 1. シラバスに従った授業 (内容・進度) | ( ◎ ) |
| 2. 授業の質 (導入・展開・まとめ)   | ( ◎ ) |
| 3. 板書や資料の説明の仕方        | ( ○ ) |
| 4. 学生の掌握度             | ( ◎ ) |
| 5. 声の大きさ・明晰度・話す速さ     | ( ◎ ) |

## 2. 参考となった事柄

テキストを事前に予習させ、(予習しやすいわかりやすい教科書を選んでいる)  
その上で事例をあげて説明を加えている点。内容の定着がしっかりするだろう。

## 3. 所見

・大きなクラスなので、発表する学生の声が後ろまで聞こえなかった。  
発言した学生と教員のやりとりがクラス全体までには共有されなかった  
だろうことが残念。

・視聴覚機器を使って事故の例を見せると安全性の重要性や具体的な点が  
分かって良いかもしれない

・テキストを閲覧したく、学生の側に座らせてもらった。時折私語が聞こえて  
きたのだが、「私語」といっても内容は新しく知った事柄についての賛嘆や  
次の展開を予測しての疑問 (「ってどういう事だろう。」「なんだろう。」等)  
だった。とにかく静かにさせようとしがちだったが「私語」の豊かさに気がつい  
たことが大きな発見だった。

(出典 総務課資料)

## 資料 9 - 1 - ⑤ - 3 「公開授業研究会議事録」

## 平成 18 年度公開授業研究会議事要旨

日 時：平成 19 年 1 月 24 日（水） 16:00～17:05

場 所：会議室 A

出席者：成田（文）、佐々木、木澤、宮田、山本、山崎（博）、伊藤（桂）、船山、岡村、豊嶋、佐藤（徹）、野中、対馬、日野、脇野、桑本、金子、長井、工藤、佐藤（尊）、上田、森本、校長

開会にあたり、教務主事から初めてこの研究会を開催することとした経緯の説明等を含め、挨拶がされた。

引き続き、進行担当の山崎教務主事補から、本日の研究会の進行についてテーマを大きく 2 つとることとし、1 つは本日の公開授業科目である基礎数学Ⅲ（線形代数）と専門科目との連携について、もう 1 つは低学年のクラスの雰囲気・問題点等を意見交換して、今後のクラス運営に役立てていくこととすることが説明された。

## テーマ 1. 線形代数と専門科目の連携に関する情報交換について

公開授業科目を担当した森本教員から、線形代数の授業内容について説明後、各学科から線形代数を用いた授業の関連する部分について報告がされた。授業はもとより卒業研究を進めていくうえでも、線形代数の重要性が再確認された。引き続き数学科側からこの線形代数の内容について大学 1 年相当の内容であり、2 学年にこの内容は大変であり数学の流れとしてはどうかと思われるが、専門の授業へ対応していくための道具としての位置づけという点で必要であるという矛盾することを抱えていることの報告と、線形代数以外の数学の微分積分学の内容について説明された。

続いて数学の授業の進捗状況と専門科目の授業の進捗状況について各学科から報告を受け、専門の授業を進めていく中で、数学でまだ習っていない単元がでてくることがあり、先に教えてよいものかと困ることがあるといった報告がされた。

最後に数学の科目と専門科目との関連について、シラバスに例示があれば学生が興味をもって数学に取り組んでいくのではないかと意見があり、今後、教務スタッフで検討することとした。

## テーマ 2. 低学年のクラスの雰囲気・問題点について

低学年のクラス担任から自クラスの状況について報告があり、引き続いて、授業中の問題行動（おしゃべり・メール・内職・授業中のトイレ等）について対処事例について報告がされ、授業の一番最初に問題行動があった場合の自分の対応を学生に明示するのが効果的であることが報告された。

留年を自分で覚悟し、寝ている者がいて対応が難しいという報告があり、授業中全員に教員が動いて働きかけるのが効果的ではないかという意見が寄せられた。

最後に今日の、研究会の総括として数学はおもしろいものであるということを低学年の早い時期にわからせる方法があればという意見があり、専門科でのオリエンテーションを検討していくこととした。

（出典 公開授業研究会議事要旨）

資料 9-1-⑤-4 「教員の教育業績等の評価の要領」

平成 17 年 11 月 4 日

教 員 各 位

教 務 主 事

教員の教育業績等評価の実施について（依頼）

このことについて、先日の説明どおり、平成 17 年度国立高等専門学校機構教員顕彰の候補者推薦のための「教員の教育業績等評価」を実施します。

つきましては、2 ページから 9 ページまでの質問に対する回答を最終ページの「評価集計表」に記入の上、11 月 16 日（水）までに庶務課人事係へ提出願います。

なお、記入にあたっては下記事項に留意願います。

記

1. 4 ページの「5. 卒業論文指導の状況等（専攻科における研究指導を含む）」及び「6. 留学生の指導等（教育方法の工夫、生活指導等）」の項目は、卒業論文指導等を担当していない場合、または担当クラスに留学生が在籍していない場合は、一般教科・専門教科に関わらず「-」を記入してください。
2. 9 ページの「第 2 部 教員による相互評価」については、最終ページの「評価集計表」の一番下の欄に記入の上、該当部分を切り取り、添付の封筒に入れて提出願います。

（出典 学生課教務係資料）

資料 9-1-⑤-5 「学生による教員の評価の要領」

## 学生による教員評価

M学科 第 ( 3 4 5 ) 学年 ……○印で囲むこと

実施日：平成17年 \_\_\_月\_\_\_日

ポスターに示すイメージで、「良い先生」と思う先生の氏名（姓、名の両方すなわちフルネーム）を次の要領で記入してください。

- (1) 自分の属する専門学科の先生を、下に示す名簿から空欄に3名選んで記入すること。  
 (2) 次のページでは、自分の学科以外（すなわち一般科目担当の先生または他学科）の先生の名簿を載せてありますが、その中から空欄に学科名と共に5名選んで記入すること。  
 ただし学科名は、次のページに示す英字を氏名の前の小さな空欄に記入するものとする。

自分の属する専門学科の先生

3名連記


機械工学科	教授	伊藤	惇
	"	佐々木	章
	"	落合	雄二
	"	茂木	良平
	"	大上	哲郎
	助教授	山崎	保輔
	"	安藤	正昭
	"	土田	一
	"	木澤	悟
	"	小林	義和
助手	今田	良徳	
"	渡部	英昭	

(出典 総務課関係資料)

資料 9-1-⑤-6 「学生による教員の評価の要領」

一般科目担当の先生、または他学科の先生  
5名連記


E : 電気情報工学科

C : 物質工学科

B : 環境都市工学科

H : 人文科学系

N : 自然科学系

電気情報工 学科	教授	柳原昌輝	物質工学科	教授	千葉卓男	人文科学系	教授	脇野博	
	"	宮田克正		"	徳光直樹		"	助教	手島邦夫
	"	浅野清光		"	船山齊		"	"	小林貢
	"	高橋身佳		"	須川浩		"	"	金子淳
	助教授	田畑季章		"	傳井栄		"	講師	菅原隆行
	"	安東至		"	豊嶋幸子		"	"	桑本裕二
	"	山崎博之		"	野坂肇		"	"	長井栄二
	"	山本昌志		"	岡村澄夫		"	"	海上順代
	講師	田中将樹		"	石塚眞治		"	"	水野麗
	助手	伊藤桂一		"	西野智路		自然科学系	教授	工藤幹
"	竹下大樹	助教	佐藤彰彦	"	"	成田文雄			
		助手	佐藤徹雄	"	"	成田章			
		教授	羽田守夫	"	"	麻生正道			
		"	阿部和彦	"	"	渡邊朋雄			
		"	折田仁典	助教授	"	大島静夫			
		"	对馬雅己	"	"	中島理			
		"	堀江保	"	"	黒田潔			
		助教授	佐藤悟	"	"	上田学			
		"	桜田良治	講師	"	佐藤尊文			
		"	水田敏彦	"	"	白根弘也			
		助手	肴倉宏史	"	"	森本真理			
		"	恒松良純						
		"	日野智						

(出典 総務課関係資料)

## 資料 9 - 1 - ⑤ - 7 「教育活動・学生生活指導・地域社会等による教員顕彰」

## 教員顕彰の本校からの被推薦者

平成 15 年度	人文科学系	助教授	脇野 博
平成 16 年度	機械工学科	助教授	土田 一
平成 17 年度	人文科学系	助教授	菅原隆行
平成 18 年度	自然科学系	助教授	黒田 潔

## 校長賞受賞者

平成 16 年度	機械工学科	助教授	土田 一
平成 17 年度	人文科学系	助教授	菅原隆行
	機械工学科	教 授	茂木良平
	電気工学科	教 授	宮田克正
	物質工学科	助 手	佐藤徹雄
	環境都市工学科	教 授	対馬雅己
平成 18 年度	機械工学科	助教授	安藤正昭
	電気工学科	教 授	柳原昌輝
	物質工学科	助 手	佐藤徹雄
	環境都市工学科	助教授	恒松良純

(出典 教員会議資料から抜粋)

## (分析結果とその根拠理由)

毎年行われている、学生による授業評価のアンケート調査結果を受けて、個々の教員は教育改善のための資料としている。その対応と課題については、報告書としてまとめている。

ほかの教員の授業を参観することにより、相互に授業方法等の質的向上を図ることを目的に、公開授業を継続的に実施している。公開授業の記録表は各授業担当者にフィードバックされ、当該教員の授業改善に利用されている。

また、個々の教員に対する教育の改善とその活動状況を、教育貢献度という評価法に基づいて評価し、「教員顕彰者の推薦」を行っている。さらに、教育活動・学生生活指導・地域社会への貢献に対して校長賞を創設し、貢献度の高い教員を表彰している。

以上のことから、評価結果により各教員は教育内容の質の向上を図っている。学校は個々の教員の改善活動状況を把握しており、顕著な功績が認められた教員について表彰などを行っている。



## 観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

平成 17 年 11 月～平成 18 年 11 月の 1 年間に、本校教員の行った研究活動の資料を示す(資料 9-1-⑥-1)。資料から、著書および学術雑誌への掲載論文数は 23 件、講演論文および報告書が 68 件と、本校教員が活発な研究活動を行っていることがわかる。

## 資料 9-1-⑥-1 「教員の研究活動」

## 《著書及び学術雑誌への掲載論文》

(平成17年11月21日～18年11月20日)

- 伊藤 惇, 石井 優\*  
「平行壁間においてスーパーキャピテーションを伴う三次元翼の解析法」  
日本機械学会論文集, 72巻714号, pp.361-367, (2006. 2)  
(\*秋田高専専攻科修了生(現: TDK))
- 伊藤 惇, 土田さくら\*  
「一様せん断流中におけるキャピテーション翼の揚力線解析」  
日本機械学会論文集, 72巻718号, pp.1537-1542, (2006. 6)  
(\*秋田高専専攻科生)
- 伊藤 惇, 伊藤哲也\*, 三浦明浩\*\*  
「せん断流中においてスーパーキャピテーションを伴う三次元翼列の理論」  
日本機械学会論文集, 72巻719号, pp.1766-1772, (2006. 7)  
(\*秋田高専卒業生(現: 秋田県立大曲技術専門学校), \*\*秋田高専専攻科生)
- 大庭勝久\*, 蒔田秀治\*\*, 関下信正\*\*, 渡部英昭  
「内部重力波の空間構造と逆勾配拡散の発生」  
日本機械学会論文集B編, 第72巻, 716号, pp.25-32, (2006)  
(\*沼津高専, \*\*豊橋技術科学大学)
- K. Shima\*, K. Ide\*\*, M. Takahashi, M. Okada\*\*, O. Nagura\*\*  
"Fast Calculation of Field Currents and Reactances for Doubly Fed Generators with Rotor Duct Pieces"  
IEEE Transactions on Magnetics, Vol.42, No.11, pp.3730-3736, November 2006  
(\* Kanazawa Institute of Tech., \*\* Hitachi Ltd.)
- 徳光直樹  
「環境科学入門」(分担執筆) 学術図書出版社, 215頁, (2006.4)
- A. Parmeggiani\*<sup>1,2</sup>, Ivo M. Krab\*<sup>3</sup>, Sumio Okamura, Rikke C. Nielsen\*<sup>2</sup>, Jens Nyborg\*<sup>2</sup>, and Poul Nissen\*<sup>1,2</sup>  
"Structural Basis of the Action of Pulvomycin and GE2270 A on Elongation Factor Tu"  
Biochemistry vol.45, 6846-6857 (2006)  
(\*<sup>1</sup> Laboratoire de Biophysique, Ecole Polytechnique, France, \*\*<sup>2</sup>Department of Molecular Biology, University of Aarhus, Denmark, \*\*<sup>3</sup>Department of Chemistry, Leiden University, Netherlands)
- 荻野俊寛\*, 及川 洋\*, 三田地利之\*\*, 対馬雅己, 西田浩太\*\*\*  
「時間引き延ばしパルスを用いたベンダーエレメント試験による砂のせん断波速度」  
土木学会論文集, No.813/Ⅲ-74, pp.257-262, (2006. 3)  
(\*秋田大学工学源学部, \*\*北海道大学大学院工学研究科, \*\*\*北海道大学大学院工学研究科学生)
- 五十嵐勝\*, 対馬雅己, 三田地利之\*\*  
「過圧密履歴を受けた高有機質土および粘土の強度・変形特性」  
地盤工学会北海道支部創立50周年記念シンポジウム論文集, pp.77-82, (2006. 4)  
(\* (株) ダイヤコンサルタント, \*\*北海道大学大学院工学研究科)
- 対馬雅己, 三田地利之\*  
「サクシヨンの測定を伴う一軸・三軸圧縮試験による不攪乱および再構成高有機質土のせん断特性」  
地盤工学ジャーナル, Vol.1, No.3, pp.105-111, (2006. 9)  
(\*北海道大学大学院工学研究科)
- Ryoji Sakurada and Yoshiyuki Kawazoe\*  
"Control of Mixing Water Content and Durability of Concrete"  
31st Conference on Our World in Concrete and Structures, Singapore, Vol.25, pp.337-344, (2006. 8)  
(\*Institute for Materials Research, Tohoku University)
- Ryoji Sakurada, Takumi Shimomura\*, Kyu-ichi Maruyama\* and Sumiyuki Matsubara\*\*  
"Bending Behavior of RC Beam Reinforced with Braided Aramid FRP Bar"  
31st Conference on Our World in Concrete and Structures, Singapore, Vol.25, pp.345-352, (2006. 8)  
(\* Nagaoka University of Technology, \*\* Fibex Co., Ltd.)
- 水田敏彦

## 《学会等での講演論文及び報告書》

(平成17年11月21日～18年11月20日)

○印は講演発表者を示す。

- 三浦明浩\*, 伊藤 惇  
「せん断流中におけるスーパーキャピテーション翼列の解析法」  
第14回スペース・エンジニアリング・コンファレンス講演論文集, pp.23-27, (2005.12)  
(\*秋田高専専攻科生)
- 土田さくら\*, 伊藤 惇  
「平行壁間においてスーパーキャピテーションを伴う三次元翼の解析法」  
日本機械学会, 第1回埼玉ブロック大会講演論文集, pp.155-156, (2005.11)  
(\*秋田高専専攻科生)
- 石井 優\*, 伊藤 惇  
「円柱のマグナス効果に及ぼすスパイラル巻き付けの影響」  
第11回高専シンポジウム(長岡)講演要旨集, pp.167, (2006.1)  
(\*秋田高専専攻科修了生(現:TDK))
- 須知成光\*, 村上信博\*\*, 伊藤 惇  
「スパイラル構造を持つ回転円筒に作用するマグナス効果を利用した風車の開発」  
第27回風力エネルギー利用シンポジウム, pp.177-179, (2005.11)  
(\*秋田県立大学, \*\*秋田高専卒業生(現:メカロ秋田))
- 須知成光\*, 村上信博\*\*, 伊藤 惇  
「改良型マグナス風車の性能評価について」  
第28回風力エネルギー利用シンポジウム, pp.261-264, (2006.11)  
(\*秋田県立大学, \*\*秋田高専卒業生(現:メカロ秋田))
- 後藤 智\*, 土田 一, 相場真也\*\*, 佐々木章  
「平面と曲面からなる二次元柱群の熱伝達」  
日本機械学会東北支部第42期秋季講演会講演論文集, No.2006-2, p61-62, (2006.9)  
(\*秋田高専専攻科学生, \*\*秋田高専名誉教授)
- 茂木良平, 齋藤絵美, 伊藤桂太  
「超音波による移動物体検知のための基礎的検討」  
日本機械学会東北支部第42期秋季講演会 講演論文集 No.2006-2 pp.133-134 (2006.9.30)
- 渡邊祝幸, 大上哲郎  
「アルミ平板の切欠き曲率半径の応力集中に及ぼす影響」  
東北学生会 第36回東北学生会卒業研究発表講演会講演論文集(2006.3) pp.149-150.
- 鶴田淳人\*, 小林義和, 藪 忠司\*  
「アルミニウム飲料缶の破裂挙動に及ぼす缶壁特性の影響」  
軽金属学会第110回春期大会講演概要, pp.127-128, (2006.5)  
(\*神戸製鋼所, \*\*神鋼総合サービス)
- 伊藤桂一, 佐藤慎也\*, 山崎博之, ○宮田克正  
「1.8mφオフセットアンテナ(二次元モデル)の近傍界計算について」  
平成18年度電気関係学会東北支部連合大会講演論文集, 1B11, P54 (2006)  
(\*秋田高専専攻科学生)
- 伊藤桂一, ○原田宏美\*, 山崎博之, 宮田克正  
「コンパクトレンジ用オフセットアンテナの近傍界特性」  
平成18年度電気関係学会東北支部連合大会講演論文集, 1B12, P55 (2006)  
(\*秋田高専専攻科学生)
- 伊藤桂一, ○渡部雄太\*, 山崎博之, 宮田克正  
「誘電体装荷導波管スロットアレーアンテナの整合」  
平成18年度電気関係学会東北支部連合大会講演論文集, 2B5, P61 (2006)  
(\*秋田高専専攻科学生)
- 松田豊稔\*, 下塩義文\*, 南部幸久\*, 宮田克正, 中村 隆\*  
「電磁波(電波と光)に関する講義での実験教材の導入」  
平成18年度工学・工業教育研究講演会(第54回年次大会)10-28 (2006)  
(\*熊本電波高専, \*\*佐世保高専, \*\*釧路高専)
- 浅野清光  
「次世代磁気記録技術と脳医療応用技術開発」  
文部科学省プロジェクト秋田県地域結集型共同研究事業終了報告書 2005.12.
- 浅野清光  
「秋田県地域結集型共同研究事業地域への波及効果」  
あきた企業活性化センター, 秋田県, 2005.12.

(出典 秋田工業高等専門学校研究紀要 第42号 p.93, 95)

各教員は、研究活動を教育の質の改善に資するために、それぞれの専門分野に関連した授業(資料9-1-⑥-2)を担当するとともに、本科5学年の卒業研究や専攻科学生の特別研究において、専門分野のテーマで担当学生の研究指導(資料9-1-⑥-3)を行っている。

## 資料 9-1-⑥-2 「教員の専門分野と担当授業の例（平成 18 年度機械工学科の場合）」

職名・氏名【専門分野】	担当科目
教授・伊藤 惇 【流体工学】	情報処理, 流体工学, 流体機械, システム工学特論, 高速流体力学, 工学実験, 基礎研究, 卒業研究, 特別研究, 生産システム工学特別実験, 創造工学演習
教授・佐々木 章 【熱工学】	計測工学, 熱工学, 伝熱制御工学, 数値熱工学, 工学実験, 基礎研究, 卒業研究, 特別研究, 生産システム工学特別実験, 創造工学演習
教授・落合 雄二 【精密加工】	機械製作法, 工作実習, 製作システム工学, 超精密加工学, 工学実験, 基礎研究, 卒業研究, 特別研究, 生産システム工学特別実験, 創造工学演習
教授・茂木 良平 【計測工学】	電気工学, 電子工学, 振動工学, 工学実験, 基礎研究, 卒業研究, 特別研究, 生産システム工学特別実験, 創造工学演習
教授・大上 哲郎 【材料力学, 塑性加工】	応用力学, 機能性高分子材料, 特別研究, 生産システム工学特別実験, 創造工学演習
准教授・山崎 保輔 【機械設計】	機械要素, 計算力学, 塑性加工論, 工学実験, 工業英語, 自動車工学, 設計製図, 基礎研究, 卒業研究
准教授・安藤 正昭 【材料工学】	材料学, 材料学特論, 工学実験, 基礎研究, 卒業研究
准教授・土田 一 【熱工学】	工作実習, 設計製図, 創造設計製作, 熱工学, 内燃機関, 熱工学特論学, 工学実験, 基礎研究, 卒業研究
准教授・木澤 悟 【制御工学】	情報処理, コンピュータ製図, 制御工学, システム工学, 工学実験, 設計製図, ロボット工学, 基礎研究, 卒業研究, 特別研究, 生産システム工学特別実験, 創造工学演習
准教授・小林 義和 【機械力学】	情報処理, 設計製図, 機械力学, 工学実験, 基礎研究, 卒業研究, 特別研究, 生産システム工学特別実験, 創造工学演習,
助教・今田良徳 【機械工作・生産工学】	工作機械, 設計製図, 創造設計製作, 工学実験, 基礎研究, 卒業研究
助教・渡部 英昭 【流体工学】	流体工学, 設計製図, 工学実験, 基礎研究, 卒業研究,

(出典 総務課資料などから作表)

## 資料 9-1-⑥-3 「教員の専門分野と担当卒業研究テーマの例 (平成 18 年度環境都市工学科の場合)」

職名・氏名【専門分野】	テーマ名
教授・羽田 守夫 【環境工学】	光照射に伴う藻類と栄養塩の動態に関する基礎的研究 人工太陽灯を用いたフミン酸の光触媒による分解と自然水への応用
教授・阿部 和彦 【建築史学】	久保田城出し書院の使われ方とその変遷 伝統的民家の屋敷構えにみる方位・方向性の選択について 藩制後期盛岡城下の侍町における屋敷の方位・方向性について
教授・折田 仁典 【地域計画学】	地域の救急医療と道路整備に関する調査 秋田港の情報発信機能に関する調査・研究
教授・対馬 雅己 【地盤工学】	繰り返し応力を受けた高有機質土のせん断特性 石灰およびセメント混入による粘土の土質改良効果について
教授・堀江 保 【構造力学】	緊張力導入方法の違いによるプレストレス木床版の変形特性 プレストレス木床版の試設計とそのフスト計算 プレストレス木床版の緊張力変化特性について
准教授 佐藤 悟 【衛生工学】	衛星画像を利用した地表面情報の収集とその特徴について 衛星画像解析用ソフトウェアの開発と利用
准教授・桜田 良治 【コンクリート工学】	石灰処理による未水和セメント回収技術の開発
准教授・水田 敏彦 【地震防災学】	GISを用いた秋田市における積雪期地震時の道路交通障害マップ作成 地震時における秋田市の救急医療施設への応急給水に関する研究 秋田市における避難場所到達の困難性に関する基礎的研究
准教授 恒松 良純 【建築計画】	SD法を用いた秋田らしい都市景観のイメージに関する調査方法の検討 街並みのファサードデザインの色彩構成の比較分析
助教・日野 智 【土木計画学】	包絡分析法を用いた重要港湾の効率性評価に関する研究 道路整備が中心市街地訪問行動に与える影響に関する研究

(出典 総務課資料などから作表)

教育研究活動の一環として、自然科学系数学科における、本校の平成 14 年度から 17 年度にわたる「創造教育支援経費」による数学問題集 I (193 頁), II (183 頁), III (117 頁) の発刊 (資料 9-1-⑥-4) が上げられ、第 1 学年から第 3 学年までの数学教育に有効利用されており、また、継続的に改訂版を重ねている。同様に「平成 15 年度創造教育支援経費」による自然科学系化学科の「化学の基礎 (36 頁) (資料 9-1-⑥-5)」が、化学の教科書と併用する形で、専門学科である物質工学科を含む全第 1 学年で使用されている。これらの教育研究活動も、教員の専門分野が有効に教育の質の改善に寄与している例である。

## 資料 9-1-⑥-4 「研究活動の教育の質の改善例 1」

目次	3
第 1 部 微分積分学 (3 年生)	5
第 1 章 偏微分 7	
1.1 2 変数関数	7
1.1.1 定義域	7
1.1.2 極限	9
1.1.3 連続性	11
1.2 偏導関数の計算	13
1.2.1 基本的な関数の偏微分	13
1.2.2 接平面の方程式	17
1.2.3 2 次偏導関数	18
1.2.4 合成関数の微分	20
1.3 偏導関数の応用	23
1.3.1 陰関数定理	23
1.3.2 極値	24
第 2 章 重積分 27	
2.1 領域の図示	27
2.2 累次積分の計算	29
2.2.1 累次積分	29
2.2.2 長方形領域における累次積分	30
2.2.3 三角形領域における累次積分	33
2.2.4 円領域における累次積分	34
2.2.5 極座標による累次積分	35
2.3 重積分の計算	36
2.4 重積分の応用	39
2.4.1 体積	39
2.4.2 曲面積	40
2.4.3 広義積分	40

(出典 秋田高専 新数学問題集 3 第 2 版)

## 資料 9-1-⑥-5 「研究活動の教育の質の改善例 2」

目 次	
[1] 物質	1
[2] 原子, イオン 原子, イオン	2
[3] 化学式 (組成式, 分子式) 組成式, 分子式	6
[4] イオンの反応 酸, 塩基, 沈殿反応	8
[5] 化学反応式 化学反応式の書き方, 係数の求め方	11
[6] 原子量, 分子量, 式量 原子量, 分子量, 式量,	13
[7] 物質量 (mol) 原子の物質量 (mol), 分子の物質量 (mol), イオン結合化合物の物質量 (mol), 気体の物質量 (mol),	15
[8] 化学反応式による計算	18
[9] 物質の状態 物質の三態, 固体, 溶液	20
<b>【練習問題】</b>	
(No.1) 化学式	23
(No.2) 化学反応式	26
(No.3) 原子量, 分子量, 物質量	28
(No.4) 化学反応式による計算 (その 1)	29
(No.5) 溶液の濃度	31
(No.6) 化学反応式による計算 (その 2)	33
(No.7) 中和	35
(練習問題解答)	36

(出典 化学の基礎 国立秋田工業高等専門学校)

また, 人文科学系英語科では, 平成 14 年度に「実践的英語コミュニケーション能力の育成を目的とする秋田高専英語教育改善プロジェクト」(資料 9-1-⑥-6) を立ち上げ, その教育研究の成果として, 平成 11 年度から平成 18 年度まで, 8 年連続して実用英語技能検定奨励賞に選考されている(資料 9-1-⑥-7)。

## 資料 9-1-⑥-6 「秋田高専英語教育改善プロジェクト報告書」

平成14年 6月 5日  
教官各位

## 平成13年度秋田高専英語教育改善プロジェクト報告書

本校英語科で取り組んできております「実践的英語コミュニケーション能力の育成を目的とする秋田高専英語教育改善プロジェクト」の初年度分の実践報告書が完成いたしました。昨年度末に教官の皆様からご回答いただいた「英語教育改善に関する調査」の結果・分析も載せてあります。大変お忙しい時節にも関わらず、素直なご意見・ご助言をいただきありがとうございます。本報告書が秋田高専の新しい教育の一面として理解され、本校教育全体の発展に多少なりとも貢献できることをスタッフ一同願っております。

今後ともご支援・ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。また、内容に関しまして忌憚のないご感想をお寄せいただければ幸いです。

秋田高専人文科学系 英語科

(出典 平成13年度高等専門学校教育改善充実プロジェクト実施報告書)

## 資料 9-1-⑥-7 「平成17年度実用英語技能検定 奨励賞表彰」

## 平成17年度実用英語技能検定 奨励賞表彰

## 秋田工業高等専門学校

本校は平成11年度から平成17年度まで7年連続して実用英語技能検定奨励賞に選考されております。

『実用英語技能検定 奨励賞』とは英語学習の動機付け並びに英語教育に実用英語技能検定を組み入れ、多数の学生の参加とともに優秀な成績を上げた団体に対する表彰であります。



(出典 秋田工業高等専門学校ホームページ)

専門学科の例として、例えば電気情報工学科において、補助教材として担当教員の専門分野（この場合数値計算）を活かした自作テキストが講義に使用されており、学生の理解を進める上で有効に利用されている（資料 9-1-⑥-8）。このように、各教員の専門分野における研究活動が、教育の質の向上に有効に結びついている。

資料 9-1-⑥-8 「研究活動の教育の質の改善例 3」

Subsections

- 3.1 ガウス・ザイデル法
- 3.2 内部電極の決め方
- 3.3 固定及び境界点の計算を省く方法

3 実際の計算方法

3.1 ガウス・ザイデル法

: (省略)

3.2 内部電極の決め方

: (省略)

3.3 固定及び境界点の計算を省く方法

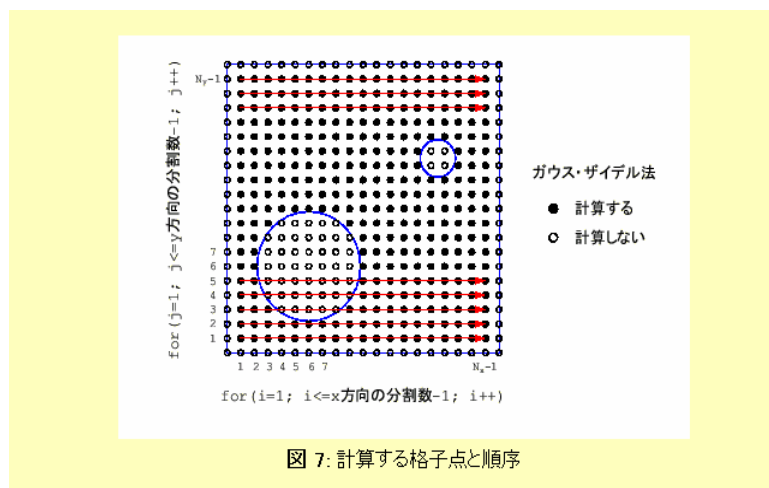
固定電極内部の点や外部の境界の格子点では、ガウスザイデル方で計算する必要がない。それを計算しないようにプログラムを書かなくてはならない。境界の計算を省くのは簡単である。境界の格子点のポテンシャルは、 $i=0$ ,  $i=N_x$ ,  $j=0$ ,  $j=N_y$ の場合である。この場合、ガウス・ザイデル法で式(10)の $U_{ij}$ を計算しなければ良いのである。

次に、電極内部の点であるが、これは予め目印を付ければ良い。例えば、整数型の配列を用意して、その値が1の場合は、電極の内部と目印をしておく。1以外の場合、式(10)の $U_{ij}$ を計算する。

以上をまとめると、連立方程式を解く場合には、次のようなループとすれば良いであろう。

: (省略)

このループを図7に示す。先のループがどのように計算されるか、よく考えよ。



ホームページ: Yamamoto's laboratory

著者: 山本昌志, Yamamoto Masashi, 2006-02-03

(出典 [http://www.akita-nct.jp/~yamamoto/lecture/2005/5E/partial\\_diff/laplace\\_html/node3.html](http://www.akita-nct.jp/~yamamoto/lecture/2005/5E/partial_diff/laplace_html/node3.html))



さらに、実験担当教員がその専門分野および関連分野の実験実習の手引き書を作成しているが、ここでは第4学年物質工学科の化学工学実験の例を示す（資料9-1-⑥-9）。

資料9-1-⑥-9 「第4学年物質工学科化学工学実験 実験実習手引き書の例」

目次	page	text page
実験に入る前に…実験を行う態度とデータの取り方	1	2
1. 流量測定(1)・・・1Bパイプ用オリフイス流量計の検定	3	31
2. 流量測定(2)・・・ガラス製小型オリフイス流量計の検定	6	39
3. 管内の圧力損失	10	70
4. 充填層・流動層の圧力損失	12	77
5. 円管内の境膜伝熱係数	17	91
6. 平衡蒸留（気液平衡値の測定）	20	115
7. 単蒸留	24	129
8. 充填塔による二酸化炭素の吸収2	25	
9. 多段連続精留装置の運転	30	
10. 槽型反応器の流体混合特性	37	
11. 化学反応速度	41	
12. 均一触媒反応速度	45	
化学工学実験レポートについて	47	

（出典 化学工学実験指針 秋田工業高等専門学校 物質工学科）

資料に示すように、各教員は研究活動を活発に行っており、それぞれの専門分野における研究を担当科目の教育に有効に反映させている。卒業研究・特別研究では、学生を交えての研究を行うことにより、学生の研究における質の改善に役立っている。

また、例で示したように、一般教科における組織的な問題集および改訂版の継続的な発刊、また、専門教科における各教員の専門分野を活かした補助テキストの作成、各教員の実験実習テキストの作成を通じ、教員の研究活動が教育の質の改善に有効に役立っているといえる。

（分析結果とその根拠理由）

各教員は研究で得られた知見を、授業や実験実習、卒業研究・特別研究を通じ、学生の教育に還元しており、また教育研究活動による教育の質の改善も行われている。このように、本校の研究活動は教育の質的向上に役立っているといえる。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

本校における教員の資質向上のための取り組みは、主に以下の4項目により行われている。

- (1) 学内ファカルティ・ディベロップメント (以下, FD) 関係研修会
- (2) 学外の研修会への派遣
- (3) 授業アンケートによる授業の質の改善
- (4) 公開授業による教員相互の意見交換

FD に関する研修会は、教育改善委員会を中心に行われるが(資料 9-2-①-1)、他の委員会でも教育ならびに教育研究、または技術研究に関する発表会が行われており、ここでは(1)としてまとめる。

#### (1) 学内 FD 関係研修会

学内で教職員を対象に行われる研修会としては、教育改善委員会による FD 研修のほかに、以下のものがある。全ての研修では全教職員に案内がされ、事情により参加できない教員を除く全教職員が参加している。

厚生補導研究協議会・・・学生指導、課外活動など学生関係の FD 活動

公開授業研究会・・・公開授業後に行われる授業改善の研究会

技術教育研究発表会・・・技術職員の教育、研究の質の向上に関する FD 活動

技術研究会・特許講演会・・・研究公開の促進や学生を含めた特許教育

また、平成 17～18 年度に開催された FD 関連研修について、主催する委員会・課・センターごとに以下にまとめる。

#### ①学外教育研究集会の報告会 (教育改善委員会主催)

##### ①-1) 平成 17 年 10 月 25 日

平成 17 年度高等専門学校新任教員研修会報告	水野麗講師
国立高等専門学校機構主催高等専門学校教員研修報告	山本昌志助教授

#### ②厚生補導研究協議会 (学生委員会主催)

##### ②-1) 平成 18 年 2 月 22 日 (金)

平成 17 年度厚生補導研究協議会「メンタルヘルスについて」  
高橋賢一 (秋田緑ヶ丘病院 精神科医師)

##### ②-2) 平成 19 年 3 月 2 日 (資料 9-2-①-2)

平成 18 年度厚生補導研究協議会「学生相談室」  
佐藤悟助教授 (学生相談室長)  
若木宗子 (看護師)

#### ③公開授業研究会 (教務委員会主催)

##### ③-1) 平成 19 年 1 月 24 日 (水)

平成 18 年度公開授業研究会 23 名参加 (座長：山崎博之教務主事補)

## ④技術教育研究発表会（学生課主催）

- ④－１）平成 17 年度第 1 回技術教育研究発表会（H17 年 9 月 27 日）（資料 9－2－①－3）  
 ④－２）平成 18 年度第 2 回技術教育研究発表会（H18 年 9 月 26 日）

## ⑤技術研究会・特許講演会（地域共同テクノセンター主催）

- ⑤－１）平成 17 年度第 5 回技術研究会（H17 年 9 月 29 日）  
 基調講演 講師 電気情報工学科 教授 高橋身佳  
 ⑤－２）知的財産教育支援セミナー（H17 年 10 月 5 日）  
 「高専学生への知的財産に関する期待」 牛久健司（弁理士）（資料 9－2－①－4）  
 ⑤－３）平成 17 年度第 6 回技術研究会（H18 年 1 月 27 日）（資料 9－2－①－5）  
 講演 講師 化学技術戦略推進機構 染宮昭義  
 研究紹介 講師 環境都市工学科 助教 日野 智  
 人文科学系 講師 長井栄二  
 ⑤－４）知的財産教育支援セミナー（H18 年 10 月 11 日）  
 「特許の基礎知識－企業開発者が知っておくべきこと－」 永川行光（弁理士）

## ⑤－５）平成 18 年度第 7 回技術研究会（H19 年 2 月 23 日）

- 講演 講師 （財）あきた企業活性化センター 吉田 徹  
 東北大学産学官連携推進本部 霜山 忠男  
 研究公開 講師 電気情報工学科 教授 浅野清光  
 自然科学系 助教授 黒田 潔

## （２）学外の研修会への派遣

学外でも、教育改善に関する研修会は数多く行われており、本校からも教職員が派遣されている（資料 9－2－①－6）。研修会の内容は、教員会議において報告されるほか、FD 研修会において報告される場合もある。

## （３）授業アンケートによる授業の質の改善

本科学生に対し、全ての授業について、平成 13 年度から年 1 回の「学生による授業アンケート」を実施している（資料 9－2－①－7）。アンケートは、学生自身の受講した授業に対する反省を記載する項目も設けられており、学生自身の自己評価としても効果があるようにしている。

なお、このアンケートは集計が終了し次第、各教科教員に集計結果が配布されており、教員の今後の授業改善に活かされるようになっている。

## （４）公開授業による教員相互の意見交換

本校教員の授業は年に一度か二度、全教職員に対し公開されている。公開授業は、授業がシラバス通りに実施されているか確認すること、ほかの教員の授業を参観することで、相互に授業方法等の質的向上を図ることを目的としている。

参観した教員は「公開授業記録」を記載・提出することが義務付けられている（資料 9－2－①

－ 8)。また、平成 18 年度から公開授業後に研究会を行っている。

公開授業以外でも、校長は不定期に不特定のクラスの授業参観を実施している。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、FD 活動の推進については主に教育改善委員会が行っている。学内 FD 研究会としては、厚生補導研究協議会、公開授業研究会のほか、技術職員の質の向上のために、技術教育研究発表会や技術研究、特許教育のための研究が行われるなど多岐に亘る。

また、教員の質の向上のために、学外研修会への派遣、授業アンケート、公開授業などが行われており、それぞれが活発に行われていることから、FD は適切に実施されているといえる。

## 資料 9 - 2 - ① - 1 「秋田工業高等専門学校教育改善委員会規則」

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第18条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (目的)

第2条 委員会は、本校の教育理念・教育目標を実現するため、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を推進し、これに積極的に取り組むことにより、本校における教育の改善を図ることを目的とする。

## (審議事項等)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、前条の目的を達成するため、創造工学システムプログラムの改善に関する事項並びに教育内容、授業方法及び教育改善に関する事項等について審議し、カリキュラム検討委員会に提言するとともに、必要に応じFD研修会等を企画・実施する。

## (組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- 一 教務主事補 1名
- 二 各専攻主任
- 三 各学科等から選出された教員 各1名
- 四 学生課長
- 五 その他校長が必要と認める者

## (任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長・副委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は校長が指名する者をもって充て、副委員長は委員の互選により選出するものとする。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を行う。

## (委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

## (専門部会)

第8条 委員会に特定の事項を調査・検討等するため専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会の部会長及び専門委員は、委員長が指名する。

## (審議事項の報告)

第9条 委員長は、委員会において審議された事項を整理し、校長へ報告しなければならない。

## (庶務)

第10条 委員会に関する庶務は、学生課において処理する。

## 附 則

1. この規則は、平成17年11月2日から施行する。
2. 平成17年度中に委嘱される委員の任期は、第5条第1項の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

## 附 則

この規則は、平成17年12月 5日から施行する。

## 附 則

この規則は、平成19年 4月 1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

資料 9-2-①-2 「平成 18 年度厚生補導研究協議会資料」

## 平成 18 年度厚生補導研究協議会実施要項

1. 実施内容 厚生補導及び教育上の問題について研究・討議を行い、問題点を分析し、当面必要とする施策の検討とその知識の高揚を図ると共に、今後の学生指導の向上と充実に寄与することを目的とする。
2. 期 日 平成 19 年 3 月 2 日（金） 14 時 00 分～
3. 場 所 テクノコミュニティ
4. 参加対象者 本校の教員とする。特に新年度の学級担任はできる限り参加する。
5. 協議題等
- (1) 協議題 「学生相談の現況と課題」
- (2) 提案理由 近年、学生の修学面、生活面及び社会面に対する目的意識の低下から問題行動を引き起こす学生が増加傾向にある。その防止対策の一つとして、教員側から積極的な学生への関与が求められている。その際には、プライバシー保護や三者面談などの際の注意点を考慮した対応等が教員側に必要であると考えられる。
- しかしながら、本校の教員の多くは、青少年が抱える諸問題を十分に把握するのは困難である。そこで本校の学生相談室長の佐藤先生及び看護師の若木さんから、実例をまじえてお話ししていただき、これを参考に討議を行い、今後の学生指導の向上に寄与する。
- (3) 内 容 総合司会： 山本 昌志学生主事補
- ① 校長あいさつ
- ② 講演
- ・講演者 学生相談室長 佐藤 悟  
看護師 若木 宗子
- ・演 題 「学生相談の現況と課題」

(出典 平成 18 年度厚生補導研究協議会資料)

## 資料 9-2-①-3 「平成 17 年度 第 1 回技術教育研究発表会実施要項」

## 平成 17 年度 第一回 技術教育研究発表会実施要項

## 1. 主 催

秋田工業高等専門学校 学生課

## 2. 目 的

近年、産学連携による活性化の推進が求められる中、教員のみならず技術系職員にも多様な取り組みが必要とされてきています。

本校でも職員の資質向上を図るために実験実習係職員による教育・研究の技術支援等に関する発表を行い、時代に即応した技術職員を目指す。あわせて、職員相互の連携を深めることを目的とする。

## 3. 日 時

平成 17 年 9 月 27 日 (火) 13:30～15:00

## 4. 場 所

テクノコミュニティー

## 5. 対 象 者

本校教職員

## 6. プログラム

## 1) 挨拶

校 長 島 田 昌 彦 13:30～

## 2) 技術研究発表 (発表 15 分、質疑応答 5 分)

2) -1 13:35～13:55

技術専門職員 樋 渡 久 孝 「豆ジャッキの製作」

2) -2 13:55～14:15

技術専門職員 米 谷 裕 「木橋のプレストレス木床版

緊張力の変化特性」

2) -3 14:15～14:35

技術専門職員 伊 藤 恵 「機器分析と学生実験」

2) -4 14:35～14:55

技術職員 岡 部 克 利 「教育用電子計算機システムの導入」

## 3) 総 評

教務主事 柳 原 昌 輝 14:55～

総合司会 実験実習係長 伊 藤 正 治

(出典 学生課資料)

資料 9 - 2 - ① - 4 「知的財産セミナー特別講演会ポスター」

## 秋田工業高等専門学校 知的財産セミナー 特別講演会

平成17年度(社)発明協会  
高等専門学校における「産業財産権特許テキストの有効活用に関する実践協力校」 主催  
秋田工業高等専門学校地域共同テクノセンター 共催

# 知的財産教育支援セミナー 特別講演会

日時 平成17年10月5日(水) 午後2時50分～

会場 秋田工業高等専門学校 大講義室

- 日程
- ①午後2時50分～3時50分  
「高専学生への知的財産に関する期待」  
講師 牛久許事務所所長 弁理士 牛久健司先生
  - ②午後4時00分～5時00分  
「共同研究・共同出願の問題点(大学・高専と企業との攻防)」

会場を秋田工業高等専門学校ITコミュニティに移します。  
知的財産に関し、ご質問等ございましたら、是非ご参加  
くださいますようお願い申し上げます。

牛久健司先生	
国立茨城工業高等専門学校電気工学科	ご卒業
山梨大学工学部電気工学科	ご卒業
大阪大学大学院基礎工学研究科	ご修了
【弁理士ご登録】昭和50年	
【ご専門】特許(機械、電気、電子、通信、ソフト、光学等)、外国、意匠、商標、鑑定、訴訟	
【ご活動経歴】	
平成4年度	弁理士会ソフトウェア委員会委員長
平成13年度	日本弁理士会副会長
平成16年～	金沢工業大学大学院客員教授
平成17年度	日本弁理士会知的財産支援センター長

産学協会会員企業をはじめ関連する機関の皆様にも多数ご参加いただけますよう、  
お願い申し上げます。

尚、参加頂ける場合、準備の都合上、9月30日(金)までに下記申込・照会先に  
ご連絡いただけますようお願い申し上げます。

その際、講演会・討論会いずれにご参加下さるか、お知らせ頂けると幸いです。

秋田工業高等専門学校 自然科学系 応用物理科 黒田  
秋田市飯島文京町1-1 Tel/FAX:018-847-6098(直通)  
e-mail:kuroda@akita-nct.jp

(出典 地域共同テクノセンター資料)



資料 9-2-①-5 「第6回 技術研究会ポスター」

## 秋田工業高等専門学校 地域共同テクノセンター 『 第6回 技術研究会 』

産学の連携が、ポテンシャルをさらに高める。

technology industry  
potential laboratory college cooperation

[参加] 無料

### 第6回 秋田高専地域共同テクノセンター 技術研究会

●日時 平成18年1月27日(土) 午後2時30分～ ●場所 秋田高専地域共同テクノセンター  
(環境産業技術への新しいアプローチと材料技術への期待)  
(財)化学技術振興財団 副理事長 染 宮 昭 義 氏

最新研究  
設備の見学会  
(午後2時30分～)

講演・研究公開  
(午後3時30分～)

(実験計測法を用いた意識調査分析法と交通行動モデル)  
秋田工業高等専門学校 環境都市工学科助手 日 野 賢 氏  
(ドイツ100年祭の村づくり ― 2016ドイツ・セン内務省の定例 ― )  
秋田工業高等専門学校 人文科学系講師 長 井 栄 二 氏

お申し込みは  
秋田工業高等専門学校  
〒018-8477 秋田県秋田市長瀬  
☎018-847-6108(直通)  
mail:s-senmon@akita-nct.jp

(出典 地域共同テクノセンター資料)

## 資料 9 - 2 - ① - 6 「学外の研修会への派遣状況」

研修会等名	平成17年度			平成18年度		
	参加者氏名	開催期日	会 場	参加者氏名	開催期日	会 場
教員研修(管理職研修)				成 田 文 雄	12/11～12/13	独立行政法人 教員研修センター(つくば)
新任教員研修会	水 野 麗	8/22～8/24	国立オリンピック記念 青少年総合センター	高 橋 身 佳	8/23～8/25	国立オリンピック記念 青少年総合センター
				竹 下 大 樹	"	"
				上 松 仁	"	"
技術職員特別研修会(東日本地域)	岡 部 克 利	8/23～8/25	長岡技術科学大学	伊 藤 恵	8/22～8/24	長岡技術科学大学
技術職員特別研修会(西日本地域)						
情報処理実践教育研修会						
クラス経営・生活指導研修会	羽 田 守 夫	9/13～9/15	独立行政法人 教員研修センター(つくば)	茂 木 良 平	8/28～8/30	独立行政法人 教員研修センター(つくば)
	山 本 昌 志	"	"			
教育方法改善共同プロジェクト						
教員研究集会(プロジェクト研究集会)				金 子 淳	8/3～8/4	ソフビアジャパン (岐阜県大垣市)
情報処理教育研究発表会(連合会主催)						
教育教員研究集会						
教員研究集会(地区研究集会)(西日本担当)						
メンタルヘルス研究集会	佐 藤 悟	1/30～1/31	学術総合センター	水 野 麗	1/23～1/24	学生会館
	若 木 宗 子	"	"	若 木 宗 子	"	"
独立行政法人国立高等専門学校機構主催 高等専門学校教員研究集会	山 本 昌 志	8/18～8/19	ホテルサンルート徳山			
独立行政法人国立高等専門学校機構主催 東北地区高等専門学校教員研究集会				石 塚 眞 治	11/27～11/28	宮城工業高等専門学校 仙台ガーデンパレス
				森 本 眞 理	"	"
				海 上 順 代	"	"

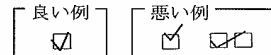
(出典 総務課資料から作表)

資料 9 - 2 - ① - 7 「授業アンケート (講義科目・体育科目)」

A 授業アンケート (講義科目)

このアンケートは、授業についての学生の意見を求め、今後の授業内容や方法の改善のための参考として行うものです。学科、学年、授業曜日、授業時間以外は無記名ですので、授業を受けて感じたことを素直に回答して下さい。各設問に対して該当する欄にチェックをつけるか又は記述で回答して下さい。

注 1：隣の文字枠やマーク枠にはみ出さないように記入して下さい。  
枠の中に大きく記入して下さい。  
HB のシャープペンシルで記入して下さい。



基本項目

Q0-1 学年 1年  2年  3年  4年  5年

Q0-2 学科 M  E  C  B

Q0-3 曜日 月  火  水  木  金

Q0-4 時限 1時限  2時限  3時限  4時限  5時限  6時限  7時限  8時限

注 2：時限は、該当授業の開始時限にチェックをつけてください。

回答選択肢コード 1：している・思う 2：ある程度している・ある程度思う 3：していない・思わない

注 3：Q 1 から Q 1 9 までの設問の回答は、該当選択枠にチェックを記入して下さい。  
注 4：Q 1 9 の回答については、担当教員の指示に従ってください。

設問	回答
Q1 予習をしていますか	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q2 復習をしていますか	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q3 授業計画 (シラバス) を利用していますか	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q4 資料、テキストは、わかりやすかったですか	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q5 目的ははっきりしていた	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q6 講義は時間どおり始まり、時間どおり終了した	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q7 教員の話し方、授業の進め方は良かったと思いますか	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q8 板書の文字 (大きさ・見やすさ)、説明は良かったですか	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q9 質問しやすかった	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q10 授業の進み具合は適切だった	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q11 先生は新しい知識を身につけさせようと努力していた	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q12 先生は内容を理解させるための工夫をしていた	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q13 先生は理解した内容を応用するための工夫を身につけさせようとしていた	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q14 先生は授業の進度に合わせ、関連する分野について適切な情報を与えた	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q15 知識として身についたと思いますか	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q16 内容を理解できたと思いますか	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q17 理解した内容と知識を使って新しい問題を解いたことがありますか	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q18 試験問題は適切だった (試験を行った場合のみ回答)	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q19 OHPによる授業方法は良いと思いますか (OHPを使用している授業のみ回答)	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
Q20 授業を受けての感想、反省について。(自由記述)	

資料9-2-①-8 「平成18年度公開授業記録表」

整理番号 \_\_\_\_\_

## 平成18年度 公開授業記録表

学年・学科 生産、環境 1年

授業科目 \_\_\_\_\_

担当教員 \_\_\_\_\_

実施日 平成18年 5月23日(火)実施時間 10:35~12:15

記載者氏名 \_\_\_\_\_

## 1. 授業内容 (良い: ◎, 大体良い: ○, 要改善: △ を記入して下さい)

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| 1. シラバスに従った授業 (内容・進度) | ( ◎ ) |
| 2. 授業の質 (導入・展開・まとめ)   | ( ◎ ) |
| 3. 板書や資料の説明の仕方        | ( ○ ) |
| 4. 学生の掌握度             | ( ○ ) |
| 5. 声の大きさ・明晰度・話す速さ     | ( ◎ ) |

## 2. 参考となった事柄

あらかじめ学生にテーマを与えて発表させている形式。発表後の質疑討論に他の学生の参加が消極的なのが残念に思う。

## 3. 所見

受講生の人数に合った教室であることが大事だと考えさせられた。大講義室での少人数授業など。

## 4. 以前からの改善点

出欠の取り方がスムーズになったと思う。これには学生が時間通り入室していることが必要と思われる。

**観点 9-2-②：** ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

観点 9-2-①において述べた「(1) 学内 FD 講演会」において、次のように教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

本校では毎年、学生指導の向上と充実に寄与することを目的の一つとして、厚生補導研究協議会を開催している。以下にこれまでの協議テーマを列記するが、ここではカリキュラムに関する協議がされることもあり、その多くはカリキュラムの改善に向けて継続的に検討されている。

平成 11 年度：「学生への教育指導について」、「寮運営と寮生指導のあり方について」

平成 12 年度：「中学校の教科内容の変更に伴う英語教育のあり方について」

「中学校の教科内容の変更に伴う数学教育のあり方について」

「4 年生の教官配属と卒業研究のあり方」

平成 13 年度：「課外活動の活性化について」

平成 14 年度：実施せず

平成 15 年度：「特別教育活動のあり方について」

平成 16 年度：「カウンセリングのあり方について」

平成 17 年度：「メンタルヘルスについて」

平成 18 年度：「学生相談室」

例えば、平成 12 年 12 月に自然科学系（数学）を主体として「本校における数学教育の方策」と題した検討会が、専門学科教員全員を対象に実施された（資料 9-2-②-1）。これは、厚生補導研究協議会で討議されたことをふまえて行われたもので、「中学校のカリキュラム変更」、「入学生の質の低下」、「学生の勉強不足・学力不足」、「個性を伸ばす」といった高専を取り巻く環境の変化に対して、数学科では数学カリキュラムを早急に検討し改善したいという報告であった。また、各専門学科が必要とする数学の内容に関する調査も行っており、自然科学系教員と専門学科の教員の間でカリキュラム上の協議も活発に行われている。

また、人文科学系（英語）では、平成 12 年度に本校のカリキュラム改善に向けた検討を始め、平成 13 年度から、TOEIC 対策の授業と TOEIC IP テストを本科第 3 学年で行うことに決定した。これを受けて、本科第 3 学年の学生が TOEIC 対策の授業についていける英語力を、本科第 1, 2 学年の 2 年間で効率的に修得する方法が検討され、その中間報告が平成 12 年度の厚生補導研究協議会でなされた。最終的に、TOEIC 対策の授業についていける最低限の英語力は英検準 2 級程度であるという結論に達し、平成 13 年度の本科第 2 学年から、英語の授業に「英検準 2 級対策」を含めることとなった。この導入初年度における結果は、平成 13 年度高等専門学校教育改善充実プロジェクト実施報告書「実践的英語コミュニケーション能力の育成を目的とする秋田高専英語教育改善プロジェクト」にまとめられている（資料 9-2-②-2）。その後、この結果を受けて準学士課程第 4, 5 学年および専攻科課程の英語の授業カリキュラム変更に関する協議が続けられ、学生の英語力向上にむけた授業の進め方への検討がなされている。

さらに、平成 17 年 10 月 25 日に行われた（観点 9-2-①参照）「国立高等専門学校機構主催高等専門学校教員研修報告」において、情報モラル教育の必要性について報告された。これを受けて平成 17 年 11 月 1 日に開催された「第 2 回情報処理センター専門委員会」において、平成 18 年度本科第 1 学年を対象に、情報モラル教育を「情報処理」の授業時間に実施することが決まり（資料 9

－ 2 －②－ 3), 作成された情報モラル教育用のテキストを用いて, 平成 18 年度第 1 学年全学科において行われた (資料 9－ 2 －②－ 4)。

(分析結果とその根拠理由)

観点 9－ 2 －①において述べた「学内 FD 講演会」を中心とした FD 活動が, 教育の質の向上や授業の改善に結びついているといえる。

資料 9-2-②-1 「本校における数学教育の方策，平成 12 年 12 月 26 日実施」

平成 12 年 12 月 26 日

参加者各位

数学科

## 本校における数学教育の方策

高専を取りまく環境の変化

- ① 中学校のカリキュラムの変更
- ② J A B E E 等による各専門学科におけるカリキュラムの変更
- ③ 入学生の質の低下（理数科の不得意な学生の増加）
- ④ 学生の勉強不足，学力不足（チェック・ポイントが無い）
- ⑤ 個性を伸ばす（数学の資質のある学生の能力をもっと伸ばす）

に伴い，本校においても数学のカリキュラム変えていく必要がある。

他高専あるいは他教科の動向を参考にしつつ，同時に本校の学生の実状を十分把握した上でカリキュラムを考えていかなければならない。

過日の厚生補導研究協議会において，佐藤尊文先生が発表したレポート「本校における数学のカリキュラムの改正案」を基本として，検討している。

現在，①～⑤の問題点を解消するべく，次のような内容を早急に実施したいと思っております。

[1] 新入生に対して，入学前に課題を出し入学後に一斉試験を行う。

- 中学校と高専の橋渡し，今まで以上に重要になる。入試制度の改正により以前の方式（本校作成の問題集を渡し入学するまでの一月勉強してもらう。）を実行する。問題集の改訂は来年度行う。また，13年度入学生には特別に課題テキストを作る。—

[2] 「基礎数学」の単位分割。

- 内容を2系統（関数関係（4単位）と図形関係（2単位））に分けて指導した方がよい。関数関係は微積分学へ，図形関係は線形代数へつなげる。詳しい内容については，上述した「本校における数学のカリキュラムの改正案」のレポートをご参照願います。内容の取捨選択を検討する。—

[3] 3 学年において、基礎事項（基礎数学，線形代数，微分積分）の一斉試験を行う。

- － 解析系，代数幾何系の基本をどの程度身につけたか。また，この成績と専門科目の成績との関係はどうなのか，さらに学年末の進級，留年等の相関を調べる。－

[4] 科学ゼミナール（3 学年）の数学分野において，外部団体の主催する各種コンクールに参加し，入賞をねらえるような内容に変えていく。

- － 高専生としての誇りをもたせる。また，本校への入学希望者を増やすためにも秋田高専を様々な形でアピールすることは大変重要である。本年は，「ミレニアム 2000 数学フェスティバル」という催しに一編投稿し，高校の部で優秀賞を受賞した。－

[5] 3，4 学年における応用解析を再編成する。

- － 数学科では，応用解析で扱っている内容は工学を学ぶものにとって，必要不可欠な基礎事項であると認識しております。しかし，各学科におけるカリキュラムの変更等もあり見直しが必要と思われます。早急に専門学科の先生たちと協議する。－

[6] 数学研究会なる同好会または部をつくる。

- － 数学に興味を持っている学生や数学の好きな学生を募り，いろいろな数学に挑戦させたい。5 年という期間においては，相当幅広い数学を身につけることができ大変有意義である。－

(出典 JABEE 資料)



資料 9-2-②-2 「平成 13 年度高等専門学校教育改善充実プロジェクト実施報告書」

## 目次

1	はじめに .....	1
2	プロジェクトの概要と実施計画・方法 .....	2
	2. 1 背景 .....	2
	2. 2 プロジェクトの概要 .....	5
	2. 3 プロジェクトの実施計画・方法 .....	6
3	本校の英語教育に関する実態調査 .....	12
	3. 1 英語に関する学生の意識調査 .....	12
	3. 2 英語教育改善に関する教官の意識調査 .....	24
4	実践研究 (1) .....	35
	4. 1 実用英語検定への取り組み (第 2 学年) .....	35
	4. 2 TOEIC への取り組み (第 3 学年) .....	45
5	実践研究 (2) .....	75
	5. 1 「実践的英語コミュニケーション能力」の育成を目的とする 文科ゼミナールの授業 .....	75
	5. 2 協力的なグループ・ワークによる自律的英語学習の推進 .....	91
	5. 3 日本人学生に対するリサーチ・ペーパー・アブストラクトの 英語ライティング指導 .....	100
6	おわりに .....	111
	付録 .....	113

(出典 平成 13 年度高等専門学校教育改善充実プロジェクト実施報告書)

## 資料 9-2-②-3 「平成 17 年度 第 2 回情報処理センター専門委員会議事録」

**平成17年度 第2回 情報処理センター専門委員会  
議 事 録**

日 時 平成17年11月1日(火)13:30~14:30  
場 所 会議室A  
出席者 委員長 傳井栄(情報処理センター長)  
委 員 森本真理、田中将樹、野坂肇、水野麗、佐藤尚洋、  
花岡俊也、中村勝、神智也、岡部克利  
陪 席 山本昌志、佐藤悟

**1. 情報リテラシー教育について**

委員長(情報処理センター長)より「情報リテラシー(モラル)教育」について以下のような報告があり、実施されることが了承された。

- 1) 平成18年度から全学科新1年生を対象に、情報処理に関する講義時において「情報リテラシー(モラル)教育」を最低1回は実施することとし、シラバスにも記載することとする。
- 2) 情報モラルに関する講義資料(テキスト)については4学科統一とし、作成については電気情報工学科山本助教授をグループリーダーとしてワーキンググループを発足し、メンバー(委員)については教務主事(情報処理センター運営委員長)が各学科から1名を選任することとする。

**2. インターネット専用回線の拡張について**

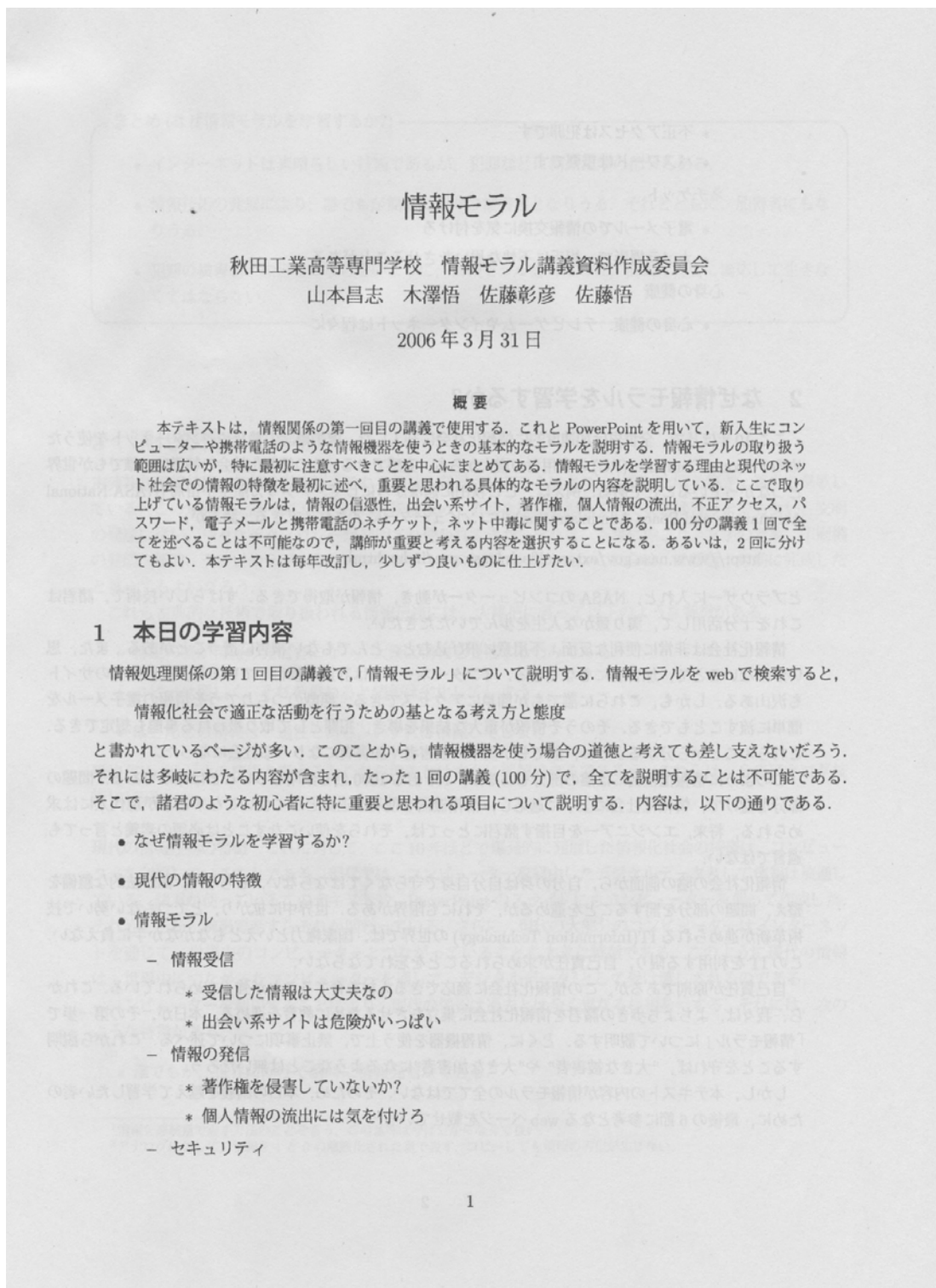
インターネット専用回線について、平成18年3月1日(予定)より、本校と秋田大学(総合情報処理センター)間の通信速度を「1.5Mb/s」から「10Mb/s」へ増速することが決定したと委員長より報告があった。

**3. その他**

- 1) 山本助教授より電気情報工学科3Fに設置されるパソコン1式(48台)の導入進捗状況について報告があった。
- 2) 佐藤委員よりセキュリティーポリシーについて、状況や問題点等について報告があった。

(出典 秋田高専グループウェア)

## 資料 9-2-②-4 「情報モラル教育用テキスト」



(出典 授業配付テキスト)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

人文科学系（英語）の教育研究の成果として、平成 11 年度から平成 18 年度まで、8 年連続して実用英語技能検定奨励賞に選考されている。

(改善を要する点)

特になし。

## (3) 基準 9 の自己評価の概要

本校教員の教育活動の実態を示す資料としては、教員活動報告書、教員の活動計画・報告書がある。また、授業内容の自己点検評価を教科ごとに提出し、授業の実態を把握するために授業アンケートを行っているほか、「学校の諸制度に関するアンケート」、「学習の達成度に関するアンケート」により、学生からの意見聴取が行われている。

授業アンケートは各教員に返却され、「『学生による授業アンケート』の対応・課題」として報告書を提出する。授業アンケート結果は「自己点検・評価報告書－現状と課題（第 3 回報告書）」として報告され、「『学生による授業アンケート』の対応・課題」は「『学生による授業アンケート』の対応・課題－平成 16 年度・平成 17 年度版－」として報告された。

これらのアンケート結果は、自己点検・評価委員会のアンケート実施作業グループにより、分析および評価を行っている。その結果はまとめられ、教育改善委員会に報告するとともに、自己点検・評価に反映されている。

外部関係者による評価のために本校独自の取り組みとして、秋田工業高等専門学校参与会が設立され、本校の教育機能改善の一助となっている。

本校には、PDCA サイクルによる教育改善システムが整備されており、P には教務委員会、専攻科教務委員会、カリキュラム検討委員会、D は各教員、C は自己点検・評価委員会、A は教育改善委員会がそれぞれ対応している。

また、教員の教育研究活動の評価の一環として、教員の自己評価、教員による相互評価、学生による教員評価が行われており、最も高い評価を得た教員 1 名が表彰されている。平成 16 年度から校長賞を創設し、本校における教育活動・学生生活指導・地域社会への貢献等において顕著な功績が認められた教員や、教職員の模範となる功労のあった教員を対象に、校長表彰を実施している。

教員の研究活動は教育にも還元されており、一例を挙げれば、人文科学系（英語）では平成 14 年度に「実践的英語コミュニケーション能力の育成を目的とする秋田高専英語教育改善プロジェクト」を立ち上げ、その教育研究の成果として、平成 11 年度から平成 18 年度まで、8 年連続して実用英語技能検定奨励賞に選考されている。

本校における FD 活動は、多岐の分野で活発に行われており、学内の研修会にとどまらず、学外研修会への教職員の派遣、公開授業、授業アンケートなどが行われている。FD 活動の結果として、数学、英語の授業改善や、情報モラル教育を行うなどの教育改善例がある。

## 基準10 財務

### (1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。  
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校の教育研究活動を安定して遂行するために必要な校地・校舎・設備等の資産を有している(資料10-1-①-1)。また、本校に債務はない。

資料10-1-①-1 「施設概要」

施設の概況		FACILITIES			
●敷地 Land					
校舎 College Buildings 46,257㎡   寄宿舎 Dormitory 18,743㎡   運動場 Playground 32,659㎡   職員宿舎 Staff Housing 3,757㎡   計 Total 101,416㎡					
●建物 Buildings		平成19年4月1日現在 As of Apr. 1, 2007			
区	分	構造	延面積	竣工年月	
Classification		Structure	Total Area	Completion Date	
校舎 College Buildings	管理棟	Administration Building	R3	1,411㎡	S 39. 3
	講義室棟(高学年)	Classroom Building (for Junior/Senior-year Students)	R3	2,325	S 39. 3
	科学技術教育棟(低学年)	Science and Technology Forum (for Lower-year Students)	}	1,920	H 13. 1
	地域共同テクノセンター	Research Incubator Center for Industrial Collaboration and Technological Innovation			
	階段教室棟	Lecture Hall Building	R2	692	S 55. 3
	研究室棟	General Education Teaching Staffs' Office Building	R3	512	S 41. 3
	機械工学科棟	Mechanical Engineering Department Building	//	1,754	S 41. 3
	電気情報工学科棟	Electrical and Computer Engineering Department Building	//	1,892	S 41. 3
	物質工学科棟	Applied Chemistry Department Building	//	1,779	S 41. 3
	物質工学科棟(生物棟)	Applied Chemistry Department Building	//	510	H 6. 3
	環境都市工学科棟	Civil and Environmental Engineering Department Building	//	1,884	S 45. 3
	専攻工学科棟	Advanced Engineering Faculty Building	//	936	H 8. 3
	実習工場	Practice Workshop	S1	646	S 40. 3
	工業技術実習センター	Manufacturing Technology Practice Center	//	200	H 15.10
	情報処理センター	Information Processing Center	R1	314	S 49. 3
	熱機関実験室	Laboratory for Heat Engine	B1	134	S 46. 3
	電気工作実習室	Laboratory in Electric Engineering	//	98	S 46.12
	渡廊下	Connecting Corridor		422	
	小計	Subtotal		17,429	
	寄宿舎 Dormitory	寄宿舎管理棟	Dormitory(Administration Building)	R1	1,017
// 東 1		Dormitory (East 1)	R3	879	S 45. 3
// 東 2		Dormitory (East 2)	//	1,168	S 45. 3
// 西 1		Dormitory (West 1)	//	1,342	S 39. 3
// 西 2		Dormitory (West 2)	//	1,094	S 41. 3
渡廊下		Connecting Corridor		113	
小計	Subtotal		5,613		
その他 Others	図書会館	Library	R2	1,588	S 47.11
	厚生学生会館	Students' Hall	//	680	S 56. 3
	第1体育館	Gymnasium 1	S1	995	S 41. 3
	第2体育館	Gymnasium 2	//	894	S 53.12
	武道場	Kendo/Judo Hall	//	474	S 43. 1
	プール(屋根付)	Swimming Pool	R1	136	H 6. 8
	課外活動施設	Rooms for the Club Activities	S1	155	S 59. 3
	課外活動部室	Club Rooms	//	235	S 42. 3
	警備員室	Guardhouse	R1	13	S 39. 5
	車庫	Garage	S1	82	S 39. 5
	車庫	Garage	//	70	S 41. 3
	ボイラー室	Boiler Room	R1	145	S 39. 5
	受変電機械室	Room of Demand and Indicator	//	75	S 47.11
	廃棄物保管庫	Waste Warehouse	S1	80	S 54. 3
	渡廊下	Connecting Corridor		29	
	屋外トイレ	Outdoor Washroom		30	
	体育器具庫	Storehouse for Physical Exercise or Other Activities		296	
	材料庫	Material Warehouse etc.		178	
	小計	Subtotal		6,155	
職員宿舎	Staff Housing		849		
小計	Subtotal		849		
合計	Grand Total		30,046		

R: 鉄筋コンクリート造り Reinforced Concrete    S: 鉄骨造り Steel Frame Work    B: ブロック造り Block

(出典 平成19年度学校要覧 p.37)

(分析結果とその根拠理由)

本校の資産は、平成16年4月1日の独立行政法人化に伴い、政府から独立行政法人国立高等専門学校機構に出資され、本校が使用している。

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

平成17年度における本校の経常的収入は、授業料・入学料・検定料のほか、財産貸付料等の雑収入であり(資料10-1-②-1)、必要経費から収入額を差し引いたものが、高専機構から「運営費交付金」として配分された。運営費交付金については、高専機構から今後も継続的に交付されるものであり、経常的収入は確保されている。また、科学研究費補助金、企業等からの受託研究費、共同研究費、寄附金等外部資金の受け入れにも努力している(資料10-1-②-2)。特に、平成19年4月から秋田工業高等専門学校教育研究支援基金を創設して、外部資金の受け入れに積極的に取り組んでいる(資料10-1-②-3~4)。

資料10-1-②-1 「秋田工業高等専門学校諸収入受入状況」

平成16年度実績

区 分	決算額 (千円)
運営費交付金	987,274
小 計	987,284
授 業 料	158,708
入学料及び検定料	20,183
寄 宿 料	1,643
外 部 資 金	17,559
科 研 費	10,800
そ の 他	5,333
小 計	214,226
合 計	1,201,500

平成17年度実績

区 分	決算額 (千円)
運営費交付金	1,075,944
小 計	1,075,944
授 業 料	187,093
入学料及び検定料	21,447
寄 宿 料	1,766
外 部 資 金	15,639
科 研 費	14,800
そ の 他	4,457
小 計	245,202
合 計	1,321,146

(出典 総務課資料)

資料10-1-②-2 「秋田工業高等専門学校外部資金受入状況」

平成16年度実績

区 分	件数	金額 (千円)
共同研究	9	3,178
受託研究	6	6,985
寄附金	23	7,396
科研費	10	10,800
合 計	48	28,359

平成17年度実績

区 分	件数	金額 (千円)
共同研究	7	3,850
受託研究	3	4,950
寄附金	30	6,839
科研費	9	14,800
合 計	49	30,439

(出典 総務課資料)

## 資料10-1-②-3 「秋田工業高等専門学校教育研究支援基金要項」

## 秋田工業高等専門学校教育研究支援基金要項

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、秋田工業高等専門学校教育研究支援基金(以下「基金」という。)を置く。

## (目的)

第2条 基金は、本校の教育研究活動を支援し、もって人材育成及び社会貢献に資することを目的とする。

## (事業)

第3条 基金は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 本校の教育の向上及び研究の支援
- 二 本校の学生への奨学金等支援
- 三 本校の学生・教職員の国際・文化・社会活動等支援
- 四 構内の環境整備・美化の支援
- 五 その他基金の目的達成に必要な事業

## (運営費)

第4条 基金の運営は、基金に対する寄附金及びその果実、その他事業による収益等をもって充てる。

## (運営委員会)

第5条 基金に、管理運営に関する事項を審議、決定するため、秋田工業高等専門学校教育研究支援基金運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

- 2 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。
- 3 委員は、本校教職員のうちから、委員長の指名に基づき、校長が委嘱する。
- 4 委員会は、次の事項を審議、決定する。

- 一 基金の事業計画
- 二 基金の予算・決算
- 三 基金の受入に関する審査及び受入の決定
- 四 その他基金の運営に関する事

5 前項第1号及び第2号に関する事項は、運営委員会に報告するものとする。

## (基金の管理)

第6条 基金は、この要項及び秋田工業高等専門学校寄附金事務取扱規則により管理するものとする。

## (事業年度)

第7条 基金の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

## (事務局)

第8条 基金に、事務局を置く。

2 事務局に関する庶務は、企画室において処理する。

## (その他)

第9条 この要項に定めるもののほか、基金の運営に関し必要な事項は、別に定める。

## 附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)



## 資料10-1-②-4 「秋田高等教育研究支援基金のご案内」

企業のみなさまへ

秋田工業高等専門学校

秋田高専教育研究支援基金のご案内

秋田工業高等専門学校は、大学と同じ高等教育機関です。本校は「自立・挑戦・創造」を基本に教育研究を通じて地域を含む世界の産業界発展に貢献し、より良い環境の創成に寄与する人材を養成することを教育理念としています。

昭和39年創設以来これまで約5千名に及び卒業生を社会に送り出し、産業界からは実践的かつ専門的な知識を有する技術者としての高い評価を得ています。

本校は、今後養成すべき人材像を「人類の幸福を考え、地球環境や人間社会と技術との調和を熟慮しながら行動することができる技術者」とし、社会に貢献する有為な人材の育成に向かって取り組んでいます。

この目標を実現するために「秋田工業高等専門学校教育研究支援基金」を創設しました。本基金の趣旨をご理解いただきまして、広く地域社会の皆様にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

**基金の事業計画**

- ・教育・研究向上の支援
- ・奨学金等の支援
- ・国際・文化・社会活動等の支援
- ・環境整備・美化の支援




お問合せ先：企画室企画係(伊藤)

秋田市飯島文京町1番1号

TEL 018-847-6106

FAX 018-857-3191

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の経常的収入は、学生からの諸納付金（授業料，入学科，検定料等）である。

運営費交付金については、高専機構を通じて継続的に交付されている。また、外部資金の受け入れについても、独自に教育研究支援基金を創設するなどして、収入の確保に努めている。

観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

平成15年12月22日独法化対応委員会で策定され(資料10-2-①-1)、教員会議等で周知している。

また、各年度の予算については、予算委員会において学内予算配分方針を定め、運営委員会および教員会議で教職員に周知している。

資料10-2-①-1 「秋田工業高等専門学校中期計画」

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 外部からの教育研究資金その他自己収入の増加のための措置

○ 外部からの教育研究資金その他自己収入の増加に関する具体的方策

- ア) 民間との共同研究推進等による外部資金について、地域共同テクノセンターを活用して積極的に取り組む。
- イ) 学校収入を確保するために、教員が科研費など各種の公募型教育研究プログラムに、積極的に応募しやすくする全校的な支援体制を整備する。
- ロ) 産業界のニーズに的確に応える研究指導等を実施することによって、教育研究機能の強化につながる企業との共同研究を積極的に受け入れ、外部資金の確保に努める。

2 経費の抑制及び資産の管理の改善のための措置

○ 管理的経費の抑制に関する具体的方策

- ア) 全教職員が学校休業中(夏・冬)にリフレッシュ休暇を取ることを促進するなど、徹底した省エネルギー対策を実施する。
- イ) 効率的な施設運営、事務等の効率化、合理化により管理的経費の縮減を図る。

(出典 秋田工業高等専門学校の中期計画についての記載事項)

(分析結果とその根拠理由)

中期計画については、中期目標・中期計画推進委員会で策定され、教員会議等で教職員に周知している。

また、各年度の予算については、予算委員会で審議して運営委員会で決定した学内予算配分方針に基づき適正に配分し、教職員に周知している。

観点10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

高専機構会計規則第17条により、高専機構理事長は、每事業年度開始前に独立行政法人通則法第31条第1項に定める年度計画に基づいて予算実施計画を作成し、これに基づいて収入および支出を管理しなければならない。

また、同規則第18条により第17条で作成した予算実施計画に基づく予算額を、各高専契約担当役および出納命令役に通知するものとされている(資料10-2-②-1)。

高専機構から事業年度ごとに収支予算額が示され、必要な資金が送金されており、その額を超えて支出はできない構造になっている。

資料10-2-②-1 「高専機構会計規則」

(予算実施計画の作成)

第17条 理事長は、每事業年度開始前に通則法第31条第1項に定める年度計画に基づいて、予算実施計画を作成し、これに基づいて収入及び支出を管理しなければならない。

2 理事長は、機構の効率的、効果的な運営に常に配慮するものとする。

(予算実施計画の通知)

第18条 理事長は、前条で作成した予算実施計画に基づく予算額を契約担当役及び出納命令役に通知するものとする。

(出典 高専機構会計規則)

(分析結果とその根拠理由)

通知された予算をもって執行計画を策定しており、過大な支出とはなっていない。

ただし、平成17年度以降、効率化係数 $\Delta 1\%$ が適用され、運営費交付金は每事業年度減額されることから、効率的予算の執行を図る必要がある。

観点10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）  
に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

予算の配分方針は、予算委員会で検討し運営委員会です承を得ることとしており、本校の中期目標・中期計画を達成するため、配分方針の検討を行っている（資料10-2-③-1）。

なお、教育研究の活性化のため、教員等からの申請により、予算を重点的に配分するプロジェクト研究経費等を設け、配分している。

資料10-2-③-1 「平成18年度学内予算配分方針」

1. 機構本部から本校への予算配分について

- (1) 本校の収入が収入予算額を超える場合は、自己収入として執行できる。
- (2) 支出予算のうち、常勤教職員人件費、退職手当及び赴任旅費は、所要額が配分される。
- (3) 「人件費」と「その他経費」に区分する。人件費は所要予定額を予算とし、残余をその他経費として学内配分予算とする。

2. 学内予算配分方針について

- (1) 「その他経費」は、中期目標、中期計画期間中の効率化（毎事業年度1%）を図るため、一般管理経費は総額で対前年比2%減の配分とし、教育研究経費については、配分方針に基づき配分する。
- (2) 学科等経費（教育研究経費）は、「その他経費」予算額から他のすべての経費を差し引いた残額を予算（旅費相当額を含む）とする。配分については、平成17年度の1%減の配分とする。
- (3) 教育研究経費の積算の基礎とする員数は、学生は定員、教員は平成18年4月1日現在の現員により配分する。
- (4) 年度途中採用者に係る教育研究経費については、予備費をもって充てる。  
配分については、教育研究経費：配分単価÷12×3月までの月数
- (5) JABEE認証受審経費として、「臨時事業費」を新設し、2,800千円を計上する。
- (6) 教育研究設備維持運営費（特殊装置維持費）の積算については、予算措置された設備で購入後10年以内の設備を対象とし、平成17年度配分額の70%が配分される。
- (7) 校長裁量経費（前年度と同額の4,000千円）、創造教育支援経費（前年度と同額の4,700千円）、プロジェクト研究経費（前年度と同額の4,000千円）を計上する。

（出典 予算委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

予算配分は、基本方針が示され、議論がなされたうえで決定している。校長裁量経費、創造教育支援経費、プロジェクト研究経費は、ヒアリングを行い十分検討したうえで決定している。

観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

高専機構としてシステム（財務会計）を構築しており、全国の高専はこのシステムにアクセスし、統一された勘定科目により財務会計処理を行っている。

年度末決算後は、このシステムにより財務諸表等が作成され、公開されている。

また、高専機構理事長は、翌事業年度5月末日までに財務諸表を作成し、公表することとなっている（資料10-3-①-1）。

資料10-3-①-1 「高専機構会計規則」

(年度末決算)

第44条 年度末決算に際しては、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。

2 理事長は、前項の整理を行った後、翌事業年度5月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

- 一 貸借対照表
- 二 損益計算書
- 三 キャッシュ・フロー計算書
- 四 利益の処分又は損失の処理に関する書類
- 五 行政サービス実施コスト計算書
- 六 附属明細書

3 前項各号の書類の様式は、別に定めるものとする。

(出典 高専機構会計規則)

(分析結果とその根拠理由)

高専機構会計規則第44条により、当該年度における資産・負債の残高ならびに損益に関し、各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を行い、決算数値を確定している。

また、高専機構理事長は、翌事業年度5月末日までに財務諸表を作成し、公表している。

**観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。**

(観点に係る状況)

会計監査人による監査が明確に規定されており(資料 10-3-②-1), 会計機関の義務および責任ならびに内部監査を明確に規定している(資料 10-3-②-2)。

外部監査として、会計検査院による会計実地検査および監査法人による各監査が予定されているが、会計監査人による会計監査については、平成 18 年 5 月に中央青山監査法人による会計監査を受けている。

**資料10-3-②-1 「独立行政法人通則法」**

(会計監査人の監査)

第三十九条 独立行政法人(その資本の額その他の経営の規模が政令で定める基準に達しない独立行政法人を除く。)は、財務諸表、事業報告書(会計に関する部分に限る。)及び決算報告書について、監事の監査のほか、会計監査人の監査を受けなければならない。

(会計監査人の選任)

第四十条 会計監査人は、主務大臣が選任する。

(会計監査人の資格)

第四十一条 株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律(昭和四十九年法律第二十二号)第四条(第二項第二号を除く。)の規定は、第三十九条の会計監査人について準用する。この場合において、同法第四条第二項第一号中「第二条」とあるのは、「独立行政法人通則第三十九条」と読み替えるものとする。

(会計監査人の任期)

第四十二条 会計監査人の任期は、その選任の日以後最初に終了する事業年度の財務諸表についての主務大臣の第三十八条第一項の承認の時までとする。

(会計監査人の解任)

第四十三条 主務大臣は、会計監査人が次の各号の一に該当するときは、その会計監査人を解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- 二 会計監査人たるにふさわしくない非行があったとき。
- 三 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(出典 独立行政法人通則法)

**資料 10-3-②-2 「高専機構会計規則」**

(内部監査)

第45条 理事長は、予算の執行及び会計処理の適正を期するため、必要と認めるときは、特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。

- 2 内部監査について必要な事項は、別に定めるものとする。

(会計機関の義務及び責任)

第46条 会計機関は、機構の財務及び会計に関し、適用又は準用される法令並びにこの規則に準拠し、かつ、予算で定めるところに従い善良な管理者の注意をもって、その職務を行わなければならない。

(出典 高専機構会計規則)

(分析結果とその根拠理由)

会計監査は、独立行政法人通則法および高専機構会計規則に明確に定められている。高専機構における内部監査は中期計画中、監査法人による監査を受けることになっているが、本校は平成18年5月に中央青山監査法人による会計監査を受けている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

独自に、秋田工業高等専門学校教育研究支援基金を創設し、外部資金の受け入れに積極的に取り組んでいる。

(改善を要する点)

特になし。

## (3) 基準10の自己評価の概要

本校の教育研究活動を、安定して遂行するために必要な校地・校舎・設備等の資産を有しており、また、本校に債務はない。

本校の経常的収入は、授業料・入学料・検定料のほか、財産貸付料等の雑収入であり、必要経費から収入額を差し引いたものが、高専機構から「運営費交付金」として配分されている。運営費交付金については、高専機構から今後も継続的に交付されるものであり、経常的収入は確保されている。また、科学研究費補助金、企業等からの受託研究費、共同研究費、寄附金等外部資金の受け入れにも努力している。独自に、秋田工業高等専門学校教育研究支援基金を創設するなどして、外部資金の受け入れに積極的に取り組んでいる。

中期計画については、中期目標・中期計画推進委員会で策定され、教員会議等で教職員に周知している。各年度の予算については、予算委員会において学内予算配分方針を定め、その方針により適正に配分しており、運営委員会および教員会議で教職員に周知している。

収支の状況については、通知された予算額をもって執行計画を策定し、過大な支出とはなっていない。

また、予算配分は、基本方針が示され、議論がなされたうえで決定している。教育研究活動の活性化のため、教員等から申請により、予算を重点的に配分する校長裁量経費、創造教育支援経費、プロジェクト研究経費は、ヒアリングを行い十分検討したうえで決定している。

高専機構としてシステム(財務会計)を構築しており、全国の高専はこのシステムにアクセスし、統一された勘定科目により財務会計処理を行っている。年度末決算後は、当システムにより財務諸表等が作成され、公開されている。また、高専機構理事長は、翌事業年度5月末日までに財務諸表を作成し、公表することとなっている。

財務に対しては、会計監査人による監査が明確に規定されており、会計機関の義務および責任ならびに内部監査を明確に規定している。また、外部監査として、会計監査人による会計監査については、平成18年5月に中央青山監査法人による会計監査を受けている。

## 基準11 管理運営

### (1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況)

教務主事、学生主事、寮務主事を置くことは、秋田工業高等専門学校学則に明記されており(資料11-1-①-1)、各主事は校長の命を受けて、資料11-1-①-2に定められた業務を行うと規定されている。

秋田工業高等専門学校運営組織規則には、役職による業務分担が明記されており(資料11-1-①-3)、これを基に会議および各種業務を担当する委員会等が設置されている(資料11-1-①-4)。各委員会等の役割は委員会ごとに別途定められている。

校長のリーダーシップの下で、効果的に意思決定が行えるように、企画調整会議、運営委員会、教員会議が整備されている。本校の管理運営全体に係る事項に関する企画・立案を企画調整会議で行い、運営委員会の審議を経て、教員会議で周知を行う。これらの委員会は緊急時を除き、毎月定例で開催される。

また、校長を補佐するために教務主事を副校長とし、学生主事、寮務主事、専攻科長、地域共同テックセンター長を校長補佐としているほか、校長特別補佐を置き、重要事項や問題点を迅速に処理できる態勢を整えている。

(分析結果とその根拠理由)

教務主事、学生主事、寮務主事を置くことは、秋田工業高等専門学校学則に明記されており、各主事は校長の命を受けて定められた業務を行う。役職および委員会なども規則で明記されており、各委員会等の役割は委員会ごとに別途定められている。

校長のリーダーシップの下で、効果的に意思決定が行えるように、企画調整会議、運営委員会、教員会議が整備されている。

また、校長を補佐するために副校長、校長補佐、校長特別補佐を置き、重要事項や問題点を迅速に処理できる態勢を整えている。

以上のことから、学校の目的を達成するために、校長、教務主事、各委員会の役割は明確に定められており、また、校長のリーダーシップの下で、効果的に意思決定が行える態勢となっている。



## 資料 11-1-①-1 「秋田工業高等専門学校学則（第9条抜粋）」

- 第9条 本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。  
2 主事の職務については、別に定める。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 11-1-①-2 「秋田工業高等専門学校運営組織規則（第5条抜粋）」

- 第5条 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。  
2 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。  
3 寮務主事は、校長の命を受け、寄宿舎における学生の教育並びに厚生補導に関することを掌理する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

## 資料 11-1-①-3 「秋田工業高等専門学校運営組織規則」

## 秋田工業高等専門学校運営組織規則

## 第1章 総則

## (目的)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条第6項及び秋田工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第11条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）における運営組織の体制を確立し、かつ、連絡を密にして教育効果の向上を図ることを目的とする。

## (定義)

第2条 この規則で「教員」とは、学則第8条第1項に定める校長、教授、准教授、講師、助教及び助手をいう。

## (学科等)

第3条 本校に、学則第7条に定める各学科のほか、人文科学系及び自然科学系（以下「学科等」という。）を置く。

## 第2章 教務主事、学生主事及び寮務主事

## (任命)

第4条 学則第9条に定める主事のうち、教務主事は教授のうちから、学生主事及び寮務主事は教授又は准教授のうちから校長が推薦し、独立行政法人国立高等専門学校機構理事長が任命する。

## (職務)

- 第5条 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。  
2 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。  
3 寮務主事は、校長の命を受け、寄宿舎における学生の教育並びに厚生補導に関することを掌理する。

## 第3章 副校長及び校長補佐等

## (副校長)

- 第6条 本校に副校長を置き、教務主事をもって充てる。  
2 副校長は、校長の命により校長の職務を補佐し、校長が不在の時はその職務を代行する。

## (校長補佐)

- 第7条 本校に校長補佐を置き、学生主事、寮務主事、専攻科長及び地域共同テクノセンター長をもって充てる。
- 2 校長補佐は、校長の命により校務を分担する。

## (校長特別補佐)

- 第8条 本校に校長特別補佐を置き、校長が任命する。
- 2 校長特別補佐は、校長を補佐し次の事項のうち特定の事項を処理する。
- 一 本校の整備に関すること
  - 二 本校の中期目標・中期計画に関すること
  - 三 その他校長が必要と認めた企画に関すること
- 3 校長特別補佐の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## 第4章 教務主事補、学生主事補及び寮務主事補

## (主事補)

- 第9条 本校に教務主事補、学生主事補及び寮務主事補をそれぞれ若干名置く。
- 2 主事補は、教授、准教授又は講師をもって充て、校長が任命する。
- 3 主事補は、当該主事の職務を補佐する。
- 4 主事補の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## 第5章 学科主任及び学系主任

## (主任)

- 第10条 本校の各学科に学科主任を、人文科学系及び自然科学系に学系主任を置く。
- 2 学科主任及び学系主任（以下「学科主任等」という。）は、当該学科等に所属する教授又は准教授をもって充て、校長が任命する。
- 3 学科主任等は、当該学科等の代表者として、その運営及び連絡調整にあたる。
- 4 学科主任等の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## 第6章 専攻科長及び専攻主任

## (専攻科長及び専攻主任)

- 第11条 本校に専攻科長及び専攻主任を置く。
- 2 専攻科長及び専攻主任に関し必要な事項は、別に定める。

## 第7章 実習工場主任

## (実習工場主任)

- 第12条 本校に実習工場主任を置く。
- 2 実習工場主任は、機械工学科の教授、准教授又は講師をもって充て、校長が任命する。
- 3 実習工場主任は、実習工場における実習業務の運営について総括するとともに、各学科等との連絡調整にあたる。
- 4 実習工場主任の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## 第8章 学級担任

## (学級担任)

- 第13条 本校の各学級に学級担任を置く。
- 2 学級担任は、教授、准教授、講師又は助教をもって充て、校長が任命する。
- 3 学級担任は、学科主任等と連絡を密にしそれぞれ担当する学級の職務、厚生補導並びにその他当該学級の運営にあたる。
- 4 学級担任の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任

期間とする。

## 第9章 指導教員

(指導教員)

第14条 秋田工業高等専門学校学生準則（昭和24年規則第1号。以下「準則」という。）第20条に定める団体にそれぞれ指導教員を置く。

- 2 指導教員は、教員をもって充て、校長が任命する。
- 3 指導教員は、準則第20条に定める団体の指導助言を行う。

## 第10章 会議及び委員会等

(企画調整会議)

第15条 校長の指揮に基づき、本校の管理運営全体に係る事項について、企画・立案し、連絡調整を図るため、企画調整会議を置く。

- 2 企画調整会議に関する必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第16条 校長の諮問に応じ、本校の運営における重要事項を審議するため、運営委員会を置く。

- 2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(教員会議)

第17条 本校の管理運営及び教務・厚生補導等に関する事項を連絡、協議し、本校の運営の円滑化を図ることを目的として、教員会議を置く。

- 2 教員会議に関する事項は、別に定める。

(その他委員会等)

第18条 校長は、特定の重要事項に関する必要な調査、審議を行うため、各種委員会等を置くことができる。

- 2 各種委員会等に関する必要な事項は、別に定める。

## 第11章 その他

(その他)

第19条 この規則に定めるもののほか、本校の運営組織に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 秋田工業高等専門学校教官組織規程（昭和47年10月27日制定）は、廃止する。

附 則

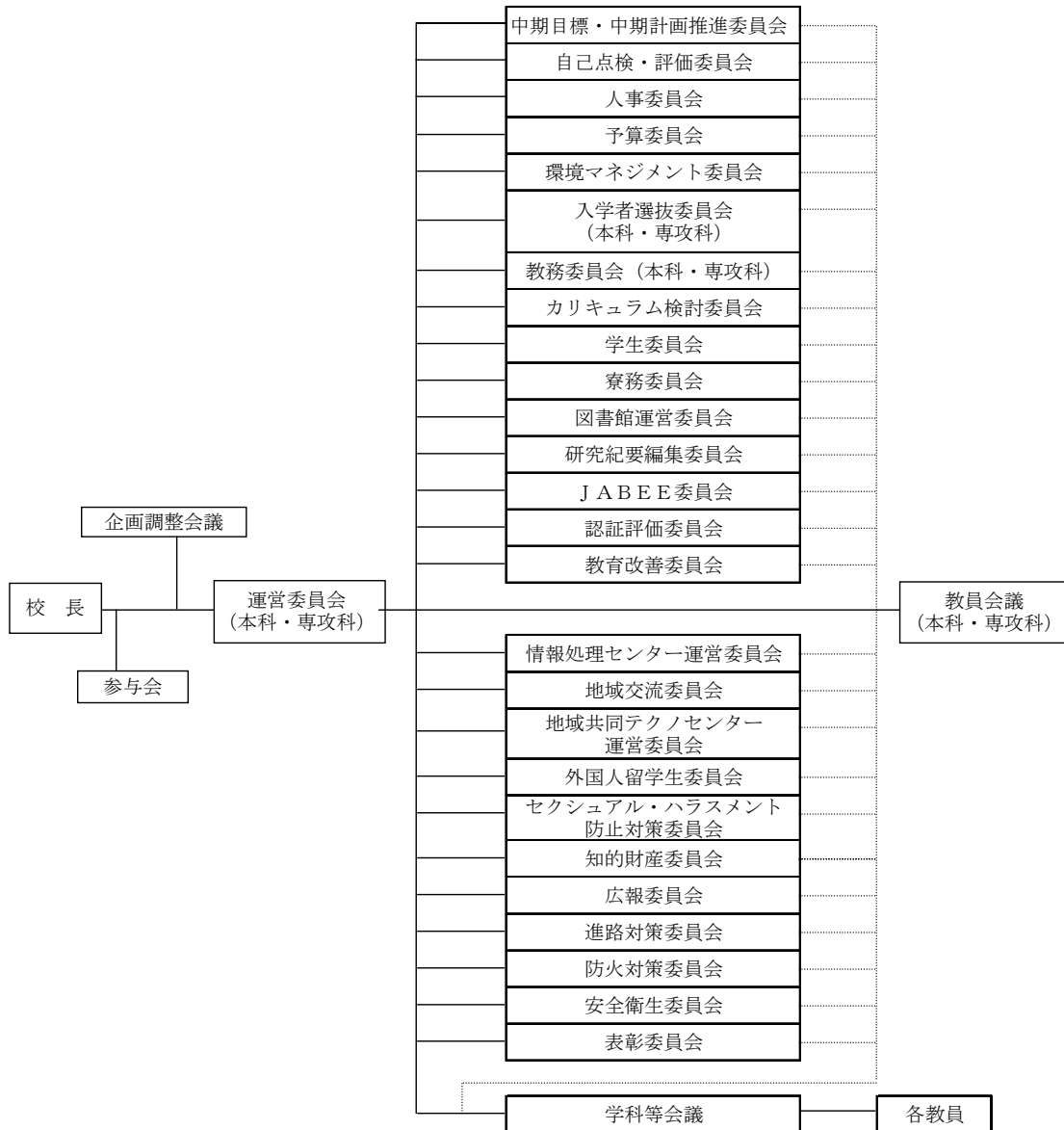
この規程は、平成17年11月2日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

資料 11-1-①-4 「各種委員会等の関連図」



(出典 総務課資料)

**観点11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。**

(観点に係る状況)

各委員会の中で、企画調整会議は学校全体の管理運営に関する重要事項の企画、立案を行い、運営委員会で審議を行う。いずれの委員会とも毎月定例で開催し、審議事項は教員会議で各教員に周知している。専攻科の運営に関する事項は、専攻科運営委員会で審議され、専攻科教員会議で周知されている。

各主事の担当業務の内容に関して審議するために、教務委員会、学生委員会、寮務委員会が設置されている。その他の委員会も業務内容ごとに定められている(資料11-1-②-1)。平成19年度の各委員会の構成員は、資料11-1-②-2のとおりである。各委員会とも庶務担当の事務職員が定められており、円滑な委員会運営を支えている。

本校の事務組織は、資料11-1-②-3のとおりである。平成19年度からは、庶務、会計、学生の3課から、庶務課・会計課を統合して総務課とした2課体制となった。このほか、総務課内に新たに企画室を設置するなど業務の効率化を図っている。また、各事務部の連絡と調整のために、毎月定例で事務連絡会を開催している。

(分析結果とその根拠理由)

企画調整会議は学校全体の管理運営に関する重要事項の企画、立案を行い、運営委員会で審議を行い、教員会議で各教員に周知している。専攻科の運営に関する事項は、専攻科運営委員会で審議され、専攻科教員会議で周知されている。

各主事の担当業務の内容に関して審議するために、教務委員会、学生委員会、寮務委員会が設置されている。その他の委員会も業務内容ごとに定められている。各委員会とも庶務担当の事務職員が定められており、円滑な委員会運営を支えている。

本校の事務組織は、平成19年度からは総務課と学生課の2課体制となったが、総務課内に新たに企画室を設置するなど業務の効率化を図っている。また、各事務部の連絡と調整のために、事務連絡会を開催している。

以上のことから、管理運営に関する各種委員会および事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているといえる。

## 資料 11-1-②-1 「各委員会の所掌内容」

- 企画調整会議：各種委員会等から検討を要請された事項および運営委員会の議案整理，並びに校長から特に諮問された事項の検討等
- 運営委員会：学校運営全般にわたる重要事項の審議
- 中期目標・中期計画推進委員会：中期目標・中期計画および年度計画に関すること
- 自己点検・評価委員会：教育研究活動の状況についての自己点検および評価に関すること
- 人事委員会：教員人事の方針および採用，昇任に関すること
- 予算委員会：予算配分，概算要求の基本的事項に関すること
- 環境マネジメント委員会：環境目標および実施計画・推進に関すること
- 入学者選抜委員会：学生の募集，入学者の選抜に関すること
- 教務委員会：教育課程の編成，学生の履修，その他教務に関すること
- カリキュラム検討委員会：本科および専攻科の教育課程の編成に関すること
- 学生委員会：学生の生活指導，その他福利厚生に関すること
- 寮務委員会：学寮における生活指導全般に関すること
- 図書館運営委員会：図書館の管理運営および図書を選択に関すること
- 研究紀要編集委員会：研究紀要の編集・発行に関すること
- JABEE 委員会：JABEE が認定する技術者教育プログラムに関する事項についての審議および対応
- 認証評価委員会：高等専門学校機関別認証評価の受審に関するスケジュール，受審資料作成並びに受審体制等に関すること
- 教育改善委員会：学校全体の学習・教育目標の改訂，教育方法などの改善策の検討並びに提言
- 情報処理センター運営委員会：情報教育およびネットワーク関連，パソコン室の管理運営等に関すること
- 地域交流委員会：公開講座，学校開放，生涯学習に関すること
- 地域共同テクノセンター運営委員会：学内共同教育研究および地域との技術交流の窓口であるセンターの運営に関すること
- 外国人留学生委員会：外国人留学生の受け入れおよび指導体制に関すること
- セクシュアル・ハラスメント防止対策委員会：セクシュアル・ハラスメントの防止対策および学生，教職員からの当該問題の訴えに対応すること
- 知的財産委員会：教職員から発明の届出があった場合の新規性および出願の価値等に関する事項，知的財産権に関する人材の育成，その他知的財産権に関すること
- 広報委員会：本校の PR，学生募集および公開講座の広報並びにホームページの掲載に関すること
- 進路対策委員会：学生の進路（進学および就職）支援並びに卒業生への情報提供等支援に関すること
- 防火対策委員会：防火計画および防火対策に関する諸施策に関すること
- 安全衛生委員会：教職員の安全および衛生の維持向上に関すること
- 表彰委員会：学生の表彰について審査すること

(出典 総務課資料)

## 資料 11-1-②-2 「平成 19 年度校務分担表」

## ☆主事及び主事補

教務主事	成田文雄	教務主事補	山崎博之	西野智路
			上田 学	
学生主事	野坂 肇	学生主事補	山本昌志	桜田良治
			桑本裕二	
寮務主事	堀江 保	寮務主事補	小林義和	金子 淳
			渡邊朋雄	

## ☆専攻科

専攻科長	須川 浩
生産システム工学専攻主任	大上哲郎
環境システム工学専攻主任	対馬雅巳

## ☆学科主任等

機械工学科主任	茂木良平
電気情報工学科主任	高橋身佳
物質工学科主任	船山 齊
環境都市工学科主任	羽田守夫
人文科学系主任	手島邦夫
自然科学系主任	成田 章

## ☆学級担任（●印は学級担任会代表，※印は学年代表）

学年	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	環境都市工学科
1	今田良徳	田中将樹	※石塚眞治	恒松良純
2	長井栄二	佐藤彰彦	※小林 貢	佐藤尊文
3	※菅原隆行	大島静夫	森本真理	水野 麗
4	土田 一	※田畑季章	上松 仁	折田仁典
5	木澤 悟	●浅野清光	※岡村澄夫	水田敏彦

## ☆施設担当

地域共同テクノセンター長	落合雄二
情報処理センター長	大島静夫
工業技術実習センター長	安藤正昭
技術教育支援センター長	成田文雄
図書館長	豊嶋幸子
実習工場主任	土田 一
学生相談室長	田畑季章

☆各種委員会 (◎は委員長, ○は副委員長)

本科・専攻科 運営委員会 (※印は本 科のみ)	◎島田昌彦 船山 齊	成田文雄 羽田守夫	野坂 肇 手島邦夫	堀江 保 成田 章	須川 浩 ※浅野清光	大上哲郎 ※落合雄二	対馬雅己 佐藤義克	豊嶋幸子 長代健児	茂木良平 工藤美明	高橋身佳
予算委員会	◎島田昌彦 羽田守夫	成田文雄 手島邦夫	野坂 肇 成田 章	堀江 保 佐藤義克	須川 浩 長代健児	大上哲郎	対馬雅己	茂木良平	高橋身佳	船山 齊
自己点検・評価委 員会	◎島田昌彦 山本昌志 長代健児	成田文雄 船山 齊 工藤美明	野坂 肇 上松 仁	堀江 保 羽田守夫	須川 浩 佐藤 悟	大上哲郎 脇野 博	対馬雅己 小林 貢	茂木良平 成田 章	木澤 悟 大島静夫	高橋身佳 佐藤義克
本科 入学者選抜委員会	◎島田昌彦 佐藤義克	○成田文雄 工藤美明	野坂 肇	堀江 保	茂木良平	高橋身佳	船山 齊	羽田守夫	手島邦夫	成田 章
専攻科 入学者選抜委員会	◎島田昌彦 羽田守夫	○須川浩 手島邦夫	成田文雄 成田 章	野坂 肇 佐藤義克	堀江 保 工藤美明	大上哲郎	対馬雅己	茂木良平	高橋身佳	岡村澄夫
地域共同テクノ センター運営委 員会	◎島田昌彦 佐藤義克	落合雄二 長代健児	成田文雄	須川 浩	茂木良平	高橋身佳	船山 齊	羽田守夫	手島邦夫	成田 章

☆各種委員会 (◎は委員長, ○は副委員長)

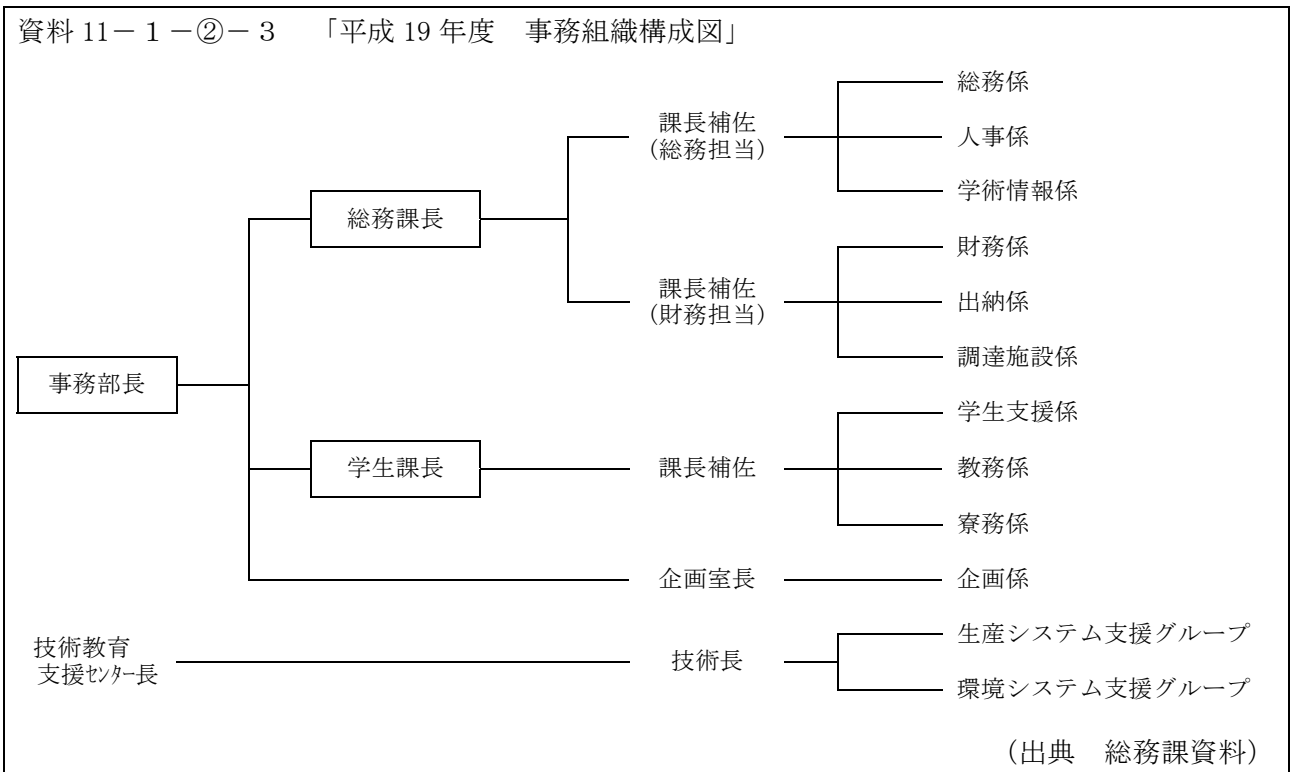
区 分	主 事 等	主 事 補 等	機 械 工 学 科	電 気 情 報 工 学 科	物 質 工 学 科	環 境 都 市 工 学 科	人 文 科 学 系	自 然 科 学 系	事 務 部
本科 教務委員会	◎成田文雄	山崎博之 西野智路 上田 学	佐々木章 安藤正昭	安東 至 伊藤桂一	石塚眞治 上松 仁	佐藤 悟 日野 智	脇野 博 菅原隆行	麻生正道 森本真理	工藤美明
専攻科 教務委員会	◎須川 浩	大上哲郎 対馬雅己	佐々木章	安東 至	石塚眞治	佐藤 悟	菅原隆行	麻生正道	工藤美明
学生委員会	◎野坂 肇	山本昌志 桜田良治 桑本裕二	岡本正人 佐藤徹雄 吉井洋二	木澤 悟 折田仁典 佐藤尊文	渡部英昭 水田敏彦	田中将樹 角 哲	竹下大樹 小林 貢	岡村澄夫 長井栄二	工藤美明
寮務委員会	◎堀江 保	小林義和 金子 淳 渡邊朋雄	土田 一 今田良徳	宮田克正 浅野清光	丸山耕一 野中利瀬弘	恒松良純 金 主鉦	水野 麗 古河美喜子	佐藤彰彦 上林一彦	工藤美明

区分	主 事 及 び 主 事 補 等	専 攻 科	機 械 工 学 科	電 気 情 報 工 学 科	物 質 工 学 科	環 境 都 市 工 学 科	人 文 科 学 系	自 然 科 学 系	事 務 部
図書館運営委員会	◎豊嶋幸子 森本真理 上田 学 桜田良治 小林義和		安藤正昭	伊藤桂一	佐藤徹雄	恒松良純	小林 貢	佐藤彰彦	長代健児
研究紀要編集委員会	◎安東 至		小林義和	田中将樹	石塚眞治	水田敏彦	長井栄二	渡邊朋雄	長代健児
JABEE 委員会	◎茂木良平 成田文雄	須川 浩	大上哲郎	高橋身佳 安東 至	船山 齊 上松 仁	羽田守夫 恒松良純	手島邦夫 金子 淳	成田 章 上田 学	佐藤義克 長代健児 工藤美明
認証評価委員会	成田文雄 野坂 肇 堀江 保 伊藤桂一 大島静夫 脇野 博 落合雄二	須川 浩 安東 至	佐々木章	◎宮田克正 山本昌志	岡村澄夫	対馬雅己	菅原隆行	佐藤尊文	長代健児 工藤美明
教育改善委員会	西野智路	◎対馬雅己 大上哲郎	土田 一	田中将樹	石塚眞治	佐藤 悟	長井栄二	渡邊朋雄	工藤美明
情報処理センター運 営委員会	◎成田文雄 豊嶋幸子 大島静夫	須川 浩	茂木良平	高橋身佳	船山 齊	羽田守夫	手島邦夫	成田 章	佐藤義克 長代健児 工藤美明
地域交流委員会	◎成田文雄	須川 浩 大上哲郎 対馬雅己	落合雄二	山崎博之	上松 仁	桜田良治	桑本裕二	麻生正道	長代健児
外国人留学生委員会	◎成田文雄 野坂 肇 堀江 保 山崎博之 山本昌志 金子 淳		小林義和	山崎博之	西野智路	対馬雅己			工藤美明



区分	主事及び主事補等	専攻科	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	人文科学系	自然科学系	事務部
セク・ハラ防止対策委員会	◎島田昌彦 成田文雄 野坂肇 堀江保	田畑季章 浅野清光 菅原隆行 水野 麗							佐藤義克
セク・ハラ相談員	田畑季章	上村佐知子	高橋賢一	佐藤彰彦	佐藤徹雄	若木宗子	長代健児	工藤美明	伊藤 恵
学生相談員	田畑季章 上村佐知子 高橋賢一 佐藤彰彦 佐藤徹雄								
知的財産委員会	◎成田文雄 落合雄二	須川 浩	木澤 悟	宮田克正	丸山耕一	金 主鉉	金子 淳	上林一彦	長代健児
広報委員会	◎成田文雄 野坂肇 堀江保 大島静夫 落合雄二	須川 浩 大上哲郎 対馬雅己	安藤正昭	柳原昌輝	豊嶋幸子	佐藤 悟	菅原隆行	麻生正道	佐藤義克 長代健児 工藤美明
進路対策委員会	◎島田昌彦 成田文雄 野坂肇 堀江保	須川 浩 大上哲郎 対馬雅己	茂木良平 木澤 悟	高橋身佳 浅野清光	船山 齊 岡村澄夫	羽田守夫 水田敏彦			佐藤義克 工藤美明
防火対策委員会	◎島田昌彦 成田文雄 野坂肇 堀江保	大上哲郎 対馬雅己	茂木良平	柳原昌輝	岡村澄夫	折田仁典	金子 淳	成田 章	○佐藤義克 長代健児 工藤美明 栗澤隆夫
安全衛生委員会	◎島田昌彦 堀江保	○佐藤義克 大島静夫	若木宗子 樋渡久孝	阿部二郎 伊藤 恵	落合雄二 栗澤隆夫	長代健児	高橋身佳	岡村澄夫	
表彰委員会	◎成田文雄 野坂肇 堀江保 豊嶋幸子	須川 浩	茂木良平	高橋身佳	船山 齊	羽田守夫	手島邦夫	成田 章	工藤美明

(出典 総務課資料)



(出典 総務課資料)

観点 11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

本校における諸規定は、秋田高専グループウェアにおいて公開されており、全教職員がネットワーク経由で閲覧できる(資料 11-1-③-1)。

これら諸規定の改正などがある場合は、メールで全教職員に周知している。

資料 11-1-③-1 「組織・運営関係規定」

タイトル	作成日	最終更新日
秋田工業高等専門学校学則	2005/01/20	
第2章 組織・運営		
秋田工業高等専門学校事務分掌規程	2005/03/16	2007/01/23
秋田工業高等専門学校人事委員会規則	2005/03/16	
秋田工業高等専門学校レクリエーション委員会規則	2005/03/16	
秋田工業高等専門学校安全衛生委員会規則	2005/03/16	
秋田工業高等専門学校安全衛生管理体制に関する要項	2005/03/16	2007/03/27
秋田工業高等専門学校運営委員会規則	2005/03/31	
秋田工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則	2005/04/06	
秋田工業高等専門学校教員会議規則	2005/04/06	
秋田工業高等専門学校参加規則	2005/04/27	
秋田工業高等専門学校事務情報化推進委員会要項	2005/05/19	
秋田工業高等専門学校事務情報化推進室運営要項	2005/05/19	
秋田工業高等専門学校学科会議規則	2005/07/14	
秋田工業高等専門学校事務連絡会内規	2005/07/14	2007/04/24
秋田工業高等専門学校予算委員会規則	2005/09/20	
秋田工業高等専門学校教育・研究施設等の有効活用に関する委員会	2005/09/20	2006/12/19
秋田工業高等専門学校認証評価委員会規則	2005/11/04	
秋田工業高等専門学校学生委員会規則	2005/11/21	
秋田工業高等専門学校寮務委員会規則	2005/11/21	
秋田工業高等専門学校学級担任会規則	2005/11/21	
秋田工業高等専門学校学科主任会議規則	2005/11/21	
秋田工業高等専門学校進路対策委員会規則	2005/11/21	
秋田工業高等専門学校外国人留学生委員会規則	2005/11/21	
秋田工業高等専門学校教育プログラム改善専門部会細則	2006/01/10	
秋田工業高等専門学校JABEE委員会規則	2006/01/10	
秋田工業高等専門学校地域交流委員会規則	2006/01/10	
秋田工業高等専門学校知的財産委員会規則	2006/01/10	
秋田工業高等専門学校広報委員会規則	2006/01/10	2006/01/10
秋田工業高等専門学校宿舎委員会規則	2006/01/10	
秋田工業高等専門学校教務委員会規則	2006/02/03	
秋田工業高等専門学校カリキュラム検討委員会規則	2006/02/03	
秋田工業高等専門学校教育改善委員会規則	2006/02/03	

(出典 秋田高専グループウェア)

(分析結果とその根拠理由)

管理運営の諸規定が整備され、改正などがある場合も、ネットワークを利用して教職員に周知しているといえる。

**観点 11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。**

(観点に係る状況)

独立行政法人化後の本校における管理運営，教育研究活動全般にわたる助言や提言を得るために，学外有識者7名による参与会を設置した（資料 11-2-①-1～2）。平成17年度の第3回参与会において，ヒアリング，学内施設見学，質疑応答が行われ，参与会（外部評価）報告書にまとめられている（資料 11-2-①-3）。

外部評価での講評，提言を受け，平成18年度から，①学校行事や教育・研究活動状況等を積極的にマスコミへアピールすることにより，地元の新聞・テレビ等に従前より高い頻度で掲載・報道されるようになり，地域社会により広く認知されるようになってきている。②地域共同テクノセンターコーディネーター2名を中心に，きめ細かな県内企業訪問を継続して行うことで，本校と地域企業との相互理解が深まり，共同研究等地域連携協力の土壌が育ってきている。

## 資料 11-2-①-1 「秋田工業高等専門学校参加会規則」

## 秋田工業高等専門学校参加会規則

制定 平成16年10月5日

## (設置)

第1条 秋田工業高等専門学校（以下「本校」という。）に外部有識者による参加会を置く。

## (目的)

第2条 参加会は、本校の教育研究活動等の状況について助言及び評価等を行い、本校での自己点検・評価に関する活動を支援することを目的とする。

## (任務)

第3条 参加会は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、校長に対して提言及び助言を行う。

- (1) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項
- (2) 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する重要事項
- (3) その他本校の運営に関する重要事項

## (組織)

第4条 参加会は、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱した参与をもって組織する。

- (1) 本校の所在する地域の関係者
- (2) 大学その他の教育研究機関の教職員
- (3) その他高等専門学校に関し広くかつ高い見識を有する者

## (任期)

第5条 参与の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 前項の参与に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (会長)

第6条 参加会に、会長を置き、校長が指名する。

2 会長に事故等がある場合は、校長が指名する参与がその職務を代行する。

## (運営)

第7条 参加会の会議は、校長が招集し、会長がその議長となる。

## (庶務)

第8条 参加会の庶務は、企画室において処理する。

## (雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、参加会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

## 附則

1 この規則は、平成16年10月5日から施行する。

2 平成16年度中に委嘱される参与の任期は第5条第1項の規定にかかわらず、委嘱の日から平成18年3月31日までとする。

## 附則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

資料 11-2-①-2 「秋田工業高等専門学校外部評価実施要項」

秋田工業高等専門学校外部評価実施要項

制定 平成17年4月25日  
校長 裁定

(目的)

第1条 この要項は、秋田工業高等専門学校参加会（以下「参加会」という。）による外部評価（以下「評価」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(評価項目)

第2条 参加会規則第3条第2号に定める事項の評価項目は、次のとおりとする。

- (1) 教育活動に関する事
- (2) 研究活動に関する事
- (3) 学生支援に関する事
- (4) 社会との連携に関する事
- (5) 管理・運営に関する事
- (6) その他参加会が必要と認める事項

(実施方法)

第3条 評価は、資料による調査のほか、本校で実施するヒアリング、校内視察等に基づき実施する。

(資料)

第4条 評価に必要な資料は、秋田工業高等専門学校自己点検・評価委員会が作成する。

(報告書)

第5条 参加会は、評価の結果について外部評価報告書（以下「報告書」という。）を作成し、校長に提出する。  
2 報告書は、公表するものとする。

(改善)

第6条 校長は、報告書に基づき、関連する委員会等へ改善策の検討を付託するなどして、改善に努めるものとする。

(雑則)

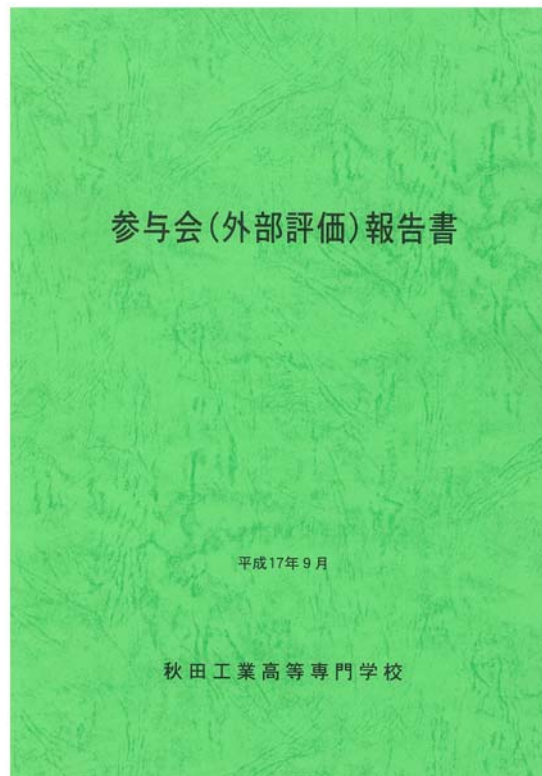
第7条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成17年4月25日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

資料 11-2-①-3 「参加会（外部評価）報告書（表紙）」



（出典 参加会（外部評価）報告書）

（分析結果とその根拠理由）

独立行政法人化後の本校における管理運営，教育研究活動全般にわたる助言や提言を得るために，学外有識者7名による参加会を設置した。平成17年度の第3回参加会において，ヒアリング，学内施設見学，質疑応答が行われ，参加会（外部評価）報告書にまとめられている。

外部評価での講評，提言を受け，本校の管理運営に反映されているといえる。

観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の自己点検・評価は、自己点検・評価委員会で行われる（資料11-3-①-1）。自己点検・評価は毎年数項目について行い、5年間で1サイクルとして全項目の評価を行っている。過去に平成6, 10, 16年度に行い、平成16年度の結果は「秋田高専自己点検・評価報告書－現状と課題－」として報告書にまとめ、関係機関に送付し、ホームページに公表されている（前述資料3-2-②-2）。その点検・評価項目は次のとおりとなっている。

- |            |            |             |
|------------|------------|-------------|
| 1 教育理念・目標等 | 2 教育活動     | 3 研究活動      |
| 4 教員組織     | 5 施設設備     | 6 国際交流      |
| 7 生涯学習への対応 | 8 社会との連携   | 9 クラブ活動     |
| 10 学生寮生活   | 11 管理運営、財政 | 12 その他必要な項目 |

本校の外部評価については、参加会により平成17年度に行われ、その結果は「参加会（外部評価）報告書」としてまとめられている（前述資料11-2-①-3）。外部評価では管理運営のほか、教育研究活動について評価する。報告書は関係機関に送付するとともに、ホームページに公表されている（資料11-3-①-2）。

本校の第三者評価については、平成18年度にJABEEを受審した。平成19年5月にJABEE認定を受け、認定証はJABEEホームページで公表されている（資料11-3-①-3）。

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価、外部評価、第三者評価が、本校の活動の総合的な状況に対して行われており、評価結果は報告書としてまとめられ、ホームページでも公表されている。

## 資料 11-3-①-1 「秋田工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則」

## 秋田工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則

## (目的)

第1条 秋田工業高等専門学校運営組織規則第20条第2項の規則に基づき、秋田工業高等専門学校における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うため、秋田工業高等専門学校自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 主事
- 三 専攻科長
- 四 専攻主任
- 五 各学科等から各2名
- 六 事務部長
- 七 課長
- 八 その他校長が必要と認める者

## (委員の任期)

第3条 前条第8号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
- 2 委員会に副委員長を置き、委員長が指名する。
  - 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
  - 4 委員長に事故等があるときは、副委員長がその職務を代行する。

## (委員以外の者の出席)

第5条 委員会は、必要に応じ委員以外の者の者を出席させて意見を聴くことができる。

## (委員会等への付託)

第6条 委員会は、自己点検・評価に関する具体的な事項の設定及び実施方法等についての原案策定を関係委員会に付託することができる。

## (報告及び公表)

- 第7条 委員会は、毎年度自己点検・評価を実施し、関係委員会からの答申等を取りまとめて、その都度、校長に報告するものとする。
- 2 校長は、自己点検・評価の結果を必要に応じ公表するものとする。

## (庶務)

第8条 委員会の庶務は、総務課において処理する。

## (補則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営上必要な事項は別に定める。

## 附 則

この規程は、平成 4年10月 7日から施行する。

## (略)

## 附 則

この規則は、平成 19年 4月 1日から施行する。

(出典 秋田工業高等専門学校規則集)

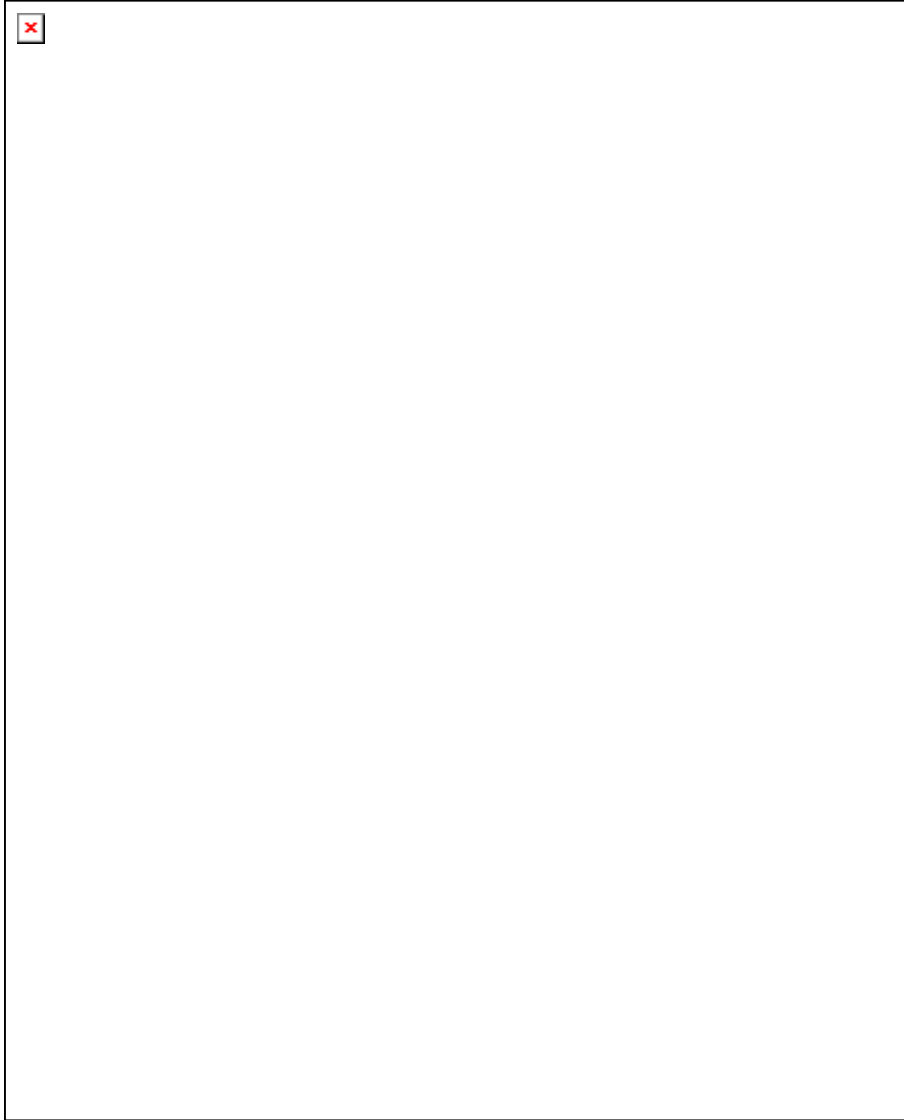


## 資料 11-3-①-2 「参与会（外部評価）報告書」配布先一覧」

参与会（外部評価）報告書 配布先一覧		
○ 各参与		7
○ 国立高等専門学校機構		10
○ 各高等専門学校		62
（内 訳）		
国立高専	54	
公立高専	5	
私立高専	3	
○ 長岡技術科学大学		1
○ 豊橋技術科学大学		1
○ 文部科学省（専門教育課）		1
○ 秋田大学		5
○ 学 内		88
（内 訳）		
全教員	68	
事務部長	1	
各課長	3	
各係（専門員，専門職員含）	14	
図書館	1	
情報処理センター	1	
○予備		25
合 計		200

(出典 総務課資料)

資料 11-3-①-3 「日本技術者教育認定機構（JABEE）認定証」



(出典 総務課資料)

**観点11-3-②：** 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

自己点検・評価，外部評価，第三者評価の結果を受け，改善が必要な場合は，校長は規定に従って，関連する各委員会および学科，学系など，関係組織に改善策を検討するよう指示するシステムになっている。

本校において評価結果をフィードバックして，具体的な改善例に結びついた例を以下に示す。

- ・「参加会（外部評価）報告書」の中の評価項目のひとつ「施設設備の整備」について，外部委員から「予算獲得にあたり，秋田高専の存在感を含め地域に広く浸透し認知されていることが重要」との指摘に応え，本校のホームページを平成18年10月に全面改定し，本校の最新ニュースや開催イベント，教育・研究活動等の詳細を即時に公表し，地域社会にわかりやすく理解してもらうことができるようになったこと。

(分析結果とその根拠理由)

評価結果をフィードバックし，改善するためのシステムが整備され，学校の管理運営などに反映されており，有効に運営されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

特になし。

(改善を要する点)

特になし。

## (3) 基準11の自己評価の概要

教務主事，学生主事，寮務主事を置くことは学則に明記されており，各主事は校長の命を受けて定められた業務を行う。役職および委員会なども規則で明記されており，各委員会等の役割は委員会ごとに別途定められている。

校長のリーダーシップの下で，効果的に意思決定が行えるように，企画調整会議，運営委員会，教員会議が整備されている。また，校長を補佐するために副校長，校長補佐，校長特別補佐を置き，重要事項や問題点を迅速に処理できる態勢を整えている。

企画調整会議は学校全体の管理運営に関する重要事項の企画，立案を行い，運営委員会で審議を行い，教員会議で各教員に周知している。専攻科の運営に関する事項は，専攻科運営委員会で審議され，専攻科教員会議で周知されている。

各主事の担当業務の内容に関して審議するために，教務委員会，学生委員会，寮務委員会が設置されており，その他の委員会も業務内容ごとに定められている。各委員会とも庶務担当の事務職員が定められており，円滑な委員会運営を支えている。

本校の事務組織は，平成19年度からは総務課と学生課の2課体制となったが，総務課内に新たに企画室を設置するなど業務の効率化を図っている。

管理運営の諸規定が整備されており，改正などがある場合もネットワークを利用して教職員に周

知している。

独立行政法人化後の本校における管理運営，教育研究活動全般にわたる助言や提言を得るために，学外有識者7名による参与会を設置した。平成17年度の第3回参与会において，ヒアリング，学内施設見学，質疑応答が行われ，参与会（外部評価）報告書にまとめられており，外部評価での講評，提言を受け，本校の管理運営に反映されているといえる。

自己点検・評価，外部評価，第三者評価が，本校の活動の総合的な状況に対して行われており，評価結果は報告書としてまとめられ，ホームページでも公表されている。